

授 業 科 目 の 概 要			
(教養学部教養学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	生活とリスク (07)	現代はリスク社会、危機の時代などと呼ばれ、また複数の世論調査が生活者の不安の高まりを報告している。生活上のリスクや危機について理解し対処することは生活を送るうえで優先順位の高い課題といえよう。この授業では、生活の安全・安心を阻害するリスクについてその概念と現代の特徴をおさえ、さらにリスクの発生局面と管理局面における生活の関わりを考えていく。	
	かしこくなる患者学 (07)	医療を患者の視点から考えていきます。初めの回の「エンパワメント」では、体の持つ健康を強めていくことを学びます。しかし、その基盤にあるのは生き物としての人間の自己治癒力です。この自己治癒力をしっかり理解し、笑いや統合医療などで高める方策を知ったうえで、わが国の医療のシステムの特徴を把握し、さらに医療情報の評価や選択の基礎を学びます。この科目の後半では「患者としての権利」、「EBMとNBM」、「患者から社会への発信」、「ヘルスリテラシー」さらにはヒトの「死」などを取り上げ、徹底的に人間の立場から、わかりやすく解説していきます。	複数教員共同担当
	運動と健康 (09)	近年、少子高齢化社会を迎え、生活習慣病の予防や体力の保持増進をもくてきたスポーツの普及にはめざましいものがある。一方で、生活の質の向上、あるいは心の豊かさを求めてスポーツに携わる例も増えており、身体的、精神的に果たすスポーツの役割はいっそう高まるものと思われる。本講義では、からだを動かすことの重要性を述べるとともに、スポーツを安全に、楽しく、効果的に実施するために知っておきたい、からだの構造や機能について、運動生理学的ならびに身体運動学的な基礎知識と課題を提示する。	
	こころとからだ (07)	われわれにとって、人間という存在は最も身近な存在であり、かつ森羅万象のすべてを理解するための基礎となる基準でもある。しかし、一方、われわれにとって人間はあらゆる意味で最も不可解な対象でもある。そうした容易には理解することのできない人間をどう読み解いていくか…それはまさに学問の根源にもつながる永遠の重要なテーマであるともいえる。 この講義では、人間理解に際して欠くことのできない概念である精神と身体について、その基本的な意味と仕組みに関する基礎知識および視点と考え方について、初歩から学習する。さらに、こころとからだの発達とその障害についても、基本的な事柄を学習する。その意味で、本科目は生活と福祉および発達と教育に関わるすべての科目の履修の基礎となる科目である。	複数教員共同担当
	心理と教育の巨人たち (10)	ともに発達科学に属する心理学と教育学には、専門的な学習へと進むにあたり必要となる基礎的知識に関して共通する部分が極めて多い。そうしたいわば学習の土台となる考え方や知識のエッセンスは、その多くがそれぞれの学の歴史に一時代を画す「巨人たち」の業績の中に凝集されている。それらは現代でもなお輝きを失わず、われわれに多くの重要な示唆を与えてくれる。 この科目は、フロイトやピアジェ、ルソーやベスタロッチなどといった心理学と教育学の先達を1回に1名ないし数名ずつ取り上げ、その代表作を精読し解題した上で、学史上の意義とそれぞれの学問への貢献、さらには今日の意味等を理解していくことをねらいとしている。心理と教育に関心を持つすべての学習者の履修を期待したい。	複数教員共同担当
	市民と社会を生きるために (09)	私たちが現代社会のなかで生きるためには、社会の実践に関わらなければならない。先の見えない混沌とした現実のなかで、生き方を模索しなければならない。社会に現れる人間の実践は、つねに不確定でリスクを負ったものである。だからこそ、社会を生き抜くには、企業に勤めていても社会的視点をもつ戦略が必要であり、情報を集めて戦術を立てなければならない。グローバル化の進む社会のなかでもローカルな発想が必要とされる。国境を越えた思想や、正義を考慮した根本的な思考が重要となる。広く総合的な視点を持つと同時に、緻密で技術的な表現方法も身につけなければならない。知は力なりであると同時に、実践は知を生み出してきた。この科目では、実践的な人物や社会的な生き方を提示しながら、「社会のなかでの表現技術」や「社会生活の実践」について考えていきたい。	複数教員共同担当
	市民と社会を知るために (08)	最初の11回分で社会科学に接近するための「素材」を学生に提供する。学生は、各素材を担当講師がどう調理するかを追体験し、学問の醍醐味に触れる。素材は、学生の興味を引き易いものから順に並べる(物語・エッセイ 各分野の古典素材・純理論的素材)。 残りの4回では、テキストと学問体系との間の架橋という方法論の問題を「～学のあんな本・こんな本」として取り上げ(放送教材は座談形式もあり)、古典の読み方との対比で鮮明に印象付ける。また、自著を語るという形態で執筆の苦労話なども披露する。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	市民と社会を考えるために (07)	講義は第1部「社会的な関心・興味を養う講義」と第2部「社会科学の各分野によって異なる基本テーマを取り上げる講義」という2部構成とした。第1部においては、 具体的な社会現象を取り上げ、現象の推移などについて簡単に紹介した上で、 その社会現象を理解するために必要な専門用語やアプローチの方法などについて概説し、 さらに理解を深めるために必要な文献や研究方法などについて説明する、 という授業構成とした。 第2部については、各分野・領域における基本的なテーマを取り上げ、専門科目への橋渡しを目指した。	複数教員共同担当
	問題発見と解決の技法 (08)	私たちは職場だけでなく、地域や個人の生活においてもさまざまな問題に直面し、何とか解決方法を見つけようと悩んでいる。問題解決の仕方に方法があるのであるだろうか。ここでは問題とは何かから始まり、問題の見つけ方、解決の手順、解決に必要な情報をどのように収集・整理し分析するのか、解決に必要な考え方とは何かなど一連の過程を通して解決策を見いだしていく科学的技法を学ぶ。また、その過程で思考や発想などを目的に沿って他人に伝え、理解してもらうための基本的な技術を習得する。そして、ここでの学習が実際に応用できることをねらいとして、さまざまな分野から問題解決の具体的な事例を集めて紹介する。	複数教員共同担当
	哲学への誘い (08)	哲学を学ぶことが敬遠されがちなのは、その用語や思考法が、いわゆる哲学用語や哲学的概念の世界に閉じこもっており、それが部外者の理解を拒んでいるかのように見えるという理由からではないかと思う。しかし、哲学的なものに対する関心は多くの人々の心の中にあるはずである。この授業では、哲学以外の所に題材を求めながら、そこに哲学的な問題を探るといった基本方針を取ることにする。対象は、多岐にわたるが、哲学の部分は、50%以下に留め、これまで哲学に触れたことがなかった人々にも哲学に触れるきっかけを与えるようにしたい。	
	歴史と人間 (08)	本科目は、歴史をつくる人間を通じて歴史について考える基礎科目である。歴史を考えるうえで最も親しみやすいのが人間の活動であることから、具体的な人物像を通じて、人間の諸活動が歴史にどう関わっていたのかを考えることとする。そこで、世界史・日本史上で顕著な活動を残した人物を取り上げ、その活動を追うとともに、それを調べ探るための史料や方法、その人物の生きた社会や時代像について講義する。また特論として人間を視点においた歴史のありかたを考える。	複数教員共同担当
	コミュニケーション論 序説 (07)	「人から人へと何かを伝えるというのはどういうことか」「人から人には何が伝わるのか」という2点をテーマに、コミュニケーション学の枠組みを骨格に据えつつ分野横断的な内容を組み立てる。毎回のテーマにそったゲストをお呼びして、それぞれの分野で、何をどう伝えようとしているのか、何がどう伝わっているとみなされているのかを話して頂く。様々な分野への興味を開花させるきっかけとなるような話題の提供を心がけたい。	複数教員共同担当
	日本語表現法 (07)	小論文やレポート類などを、考えを表現する文章ととらえ、その書き方を実作の分析を通じて学ぶ。特に生涯学習の観点から、表現したいことがらを保持しながら、それを意識して顕在化し具体的な言語表現としてまとめる術がわからない、という学生を念頭に置き、自らの考えを、読み手が理解しやすいように表現する方途の基礎を、【基礎】【応用】【発展】各5回の段階を追って身に付けていく。各段階は、模擬的な実作を分析・解説する形で進めると共に、表現の力と表裏関係にある、文章を読み取る力を養うことにも配慮する。 これらの学習を通じて、文章表現の基本的な手法を身に付けると共に、自らの言語表現に自覚的になっていくための視点を提供する。	
	アジアと漢字文化 (09)	東アジアから東南アジアにかけての広い地域に対して、中国文明は過去から現在に亘り深甚なる影響を与え続けてきた。その文明の優位性を保証していたのが書記体系としての漢字である。本科目は、中国における漢字の成立と歴史的展開を軸としつつ、あわせて周縁地域に対する漢字の諸方面における影響を俯瞰することを通じ、我々が生きるアジアにおいて漢字文化が果たしてきた役割とその将来についていま一度考え直す視点を提供する。	複数教員共同担当
	世界の名作を読む (07)	文学講義の入門編。だれでもタイトルは知っているけれど、いきなり読むのは荷が重いという超大作から、はかりしれぬ含蓄のある珠玉の短編小説まで、それぞれの講師が、自分自身の読書経験に照らして作家と作品の魅力を語る。放送授業では、全体の3分の1程度を声優による朗読にあてた。生き生きとした朗読と講師の解説を通して作品の世界に親しみ、テキストを読み込んでゆくことの面白さを実感していただきたい。「世界の名作」とは、各自が身近なテーマを発見し、自分なりの「読書の楽しみ」を経験できるような文学作品をいうのである。印刷教材には朗読を収録したCD-ROM (MP3ファイルを使用) を添付し、大学のホームページにも補助教材を立ち上げた。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	人類の歴史・地球の現在 (07)	世界各地を視野に人類学で蓄積されてきた多くの知見・データ・理論が私たちの日常生活に關与することを国内外の具体的な事例をとおしてみる授業です。古典的な理論と最先端の学説をまじえながら、人類の歴史からはじまり、さまざまな人間の行為をキーワードに、ほかの学問領域との接続を意識して、幅の広い知識と解釈を提供します。	複数教員共同担当
	情報の世界 (10)	現代の世の中で「情報」はもっとも頻繁に、かつきわめて広い意味で使用されている言葉であろう。多用される「情報」であるが、それ自身が何か、本質はどのようなものか、さらには多様な情報にどのように接したらよいか、ということについては、各分野で断片的に取り扱われているに過ぎず、本質的・総合的な扱いはされていない。 本科目ではこのように「便利かつぞんざいに」扱われている情報の概念を、個々の分野に偏ることなく、総合的な理解を深めることを目的とする。学習の要素としては、表現と伝達について広い枠組みを扱う記号論、伝達の様子を数量化するための情報理論、情報を蓄積、伝達、変換するための情報科学、情報伝達の本質を扱うコミュニケーション論、現実の情報機械を統合した情報システム学とその社会的なつながりを考える情報社会学、情報メディアの特性と理解とを扱う情報メディア学、など様々である。これらを「情報の本質」を中心的なテーマとして学習する。 “情報”というキーワードを含む科目は多数存在するが、本科目は「情報とは何か」、「情報についてどのように考えたらよいか」ということについて、特定の分野に偏らない視点を涵養し、社会の構成員全員がもつべき素養を身につけることを目的とする。	
	初歩からの生物学 (08)	生物学は20世紀後半に劇的な展開を見せ、今世紀は生命科学・生物学の時代といわれるまでになり、生物学の基本的な知識なしには、日々直面する食料・医療・育児・環境などをめぐる問題に対処することすら出来なくなってきた。生命誕生以来現在まで絶えることなく続く生物の世界の成り立ちと、生命活動を支える精妙な仕組みとについて、基本的な事柄を中心に講ずる。講義にあたっては、なるべく日常生活に関わりのある生物科学上の題材をとりあげることとする。	複数教員共同担当
	初歩からの物理学 (08)	物理によって私たちは、原子・分子やもっと小さな世界から宇宙のような大きい世界まで、長さの違いが60桁以上も違う範囲の自然の様子を理解することが出来るようになった。皆さんが日常的に使う携帯電話の仕掛けや、飛行機が飛ぶ理由、脳の働きや遺伝・発生などの生命現象も、物理の助けで判るようになってきた。世界は物理であふれているといってもよい。そこでこの科目では、物理に関するいろいろな謎を出して行って、それらの謎がどう解かれていくかを見ながら、皆さんを物理の世界へ誘いたい。また、物理の基礎的概念を、単にその内容だけでなく、何故必要とされたか、どう発展していったかを含め、皆さんと一緒に理解して行くつもりである。そのために、身の回りの物で出来る実験を紹介したり、課題を出して行く。是非自分の力でやって欲しい。安全にかかわることについて、物理がいかに大切な働きをするかも見てゆこう。	複数教員共同担当
	物理の考え方 (07)	物理学の入門講義。物理学に馴染んでいない文系の学生にも分かる内容を意図する。日常生活の中に現れるさまざまな物理的事象を取り上げ、日常的視点と物理学的視点を対比させることによって、物理学的思考の特徴を示す。放送大学では、既に、物理学関連の科目がいくつも開講されているが、本講義は、それらの前段階として位置付けられる。 本講義の特色は、理系の講師と文系の講師とのコラボレーションである。毎回、専門の異なる2人の対話形式で、講義を進める。講義の中に、「文学の目で見た物理学」のコーナーを設け、大石講師が文学的な視点からコメントする。 講義の構成は、毎回、物理の原理と直結する特定のテーマを扱う。スタジオを喫茶コーナーと実験コーナーに分け、喫茶コーナーでは対話形式で講義を進める。実験コーナーではオリジナルな実験をスタジオで行う。スタジオの外で行う実験や施設見学も行う。大石講師のコーナーでは大石講師が文学の視点からコメントする。	複数教員共同担当
	初歩からの化学 (08)	化学の理解に必要な基礎知識を全15回にわたって講義する。この講義では物質の成り立ちとふるまいを解説し、それらを通じて化学そのものを学ぶとともに化学的なもの見方・考え方を学習する。講義には演示実験(デモンストレーション)や化学工場の現場ロケなども取り入れ、楽しく学習が進められるような配慮がなされている。	複数教員共同担当
	科学的な見方・考え方 (07)	私たちの生きる環境はますます複雑になり、さまざまな情報が溢れている。意図的に本質を覆い隠すような宣伝もある。何が正しく何が根拠のないものであるかの判断が極めて重要になっている。科学的な見方・考え方が、そのような判断をする場合の有益な指針になると考える。特に自然科学で鍛えられ、経済現象や社会現象にも適用できる強固で確かな見方・考え方を身につけることが重要と考える。この講義では、自然科学での考え方を中心にしつつ、それ以外の分野でも重要と思われる事柄を、なるべく例を挙げながら考えていくこととする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	エネルギー学の基礎 (07)	エネルギー資源や省エネルギーあるいは地球温暖化等、エネルギーに関わる問題は現在いろいろな方面で取り上げられており、その対策が論じられている。エネルギー問題は誰にとっても避けることのできない問題といえよう。本科目ではこの問題を考える際に不可欠な、エネルギーに関わる現象の科学的な基礎知識を与える。そして、その知識が現実の問題を考えるのに際してどのように適用されるのかを、産業、技術、社会、経済、日常生活のいくつかの場面での問題で示し、合わせてこれらの問題の理解を深める。講義はどの専攻の学生にも理解できるように、初歩的な事柄から話を進める。	複数教員共同担当
	物質循環と人間活動 (07)	生物の活動は、地球の陸水、海洋、大気そして土壌における物質循環に大きく依存している。一方、生物の活動、特に人間の活動もまた自然環境や物質循環に大きな影響を与えている。時間と空間をスケールとする物質循環をこの地球を舞台に生命との関係とりわけ人間活動との関係について、地球の誕生から現代に至るまで歴史的に把握し、さらにその将来をも展望する。この科目は、人間活動がもたらす環境問題を直接扱うものではないが、これからも生命活動が持続するために人間は何を目指せばよいのか、その考え方の材料を提供する。	複数教員共同担当
	身近な気象学 (09)	私達はその一生を大気の中で暮らし、絶えず大気の影響を受けて過ごしている。気象のしくみを知ることは、様々な気象災害から身を守る上でも、地球環境問題を自分自身で考えていく上でも、また日々快適な環境で生活していく上でも重要である。しかしながら、大気はあまりにも身近にあるために、日々身の回りで起きている気象がどのようなしくみで、なぜ起きているかについて注意を払うことは意外と少ないように思われる。本講義では、身近なところで起きている日々の気象をきっかけとして、地域スケールから全球スケールをカバーする様々な気象のしくみを学ぶ。	複数教員共同担当
	初歩からの数学 (08)	本講義は、工学系、社会科学系をはじめ、数学的な知識と技術を必須とする専門分野を目指す人々、言い換えれば数学のユーザである人々に、微積分や線型代数の基本を、グラフィクスをはじめコンピュータの先進的機能を利用したり、知的で親しみやすい対話、鼎談を講義の基本スタイルとして採用することで分かりやすく、かつ、数学的に見通し良く解説するものである。 「三角関数、対数関数で躓いてしまったが、それまでは数学はそこそこであった」、「もう少し高校で頑張っておけば良かった」、そう思っている人々が講義で想定する学生である。	複数教員共同担当
	数学再入門 (07)	本講義は、最初はわかっていたはずの中学数学、急に分からなくなった高校数学の内容を、大学の立場から俯瞰的に見直すことを通じて、個々の数学の主題のエッセンスの理解と数学的思考法の面白さと楽しさと威力の再発見を目指すものである。放送授業では、数学の技術的な修練には力点をおかず、数学的な思想と方法の豊かさを具体的な素材を利用して分かりやすく伝え、他方、印刷教材には難易の異なるレベルの演習問題を用意し、これに対して付属DVD-ROMによる映像解説をつけて多様な学力の学生諸君の多様なニーズに弾力的に応えることを目指している。	複数教員共同担当
	身近な統計 (07)	高度情報化社会が謳われる中で、私たちの身の回りにはテレビや新聞・雑誌・インターネット等を通して多種多様な統計情報があふれています。本講義では、統計の基本的な考え方、データの統計的活用の理論と方法を解説するだけではなく、諸種の統計情報が企業や行政の意思決定および社会・経済・自然現象の解明に具体的に活用されている事例を（VTR映像で）紹介します。また、更に具体的な理解を深めるため、身近なデータの表計算ソフトを使った簡単な分析方法も説明します。	複数教員共同担当
	基礎からの英文法 (09)	英語を基本的な文法から学ぶことができる講義である。当たり前のことだが、外国語としての英語は日本語とは大きく構造的に異なっているし、それを統括する法則も異なる。その差異を認識することによって母国語である日本語への意識と感性を高め、同時に異文化に対する理解を深めることも可能になる。本講義では、そうした観点に立ちながら、平易な会話や英語圏の文化についても学習し、言葉のもつ文化的な意義や深い味わいについても考えてみる。英語が苦手な学生にとっても、違和感を覚えることなく、外国語を学ぶ楽しさと価値を再認識できる内容である。	複数教員共同担当
	英語の基本 (08)	言語と文化は切っても切り離せない関係にあるという認識に基づき、背景となる文化事象の違いによる日本語と英語の発想の違いを主題とする印刷・放送教材を用い、受講者の英語力強化のための授業を行なう。授業においては、「旅」、「宿」、「食」をはじめ、文化的な主題に関するエッセイと、それに関する会話やインタビューの語学的・文化的解説などを中心的に行なう。	複数教員共同担当
	暮らしにパソコンを活かす	パソコンを始めてみたい人や初心者を対象に、ウィンドウズの使い方を中心に、易しいパソコン操作を指導します。実際に、ワードを使って、図表や写真を入れた文書や葉書を作成したり、家計簿作りに応用できるエクセルの使い方を学びながら、パソコンに親しむ授業です。	
	身の回りにある数学	身の回りに存在している現象や技術に数学が隠れていることが多くあります。それらのいくつかについてその数理を、受講生の理解度を確認しながら、なるべく数学的に講義し、演習を行います。ある特定の日の曜日計算と群論、円錐曲線の生活への応用などを扱います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	心理学基礎実験・実習	心理学の基本的研究法を実験・実習形式で学びます。2人1組になり実験者と被験者両方の立場になって、記憶、学習、知覚領域の基礎的な実験を行います。予定している実験は、メモリスパンの測定、鏡映描写、触2点閾の3つです。それぞれ実験の結果を整理し、解析し、さらに考察を加えて実験レポートの作成を試みます。実際に実験を経験するなかで、心理学における実験計画のたてかた、研究手続きや手法、データ処理のしかた、レポートの書き方などを総合的に学習します。	
	社会学の基礎	この授業では、まず、「欲求と規範」、「自由と拘束」、「私と公」をはじめとする諸問題を取り上げることにより、「個人と社会」問題についての理解を深めてもらう。次いで、そのことにもとづいて、人間が社会的な存在であるということについての理解も深めてもらう。さらに、そのような基本的な理解の前提のもとに、紹介する典型的な研究例を手がかりにして、さまざまな人間行動を考察する場合の社会的な「ものの見方・考え方」の特色を理解してもらう。	
	パソコンによるデータ処理入門	新聞などを見ていると、株価、企業の収益、人口動向など様々な数値データが出ています。この数値データをパソコンで簡単に処理するだけで、データに隠れている様々な情報が現れてきます。本講義では、表計算ソフト(Excel)の基本を学ぶとともに、データの図表化、簡単な統計手法などを解説し、データ処理の基礎について、演習を交えながら学びます。	
	体験で親しむ数学	便利なカーナビ。その動作は衛星からの信号を元に、時々刻々連立方程式を解いて現在位置を知ることから始まります。このように数学は身近な技術を支え、自然の中にひそみ、生活の場にあります。この授業では、高校初級程度の数学の知識をベースとして、その先にある数学の概念を学びます。そして、自然・生活・技術の中にある事項を題材に、鉛筆を動かして考え、計算を行う体験を行い、それらの数学概念に親しみます。	
	体験で読み解く数学	13や17は素数ですがこの年数にいちど大発生するセミがあります。倍数の概念がセミには切実な問題であるようです。このように数学は自然の中にひそみ、身近な技術を支え、生活の場にあります。この授業では、高校初級程度の数学の知識をベースとして、その先にある数学の概念を学びます。そして、自然・生活・技術の中にある事項を題材に、鉛筆を動かして考え、計算を行う体験を行い、それらの数学概念を読み解きます。	
	物理へようこそ	物理の基礎を、日常生活で使っているもの、目や手に触れる現象、安全措置などを通して会得します。真に会得するには、実際に自分で体験することが一番です。現在開講中の「初歩からの物理学」にそって、実験と演習をやりながら、物理の核に触れましょう。どんな実験をするかは、事前に(登録者数確定後)連絡します。身の回りの材料を使ってやりますので、自分で用意してください。	
	環境の科学	20世紀の科学技術の発展により、私たちの生活は大変豊かになり、快適になっています。その一方で、地球環境が悪化している現象が見受けられます。例えば、成層圏にあるオゾン濃度が減少する「オゾン層破壊」、対流圏で起こる光化学スモッグの発生や酸性雨による地表の酸性化、さらに地球規模で起こり、大きな社会問題になっている「地球温暖化」による気候変動などの地球環境問題が起こっている。この面接授業では「環境問題」を科学の側面から考えて見ます。	
	光と色の化学実験	私たちの身の回りには、昼間の太陽の光、夜間は照明の光などのいろいろな光に満ち溢れている。これらの光が物質を照らした時、例えば、花の場合には赤や青の色に見える。私たちが着ている洋服も白、黒、黄色など色とりどりのカラーに見える。また、光が当たると、暗い所で青白く光る蛍光物質もある。この面接授業では、光の性質と物質の性質の関係や花の色はなぜ赤や青に見えるのかを実験を通して学びます。	複数教員共同担当
	初めての生物学実験	私たちが「自然」に何かを問いかけると、「自然」はその秘密を見せてくれます。それは感動的であり、好奇心をかき立てます。このときの知的努力や得られる喜びは、自然科学の原点です。面接授業「初めての生物学実験」では、生き物を対象とした「実験」や「研究」を体験したことのない方でも、生物学の基礎を楽しみながら一步一步学べるように、その内容が工夫されています。	複数教員共同担当
	コミュニケーション論	放送授業「コミュニケーション論序説('07)」で扱った内容に基づき、復習・発展的な内容を扱います。コミュニケーションのノウハウを扱うのではなく、「コミュニケーション学」の立場からコミュニケーションを見ることによって、普段何気無く行っていることに対する分析的な視点を提供することを目的とします。人と人との間のコミュニケーションに関する内容が多くなりますが、社会の中でのコミュニケーションについても若干扱う予定です。成績は授業内に書いて頂くレポートで判断します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	科学的な見方・考え方	日常生活において“科学的”という言葉使いが絶対的な信頼性を保証するかのように使われることが多い。そもそも科学的な行為とはどのようなものであるかを基本的なところから考え直してみたい。科学が保証する範囲は何なのか、科学とは人間のさまざまな活動の中でどのような位置を占めているのかなど、科学的な考え方や見方の特徴をさまざまな事例とともに考えてみたい。科学に対する根拠のない過信あるいは反発を考え直す機会としたい。受講者との討論を含めた参加型の講義にしたいと考えている。	
	政治学	選挙権を持つ大人として、政治ニュースを見ても、新聞を読んでも、その意味がかるようになりたいものです。そのための訓練として、現実の民主主義が、理屈と違って、うまく働かないのはどうしてか、ホントに公務員は怠け者で要らないものなのか、選挙に意味があるのか、などなどを考えてみることにしましょう。また、そのための準備として、日本の選挙、政党、役所、総理大臣などの仕組みと働きについて、知識を身につけることにしましょう。	
	経済統計学入門	この講義では、経済データの基礎的な統計分析手法を、表計算ソフトウェアであるEXCELを使用しながら、解説する。統計分析手法は、(i) データの持つ特徴をあぶりだす方法を扱う記述統計と(ii) データから背後に潜む確率モデルの様子を推し測る方法を扱う推測統計に大きく分けられる。この講義では、前者の内容を扱う。	
	ビジネスソフト入門演習	ビジネスソフトウェアとして最も標準的なwordとExcelを学ぶ。文書が作成できること、表やグラフが作成できること、Excelに備わっている関数のうち使用度の高いものを活用できるようになること、Excelのデータベースができることを目標とする。基本的な日本語入力力は、できることを前提とする。授業で使用するOSはwindowsXP、Word・Excelのバージョンは2003である。	
	やさしい微分積分	物の動きや速さなど、私たちの周りにはいくつもの変化する量があります。そして微分を用いるとその変化を局所的に捉えることができます。その微分と面積等の計算で使われる積分はある意味で逆の関係にあります。微分と積分は工学や自然科学、経済学などで解析の手段として広く利用されています。授業では今まで微分・積分を履修したことがない場合も考慮して進めていきます。	
	文章表現法	文章表現にあたっては、取材・構想・記述・推敲の各段階に意を払う必要がある。これら各段階の基本的な考え方について講義した後、レポートと小論文の書き方について具体的に講義・演習を行う。特に、取材段階では着想及び取材内容の整理の仕方に言及し、構想段階では構成パターンについて言及する。また記述段階・推敲段階では、語・文・文章レベルでの留意点を明らかにする。以上を通して、文章表現力の向上をめざす。	
	問題発見と解決の技法[1] 発見	私たちが仕事上や日常生活を送る上で出会う様々な問題に対し、適切に判断し、結果をだすために、系統だった考え方を学ぶ。問題とは何か、どのように見つけるのか、目標の設定から解決に向かうのに有用な考え方や、問題発見のための図解法などを学ぶ。	
	実験基礎生物学	この授業では身近な材料を用いて基礎的な実験・観察を行い、生命の基本的なしくみの理解を目指す生物学の基礎的な実験を行う1.) 光学顕微鏡によるタマネギを用いた細胞・組織の観察。ソラマメ根端組織における体細胞分裂の観察。2.) ホウレンソウを用いた光合成色素の分離とその吸収スペクトルの作成。3.) ビデオを通して、細菌及びコケ植物の生活史を学ぶ。4.) ウニ卵の受精と初期発生の観察。5.) ウニ卵を用いた発生活理の実験。	複数教員共同担当
	身近な統計	新聞や雑誌、テレビのニュースなど報道される記事の多くに統計グラフや統計数字などの統計資料がたくさん含まれています。この講義では、それらを適切に読み自らの意思決定に役立てられるように、統計の考え方やデータの統計的活用の理論と方法を具体的な事例を交えて解説します。また、実際に表計算ソフトウェアExcelを使った身近な統計データの分析演習を行い、基本的な統計グラフや表・統計数字をデータから作っていく方法を学びます。	
	哲学の基礎	愛の哲学。愛は人間関係の原理として時代を超えているとともに時代や社会の変化とともに変容してきました。また個人においても、年齢とともに愛は変容してゆきます。講義では、愛を同一・分離・対立・自立・共生という5つの類型によって区分し、個人史と社会史の複合的視点から、個人と社会における愛の変容(メタモルフォーゼ)過程を考察します。それによって、私たちが直面している人間関係の諸問題を哲学的な観点から深く考えたいと思います。	
	問題発見と解決の技法〔1〕発見	私たちが仕事上や日常生活を送る上で出会う様々な問題に対し、適切に判断し、結果をだすために、系統だった考え方を学ぶ。問題とは何か、どのように見つけるのか、目標の設定から解決に向かうのに有用な考え方や、問題発見のための図解法などを学ぶ。	
	科学的な見方・考え方	日常生活において“科学的”という言葉使いが絶対的な信頼性を保証するかのように使われることが多い。そもそも科学的な行為とはどのようなものであるかを基本的なところから考え直してみたい。科学が保証する範囲は何なのか、科学とは人間のさまざまな活動の中でどのような位置を占めているのかなど、科学的な考え方や見方の特徴をさまざまな事例とともに考えてみたい。科学に対する根拠のない過信あるいは反発を考え直す機会としたい。受講者との討論を含めた参加型の講義にしたいと考えている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	経済学入門	「人間と経済」というテーマを念頭におきながら、放送大学教養学部にあふらしい経営学の入門的開設をめざします。とくに「市場の一般均衡」という難解に聞こえる概念を解きほぐし、複雑な人間社会の相互依存関係や産業間の連関性とも関連づけて現代経済社会の特徴を解説します。特別な予備知識は必要としません。	
(外国語) 基礎科目	英語基礎－TOEICへの誘い	TOEIC受験を視野に入れ、基礎基本の徹底を図る。なじみの少ないビジネス関連の語彙や表現になれること、またTOEICがどのようなものかを知り、効果的に学習することが重要である。500点を狙った教材を用い、リーディングセクションを中心とした授業展開となる。内容は、手紙、レシート、レシピ、e-mail、Faxなど日常生活に密着したものも多い。自立学習を可能とする基礎作りが本クラスの目標である。	
	原書で読む英語の絵本	米国で出版された英語の絵本を取り上げ、翻訳と読み聞かせを試みる。また、絵本が出版された米国の文化の多様性を学ぶとともに人類に普遍的な価値について考える。取り上げる絵本は、“Nana Upstairs & Nana Downstairs” “The Goat in the Rug”を基本とするが、受講者のニーズにより他の絵本を取り扱うこともある。	
	韓国語入門	韓国語が分かれば、日本語も分かる。日本語が分かれば、韓国語も分かる。という話があります。勿論、韓国語は日本語と多くの共通点を持っています。語順の一致、助詞の用法、活用、語彙など。しかし、このような共通点だけでなく、相違点にも特別な関係にあります。二つを照らし合わせてみることによって実体が見える鏡のような関係とも言えます。本講義では、韓国文化、日本語との比較も入れて、基礎からはじめます。	
	英語初級	この授業では、喩えて言うなら山野散策を楽しむように、様々な英文に親しんでいただこうと思います。注意すべきポイントを抑えながら、ここにこんな可憐な花が咲いている、あそこではこんな清水に出会えるというように、英語の諺・ユーモア・人情話・名スピーチなどを味わいながら、英語読解力を高めていただきたいと思います。授業最終回に試験を実施して授業平常点との総合により成績評価を行います。	
	ポップスで学ぶ英語の楽しみ	英語を学ぶことで新たに広がる楽しみの1つに、お気に入りの英語の歌の内容をより深く知ることがあります。この授業では、ビートルズやパカラックなど古典的ポップスから、最近のあまり知られていないミュージシャンの作品まで、英語の歌を実際に聴きながら、英語の音声の特徴、歌詞の構成、解釈する際の文法上の注意点、文化・社会的背景などを解説していきます。	
	英文解釈・入門編	現代イギリス小説家の中で日本でも愛読されているグレーム・グリーン(1904～1991)の短編小説『無垢なるもの』(1939年作)を読みます。短いながらグリーン文学の重要な主題が凝縮されているこの作品をゆっくり原文で読みながら、英文解釈の楽しさを味わって行きます。	
	時事英語入門	最近話題になった英語ニュースを題材に英会話入門と基礎文法の確認をしますまずはじめに、NHK「英語が会社にやってきた」をみて、基本的な聞き取りの練習をします。また、内容についての簡単な英語での質問に答えさせていただきます英語で考え、英語でしゃべる。そんなバイリンガルな英語力の基礎養成コースです	
	フランス語入門	この授業では、フランスとパリに関する知識やフランス語の文字、綴り、発音、簡単な文法事項などの基礎知識と実践的な日常会話などを習得することを目指します。	
	基礎英語2	この講義は、身近なトピックに関する英文教材を通して、基本的な英文法、語彙等の学習に重点を置き、英語の基礎力養成を目標とする。第一に、「読む」「聞く」といった情報を受容(理解)する技能に加えて、「話す」「書く」といった発信する技能も習得できるよう演習を多く取り入れた授業構成になる。成績評価は、終了時のテスト及び授業参加状況により行う。	
	基礎英語1	この講義は、身近なトピックに関する英文教材を通して、基本的な英文法、語彙等の学習に重点を置き、英語の基礎力養成を目標とする。第一に、「読む」「聞く」といった情報を受容(理解)する技能に加えて、「話す」「書く」といった発信する技能も習得できるよう演習を多く取り入れた授業構成になる。	
	初級英語	この授業は、英文法の初歩的なところを扱いますが、なかでも、助動詞、不定詞、動名詞、完了形、関係詞、仮定法を主に学びます。各回の授業は、まず担当講師による解説が行われ、続いて受講生のみなさんがその場で練習問題に取り組むというかたちをとります。	
	英語ア・ラ・カルト	本講義では、いくつかの英語の本から、いろいろな英文を選び勉強する。すなわち、それらの英文から、英語を読むこと、話すこと、聴くことのスキルを楽しく学ぶ。	
	基礎からの英文法	この授業は、放送授業「基礎からの英文法('09)」に対応した面接授業です。「基礎からの英文法('09)」の印刷教材や放送教材で扱われている内容に基づき、会話形式のスキットを使いながら英文法を基礎的なところから学んでいくことを目的とします。放送授業で使われているスキットを面接授業の中で音読して頂いたり、スキットの中の単語を入れ替えて応用して頂いたりなどの活動を通して、実践的な側面も併せ持つ内容とします。是非積極的に授業に参加して下さい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 基礎科目	初めてのスペイン語(発音編)	放送授業「入門1」の関連科目(第2回まで)。文化・社会・歴史に開かれた導入編の授業です。ビデオやCDなどを用いて実際に発音し、スペインの音声に親しみ、スペイン語の基礎文法を学習しながら、あいさつや自己紹介の表現などを学び、実践的な場面で運用できる表現を身につけます。また、スペイン語圏の文化、歴史、社会について映像を通して学びます。	
	初めてのフランス語(会話編)	放送授業「入門1」の関連科目(第4回まで)。文化・社会・歴史に開かれた導入編の授業です。オリジナルDVDやCDなどを用いてフランス語の音声に親しむこと、ロールプレイをやりながら、語学の知識を実践的に身につけることなどが課題です。初歩の文法を説明し、自己紹介、買い物ね道を尋ねる内容などを含みます。また、多様なフランス文化の紹介やフランス社会の理解もめざします。	
	初めてのフィリピン語(文化編)	[授業のねらい] フィリピン語の特徴を知り、基本表現や文法に習熟することを目的とします。あわせて、フィリピンという国の成り立ち、特徴、課題などを多面的に学び、総合的に隣国フィリピンについての理解を深めます。(改行)[内容] 1. フィリピン語の成り立ち・特徴と背景・基本文法・会話の基本表現(改行) 2. フィリピンの歴史・地理・社会・政治・経済などの概観	
	英語中級B	戯曲などの会話を参考にしながら、中級レベルの日常会話表現を習得することを目標とする。	
	初めてのフランス語(発音編)	放送授業「入門1」の関連科目(2回まで)。この授業ではフランス語の音に親しみ、慣れると同時に「フランスってどんな国」なのか、人々の暮らしや文化、歴史等にも触れながら全体像をみます。オリジナルのDVDやCD、その他の映像や歌、マンガ、時にはニュースなども取り入れて、語学学習の枠にこだわらず、幅広いフランスの知識の習得を目指します。	
	コミュニケーションのための英語	This class will be an introduction to communicative English with a focus on listening and speaking skills development. This will include activities which students will do on their own, in pairs, or small groups. In addition to the textbook, the teacher will provide additional resources to practice numbers in English, locations, directions, greetings, tag questions, and many more.	
	韓国語初歩	韓国語の基礎的な文型と身近な単語を用いた会話を練習して、韓国語がどのような言葉なのかを知ることを目的とします。ハングル文字の構造と発音、書き方も一通り学習します。また、韓国の文化にも触れ、韓国語の世界を様々なかたちで体験してもらいます。	
	日常使う英語	英会話初級レベルをかつて学習した受講生、あるいは最初から少し高いレベルの授業に挑戦したい受講生のクラスです。高いレベルといっても、内容は様々な状況下のもとで英語をどのように使うかという表現を学ぶもので、決して難しいことはありません。英語圏での人々の社会的なかわりを持つための基本的な表現を聞き、そしてそれを口頭で発音する機会と練習が用意されており、英語圏の国々で使われる日常の英語表現を学んでいきます。ゲーム、歌、会話練習、そしてロールプレイなどを通して、英語に少しでも慣れることが目的です。この授業ではコミュニケーションに重点をおきますが、その為に必要な文法も随時、説明が行われます。英語を使うと脳がモードチェンジします。日本語では味わえない、頭や体のモードにチェンジする体験をしてみましょう。	
	韓国語初級	韓国語は日本語と似ているので、日本語を母語とする方々にとっては楽しく学びやすい言語と言えます。近頃、韓国の文化が日本に沢山紹介されてから韓国語学習者が増えていることは、両国の将来のことを考えるとすごく喜ばしいことと思われます。本講義では、韓国語の文字と発音を学習した上で、短い作文ができ、初歩的な会話ができることを目標に講義を進めていきます。	
	フランス語初級	日常会話や旅行のときに役立つような、初歩的なフランス語を学んでいく。文法事項はごく基本的なものに絞り、2日間の集中授業で実用的なフランス語の基礎力を養い、フランス語の簡単なコミュニケーションができるようにする。各自テキストを購入しておくこと。	
	英語中級	読み・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく練習しながら、コミュニケーション能力の向上を目指します。英語の絵本や映画のスクリーン、英語の歌なども随時取り上げて速読やリスニング、発音の練習も行います。また、英語圏で実際に使用されているパンフレットや広告などの資料(realia)から情報を得る練習を行い、生活レベルの異文化理解に努めます。	
	中国語中級	1学期の「中国語初級」に引き続いた形の授業になります。中国語の基本的な文法知識を身につけ、様々な文を組み立てられるようになることを目指します。	
	中国語初級	現代中国語共通語(普通話)の発音と、基本的な文型を習得することを目標とします。日常会話を中心に、簡単な表現と常用単語を身につけていきましょう。視覚で認識する漢字に頼らず、中国語の発音で読み・聞くことを繰り返し練習します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(基礎科目) (外国語)	英語初級：英語学習の基礎	本授業は受講者の皆さんの英語の運用力を高めることを目的としています。英語の4技能は相互に依存的なものです。したがって、本授業では教材として総合問題集を使用します。本授業を受講することによって自分の得意な技能と不得意な技能を見極めてください。成績評価は授業への出席状況を重視して行います。	
	ドイツ語基礎	ドイツ語の基本的な文法事項のからいくつかを選択して集中的に学習します。具体的には、助動詞を使う表現を取り上げます。語法の助動詞、完了の助動詞、未来の助動詞そして受身の助動詞の用法を勉強しますが、語法の助動詞と同じ使い方をする知覚動詞も加えます。はじめに助動詞の変化、用法、意味合い等について説明し、その練習問題に解答していただきます。	
	英語初級－英文の書き方入門	英文を書く場合、文法的に正しく書くことが求められる。正しく書くうえでまずSentence pattern(文型)の知識が必要となる。この授業では動詞を中心にして、辞書を参照しながら文型を学習する。その文型の知識を応用し、演習問題を解きながら英語の語順と文構造への理解を深めていく。	
	英語初級－英語を口に出すこと	みなさんは、英語とどんな風に付き合ってきたのでしょうか？学校の科目の一つとして、もっぱら紙の上でのつきあいだったという人もいるかもしれません。ここではまず英語を口に出してみましょう。そして英語に親しんでみましょう。具体的には、簡単な会話をしたり英語の歌を歌ったりしてみましょう。そして映画やビデオから、おもしろそうな表現を聴き取ってみましょう。	
	初級英語 - 聞いて、話して	主に、リスニング、スピーキングに焦点を当て、CDとDVDを使用し、変化に富んだ日常生活の場面ごとにとりあげ、英語を学習していきます。具体的には、新しい人たちとの出会いにおいての表現、自分の感情の表し方、スーパーマーケットにての会話、天気表現の仕方、様々な場所についての表現、健康と体、などです。また発音の練習も行ないます。このクラスではペアやグループで英語を話す機会を多く持ちます。積極的に英語で話しましょう。	
	フランス語	本授業の目的は、放送授業を受講している学生を対象に、放送教材では十分説明できない部分を対面教育によるフランス語の体験的習得を通して補うところにある。また初めてフランス語を習得する学生に対しては生のフランス語に触れさせることによってフランス語を入り口とするフランス文化の世界へ誘(いざな)うところにある。内容的にはフランス語の発音のイロハ、文法構造の概略、フランス語を通してのフランス文化解説になる。	
	中国語への第一歩	初心者にとって中国語は意外に難しいです。ピンイン、四声、簡体字、文法など、とかく悩むことが多いようです。こうした悩みを少しでも解消し皆さんの勉強に役立てるのが、本講義の目的です。学習の内容は、発音練習、会話文の学習、オリジナル会話文の作成です。声を出し合って確認しながら中国語に馴染んでいただくのが何よりも大切なことだと思います。	
	異文化コミュニケーション入門	外国語で話すとき、単語や文法、発音をマスターしても、理解してもらえないことが多いのはなぜでしょうか？素晴らしい語学力を持っていても、それを会話で適切に対応できなければ意味がありません。「言葉のルール」だけではなく、「文化のルール」も守らないと通じない場合が多い。「異文化」という視点から会話術を習っていく講義です。	
	英語初級：読・書・聴・話 09	個人では習得しにくい英文聞き取り練習を中心に、基本文法をおさえながら短い文章を自分で話し、自分が話す文章を書く。テキストは簡単な語句の聞き取りから始まり、最終章では英語による講演の一部を聞き取るような構成になっている。このような基本英語と並行し、「初級」対象ではあるが時事問題を扱ったニュースの記事を辞書を使って読み、ニュースビデオを見て内容を考察する。	
	韓国語の理解	ハングル(文字)の仕組みの理解からはじめ、発音を身につけ、徐々に簡単な会話や自己紹介ができるように指導します。ひたすら暗記するのではなく、わかった上で使い、楽しんでもらえるような韓国語の授業を目指しています。さらに、コトバだけでなく韓国の文化への理解を深めてもらえるよう、社会言語学的な立場から韓国のコトバと文化を紹介します。	
	中国語初級：初めての中国語	中国は日本の隣国であり、その文化も似たところが多いです。しかし、使用される漢字をはじめとして、意外に異なった国なのです。そのような中国の言葉をできるだけ楽しく勉強しながら、この隣国をいっそう理解していただければと思っています。	
	英語初級：英語で学ぶ日本文化	これまで何気なく勉強してきた英語も、よく考えてみれば、不思議なことがかなりたくさんあったと思います。自分の頭の中で、その一つ一つが解決される時、また違った英語の姿が見えてきます。そのような際に、手助けとなるような授業を心掛けています。なお、授業では、これまでの英語学習歴を考慮した上で、日本文化を紹介した英文のみならず、文法や単語の語源などについても、分かりやすく解説していきます。	
フランス語初級：文法とその運用	フランス語でコミュニケーションを行なったり、書かれたものを理解したりするためにはフランス語の文法を身につけていることが必要になります。理解したことがらをしっかりと身につけるプロセスははなかなか容易ではありませんが、この授業では発音の基礎からはじめて、文法の基礎を習得するお手伝いをします。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 基礎科目	英語の発音と構造の科学的理解	英文を読み書きするにも、現実には色々な場面において聴き話すにしても、英語を運用するには基盤となる英語力が必要だ。講義では英語の特徴を日本語との対照で認識してもらった上で、発音と文の構造とその意味を科学的に解説するとともに、読解・作文・発音・聴解など多方面から実践的に訓練・指導を行う。	
	やさしい韓国語会話 1	ハングル文字を少し学んだことがあるが、もう一步韓国語の世界に踏み込みたい方のための授業内容となります。韓国語は日本語と類似性があり大変なじみやすい言語の一つです。韓国語の文の仕組みや簡単な文法を理解し、少して役立つ基本会話を学びたいと思います。できるだけ受講前にハングルの読み方を事前学習することを勧めます。韓国人の留学生とまじえて実践的に会話を練習します。	
	英語初級：生活の中の英語	本講義では、日常生活の中で英語に出会ったときに適切なコミュニケーションができるようになることを目指す。英語で道を訊かれたとき、海外で乗り物に乗るとき等、具体的な場面を想定し、そこで必要な英語の表現方法を学ぶ。また、自分の周囲にあるテレビ・ラジオ・新聞などを利用して英語を勉強するためのヒントも紹介する。講義形式ではなく、リスニングや会話などの活動中心の授業である点を理解した上で受講されたい。	
	中国語第一歩 1	中国語を初めて学ぼうという方、少しかじってみたが学習のしかたが分からない方を対象に、発音の学び方から始めて、<聞く、発音する>を反復しながら中国語学習の初歩の重要項目を学びます。	
	シナリオにみる英語	映画のシナリオに見られる英語を観察する。会話はどのように成り立っているかという視点からも考える。日本語との比較も念頭におく。	
	歴史を通して学ぶ英文法	英語を使いこなせるようになるためには英文法の知識が不可欠です。文法規則の中には、その歴史的な背景を知ることによって理解が深まるものがあります。この講義では、英語の音声・語彙・文法に関して学習者が疑問に感じる点を取り上げ、歴史的な観点をふまえて解説することで、英文法の知識を豊かにしていきます。	
	フランス語会話入門	フランス語は初めてという方を対象として、フランス語の発音、綴り字の読み方、日常の挨拶、カフェの注文、プティックでのショッピング、メトロ(地下鉄)やバスの乗り方、などについて学びます。シャンソンやビデオを鑑賞する時間ももうけて、少しでもフランス文化の香りに触れていただきたいと思います。À bientôrc;! (ア・ピヤント：ではまた、近いうちにお会いしましょう!)	
	フランス語会話と文法	「フランス語の初歩」を履修した人、または自分でフランス語を10～20時間くらい勉強したことがある人が対象。フランス語文法の基礎を全体的に学習し、話す、聞く、読む、書くというフランス語のコミュニケーション能力基礎を身につけることをめざします。	
	英語初級 私の英語勉強法	1. 英語の勉強は単語から苦手の解消法はどうすればよいか、自分の経験から開説します。2. カタカナ語からの英語の勉強(改行)カタカナ語からの英語勉強法はボキャブラリーを増やすのにこんなに役に立つ。3. 声を出して英語を読む(改行)英文を読む際には出来るだけ大きな声を出して読むことを心がける。4. できるだけ早く読む繰り返し読むことはもちろん、出来るだけ早く正確に読むことも大切。5. 英語を勉強する 英語で勉強する(改行)英語で何かを勉強することを目的にする方が、より早く英語を勉強できる	
	実用的英語発音と聞き取り	この授業では英語独特の発音の特徴(リンキング・リズム・アクセント等)に焦点をあてて分析・練習し、楽しみながら発音と聞き取りの力を高めて行きます。具体的にはいくつかの映画のシーンを題材に、その会話の発音を分析し、実際にその英会話をみながら実践してみます。ネイティブの話す生きた英語を習得しましょう。	
	デザイン アンド ディスカス	この『Design and Discuss』クラスは、中～上級英語学習者向けのクラスです。デザインというトピックを通して英語で意見交換することに焦点を当てています。学生の皆さんはデザインの知識を必要とされているわけではありません。簡単な絵の手法を用いて日常の物を創作します。あくまでも、議論や意見の交換が、このクラスの大部分を占めます。話題に対して工夫を盛り込んで、革新的に考えるという事が出来ます。創造的で建設的に意見する能力を向上させ、実際に表現する機会となるでしょう。英語で自分自身を表現するという機会を得て下さい。	
	英会話入門	このコースの目標は、8回のレッスン後に日常英会話ができるようになること。会話のコミュニケーションは、「聞く」「話す」が基礎となります。レッスン中に講師やクラスメートと自然な英語を使って楽しみながら、英会話を身につけて行きます。内容は、自己紹介、挨拶、日常生活、感情表現など。	
	韓国語入門	初心者のための韓国語入門授業である。ハングル文字と基本的な文法の学習を通して、また実践的な場面学習を通して、基礎的な韓国語会話ができるようになることを目標とする。あわせて、最近注目を集めている韓国の文化についても知識を深めたいと思う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 基礎科目	擬音語・擬態語表現の意味と用法	日本語は擬音語・擬態語の表現が豊かです。特にどんな分野の語が多いのか。その形や文法、用法の特徴は何か、具体例を中心に考えます。「きらきら・ぎらぎら」「よちよち・よろよろ」の違いは何かなどについて、ともに考えましょう。後半はグループ別に分かれ、話し合い、結果を発表します。全員参加型の授業です。授業を通し日本語の豊かさを再認識してください。	
	話す中国語	本講義は中国語の発音(ピンイン)をはじめ、基本文型を学習する。そして、会話形式で繰り返して練習することを通じて中国語と日本語の発音や文の構造の相違を理解し、簡単な中国語文を使い、声を出して仲間と話す楽しみを体験することを目的とする。同時に、中国の風俗・習慣に触れ、中国に対する理解を深める。また、初心者は簡単に基本的なものを学習でき、経験者は応用能力を向上させられるような内容の講義を行う。	
	英語音声学入門 音とメロディ	イギリスとアメリカの標準的な英語音声、リズム、イントネーションを日本語と比較しながら学ぶ。個々の母音、子音のみならず、発話の中で連続する音声の種々の音声現象、さらにリズム、イントネーションの解説および聴き取り訓練を含む。	
	英国史で英語を学ぶ	英語でかかれたわずか50ページばかりの短い英国史を読みます。用意のできる方は分からない単語を調べておいて欲しいのですが、必ずしも予習は必須としません。本を一冊読むことで英語の力をつけ、英国の通史もわかるという一石二鳥をめざします(但し担当教員は歴史の専門家ではありません)。	
	大学英語の基礎	九州大学で1年生全員が履修している共通教科書を使用して、英語学習、音声、英字新聞、文の構造、英語圏文化等について学ぶ。教科書は事前入手可であるが、必ずしも予習を要しない。しかし英文の読み物の箇所などは予習し、質問をぶつけてくださることを期待している。	
	基礎からの中国語	この授業では、中国語入門段階の必修事項を身に付けることを目標とします。日本人にとって特に難解な発音に重点を置きながら、文法、会話へと発展させていきます。また、中国語の能力を高めるとともに、現代中国に対する理解をも深めて頂きたいと思えます。	
	イギリスのことば、文化、歴史	英語(イギリス語)学習の基本的姿勢を改めて学ぶ。とはいえ初心者向け講習の意味ではない。(改行)例えばtoeflなどに多少上達してもそれだけのことばが持つ意味などが十分、分かったことにはならない。この勘違いが根強いので、この講義はあえて英語の深さとむしろ難しさを知ってもらうことを目的とする。ことばの背景としての文化や歴史や文学にも当然言及する。従ってこれはペラペラ能力の育成などとは関係なし。	
	初級中国語	この授業では発音や文法事項など中国語の基礎を学ぶ。はじめに挨拶語をまじえながら中国語の発音とそのローマ字表記(インピン)を習い、それから初歩的な文法と基本的な表現を勉強する。授業到達目標: 1. 中国語の音を正確に聞き分け、正しく発音できるようにする。2. 中国語の音声表記をマスターする。3. 基本構文を学習し、日常的な会話表現を身につける。	
	英語の発音とリスニング	基本的な音声学を学びながら、英語の発音練習をし、同時に基本的な日常会話を身につける活動を行います。また、コミュニケーションの視点から、さまざまな英語を聞く練習もします。映画や歌なども取り上げて、英語のリスニング力アップをはかります。テキストとそのCDを利用して、日常英会話を楽しみながら、スピーキングのためのいろいろなトレーニングもしてみたいと思えます。	
	シェイクスピアの名場面と名台詞	喜劇、歴史劇、悲劇そしてロマンス劇からいくつかを取り上げ、名場面と名セリフを映像を見ながら鑑賞したい。	
	英語再入門	語彙・音声・聴解のポイント・簡単な文章の書き方・タスクを中心とするオーラルコミュニケーションなど様々な角度から英語の力を訓練すると同時に言葉遊び・使う楽しさをともに感じる場としたいと思います。	
	基礎中国語	音を楽しみながら、発音記号、イントネーションを身に付けましょう。TVの語学教材を通じて、中国文化にも触れましょう。本講義終了後、中国語の独学が可能だと思われま。	
	英語によるコミュニケーション	講義の前半は、教室活動を通じた実践的英会話、後半では国際理解についての講義と教室活動を通して、より理解を深める。	
	英文法再入門	ゼロからもう一度英文法のおさらいをします。中学や高校で英語が苦手だった人も、これから英語の勉強を始める人も、難しい用語の連続で挫折した人も、TOEICテストの準備をしている人も、あらゆる人に役に立つテキスト(CD付)を使い、丁寧に楽しく基礎的な英文法を学びます。それにより、今まで疑問に思っていたことがわかるようになり、英語の勉強がずっと楽になり、生きた英語を実感することを目指します。	
英字新聞を読む	英字新聞の記事を読み、クラスでの議論を通してその理解を深めます。議論は教員による質問に学生が答え、その答えに対して、教員、学生がさらに質問する形で進めます。学生には、YES/NO質問ではなく、具体的な情報を求める5W1H(who, what, when, where, why, how)の質問をすることを期待します。いわゆる速読、速解を目的としていて、訳読式の授業は行いません。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(基礎科目) (外国語)	武士道と英語道	(サムライ Behind the Blade)をDVD・日英対訳スクリプトで、外国人の観点から見た武士道と、現代まで、その精神がどのように息づいているかを検証する。剣聖宮本武蔵と(五輪の書)の章では、武蔵を師として独学で英語を極めることに人生を懸けた、松本道弘氏の(英語道十訓)を学ぶ。英語はリズム 呼吸で覚えよ を(英語は3秒で話せ)と中学校・高校レベルの構文で実践演習する。2分間スピーチ(私の夢或いは自由題)を評価の一つとする。	
	英語の基礎固め	(1)教科書は一般英語学習者向けに、講師が新聞に連載した記事です。註解付きです。スラッシュで区切り、音読し、意味の固まりごとに理解しましょう。(2)日本語にない文法事項、発音記号などはくわしく説明します。意外な発見もあり!(3)高校生、大学生、社会人を教えている経験から、英語の正しい、基本にのっとった、実際に役立つ勉強法を学びます。(4)外国語は楽しんで、step by step!	
	中国語入門	中国語で話してみよう。この授業は中国語の発音とその表記方法であるピンインをまず習得し、基本文法の学習や日常会話などの練習を通じて、初級段階における「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の表現能力の養成を目指します。	
	英語：英文法の基礎	英文法の基本的なところを学びます。冠詞のtheとaの区別、前置詞の使い方、関係代名詞などについて、やさしい英語の新聞記事を読みながら、基本からでないに解説します。今まで何となく分かったことを、しっかりと理解するようにしてください。疑問に思うことがあったら、どんどん質問してください。	
	英会話	授業は、基本的な英会話の技術を養うことを目的とします。少人数のグループによるグループワークを取り入れます。読み、書きなどの予習をして翌週の授業に臨むことがより良い結果を導きます。	
	人気ドラマで生きた中国語を学ぶ	中国で最も人気の高いコメディ・ドラマを鑑賞することによって、言語表現の芸術を理解し、笑いのメカニズムを考えながら、生きた中国語を楽しく学ぶのがこの講座の目的。講師の指導のもと、ヒアリング、翻訳、発音練習、質疑などをへて、実用に堪える語学力をめざします。	
	英語コミュニケーション初歩	この授業は、人生や社会、友人や家族に関わるさまざまな話題を取り上げ議論することによって、英語の会話表現能力を養成することを目指します。グループ学習を通じて英語で自分の意見を表現することを訓練します。また、参加者がコミュニケーションの障害となる恥ずかしさや恐れを抱くことなく、自然でリラックスした雰囲気ですすことができるよう努めます。	
	英字新聞の読み方	この授業では、英字新聞で用いられている英語を学びます。英字新聞の英語には独特の用法がありますが、それらは一般的な英語の文法や英単語の用い方を基礎としています。授業では、これまでに学習してきた英語の基礎的な事項の再確認を行いながら、英字新聞を読むためのいわば方法を学びます。	
	初めてのベトナム語(会話編)	身近な場面を想定して、より実践的なベトナム語を学ぶための授業(ステップ2)。視聴覚教材を用いながら、学校、道端、カフェ、会社などさまざまな場面でよく用いられるフレーズを中心に学び、簡単なベトナム語会話の習得を目指す。「初めてのベトナム語A」(ステップ1)を履修していることが望ましい。オリジナル共通教材を配布する。また、最後に小テストを実施する予定。	
	日常生活の中の医療英語	今日のグローバル社会にあっては、日常生活の中で英語が必要となる場面が増えつつある。海外で病気になったり、病院で外人患者の手助けが必要になったり、医療に関する場面も例外ではない。この授業では、病院でおきるであろうさまざまな場面を具体的な素材としながら、病気や怪我、治療・予防に関連した英語の語彙やコミュニケーション能力の習得をねらいとしている。看護師や理学療法士はもちろんのこと、医療に従事していない一般市民の受講生の参加も大いに歓迎する。	
	初めてのイタリア語(会話編)	この講義では、初めてイタリア語を学習する学生を対象に、発音の仕方、および基本的な文法のしくみについて概説する。映画等の素材を用いてイタリア文化の紹介を交えながら実際のイタリア語に触れ、名詞や形容詞、動詞に関する文法のしくみ、考え方を解説する。	
	シャンソンで学ぶフランス語2	往年のシャンソンの名曲から最近のヒット曲、ポップ・ミュージックなど、様々なタイプの歌を取り上げ、歌詞を解説します。歌を通して生きたフランス語を学ぶとともに、歌の背景にある文化・社会に触れることで、フランスと広域フランス語圏に対する理解を深めます。ネイティブ講師による発音練習とテキスト解説も行います。対象はフランス語文法を習得し、自力で簡単な文章を読める者。最終回に辞書持ち込み可の簡単なテストを行う。	
	「韓国語入門1」補習	放送授業「韓国語入門1」の関連科目。「初歩の韓国語」を履修した学生、あるいは同程度の韓国語の知識を有する者を対象とする。具体的には、ハングルを使った読み書きができること、簡単な表現ができること。「韓国語入門1('06)」の6回程度までの知識があればよい。この授業では、さらに基本的な表現の習得をめざし、「韓国語入門1('06)」14回までの事項のうち、基本的な事項を中心に勉強する。教科書として印刷教材『韓国語入門1('06)』を指定する。最後に小テストを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 基礎科目	初めてのアラビア語：文化編	この講義の目標は、アラビア語の基礎を学びながら、アラビア語とアラブの文化への理解を深めることです。CDやDVDでアラビア語独特の響きや美しく書かれた文字の芸術を味わいながら、その背景にあるアラブ文化について考えていきます。文字と発音が全く分からない方は、まず「初めてのアラビア語：文字」の受講をお勧めします。	
	英語初級（09）	日本人は英語を話すとき“ I m sorry . ”とよく言うのに、アメリカ人はあまり言わないのはなぜか、等文化の違いに起因する言動の違いを扱ったテキストを読みます。読解力を高めるとともに英語を通して異文化を学びます。昨年度は第5章まで読みました。今回は6章から読みますが、1章ごとにトピックが完結するので、6章から読み始めることに支障はありません。	
	やさしい中国語	中国語を基礎から学びますが、なるべく使える中国語と一緒に勉強したいと思っています。(改行) 中国に旅行したつもりで、いろいろな場面を想定しながら生きた中国語を学びましょう。(改行) そのためビデオを見たり、中国の話をしたりすることもあります。頑張りましょう。	
	英語初級：実践的英語学習	本授業は受講者の皆さんの英語の運用力を高めることを目的としています。英語の4技能は相互に依存的なものです。したがって、本授業では教材として総合問題集を使用します。本授業を受講することによって自分の得意な技能と不得意な技能を見極めてください。	
	英語基礎 英会話初級からの脱出	本講座は、「自己紹介」「道案内」「買い物」などの英会話から脱出し、「自分の英語で思ったことを語りたい!」と考える方を対象とするものです。使用する英語は中学校で学習する程度の英語レベルを想定しています。それらの英語を駆使して、「英語で雑談」ができるようになるための「技術」を学び、「英語で世間話」ができるようになるための「英語基礎体力」を養成していきます。	
	初級英語：英語の基本慣用表現	外国語としての英語の基礎力を効果的に養うためには、英語の文法と語法に関する規則を学習するだけでなく、英語特有の表現に慣れ、それらを実際に使えるようにするための訓練を行う必要があります。この授業では、主として、英語の理解と運用に役立つと思われる慣用表現の基本を学習します。その過程で、様々な種類の英語を材料として、英語の文法と語法に関する知識の確認も行います。	
	英語初級－英語を声に出そう	英語は苦手だ。そんな風に思っている人も多いと思います。単語を覚えたり文法規則の暗記をしたりするのが面倒くさい...などなど。ここではもう少し別の角度から英語に体当たりしてみましょう。それは英語を声に出してみることです。英語で自分を紹介したり、英語の歌を歌ったり、簡単な文を読んだり。そして映画やビデオの台詞を聞きとって自分で口にしてみましょう。	
	英語初級－英字新聞の読み方入門	グローバル化が進む中で、旅行やビジネスで英字新聞に触れる機会が多くなってきたかと思います。教材として英字新聞記事を活用しますのでやさしい英文ではありませんが、文法事項を説明しながら、詳しく英文構造を解説します。この授業で英字新聞への興味を深める、と同時に英文読解力の向上を目指したいと思います。	
	ニュースで学ぶ言語と文化	日常生活における身近な話題から、現在の社会で課題となっている健康や環境に関する話題を取り上げます。これらの話題についてグローバルな視点から論じるときに必要なキーワード及び慣用表現を学びます。徐々にナチュラル・スピードの英語に慣れ、耳で聞いて意味を把握し、正確な情報を得ることを目指します。また各項目ごとに練習問題（タスク）を行うことで、理解度の確認と定着を促します。	
	イギリス人の生活と文化を読む	この授業では、教材として、イギリス人の日常生活について記述した英語の文献を用います。イギリスの長い生活史が、住まい、火の活用、窓の構造、暖炉、洗濯、明かり、石炭ガス、等々の生活に密接に関係するものの記述とそれらを具体的に描いた数多くの挿し絵を通して、分かりやすく理解できるように工夫されています。こうした身近な具体例を通して英語の読解力を身につけることが出来ると同時に、日本人の日常生活との違いを知ることによって私たちの意識と知識を広げることが出来ます。	
	言語教授法、独文学、修辞学	ドイツ - 社会の紹介社会と言語は関係があります。その関係は授業のテーマになります。授業で様々なテーマについて映画をみたり発表をしたりします。特に日本とドイツの問題は比られると思います。可能なテーマは「移民問題」、「教育」、「環境問題」です。授業の方法決まったテーマについて、詳しい情報を集めます。テキストを読んで、ビデオを見ます。そしてグループで発表の準備がやります。準備はドイツ語と日本語でして、発表はドイツ語で行います。その後発表のテーマについて会話（できれば議論）でします。	
	英語のスキル	たとえば、助詞は日本語にとってきわめて重要である。「犬が人を噛んだ」が「犬を人が噛んだ」になったら大変である。ところが英語にはこの助詞がない。なぜないのか。さらには、He has been to the U. S. ten years before.がなぜ現在完了なのか。具体的例を挙げて基本知識を確認し、読み方のコツを考えていきたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 基礎科目	韓国語の世界	ハングル(文字)の仕組みの理解からはじめ、発音を身につけ、徐々に簡単な会話や自己紹介ができるように指導します。ひたすら暗記するのではなく、わかった上で使い、楽しんでもらえるような韓国語の授業を目指します。さらに、コトバだけでなく韓国の文化への理解も深めてもらえるよう、社会言語学的な立場から韓国のコトバと文化を紹介します。	
	英語初級：時事英語入門	これまで何気なく勉強してきた英語も、よく考えてみれば、不思議なことがかなりたくさんあったと思います。自分の頭の中で、その一つ一つが解決される時、また違った英語の姿が見えてきます。そのような際に、手助けとなるような授業を心掛けています。なお、授業では、これまでの英語学習歴を考慮した上で、日本を特集した英字新聞、雑誌のみならず、文法や単語の語源などについても、分かりやすく解説していきます。	
	ドイツ語初級：文法の基礎	ドイツ語文法の基礎を学びます。アルファベットと発音からはじめ、ドイツ語の動詞の現在人称変化、命令形、名詞の格と性、分離動詞、前置詞の格支配など、もっとも基本的な項目を平易なドイツ語の例文を用いて説明します。みなさんには授業中に簡単な単語と例文を覚えてもらうとともに、練習問題を通じて、簡単なドイツ語文の日本語への翻訳、そして和文独訳を行ってもらおう予定ですから、しっかり予習をした上で授業に臨むようにして下さい。	
	英語中級：発音と構造のしくみ	講義では「ダイナミックな発音の仕組み」の理解を踏まえた発音・聴解訓練を行い、受講生が既に習得している英語力を生かす基盤を養成する。また、英語の重要な構造をあらためて捉えなおし、それを踏まえ正確に英文を読み取り、書くための基礎を固めたい。さらに、日本語との比較において、「英語が言語としてどういう特徴を持っているか」を説明した上で、どうすれば英語をマスターできるかについて認識できるようにする。	
	韓国語中級：基礎文法の再確認	初級レベルの文字・発音や文法の復習と中級レベルの文法を学びながら、韓国語の日常的な表現を習得します。文字・発音についての再確認をおこなったあと、文末表現や連用形などの文法事項を学習し、韓国語文法の輪郭を把握できるようになることをめざします。テキストの6課から第10課あたりまでを学習する予定です。	
	英語の基礎	The sound knowledge of English (「英語基礎徹底対策」)：「バランスのよい基礎英語学習」：「4技能」という概念を活かしつつ、新しい英語学習方法に取り組みます。それは、(1) [Listening + Reading] (2) [Speaking + Writing] という方法です。奥田の「基礎英語」の授業は、前者を中心に、後者をも取り入れたものです。教科書は、易しい英文物語です。まず、読んで、聞かせます。そして、話させて、書く、という4技能を養成します。	
	絵本の英語	絵本の英語を観察し、その英語にはどのような特徴があるのかを考える。また、実際に子どもを対象に見立てて翻訳も試みる。	
	中国語第一歩2	中国語の初歩の重要事項を一通り学んだ方を対象に、中国語と密接に関連する〔食生活・あいさつ・交際・交通・儀式・冠婚葬祭〕など、中国の生活についての、少し長い、まとまった文を読み、実例に即しつつ、重要事項をより深く学習します。	
	コリア語入門	コリア語入門の授業は、始めてコリア語を学ぶ人を対象とするため、まず基本となる文字と発音に重点をおきます。「ハングル」と呼ばれるコリア語の文字は、英語と同じように表音文字で、文字と文字の組み合わせで音節を作っていく点でもアルファベットを使う世界各地の表音文字と同じ特徴を持っています。この点を理解してもらい、自分で文字が読め、なおかつ発音できるように、練習を積み重ねていきます。	
	ドイツ語入門	この授業では、各回の授業テーマに示した場面でのドイツ語会話を通じて、次のような内容を勉強します。・ドイツ語の運用(読み、書き、会話)能力を身につけます。そのために、ドイツ語で使用される文字と発音および初歩的文法を勉強し、基本的な問いと答えの表現を憶えます。・ドイツ語学習を通じてドイツの人、国、文化について理解を進めます。	
	初めてのドイツ語	この授業は、ドイツ語の最初歩のドイツ語学習を目指す。内容は、発音、簡単な挨拶、数字、文型 S+V+Oの基本構文の学習する。テーマとしては、一日の行動、「～へゆく」という表現や「～がどこにある」という表現、買い物などを予定。文法内容は動詞の人称変化と名詞の格変化を習う。	
	異文化理解と韓国語・韓国文化	本講義では、韓国語と日本語の類似点を紹介し、ハングルで自分の名前を書いたり、ドラマの一コマをしゃべってみる。韓国文化については、ドラマ等の映像資料とデータの提示や実物を用いた実体験を通じて、日本文化と比較しながら学習を進める。近隣の同文化圏でありながらも、場合によっては両国間で顕著な相違がみられることを確認し、異文化理解を促進する。	
映画で学ぶ英語と文化	映画を教材として使用して、英語表現やリスニング習得と共にストーリーの展開を理解することを目的とします。この映画にはアイルランドの歴史と文化、移民問題、アメリカの社会問題、そして家族、人間、愛、などの多くの要素が含まれており、これらの題材を用いることにより、異文化を理解し、又アメリカ文化を取り巻く様々な問題についても考えます。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 基礎科目	韓国語入門	韓国語は日本語と語順が同じで、日本人にとってとても学びやすい言葉です。や にしか見えないハングルも、そのしくみが分かれば意外と簡単なもの。本講義では、ゆっくりながらもハングルを読み書きでき、自己紹介などの簡単な会話ができることを目指します。	
	英語で学ぶイギリス文化	近年日本では一種のイギリスブームとも言える現象が起きていて、マスコミにはイギリス関係の話題が頻繁に取り上げられ、書店には多くの本が並び、多数の観光客が訪れる。長い歴史と伝統、豊かな自然、ゆったりと流れる時間 確かに魅力的な国である。この授業ではイギリスの社会や生活や習慣などを英語で学ぶことにより英語力の向上を図るとともに、英国文化の一端に触れることで私たちの生活を振り返ってみることを目標とする。	
	韓国語入門 1	このクラスはハンガルの仕組みおよび文章構造について学びます。第1回目はハンガルの仕組み、基本母音の発音と書き方について、第2回目は基本子音の発音と書き方について、第3回目は複合母音の発音と書き方について、第4回目は重子音の発音と書き方について、第5回目は総復習をします。受講は初心者が対象ですが、発音が不安定な方でも参加できます。	
	はじめての韓国語	本授業は韓国語の最も基礎的な段階を勉強します。日本人にとって韓国語は世界で一番学びやすい外国語です。文の構造が類似している、助詞の使い方がよく似ている、漢字語が半分で日本語の漢字語とほとんど同じ、などの理由のためです。しかし文字とその発音は習熟を要します。基本母音、基本子音、合成子音、合成母音、終声と少しずつ固めていき、最後にハングルで自分の名前・住所が書けるようにし、簡単なあいさつを覚えます。	
	英文法の基礎	英語特有の41のパターンが「きちんとすっきり」早わかりできると同時に、英語そのものの考え方の根本を学び直せるように効率的に構成されたテキストを使い、英語の基礎を学び直し、これまでの散発的な英語知識を整理します。CD付きではないが、講義中に音読とシャドーイングを取り入れ、生きた英語として英文法を復習し、実践的な英語力の習得とレベルアップも目指します。	
	ハングルと韓国文化入門	この講義は、初めて韓国語を学習する方、或いは既に韓国語の基礎コースを習得した方を対象に、韓国語の文字「ハングル」の学習を通して韓国の文化を紹介していきます。特に「ハングル」読みや「ちょっと使える韓国語」を心がけます。なお、この講義は、平成20年度第2学期(土日型)で実施した「ハングルと韓国文化入門」とほぼ同じ内容です。	
	「英語」理解のコツ 2	先回の「英語」理解のコツをレビューしつつ、ステップ・アップを試みます。基本的には、平易な英語表現の理解に焦点を当てて授業を行います。教材を読んだ順序で理解すること、聞いた順序で理解することになれば、より多くの教材を手にし、英語学習が楽しくなることを目指します。理解と翻訳は違うということに気付いて下さい。	
共通科目(一般科目・人文系)	基礎教育学 (07)	日本の教育は、今、「危機」に瀕していると言われ、様々な改革が実施されている。しかし、その改革は時代や社会の変化に適切に対応するとともに、教育の本質に適ったものであろうか。 転換期にある日本の教育改革の現状を検証し、そのゆくえを探るために、グローバル化・IT化・知識社会化が進むなかで、教育の「基礎・基本」をどう捉え、子どもと家庭や学校(大学を含む)、社会などをめぐる諸問題をどう解決するべきかについて多角的に考察する。	複数教員共同担当
	学校教育論 (08)	わが国ではこれまでになかったほど学校教育に注目が集まっている。特に、これまで看過されてきた学校内部の問題、たとえば、カリキュラム(学習内容)、学校・学級での生活や人間関係、そして学校改革の可能性などへの関心は高い。この科目では、学校社会学、学校心理学、及び学校経営学を専門とする立場から、学校教育をその基礎から理解し、現下の問題の本質と背景、発生のメカニズムを把握した上で、今後を実践的に展望する。	複数教員共同担当
	心理学入門 (06)	この授業は、初めて心理学に触れようとしている人を対象とする。心理学が人の心をどのように把握しようとしているのか、またどのような方法で、人の心に接近しようとしているのかについて、できるだけ身近で日常的な例を挙げながら紹介していく。	複数教員共同担当
	認知心理学概論 (06)	認知心理学とは何か。認知というのは英語cognition、cognitiveの訳で、これは「環境の状態や変化を知り、それを(個体の生存や種の維持に)利用する」、といった程度の意味である。これを司っているのが心(といっても、英語のmindのほう)だから、「心を実験的に研究する学問」でよさそうだが、これだとただ「心理学」というのと区別がつかない。そこでもう少し付け加えるとすれば、現在の心理学の主流で、人間の心を「認知系」の代表としてとらえ、そのふるまいや働きを広い意味での情報処理的モデルを用いて明らかにしようという立場をとる心理学、ということになる。 この科目では、実験心理学的知見を中心に、認知心理学の各分野においてどのようなトピックが研究されているかを概観し、そのうちの少数を選んで詳しく解説する。ただし、受講者の知的好奇心を刺激するよう、できるだけ日常生活から生じる疑問を最初に提示し、後でそれに対する理論的・実証的説明をおこなう、という方針を採用したい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（一般科目・人文系）	教育心理学概論 （ 09 ）	教育心理学は、4領域より成り立っている。発達、学習、集団・適応、評価である。本講義では、すべての領域を満遍なく取り上げ、いろいろな角度から、いろいろな問題に言及する。ここでは、教育を狭い意味の学校教育だけに留まらず、家庭教育も成人・高齢者に対する教育も考慮の範囲に収めて、講義を進める。また、現代の教育におけるさまざまな問題も視野にいられた講義をする。このように、本講義では、広い視野から、現代に生きる子どもから大人までの教育に関して、心理学の観点から考察を進める。	
	社会心理学の基礎と応用 （ 08 ）	現代の社会心理学は、多くの領域で社会認知的視点を採用していること、他の研究分野との連携を推進していること、そして経済行動や政治行動など幅広い分野に応用が広がっていることに特徴がある。こういった社会心理学の全体像を初学者がよく理解できるように簡潔にまとめ、基本的な考え方と研究事例をわかりやすく紹介したい。そのために、前半では社会心理学の基礎を社会的認知を中心に紹介し、後半では社会心理学の代表的な応用研究を紹介する。	複数教員共同担当
	精神分析入門 （ 07 ）	精神分析は、神経症の治療法として登場したが、実践を重ねる中で人間を理解する心理学理論となり、人格を探究する研究方法として発展した。20世紀の思想界に大きな影響を及ぼしたことは周知の通りである。その一方では、時の経過とともに人の人格のあり様が変わる中で、精神分析的理論もまた大きく変化した。本講座では、精神分析がどのようにして生まれて実践に供されるようになったか、さらにその後の発展を辿ることについて学ぶ。	
	心理臨床の基礎 （ 08 ）	本講義では、心理臨床の基礎として、臨床心理学の4領域である臨床心理アセスメント・臨床心理的援助・コミュニティ援助・研究法の基礎について学ぶ。	
	人格心理学 （ 09 ）	人格 (personality) は、臨床心理学のほか、発達心理学、社会心理学など、心理学の諸分野に深く関わる概念である。この講義では、心理学において「人格」という概念が、どのように指定され、どのように探究されているのか、また、その変容と生成に対してどのように関わっているのかを、総括的に論じる。 このように人格の緒理論に関して探究することを通して、心理学的な人間理解の発想や方法ということに関しても、深い理解を醸成していくことをめざしている。	
	現代を生きる哲学 （ 07 ）	哲学という言葉は、古代ギリシャのプラトンの語ったピロソピアという言葉に由来するフィロソフィーの日本語訳である。この言葉は「知を愛する」という意味を持つが、すでにプラトンの段階で、それには単に日常生活に役立つ知識とか専門科学の知識を超える知という位置が与えられていた。そのような哲学的知識および哲学的思索というものがそもそもいかなるものであるのかを、理論哲学、実践哲学、宗教哲学、芸術哲学の各場面に従って紹介するとともに、それが現代を生きる私たちにどのような意味を持つのかを検討する。	
	生命と人生の倫理 （ 05 ）	生命操作技術の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題を対象とする生命倫理学と、人生全体の中で医療を位置づけつつその倫理を考える方向（ここでは「人生の倫理」と呼ぶ）との間を架橋しつつ、医療者と患者・家族とが会う医療現場における倫理の方向付けを目指す。生物学的生命と物語られるいのち（人生）の間、また高度化した技術と日常生活の間を行き来しつつ、諸問題を考えたい。	複数教員共同担当
	西洋哲学の誕生 （ 10 ）	言うまでもなく、ギリシャ哲学は、西洋哲学の源流をなすものであるとともに、そもそも人類の哲学的思惟にとっても最大の意味を持つものである。このギリシャ哲学に対しては、さまざまなアプローチの仕方があるであろうが、ソクラテス、プラトン、アリストテレスと続く正統の哲学者の思想を、一方は、理論哲学的に、他方は倫理的に検討することが必要となるであろう。ギリシャ哲学は、時代に制約されているという側面を持つ反面で、今日なお読者を打つ、普遍的な知恵という側面を備えており、それぞれの時代に、それぞれの読み直しのもとめられているものである。本講義においては、このギリシャ哲学を、一方で、今日の研究水準を踏まえた、専門的学問性をクリアしながら、他方で、哲学の初心者にも充分理解でき、関心をそそられるというものとするという形で展開する。	複数教員共同担当
	応用倫理学入門 （ 10 ）	今日、哲学、倫理学の領域で、社会的要請に対応する応用倫理学が多くの関心を集めている。生命倫理、技術者倫理、環境倫理などが、その例として知られている。『生命と人生の倫理（05）』は生命倫理を哲学的な内容と関わらせるものであった。今回の科目『応用倫理学入門』では、さらに、この科目を発展させて、応用倫理学全体を哲学的見地から再検討する科目にする。この科目は、科目の性格上、複数の専門領域の講師によって進められる必要がある。	
	音楽理論の基礎 （ 07 ）	音楽を学ぶにあたって最低限必要な基本的知識を全15回にわたって講義する。西洋音楽のみならず、日本の音楽や世界の伝統音楽を理解する上で必要な概念について説明し、それを通じて世界の多様な音楽に対する理解を深めることを目標とする。講義は、多くの曲例を紹介しながら、また具体的な実演映像を交えながら進める。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（一般科目・人文系）	芸術史と芸術理論 （ 10 ）	<p>芸術の歴史を古代から現代まで俯瞰した上で、その歴史において最も重要なものを詳しく採り上げて論じる。論述にあたっては、個々の芸術作品が、同時代の思想・芸術理論と密接に関連していることを明らかにして、芸術が、単に感性的な好みや趣味の領域に止まるものではなく、理性的なものをも含んだ人類の文化全体の精華の一つであることを実証的に論じる。</p> <p>考察対象としては、演劇・音楽・文学等についても触れるが、主たるものとしては、美術とし、考察の範囲は、日本についても触れるが、主としてヨーロッパ・アメリカとする。</p> <p>講義の仕方は、共通科目であることを踏まえて、極力分かりやすく、かつ、魅力あるものとする。</p> <p>ターゲット層は、単に趣味的に芸術に関心をもっている人々だけではなく、人文系・社会系・自然系に関わる人々全てであり、人類の文化に関心をもっている人々全てである。</p>	
	日本近現代史 （ 09 ）	幕末開港から第二次大戦後の高度成長まで、日本の近・現代史の基本的な流れを、政治・経済・国際社会の視点から、概観する。歴史事実を並べるのではなく、歴史の変化の基本線を追いながら、日本の社会がどのように変化したのか、を構造的に理解できるように構成した。	
	地中海世界の歴史 （ 09 ）	地中海世界は、古代から現代までヨーロッパのみならず西アジア・北アフリカをその中に取込み、独自の風土と文化、歴史を築いてきた。ギリシア、ローマ、エジプトやマケドニアなどの古代文明はその後のこの地域のみならず世界の歩みの中でも特色ある文明を支えてきたし、イスラムの成立以降はヨーロッパの歴史にも複合的な性格を与えてきた。A・ピレンヌの『シャルルマーニュとマホメット』、F・ブローデルの『地中海』などが明らかにしているように、地中海の歴史は世界史にとって魅力的で豊富な歴史研究の題材を提供してくれる。この講義は、こうした地中海の多面的な歴史を古代から近世まで概観する。	複数教員共同担当
	国文学入門 （ 08 ）	国文学全般について広い視野から展望するとともに基本的な教養に必要な事項や定説とされる知見に関する情報を提供する。また、学問の基礎作業について注意を喚起する。さらに、先進的な問題をも紹介しつつ概説を超えて研究のスタイルについても参考となるように全体を歴史的に通観する。	
	日本の近代文学 （ 09 ）	明治から第二次大戦後までの日本の近代文学の流れを解説する。ただし必ずしも文学史の概説を旨とするのではなく、毎回、個別のテーマを設定し、具体的な文学表現を読み解きながら表現と時代との相互関係を考察していく。近代文学に関する主要な作家・作品の解説を適宜織り込んでいくが、その際、ジャンルを別々のものとして捉えるのではなく、社会状況、美術などとの関わりを視野に入れながら、総合的に「近代」という時代の特色を明らかにしていく。	複数教員共同担当
	文学の愉しみ （ 08 ）	20世紀から現代を中心に、世界の文学を概観するリレー形式の講義。3人の主任講師はそれぞれの専門である英米文学、フランス、ロシア・東欧文学を中心に、それ以外の領域も視野に入れて講義をし、現代世界の様々な地域の文学をカバーする。またファンタジー、推理小説などの分野については分担講師が講義する。さらに現在活躍している日本の作家をゲストとしてお迎えして話をうかがい、書き手と読み手の対話を行なう。	複数教員共同担当
	人文地理学 （ 08 ）	グローバル化がすすむ今日、多様な人間社会はますます複雑に変動し、これをどう認識するかが大きな課題となっている。大学レベルの人文地理学初學者のための入門として、まずその古典的視角の解説からはじめて、人間の環境への適応や環境変化、立地論、人間の空間行動などに関する枠組みを概観するとともに、それにあわせて発展してきた計量的手法や地理情報システム（GIS）を紹介する。さらにそれを基礎として今日の世界や日本の多彩な問題の理解にむけた課題を検討する。	複数教員共同担当
	博物館概論 （ 07 ）	博物館には、大規模博物館と小規模の博物館とがある。博物館の基本は地域に根ざした小規模博物館にあると考えている。そして博物館が拠って立つ所以は「モノ」にある。「モノ」を見失った博物館は博物館ではなく、単なる人寄せの場ではない。こうした観点にたつて、博物館について考えていく。ここでは「博物館学」という講義の場ではない。「モノ」から離反したアムチエア・ムゼオロジーではなく、実態に即した博物館について、資料取り扱いを中心とした博物館の業務について講義し、あわせて実践的な活動を行っている小規模博物館をみながら、博物館の現実的なあり方を考える。	複数教員共同担当
	心理学実験実習 2	本実習の目的は、心理学の研究方法を体得することである。各参加者は、心理学の実験実習に実験者や被験者として参加し、研究計画、データ整理、考察等の基礎を学ぶ。具体的な実習テーマとしては、弁別、錯視、問題解決、バイオフィードバック、性格検査等を予定している。実習にあたっては、心理学の基礎的な知識が要求される。従って、参加者は、心理学についての放送授業をあらかじめ受講していることが望ましい。成績は出席状況、レポートにより評価する。	
	心理学実験実習 3	この講義では、いくつかの限定されたテーマについて、本格的な実験実習を行う。実習の目標は、研究計画の立て方、実験の具体的な実施の仕方、データの整理方法、本格的なレポートの作成方法を体得することである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(共通科目) (人文系)	心理学実験実習 1	本実習の目的は、これから心理学を学ぼうとする学生に、心理学研究の面白さを味わってもらうことである。参加者は、いくつかの実験に参加し、そこで得られた結果に基づいて、基本的な心理現象の性質について考察する練習を行う。具体的な実習テーマとしては、天地が逆転して見える逆転眼鏡を体験する実験、短期的な記憶能力を測定する実験、基本的な性格検査を体験する実習等を行う。	
	ロシアの詩と文学入門	最近ロシア文学が脚光を浴びてきています。ロシア19世紀、20世紀の名作が読みなおされています。この講義ではロシア小説の名作案内をしながら、作品世界の醍醐味を味わいます。小説はドストエフスキー、トルストイ、チェーホフ、パステルナークなど。	
	人と歴史のかかわり	社会で生活するうえで、歴史とかかわる場面は多々あります。けれども、いったい歴史とは何なのでしょう。なぜ歴史を学ぶ(研究する)のでしょうか。なぜ歴史を教える(伝える)のでしょうか。どのように学び、教えればよいのでしょうか。問いはつきません。この授業では、「人」と「歴史」のかかわり方について、哲学的・歴史学的・教育的にアプローチしていきます。	
	小説と映画 「泥の河」を読む	メディアリテラシーの試み 小説・映画「泥の河」精読現代日本文学を代表する作家の一人・宮本輝のデビュー作「泥の河」と、現代日本映画界の名匠・小栗康平の初監督作品「泥の河」。この授業では、表現形式の異なるこの2つの作品を丹念に読み解き、比較することを通して、普段何となく見すごし読みすごしてきたそれぞれのメディアの特質を考えたいと思います。読むことの難しさ・楽しさを知ってもらえたら幸いです。	
	太宰治の人と文学	太宰治は、2009年、生誕100年を迎えますが、世界的な広がりを見せながら、今なおその人気は衰えることなく読み継がれています。本講義では、太宰の人間としての在り様と文学の魅力を、代表的な作品に触れながら解き明かし、同時に、閉塞感に満ちた現代の我々へのメッセージを読み解きます。	
	環境と健康	外部環境の変化を、様々な感覚器官が感知し、神経系や内分泌系によって内部環境の恒常性を保つべく反応する。こうした生理的機序が破綻するほどの外部環境の変動を制御する科学と技術が環境衛生学である。(改行) 可能な限り多種類の環境要因とその測定技術、およびその変動に対する生体の反応と破綻による健康障害について、デモンストレーションを交えながら解説する。	
	合わせ鏡、啄木短歌と賢治短歌	石川啄木と宮沢賢治とは、岩手出身の文学者であると共に、日本の近代を代表する文学者であり、近年は、その関心は、日本を越えて世界に広がっている。(授業者としても、インドにおける客員教授体験からそのことを実感した。)だから、二人について考察することは、岩手と共に日本や世界を考察することでもある。このことを、今回は、二人の同類の短歌を紹介・考察することによって考察する。なお、岩手大学内の啄木・賢治関連場所についても紹介したい。	
	新しい医療の倫理学	現代医療の進歩は著しいが、その中でも、最も注目されつつあるのが「再生医療」と「サイボーグ医療」である。こうした医療においては、多能性細胞から臓器を再生したり、脳内の情報を読み取って、それを精巧な機械の四肢や感覚器官に置き換える、ということが試みられている。本講義では、これら二つの医療の基本的な特徴を理解した上で、その倫理的な問題のありかを、受講者の皆さんと一緒に探ってみることにしたい。	
	文化人類学入門	文化人類学の基礎的理論、学史、現代における文化人類学を研究する意味などを語る。中心的なテーマは、(1)親族をめぐる人間関係のあり方と、(2)宗教的な世界観について。	
	心理統計法	心理学は心の無意識の深層を探るものだと誤解している人がいます。心理学は科学の方法で心の法則を明らかにする学問です。その方法のうち有力な方法の一つが統計法です。心理学の書籍や論文には、たくさんの統計法が使われています。これらの統計法のうち、基礎的な統計法について、分かり易い例を挙げながら、併せて科学的な考え方について、お話をします。	
	墓と葬送の文化	葬送儀礼の内容、遺骨や遺体の扱い、墓地という空間の意味づけなどを通して、死者と生者の関係が社会の基盤にあることをのべる。日本のみならず、韓国・中国などの東アジア・東南アジア・ヨーロッパなど諸地域の事例を紹介して比較すること、および社会の近代化が葬送・墓制にあたえた影響を考えることで、死者と生者の関係の多様性と統一性を理解してほしい。	
	比較の視座からの日本政治	現代日本政治を、欧米諸国との比較の観点から考察します。制度(議会制度、選挙制度、政党システムなど)と制作(外交、福祉など)の比較を通じて、日本政治の特質と課題とを浮かびあがらせます。	
ナスカ地上絵とアンデス考古学	この授業では地上絵を制作したナスカ社会の特色を自然と文化に注目することによって明らかにするとともに、アンデス社会の展開の中に位置づけることによって、何のために地上絵は制作されたのか、その理由について考察します。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 (人文系)	隠喩とコミュニケーション	私たちは、「子どもが病気だ」のような文字通りの表現と同時に、「時代が病んでいる」のような隠喩(メタファー)をしばしば使用します。隠喩は、文学的な表現手法であるだけでなく、日常言語の中に幅広く浸透し、私たちの「ものの見方」を規定しているのです。文字通りの意味とは異なる内容を伝える隠喩は、どのようにして理解されるのか。コミュニケーションの基本的な仕組みにさかのぼりながら、考察してみたいと思います。	
	哲学入門	人間の思考(考え)の論理的なあり方、即ち「いかにして論理的・合理的なものごと(社会的・個人的)を見て考えるか」を、西洋哲学(ことに認識論)を歴史的に概観することにより学びます。授業では、受講者が自分の頭で社会事象や、自己の意見と異なる相手の主張に対して、論理的に自分の頭で考えた上で主張・反論できるようにすることを主眼として、哲学者たちの言説を「考える」ことを柱とし、質疑応答に十分時間をかけた参加型講義をします。	
	日本の香り文化	日本文化の中でも、嗅覚に関わる文化は独自の発展を遂げ、高度に洗練された「香道」を生むに至ります。本授業では、日本の「香り文化」を、他の国々の「香り文化」にも目配りしながら、文化史的に跡づけてみたいと思います。また、面接授業の特性を生かして、講義だけでなく、実際の香り体験もして頂きながら授業を進める予定です。	
	人文地理学の基礎	グローバル化した現代社会では、諸問題を特定の場所や地域と結びつけて理解する地理的思考の重要性がますます高まっています。この講義では、私たち人類の生活の場である地理的空間(地球表面空間)の厚さと横の広がり、同空間における位置の重要性などを認識した上で、生活空間における距離、地図による空間認識、分布現象の理解など基本的事項について考察します。	
	自然と人間	前半は、近代の自然観・人間観に照準を合わせ、思想史的観点から講義する。後半は、生命、環境、倫理に関わる現代の諸問題を取り上げ、受講者とともに考えたい。	
	日本語史	わが国は最初「倭(ワ)」を国名としていた。大宝元年(701年)に国名を「日本(ニッポン)」と改めている。この講義では、日本語史のキーポイントを10項目にしぼり、要点を講義する。	
	フランスの人生論を読む	フランスの文学者のうち、人間の本性や生き方について思索し、その考えを文章に表現した人々をフランス語で「モラリスト」(moralistes)と呼びます。彼らの作品のなかから、人生に関する思索を表現した文章を抜粋して読みます。16世紀のモンテーニュから始め、17世紀のパスカル、ラ・ロシュフーコー、ラ・ブリュイエール、さらには20世紀のアランまでを取り上げる予定です。	
	ナショナリズムの源流を考える	近代日本のナショナリズムは歴史的に多大な問題を提起し、またそれを残してきています。そこで本講義では、江戸時代までさかのぼってその思想的源流、すなわち国学の思想について考えます。国学の思想は本居宣長(1730~1801)によって大成されたと考えられていますが、ここでは宣長にいたる思想史をたどり、宣長自身の著書を講読することを通じてその思想を学びたいと思います。	
	平家物語を読む A	『平家物語』の代表的な章段をとりあげ、物語の背景にある歴史事実や思想的な問題に目配りをしながら、物語に描かれた戦乱の時代の人びとの生きざまを読み解きます。また、『平家物語』には形態や内容が異なったテキスト(異本)が数多く存在しています。享受される過程で多くの人の手が入り、さまざまな『平家物語』が生み出されています。そうした異本の世界についても言及しながら、この作品の魅力の一端に触れます。	
	現代日本の教育課題	急激な社会変動を続ける現代日本において、教育はさまざまな課題に直面している。明治以降、近代日本の展開過程と密接にかかわってきた教育は、社会発展を支える重要な要因として高く評価されてきた。しかしながら近年は、さまざまな社会問題が多発化するなかで、逆に教育の責任が問われる事態が生まれている。教育については個人的体験をもとにさまざまな主張・見解がみられるが、大切なのは教育を社会的なもの、つまり社会現象といった視点から捉え、教育の課題にせまることでもある。教育はけっしてオールマイティなものではなく、社会を構成する多様な側面と密接にかかわっており、それらとの関係性のなかで成立するものだからである。したがってこの面接授業においては、まず社会現象としての教育とは何かについて、基本的な概念とその働き(機能)について明らかにする。そのうえで人々の日常生活場面で生起しているさまざまな教育問題、また教育病理と呼ばれるものについて、各学習センターの担当講師の先生方に、それぞれの専門領域の研究成果をもとに、「教育課題」として講じていただく。受講生の皆さんはご自身の教育体験と問題意識を大切にしつつも、これに引きずられることなくこれをも対象化し客観的に捉えることにより、全体社会としての日本の教育課題に迫っていただきたい。	
	「秩父」から学ぶ郷土学2	秩父に暮らし、秩父を深く見つけ、愛着を抱いている方々に講師をお願いし、それぞれの専門的立場から、「秩父の自然と風土」、「秩父の文芸・方言」についての講義と実地見学を行う。	複数教員共同担当
	文化人類学入門	「文化人類学」を初めて学ぶ人のための入門授業である。人々の暮らしや、それを取り巻く世界に対する人類学的視点、フィールドワークの手法などについて講義を行う。テキストは指定せず、随時必要な資料を配付する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(共通科目 人文系)	織田信長と本能寺の変	織田信長が天下統一事業の途中で斃れた「本能寺の変」について、近年活発に議論されるようになった。明智光秀はなぜ謀叛を起こしたのか、黒幕はいるのか、などが議論の中心である。この授業では先入観を排して、出来る限り良質な史料に基づいて「本能寺の変」の実像に迫ってみたい。	
	「古事記」神話を読む	『古事記』三巻は、今日主に歴史書として扱われているが、上巻は全篇神話で成り立っている。その神話は、国家建国の由来が歌謡などを交えながら、きわめて立体的に構成されていて、いろいろな読み方が可能である。が、文脈の流れ自体は物語的で、文学として読んで十分楽しむことができる。身の周りの具体例を取り込みながら想像力を働かせ、現代的にも納得のいくように読んでみることにする。	
	芸能に映る「千葉」	千葉を舞台にした古典芸能を通して、この地域がどのように描かれてきたか考察します。具体的には『南総里見八犬伝』や『与話情浮名横櫛(よわなさけうきなよこぐし)』のような歌舞伎作品を中心にまなびますが、日本舞踊など周辺の芸能も含め、豊富な古典芸能の世界を紹介します。また、現在のポスターやパンフレットにあたる歌舞伎の番付、プロマイドにあたる錦絵などの資料も読み、歌舞伎研究の方法にもふれていきます。	
	教育問題の基礎理論	いま、子どもと教育をめぐる問題が、世界的規模において噴出しています。そういった問題のある局面を例にとり、それを広い視野から、客観的、理論的にとらえる力を養うことを目指します。子どもだけでなく大人も含めて、人間にとって教育とは何であるのか。それについて、教育の哲学・歴史・内容から、教育の方法・組織・行政にいたる諸領域の、研究成果を紹介することを通して、その基礎的知識にふれるようにはからいます。学習に必要な資料・参考文献等は開講時に指示します。	
	映画づくりの楽しさ	「日本映画の静かなる力と美しさ」藤沢周平原作の映画「蝉しぐれ」の脚本作りならびに監督をした経験を通して、映画づくりの楽しさをお話します。また、授業のなかでは、受講生の皆さんに、脚本をつくっていただき、発表していただくと考えています。日本映画には、数々の名作があります。そこには「静かなる力と美しさ」がたっぷり溢れています。日本映画の持つ本質を、皆さんとともに考え、大切に、さらなる発展のあり方を検討していきましょう。	
	デザインの基礎	デザインは、私たちの生活に潤いをもたらすものです。また、そのための作業は、主体的に、私たち一人ひとりができることであり、また、それをなすことによって、自らの生活における喜びを享受することができます。この授業では、自らの手を動かして、デザインの基礎である「観察力」「描写力」「創作力」を培うことを目的とした演習・実習を行います。この授業を通じて制作された作品は、千葉学習センターの各所に展示します。	複数教員共同担当
	世界の都市の住居	都市は、記念的な大建築になるだけでなく、市民が毎日暮らす住居の集合になってつくられている。従って美しい都市は、必ず、美しい都市住居の「型」を持っている。そのことを古今東西の美しい都市をスライドで見ながら、考えてみよう。	
	演劇入門 8	この授業は「演劇入門('06)」との関連をたもちながら、さらに学生の皆さんがみずから演劇の鑑賞やその体系的理解・研究へと進まれるための考え方、方法論を学んでもらうものです。日本の伝統演劇や近・現代演劇、ミュージカルなどのなかから具体的なジャンルを学期ごとにつづつ取り上げて、それぞれの舞台芸術としての特質や広く文化との関係を考えてゆきます。	複数教員共同担当
	言葉の楽しみ、創作の喜び	私たちが毎日、なにげなく使っている日本語という言語は、実に奥深く、そしてさまざまな可能性に満ちあふれています。回文、アナグラム、折句といった言葉遊びに挑戦してみたり、心に響く詩を書いてみたり、あるいは作詞を試みたり・・・日本語を最大限に活用しながら、創作の喜びを味わってほしいと思います。	
	東アジア、半島と列島の人類学	本講義では、東アジアにおける人と文化の移動に着目し、近代の同時代的問題を抱えつつ、日本と複雑な相互関係を持ってきた韓国の社会と文化について文化人類学の視点から講義を行う。講義では、日本の植民地支配がもたらした相互の接触を契機として一部の支配層(両班)の文化が「民衆化」する過程を追う。ついで、解放後の韓国社会が植民地経験を媒介とし、日本を意識しながら民族国民文化が「創造」される過程を解読する。そして、今日のグローバル化の動きにさらされた韓国社会が直面する多文化状況の問題を日本と比較検討する。	
現代人のための哲学	人はつじつまの合わないことを言うと非難されます。それほどに私たちはふつう理屈や道理に信頼を置いています。哲学とは要するにこの信頼の別名にほかなりません。だから、大なり小なりすべての事柄に哲学はあります。古来から哲学は病気にも喩えられてきました。“考えるな”という否定の命令は無意味です。一切を失ってでも、なぜなのかと問い続けてしまうのが人間の悲しい運命だから。その典型はオイディプス王です。今回の授業は「平和」をテーマにします。敵視する相手から身を守って得られるような“平和”は本当に平和と言えるでしょうか。国家の軍隊と人民の武装組織とは同じものでしょうか。これらの問(改行)いを、カントの平和論に立ち戻って考えます。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(共通科目 人文系)	文章心理学「再」入門3	前年度は(1)芥川、(2)太宰を中心にとりあげましたが、今学期は夏目漱石を分析の主対象とし、外などを横目でらむこととします。漱石については精神分析の立場から主要作品を解釈する研究(土居健郎『漱石文学における『甘え』の研究』)をはじめ、多くの優れた論考がありますが、ここでは日本語文の「客観的な」研究を先駆的に試みた波多野完治『文章心理学入門』を念頭におきつつ、漱石の主要作品をとりあげます。	
	近世日本の出版と文学	日本は近世の幕開けとともに出版が始まったことにより、人々が均一な情報を広く獲得できる社会になる。このことは文学環境へも大きな影響を及ぼしていく。人々は出版によって普及する情報や文学作品を読むことによって自分以外の人間の人生を対象化してとらえたり、生き方の選択をしたりするようになるのである。本講は日本の社会における出版の開始が文学に及ぼした影響に注目し、その観点において文学作品がどのような展開をみせるのか、具体的な作品をいくつか読みながら変遷を辿ることで、受講者とともに近世の文学について考察してみようとするものである。作品としては仮名草子、浮世草子、浄瑠璃あるいは読本等を予定している。	
	家族の人類学	今日、親殺し・子殺しが普通の家庭で生じていると報じられる。しかし、普通の家庭や家族というものは果たして存在するのだろうか。そもそも、家族とは何か。このような問いに対する答えを導くために、この授業では、文化人類学者が明らかにしてきた日本を含む世界各地の家族や親族の形態に焦点を当てる。それらがどのような人と人のつながりによって成立しているのかを、生殖、ジェンダー、婚姻の諸相に着目する中で見ていき、日本の家族像の相対化を図る。	
	源氏物語の世界	源氏物語の中から、いくつかの場面を抄出して鑑賞。やさしく、楽しく作品を読みながら、平安文学の世界に触れてください。	
	良寛 その禅の世界	良寛には「法華賛」という作品がある。これは『法華経』の内容を賛美したもので、全部で102首の偈(仏教や禅の教えを説き示した漢詩)によって構成されている。良寛の生き方の核心を探るには最も重要なものと考えられる。この授業では、「法華賛」のうちの幾首かを読み解きながら、禅者としての良寛の“本来の面目”にできるかぎり近づきたい。	
	倫理学への招待	倫理学の根本問題を、分かり易く、日常の事例に即して明らかにすることを通して、無自覚的に過ごしていた日常生活に対して、改めてその意味や真相などを自覚的に考え直すきっかけにしたいと思えます。また今日の生命倫理の問題と重ね合わせて、臨床での倫理の問題をどう考えるか、私たちなりの視座を持てるようにしたいと思えます。時に、演劇台本風のプリントを用いて、楽しく双方向的な授業にして行ければと願っています。	
	音楽の癒しのちから	音楽療法という言葉聞いたことのある方は多いかもしれません。しかし、音楽がなぜ、どのようにして心身の不調や障害を改善し、癒すことができるのかについて知っている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、音楽が人の心やからだに及ぼす影響について、科学的・実証的な研究例を紹介するとともに、ときにはCDなどで音楽を聴き、ときには受講生の皆さんにも簡単な歌や合奏に加わっていただきながら、音楽が人を癒す力について、広く深く考えてみたいと思えます。	
	心理学実験1	心のはたらきを科学的な方法によって解明しようとしているのが、現代の心理学です。そのための有力な方法が実験です。本講義では、心理学実験法の基礎を学ぶことを主目的とし、実習を中心に授業を進めます。講師の指導のもとで、受講者自身が心理学実験を実施し、得られたデータを統計法により分析処理します。その結果を実験報告書にまとめる課題も与えられます。ミューラー・リヤー錯視、鏡像描写、性格の認知などのテーマを取り上げます。	
	死生学入門	古来人類は死に対して不安や恐怖を抱いてきた。しかしその不安の静め方は、「メント・モリ」のように間断なく死を考える、という場合もあれば、逆に死を忘却することにより静めようとする場合もある。またそもそも死の不安といっても、死後の世界への不安なのか、死にゆく過程で生じる苦痛への不安なのか、で異なるだろう。さらにその不安が、死後の世界への不安でもなく、苦痛への不安でもない場合、その場合の死の不安とは、生の意味への懐疑に由来するであろう。死を考えることは、かくて生を考えることである。	
	19世紀フランス美術	クールベ、マネ、ドガ、モネ、ルノワール、セザンヌ、ゴーギャン、ゴッホ、ロートレック・・・日本で人気のある画家たちの大半は19世紀フランスで活躍した人たちです。彼らは産業化してゆく近代社会の中で時代を映し出す作品を生み出しました。彼らが美術史の文脈で果たした役割・意義はどのように評価されるのか、基本的な知識を押さえながら、一緒に考えてみましょう。	
	古代史から現代日本を考える	古代は、現代とは無縁なものと考えられがちであるが、「歴史」の始まりを扱う古代史には、実は、現代社会と密接に関連する論点も少なくない。本講義では、日本古代史についての以下のテーマを中心に、古代史への認識が、現代を生きる私たちにとってどのような意味を持つかを考えてみたい。なお受講者は、可能な限り、上記の参考書をあらかじめ読んでおくことが望ましい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(共通科目 人文系)	歴史学概論	みなさんが高等学校で学んできた歴史は、日本や世界が歴史と共にいかに変化してきたかを暗記する教科であった。しかし、衣食住のように、歴史には五百年・千年とほとんど変化しないものがあり、むしろ変化しないもののほうが多い。この講義ではその代表格である食物をテーマにして、ビデオ映像を使いながら、変化しない歴史を紹介する。その後で、変化する歴史と変化しない歴史の対比を通して、歴史とは何かを考察したい。	
	日本語表現	日本語を次の5つの観点から考察しながら日本語表現の基礎作りをする。(1)日本語の文字表記のルール (2)語種、語彙とその体系 (3)敬語 (4)書きことばと話しことば 言文一致の歴史 (5)日本語表現の一側面としての書く力をどうやって伸ばすかについての方法論を探る。	
	デッサンの理論・表現・鑑賞	日常において目にするものすべてが、美術表現のモチーフとなることを体験する。また、単にモチーフを描き写すのではなく、対象から感じ取ったイメージを展開し、どのような手段で表出するかということも考えていく。授業では、デッサンの理論を論述し、それを参考にデッサンを行う。さらに出来上がったデッサンを受講者全員で鑑賞し、個々の感性と表現の違いを考える。	
	日本の古典芸能を読む	能・狂言の台本を、舞台で演じられることを念頭におきつつ、文学作品として読む。能は世阿弥の代表作である 高砂 井筒、狂言は 武悪 を取り上げ、素材となった古典からの形成のされ方を見た上で、その達成・意義などについて考える。	
	自然・文化と生活空間の仕組み	日頃あまり意識してはいませんが、私たちの日常生活はある限られた範囲の中でいとなまれています。勤めに毎日出かけ、買い物をし、子供を育て、衣料をはじめ様々な公共サービスを受ける広さは範囲が決まっています。暮らしの空間の仕組みと、自然環境や文化的伝統がどう対応しているのかを、地図を使って考察してみましょう。	
	文学・翻訳・映画	バルザック『ランジェ公爵夫人』とメリメ『カルメン』をとりあげます。19世紀フランスという時代背景や、作家の人物像を知ることによって、作品の理解は深まります。徹底してテキストの細部にこだわることも大切です。翻訳とは作品の解釈でもあるのです。出席者の感想も聞きながら、批評の方法を踏まえた小説の読み方、楽しみ方を実践してみましょう。(改行)巨匠ジャック・リヴェットの映画『ランジェ公爵夫人』も検討の素材とします。	
	消費者法入門	悪質商法及び多重債務問題を素材として消費者法の入門的な知識を紹介する。具体的には、1)契約に関わる「民法」の諸規定を概観した上で、2)「消費者契約法」の意義、3)「特定商取引法」による規制、4)「割賦販売法」と抗弁の接続、5)「利息制限法」など金利をめぐる諸法令を解説する。受講に際しては、できれば、1)~5)に記した法律の掲載された六法を用意されたい。	
	ベンヤミンと歴史の問題	歴史教科書における日本の侵略戦争の実態、加害責任の記述をめぐって、論争が起こりました。このことは、歴史をいかに記述するか、次世代にいかなる知識・経験を伝えるかという問題に加えて、歴史をどのように考えるかという課題に結びついているだろう。このような歴史の問題について、ベンヤミンの「歴史哲学テーゼ(歴史の概念)」については興味深い見解を提示しています。上記のテキストによりながら、授業を進めます。	
	宗教思想入門	現代日本人は、各種統計から見ても世界でも珍しい程、宗教に関して無関心である。しかしグローバルな時代において、さまざまな宗教の基本的な教義や儀礼について知らないでは、十分な異文化理解は不可能である。信仰の自由と接触しない、あいまでも基礎的な素養として、仏教、キリスト教、イスラム教などについて学ぶと共に、宗教を支える論理や社会などについて考察する。	
	都市空間論	都市の存立基盤は周辺地域に対する中心地としての役割である。そのため、都市には多種多様な機関や人々が集まり、お互いに空間を占拠して活動を行っている。本授業では、1)都市・都市化とは、2)都市の空間的広がり、3)都市空間の分化の要因、4)都市空間構造理論、5)因子生態分析と実際の住民の住み分け、6)自然災害と住民の住み分け、について講義する。	
	江戸時代の街道と地域社会3	江戸時代には、娯楽を目的とした旅は認められなかったため、多くの人びとは寺社参詣を名目に旅立ちました。その中心となったのが伊勢参宮です。旅人たちは寺社参詣をしつつも、宿で普段は食べられない食事を楽しみ、名所を巡り、詩歌を詠み、芝居や祭礼を見物しました。旅人相手の遊郭や賭場も、街道沿いには密かに発達したようです。当時の旅の楽しみを、史料を用いて解説します。	
	三重の建築の歴史と文化	歴史的建築には文化、社会、産業や、関わった人々、これまでに経過してきた時間など、さまざまな物語が内包されています。三重の主要な歴史的建築物を取り上げて、そこに内包された物語を読み取り、地域と建築の関わりを考えていきます。	
ドイツの戦後責任、和解への道	19世紀後半に西洋に比べて遅れて成立した国民国家(ネーション・ステート)日本とドイツは様々な点で比較の対象となってきた。今回の講義では、第二次大戦後の両国を「戦後責任」と「歴史認識」、「ポスト・伝統的アイデンティティー」という観点から論じたい。講義の重点はドイツの戦後におく。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(人文系) 共通科目	陶芸入門	陶芸は土を素材とした焼成を伴う造形表現分野です。この授業では、受講者が素材である土の可塑性を理解し、基本的成形技法である「ひも作り」により成形を行い、「線刻による装飾」を施して円筒を完成させることを目標とします。ただし、日程の都合上、施釉と焼成は講師で行います。	
	都市の歴史地理	日本の都市の多くはその起源を城下町にもつ。旧城下町は都市の中心にあって、都市の顔として町の個性を印象づけるのみでなく、現代の都心の街路パターンや地域性に色濃く影響を与えている。そこで、城下町の街路パターンや地域性が出来る背景を、古代、中世都市の形態に探る。そして和歌山の城下町を主な教材として、現在に残る城下町の地域性と街路パターンを実地に見学しながら学ぶ。	
	国際交流入門	このコースでは国際交流の理論と実践を紹介する。学生は国際交流の目的、国際交流の主なタイプ(文化的、教育的、商業的、外交的など)、国際交流のレベル(個人、団体、国家)について学ぶ。また国際交流のケース・スタディ(歴史、フィクション、時事問題から)を取り上げ、国際交流プログラムに伴う諸問題を分析し、国際交流に成功するための要因(言語的、文化的、政治的など)を学ぶ。	
	心理学基礎実験	科学的アプローチをとる現代の心理学には実験が必要不可欠になります。この授業では、基本課題と考えられる興行知覚の手がかり、明るさの対比および遠近法錯視について実験を行っていただきます。そして実験的手法を理解していただきます。実験終了後、結果を整理・考察し、レポートにまとめていただきます。	
	中国仙人文化論	中国文化の表象の一つである仙人について、さまざまな面から考えていきます。そして、仙人文化を通して、中国文化(古代から隋唐あたり)の特質を見ていきます。	
	四国遍路と四国の人々	授業は次のトピックをあげる形で行います。1) 四国遍路のはじまり 2) 遍路の確立者「真念」 3) 遍路の納経帳 4) 幕末の遍路 5) 明治の遍路 6) 観光と遍路 7) お接待と遍路 8) 遍路道の景観	
	歌舞伎の歴史	平成17年世界無形遺産に指定された歌舞伎は400年にわたり愛されてきた芸能である。そもそも歌舞伎はどのように始まり、どのように変化し、定着したのか。江戸歌舞伎の歴史を追いながら、歌舞伎の特質について考える。	
	土佐日記を歩く	変体仮名で定家本『土佐日記』を読みます。『土佐日記』及び『土佐日記地理弁』を通して、土佐の歴史・地理・文化について学びます。また、紀貫之と鹿持雅澄についても理解を深めます。	
	弥生時代の青銅器とガラス	北部九州は、弥生文化発祥と同時に金属製品が流入することが知られている。まもなくガラス製品も流入することから、両者は弥生文化を華やかにしている。弥生中期になると朝鮮半島から青銅武器が流入するが、これを直ちに模倣・改良して量産している。中期後半には北部九州の王は中国の前漢鏡や鉄製武器を輸入し、政治権力を強固なものにしている。これらの青銅武器・ガラスの量産を通じて、弥生時代の政治権力構造を講義する。	
	風景について	「風景(景観)」について長い研究史を有する人文地理学を中心に隣接分野の成果もふくめて、次のような話題を取り上げ、「風景(景観)とは何にか」、「風景を研究することとは何か」等を(改行)問題にする予定である。1) 歴史と風景: フランス地理学派の農村景観研究とマルク・ブロックの農村史研究 2) 風土と風景: 和辻哲郎の風土とオギュスタン・ベルクの風土学 3) 旅と風景: 柳田國男の九州の旅と風景論 4) 風景論の昨今: 志賀重昂からコスグローブまで	
	近代欧米の美術・デザイン・建築	19世紀から20世紀初頭にかけて欧米に興った芸術・デザイン運動の思潮を紐解きながら、美術・デザイン・建築を鑑賞し、当時の社会的、経済的、文化的問題が作品においてどのように解決されたかを考察していきます。	
	漢文読解入門	中国の古文は日本では一般に「漢文」と呼ばれ、学校の授業や入試などで触れる機会が多いため、読める「つもり」になっている方が多いと思います。しかし果たして本当の意味で漢文が読めているのでしょうか。漢文は所謂「古代中国語」で書かれた外国文学であるということを忘れてしまっていないでしょうか。(改行) この授業では中国古典文学を学ぶために必要な読解技術や基礎知識を修得し、漢詩漢文に親しむ力を養うことを目標とします。	
	考古学	考古学から見た中世都市と交易発掘調査によって明らかになりつつある豊後府内を中心に、文献・絵図等を援用してその構造・変遷を講義する。さらに、その領主居館についても屏風絵・文献を援用して様相・変遷を講義する。また、中世都市(遺跡)から出土する外国産陶磁器(貿易陶磁器)についてもふれ、交易の一端を講義する。以上の講義によって、考古学による歴史研究の方法論を理解させる。	
異文化間コミュニケーション	私達は社会の中で育つ過程で、どのような相手に対してはどのようにコミュニケーションをとるべきかを教わり、それを「然るべきやり方」として身につける。異なった文化背景を持つ者とのやりとりは自分が今まで無意識のうちに前提にしていた「然るべきやり方」を意識化する機会ともなる。日本の社会では伝統的にどのようなことが「然るべきやり方」とされていたのか、それらは今でも続いているのかを、主に日米比較を通じて考える		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(人文系) 共通科目	詭弁・パラドックス・推論	詭弁やパラドックスを通して論理について学びます。詭弁とは、「彼の発言の動機は私利私欲だから彼の発言内容は偽だ」などの一見もっともらしいが実は誤っている推論です。パラドックスとは、結論は偽だが、どこが誤っているか容易に見抜けない推論です。例えば、「不意打ち試験は不可能だ。なぜなら、最終日は(前の日にばれるから)実施できない。すると、最後から2日目も実施できない。以下同様」という推論です。	
	南九州に栄えた縄文文化	日本列島の縄文文化は、これまで関東地方などの研究の進んだ東日本の縄文文化を中心に「東高西低」の文化といわれてきた。しかし、昨今の南九州の調査成果では、初期の縄文文化は南九州が日本列島に先駆けて発達していることが解り、草創期から早期は「西高東低」の文化であることが判明した。つまり、南九州の縄文世界は、縄文文化観の転換に迫る様相を呈している。	
	戦後沖縄の異文化接触	1945年以降の沖縄の歴史は異文化接触の歴史であった。アメリカ文化と沖縄・日本文化が接触することで、衣食住を中心として文化の混交が行われ、わたしたちはハイブリッドな文化を生きるようになった。このように、文化が出会う場所をコンタクトゾーンと呼ぶが、沖縄はまさに文化が濃密に接触する稀有なコンタクトゾーンとなった。それでは、具体的にはどのような現象が生じたのであろうか。授業では、音楽、映画、文学、言語、衣食住など、異なる文化が出会うことで生成された新しい文化の姿について、受講生の体験も交えながらディスカッションしてみたい。	
	源氏物語の読者たち	2008年は「源氏物語千年紀」とされたが、換言すれば『源氏物語』は千年の間読まれ続けて来たことになる。現在『源氏物語』が日本を代表する古典と考えられているのは、千年の間愛読して来た読者たちの力が大きい。本授業では、『源氏物語』そのものを読むとともに、これまでの読者たちがこの物語から何を読んで来て、それが日本の文化にどのような影響を与えたかを概説する。	
	子ども中心主義の教育の歴史	子ども中心主義の教育は、20世紀初頭に「新教育」ということで、ジョン・デューイやエレン・ケイの思想に影響を受けながら、欧米を中心に国際的な広がりをみせた。この子ども中心主義の新教育の歴史を概観するとともに、大正期や昭和20年代前半のわが国への影響について、および、現代の教育理論と実践への影響と発展について考える。また、わが国での教育実践例についても紹介しながら、その課題についても考えたい。	
	認知心理学実験・実習	認知心理学における研究知見を、具体的な実験を通じて学習することを目的とします。予定している実験メニューは、残像の観察、認知的葛藤、心的回転、想起の構成化過程の4つです。2人あるいは数人で一組になって実験を経験するなかで、認知心理学における研究手続きや手法、データ処理の仕方、レポートの書き方などを総合的に学習します。	
	人間と言語	言語の多面的・多層的な現象は、人間の多面的・多層的な存在にほとんど重なりあいながら、後者よりもはるかに明確な理解可能性をそなえています。そのような観点から、音素-記号素の二重分節、文の自由な開放構造、言葉に固有の諸機能とそれらにともなうメタ機能、喃語から思考にいたる発達過程など、人間理解につながる要目を紹介し、考察してみたいと思います。成績評価は、出席の状況を重視して行います。	
	宗教多元主義の思想と系譜	さまざまな宗教が互いに理解し合い、協調し合うにはどうすればよいか。この問いは今日もっとも重要で、その解答がもっとも緊急に求められているものです。1980年代以来、宗教多元主義を主張する宗教学者がこれに答えようとしてきています。それはどのような考えなのか。なにがそれを促したのか、その主張はどこまで有効なのか。このような点を代表的な学者の一人ジョン・ヒックを中心に考察します。成績評価は、出席とレポートで行います。	
	まちづくりと生涯学習	本講義では、地域社会の活性化にとって、地域文化を生涯学習に取り入れることの重要性について、全国各地の具体的な事例を通して考察する。祭礼行事や郷土芸能など、長年にわたり地域社会で継承されてきた伝統的な文化だけでなく、地域コミュニティ形成(「まちづくり」)のために新しく創造された文化をも視野に入れて、生涯学習の今日的課題について明らかにしたい。この機会に受講生の皆さんの身近な地域社会での文化体験や実践を交流することができればと思っています。	
	国語表現法(記述・筆記の分野)	国語表現法の筆記分野について講義する。文章とはどのようなものか、分種にはどのようなものがあるか等について例文を用いて解説し、文章産出の過程についても具体的に述べる。なお、実作体験や話し合いも取り入れて進める。	
	フランス文化への旅	本講義での副題を「旅するフランス：パリからノルマンディーへ」と言います。「旅」をテーマに、19世紀から20世紀にかけてのフランスをヴァーチャルに旅行することを通じて、ツーリズムの誕生、観光都市パリの発達、レジャーの普及と海浜リゾートの開発といったことがらを論じます。それによって近代市民社会の発展における自然観や人間観の変化の一端をかいま見ることができましょう。	
	源氏物語の世界」	源氏物語の中から、いくつかの場面を抄出して鑑賞。やさしく、楽しく作品を読みながら、平安文学の世界に触れてください。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(共通科目) (人文系)	子どもの発達と健康	我が国の乳児死亡率は欧米諸国と比較して低率であり、保健水準は世界でもトップクラスといえる。一方で子ども虐待に関する相談件数は年々増加傾向にあり、検討課題の1つとなっている。子どもの成長発達や健康は、子どもを取り巻く環境要因に影響されるが、特に、乳幼児期の子どもの成長発達と、子どもの健康を促進する要因や阻害する要因について探求する。	
	現代日本の教育事情	1, 競争社会が跋扈する現代社会の中で、学校・子供・教師はどのような現状にあるか 2, 戦後の我が国の社会と教育はどのように変化してきたか 3, 「教育再生会議」などの教育改革の内容は何か、またあるべき方向性は何か	
	食生活と家族の健康	人は、食物を食べることにより命をつないでいます。食べることは、単に栄養素を摂取することだけでなく、心身の順調な発育・発達や成熟を促し、健康な生活を営むための基礎となります。また、人はそれぞれのライフステージにおいて、栄養や食生活の特性が異なります。これら食の視点から、地域や環境との関係にも配慮し、家族の健康と望ましい食生活のあり方を模索します。	
	デザインの楽しみ	「言葉や事象を色彩で表わす」社会現象等も細かい要素ごとに色彩で表現すると、各々全く異なる「個人的な感覚」が浮き上がります。事象を色に変換することで自分の「色彩世界」「新しい表現」が見つかると思います。「シンボルマーク・ロゴの威力」ロゴは、「シャツやパッケージ、広告などに使われていて、私たちが目にしない日はないでしょう。シンボルマークやロゴは、なぜこのように多用されているのか学びます。実習としてロゴデザインをします。	
	地図にみる千葉県の姿	千葉県は、戦後の都市化や工業化を中心として日本の中で最も急速に変化してきた地域の一つであり、現在では首都機能の一部を担うまでに成長した。しかし一方で、千葉県は、日本有数の農業大国でもあり、多様な様相をもっている。本講義は、千葉県の地域変容と現状について、地図情報を中心として地誌的に考察することを目的としている。	
	日本の工芸文化を考える	日本各地には、地域の風土と対応して花開き継承されてきた数々の伝統工芸品があります。この授業では、それらの特質や今日抱えている諸問題・展望などを考えます。なお、池袋にある日本伝統的工芸品センターへ出向いての見学・授業を含みます。	複数教員共同担当
	演劇入門9	この授業は「演劇入門('06)」との関連をたもちながら、さらに学生の方々がみずから演劇の鑑賞やその体系的な理解・研究へと進めるための考え方、方法論を学んでもらうものです。日本の伝統演劇や近・現代演劇、ミュージカルなどのなかから具体的なジャンルを学期ごとに一つずつ取り上げて、それぞれの舞台芸術としての特質や広く文化との関係を考えてゆきます。	複数教員共同担当
	教育の方法	教育の「方法」は、ペペロンチーノの作り方というような場合の調理の「方法」とは意味を異にする。講義の最初に、どのように違うのかを十分に議論したい。そして、欧米における教授理論の歴史的展開と日本における授業改革の流れを概観し、次に、教育の実践に必要な基礎的理論を学習し、その理論を踏まえて、現実の授業実態や最近の教育方法・技術の特質を探っていききたい。	
	ワインを学ぶ	ワインが人を惹きつける理由は、その素晴らしい風味だけではなく、知的好奇心をくすぐるにもあるのではないのでしょうか。ワインは、ヨーロッパの文化と密接にかかわってきた歴史を持っています。また産地や醸造家の違いによって風味が変わることを知れば、地理や醸造法への興味も沸いてきます。本講義では、ワインにまつわる様々な事柄を学び、その魅力を多角的に探っていきます。	
	倫理学の諸問題	「善悪」について。さまざまな思想家の言説を紹介し、それを手がかりに現代の諸問題を受講者とともに考えたい。「人間の本性は善である。」「結果よければすべて善し。」「目的は手段を正当化する。」「無条件に善いと言えるのは善意のみ。」「善悪は社会的に定まるのであって相対的なものにすぎない。」といった考え方について、具体的な場面で論議する。	
	文章心理学「再」入門4	薄倅の「女士」樋口一葉(1872～1896)の小説や日記を分析の主対象とし、幸田露伴や長谷川時雨などにもふれる予定です。「再」入門を称するのは、主に20世紀の日本語文について「客観的な」研究を試みた波多野完治『文章心理学入門』に敬意を表しつつ、統計学的分析などをより精密にしようという意図からですが、一葉は口語文がまだ完全に定着しない19世紀の人、この講義シリーズもこれで打ち止めにしようと思います。	
沖縄と東京圏の食文化と健康	沖縄は日本の未来を映す鏡だと言われる。東京・神奈川の住民を対象に行った沖縄野菜料理の介入研究の結果を交えながら、日本全体の平均的集団である東京圏住民と沖縄とを比較することにより、日本人の健康と食事のあり方について公衆衛生学や社会経済学の側面から考えてみる。講義形式はインターネットを活用して、神奈川および沖縄学習センター間で双方向性を保ち、また教員と学生との質疑・応答を交えながら行う。沖縄食の試食も試みたい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(共通科目 人文系)	愛と憎の哲学的人間学	人はなぜ愛するのか、愛するとはどういうことかを、西洋の思索を手がかりに考えたい。(改行)ソクラテス、プラトン、アリストテレスから始まり、キルケゴール、サルトル、ヤスパース、シェラーまでを概観しながら、人はなぜ愛するのかを、そしてそれと共に、人はなぜ憎しみあうのかも考えたい。「愛するとは、相手の身体をではなく、意識を虜にしようとするもの。それはなぜか」。	
	日本語の歴史	漢字が伝来して初めて日本語を文字で表記できるようになったのだが、そのころの日本語はどんなだったのか。『万葉集』『古事記』『日本書紀』などを読み、音声・音韻・文法などについて考える。平安時代になると平仮名・片仮名ができ、音韻・文法などにも大きな変化が起こる。鎌倉・室町時代、江戸時代にも日本語は大きく変わる。日本語の歴史を文字・音声・音韻・語彙・文法などの変化の側面から資料を読みつつ概説する。	
	日本語の今と昔を観察する	言語を観察するには、直接観察する方法と、変化した過程から観察する方法がある。そこで、この2つの方法を同時に学習する機会にし、言語観察の基礎を広く学習してほしい。なお、「昔」は100年前もまた1000年前も含めるが、古文が苦手でもまったく支障のないよう配慮する。	
	癒しの音楽	音楽が、唄われ・演奏され・聴かれ・使われてきたという事実を踏まえ、セレクトした音楽がどのような点において我々の感性に訴えているのかをCDを聴いたり打楽器にチャレンジすることに依って分析する。そして、人の心や気持ちにどう働きかけ、癒しの効果があるのかを実感する。	
	“Jim Crow”とアメリカ	アメリカ国会図書館の資料を使って、いわゆる“Jim Crow Laws”の時代を60年代公民権運動までたどる。同時にこの時代に活躍した黒人作家の文章を検証することによって、アメリカの黒人たちがどのように「法のもとでの不平等」を克服しようとしたかを概観する。	
	名言・名詩に学ぶ	鍵山秀三郎、小林秀雄、宮本武蔵等の名言、宮沢賢治、星野富弘、茨木のり子等の名詩を取り上げ、受講者とともに朗読したり、各人物についてビデオや資料を使って簡単に紹介したりしながら、理解を深める。また、受講者全員でディスカッションをして、名言・詩・人物についての解釈をより正確な、陰影のあるものにする。	
	動物神話と因幡のシロウサギ神話	世界の国には動物に係わる神話が数多く伝承されている。ヨーロッパやアジアの神話と因幡のシロウサギ神話の比較をする。(改行)小グループに分かれて、議論・発表をしてまとめる。1)概要とヨーロッパの話2)フランス・イギリスの話(改行)3)東南アジアや中国の話4)日本の神話 小グループで討論5)因幡のシロウサギ神話6)因幡の神話と伝承話7)小グループで討論、発表準備8)各グループの発表と討論、全体のまとめ	
	国語学	「国語学」は、母語としての日本語を研究する学問であり、そのごく初歩的な事項を扱います。放送授業「日本語学～母語のすがたと歴史～('08)」に対応した内容を共通科目として再構成して扱います。放送授業の既修・未修は問いません。日本語にはどのような特色があり、どのような手法によって分析・研究できるのかを、主に「音」、「語彙」、「文法」などを例に挙げて、ごく簡単な手がかりから概説していきます。	
	古代西海道と西国街道	人の歩くところに道はできるといいますが、そのような人びとの日常生活のなかから自然発生的に形成された道路とは別に、人びとの日常生活を超える目的から整備される道路もあります。現代の日本列島に張りめぐらされようとしている高速道路はその典型ですが、日本最初の国家である律令国家の成立とともに整備された道路網も、後者の側面がつよいものでした。こうした古代の道路の特質を古代山陽道を中心に検討するとともに、古代山陽道と江戸時代の(改行)西国街道を比較しながら、道路の歴史を考えます。	
	歴史は生きている	今日、私たちを取り巻く社会環境は急激に変化している。それに伴い、社会保障、地方の活性化、環境、人権、教育など幅広い分野で改革が求められている。他方、徳島県は豊かな自然、風土に恵まれ、人のぬくもりが強い地域性を持つ中で特色ある歴史文化が育まれ、受け継がれてきた。これらの問題点を、本県の歴史文化を学ぶことを通して「歴史とは何か」「生きるとは何か」など、深い洞察力を養うことで問題解決の一助としたい。	
	哲学の歴史	そもそも「哲学」とはどのような学問であるか、また自然科学とどのように異なり、他の諸学問とどのような関係にあるのか。まずは、この問いを哲学の古代ギリシアにおける端緒のあり方から理解する。次に、それをもとに中世、近代の哲学において取り上げられる諸問題を問題史的に考察する。最後に、さらに残された問題に触れるとともに、哲学という学問と哲学的に思惟することが現代社会の諸問題に対して持つ意義を考察する。	
芥川龍之介の短編小説を読む	芥川龍之介の「羅生門」、「鼻」、「奉教人の死」、「地獄変」、「蜘蛛の糸」、「南京の基督」、「舞踏会」などの短編小説を読む。先行の研究を踏まえながら、高校までの授業で習った読み方とは異なる新しい読み方を試みる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(人文系)	ナショナリズムと国民国家	グローバル化が進行する中で、従前、自明視されてきたNation(国民や民族)の成立に関して、近代の構築物としてその人工性、虚構性が強調する近代主義の立場と、古代よりの歴史的形を説く歴史主義の立場とに分かれている。本講義ではNationの成立に関する諸学説を紹介したあとに、日本列島に居住する人口集団について具体的に検討する。	
	西欧思想における人間観	自然科学は16世紀の科学革命以降、大きな発展をとげて今日に至っているが、他方、人間観については、古典ギリシアのアリストテレスに代表される見解と近世のカントの見解が基本的骨格を定めているといえる。講義では、アリストテレスの見解とカントの見解を対比しつつ紹介すると共に、20世紀半ば以降の言語の研究と人間科学の成果を通して、今日の間観を考えてみたい。	
	戦争を表現する文学	小説や詩、絵画や映画によって戦争は多様に表現されてきました。ここでは、<表現>するという行為にともなう問題をいかに乗り越えるか、またはそれを逆手にとっていかに利用するか、表現者たちの試行錯誤が繰り返されます。私たちの日常生活でもしばしば起こるこの<表現>にともなう問題を考えながら、様々な文学作品や映画を「読解」します。	
	市民のための生命倫理	近年の生命科学あるいは医学・医療の発達には目覚ましいものがあり、私たちの人生や生活に大きな影響を及ぼしつつあります。私たちは、自由で平等な近代市民社会の一員であるという自覚を持って、この問題を考えていかなければなりません。それは、私たちの生老病死あるいは「いのち」の問題をどのように倫理するかということなのです。	
	ハーンと漱石の遺産	日本の西洋化・近代化の中で果たしたラフカディオ・ハーン(小泉八雲)と夏目漱石について、その生涯と具体的な作品の読みを通して彼らが現代の私たちに遺してくれた知的遺産について考察してみたい。ハーンと漱石の思いがけぬ類似点と関係についても触れる予定である。	
	スペインの歴史と音楽	16世紀カルロス1世とフェリペ2世の時代に黄金時代を迎えるスペインは、音楽においてもまたすぐれた成果を生み出しました。本講義では「黄金世紀」と呼ばれたこの時代の音楽を、その歴史をふまえながら、現存する音楽を通して学んでいきます。当時のスペイン音楽の世界への伝播についても触れます。	
	近代における日本とアジア	21世紀は“アジアの時代”と言われている。日本がこれからの国際社会でアジア諸国と協調しながら生きていくために、欧米だけでなくアジアにも関心を持って欲しい。したがってこの講義ではアジア各国の歴史・文化、今抱えている問題、日本との協力、協調のあり方などを考えて見たい。	
	音楽と自然	平成20年度は、「京都議定書元年」。地球温暖化や環境破壊の問題は今や地球規模の問大さで進んでいる。しかし、そうした問題解決の多くは、視覚的な点からのアプローチが多い。そこで、視点を変えて、聴覚の観点から、環境問題を考える方法はないかと考えている。この授業では、自然の音風景や、自然を題材にした音楽をとおして、環境問題を聴覚的にとらえる方策を探ることを目指している。	
	梶井基次郎の文学	梶井基次郎は昭和文学の古典としての位置を占めた文学者である。本講義では、梶井基次郎の生涯と文学の見取り図を押さえながら、代表作「檸檬」を初めとする梶井独自の作品を読むことにする。大正末年から昭和初年代の文学状況にも目配りしながら、梶井文学の意義を考察したい。	
日本の方言 09	日本の方言について概観し、なぜ、ことばの違いが生まれるか、標準語と方言、標準語と共通語、方言が形成されるプロセス、鹿児島方言の特徴などについて考えていきます。		
(一般科目・社会系)	仕事・所得と資産選択 (08)	会社に就職しまじめに働いていけば終身雇用が保証され年功序列型賃金体系のなかで給料は上がり、貯蓄をして、退職金をもらい年金を受給して・・・という時代はもはや終わった。今日では、主体的に仕事と所得を考え、資産を選択することの必要性がますます高まっている。本科目では、主体的に生活およびその経済的側面のありかたをデザインするてがかりを受講者が得るための、知識の提供と検討能力の育成を行うことを目的とする。	
	現代世界の結婚と家族 (08)	先進国では、社会システムとしての結婚と家族の大きな変動が、その他の社会システムに大きな影響を及ぼし、人々の生活や人生の様相を変えつつある。晩婚化・同棲の一般化、婚外出産の増加、高い離婚率、出生率の低下、家族の脱制度化と個人化が進行し、いまや標準的な家族モデルは消失しつつあるといわれている。一方、経済発展の続くアジアの国々でも、結婚と家族の変容は顕著で、しかも変化のスピードは欧米諸国の経験より早い。そこで、この科目では、現代の結婚と家族の動向を比較文化の視点で見えていながら、社会タイプの違いを超えて共通する傾向と、独自の特徴を整理する。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（一般科目・社会系）	住まい学入門 （ 07 ）	はじめの5章で日本の伝統の住まいが確立した空間の構成原理を東アジアの中国、韓国のそれと比較し、わが国の住文化の特殊性を明らかにする。このような伝統をふまえた上で後半の10章で住居に関わる現代的な課題、中でも話題性が高い項目をトピックス的にとりあげ概観する。このような構成を通して日常生活において常に伝統を意識しながら現代の住居に高い関心を持って暮らす生活慣習を涵養したい。さらには住居に関連する専門科目や総合科目の履修への導きになることを期待する。	
	社会福祉入門 （ 08 ）	経済的貧困を救済することを主たる課題として発展してきた社会福祉は、21世紀に入り、それとは異なる社会生活上何らかの援助を必要とする人々の地域での自立生活を支援することを目的に、新たな理念、思想と社会福祉援助活動とが求められている。 人々の社会生活を安寧にするための方策としては、教育や住宅、雇用の保障に関する社会サービス、医療保険や年金等の社会保険もあるが、社会福祉はそれらの制度と密接な関わりももちつつ、それとは相対的に独立した、自立生活を送る上で困難を抱えている人々への対人援助を基軸とする援助活動であり、システムである社会福祉を学ぶ。	
	現代の生活問題 （ 07 ）	今日われわれが直面している生活問題は、21世紀にはいって突然引き起こされたわけではない。この講義では、これまでの日本の経験を振り返ることによって、現代の生活問題を3つの視点から考えてみたい。まず、最も伝統的な貧困問題の系譜を取り上げ、現代の貧困の特徴を明らかにする。次に、ごく普通の生活がどのような問題を抱えながら今日にいたっているのかを検討する。最後に、誕生から死にいたる生涯のいくつかの局面が、そのまま新たな生活課題となりつつある現状を展望する。	
	経済学入門 （ 08 ）	経済学は生まれて230年の比較的若い学問ですが、一方で社会科学の女王と呼ばれるほどの論理的厳密性を追究すると同時に、他方で実社会の問題解決という要請に応えようとしてきました。この講義では現代経済学の基本的な考え方と、その応用の仕方について考えてみましょう。	
	経済社会の考え方 （ 07 ）	経済社会は変化の激しい社会である。このような社会のなかで、人びとはどのような考えを持ち、これらの考え方をどのように使っているのだろうか。わたしたちの働く場で、生活する場で、さらには公共の場で日々変化し作用している経済学の考え方を集めて比較検討してみたい。なぜ働くのか、なぜ生産を行うのか、なぜ消費するのかなどのような、日常に存在する思想を振りかえり、将来の経済生活を考える礎を提供したい。	
	21世紀の社会学 （ 05 ）	社会学とはどのような学問なのかを知るために、自我・自己、都市、集団・組織、集合行動、ジェンダー、宗教、情報、災害、高齢者、病い、死などの新しい社会現象について具体的に考察し、そこから、21世紀の社会学の課題を明らかにして、社会学への理解を深めることを目的とする。	複数教員共同担当
	社会学入門 （ 10 ）	社会学は社会の中における現象について知的好奇心をもって探究する学問であり、これらの現象を科学的に説明しようとするものである。そのために社会学では、日常の行為、つまり主体によって意味づけられた行動を出発点として、世の中のしくみを解明し、そのしくみと行為の関連を説明しようとする。たとえば、社会的存在としての自分、他者との関係性、集団の形成プロセス、制度の生成メカニズムなどが重要なテーマとなる。	
	社会調査 （ 09 ）	現代社会を特徴づける人間活動の1つである社会調査について、その進め方（調査内容の決定、調査対象の決定、調査の実施方法、調査結果の分析方法とまとめ方）を知るとともに、その歴史と成果について学習する。個人が身の回りからさまざまな情報を得る場合と社会調査との違いに着目しながら、細かい技法よりも、基本的な考え方を修得することを目指す。	複数教員共同担当
	社会統計学 （ 07 ）	社会調査や実験から得られたデータをもとに、統計的分析を行なうための基礎を学ぶ。その際、因果推論の方法、すなわちクロス表分析、t検定、分散分析（F検定）および回帰分析による仮説検定を中心に講義をすすめる。そして、初等統計学の基礎知識に関する理解を十分深めた上で、実践的な分析技法にすすむ。また、講義のなかでは、実際の分析例を数多く紹介し、受講者には単に講義を聞くだけでなく、例題や練習問題を解くことを課す。	
	市民社会と法 （ 08 ）	「市民社会」という概念は、近代の世界の中で徐々に解釈されてきている。法の世界、法のあり方を理解する上でも、「市民社会」の概念は、一つの重要な役割を果たすものである。「市民社会」とは、自由で平等、独立の個人が相互に交流し、自分たちの社会のあり方を決めていく社会であると考えられる。市民社会の概念をそのように位置づけたうえで、現代における社会と法のあり方について、一般的な問題から、具体的な問題まで多様にとりあげて、考察する。	
日本国憲法 （ 05 ）	比較憲法史や憲法の一般理論などの成果を踏まえつつ（1～3）、現行の日本国憲法が定めている統治構造（4～9）と権利保障（10～15）について、主要な論点を取り上げながら検討を加えることを通して、憲法に対する理解をより深めることができるよう努めたい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（一般科目・社会系）	政治学入門 （ 07 ）	「政治」を理解するうえで不可欠の、基本的な政治学的概念や理論について紹介することにした。特に、政治における重要なテーマである「民主主義」を軸にしながら、政治思想における重要な概念や民主政治を支える様々な制度、マスメディアや利益団体といった中間集団、選挙制度と投票参加・投票行動について説明していきたい。	複数教員共同担当
	経営学入門 （ 07 ）	経営学入門として、経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。企業はヒト・モノ・カネ・情報から成り立っている。従って、これらの経営要素を組み合わせる仕組みとしての株式会社制度や組織、もの作りの仕組みとしての生産システム、ヒトを動かす仕組みとしての人事労務管理、カネの動きを統制する財務管理、社会における企業の新しい役割などを企業経営の視点から学習することを目指している。	複数教員共同担当
	グローバル経営戦略 （ 06 ）	グローバル企業とは国境にとらわれず世界を単一の市場と考え、グローバル市場地位の持続的維持を目指す企業である。このためにグローバル企業は最も有利な条件を提供する市場で販売、生産、研究開発などに必要な経営資源を活用する。この講義では日本の視点からグローバル企業としての基本的戦略とその周辺領域を考察する。現在及び将来国際経営に従事しないし従事したいと考える受講生のために、できるだけ実務に適用できる具体的指針を日本企業、米欧アジア企業の実例に基づき提供する。	
	現代の会計 （ 08 ）	会計上のトピックスが一般紙にもしばしば登場してくる。会計および監査が今日ほど社会の注目を受けることはかつてなく、会計制度の大変革いわゆる「会計ビッグバン」が社会経済に大きなインパクトを与えている。この大きく変容する現代の会計を読み解くため、「歴史」、「理論」、「社会」の3つの視軸をとおして講義を進める。	複数教員共同担当
	多様化時代の労働 （ 10 ）	従来、ほとんどの組織は、日本人男性、正規雇用者の人事管理を重視してきた。しかし現代では、女性の社会進出が進み、男性とは異なるライフ・サイクルを持つ女性の雇用管理に注意を払うことが必須となってきた。 また、雇用形態の多様化も進み、パート、派遣、契約社員のような非正規雇用数が上昇している。 さらに、海外進出した企業のみならず、国内の企業でも外国人（研修生、日系人）を雇用する機会が増大した。 この授業では多様な人材活用（ダイバーシティ・マネジメント）について学習する。	複数教員共同担当
	技術者倫理 （ 09 ）	科学技術は、新しい「価値」を生み、社会と環境に大きな影響を与えます。それゆえ、技術を実践する「行為者」である技術者は社会に対して特別の責任を負っています。本科目では、技術者がその職務を遂行する上で、必要な新しい「倫理」について考察します。技術者が直面する可能性のある種々の倫理的問題を、スペースシャトルチャレンジャー号事故などの具体的な事例を通して紹介します。また、それらの問題を分析し、倫理的に推論する方法について学びます。特に、技術者が重視すべき「価値」（安全など）を、学協会の倫理綱領を通して検討します。これらの学習を踏まえ、21世紀の技術者に求められる倫理的な判断能力について考えます。	
	社会と知的財産 （ 08 ）	21世紀の情報社会（知識社会）における「知的財産」の意味を考え、工業社会とは異なる各産業や経営モデルにおける「知的財産」の現状と課題を概観する。また「創造」「保護」「活用」からなる知的創造サイクルを早く・大きく・強く回すための知財マネジメントのポイントを理解する。ただし、ここでいう知的財産とは、特許権、実用新案権、意匠権、商標権などの「産業財産権」を中心とするが、著作権、育成者権、不正競争防止法に基づく権利なども含む。	複数教員共同担当
共通科目（社会系）	経済社会の考え方	今回の講義では、経済社会の中でも最も典型的な経済システムである「築地魚市場」を取り上げて、その取引のあり方を見ながら、市場システムと統治（ガバナンス）について、一緒に考えていく。わたしたちの食卓に並ぶ魚は、どのような経済取引を経ているのだろうか。経済人類学T・ベスター著『築地』の要点を素材にし、みんなで読みながら、魚をめぐる経済のあり方を考え、経済的な現実を料理していくことにする。	
	幕末日本と欧米世界	近年、徳川時代から明治維新にかけての幕末期について、大きな研究の見直しが進んでいます。アメリカ合衆国の西部開拓、太平洋進出との関係、南下するロシアとの関係、英国の東アジア進出など、国際的な環境の変化も大きく関与しており、従来の「勝者」の側からの見方にも修正を迫られております。1840年代から60年代にかけてのグローバルな関係性に視点を合わせて、この時代を考察し、新たな歴史像を構築します。	
	都市と貧困を考える	本授業では、現代社会における貧困や社会的排除の現状と取り組みについて、日本の東京やフィリピンのマニラ、イギリスのロンドンなど、世界の大都市の事例をあげながら、考察します。都市社会学をベースにした都市と貧困の議論を、写真やビデオも用いて、分かりやすく解説する予定です。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(社会系) 共通科目	会社の仕組みと会社法	この講義は「会社」について規定している会社法を解説します。日常生活を送る中で、電化製品や食料品の購入など、会社と多くの接点を持っているにも関わらず、実はよく会社の法的ルールを知らない、という人がほとんどであると思います。そこで、会社法の条文や実際の事例等を紹介しながら、会社法の全体像の理解を図り、もって会社の果たす法的・経済的な機能を紹介します。	
	人口減少社会の生活像	現代の社会変動は、人々の生涯、地域社会、仕事の世界を大きく変えつつあります。なかでも人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会から定常型社会への転換は、これまでとは異なるインパクトを与えます。その実態をいくつかの切り口からみていきます。これからの暮らしと社会のあり方を考える授業にしたいと思います。	
	地域の産業と労働	アメリカ経営学の基本的な事項を学習した後、地域の産業の特長について学習する。また、「ワーク・ライフ・バランス」を考えた地域企業における働き方について学習する。	
	パソコンによる実証分析入門	この授業はパソコンを上手に使う、社会現象や個人の行動を分析したり、予測したりすることを学びます。実証分析とは、データに基づいて仮説や理論の正しさや有効性を検証することです。5回の内容は、1)なぜ実証分析が必要か、2)データの集め方、3)エクセルに慣れよう、4)記述統計のまとめ方、5)回帰分析とシミュレーション予測です。	
	ゼミ形式で学ぶ農と食の社会学	社会学は人間の意識や行動や関係について研究する学問です。農業や食生活は身近なテーマなので「食の安全」や「地産地消」など最近の話題を取り上げて、社会学の視点から考えたい。せっかくの面接授業なので、一方的な講義ではなく、受講者にも参加してもらって発表や討論と一緒にやるゼミ形式を取り入れます。発表や討論の経験が少ない学生もいると思うので、その方法もていねいに教えます。	
	日本国憲法事始	人々が幸せに暮らすために警察や公共事業などを営む大きな権力が必要とされるが、他方、権力は往々にして目的を逸脱し暴走する。そこで、権力の濫用を防ぎ、人々の基本的人権を保障するために、憲法がつくられる。授業では、日本国憲法を素材として、憲法が社会の中で果たす機能について、具体的事例を通して理解を深めることとする。	
	金融論入門	私たちは貨幣経済のなかで消費や生産をしています。貨幣の存在は、私たちが物々交換から開放するだけでなく、貨幣そのものが貸借される「金融（取引）」をもたらし、より円滑な経済活動を可能にします。ただし、金融が十分に機能するには、金融市場・仲介機関などの様々な仕組みや、金融政策・資産選択などの行動が重要になります。これらの「仕組み」や「行動」を体系化したものが「金融論」です。	
	福祉国家と福祉社会	福祉国家は何を課題としてどのような政策を行っているのか。その基礎にある思想は、日本の福祉国家政策はどのような特徴をもっているのか。福祉国家のどのような限界・課題が「福祉社会」を必要としているのか。8回の授業を通して、このようなことを学びます。雇用保険、年金や介護保険といった個別の制度について詳しく解説する余裕はありませんが、福祉の考え方と保障の原理についてわかりやすくお話しする予定です。	
	近代日本政治・行政史	明治～昭和戦前期のわが国の政治・行政の歴史展開について、以下の項目を中心に講義を行います。1.明治維新と「太政官制度」～「中央集権化」と「近代化政策」2.明治政府の「分裂」と行政機構整備と「大久保政権」3.立憲体制への移行4.政党政治の本格化と官僚機構の変化5.「警察行政」とその担当領域の変化戦前警察と「建築規制」、「都市計画」の関係	
	現代政治の分析視角	政治は誰もが語ることができるものだが、様々な事象や利害、価値観が複雑に絡み合っており、明確に読み解くのは容易ではない。そんな政治を考えるうえでのツールになるのが、政治学における諸理論である。この講義ではいくつかのキーワードをもとに、現代の政治を取り巻くイシューについて、事例を交えつつ論じ、また今後の課題についても検討する。	
	企業と社会	企業のおかげで我々は豊かな生活を享受できるようになりました。しかし最近問題になっている環境汚染、食品偽装、原油・食糧価格の高騰などもすべて企業の活動が作り出す負の部分です。企業は私的人格と社会的性格との相反する二重の性格を持っています。そのような理解をすれば現在の企業の行動や、問題解決の途も見えてきます。授業では企業の性格、経営の理論、企業と環境、企業倫理、企業統治などをその内容として取り上げます。	
	基礎P C 文書作成実習	本実習では、コンピュータを利用してビジネスや趣味に活用できる文書をワードプロセッサ（Word）を中心に作成し、その基礎的な使用方法の習得を目標にします。また、表計算ソフト（Excel）などの基礎的な使用方法も学習します。	
	社会学入門	社会学の理論と方法を知るために、行為、相互作用、地位・役割、集団、社会構(改行)造等の基礎概念と家族、職業、階層などの具体的現象について検討します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(社会系) 共通科目	国際経済学入門	人間は毎日の衣食住の必要をみだして生存している。その際の経済活動は国内だけでなく、国境を越えて行われる場合もある。例えば外国との取引にあっては、当事者の一方が外国の制度のもとにあり、国内の場合とは異なる制度に直面する。この講義では国際経済の歴史的变化を検討し、現代の国際社会における経済諸現象を微視的あるいは巨視的に観察する方法を学ぶ。	
	産業を支える光の科学と技術	光学は古くかつ常に新しい学問である。前世紀最大の発明といわれるレーザーは、ものづくりや計測、情報科学、医療など、身の回りのほとんどすべての技術分野に画期的な革新をもたらしてきた。講義でははじめに光学の基礎となる光の伝播法則、偏光、干渉、回折、ホログラフィーなどを学習し、その上で今日の産業を支える光の先端技術を紹介する。	
	政治学入門	政治学の基礎概念とその基本的な枠組をさまざまな政治現象を例として説明する。具体的に何をとり上げるか、どのようなアプローチを利用するかは、担当者によって異なるが、できるだけわかり易い説明をこころがけたい。受講者は、あらかじめ放送授業科目「政治学入門」を履修するか、あるいは少なくとも印刷教材「政治学入門」に目を通しておくことが望ましい。成績評価は、授業への出席状況を重視して行う。	
	問題発見と解決の技法-解決	私たちが仕事上や日常生活を送る上で出会う様々な問題に対し、適切に判断し、結果をだすために、系統だった考え方を学ぶ。問題とは何か、どのように見つけるのか、目標の設定から解決に向かうのに有用な考え方や、問題発見のための図解法などを学ぶ。	
	環境学入門	人間にとって環境とは何か、環境問題はどのようにして起ってきたのか、どのようなことを経験してきたのか、これまでに色々と考えられてきたことは何なのか、・・・過去の環境問題の典型的な事例を紹介しつつ、現在私たちが抱える問題について、今後それぞれが考えていくための基本を身に付けて頂くための一般的な講義を主体とする。身近な問題についてもいくつか取り上げ、議論を通じて理解を深めていこう。	
	パソコンによるデータ整理の応用	Windows PCの基本操作、インターネットでの情報伝達、関連用語や概念の概略等を学ぶ。本講義はPCを備えた教室で行い演習を主体とする。インターネット及びPCの基本的な応用ソフトであるMicrosoft Office等を活用して、どのようなデータ整理ができるのかを体験する。演習テーマは日常生活に密着した身近なテーマとし、演習内容は関数、グラフ、VBAによる自動処理等についての初歩的な操作とする。	複数教員共同担当
	経済学入門	これまで経済学を学んだことのない方を対象に入門コースとしての講義を行うことが目的です。具体的には経済学の基本となるミクロ経済の考え方と、マクロ経済の考え方の2点を紹介することがポイントとなります。(1)ミクロ経済学に関して・・・まず、市場(マーケット)をベースとするミクロ理論の基礎を紹介することからはじめます。具体的には、消費者理論・生産者理論・および市場理論の3点を学んだあと、簡単な政策分析を紹介することとします。(2)マクロ経済学に関して・・・一国全体の経済を概括するための道具としてのマクロ経済学の基本を紹介していきます。具体的には、財市場・貨幣市場と呼ばれる各経済部門ごとの分析をベースに経済を考慮していきます。その後、政府による財政政策や金融政策が行われた場合、短期的に経済はどのように動くのか、という点を中心に紹介していきたいと思えます。経済学に関する知識はまったく必要としないのでご安心ください(初心者を対象としたクラスです)。	
	省エネ東京漫步	COP3で約束した02排出目標値の達成が危ぶまれている。市民にとって省エネ意識の改革、省エネ家電の推進などが重要である。初回は教室でエネルギー変換の概論を講じ、2-7回では2回分で1施設を合計3箇所見学し(現地集合解散、交通費は自己負担)、8回目に教室へ戻り、背景技術の総括を行う。見学施設(未定)の候補は以下の通り。東京ガス環境エネルギー館(鶴見)、東芝あかりスタジオ(神田)、日産エンジン博物館(新子安)、国立科学博物館(上野、300円)。施設を訪ね、省エネの背景にある技術的解説を行う。	
	化学装置内の流体挙動とその原理	化学装置内を流動する流体は水のようなサラサラしたニュートン流体から高分子溶液のようなドロドロした非ニュートン流体まで様々な流体がある。またその流体挙動は流体要素相互が全く混じり合わない層流状態から複雑に入り混じる乱流状態までである。これらの流体の種類とその判別、流体挙動の特質について、我々の周辺から具体的例を挙げて示しながら講じる。	
	企業倫理と技術者倫理	技術が社会にとってなくてはならないものになり、しかもその重要性が増している。技術が社会に及ぼす影響、社会が技術に及ぼす影響を、技術者のみならず技術に関係する全ての人は、即ちそれは現代人の全てになるうが、深く考え理解した上で、社会の中で技術を生かしていく必要がある。即ち何が善く、あるいは善くないのか、それはなぜなのかを考え、実践していく必要がある。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(社会系) 共通科目	プログラミング入門	「手順を憶え込ませてコンピュータを意のままに動かす」これがプログラミングの世界です。本講座はプログラミングの世界を垣間見る体験講座です。0言語を用いて、コンピュータを動かしてみましょう。内容は、1 プログラムとは 2 プログラムの書き方 3 分岐と繰返し 4 虫食い算 5 グラフを描くには 6 関数のグラフ 7 図形の平面運動 8 帰図形プログラミングに関し全くの初心者を対象としますが、パソコンの基本操作(ウィンドウの操作、文章の編集、ファイル操作、ホームページの閲覧)ができる者に限ります。	
	実務に役立つパソコン演習	研究や実務をこなす上でパソコンの使用は必要不可欠なものとなりました。本授業では、実用的なパソコン利用法を演習形式で習得していただきます。演習課題としては、研究レポートや論文、各種案内状、あいさつ状、クロス集計表、プレゼンテーション用資料を用います。習うより慣れる、をそのまま実現します。	
	家族紛争と法的処理手続き	本講義は、家族構成員の間で生じる紛争について、1. 現代家族をめぐる紛争の特色、2. どのような法的処理制度が利用出来るのか(家庭裁判所など)、3. 紛争処理手続にはどのような特色や限界があるのか、などについて例を挙げながら解説し、家族をめぐる紛争を考える時に必要な基本的視点を提供することを目的とする。	
	中国一人っ子政策とその社会問題	本講義は中国の一人っ子政策の背景・現状と一人っ子の成長過程を取り上げて、一人っ子による社会問題に焦点を当てて、中国社会20年余の変化を観察することを目的とする。またそれに関連する中国語文章資料・報道などを通じて中国語文の読解法や基礎知識も勉強する。	
	パソコン操作入門	パーソナルコンピュータの基本的操作(電源の入れ方、マウスやキーボードの使い方、画面の見方など)、ワード2003を用いた写真・図入り文書作成、エクセル2003を用いた表・グラフの作成・表計算、インターネット利用(電子メール)、ホームページ(WWW)閲覧、アドレス(URL)指定、情報検索、ホームページ作成などの方法について初歩から説明、実習形式で行います。コンピュータは学習センターに設置のものを使用します。	
	情報処理基礎	コンピュータが他の身近な機械と大きく異なる点は、「情報」を取り扱い処理することにある。本科目では、コンピュータの中で情報がどのように表現され、処理されるのかについて学ぶ。また、実習を通して、コンピュータで効率的に作業を行うために必須なタイピング、Webを使った情報検索、表計算を用いたデータ処理とデータベースとしての利用方法、コンピュータを使った口頭発表支援など、具体的な情報処理方法について学ぶ。	
	現代社会の「法と生活」	21世紀は司法の時代だといわれています。規制緩和が進み事前規制から事後救済の社会に転換しているため、今まで以上に紛争が多くなるのです。法が持つ役割が増大することになるので、法の基本的な仕組みを学び、紛争の実際の姿を具体例を取り上げて説明します。知的財産権、環境権などの新しい分野も取り上げようと思っています。	
	仏教思想と現代生活	紀元前5世紀頃にインドにおいて生まれたゴータマ・ブッダによる仏教の思想は、アジア諸国においてさまざまな形で受容され、発展している。インドから日本まで伝播したその思想が現代社会をよく生きるために有益なのかという視点から、仏教思想を探求する。日蓮宗の総本山、身延山久遠寺を訪れ、宿坊に宿泊し、実体験を通して仏教思想への理解を深める。	
	財産取引と法	わが国の取引社会は、法が、私有財産制と契約自由の原則を制度的に保障していることにより十全に機能している(憲法第22条・29条、民法・商法の諸規定)。本講義は、財産取引における権利義務の発生原因のうち、主要な態様である「契約」を中心として、財産取引と法の関係について学習することを目的とするものである。	
	地域の社会変動と生涯学習	教育が地域社会の形成とどのようなかたちで結びついているか、「地域社会の変動」といった視点から明らかにする。我が国の地域社会は大きく変貌し、「大都市」と「地方」の地域間格差は拡大している。授業では「地域圏域」の長野県の社会的・自然的特性を踏まえ、地域住民が「地域社会の形成」に主体的に参加するためには、どのような自治体・地域コミュニティが求められているかについて、地域教育社会学の研究成果を講ずるとともに、受講者の生活体験・教育実践を相互に交流する形で学習を進めたい。	
	温室効果ガス半減はできるか	地球温暖化を防止するために、2050年までに温室効果ガスを半減するという目標が出されている。これは、減少どころか、むしろ増加しているのにいっただいできるのか。(改訂) その可能性を、1)自然エネルギーの活用、2)燃料電池による水素エネルギー社会、3)原子力、化石燃料が出す二酸化炭素の吸収、4)車などの省エネルギーについて、技術的、経済的に検討して将来のあり方を示す。	
	実践中心に学ぶ情報技術の可能性	パソコンやデジカメ、インターネットなど情報技術の実践的な応用を学びます。諏訪市など身近な場に応用を求め、インターネットによるデータ収集、Excelによる分析、デジカメによる画像データの収集、そして地図(GIS:地理情報システム)を使った分析などを試みるよていです。さらに、ビデオやCD-R教材をまじえた変化のある授業にしたいと思えます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(社会系) 共通科目	日本経済入門	マクロでみた日本経済を学びます。経済成長や景気の問題を初め、物価、財政、金融、為替、国際収支の問題がマクロ経済の領域の問題です。これらの問題につき日本の近年の状況を統計データでつかみ、その意味と問題の所在を理解することが授業の目的です。こうしたマクロ経済の理解には、基礎的な概念や知識(マクロ経済学)が必要になりますが、それについても必要な限り授業で説明します。	
	情報社会論	本講義では、共同体社会から近代社会の成立と、近代社会への変容を、メディアの発達と人間・社会のあり方の変容、コミュニケーションの特質などに焦点を据えて概論する。特に、現代情報社会におけるメディアの影響とコミュニケーションの特質について、いくつかの事例を検討しながら、情報病理ともいえる非本来的なあり方と、構築すべき情報社会デザインのあり方について論じる。	
	メディアの中の家族	「家族」という言葉から何を連想しますか？マイホーム、団樂、家庭崩壊？生物学的かつ社会的集団である「家族」の定義は一樣ではありません。そんな中、メディアは「家族」とは何か、どうあるべきかを常に人々に語りかけてきました。日本のTV・映画の中の家族像は戦後の家族観の変遷を映す鏡です。授業では、「家族」の象徴的場であるマイホームの歴史とメディアの語る家族ドラマを両軸に、日本における「近代家族」の形を考えます。	
	情報処理(実習)	パソコンとインターネットが生活の中に爆発的に普及しています。この授業では、情報技術(IT)と通信を組み合わせた情報通信技術(ICT)の基礎と応用について、パソコンとインターネットを使った実習形式で学習します。まず、ICTについて基本的な知識を学習します。次に、身の回りに浸透しつつあるICTを確認します。そして、今後ICTが発展したときに私たちが持つべき知識について学習します。	
	コンピュータによる情報処理	電子化時代にパソコンが欠かせないツールとして多くの分野において使われている。この授業では、パソコンを用いてネットワーク上においてサーチエンジンと電子メールによる情報検索と情報発信の方法を学習し、ホームページの作成方法を習得する。また応用ソフトによる文章作成、データ処理及びビジュアル表現方法を学習する。さらにパソコンによるプレゼンテーションの技法を学習する。	
	持続可能な地域を考える	地域が音を立てて崩れて云っている。人口減少や高齢化対策も必要であるが、それ以上に地域、とりわけ農村地域に夢や希望を創っていくことが重要である。将来世代のために物的・人的な基盤を構築していくこと、すなわち、人間として生きていく上で必要な「食の安全や安心」(生命維持の基礎)、地域の農業や産業(生活基盤の基礎)、自然環境(生物層の豊かさ)、家族と仲間(社会の基盤)、平和と話し合い(コミュニケーション)について語る	
	プレゼンテーション技法	会議などでパソコンによるプレゼンテーションを行うことが普通になった。この授業では、ワープロや表計算ソフトの利用経験者を対象として、効果的なプレゼンテーションを行うための基礎知識を修得し、実際にプレゼンテーションの演習を行う。同時に、よいプレゼンテーションを引き出すための聴衆としての態度について考える。具体的な内容は次の通り。(1)表計算ソフトによるグラフ作成(2)インターネット上の情報検索技法(3)ホームページのしくみ(4)パソコンを用いたプレゼンテーションの演習	
	環境問題の社会学的モニタリング	本授業でいう社会学的モニタリングとは、主に公害や環境に関わる「制度」や「管理のしくみ」が、レジティマシー(正当性・正統性)をもって機能してきたか、正義にかなっているかを社会学的に検証、評価する試みのことを指す。本授業では、今日も紛争状態にある(1)イタイタイ病問題と(2)天然記念物「奈良のシカ」による鹿害問題を取りあげて、モニタリングを行う。	
	国際的素材を用いた法律入門	法律学というのは、説得の学問であるとされる。重要なのは、結論ではなく多数を説得できる根拠付けである。法律学の勉強には、判決や具体的事例を通じて、「自分で考えてみる」ことが重要なのである。また、我が国において、すぐ隣に外国人が住み、隣の席に外国人が働く、明治期以来の開国の時を迎え、いよいよ本格的な国際化社会となる。そこで、この授業では国際的な素材を用い、自分で考えてみる法律入門とする。	
	人物本位の近代日本地理学史	明治以降の日本の地理学史の流れを概観します。その際、それぞれの時代を代表する傑出した地理学者を何人かずつ登場させ、それらの学風の違いに着目して、各時代の地理学研究の動向を多面的にとらえます。	
	法システムの社会学	私たちの社会生活を支える法/ルールの役割を、その意義と射程という観点から原理的に考察します。六法や判例を読み解く「法解釈学」ではなく、「社会学」の方法を用いて論じていきますので、さしあたり法律学の知識の有無は問いません。具体的には、法とモラルの関係を中心に、フリーライダーと公共性問題・生殖医療問題などをとり上げる予定です。	
	消費者と法	政府規制改革の進展の下、消費者一人ひとりが「自立した消費者」として消費生活を営むことが求められているが、不当表示・偽装表示、契約詐欺、多重債務をはじめとする消費者問題はかえって増え続け、被害も深刻化する傾向にある。本講義は、消費者問題の実態に目を向けることにより、消費者の保護と自立のための法制度の仕組みと、被害救済について、また新たに構築された消費者行政について、わかりやすく解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(社会系) 共通科目	現代の情報社会と憲法	現代社会が急速に情報化したことにより、私たちをとりまく人権状況も大きな影響を受けている。例えば、様々な個人情報の収集や漏洩により私たちのプライバシーは危殆にさらされ、また他方、インターネット上の掲示板では本人の知らぬ間に名誉毀損がなされていたりもする。そこで本講義では、憲法が保障する人権の意味・内容を改めて明らかにし、情報社会において一人ひとりが有すべき社会的責任を明らかにしていきたいと考える。	
	仕事と家庭の経済学	働く人びとは就業生活と家庭生活の営みの中で毎日を送っている。しかし、男性を中心とした頻繁な転勤や長時間労働は過労死・うつ病などの問題を提起し、また非正規労働者の増大は、将来展望ができない新たな貧困層を作りだしている。さらに働く女性が増え、職場環境も整備されつつあるものの、依然、子育てや介護は女性の仕事となっている。本講義は、「働き方」と「暮らし方」の今日的な問題を取り上げて行うものである。	
	地方自治論	最近、平成の大合併とか地方分権、三位一体改革、道州制など、地方自治をめぐる動きは大きいものがあります。一方、21世紀の人口減少・少子高齢化時代において、住民に身近な行政サービスを提供する自治体の役割はますます大きくなっています。本講座では、行政組織、地方財政なども含めて地方自治の仕組みを学ぶとともに、住民と自治体の法律的な関係も講義し、地方自治について多面的に理解してもらいます。	
	宮崎県の経済と地域の活性化	東国原知事の登場から空前の宮崎ブームが起こり全国から注目を集めています。グローバル化の進展と少子高齢化社会の到来は、宮崎の地域社会の持続可能性を考える上で大きな影響を与えると思われます。注目を集めるこの宮崎の経済と地域の活性化についてこれまでの取り組みや現状を把握し今後の方向性について受講生のみなさんと対話も試みながら、考えていきたいと思えます。	
	パソコン中級	パソコンで文章作成、表計算、資料提示の方法・技術を学習する中級コースです。代表的オフィスソフトのワード（スタイル利用を含む）、エクセル（グラフ作成、初歩的マクロ作成を含む）、パワーポイント（リンク設定、デザインテンプレート作成を含む）を使います。	
	論争環境法	法は環境を守れるか。産廃の不法投棄、飛行機騒音、畜産関係の臭気といった環境汚染に対しては、確かに法的な規制が及んではいるが、条文に禁止事項と罰則が書いてあるからといって、それだけで実際に汚染を防止できるわけではない。あなたが環境法を作るとしたら・・・？裁判になった汚染事件をいくつか取り上げて、地元自治体の対応、事業者の権利、地域住民の活動に目を配りながら整理し、生きた環境法の姿を学ぶ。	複数教員共同担当
	市民生活と法	市民が個人として法と関わる面が増えている。たとえば、裁判員制度と市民、地域おこしと市民という場合である。そこでどのような問題が生じ、解決の方向性が示されてるかを見ることとする。	
	IT社会と生活	パソコンは私たちの目的に沿って使う道具という立場に立って、コンピュータ制御からネットコミュニケーションのあり方まで考えて行きます。パソコンに手足をつけて自在に操る面白さ、イメージ支援をする複合現実などを体感してみます。またネットワークのしくみを概観しながら、セキュリティやモラルを取り上げ、ネット依存、ゲーム依存、いじめなどに対する家族主体のITリテラシーを考えます。	
	経済データの数量分析	新聞やニュースを通じて、GDP、物価、金利・・・といった多くの経済データの名前を聞いていることと思います。しかし、これらのデータの性質やデータ間の関係を調べたことのある人はそれほど多くないと思います。そこで、この講義では、経済データの性質やデータ間の関係を調べる方法を教えます。講義は、必要に応じて配布するプリントを利用しながら行います。	
	21世紀に戦争と平和を考える	「戦争の世紀」と呼ばれた20世紀が終わり、新たな世紀をむかえた現代世界において、今なお多くの戦争が行われています。多大な犠牲を出した20世紀の戦争から、人類は何も学ばなかったのでしょうか。そして世界の平和を構想することは、今日はたして可能なのでしょうか。戦争と平和をめぐる問題が、20世紀から21世紀にかけてどのように論じられてきたかを学びながら、21世紀の世界の在り方について考えていきます。	
	表計算ソフト実習	これまで多くの方がパソコン（PC）を利用するというよりは、機能を限定的に「使う」ことが多かったのではないのでしょうか。本講座では入門から一歩進んで、PCを活用することを目指します。Excelを使い、表計算の基本的な操作法について復習を行った後、応用について演習形式で進めていきます。講座の最後には簡単なプログラミングにもチャレンジしていただく予定です。	
	すこやかな老いを生きる	日本各地のお年寄り、世界各地のお年寄りの暮らしぶりを通じ、個性的で多様な姿の底流に共通する老いの豊かさと奥深さを学習する。また、暮らしを共にする人々、生活をともにする地域の人々の姿や考え方を通じ、お年寄りとの世代間交流について考える機会とする。（改行）認知症、寝たきり、がん...。なりたくはないけれど、なる可能性は高い。しかし、そのことが悲惨か？そんなことはない。元気に生き生きと自分らしく生きている人たちがたくさんいる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(社会系) 共通科目	問題発見と解決の技法 - 発見	私たちが仕事上や日常生活を送る上で出会う様々な問題に対し、適切に判断し、結果をだすために、系統だった考え方を学ぶ。問題とは何か、どのように見つけるのか、目標の設定から解決に向かうのに有用な考え方や、問題発見のための図解法などを学ぶ。	
	観光を考える・地域観光創造論	観光とは、「国・地域の光を観ること」です。「光」とは何でしょうか。この授業では、観光の本来の姿を考えるとともに、これからの観光のあり方、地域づくりのあり方・方法論を、具体的に考えます。	複数教員共同担当
	パソコンによるデータ整理の初歩	本講義はPCを備えた教室で行い演習を主体とする。Windows PCの基本操作とコツ、メールや検索の利用、Microsoft Officeに含まれるWord(文書)、Excel(数値計算、図表)、PowerPoint(プレゼンテーション)についての一通りの操作等を学ぶ。演習テーマは出納帳、日程表など日常生活に密着した身近なもの。データ収集やグラフ化、工学的な応用例なども紹介しPC活用の参考とする。	複数教員共同担当
	機械とそれを支える原理	"(1)文明と機械の歴史を、1.古代～中世 2.ルネッサンス～産業革命 3.二つの大戦 4.現代 に分けて概観し、機械と我々の関係を理解するとともに、機械の種類を説明する。(改行)(2)機械技術を支える原理について、機械工学の4つの基礎(5.機械力学、6.材料力学、7.流体力学、8.熱力学)について解説する。	
	現代社会を支える電子技術	高度に電子化された現代社会を支える電子技術の初歩について、その基礎から簡単な応用までを電子回路を中心として学ぶ。1, 2回目: 電子工学に必要な基礎知識、3回、4回: トランジスタと集積回路、5, 6回: デジタル回路とデジタル信号処理、7, 8回: アナログ回路とアナログ信号処理	
	地球環境と原子力	(1)人類とエネルギーの歴史的関わりから講義を始め、放射線や原子力が発見されるまでの研究過程など、文明の科学技術史的側面を紹介し、(2)現在使われている各種エネルギー源の特質を解説し、地球環境の視点で原子核科学や原子力を考える。(3)またどのようにして原子力発電所が運転されるか、その原理や安全性、使われる燃料の製造や処理技術を分かり易く説明し、核不拡散などの国際関係論も取り上げる。	
	法と言語学	法について考えることは、言葉を考えることにつながる。言葉について考えるなら、文法という言語ルールが存在と生成を意識せざるを得ない。もちろん、法ルールと言語ルールの間には埋めがたい溝もある。本講義は、その溝に架橋し総合する新理論を構想するものではない。まずは、公法学者が法解釈の問題状況を、次いで、言語学研究者が生成文法理論の到達点をそれぞれ講義する。両研究者の対話に接する中で、受講生は、生成文法理論の発想を持ちながら具体的な法解釈問題を眺めるといふ、新鮮な知的体験を得ることになる。	複数教員共同担当
	技術の社会的構成	技術は人類の生存に不可欠であり、また、有効なものである。一方、その使い方を誤れば、戦争や環境破壊など、人類の生存を危くするものともなる。技術の使い方を決めるものとして、社会の構成は極めて影響が大きい。従って、技術のありようを考える上で、技術の社会的構成は、基本的な問題のひとつである。本講義では、技術と社会との関りを歴史的に考察する。そうする事により、事実に基づく合理的な分析によって、将来のあり方を具体的に計画する事を試みる。また、その方法として、講師と受講生との共同作業を実施する。	
	裁判の話 - 比較の中の過去と現在	2009年5月から裁判制度改革の一環として一般市民が刑事裁判に参加する「裁判員」制度がいよいよ始まることとなります。この面接授業は、一橋大学大学院法学研究科と東京地方裁判所の協力のもとに、裁判の社会的意義や機能について広い視野からとらえ直す新しい試みとして昨年度に開設したのですが、受講希望者も多いことから、担当講師に無理にお願いして今年度も開講することになりました。再受講は遠慮して下さい。	
	現代国際政治	講義では、国際政治上の諸問題の構造を理解するため、様々な理論や考え方を提示する。受講者はこうした国際関係の見方やアプローチ(接近法)を手がかりに、それらの問題について様々な観点から検討し、自分の答えを導いてほしい。今回は特にグローバル化によって国際社会がどのように変化しているかを考える。具体的には、トラフィッキング(人身売買)、NGO活動、エスニック問題、新しい戦争などを取り上げる予定である。	
	社会学的な見方について考える	社会学とはどんな学問だろうか?社会をどのように見ているのか?人と人の関係、そして社会や制度をいかに料理してわれわれに見せてくれるのか?どうして人々がばらばらにならないで、社会は一応秩序が保たれているのか?これらの問題を、さまざまな社会学の研究や、今日の世の中の現象を例にあげ考えていきたい。	
	労働と経済	仕事・労働をめぐる問題を経済、経済学の面から取り上げます。経済学では理論の説明から始めることが多いのですが、この授業では統計資料を用いて問題の現状をまずつかみ、次いでその意味や問題点を理解するため、諸種の説明仮説、理論を紹介し、検討するというように進めます。雇用と失業、賃金、技能と訓練、女性・若年・高年労働者、所得格差などの問題について諸外国との比較を行いながら進める予定です。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(社会系) 共通科目	日本国憲法	第2次世界大戦の敗戦の翌年、1946年11月3日に「日本国憲法」が制定され、翌年5月3日から施行されました。憲法は、そもそも、国家の「理念(理想)」とそれを実現するための「仕組み」を定めた法律です。授業では、日本国憲法が定める現代の日本の理念(理想)、仕組みとは何か、また、これらの理念(理想)や仕組みが実現されているか、うまく機能しているかについて講義します。	
	市民社会と共和主義	現代日本の市民社会の危機を考えます。戦後60年が経過して、戦後民主主義体制が様々な批判にさらされ、規制緩和や行財政改革が叫ばれてきた結果、格差社会が生まれてしまった。民主主義も機能不全を起している。なにが間違っているのか、必ずしも判然としないが、ヨーロッパの経験を参照し、とくに英国の近代市民社会論を参考にし、現代の市民社会の諸問題を考えてみる。	
	宮澤賢治の時代と社会	第1次世界大戦終了(1919)から満州事変(1931)までの間を「戦間期」と呼びます。市民文化が開花し、民主主義を求める政治活動も盛んになります。いわゆる「大正デモクラシー」状況です。宮澤賢治はこのわずかな期間を駆け抜け、珠玉の作品を残しました。この作品群を素材に、「時代の子」賢治が模索したことや、そのことの現代的意味を考察します。	
	今日の労働問題	今日、我が国の雇用・労働市場は雇用形態や働き方の多様化の進展に伴い大きく変容しつつある。この授業では、とくに非典型雇用の増加に示されるような雇用形態の多様化を中心にマクロ的な労働市場の構造変動を鳥瞰した上で、若年層、高齢者、女性労働問題、働き方を規定する企業の人事労務管理問題(雇用管理、賃金、労働時間など)について、その現状・問題点・政策課題について述べてみたい。	
	長宗我部氏概論	四国を代表する戦国大名・長宗我部氏の居城、岡豊城址が国指定の史跡として答申を受けました。これまで四国の覇者の割には知名度が今ひとつでしたが、これからは俄然注目を浴びることと思われます。中世ならではの社会体制のもと、弱小国人から着実に成長を遂げ、ついには織田信長や豊臣秀吉ともわたりあった長宗我部元親とはどのような人物だったのか、遺された資料と最新の研究成果をもとに分かりやすく概説していきます。	
	近現代日本の5つの地理学論争	近現代日本の地理学史、とくに論争史をテーマとします。いくつかの論争・議論を取り上げ、地理学的な見方や考察方法について理解できるように授業します。	
	九州・東アジア関係論	九州は古くから、朝鮮半島やユーラシア大陸と密接な関係を築いていました。九州という地域の重層性を踏まえながら、その特徴(九州とは何か)を歴史的に明らかにします。その上で、今日の北部九州と東アジアとの関係を、近・現代史のトピックスをケースに取り上げながら(例えば、日本近代化と東アジア、筑豊、朝鮮戦争など)、地域研究・政治学の立場より解明したいと考えています。	
	小規模社会の環境と人間行動	仮に人類史を600万年とすると、実にその99.8%は狩猟採集のような生業をおこなう小集団の中で暮らしてきたことになる。進化的に考えると、文明社会に生きる私たちの心や身体も、小規模社会の暮らしにあわせて設計されたものである。小規模社会の環境や人間行動を知ることは、人間の本性を理解することにつながる。講義では生態学的な人間行動研究に関する最新の話題をまじえ、人類学的な人間理解の方法について考える。	
	途上国の民主化と平和	いま途上国ではグローバル化により社会が激変、政治が不安定化し、様々な紛争が頻発している。これは先進国の責任でもあり、したがって途上国の開発と民主化を支援し平和再建に協力することは、私たち自身の義務といってもよい。(改行) 講義では、具体的事例としてネパールを取り上げ、スライド、ビデオ、図表、地図などをできるだけ使用し、この途上国問題の現状と解決策を考えていく。	
	現代中国論	現代中国における政治・外交・経済・社会・文化など、特に日中関係に関する最新の出来事を取り上げて、講義と討論を併用して授業を進める。関連する資料の読み合わせを行う。現在進行している中国国内及び日中間のさまざまな問題点を随時取り上げ、調査すると共に討論を行う。	
	交渉と紛争解決	紛争の当事者は扮装の「納得のいく解決」を求めるのが常ですが、そのためにはどのような解決方法を選択するのが望ましいのでしょうか。この問いに答えるために、第一に、交渉(話し合い)による解決、訴訟による解決、裁判外紛争解決制度(ADR)による解決を比較検討します。第二に、ADRのなかでも、「納得のいく解決」に適合的と思われる調停のあり方を考えます。最後に、紛争に適合した解決手段選択のあり方を考えます。	
	名誉・プライバシーの保護	社会で一般にイメージされている名誉やプライバシーの侵害は、必ずしも法的な意味でのそれと一致しているわけではない。そこで、本講義では、名誉やプライバシーが侵害されるというのはどういうことか、また、侵害に対する法的救済はどのような場合に認められるのか、そして、その救済方法としてはどのようなものが用意されているのか、などについて具体的紛争事例を挙げて、名誉・プライバシーの法的保護について解説していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(社会系)	交流社会における人と地域の魅力	少子高齢化社会を迎え、地方社会における人口減少は避けられない事態となっている。そのような情勢のもとで、活力のある地域社会を維持していくためには、交流人口を増やすことが有力な解決策の一つと考えられている。人々は魅力的な対象に向かって接近(移動)をし、魅力のないところから去っていく。交流社会では、人も地域もその魅力を磨き上げることが求められている。この授業では対人魅力と地域社会の魅力について考える。	
	憲法入門	この授業では、一般の社会人に求められる憲法についての基礎知識を分かりやすく学びます。また、人権や平和についての興味深い、身近な事例をとおして、現代日本の「生きた憲法」に触れ、憲法の役割や憲法と私たちの日常生活とのかかわりについても考えます。憲法をはじめ学ぶ人にとっても、わかりやすい授業です。	
共通科目(一般科目・自然系)	疾病の成立と回復促進(05)	疾病の成立と回復の促進では、疾病のある状態を全人的にとらえ体内の環境変化から、生活過程の変化まで大きくとらえて理解する。その上で、病的状態からの回復に向けての生活調整の視点から、疾病を予防し回復を促進する要素を理解する。	複数教員共同担当
	疾病の成立と回復促進(10)	疾病それぞれを単独で捉えるのではなく、疾病のある状態を全的に捉え、体内の環境変化から、生活過程の変化まで大きく捉えて講義する。	複数教員共同担当
	人体の構造と機能(05)	毎日の生活の中で普通に行っている様々な生活行動は何のために、どのような仕組みで行われているのかの視点から、人体の構造と機能を学ぶ。からだに興味を持ち、理解を深めていく基礎力をつけることをねらいとするが、さらにはからだの機能に適した生活を工夫し、病気を理解する土台になることを期待する。	複数教員共同担当
	疾病の回復を促進する薬(07)	病気によって身体の正常な機能が障害されてしまった場合に、治療の一つとして薬物が使用される。薬物はいろいろな仕組みによって効果を発現し、身体を正常な状態に引きもどす。その一方、副作用として逆に身体に害になる作用をもたらすこともある。この講義では、薬物の働く仕組みだけでなく、薬物が医療の中でどのような役割を担っているか、また薬物がその有効な作用を発揮できるように医師・看護師・薬剤師などがどのように働いているかを学ぶ。	複数教員共同担当
	情報科学の基礎(07)	身近な情報機器であるパーソナルコンピュータの動き方や実際の仕組みを導入として、情報機器を実際に実現しているのは手順を記述するプログラムであること、実際のプログラムの概略、及びその動作能力の源泉である数学的万能性を、平易な例を用いて解説する。さらに、現実的なコンピュータ処理の複雑さとそれを実現するプログラムの大きさを理解することによって、現代の情報システムの全体像とその限界を示す。	
	生物集団と地球環境(07)	自然界における生物の存在様式は、家族、群れ、群体、群落、個体群、群集などといったさまざまなレベルでとらえることができる。そして、そのような生物集団は、環境とさまざまな関係をもって存在している。本講義では、そのような生物集団の形成および地球環境との関連について解説するとともに、それらに対する人間活動の影響も解説する。	複数教員共同担当
	物理の世界(07)	物理の世界('07)の精神は、敬遠され気味の物理を、少しでも身近なものに感じてもらえるよう、自然をとらえる「物語」として話を進めていく。物理を身近に感じ、理解を深めるためには、受け身な学習ではなく、普段から自然を良く観察し、なぜ、どうしてと問うことが要る。敬遠される主な理由が、記号や数式を使うからだ、と言うことは、かつて同じ大学で教鞭を執っていた担当講師3人の共通認識である。数式の使用は必要最小限にと努めるつもりだが、数式になじめないのは、いわゆる「食わず嫌い」から来ることも知っている。講義やテキストの流れの中に基本的な演習を組み込むので、自らの手で解くとともに、頭や目・耳だけで論理や数式を追うだけでなく、自ら手を動かしてノートをとって、論理の展開や数式の扱いを再現したり、一歩進めたりして欲しい。さらに、実験も大切である。身の回りのものでやれる実験を用意するので、自分でやってほしい。そういう皆さんのなかから、自然の理解に新しい道を見いだす人が出ることが、我々の夢である。	複数教員共同担当
	基礎化学(06)	私達の身の回りで起こる自然現象は、すべて物質の性質と変化が関係している。見たり触れたりできるマクロの物質は、原子や分子というミクロの構造をもっている。これら物質の性質を理解し、コントロールし、あるいは新しい機能の物質を創るには、マクロとミクロの両方の観点から物質を理解する必要がある。これが化学の面白さであり、場合によると理解しにくい原因にもなっている。この科目では、現在の物質文明を支えている化学の基礎的な知識を提供するとともに、生命との関わりまでを紹介する。	複数教員共同担当
	実験科学とその方法(06)	本講義では自然科学の考え方、観察や実験を行う際の基本的な重要な項目について考えることにする。また、情報を収集し、論文にまとめ、発表する方法についても考える。最後に自然科学は専門家のものだけでなく、すべての人々が関心をもつべき事柄であることを強調したい。これによって、現在の私たちが直面する環境問題などに正しく対処できるようになると考えるからである。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（一般科目・自然系）	科学的探究の方法 （ 10 ）	自然を探究する方法の基本は観察・実験であり、そこから得られた一般的な知識を法則としてまとめ、理論として統合する。その理論の予測に従って、未知の領域・現象の探索を行う。豊かな自然の探究・理解に有効である方法論を平易に講義することを目的とする。このような科学の方法論の基礎を学び、応用する力は、自然科学だけに留まらず、日常生活や人文・社会科学分野における正しい対処の仕方、判断の根拠をもつことにつながる。 「自然と環境」コースで学ぶすべての履修者にとって共通の知識が得られるはずである。 また、技術者、あるいは臨床検査技師、X線技師など技術的な職業に就いている者に役に立つ科目であると考ええる。	複数教員共同担当
	変化する地球環境 （ 04 ）	グローバルな視点から地球の自然環境の仕組みを学習する。特に、自然環境の変化に着目して、変化のメカニズム、時間スケールに対する理解を深める。単に大気環境だけでなく、宇宙、海洋、地球内部、生物の作用など、大気環境を取り巻く世界にも目を向け、宇宙スケールから人間スケールまで、自然界の構造とその変化に関わる全体像を示す。	
	宇宙を読み解く （ 09 ）	宇宙とは私たちが住む世界そのものであり、人間存在の根源である。本講義は、理系・文系を問わず、宇宙というものを体系的に理解してみたいという広い要望に応えるため、宇宙の総合的教養・入門講座として企画した。人間と宇宙の旧いかわりにはじまって、太陽系の新しいイメージ、天体物理学の基礎、現代の宇宙観測とそれが明らかにした多彩な天体の世界、謎のダークマターとダークエネルギー、膨張宇宙の極限まで。人間は奥深い宇宙にどこまで分け入ったのか、また現代科学は宇宙をどう読み解いているかを把握する。	複数教員共同担当
	宇宙観の歴史と科学 （ 08 ）	宇宙に対する見方を体系化した学問である天文学、宇宙論は人類文明の発祥と共に生まれ発達した最も古い学問の1つである。その歴史には現代科学の方法や思考の基礎となっている様々なアイデアがちりばめられている。また近年は宇宙論が他の科学へ影響を及ぼすことも少なくない。本講座ではそれらを時代を追って説明すると共に、現代の天文学・宇宙観にどう連なっているかを見てゆく。	
	惑星地球の進化 （ 07 ）	地球は太陽エネルギーや潮汐などの外因エネルギーと地球内部の放射性核種の壊変に由来する内因エネルギーによって駆動されるシステムであり、これらのエネルギーやその他の原因（小天体の衝突など）により惑星地球はダイナミックに進化・変動してきました。本講義では、知識の網羅ではなく、ダイナミックな地球を理解する上で特に重要な項目について詳しく解説します。身近な地質現象の観察を手がかりとして、地球の成り立ちと進化について理解し、地球との共生について考えることを講義の目標とします。	複数教員共同担当
	初歩からの微積分 （ 06 ）	微分するとは与えられた関数の導関数を求める演算のことであるが、その逆演算として積分がある。積分によって曲線で囲まれる図形の面積が計算できる。また導関数、関数、変量の間の変換を表現する微分方程式を解くことによって、それらを規定する関数関係を導くことができる。 二つの変量の間に関数関係があれば、それらの変化量の割合を記述するものとして、導関数を考える。	複数教員共同担当
	微分と積分 （ 10 ）	世の中を理解し積極的に対応しようとするとき、時間、長さ、広さ、重さ、物の量、価格などいくつもの変量を認識することは不可欠である。さらに一つの変量の値が決まれば、他の変量の値が決まるといった関数関係を認識することも避けることは出来ない。二つの変量の間に関数関係があれば、それらの変化量の割合を記述するものとして、導関数を考える。微分するとは与えられた関数の導関数を求める演算のことであるが、その逆演算として積分がある。積分によって曲線で囲まれる図形の面積が計算できる。また導関数、関数、変量の間の変換を表現する微分方程式を解くことによって、それらを規定する関数関係を導くことができる。この授業科目では、高校で微分積分を学んでいることを前提としないで、大学レベルの微分積分を展開する。	複数教員共同担当
	入門線型代数 （ 09 ）	線型代数を初めて学ぶ人向けの講義である。予備知識は特に仮定しない。平面や空間といった素朴な概念から初め、数ベクトル空間を定義する。その後行列の概念を導入する。このとき、連立方程式の解法といった親しみやすい事柄の復習を通して、行列の演算を解説する。そして行列式、逆行列の求め方を学ぶ。また空間から空間への線型写像、部分空間の種々の性質をみる。これらを通して、行列の階数、あるいは空間の基底、次元がどういうものか解説する。さらに固有値、固有ベクトルを定義し、基底の変換を解説する。いわゆる数ベクトル空間について講義し、抽象的、公理的な議論はなるべく避けるようにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(一) 一般科目・自然系	解析入門 (08)	偏微分と重積分は応用上重要であるにもかかわらず、1変数関数の微積分を仮定して講義されるため、取り付きにくいものになっている。この講義では常に1変数との対比をしながら出来るだけ平易に解説する。主として2変数関数を扱い、図などにより視覚化して偏微分と重積分の理解を深めるようにする。また平面を複素数平面と見ることにより複素関数を考えることは自然である。複素数や複素関数の簡単な性質についても解説する。全体にわたって出来るだけ実例、応用例、計算例を取り上げる。講義で扱う内容は理工系の自然科学ばかりではなく経済学・経営学などの社会科学でも重要な道具であることを明らかにする。	複数教員共同担当
(二) 共通科目 (自然系)	エクセルを用いた統計解析の初歩	さまざまな分野でデータ解析が必要になっていきますので、その能力を身に付けたい人を対象にした授業です。データをエクセルに入力して処理することを通して統計解析の考え方や手法を学びます。統計学の理解やエクセル利用の経験は問いませんが、演習を中心にした授業ですので、受講できるのはコンピュータへの入力ができる人となります(限られた時間内にデータ解析に進むためです)。	
	動物の目に見える世界	私たちが目に見える世界は、動物にはどのように見えているのでしょうか？人の目は優れたカメラのようなものですが、動物の目にはもっと高性能の眼があります。イカやホタテガイ、昆虫やクモなど、いろいろな動物の目について、その形態や特徴を図や写真で紹介し、人の目の形やはたらきを学んで、イカの目と比べてみましょう。	複数教員共同担当
	生きているということ	多種多様な生物の生きようをみることによって、生きているとはどういうことであるのかを考えるとともに、われわれヒトという種がどのような特徴を持った生物であるのか論じてみたい。	
	エネルギーの科学	20世紀の大量消費・使い捨ての思想は、エネルギー源の枯渇・環境破壊をもたらし、そのまま放置すると人類は自らの手によって自らを滅亡させる最初の種となるでしょう。現在のこの深刻なエネルギー問題について、種種の資料に基づいた客観的視点から考え、認識を深めていきます。そして滅亡から我々を救うために必要なエネルギーに対する正しい基礎知識とその基礎に基づいた正しい認識について学んでゆきます。	
	いろいろなエネルギーと原子力	はじめに、これまで良く使用されてきたエネルギーについて分類し、私たちの身の回りの事柄との関連を考えます。また、現在の日本の電力の30%以上を担っている原子力の利用について考えます。青森県は日本の原子力エネルギー基地といわれることもあります。将来の究極のエネルギー源といわれ、有望視されている核融合エネルギーについて考えます。さらに、現在飛行している国際宇宙ステーションのエンジンや宇宙発電計画など宇宙開拓に関連する事柄も考えます。エネルギー利用上は、メリットばかりでない問題もあります。このような問題を解決するために、人類の知恵とコミュニケーションを最大限利用していくことも大切です。幅広い受講生を考慮し、基本的な科学の知識から先端的な事柄まで講義します。授業は、プリントとパワーポイントを進める予定です。	
	身近な現象から見えてくる物理	この授業では、私たちのゴクありふれた体験をとりあげ、そこから物理の話をしていきます。物理は私たちの周りに生じる(生物分野を除いた)自然現象のしくみを考えるものです。日常生活と密着しているはずなのですが、そうは感じていない人も多いようです。視点を変えることによって物理を身近に感じ理解すること、これがこの授業の目的です。演示実験や机上でできる簡単な実験を含めながら行いたいと考えています。	
	盛岡市周辺の地理と地質	第1回 盛岡は段丘の街(改行)第2回 段丘はいつどのようにしてできたか?第3回 東京の下町・山手と盛岡市街の比較第4回 直線河川の不思議な流れ第5回 他の河川にも見られる不思議な流れ方(改行)第6回 6000年前の岩手山の大爆発(改行)第7回 そのときできた無数の小丘群第8回 鳥海山(山形)にもあった同じような大爆発	
	化学とマイクロスケール化学実験	初日は化学の基礎を現代の先端化学にも触れながら講義により学びます。2日目はマイクロスケール化学という新しい化学教育法に基づく化学実験をお行って、化学を学びます。この方法では実験器具を従来のものよりも小さくするなどの工夫が凝らされています。その結果、試薬、水道、電気の使用量、さらには廃液量も減らすことができ、学習の質を落とさずに環境に優しい実験を短時間に行うことができます。成績評価は、出席状況とレポートの評点により行います。	
	有性生殖の始まりと受精の仕組み	生き物が増えることを生殖と言ひ、増える時に雌と雄が必要な場合を有性生殖、必要でない場合を無性生殖と言ひます。講義では、(1)細胞の世界、(2)有性生殖の誕生、(3)、生殖細胞の形成と減数分裂、(4)動物の受精の仕組み、の4つのテーマについて話をし、細胞と生殖についての理解を深めることを目指します。	
	数学は予測をどう扱うか	いろいろなゲームの中に、人を魅了するものがある。期待がかなってお互いに喜びを共有するもの、パズルには、人ができないのに自分にはできるといったもの、中には期待していない多額のお金を得ることもある。それらに潜む法則を探る。このような単純なことから、生活に関係ある、預金の利息や人を困らせる借金というものも考察する。最後にデータから、予測することを講義する。従って、講義の対象は数値の集まりということになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(共通科目) (自然系)	火山噴火と火成岩	皆さんは噴火やマグマについて不思議に思ったことはないですか。火山はどうして噴火するの？噴火にはどんなタイプが？噴火のエネルギーは？噴火したマグマはどんな移動の仕方をする？マグマを出さない噴火はある？また、マグマが固まった岩石にはどんなもの？マグマの結晶分化作用とは？マグマは地下深部でどのように形成される？マグマは地殻の進化にどんな役割を果たしてきた？一緒に考えてこれらの疑問を解決しましょう。	
	身近な細胞の生物学	私たち人間をはじめ、すべての生物に共通する、生きていくために必要な基本的なしくみは、体を作っている個々の細胞の中で行われている。それら細胞の構造やそこで行われているエネルギー生産、増殖や遺伝のしくみなどを解説する。また、1細胞が1個体の単細胞生物のゾウリムシを例にとり、生活様式や増殖のしかた・寿命や行動など身近な問題について具体的に解説する。	
	台所で出来る化学実験	化学実験というと難しそうですが、台所で出来るような簡単な実験から化学の楽しさと物質の不思議を理解することを目的としています。具体的には、紙おむつに使われている高分子吸水剤の機能を調べたり、アメンボと表面張力の関係やセッケンの作用、アルミ箔と木炭をつくる電池などの様々な実験を通して物質を扱う化学の世界を紹介します。危険がない実験を選びますが、水を使ったりしますので、汚れても良い服装で受講して下さい。	
	情報通信ネットワーク技術	超高速の情報通信ネットワークは情報化社会のインフラとして定着し、電話網からインターネットへのネットワークの量的、質的变化は、ユーザの膨大な情報資源へのアクセスを可能とし、情報流通による新しいビジネスチャンスを生んでいる。情報通信ネットワークの理解には、情報理論、伝送交換技術、マルチメディア技術等を複合的に学習する必要がある。本講義は、情報通信ネットワークの基礎を体系的に習得する事を目的とする。	
	身近な水を調べる	我々の周りには多種多様な水がある。我々はその水を様々な形で利用して生活し、また生命を維持している。今回は、毎日飲んでいる水（水道水やミネラルウォーターなど）について硬度を測定し、河川水など周囲の水も含め、水のもっとも基本的な性質である硬度について学習する。また温泉水や水道水などの鉄濃度を吸光光度法で測定し、我々生命体と鉄との関係を学ぶ。	
	実験で学ぶ生物学 1 植物学	地球上のすべての生命を支える植物のつくりとはたらきを学び、環境に適応した巧みな生き方を探る実験や観察を行う。顕微鏡を用いて肉眼では見ることのできないミクロの世界を探索する。具体的には、1. 光学顕微鏡によりソラマメなどの根端の体細胞分裂の様子を観察する。2. 植物の細胞を単離して細胞壁を分解し、プロトプラストを調製する。3. 茎や葉、花の構造と機能を探る。4. 種子の発芽と植物の成長のしかたについて学ぶ。	
	実験で学ぶ物理学 1 力学	物理学の柱の一つである力学を基本的な実験を通して理解する。日常生活の中で経験するいろいろな物体の運動から月や惑星の運動まで統一的に眺める。	複数教員共同担当
	ミクロな世界を探る	ビッグバンから元素合成までを平易な切り口で解説する	
	基本統計学 - 理論と分析実習 -	高度情報化社会が謳われる中で、私たちの身の回りには統計情報があふれています。本講義では、統計の考え方やデータの統計的活用の理論と方法を、具体的な事例を交えて解説します。また、実際に表計算ソフトウェア Excel を使った身近な統計データの分析実習を行い、基本的な統計グラフや表・統計数字の具体的な意味と活用の方法を学びます。	
	第10惑星を求めて	水星、金星、火星、木星は肉眼でも見える。天王星は宇宙の構造を調べるため恒星の精密位置観測をしていたハーシェルによって発見された。8番目の惑星である海王星は不可思議な運動をする天王星から、理論的な予想に基づいて発見された。冥王星 (dwarf planet) は多数の写真乾板から1930年にトンボーによって発見された。その後も新惑星発見探しは続けられた。これらの惑星探索物語をとおして最新の太陽系の実像について紹介する。また最近続々と発見されている太陽系外の惑星系についても議論する。本科目は予備的な知識がなくても分かるように講義する。	
	実験で学ぶ化学 2 有機化学	本講義の目的は有機化学の基礎知識を実験を通して学ぶことに置かれています。この目的に沿い、有機化学における基本反応である置換反応や付加反応について、また官能基の性質について、実験を通して肌で学び取りましょう。最後に有機化学の反応を利用して有用な物質を合成する喜びにじかに触れてみましょう。	
	実験で学ぶ化学 1 無機・分析化学	物質はいろいろな元素からできている。その物質の性質や反応を探り新しい物質をつくりだそうとする無機化学と、物質の性質や量を解析する分析化学について、実験を通して理解する。	複数教員共同担当
	DNAからみた生物の進化	DNAやタンパク質といった生体内の“分子”を指標として、生物進化のしくみと歴史を明らかにするのが分子進化学である。この分子進化学の発展により、ヒトの進化はもとより、あらゆる生物の進化に関する疑問が解き明かされようとしている。本講義では、基本的な分子の進化のしくみと、これまでに明らかになった生物進化の問題を解説することにより、分子進化学の魅力を紹介する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
（自然系） 共通科目	電気と熱のやさしい科学	電球を点したり、電気コンロを使ったときの電気料金はいくらになるのか？などの日常生活に関わる話題を取上げ、電気と熱の物理学の初歩を学ぶ。授業では電圧、電流、電力量といった電気で用いられる量や単位、電力量と発熱量の関係、そのときかかる電気料金などについて、実験を行いながら初心者向けに解説する。電気と熱の知識の入門用の授業である。	複数教員共同担当
	放送大学の放送施設	放送大学撮影施設や東京タワーの送信施設を見学します。	
	近代天文学と天体物理学の源流	過去約1世紀間の天文学、宇宙科学の発展は実に目覚ましい。そうした発展の源流がどこにあるかを知ることは、現代天文学の意義をよりよく理解する上で大きな助けになる。本講義では、現代天文学にも大きな影響を及ぼしたギリシアの天動説、コペルニクス、ケプラーによる天文学、ニュートン力学、19世紀後半から始まった天体物理学について、その概要をエピソードを中心に学んでゆく。	
	不思議を探る化学の実験	夏の間に点滅する蛍の光、レモン的一滴で変わるハーブティーの色、このような身近な現象がどのような物質により、どのような仕組みで起こるのかをミクロの粒子すなわち化学の視点から探る。光を作り出す物質の合成と反応、天然色素の抽出、色の変化、人工着色料の分離などの実験を通して、観察し、考え、さらにスペクトル測定による理論的裏づけを行ったレポートとしてまとめる。実験を通じてミクロの分子と構造と性質についての実感を養うことを目指す。	
	実用天文学（天文学入門）	天文学は私たちの日常生活にどのように役立っているのだろうか。ここでは天文学の知識を利用して惑星や恒星の位置計算の方法、日頃不思議に思っている天文現象（日月食、彗星、流星など）についても学習する。また、ハッブル宇宙望遠鏡で撮られた天体画像の紹介など最新の天文学事情についても解説する。また夜間は天体観測の実習も行う予定。講義に必要なプリントや資料は授業初日受講生に配布する。	
	環境問題理解の科学的リテラシー	大気環境の悪化、さまざまな有害化学物質の蔓延などの環境問題や各種の事故・災害が現在の私たちの日常生活に混乱をもたらし、将来への不安を与えている。これらの環境問題に関しては、マスコミ等でも多く採り上げられているが、中には人々の不安をいらずに駆り立てるものも少なくない。事柄の正確な理解やリスクに対する理解、最善の意思決定のためには科学的な基礎知識が必要不可欠である。本講義では、身近で簡単な実験を通して、21世紀市民として必要な環境問題に対する基礎的な科学的リテラシーを学ぶことを目標とする。	
	光の科学	身の回りにはあふれていてほとんど意識することがない一方でDVDなどの光学ドライブ、光ファイバを用いたブロードバンド通信回線をはじめ高度な技術には不可欠な光について、理論と実験の両面から学習する。実験では、レーザー光を用いて光の干渉・回折などを観察し、光が波の性質を持つことを学ぶ。また、光が横波であることに起因する偏光とその応用について学習するほか、身の回りの生活との関連にも触れる。光学理論に不慣れな初心者にも配慮して授業を進める。	
	基本統計学 - 理論と分析実習 -	高度情報化社会が謳われる中で、私たちの身の回りには統計情報があふれています。本講義では、統計の考え方やデータの統計的活用の理論と方法を、具体的な事例を交えて解説します。また、実際に表計算ソフトウェアExcelを使った身近な統計データの分析実習を行い、基本的な統計グラフや表・統計数字の具体的な意味と活用の仕方を学びます。	
	宇宙の中の惑星と地球	"天文学の中で宇宙の起源と並んでめざましく進んでいるのが、太陽系及び太陽系外惑星の観測・研究である。本講義では、日本のすばる望遠鏡の活躍などで進む太陽系外惑星系の研究成果を講義し、ついで無人探査機や観測的・理論的研究から導かれるわが太陽系の構造と生成に関する新たな知見を述べる。これらをまとめて、地球の宇宙における位置づけと、地球上の生物、人間という存在についても考える。	
	岩石と人間生活	1. 地球のおいたちを岩石から読む 2. 大陸と変動帯の岩石学 3. 生態系と土壌・岩石 4. 水循環と岩石 5. 都市と岩石鉱物 戦後復興期の日本は石炭をはじめとして国産の地下資源を活用し経済成長の基礎を築いたが、国内鉱業の衰退もあって、現在の日常生活の中で鉱物資源の存在を意識することは少ない。しかし岩石・鉱物は生態系の基盤であり、現代の文明生活にも様々な形で関わっている。本講義では岩石と人	
	分子生物学はいかにして作られた	分子生物学、すなわち生命現象を分子という言葉で説明する学問がどのように確立されたかを、遺伝子組換え技術の開発を境に、第一期と第二期の分子生物学に分けて4回ずつ講義をする。前者では、どのようにして、遺伝子の本体がDNAであることを明らかにし、DNAの遺伝暗号をタンパク質（細胞の特徴を決める重要分子）の構造に結びつけたかを解説する。後者では、各種バイオテクノロジーの基盤となった新しい分子生物学がどのように確立したかを解説する。	
楽しい物理学実験入門	物理学は自然現象の観察を基礎にする学問であり、直接、現象を自身の目で見て、物に手で触れることで理解できることは少なくない。本科目では、初学者を対象として、我々の生活の中で身近なラジオを題材に取り上げ、理論の解説、関連の演習実験、学生自身によるラジオ製作、計測、レポートの書き方の指導を行う。受講にあたっては、筆記用具のほか、関数電卓を持参すること。また、半田付け等の作業を行うので、予め保険に加入しておくことを勧める。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(自然系) 共通科目	暮らしを支える無機材料	我々の暮らしを身近で支えている無機材料は、一方で輸出産業として、あるいは輸出産業を支える役割を地道に果たしている。いずれにしても地味で気付かれ難いその概観を講ずる。1～3回は状態図を初めとした全般的な概論とし、例えばジルコニアを例として材料開発の実例を述べる。4～8回は各論で、陶磁器、ガラス、セメント、電子セラミックス、バイオセラミックスについてそれぞれ一回の講義を行う	
	数学入門	これから数学の科目を履修する上で、必要とされる基本的諸概念について解説する。高校で学んだこと、例えば数や式、関数、集合など、あるいはそれらを発展させた事柄からいくつかの話題を選んで授業する。数学的な事柄を表現するには、これらの概念が用いられることが多い。これらを定義から述べ、様々な性質を解説する。従って、義務教育後に数学の科目を履修したことのない学生も参加できるようにする。場合によっては演習の形態をとって、学生の理解を見ながら授業を進める。	
	身近な現象から学ぶ化学	私たちの日常生活には、化学に関係した様々な現象が満ちあふれている。この講義では、電池、洗剤、プラスチックなどから、現代社会の大きな問題となっているエネルギー問題や地球温暖化問題まで、化学に関連した話題を取り上げ、それらの問題を考えるために必要な化学を、基礎から分かりやすく解説し、化学のおもしろさを理解してもらう。	
	電子の働き	今から100余年前に電子が発見されて以来、素粒子としての電子はミクロな世界を支配する量子論の展開に常に主役であり続けているだけでなく、今日の科学技術の基礎として、文字通りの電子化技術=エレクトロニクスの主役でもあり続けている。本講では電子の基本的な性質の学習からはじめて、エレクトロニクスの基礎となっている半導体技術で電子がどのような働きをしているかを概観する。	
	原子力の話	イランのウラン濃縮、劣化ウラン弾による放射能汚染、北朝鮮の核開発、再処理、核燃料サイクル、プルサーマルなど原子力に関する話題が新聞に載らない日はない。この講義の目的は、原子力発電を軸にこれらの情報を読み解くための幅広いリテラシーを身につけることにある。あまり専門的なことには立ち入らないので、特に基礎知識は必要としない。	
	未来を予測する科学	1. コンピュータとシミュレーションの歴史 2. シミュレーションの意義、役割、使命 3. シミュレーション研究の最先端 4. 自然災害、環境破壊は科学的に予測できるか 5. シミュレーションは産業形態を変革することができるか 6. シミュレーションは社会問題、経済問題に変革をもたらさうか	
	画家デューラーと幾何学	近世ドイツの画家アルブレヒト・デューラーの数学への想いを、その著書「測定法教則」をネタに探る。古代ギリシア以来の古典的な問題、円積正方形、倍積立方体、角の三等分についてデューラーが紹介する当時のドイツの職人たちの実用的近似解法などに触れる。主な関連語は、ルネッサンス、ピエロ・デラ・フランチェスカ、遠近法、メランコリー1大航海時代、ニュルンベルク、ルター、ケプラー、マテオ・リッチ、和算、...	
	宇宙を測る	一秒間に地球を7.5周もする光で8分かかかる太陽の質量は地球の33万倍である。太陽から銀河系の中心まで光速で2.8万年かかり、銀河系の総質量は太陽質量の1000億倍以上と推測されている。また宇宙の果てまでは光速で137億年かかるといわれている。本講義では、このように宏大な宇宙の大きさとその構成員である恒星、銀河の質量をどのように測定してきたのか議論する。	
	文字列や数のパソコン処理	ExcelやWordの使い方を習得し、これらプログラムの動作の原理を示し、コンピュータにおけるデータ処理とはどのようなことをしているかを示す。さらに、比較的、やさしいと言われているコンピュータ言語を使って文字列や数の処理を実習する。また、Webの書き方を習得し、それとプログラムを組み合わせたcgiという概念を理解し、実践する。	
	電気回路基礎論	現代の社会を支える電気電子工学の必須基礎である電気回路論について基礎の学習を行う。基本となる直流回路、等価回路の定理、キルヒホフの法則、また、交流回路における複素ベクトルによる解析法、インピーダンス、さらに、高周波・マイクロ波回路に関する分布定数回路を学習する。授業においては微積分、複素数についての知識を前提とする。	
	4次元の曲率	微分とは、変化の度合いを局所的に測る方法のことで、非常生活の様々な場面で応用されています。例えば、車の位置を時間で微分すると速度が出ます。道路が急に曲がると、危険なので、ハンドル徐々にきることができるように道路が設計されていますが、そのとき用いられるのが曲率の概念で、微分を用いて定義されます。この講座では、こうした、微分の利用法と、その4次元や多面体への拡張を易しい例に基づいて説明します。	
	現代物理の話題(1)	現代物理学では自然の背景にある論理をどのように理解しているか、いくつかのトピックを取り上げ解説する。数式の使用はなるべく控え、わかりやすい説明を試みる。1学期の(1)では主に、力と運動(力学)と熱現象の物理(熱力学)から。特にエントロピーの概念に基づき、地球環境問題や生命とは何かについても考えたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 (自然系)	実験基礎有機化学	私たちの生活には多くの有機化合物が深く関わっている。この講義では有機化合物のうち有機高分子と染料について、基礎的で簡単な操作でできる以下の実験を行う。1：デンプンやセルロースの分解反応、2：セルロースを原料にしたアセテート、レーヨンの製造、3：ナイロン6,6の合成、4：染料(オレンジ11、インジゴ)の合成、および2や3で作った繊維の染色。実験を通じてミクロの分子と構造と性質についての実感を養うことを目指す。	
	科学技術政策論	科学技術に関する政策はどのようなプロセスで決定されるのか。科学技術基本計画やイノベーション施策などを解説するとともに、意思決定プロセスや、サイエンスコミュニケーションなど、理系を専門とする人が知っておくこととして望ましいことについても解説する。受講生は理系に限らないが、科学技術に興味を持っている人を対象とする。	
	力学入門	物体の様々な運動を、少数の基本法則によって体系的に記述する学問が力学である。物理学の中でも基礎的な地位を占め、物理学の典型的な考え方や方法に基づいて構築されている。力学の修得は、物理学一般を理解する上にも重要な役割を果たす。この授業では、始めに基本となる法則を概説し、続いて振動や放物運動等、種々の運動を具体的に議論する。また、数理的な記述に必要な数学に関しても、適宜解説を行う。	
	天文学とその周辺	天文学とその関連分野の基礎的・歴史的なことからについて解説します。1.月(月の満ち欠け、月の出の遅れ、日食・月食、月齢の計算法)、2.暦(グレゴリオ暦と閏年・二十四節気と閏月、六曜)、3.空の色(晴れた空はなぜ青い?雲とフェーン現象、コリオリの力と大気の循環)、4.五行説と十干十二支など。プリントを配布します。	
	情報科学の基礎	身近な情報機器であるパーソナルコンピュータの動きやその働きを例として、情報処理機能の実体であるソフトウェアとその構成要素であるプログラムの働きの概要を実例に則して学ぶ。実際に問題解決を行うプログラムの作成の基本的やりかたと、プログラムの数学的な性質とを調べ、計算の手間を表す計算量とその漸近的な振舞いを示す計算量のオーダの概念を習得する。さらに、プログラムで計算できることとできないことが存在することを示す。	
	問題発見と解決の技法 (1)発見	放送授業『問題発見と解決の技法』や印刷教材では、問題の見つけ方、考え方、進め方、そして総合事例で組み立てられている。面接授業では、主として個人が問題を発見する過程に重点を置いており、各人の結果をまとめて発表し、互いにアドバイスしあい、より良い解決策を見出す技法を身につけることを目指している。そこでは発見から解決に至る過程で考え方をまとめるのに有用な「図解」を利用する。これはキーワード、マル、矢印を使う手法で、問題の発見、理解、考え、解決するまでの各過程で役に立つものである。	
	日常の物理	物理は日常生活からかけ離れた学問のように思われるが、私達のまわりに物理現象はたくさんある。この授業では身近な物理現象に題材を求め、実験を通して基礎的な事象のいくつかを理解する。たとえば、電球の明るさが電圧や距離により変わる様子、電球内部の温度を求める。また、記憶された磁化の様子やカラーマグネットが金属面に紙を止める力を求める。そのほか、温度計の一種である熱電対や電気抵抗など基本的な事を学ぶ。	
	からだの中の化学	我々は生きるために呼吸をし、水を飲み、食事をする。これらが全て化学の基礎と密接に関わっていることを学ぶ。なぜ食べる?毎日食べる量は1年間では膨大になるのになぜ足りない?食べたご飯はどこへ行った?なぜ呼吸する?なぜ水を飲む?生きるためのエネルギーはどうやって生み出される?呼吸の仕組み?からだの中の水の役割?胃液の塩酸はどこからやってきた?腸はなぜ弱アルカリ性?水に溶けない油脂がなぜ消化吸収される?血管中の栄養素はどうやって体細胞に届く?血液とプールの水の共通点?せっけん分子とからだのかかわり?	
	DNAの実験	この授業では、生物の基本分子であるDNAを理解するために、身近な材料を用いて、DNAの基礎的な実験を行う。放送授業「初歩からの生物学(08)」を併せて受講することが望ましい。DNAの組織からの抽出、PCR法を用いたDNA増幅、増幅したDNAのアガロースゲル電気泳動法を用いたDNAの長さによる分離、およびDNAの染色による可視化などの実験を行う。	
	熱の科学	物質にエネルギーを加えると聞いた時、どのような状況を思い浮かべるだろうか。拳でパンチしたり、曲げたり伸ばしたり、電圧をかけることを考えるだろうか。こうした「仕事」によるエネルギー伝達の他に、「熱」という質的に異なるエネルギー伝達が存在する。私たちの身の回りの物理的出来事は、大抵熱を伴っている。この授業では、身の回りの熱の現象を、簡単な実験や演習を通して整理する。熱現象を分子のレベルで理解し、特に分子のエネルギー分布と熱、仕事との関係を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(自然系) 共通科目	算数から微積分まで - 分析する力	私たちがよく知っている加減乗除から調べていって、微積分までをお話します。微積分に代表される解析学は式を通して、物事の分析をする分野です。そこで、この講義では多くの現象を式で表すこと、これがまず第一の目標です。次に、私たちがよく知っている比例ということを通して、この現象（もしくは式）を分析しわかることです。この2番目のことが微積分の本質であるのです。これらのことをできるだけわかりやすく、お話してみたいと思っております。授業はできるだけ対話形式で行います。気兼ねなく、質問やご意見をしてくだされば幸いです。	
	計算化学	パソコンを使って化学の基礎を学びます。原子や分子などのミクロの粒子のもつ私たちが通常目にするマクロの物質の性質とは非常に異なるものです。これらのミクロの粒子の運動や性質は量子力学の知識を用いて初めて理解できます。また、光と色との関係などについても量子力学で明確に説明できます。化学は大切だとは思いますが、どうも覚えるのが多くて好きになれない、あるいは日常生活において実感がないなどと思っている人を歓迎します。	
	水の環境化学	水は地球上を循環しているが、さまざまな人間活動の影響によりそのバランスは崩れ、各地で洪水や乾燥化が起こっている。また、さまざまな物質による水の汚れも報告されている。東京多摩地域では身近な水環境の保全や修復のためにさまざまな活動が行われており、その活動や身近にできる実践活動について述べる。また、講義中に水辺に行き、簡易法により水質（COD、アンモニアなど）を測定し、結果の意義を解説し、水環境の保全について討議する。	
	サイエンスをいかに伝えるか	若者の理科離れに限らず、大人の科学リテラシーの低下が報告されている。携帯電話やテレビなど原理を理解しなくても、十分に使いこなし、楽しめる科学技術がある一方、遺伝子組み換え作物や再生や生殖医療における生命倫理については、科学技術を理解した上で広く一般市民が話し合う必要がある。本講義では、科学、特に先端科学技術を理解する必要性や重要性や共有し、どのような手法が効果的であるか、実践を例示しつつ解説する。科学と個人、科学と社会のコミュニケーションについて共に考えていく。	
	視覚障害者のための物理実験	視覚障害者であれ健常者であれ、衣服・食物建材をはじめとして日常生活のさまざまな場面で物質に接する。それらの物質を利用し、場合によっては危険を回避するには、物質の性質を知り、扱い方に慣れおくことが必要である。特に、視覚障害者にとっては健常者とは違った方法で物質を検出し、認識することが必要と思われる。本講義では、視覚に頼らない検出と独自の工夫による物理実験を通じ、物質の理解と扱い方を学ぶ。	
	身近な化学 - 水・酸素の不思議	日常生活を送るうえでも化学的な知識があることにこしたことはない。身近な化合物である水と酸素は化合物である水と酸素は化学的に観ると極めて不思議な物質である。水はH ₂ Oだが酸素の結合数が2であるのは何故か。もし水が折れ曲がり構造物ではなく直線構造であったらどうなるか。こうした問題を化学的立場から説明いたします。さらに例えば水が水より重いとどうなるか。何故台風は海上で発達するのか。黒潮と親潮ではどちらが魚が多いか。日本は水の大量な輸入国といわれているがその意味は。白身の魚と赤みの魚は何が違うか。活性酸素とは何か。ラジカルは何故連鎖反応が起こるのか。液体酸素磁石にひきつけられるのは何故か。メタンハイドレードとは何か、マイナスイオン効果は科学的に認められているかなどをテーマにして、化学の面白さ・重要性を伝えることを心がけます。	
	基本統計学 理論と分析実習	高度情報化社会が謳われる中で、私達の身の回りには統計情報があふれています。本講義では、統計の考え方やデータの統計的活用理論と方法を、具体的な事例を交えて解説します。また、実際に表計算ソフトウェアExcelを使った身近な統計データの分析実習を行い、基本的な統計グラフや表・統計数字の具体的な意味と活用の仕方学びます。	
	細胞生物学実習	この授業では、生物の基本単位である細胞のしくみを理解するために、身近な材料を用いて、細胞の構造や機能に関する以下の基礎的な実験・観察を行う。放送授業「初歩からの生物学(08)」を併せて受講することが望ましい。1.)顕微鏡の使い方と細胞・核の観察; 2.)水生植物の細胞の観察(改行) 3.)動物細胞(ゾウリムシ)の飲食の観察; 4.)植物細胞の分裂(体細胞分裂と減数分裂)の観察; 5.)動物の卵巣と子宮組織の観察	複数教員共同担当
	元素のはなし	物質の元である元素とは何か? 元素はどのようにして出来たのか? 元素を創ることは出来るのだろうか? 元素の基本的な性質はどのようなもの? 安定な元素と不安定な元素? など、元素に関する基礎的な講義を行う。	
	デジタル表現	この授業では、光の色の表現法(混色系、顕色系、色の三色性)を学習し、音声情報や画像情報をデジタル情報に変換する方法(標本化と量子化及び符号化)を学びます。また、テレビの原理やテレビジョン放送について学習して、映像通信やデジタル信号についての基礎知識を習得します。さらに、アナログ放送とデジタル放送について、電波の性質や変調方式の知識を身につけることで現代のデジタル表現技術を味わってみましょう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(自然系) 共通科目	海洋底からみる地球システム	地球の表面の大部分は深海底によって構成されている。深海底に関する情報が劇的に増大した事によって、地球の変動システムに対する理解は大きく前進し、プレートテクトニクスが成立する事となった。こうした深海底に関する情報収集や、地球上最大の隠れた山脈である海嶺の実態とそこで生じている様々な地質現象について紹介する。また、過去の海洋地殻が陸上に露出しており、そうした例についても紹介する。	
	岩石破壊としての地震活動	地震は地殻を形成する岩石の破壊によって発生します。物の破壊について基本的な物理的意味を理解し、実際に空き缶を潰す実験で破壊を体験します。日本列島の活断層を概説し、中部地方の活断層、特に富山県下の活断層について少し詳しく説明します。地震に伴う現象としての津波、火災、液化化現象、地殻変動を阪神大震災などから概観し、地震予知の現状について私見を交えて説明します。受講者は参考書にあげた吉村昭の文庫本を一冊でも読むことを薦めます。	
	台所のできる化学実験	台所に良く見られる食材等を利用して化学実験を行い、基礎的な化学の知識、原理・手法を学ぶことを目的とする。1台所から電気は生まれる。2台所は染料の宝庫である。3ワインから消毒液を作る。4牛乳紙パックで色素を分離する。などのテーマを予定している。	
	宇宙からの放射線	X線はレントゲンにより19世紀末に発見され、それに刺激されたベクレルは放射線(線)を発見します。X線や放射線に関する研究はやがて原子核の発見につながります。1960年代以降、宇宙からのX線や線も発見され、その発生源としてのコンパクト星(中性子星、ブラックホールなど)の存在もわかってきました。本講義では、放射線を主眼として、19世紀末から最近までの物理学の発展を概観します。	
	生活と物理	物理学の対象はミクロな世界から宇宙まで、空間的、時間的に大きく広がっています。皆さんの日常生活の中にも物理的現象が数多くみられ、また、物理学の成果がふんだんに使われています。どんな所に、どのような法則が活かされているか、その法則はいつ、どのようにして発見されたかといった点について、見ていきます。物理学の基礎的概念の理解と、物理的なものの見方に力点を置きます。	
	分析化学入門	私たちを取り巻く自然は化学反応と物理変化の巧妙な組み合わせの結果である。自然を理解するためには、物質を「はかる」ことから始めなければならない。この授業では、まず、自然における物質(周期表)およびその化学反応と物理変化を概説し、「はかる」ことの歴史的展開並びに現代におけるいくつかの概念(単位系やデータの取り扱い)と方法論を述べる。さらに、実際に物質を分析して、それをもとに得られた自然の理解を紹介する。	
	数とは何か	数の意味と働きを考えることにより数学の面白さ・味わいがわかることを目指します。人が数学を学ぶとき、自然数、有理数、実数、複素数と数の種類が増えて、負数あたりから数の不可解性・神秘性が現われます。例えば、マイナスかけるマイナスはなぜプラスか、複素数はいったい何を指し示すのか…。この授業は聴講生自身が数の形成過程を資料で準体験しながら進行していきます。	
	暮らしの中の数学	社会現象や自然現象を含め我々の日常生活の中には、あまり気付かないけれども数学の重要な原理が使われたり、原理に従っていることがかなりあります。この授業ではその原理を数学的に出来る限り分かり易く解説し、その活かされ方をトピックス的にお話します。進め方としては、中学校、高等学校レベルでの、論理、数、図形、解析の各分野の基礎的な部分をもとに、数学的な思考の仕方を含めながら薦めていきます。	
	秋の夜空から考える宇宙	夜空に見える星や星雲はどうしてそこにあるのでしょうか？偶然なのでしょうか、必然なのでしょうか。天体の世界は日常の時間感覚や距離感覚とはかけ離れた世界のように感じますし、直接触ることもできません。この様な天空の世界を人類は如何にして理解しようとしてきたか、何がわかって何がまだわからないのか、この時期に見える天体を例にしながら考えます。なお、晴天であれば天体の観望を予定しています。	
	基礎物理を用いて自然を学ぶ	自然界の現象には、基礎的な物理に基づいて考えたときに初めて理解できる現象がたくさんあります。この講義では、力学の基礎的な考え方を復習したうえで、力学の基礎を用いたときに理解できる自然の現象について学びます。そのうち、身近なところで生じている自然現象について、物理法則に基づいて考察を進めていきます。なお、物理的な数式展開について理解しなくてはならないため、必要に応じて演習の内容を交えます。	
	生活のなかの化学	1. 今、日本の化学は！子どもの理科離れは本当か2. 食品添加物3. 地球の環境4. 電池と光触媒5. さびのはなし6. 水のはなし以上のような問題をとりあげ、私達の日常生活は、化学とはきってもきれない関係にあることを、実例をつかって解説したい。今の日本人の大人は、いかに理科(科学・技術)離れをしているか考えて欲しい。	
細胞小器官のはたらき	すべての生物は細胞からできています。細胞の中は、核・葉緑体などの区画(細胞小器官)があり、たとえば核はDNAなどの遺伝情報を管理し、葉緑体は光合成をおこない、というように、それぞれが独特のはたらきをしながら細胞の活動を支えています。この講義では細胞小器官のはたらきについて一つ一つ解説し、細胞や生命のしくみに対する理解を深めてもらうことを目的とします。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(自然系) 共通科目	気候変動と氷河の消長	地球の気候は、過去数十万年の間、約10万年周期の氷期 - 間氷期変動、さらにその中で1万年から10年程度までの様々な時間スケールの変動を繰り返してきた。その結果、山岳地の氷河が大陸をおおう氷床に拡大したり、逆に消滅したり、激しい氷河の消長が起こるとともに、世界の海面、陸上の生態系、人類の生活等に著しい影響が及ぼされた。本授業では、以上の講義に加え、氷河の映像や資料を題材にしつつ、実習、演習等を取り入れる。	
	自然災害の痕跡を訪ねて	鳥取市は山陰地方の小都市ですが、昭和初期に千代川の氾濫による洪水災害を受けている。また、昭和18年9月10日に鳥取地震(M7.2)が発生し、1083名が亡くなる壊滅的な被害を受けている。さらに、昭和27年には市内の大半が延焼する大火を経験している。鳥取市内には、災害を克服して町を再建してきた痕跡や、堆積平野特有の地盤沈下の被害などが随所に見られる。自然災害の発生メカニズム、山陰地方特有の自然現象などについて講義する。また、鳥取市内の災害跡などを巡って、現地で学習する探訪を行う。	
	社会・人間・自然-脈絡の化学	物質のあらゆる意味での変化を理解するための基礎科学は“化学”である。化学は、物質文明(改行)は勿論のこと、人間と自然を含めて、これらを“くもの巣”のような脈絡で繋いでいる。この「脈絡」を、社会・人間・自然の視点から正確に理解する努力をすることが益々重要な時代になっている。(改行)本講義では、身近な問題(環境問題、医薬品など)を取り上げ、それを“化学の眼”で整理し、それによって新しい眼力を醸成することを主眼とする。	
	数学の目でみる身の周りの事象	身の回りにも数学で説明できる事象が数多くある。数の表記法から始めて利息や人口問題、音階、橋の崩落等を取り上げ、関数とは何か、指数関数と対数関数などを解説し、微分積分の入門まで導く講義にする。数学が自然や社会と深い関係にあることを強調したい。	
	化学と社会	有機化学を中心に、化学が社会の中でどのような関わりを持っているかを知りましょう。最近では、「有機化合物=環境汚染物質」的な感覚もありますが、薬も有機化合物ですし、服や、プラスチックもテレビの液晶も有機化合物です。そこで、まず化学および有機化学の基本的知識を説明します。それを基に、次に、有機分子はその形により色々な性質を示します。その事例を、環境汚染物質、薬、最先端の機能性材料等の有機化合物を含め、実例を挙げて紹介します。	
	身近な現象からの数値計算入門	諸自然現象に対する数学モデルを構築し、その解を利用して実現象を予測することが必要とされる。しかし現実的な条件において数学モデルの解析解を得ることは困難な場合が多い。そのため数学モデルから直接、数値的に求める数値解で代用するシミュレーション技術が重要となる。この講義では、数理的な解析を重点にせず、身近な自然現象をわかりやすく紹介しながら数値シミュレーションの流れの全体像を紹介する。	
	古生物学入門 - 化石の剖出・復元	本講義では、主に古生物(貝類)と古環境について考えます。概論講義後、高知県に分布する鮮新統唐の浜層群穴内層(約200万年前)より産出する「安芸の喰わず貝」として有名な大型貝化石を中心に微小貝、有孔虫や耳石等の化石のクリーニング(整形)をし、化石の同定法を身に付けます。最後にこれらの古生物と古環境の関係について考察します。	
	昆虫観察から学ぶ身近な環境学	昆虫は非常に種類が多く、一つ一つが限られた環境で生活しています。そのため昆虫から得られる環境についての知識は、無限と言っても良いくらいです。本講義では昆虫とは何かを学び、実際の野外での観察を通じて昆虫の生息環境を理解し、環境変化など環境問題について考えます。	
	加齢・老化と寿命	本講義では受講者とともに、「加齢・老化」について医学・生物学的に考えていく。とくにそのメカニズムと予防について重点的に解説する。さらに、現在の日本における高齢化社会の現状についても紹介する。講義には視聴覚メディアを併用する。	
	グラフ=頂点と辺の組合せ	グラフ理論は、一つ、二つ、三つと数えることのできるものを対象とする離散数学の一分野で、すべての橋を丁度一回ずつ通る散歩道を見つけるパズルを解決したことを起源としています。グラフとは、頂点と呼ばれる点とそれらを結ぶ辺からなる一種の図形です。散歩道のパズルを解いたり、世界一周経路を見つけながら、離散数学の世界を少しだけ覗いてみましょう。	
	酒の熟成と化学	お酒は単なるエタノール水溶液とは異なっている。お酒中に含まれる微量成分のうち、有機酸やポリフェノール類によって、水とエタノール間の結合が強くなっていくことが明らかになった。「時間が経てば自然においしくなる」とのこれまでの常識を修正する理論、「各種の酒類に共通する熟成の統一理論」が初めて提案された。授業の主な項目は次の通りである。1. 水分子を構成する原子間の化学結合力 2. エタノール水溶液の化学 3. 酒類の熟成と成分 4. 飲酒と健康 5. 酒と文化	
	生命の進化と地球環境の変動	地球における生命の誕生とその進化について、『地球環境』をキーワードとして、わかりやすく解説する。講義で取り上げる話題は以下のとおりである。地球の形成過程、地球と他の惑星との相違、生命の誕生、酸素を作り出す生物たち、カンブリア紀の『生命の大爆発』、恐竜の進化と絶滅、人類の誕生と進化、氷河時代、現在の地球環境問題とその未来。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 (自然系)	水の科学	水は、降水 河川・地下水 海水 降水という地球規模での循環を繰り返しており、その過程で水の中に溶け込んでいる塩分量は化学反応が関与して変化します。世界中で行った調査結果をもとに、水の性質、水の循環、酸性雨、カルスト、砂漠地域の地下水等、水が係わる現象をおもに化学の立場から紹介します。簡単な実験、計算およびスライドショーを予定しています。	
	オリゴ糖の機能	糖質工学の進歩により、種々の生理機能を持つオリゴ糖が開発され、食品領域では特定保健用食品素材として利用されている。機能性オリゴ糖は、整腸作用、難う蝕性、コレステロール上昇抑制作用、ミネラル吸収促進作用などの生体調節機能を有し、主に酵素を用いて工業的規模で生産されている。本講義では、機能性糖質の具体的な開発例を挙げながら、オリゴ糖の構造、生理機能発現のメカニズム、製造方法などについて解説する。	
	文化的景観を考える	人間の生業や生活によって形成された文化的景観について、その生成・景観の構造、及び景観の保全とツーリズム等の活用に関わる諸課題について考える。具体的には、ユネスコの世界文化遺産や、文化庁の重要文化的景観等を事例に、イギリスのコッツウォルズの農村景観、フランスのブドウ畑、アジアの棚田景観などである。	
	感覚と行動の生物学	動物は、外界からの様々な刺激を感覚器官で受け取り、その情報を脳(中枢)で処理し、その時の状況に見合った適切な行動を起こすことで、日々生き抜いています。これは動物たちが普段からそつなくこなしていることですが、実は大変巧妙な数々の仕組みが上手く機能してこそ実現できるのです。本講義では、いわゆる五感とよばれる様々な感覚と、それらに伴う行動のメカニズムについて、生物学的視点から学んでいきます。	
	コンピュータの基礎とその使い方	コンピュータは今では単に計算する機械ではなく、電子メールや画像処理などの例から分かるように、情報を処理する道具となっており、仕事の上だけでなく日常生活に欠くことのできない基本的な道具になってきている。の講義では、コンピュータの実物の内部を観察しながら、その基礎を学び、ある程度使い方に習熟することを目的としている。	
	自然とゆらぎ	お寺の鐘の揺れ、そよ風の吹く様、心拍時間間隔、株価の変動というようにさまざまのところで「ゆらいでいる」現象がみられる。自然界で起きる「ゆらぎ」、特にまったくでたために振舞う現象を中心に「ランダムである」とはどのようなことであるか学ぶ。そして、それらの揺らぎの現象の機構やダイナミクスを理解してもらい、揺らぎの世界と人間の世界との関わりをとおして、自然や社会を考える際の見方を学んで欲しい。	
	やさしい物理実験入門 1	物理現象を理解するためには、起こっていることを観察し、整理して、いろいろな項目がどのように関係しているかを考えることが大切です。この科目では、私たちの身近で使われているバネの性質や振り子の原理などについて簡単な実験をしながら勉強します。実験では(1)まず、何を知らたいかを考え(2)次に、そのためには何を調べる必要があるかを決め、(3)具体的な実験方法を考え(4)実験をし、(5)結果を整理して(6)いろいろな項目の関係を調べることをします。「実験」というと大げさに聞こえますが、大がかりで高価な実験装置ではなく、できるだけ容易で安価に手に入る材料や、計るものを工夫することも大切です。簡単な現象を例に理解する方法、理解して説明するプロセスを勉強します。	
	世代と世代をつなぐDNA	世代と世代をつなぐ遺伝の本体としてのDNAを理解するために、インド型イネ、日本型イネとその二つを交配したF1個体からそれぞれDNAを抽出する。そのDNAを使用して、遺伝子増幅(PCR)法により遺伝子を増幅する。その増幅した産物を電気泳動して、増幅した産物を確かめる。さらにPCRにより増幅した産物を使用して、サイクルシークエンス反応を行い、塩基配列をDNAシークエンサーにより解読する。	
	将来に役立つ地質学	この講義では、私たちが住む大地の成り立ちにスポットを当て、自然の摂理について学びます。それを踏まえて、地質学が多様で、地球上で起こる様々な現象が研究対象であること、私たちの生活に最も身近な学問であることを理解していただきます。身近で起こる災害を、具体例を挙げながら説明し、その災害を軽減化するためにはどのような工夫をしなければならぬか考えてみたいと思います。	
	数の文化	1. 偶数は何故できたか、どんな意味を持っているか。2. 自然数の表現方法はどんなものがあるか、加減乗除はどんな意味をもっているか。3. 分数はどうして必要なのか。4. 小数と分数との間にはどんな関係があるか。5. 小数の表現方法としてはどんなものがあるか。これらのことを考えてみたい。	
森と人の関係	森と人の関係には深いものがある。森の木々が養分を作って流してくれるので、川や海の生き物たちは育ち、人も生命を保持していける。本授業では、1) 森の生産力 2) 森の構造 森は穴の集合体 3) 森に生き物たちが多い理由 4) 身近にあるたんぼの観察を通して自然の見方考える(改行)5) 学内の植物たちの観察 6) 世界に誇れる沖縄島ヤンバルの生物相などを紹介したい。最後に活性化を望む人と森の関係にふれたい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(自然系) 共通科目	日本型食生活のための調理加工学	健康を増進し、豊かさや満足感のある質の高い食生活を、自ら営むために必要な基礎的な調理加工の原理について学習する。調理加工の終点はおいしい食物の調製にあり、おいしさを決める味や、調味料と調味操作の関係について理解する。特に、日本の伝統的な発酵調味料である味噌、醤油、みりんについて理解を深め、質の高い日本型食生活の実現について考える。	
	基礎化学実験	身近なものを素材とする簡単な化学実験を通して化学の不思議さやおもしろさを経験してもらい、我々の日常生活が化学により支えられていることを理解してもらおう。本授業は予備説明と実験により構成され、実験の主なテーマは (1) 身の回りにおける食品中の成分分析、(2) 医薬品の化学合成、(3) 染料の化学合成と染色、である。またこの授業の成績は出席状況とレポートの内容に基づき総合的に判定する。	
	美林、秋田スギ青森ヒバ考	木曾ヒノキとともに三大美林として知られる秋田スギと青森ヒバ、こうした賞賛はおそらく近世に入ってから北前船による西回り航路完成にもなっていることと思われます。日本の木の文化の主役がスギとすれば、その名脇役の一つはヒバかもしれません。ブナやミズナラと深くかかわる両樹種の森林造成・利用について、環境樹木学と自然文化誌の面から考えてみることにしましょう。	
	心と体にやさしい住まい	日常生活における「癒し」が注目される中において、住まい方を通して、家族一人ひとりにとっての心の安らぎと健康をどのように実現するかについて考える視点を提示する。成績判定は出席状況のほか、講義中の小レポートの評点により行う。なお、講義内容は平成18年度「健康と住まい」及び平成20年度「住まいの安心安全」と一部重複する。	
	数学と言葉	数学で使う言葉には日常の言葉とは違い、独特の言い回しがあります。従って数学を「言語」という観点から捉え直します。外国語を初めて学ぶように、a,b,c,から始め文法を学びます。これらは他の言語と違い単純な構造をもっています。また証明とは何か、正しいとはどういうことか、といった基本的なことを再考します。予備知識は仮定しませんし、自然の理解以外の学生向けの授業でもあります。成績評価は出席を重視します。	
	現代宇宙論へのいざない	観測的宇宙論と呼ばれる分野の最前線について、入門的な講義を行います。数式は出てきませんが、宇宙や天文学に興味のある人ならどなたでも聴講できます。本授業は単なる現代宇宙論の解説にとどまらず、平田篤胤の宇宙論など日本や秋田に関連する宇宙観の変遷についても積極的に取り入れて行く予定です。また手作り望遠鏡など、宇宙に親しむために必要な機器の作成にも挑戦する予定です。	
	化学実験法入門－酸化還元反応－	自然の探求には、実証が欠かせません。本講義では、基礎的な化学実験を通じて、実験観察の重要性を理解し、論理的な考察をおこなうことを目標にします。個人実験ですが、初歩から指導しますので、経験が無くとも受講できます。また、知識を基にした考察ではなく、実験観察の結果を化学反応式で説明することに力点をあおきますので、専門的な知識を特に必要としません。実験テーマは、基礎的な酸化還元反応を取り上げます。	
	動物の行動と生体リズム	授業の前半は、動物の行動について考えてみます。動物の行動で、脳と知能行動との関係についてお話しします。後半では、生体リズムについてお話しします。私達の身体にはいろいろなリズムがあります。睡眠覚醒リズムもその一つです。現代の生活スタイルでは、睡眠覚醒リズムが異常になり不眠になる危険があります。リズムを正常に維持する方法についてお話しします。	
	コンピュータと数学	コンピュータの歴史を、その開発に関わった人物達を中心に、彼らの情熱と夢とを辿ってみる。その途中で、計算の基礎となっているものを見ていきます。(改行)歴史を扱った書籍では、工学的側面からのものが多いので、論理・数学的側面から見ていきたい。パペッジの階差関数の復元資料(実際に動いている階差関数の動画)などを交えながら、やさしく計算の基礎理論入門をやりたいと思います。	
	情報科学入門	現代は高度情報化社会といわれています。おびただしい情報の海の中で、コンピュータを効果的に使い、日常生活を快適に過ごしていくためには、情報技術について基礎から学び、理解する必要があります。本講義では、コンピュータの仕組みや考え方、情報とはなにか、情報処理ではどのようなことができるか、デジタルデータの構造とその扱い方などについて、初歩・入門レベルから講義します。	
	熱と温度 - エネルギーを考える	私たちは熱があるなどと言います。そして体温計で熱を測ります。これは感覚で捕らえられた熱を体温計という計器で数値化したことを意味します。普段何気なく使っている熱の中身は何なのでしょう。そしてそれを数で表した温度は一体何を示しているのでしょうか。この授業では熱と温度の関係が段々に明確になっていく過程を先人の残した研究成果を中心に、身近な具体例を取り上げてお話し、熱と温度、そして熱が行う仕事とエネルギーの関係にも触れる予定です。	
	太平洋構造発達史	10～7億年前の太平洋の発生と、最新の地球内部画像から想定される太平洋の地下構造との比較・対照から、太平洋ができてきた過程を復元する。また、この復元の過程から生ずる海陸分布と進化過程との関連を探る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(自然系) 共通科目	水と環境の科学	水は身近にあり、われわれの生存には空気と共に欠かせない。それだけではなく、地球の環境をつくったり、いろいろな化学反応にも関与している。水はどのような物質で、どのような特徴をもっているのか。主に化学や生物の立場から考えていく。	
	植物と地球環境	太古の地球上には生命体は存在せず、無機物だけの世界であった。そこにバクテリアの祖先が現れ、やがて光合成によって酸素を発生する藍藻(シアノバクテリア)が現れた。その結果大気が酸化のとなり、酸素を利用する生物が現れるようになる。高等生物が現れるのはおよそ4億年前であるが、その後動植物は爆発的に発展し、現在のような地球環境ができあがった。本講義では、地球環境との関係から植物の発展の歴史を考察する。	
	実験で学ぶ化学3 物理化学	光に関する基礎的な事項と実験(実習)の原理について解説し、その後、レーザー光を用いた実験(実習)「干渉計による空気の屈折率の測定」を行う。実験(実習)では、光の干渉効果を自分の目で実感し、理解することを目的とする。/ 固体物質が電気を流すとはどういうことかについての基礎事項を解説し、続いて実験(実習)の概要を説明する。実験(実習)では、有機半導体薄膜の電気伝導特性が不純物添加によって変化することを測定し、その機構を理解することを目的とする。	複数教員共同担当
	実験で学ぶ生物学2 動物学	動物を対象として、以下の基礎的な生物学実験を行なう。(1)マウスの解剖、体を構成する多様な細胞の顕微鏡観察により、哺乳類の体のつくりについて理解する。(2)ホルモンによる血糖調節に関して実験し、体の恒常性維持のしくみについて考える。(3)動物組織よりデオキシリボ核酸(DNA)の抽出と検出を行ない、遺伝子の物質的実体を確認する。(4)小型熱帯魚ゼブラフィッシュを用いて、脊椎動物の胚発生を理解する。	複数教員共同担当
	実験で学ぶ物理学3 熱力学	物理学の柱の一つである熱力学を基本的な実験を通して理解する。日常生活の中で経験するいろいろな熱に関する現象と日常経験しない高温、低温で生ずる現象を统一的に眺める。	複数教員共同担当
	実験で学ぶ物理学2 電磁気学	物理学の柱の一つである電磁気学を基本的な実験を通して理解する。日常生活の中で経験するいろいろな電氣的、磁氣的現象を统一的に眺める。	複数教員共同担当
	廃棄家電は宝の山	日常生活において、電気・電子製品があふれているが、どのような部品がどう組み合わさって作動するのは、いわゆるブラックボックスである。そこで、廃棄の運命にある家電製品やパソコンを分解し、部品や回路を理解すると共に、使用可能な素子などを取り出し、各素子の動作特性、素子の結合回路の特性などを調べる。そのために、分解するための工具(ドライバー、半田ごて、ペンチ、ニッパーなど)の使用法を習得し、各素子の特性を測定するテスター、オシロスコープの使用法をマスターする。そして、獲得した素子を用いて、基礎的な回路を、素子の特性の理解の下に、組み立て、静・動の特性を測定する。得られる素子の種類により、実現できる回路は変わるが、RC放電回路、LRC共振回路、ダイオードによる整流と平滑化、フィルターなどを製作・測定したい。	
	数字の目で見える身の回りの事象	身の周りにも数学で説明できる事象が数多くある。数の表記法から始めて利息や人口問題、音階、橋の崩落等を取り上げ、関数とは何か、指数関数と対数関数などを解説し微積分の入門まで導く講義にしたい。	
	数の体系	数の体系は代数方程式の根の概念と共に拡大されていった。講義ではこの点を中心にして、関係する話題を交え、適宜演習を行いながら説明をしていく。具体的には、前半は集合論から始めて、整数・素数と実数の性質などを説明する。後半では、複素数、有限体、そして数概念の拡張としての行列について説明する。日常生活の中での数概念の応用や、歴史的話題などにも触れられれば幸いである。	
	生命科学入門 - がん発生のしくみ	日本人の死亡率の1位はがんであり、2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで死亡しているといわれる。がんは、一般に、1人の人の1つの細胞内にある特定の遺伝子に変異が起こり、その細胞ががん化することによって、細胞分裂が止まらなくなることから起こる。それでは、なぜ、どのようにして遺伝子に変異を起こすのだろうか?この授業では、遺伝子を作っているDNAから出発し、遺伝子への理解を深めながら、どのようにがんが発生するのか学んでいくことにする。	
電気電子実験基礎A	身近な電気電子回路に関して、理論と実験ではどう違うのか? どうして、そういった違いがでてくるのか? ということを実際の体験を通じて、考察することを目指す。まず、パソコン上で動作するソフトを使い、理論の確認を行う。次に、実際の装置を使って、実験を行う。最後に、簡単な回路を作成する。		
電磁気学基礎論	電磁気学は電気電子工学の必須基礎科目の一つであることにとどまらず、多くの理工学分野さらには医療・生物などの分野においても基礎科目として重要視されている。本授業においては、電磁気学の全体像を理解して、それを応用するための学習を行う。具体的にはクーロンの法則からマクスウェル方程式にいたる学問体系を学び、演習によってその応用力を養う。なお、この授業は平成20年度第2学期に開講した「ベクトルと電磁気学入門」とほぼ同じ内容の講義である。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(自然系) 共通科目	動物の生体進化の謎を探る	現在の地球上には、実に多くの生物が多様な姿で生息しています。なぜ、動物はかくも多様な姿で生きているのでしょうか?本講義では、動物の起源と進化のルートを紹介し、特に大きく適応放散した哺乳類や鳥類等の脊椎動物、および昆虫類の生態を説明し、このような進化を遂げるに至った理由について考えをめぐらせたいと思います。	
	4次元の曲面積	積分とは、微小変化の和で全体量を測る方法のことで、日常生活の様々な場面で応用されています。例えば、車の速度を時間で積分すると位置が出ます。イクラは丸い形をし、赤血球が円盤形をしているのは、表面積に対して体積を最大、あるいはできるだけ小さくするためですが、表面積や体積は積分を用いて計算できます。この講義では、こうした、積分の利用法と、その4次元や多面体への拡張を易しい例に基づいて説明します。	
	基本統計学 理論と分析実習	高度情報化社会が謳われる中で、私たちの身の回りには統計情報があふれています。本講義では、統計の考え方やデータの統計的活用理論と方法を、具体的な事例を交えて解説します。また、実際に表計算ソフトウェアExcelを使った身近な統計データの分析実習を行い、基本的な統計グラフや表・統計数字の具体的な意味と活用の仕方を学びます。	
	問題発見と解決の技法 (2) 解決	グループで問題のテーマを考え、その解決策を導いていく上での、発想や整理の技法を学ぶものである。問題を自分達で見つけ、解決策を見出すまでの過程をグループで話し、各グループの結果をまとめて発表する。個人における問題解決に比べ、実際の仕事や生活では、より大きな組織的・社会的な問題を集団の中でどのようにして進めるかが大きな課題となる。その進め方を実習を通して身に付けていくことを目指す。なお、「問題解決の発想と表現」面接授業で単位を修得した学生はこの科目を受講することはできない。	
	基本統計学 - 理論と分析実習 -	高度情報化社会が謳われる中で、私たちの身の回りには統計情報があふれています。本講義では、統計の考え方やデータの統計的活用理論と方法を、具体的な事例を交えて解説します。また、実際に表計算ソフトウェアExcelを使った身近な統計データの分析実習を行い、基本的な統計グラフや表・統計数字の具体的な意味と活用の仕方を学びます。	
	面白い力学	高校レベルの復習と、大学初級レベルの力学を学習します。スポーツや自動車など身近なものを題材にして、力、運動量、エネルギー、パワーなど力学の基礎概念を身につけます。定式化の過程では、微分、積分を使用することもあります。微積分の計算を駆使するわけではありません。物理クイズや、おもちゃなどを利用した簡単な演示実験も取り入れます。	
	表のサイエンス入門	関係モデルは、関係データベースの概念モデルであり、表を数学的な集合概念としてとらえた点で画期的な意義をもちます。この講義は、表を数学的に抽象したものが関係モデルであり、関係データベースの背後にあるフォーマル(形式的)な理論の重要性を理解してもらうことを目的とします。受講上の注意:関係データベースソフト(Access等)の使用経験と、高等学校程度の数学(技術面よりも論理的思考能力)の理解力が必要です。パソコン実習は行いません(座学のみ)。	
	恒星と宇宙	天文学入門として、宇宙空間の大きさ、太陽系の惑星、月とこよみ、恒星のエネルギー、膨張宇宙と宇宙の地平線などについて解説します。具体的な内容は、1.空間の大きさ、2.太陽系と惑星、3.地球と月、4.膨張宇宙、5.恒星の光とエネルギー、さらに、6.こよみと干支。プリントを配布します。	
	素粒子とニュートリノの世界	我々を包む大きな世界である宇宙は、実は、超ミクロな粒子である素粒子と密接な関わりを持っています!その関わりのお話から始めて、言わば想像を絶する素粒子の世界を、できるだけ易しく、式を使わずに、“イメージ”をつくりつつ見ていきましょう。後半は、素粒子の中でも特に奇妙で、最近になって漸く舞台に立ったと思ったら、あっという間に、世界のスーパースターになったニュートリノの超不思議ワールドを楽しんで下さい。	
	植物も動く	植物は「植わっているもの」すなわち動かない存在である。しかし実際には植物にもいろいろな運動がみられる。植物の運動の中には、動物との共通性の高いものと、植物に特有のものがある。本授業では、運動の種類と運動機構、およびその生物学的な意義を紹介する。	
	数学の目で見る身の回りの事象	身の回りには数学で説明できる事象が数多くある。数の表記法から始めて、利息や人口問題、音階、ばねの振動、地震、橋の崩落等を取り上げ、関数とは何か、増加と減少を指数関数・対数関数を中心に解説する。微積分の意味について考え、簡単な式が多くの事象を表すことを見る。	
	食と健康そして生命科学	本授業では、現代における問題点を科学的に把握し、解明につなげる基盤となる知識の習得を目指す。身の回りのサイエンスを眺め、「食と健康」をキーワードとし、様々な生体現象を分子レベルで理解することに勤める。疾患のなりたち、遺伝子組換えとはなにか、タンパク質・酵素の多様性と生理的役割、ゲノム解析とそこから生まれる新しい学問領域などについて概説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(自然系) 共通科目	電子の不思議	物質の性質は、その物質中の電子によって決定される。物質中の電子には、粒子性と波動性の両方が現れる。物質中の電子のふるまいを決める量子力学の入門をおこない、実際の物質と電子との関係について簡単に解説する。	複数教員共同担当
	自然の贈り物、鉱物の魅力と応用	人間の使う材料のうち、無機物の多くが地球上に存在する鉱物を資源としている。地球上の92の元素のうちいくつかの組み合わせから各鉱物はできている。特定の鉱物が集まっていて、人にとって有用な場合、鉱床といい、採掘し、利用される。一方で鉱物はその原子配列から美しい形状や色、光沢を持つものがあり、珍重される。どのようにして鉱物は形成され、どう使われているか。美しさの秘密は何か。地球資源の現状とともに学んでみよう。	
	植物と健康	人類は洋の東西を問わず病気との闘いには、貴重な経験と伝承に基づく身近な植物で対抗してきた。古くから治療、健康維持に世界中で広く利用されてきている薬草の中には、世界の歴史を変えたものも少なくない。前半で、そのような歴史的薬用植物を取上げ、健康との関わりについての認識を深める。後半では健康食品、化粧品などの素材としての代表的植物の機能性と安全性について講述し、日常生活の中の植物に対する理解を深める。	複数教員共同担当
	微古生物学入門	観察に顕微鏡が必要となる化石は微化石と呼ばれています。プランクトンなどの遺骸が化石化したものです。微古生物学はこの微化石を通して地球の歴史・生命史を紐解こうとする学問です。本授業では、微古生物学の基礎やトピックスを講義・解説するとともに、世界各地の深海底堆積物などを実際に顕微鏡で観察します。微化石を実感していただき、示準化石、示相化石、海洋生命史の理解を深めるきっかけにしていだけたらと思います。	
	インターネットと情報科学	1995年ごろから一般の利用が可能になったインターネットは、私たちの日常生活に根付いてきています。高知大学で提供している情報や、インターネット上の興味深い技術を取り上げ、その背景や応用について実習を交えて学びます。	
	生命と生命観の歴史	さまざまな社会現象を含め、物事のしくみを理解しようとするとき、その現象の成り立ちを歴史的に見ることが大切である。「いのち」についても同様である。(改行) この授業では、生命の起源と進化の様子に加えて、「いのち」がどのように考えられてきたか、「いのち」の理解がどのように進められてきたか、についていくつかの話題を提供する。	
	量子論的物質科学入門	物質科学を量子力学的視点から概説する。授業では実験を取り入れ体験的な理解を促す。必要な数学的手法は授業の中で説明し、特に高度な予備知識は必要としない。・物質の世界(対称性と空間群)と物質の構造解析(フーリエ変換と回折結晶学)・量子力学入門(定在波と量子条件)とシュレディンガー方程式(水素原子・波動関数と電子軌道・周期表と量子論的結合・混成軌道と化学結合・金属・半導体・磁性体)	
	昆虫学概論	昆虫は地球上の生物の中で最大の種数をもつ、非常に繁栄している動物群である。そのような昆虫について、その進化や系統、さまざまな生活様式、人の生活との関わり等について紹介する。	
	血液と尿の生化学	血液は栄養素や酸素をすべての細胞に供給するとともに、ホルモンなどの情報分子を必要とする細胞に送ったり老廃物の回収を行うなど、体内の物質と情報の流通システムの中心として働いている。一方、尿は血液からろ過された物質を含み、両者はともに、からだの状態を正確に反映している。この授業では、血液と尿の構成成分とその働き、構成成分の変化とからだの状態との関係などについて解説する。	
	ベクトルと行列	沢山な変量にかかわる現象を理解しようすると、多次元の思考が必要であり、そこでは、ベクトルと行列の概念が大切になってきます。具体的には、行列、行列式、連立1次方程式、次元、固有値と固有ベクトル、行列の対角化などについて学びます。	
	薬物送達システムのしくみ	薬を適切な時間に必要量だけ、正確に体内の作用部位に送り届ける運搬システム(DDS,薬物送達システム)では、生体の機能を巧みに利用しています。DDSのしくみを十分に知ることによって、生体への理解が深まります。この授業では、薬の歴史や生体内運命の基本的な説明から始まり、DDSのしくみを中心に、DDSの手法や遺伝子治療などについて解説します。	
	コンピュータのしくみ	コンピュータを学ぶとき、単にその使い方を学ぶだけでなく、コンピュータの仕組みを学ぶ必要がある。仕組みを学んでおくと何が起こったときに適切に対応できるからである。本講義では実際にコンピュータを分解して、そのハードウェアとしての構造と動作原理を理解し、さらにソフトウェアの構造を学んで、コンピュータを適切に扱えるように総合的に学ぶ。	
	DNAからみた生物の進化	DNAやタンパク質といった生体内の"分子"を指標として、生物進化のしくみと歴史を明らかにするのが分子進化学である。この分子進化学の発展により、ヒトの進化はもとより、あらゆる生物の進化に関する疑問が解き明かされようとしている。本講義では、基本的な分子の進化のしくみと、これまでに明らかになった生物進化の問題を開設することにより、分子進化学の魅力を紹介する。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(自然系) 共通科目	魚類の博物学	魚類の分類、進化、多様性、生物地理について概説する。まずは、分類学誕生の背景を大航海時代から探り、学名を解説するとともに現在の世界の博物館を紹介する。次に新種を発表するまでの手順や海外でのフィールド調査など、最新の研究手法・過程を紹介する。さらに、鹿児島県の魚類相を紹介し、外来魚問題についても言及する。最後に魚類標本の作成・管理法を学び、実際に標本を観察し、魚類の形態の多様性を考察する。	
	地球の環境問題を考える	地球の環境については、いろいろな面から危機的状況が叫ばれている。本授業ではどんな問題があるかを述べ、私達はどんなことを行ったらよいかを考えたい。取り上げる内容は、1)地球の誕生、2)空・海の誕生と進化、3)酸性雨、4)炭酸ガス増加問題、5)オゾン層破壊、6)森林伐採、7)エネルギー、8)人口、9)食料などである。	
共通科目(外国語科目)	英語講読 (08)	Lafcadio Hearn の書いた作品の中から短いものを3編選び、それらを読みながら英語を学ぶ。毎回の授業を、本文の読解・訳・文法事項の説明及び背景説明・比較文化的解説の二部に分け、多角的な視点からのアプローチで英語を学習するよう工夫する。	複数教員共同担当
	英語中級B (06)	イギリスの前衛劇場ロイヤル・コート・シアターとBBCテレビが提携して製作したキャリル・チャーチル作の戯曲『トップ・ガールズ』のビデオを鑑賞し、演劇関係者へのインタビューを交えて、詳しい解説とともに生きた現代英語の核心に迫ります。英語表現の練習のための Useful Expressions のコーナーも加えて、親しみやすい授業を目指します。	複数教員共同担当
	英語総合A (05)	中級から上級レベルの学生を対象に、英語の歴史的・文化的な背景を理解しながら、英語を実際に運用することを学び、論理的な思考方法と議論の仕方を習得することを目標としています。講義では、英語の歴史、近世・近代の社会経済や思想哲学、ニュートンやダーウィンなどの自然科学思想、労働問題、都市と田園、英国紳士、女性像の変遷など、歴史・文化・社会に関するさまざまなテーマについてのテキストを読み、専門家へのインタビューを聞きながら、自由に問題を考え、意見を表現する方法を身につけることをねらいとしています。卒業研究や大学院進学を目指す学生にとっても有益な講義のはずです。	複数教員共同担当
	実践英語 (10)	日常生活やビジネスの場でも応用が利く会話をマスターできることを目標に掲げる。同時に、大学の科目としてふさわしい教養豊かな番組を目指す。 発音やコミュニケーションのマナーといった基本的な問題を考えると同時に、『基礎からの英文法('09)』や『英語の基本('08)』で学んだ文法や表現を英語をもちいる現場で実際にどのように運用していくのか、その応用能力を高める練習問題を豊富に扱う。 イギリスやアメリカだけでなく、英語をもちいる世界の国々、たとえばカナダやオーストラリア、さらにはケニアや南アフリカといったアフリカの国、シンガポールやインドなどのアジアの国々の英語文化についても短い紹介コーナーを設けることで、グローバル化した現代社会における多文化共生のあり方を考えてみる。 最後に、ニュース、ビジネスや文学、芸術などさまざまな問題を英語で考えるコーナーを設けることで、英語による自己啓発と自己表現を助長する。	
	英語総合B (07)	英語の勉強で大切なのは言葉を好きになることですが、そのための一つの方法は詩を声に出して読む、そしてできれば暗唱してみることです。その時に美しいメロディがあればより楽しいでしょう。詩を読む喜びを、詩の朗読を聞きその詩に書かれた音楽を聴くこと、さらにその詩によって喚起された連想を促された作曲家の心を想像すること、またその詩や歌が作られた時代の背景などを学ぶことなどを通して味わっていただきたいと思えます。	複数教員共同担当
	ドイツ語入門 (06)	ドイツ語の発音から始めて、動詞の現在形と命令形、名詞と冠詞、形容詞や前置詞など、文を構成する基本的な単位を学びながら、ドイツ語の文型の基礎を習得します。過去に関する時称はまだ出てきませんが、助動詞も学びますので、日常的な簡単な表現を理解でき、また平易な文を作ることできるようになります。	複数教員共同担当
	ドイツ語入門 (06)	ドイツ語入門 の後を受けて、過去時称から始めます。過去形や完了形に続いて、受動文や関係文など、少し複雑な表現形態を学びますが、重要な事項に絞って解説します。 ドイツ語入門 と合わせて、ドイツ語の基本的な文法と表現パターンを習得することがねらいです。	複数教員共同担当
	ドイツ語基礎 (06)	言語表現は文化そのものです。「ドイツ語基礎」はその観点に立って、単純な構造の文章から複雑なものへ、表現の仕方をたどりながら、段階的に徐々に高度な文章を理解するように組み立ててゆきます。採用する教材は、ドイツ文化の紹介をするもので、同時に、あまり難しくしないものを選ぶ予定です。 ここでは、ドイツ語と日本語を比較しながら、言語の背後にひそむ文化の共通性と差異性について一般的に考え、それを通して全体の導入とします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（外国語科目）	フランス語入門 （ 06 ）	<p>毎回3分ほどのスケッチ、「セバスチアン、フィリップ、アリスとその仲間たち」（3人の子供たちが繰り広げる物語）を見ながら、そこで用いられている表現を中心にフランス語の基礎を学習する。文法はフランス語入門、入門 全体で一通り完結させる。</p> <p>スケッチは各回3度、はじめに日本語字幕付き、次にフランス語字幕付き、最後に字幕のついていないものを流す。反復練習や文法の解説、イラストを使った会話表現の学習、練習問題などを通じて、45分の授業の中で、少しずつフランス語の理解を深めていけるように工夫してある。</p> <p>また授業の途中に、「Ma ville, mon quartier」（わが町、わが界隈）というコーナーを設けてある。パリ、ディエップ、ストラスブールなどのフランス6都市を一住民の視点から紹介するこのコーナーの目的は、フランス語の学習を通じて、より広くフランス文化全般に親しんでもらうことにある。毎回、それぞれの町に関係の深いテキストの朗読も行なう。</p>	複数教員共同担当
	フランス語入門 （ 06 ）	<p>パリのアパートマンで共同生活を営む、さまざまな背景を持った4人の若者たち（アネス、ブノワ、イザベラ、ジャン＝リュック）を主人公にした会話のスケッチを題材として、フランス語入門Iに引き続き、フランス語の基礎を学ぶ。文法はフランス語入門I、IIの全体でその主要な部分を完結させる。さらに文法的な知識を踏まえつつ、スケッチの登場人物の会話を解説することで、実践的なフランス語運用能力の基礎となる知識を身につける。</p> <p>また毎回、10分ほどの「シャンソン・コーナー」を設け、よく知られたフランス語の歌を取り上げて歌詞を詳しく解説し、その正確な理解を助けると共に、フランス語の「音」に親しむことを目指す。</p>	複数教員共同担当
	フランス語基礎 （ 06 ）	<p>文法中心の体系的な語学プログラムではなく、文化的なテーマによって導かれたモチベーション教育である。</p> <p>1. 書き下ろしのフランス語テキストや文学作品の講読＋文法解説＋表現練習＋簡単なフランス語会話 2. 日仏の交流の接点で活躍する方々のインタビュー・コーナー 3. シャンソン・コーナーの3つの枠組みで展開される。</p> <p>放送授業ではメディアの特質を活かし、生きた言葉、多彩なフランス語の音声に触れる機会を可能なかぎり提供する。</p> <p>「フランス語をスキルとして習得すること」「フランス語を通して異文化を学ぶこと」 2つの課題が共存し、また連動することで、学習者の意欲が高まることを願っている。想定される履修者は「フランス語入門」いわゆる「初級文法」を終えたレベルだが、かつてフランス語を学んだ方のリフレッシュや中級レベルの発展的な教材としても活用できるように工夫した。</p>	複数教員共同担当
	中国語入門 （ 05 ）	<p>平易な会話文を読みながら、中国語の発音と最も基本的な文法項目を学習する。文法項目が単なる項目の羅列に終わらないよう、折に触れて復習を行い、体系的に把握できるように努めたい。</p> <p>なお、この「入門」では、初修中国語で身につけるべき内容のおおよそ半分を学習したことになる。本科目を学習し終えた皆さんには、ぜひとも引き続き「中国語入門」を学習していただきたい。</p>	複数教員共同担当
	中国語入門 （ 10 ）	<p>初修中国語として習得すべき内容の前半部分。本科目は「入門」と一体のものとして制作し、発音及び文法事項の前半部分を扱うこととする。</p>	複数教員共同担当
	中国語入門 （ 05 ）	<p>「中国語入門」に引き続き、文法項目・語彙・表現の更なる習得を目指す。初修中国語として学ぶべき内容は、「入門」まで学ぶことによって初めて完結する。</p>	複数教員共同担当
	中国語入門 （ 10 ）	<p>初修中国語として習得すべき内容の後半部分。本科目は「入門」と一体のものとして制作し、文法事項の後半部分を扱うこととする。</p>	複数教員共同担当
	中国語基礎 （ 08 ）	<p>一通り中国語の基礎を学んだ方々のために、やさしいが本格的で、興味深い中国語の文章を読むことで、ステップアップのための機会を持ちたい。全15回の材料は、おもに近代中国知識人のラブレターから、一部を選りすぐり、当時の中国の背景やジェンダーの意識を探りながら、現代中国・現代日本との違いや、いまま変らぬ側面を確認する。題して「ラブレターは書きますか」。</p>	
	スペイン語入門 （ 07 ）	<p>スペイン語の美しい響きに親しみながら、初級文法の基礎を学ぶと同時に、スペイン語文化圏の多様性にも触れていきます。各授業で学ぶ文法事項は、日本でスペイン語圏の人たちと接する場面を設定したオリジナルのスキットを通して身につけていく工夫がされています。練習問題は授業で解く基本的なもの余力のある人が解く自習用の2種類を用意しました。発音、リスニング、会話も十分に練習できるように随所にアドバイスを施しています。また、語学の習得のみならず、音楽を通じてスペイン語圏に親しむほか、ゲストを迎えてスペインやラテンアメリカの魅力について語っていただきます。</p>	複数教員共同担当
	スペイン語入門 （ 07 ）	<p>「入門I」で学んだ初級文法の基礎を修了させると同時に、引き続きスペイン語文化圏の多様性にも触れていきます。文法解説、練習問題などで文法事項を確認したのち、オリジナルのスキットを通して、発音、リスニングを練習し、応用表現を学んでいきます。また「入門I」に引き続き、さまざまな分野の専門家を迎えて、「入門I」とは別の角度からスペイン語文化圏の文化にアプローチしていきます。</p>	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 (外国語科目)	韓国語入門 (06)	簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができるようになること、掲示や簡単な説明文を読めるようになることをめざす。まず、発音・文字(ハングル)の練習を十分に行ったのち、基本的な表現を使って簡単な文章を作る練習を行っていく。あわせて、スキットなどを通して韓国の文化・習慣を紹介し、それらに対する理解を深める。	複数教員共同担当
	韓国語入門 (06)	韓国語入門を終了した程度の実力を持つ学習者を対象とする。いろいろな表現を使って韓国の人とコミュニケーションができるようになること、新聞記事などを読めるようになることをめざす。基本的な表現のうち、韓国語入門で学習しなかった事項について練習するとともに、スキットなどを通して、韓国の文化・習慣に対する理解をさらに深める。	複数教員共同担当
	日本語基礎A (06)	外国人学習者に日本人の社会と文化を紹介する。外国人留学生による日本人へのインタビューを通し、日本人の生活や働く姿を伝える。日本語能力試験3、4級レベルの文法事項、語彙、漢字の基礎的運用能力養成を図る。マルチメディアの特色を生かしつつ、コミュニケーション能力を養成する楽しい講座をめざす。 放送番組(放送教材)及び印刷教材ともに日本語により行います。	複数教員共同担当
	日本語基礎B (07)	学習者のレベルは、初級後半程度を考えている。放送は、全部、やさしい日本語で行う。印刷教材は、2部に分かれている。第1部は、外国人学習者用の解説と課題、第2部は、日本人教師用の解説となっている。外国人学習者は、第1部だけ勉強すればよい。試験問題も日本人教師とは違うものを用意する。コミュニケーション能力をつけるため、いろいろな会話の表現を勉強する。いろいろな国の人に日本に来てから経験したことを聞き、異文化コミュニケーションについて考える。日本の都市を12選んで、その地理や、文化・歴史的な特徴などを紹介し、日本理解を深める。そのほか日本の詩歌も紹介し、説明する。会話やナレーションの中に出てきた大切な文法事項についても勉強する。	複数教員共同担当
	初歩のアラビア語 (06)	この科目のねらいは、アラビア語の読む・書く・聴く・話すことの基本を、アラブ・イスラーム文化に触れながら、楽しく習得することです。毎回、イスラームの文化事情やアラブの人々の暮らしを紹介した映像、インタビューなどを豊富に盛り込んで、アラブ・イスラーム文化について理解しながら、アラビア語の基本を学んでいきます。第1回から第5回では、28文字からなるアラビア語のアルファベットをマスターします。同時に、簡単な表現も学習していきます。第6回から最終回までは、毎回スキットに登場する基本文を理解しながら、やさしいアラビア語の単語、表現、文法の学習を行います。練習問題にも挑戦して、応用力をつけていきます。	
(外国語) 共通科目	医療・看護の英語1	放送大学作成のビデオ教材を通して、医療・看護の現場で用いる英語コミュニケーションを易しく、楽しく、機能的に学びます。教材は、現場で日々経験する場面を、分かりやすい英語で構成しています。具合の悪い状態を伝える、質問する、対応するという場面が中心です。ビデオを見ながら、ロール・プレイ(役割練習)を行って、コミュニケーション場面を実際に体験します。海外旅行などで具合が悪くなった時にも使える内容です。	
	英語初級：音読	「英語が使える」とは単に英語をべらべらしゃべることだけではありません。リスニング、スピーキング、ライティング、リーディングの4技能をバランス良く身につけることで、「役に立つ英語を身につける」と言えます。この4技能のために必要な練習は「音読」です。「音読」を基礎練習として、リスニングとリーディングを中心にした授業構成です。(改行) この授業を通して語学学習のコツをつかんでもらうのが目標です。	
	简单文法・単語で学ぶ実践中国語	最小限の簡単な文法。単語でも、うまく活用すれば中国語コミュニケーションが可能です。場面に合わせた機能表現を適切に使えば、基本的な語句を駆使することでコミュニケーションが取れるようになります。旅行(飛行機、空港、両替、ホテル等：呼びかけ、質問、依頼、感謝)や日常生活(買物、レストラン、交通機関、値段交渉等：挨拶、説明、説得、満足)の実践会話をモデルに、中国語で楽しくコミュニケーションしましょう。	
	初級英文の読み方	(1)初級~中級の一般英語学習者向けに書いた新聞コラムをテキストにしました。(2)註解つきです。英文の構造を理解するため、スラッシュで区切りながら考えます。(3)読解は音読もして楽しみましょう。発音も基礎から勘所を学びます。(4)英検4級、3級程度の読解問題や基本的な音読練習(シャドーイング)も行います。(5)応用英作文では初級(以上)の英会話作文を考えてみます。	
	じっくり始めるフランス語	「パリの鉄則 若くてハンサムな男に並べ」を副題として考えたのですが、さて何の意味でしょうか?ここではフランスへの旅の場面を題材に、日常の基本表現を学びます。フランス語を始めたばかりの人を対象に、動詞活用の暗記ばかりではなく、他のビデオやCDも使い、ことばを通して文化に触れ、世界がひろがることを目指します。教科書以外の教材はプリントして配布します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 共通科目	中級英語音声表現演習	本授業では、中3の各検定済英語教科書から選りすぐったレッスンの付属CDを活用した音読トレーニングによって、頭の中に英語の回路を作ることを目指します。発音、リズム、区切り、イントネーションに注意しながら、テキストの内容に即した音声表現の技法を身に付けます。	
	スペイン語の第一歩	スペイン語とはどういうものか、それを知る取っ掛かりを提供できればと思っています。スペイン語は母音は5つで「アイウエオ」しかありませんから、いわゆるローマ字読みで済ませることができます。発音で苦労することはありません。この授業ではいくつかの場面の会話をとりあげて、基礎を学びます。	
	韓国語初級	近年、韓国映画やドラマなど、いわゆる韓流ブームの追い風によって韓国の文化はかつてないほど急速に私たちに受けられています。しかし、韓国語という外国語が日本人にとって最も習得しやすい言語の一つであることは意外に知られていません。本講座では、初級(入門)レベルの韓国語と韓国の現代文化に触れることにより、韓国語を身近な存在として理解することを目指します。	
	英会話演習	本講義では、今まで学んだことのある英語の文法、語彙知識を掘り起こしながら、日常生活の身近な事柄について、「聞く」「話す」の2つの技能を強化していきます。最終目標は、「相手の話題を理解し、それに應對していけるようになること」「自分から自然に話題を提供できるようになること」「1分程度のスピーチができるようになること」の2つです。	
	楽しく学ぶ初級中国語	中国語初級の講座です。中国語の発音や文法の基礎を学んだことのある方とごいっしょに、さらに一歩進んだ中国語を勉強したいと思います。声を出した会話練習と、文章の読解(翻訳)に中心的に取り組みます。また幅広い表現のための文法を身につけます。中国語や中国の文化、暮らし、歴史などについて、日ごろの疑問にお答えする時間もと、楽しく学んでいただきながら、中国文化や中国語への関心を高めてもらえればと思います。	
	韓国語初級 1	韓国語の初級を学びます。まず文字と発音を学び、基本的なあいさつをはじめとする日常会話を学びます。さらに会話にも使える簡単な文章の読解と作文についても学び、より上のレベルの学習の準備をします。また「冬のソナタ」などでひろがった韓流ブーム関連の映像視聴をとりいれた学習はもちろ、さらに現地への旅行も想定したすぐに使える韓国語会話の学習も計画しています。	
	楽しく学ぶ入門中国語	中国語入門の講座です。はじめて中国語を学ぶ人、中国語をあらためて学びたい人とごいっしょに中国語の基礎を学びます。声を出して練習し、きれいな発音のコツをつかみましょう。基礎文法をマスターし、あいさつや自己紹介などできるようになりましょう。授業では、中国の文化、暮らし、歴史などもご紹介し、楽しく中国語を学んでいただくとともに、中国文化や中国語により関心を持っていただければと思います。	
	音楽で学ぶ英語リスニングの基礎	外国語の基礎は音を聞くことから始まります。しかし英語と日本語の音の違いを理解していないといつになっても英語の音が聞き取れません。それは英語の音を日本語の音に置き換えて聞いているからなのでしょう。最初は英語の音声と日本語の音声の違いを理論面から解説します。次に実際に発音して、正しい英語の音になっているかどうか練習をします。最後は応用編です。音楽を聞きながら、実際の音を聞き取る訓練をします。楽しみながら英語を学習してください。	
	韓国語初級 2	韓国語の初級を学びます。まず文字と発音を確認し、基本的なあいさつをはじめとする日常会話を練習します。さらに会話にも使える簡単な文章の読解と作文についても確認しつつ、より上のレベルの学習をめざします。また韓流ブーム関連の映像視聴を通じて、これまで学んだことを確認するとともに、現地への旅行ですぐに役立つ表現も確実に身につけます。成績評価は出席状況や学習状況にもとづいて行います。	
	フランス語の初歩	初学者を対象とした、フランス語の初歩の授業です。まず、簡単な入門レベルの文法について、練習問題などを解きながら、学習します。また、受講者全員で、2人1組のペアを組んでもらい、簡単なフランス語会話の練習と暗記をします。簡単な動詞や基本的な単語について、発音を聴き、発音をまねし、そして、何度も書く練習をします。	
	英語の綴りと発音	第1時限目：英語の(視覚)綴りと(聴覚)音声の根本的な違いを確認。第2時限目：英語の母音の綴りと音声の関係を確認。第3時限目：英語の子音の綴りと音声の関係を確認。第4時限目：英語の強勢と弱勢、特に弱勢に重点を置いて説明。第5時限目：英語の抑揚・イントネーションと意味の関係を確認。第6時限目：英語の音省略。第7時限目：英語の音融合。第8時限目：全体として英語らしい発音のコツと英語の方言【地域方言・社会方言】・英語発音史を概説します。	
	韓国語と韓国文化	韓国語の起源や歴史、成り立ちについて学びつつ、韓国語の背後に潜んでいる韓国文化の本質に迫ります。とりわけ本授業では、韓流ブームの影響で日本のメディアによく登場するようになった 1 ハン(恨:情緒)、 2 ウリ(われら:人間関係)、 3 キムチ(漬物:食文化)、 4 モッ(粋:美意識)、 5 アリラン(民謡)といった五つの言葉を取り上げ、それぞれの言葉に込められている意味と、そこから広がる文化的・社会的・政治的・芸術的要素を浮き彫りにします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 共通科目	「中国語入門1」補習	放送授業「中国語入門1」の関連科目。レベル3(1~5の5段階で表示)。放送授業「中国語入門1」履修中の方に対応する授業です。授業では、「中国語入門1」の中から重要な項目や理解しにくいと思われるポイントを重点的に取りあげ説明します。またスキットの会話練習や応用問題に取り組むことによって、「入門1」をより立体的に理解することを目指します。なお、必要に応じて発音(ピンイン)の問題も取りあげますが、発音を基礎から学びたい方は先に「初めての中国語(発音編)」を受講することをお勧めします。	
	日常生活のなかの医療英語	海外との交流がますます広がる今日、医療や看護の現場のみならず、旅行先などにおいてもMedical Englishを必要とする場面がとて多くなっています。本講義では、様々なケースで役に立ち、時には一刻を争う場においても最低限対応できる日常生活の医療英語を、ロールプレイを交えながら楽しく学びます。	
	初めての韓国語(会話編)	放送授業「韓国語入門1」の関連科目。印刷教材の第6回までを扱う。初めての韓国語(発音編)を受講した人が、韓国語の文字(ハングル)が読める人を対象とした授業。簡単な挨拶や表現を中心に、会話を通じて韓国語の最初の部分を勉強することを目的とする。単に言葉だけでなく、簡単な韓国文化・生活の紹介も交えながら行う予定である。印刷教材の必要ページのコピー他、オリジナルの共通教材を配布。最後に小テストを行う。発音と文字(ハングル)が全くわからない方は、まず「初めての韓国語(発音編)」を受講することをお勧めする。	
	英語講読Z	この授業は、放送授業「英語講読('08)」の内容に基づいた授業です。「英語講読('08)」の印刷教材を使用します。授業ではL1~L12(予定)の本文のみを扱います。履修される方はあらかじめ本文を読んできてください(指名して訳していただくこともあります)。最後の時間に英文和訳のテストを行い、その成績を含め総合的に評価します。	
	英語の基本A	この授業では、放送授業科目「英語の基本('08)」で扱った内容に基づいて、英語の文章を読んだり、英語の発話を聞き取ったりする力を養うと同時に、様々な種類の文章(エッセイ、手紙文、物語、場合によっては新聞記事など)に馴染んでいくことを目標にします。また、放送授業で学んだ基礎的な文法を使って、英文を書いたり話したりできるような機会を提供することを目的とします。授業中に行って頂く活動などもありますので、是非積極的に授業に参加して下さい。	
	初めてのロシア語(発音編)	(ステップ1)とにかくロシア語に触れてみるための授業です。ロシア文字を知らなくても受講できます。ロシア語がどのような音からできているか一つひとつ確認し、その後具体的に簡単な会話表現を使って実際にロシア語の会話の練習をします。またその会話表現を通じて、ロシアの文化や習慣、ロシア人の考え方などにも触れる予定です。さらにはロシア語の歌や詩を聞き、ロシア語の響きを感じてもらいたいと思います。教材はオリジナルの共通教材を配布します。最後に小テストを行います。	
	初めての韓国語(発音編)	放送授業「韓国語入門1」の関連科目。印刷教材の第3課までを扱う。韓国語未習者に対応する授業。発音と文字(ハングル)の習得を目指し、韓国語の最初の部分を勉強することを目的とする。単に言葉だけでなく、簡単な韓国文化・生活の紹介も交えながら行う予定である。印刷教材の必要ページのコピー他、オリジナルの共通教材を配布。最後に小テストを行う。これから韓国語を学ぼうという方にもっとも適した授業である。	
	中国語で学ぶ中国事情	中国語のマスターには、発音が最も重要であり、発音の基礎固めをしてから、文法、会話、読解力へと総合的に学習できる人材の育成を目標とする。放送大学の教材を参考として、日常生活で頻繁に使用する語彙が掲載され、また、中国事情を加味した市販の教材を選定、使用する。その他に、最新話題、ニュース等(日中対照)を補助教材として使用する。	
	初めてのフランス語(発音編)	放送授業「入門1」の関連科目(第2回まで)。文化・社会・歴史に開かれた導入編の授業です。発音編では、DVDやCDなどを用いてフランス語の音声に親しむこと、ロールプレイをやりながら簡単な挨拶を身につけることが課題です。放送授業で学んだ語学の知識の実践的な練習を通して、自分の発音が正しいかどうか、フランス語の音声聞き取れているかどうかを確認する授業となります。さらにオリジナルの共通教材を配布し、イメージを通して、フランスの多様性を学びます。終了時に小テストを行います。	
	初めてのドイツ語(会話編)	放送授業「入門1」の関連科目(第4回あたりまで)。文化・社会・歴史に開かれた導入編の授業です。印刷教材の必要ページのコピー他、オリジナルの共通教材を配布。教材に基づき文法事項を理解のポイントに重点を置き解説しながら、随時その背景にある考え方にも触れつつ、知識を深めます。日常会話の学習では、なるべく多くのヴァリエーションを用いて、反復演習を重視します。この授業の履修者は、ごく簡単な文を読んだり、話したりすることができるようになります。最後に学んだ知識を確認するために小テストを行います。	
	原書で読むイギリス文化と思想	『英語総論A('05)』を主な教材として、英語の原文を読みながら、イギリスの文化や思想を学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 共通科目	初めてのベトナム語 (文化編)	初めてベトナム語を学ぶ学生を対象とした、ベトナム語とベトナム文化・社会に関する導入編 (ステップ1) の授業である。ベトナム語とはどのような言語であるのかをその歴史的背景と共に理解し、画像等を用いてベトナムの文化・慣習、地理・社会・歴史についての総合的理解を図る。最後に小テストを実施する。この授業では共通教材を使用する。会話編 (ステップ2) の前に受講することが望ましい。	
	原書で読むイギリス史 (上級)	17世紀から18世紀を中心にしたイギリス史を英文の原文抜粋を読みながら俯瞰する。	
	初めての中国語 (文化編)	放送授業「中国語入門1」の関連科目。レベル2 (1~5の5段階で表示)。中国語未習者に対応する授業です。授業では、簡単な会話文などを手がかりに、中国の文化・社会・歴史にまつわるいくつかのトピックを取りあげ、中国語と中国文化に関する理解を深めることを目標とします。放送授業「中国語入門1」に対する導入編の授業ですので、放送授業履修前に受講しておくこと効果的です。なお、発音 (ピンイン) についてより体系的に学習したい方は、先に「初めての中国語 (発音編)」を受講することをお勧めします。	
	中国語中級 (会話編)	放送授業「中国語入門2」の関連科目。レベル4 (1~5の5段階で表示)。「中国語入門1」程度の学習歴がある方を対象としますので、全くの初學者の方の履修は適当ではありません。この授業は、ある程度の中国語の知識を持っていることを前提に、会話に重点を置きながら進めていきます。これまで習得した知識が実際の会話の中でどのように応用されるかを学んでください。	
	英語講読Y	この授業は、放送授業「英語講読 ('08)」の内容に基づいた授業です。英語講読 (08) からテキストを抜粋し、和訳しながら文法の要点を学習します。日本語と英語の構造上の特徴、形式と意味の関連などを比較しつつ和訳する上で重要と思われるいくつかの文法項目をマスターすることを目指します。成績評価は出席を重視して行います。授業時に教科書として英語講読 (08) を使用します。	
	英語の基本B	放送大学より出版の『英語の基本 ('08)』 (斎藤兆史・大橋理枝共著) を指定テキストとして、全15章のうち8~10章ぐらいを集中的に学習します。授業ではDVDも視聴し、リーディングやビデオスクリプトを読み合わるとともに、補助教材 (コピー) を用いて必要な語彙や文法事項を復習します。成績評価は5回中4回以上の出席および面接授業でカバーした内容に基づくレポートの二点により行います。面接授業のため参加型の授業形式を取りますが、授業を聞いて学びたい学生さんの意向にも沿えるような授業運営です。	
	初めてのドイツ語 (発音編)	日本でも馴染みのあるドイツの地名・人名などを手がかりにしながら、単語の読み方や発音の練習を行います。また、オリジナル教材を使用しながら、挨拶や簡単な日常表現を身につけます。ドイツの文化や歴史、社会の紹介を織り交ぜながら授業を進めます。「ドイツ語入門1 (06)」の第1回第2回に対応しています。	
	英語中級B	戯曲などの会話を参考にしながら、中級レベルの日常会話表現を習得することを目標とする。	
	初めてのスペイン語 (会話編)	放送授業「入門1」の関連科目 (第4回まで)。文化・社会・歴史に開かれた導入編の授業です。ビデオやCDなどを用いてスペインの音声に親しむこと、ロールプレイを通して実践的な場面で運用できる表現を身につけます。この授業では様々な動詞や活用の基本を勉強します。あいさつや自己紹介の表現から発展させた、日常生活や旅行などで使える実用的な表現を学ぶと同時にスペイン語圏の文化、歴史、社会の知識も身につけます。印刷教材の必要ページのコピー他、オリジナルの共通教材を配布し、最後に小テストを行います。	
	中国語中級 (読解編)	放送授業「中国語入門2」の関連科目。レベル4 (1~5の5段階で表示)。「中国語入門1」程度の学習歴がある方を対象としますので、全くの初學者の方の履修は適当ではありません。授業では、ある程度まとまった長さの中国語文 (ピンイン付き) を題材に、文章の正確な読解を目標とします。これまで学んできた文法事項を確認しながら、中国語の文章はどのように読んでいけばいいのかが、あるいはどのように読まなければならないのかを考えていきます。	
	初めての中国語 (発音編)	放送授業「中国語入門1」の関連科目。レベル1 (1~5の5段階で表示)。中国語未習者に対応する授業です。中国語の学習はまず発音を習得することから始まります。授業では、共通教材を用いながらピンイン (アルファベット表記された中国語) の読み方を徹底的に練習し、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることを目標とします。これから中国語の勉強を始めようという方、あるいは、かつて発音でつまづいてしまったという方にもっとも適した授業です。	
初めてのロシア語 (会話編)	(ステップ2) ロシア語のやさしい会話の表現を学びます。文字や発音の知識がなくても受講できます。どんなシチュエーションでどんな表現を使うかなど、会話表現の学習を通して、背景となるロシアの文化や習慣にも触れることができます。テキスト教材だけでなく映像や音声教材を使って覚えた表現を確認しながら、楽しく学びましょう。「ロシア語って難しそう」「へんてこな文字を覚えるのが大変」...と敬遠していた人も、この機会にロシア語・ロシア文化の世界にぜひ触れてみてください。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
（外国語） 共通科目	英語の基本C	放送授業「英語の基本('08)」に基づいた授業です。読解、聴解、文法の更なる理解を深めるために放送授業の補習を中心に授業を行います。また面接授業という特色を活かし、平生の放送授業では出来ないグループワーク、デスクッション、スピーチなど積極的な学生参加型の授業を行いたいと思います。	
	初めてのベトナム語（会話編）	ベトナム語は12の母音と6つの声調を持つ、表情豊かな言語である。この授業では、こうしたベトナム語の特質を発音練習を通して理解し、基礎的な挨拶や表現のための会話を習得することを目的としている。歌や散文にも触れ、言葉を通してベトナムの文化・社会についての理解を図る。最後に小テストを実施する。この授業では共通教材を使用する。文化編（ステップ1）の後に受講することが望ましい。	
	初めてのイタリア語（発音編）	この講義では、初めてイタリア語を学習する学生を対象に、発音の仕方、および基本的な文法のしくみについて概説する。まずは単語を正しく読むことができるレベルを目標とし、必要に応じて文法についての理解を深める。またイタリア映画等の素材を用いて、実際のイタリア語に触れてみることにしたい。	
	笑話で学ぶスペイン語	この授業は、スペイン語の文法の基礎を概ね終えていて、接続法の用法についてももう少し深く学びたいという受講者を対象にしています。スペインと中南米の平易で短い笑話を読みながら、命令法を盛り込んだ日常会話で多用する表現を楽しく学びます。具体的には、本文と例文の繰り返し音読と練習問題とその応用への口頭での対応を試みます。数回小テストを実施して学習事項の理解度を確認します。	
	英会話能力の向上	[受講条件]下記の英文を辞書を頼りにすれば理解できる程度のレベルを求めます。This course emphasizes in teaching English as a second language with beginning to low-intermediate proficiency in English. Through listening comprehension and oral performance, students will practice their communication skills. Students will learn to engage in short conversations, report personal information, express opinions and respond appropriately on familiar topics. Basic elements of pronunciation, rhythm and intonation will be included in the course.	
	韓国語と日本語の音声的類似性	韓国語は異なる言語でありながらも他の言語より日本語と多くの部分で類似点が見られます。この授業では、その類似点の中でも音声の特徴に焦点を当て、日本語と韓国語の特徴を見ていきます。また、発音の相違点を考えることで、韓国語を発音する際によりきれいで、韓国語らしい発音になる方法も教えます。それから韓国語の方言と日本語の方言に見られる様々な類似点を地域性との関わりで論じます。韓国語の基礎・入門程度の知識を持っている方が望ましい授業です。	
	英語講読X	放送授業「英語講読('08)」の内容に基づいた授業である。「英語講読('08)」の印刷教材を使用しながら、ラフカディオハーンによる日本の民話を教材とし、一つ一つの文を正確に理解することによって、まとまった文章の読解ができるようになることを目標とする。更に音読練習を通して英語で物語を読むことに慣れ、内容を味わいつつ楽しめるようになることを目指す。ここでの読解に必要な単語・文法・語法の学習も同時に行う。作者や物語のキーポイントについてテキストに詳しい背景説明が記されているので、受講前に熟読すること。英語辞書（電子辞書でもよい）必携。	
	英語総合B	放送授業「英語総合B」の理解をより深めるために、下記の内容で講義を行う。1限：英詩で用いられるさまざまな韻とそのため使用されたリズムについて2限：stanzaic formsと呼ばれる詩の形式を詩人たちがどのように用いてきたか、及びsyntax（統語法）の重要性、韻律形式との関係について3限：英詩の伝統の中でのバラッドの重要性、バラッド律、普通律、長律などの重要性について4限：詩の精読 特にFine Knacks for Ladies（第5章）、La Belle Dame sans Merci（第8章）、He Hears the Cry of the Sedge（第10章）を中心に5限：British Music イギリスの音楽について	
	英語の基本D	この授業では、「英語の基本('08)」の放送授業にもとづいて、英語の文章を読む、聞く、書く、話すことの基本を学びます。取り上げるセッションは、4（食）、6（家）、9（旅）、12（訳）の予定です。グループワークなどを通して受講者が積極的に参加できる授業形態にしたいと思います。	
	中国語講読	放送授業「中国語基礎」の関連科目。レベル5（1～5の5段階で表示）。「中国語入門1・2」程度の学習歴がある方（中国語の基礎的な文法事項を一通り学習し終えた方）を対象とします。近現代作家の作品を読みながら、現代中国語文の読み方を考えていきます（題材は未定。開講前にプリントを自宅宛に送付）。授業は輪読形式で行います。「中国語講読」（07-08年度）既修者・新規履修者ともに歓迎します。	
初めてのアラビア語：文化編	この講義の目標は、アラビア語の基礎を学びながら、アラビア語とアラブの文化への理解を深めることです。CDやDVDでアラビア語独特の響きや美しく書かれた文字の芸術を味わいながら、その背景にあるアラブ文化について考えていきます。(改行)文字と発音が全く分からない方は、まず「初めてのアラビア語：文字編」の受講をお勧めします。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(共通科目) (外国語)	英語の基本E	この授業では、「英語の基本('08)」で扱われている内容に基づき、英語の読み、書き、会話の基礎的な力の向上を目指すと同時に、学習者の目的・目標に応じた英語学習法のアドバイスも行います。練習問題、簡単な小テスト、グループワークやペアワークなどの課題を通じて、実際に英語を使う機会を多く設けるため、積極的な授業参加が求められます。	
	英語音読演習	まとまった長さの英文を音読する「素読」を目的とする授業です。教科書として指定する本の中の文章を授業中に音読し、単語のアクセントや文全体のイントネーションの間違いを直していきます。成績は筆記テストではなく、履修者全員の前で一人ずつ一定量の英文を音読して頂いた結果で判断します。他人の前で間違いを指摘されることを恐れず、また他人の間違いから学ぶことができる方の受講をお勧めします。	
	初めての中国語：発音編	放送授業「中国語入門1」の関連科目。レベル1(1～5の5段階で表示)。中国語未習者に対応する授業です。中国語の学習はまず発音を習得することから始まります。授業では、共通教材を用いながらピンイン(アルファベット表記された中国語)の読み方を徹底的に練習し、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになることを目標とします。これから中国語の勉強を始めようという方、あるいは、かつて発音でつまづいてしまったという方にもっとも適した授業です。	
	原書で読むイギリス史(上級)	17世紀から18世紀を中心にしたイギリス史を英文の原文抜粋を読みながら俯瞰する。	
	英語講読W	放送授業科目「英語講読('08)」で扱った内容に基づき、基本的な英語の文法規則を使って英語の文章を読む力を養うことを目的とします。放送授業中には扱いきれなかった練習問題の説明を行ったり、更に発展的な英文和訳・和文英訳の練習を重ねたりすることを通して、主に英語を読む力と書く力をつけていくことが目標です。辞書を引いたり文法構造を確認したりなどの地道な作業を続けていくことこそ、英語を読めるようになる鍵であることを実感して頂ければと思います。	
	英語の基本F	「英語の基本(08)」の印刷教材やCDをよりどころとして、英語学習に欠かせない基礎的な技術や知識を、手を動かし、口を動かしながら身につけていく授業です(可能な限り、放送授業と連動した形で進めていきます)。限られた時間の中で、英文の組み立て・発音の仕方・英語の聴き取り方など、その都度ポイントを絞った学習を行います。また、放送授業の内容を基にした発展的な内容も扱ってみたいと思います。	
	初めてのフランス語(会話編)	放送授業「入門1」の関連科目(第4回まで)。文化・社会・歴史に開かれた導入編の授業です。オリジナルDVDやCDなどを用いてフランス語の音声に親しむこと、ロールプレイをやりながら、語学の知識を実践的に身につけることなどが課題です。フランスに個人旅行した際に現地で簡単なコミュニケーションが図れるくらいを目指しましょう。また、フランスの映画や音楽を通じて、より一層生きたフランス語に親しみたいと思います。印刷教材の必要ページのコピー他、オリジナルの共通教材を配布。最後に小テストを行います。	
	英語講読V	放送授業科目「英語講読('08)」で扱った内容に基づき、基本的な英語の文法規則を使って英語の文章を読む力を養うことを目的とします。放送授業中には扱いきれなかった練習問題の説明を行ったり、更に発展的な英文和訳・和文英訳の練習を重ねたりすることを通して、主に英語を読む力と書く力をつけていくことが目標です。辞書を引いたり文法構造を確認したりなどの地道な作業を続けていくことこそ、英語を読めるようになる鍵であることを実感して頂ければと思います。	
	英語の基本G	英語基本」の面接授業では、印刷教材「英語の基本(08)」の補足・復習・応用を行います。英語を久しぶりに学習する方、今まで苦手と感じていた方にも無理のないように「わかりやすい」授業を目指しています。印刷教材のReview and Practiceのセッションを中心に、基本的な文法事項の説明と教科書の重要表現の反復演習、問題練習などを印刷教材を使いながら行います。また、印刷教材に収録されているListeningに関しては、内容を確認した上で、単語やフレーズを聞き取る練習をします。毎回、受講者全員に教科書の音読、問題演習の解答などをしてもらいますので、積極的に参加してください。	
	英語初級 歌は勉強になる？	英語の歌を使って楽しく英語を勉強・・・できたらいいですね。でも、歌が苦手な人、人前で声を出すことが苦手な人、英語がとにかく苦手な人に歌は役に立つのでしょうか。この授業では英語の歌を教材に使い、どのように英語が勉強できるのか実際に試してみたいと思います。学習法は向き不向きがありますから、合わない人がいるかもしれませんが、英語が苦手でも恥ずかしくなく歌える方に受講していただけたらと思います。	
中国語初級2	本講義は中国語の発音に重点を置き、発音練習やテキストの朗読を繰り返す過程で一人一人の発音をきめ細かくチェックしながら、発音要領を確認することによって正しく発音できることを目指すものである。さらに会話力を向上させるために、テキストの内容に基づいて会話練習を行う。また、習った基礎文法事項を生かして自分の考えを中国語で表現する作文練習も随時行う。講義をプリントやテープなどの教材を使って進める。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(共通科目) (外国語)	英語初級 3 : 基礎文法と読解	読解に必要な基本的文法項目 (受動態、分詞、関係代名詞、副詞、複合関係詞、仮定法) を解説します。文法問題を解きながら理解を深めて、実際に英文を読みながら文法項目がどのように使われているかをみます。	
	楽楽チャイニーズ・レッスン 2	実際に使える中国語会話を習得できます。旅行先や買い物、料理の注文など様々な場面で役立つ表現や会話術を楽しく解り易く紹介します。また中国語のCMや音楽を鑑賞したり、中国茶の正しい入れ方や中国人の生活習慣など中国文化も紹介します。一緒に楽しく勉強したい方にお勧めです。初めての方も、勉強したことのある方も、自然に身に付く中国語の面白さを感じてください。	
	英語中級	主に演劇の英語を学ぶ。シェイクスピアが中心。二十世紀の名作の一部も扱う。担当講師の朗読・演技を通して演劇の楽しさ・迫力を味わってもらおう。	
	英語初級	英語で書かれた名文章、名文句を味わう。聖書、シェイクスピア、童話、詩、演説、小説などから選ばれた英語を、解説を加えながら訳す。その際、翻訳のテクニックを学ぶ。また、発音指導も行う。	
	楽楽チャイニーズレッスン 1	中国語で初歩的なコミュニケーションがとれることを目標に、それに必要な基本語彙、発音やアクセントそして文法事項をオリジナルドリルで練習することによって自然に会話に身に付くようにする。また、中国語でコミュニケーションを図るためにとても大切な中国の日常生活や歴史、文化、風俗をビデオなどで楽しく紹介する。	
	英会話初級	基本的な英会話を学ぶ。英語の音声の特徴、リズム、イントネーション、決まり文句などを強調する。また、リスニング力向上のためのアドバイスを与える。楽しく学ぶことが大切だと思うので、担当講師は、指導者プラス役者となって学生に接する。	
	オペレッタの歌 (ドイツ語)	19世紀から20世紀にかけてウィーンではオペレッタ (喜歌劇) が相次いで上演され、好評を博した。日本でも浅草オペラの時代からオペレッタは親しまれてきた。「ポッカチオ」「メリー・ウィドウ」「こうもり」等から何曲かを用意し、歌詞をドイツ語で読み、理解したうえで、聴くことにします。歌詞には文法説明を記しておき、受講生の負担にならないようにします。オペレッタの歴史もかんたんに振り返ることにします。	
	英語音声学入門	この面接授業では、英語の音声について、母音や子音といった個々の音のレベルから単語、文、会話のレベルまで基本から学んでいきます。受講生のみなさんが自信をもって英語を発音できるようになり、これまで以上に聞き取れる英語が増えるように、講義に加えて実践的な聞き取りおよび発音練習を行います。また、音声分析ソフトウェアを用いた最新の音声研究の一端も紹介し、日英語の音声の相違点を明らかにしていきます。この面接授業では、英語の音声について、母音や子音といった個々の音のレベルから単語、文、会話のレベルまで基本から学んでいきます。受講生のみなさんが自信をもって英語を発音できるようになり、これまで以上に聞き取れる英語が増えるように、講義に加えて実践的な聞き取りおよび発音練習を行います。また、音声分析ソフトウェアを用いた最新の音声研究の一端も紹介し、日英語の音声の相違点を明らかにしていきます。	
	一人でできる英語達人への道	昔英語の達人になった人は、洋画専門の映画館に通い詰めて、英語を覚えたそうです。今では、自宅のテレビ・インターネットで、洋画をはじめ、良質の英米のDocumentary番組を見ることが出来ます。英語学習には、映画より、Documentary番組のほうが効果的であります。今回は、実際にいくつかの番組を視聴し、そういう番組を活用して英語の達人になるストラテジーを実践してみます。	
	初級英語 やさしい英文読解	「不思議の国のアリス」やタイタニック号の沈没などの10の話題を平易な英語でまとめたテキストを読みます。各物語は二部構成で、それぞれ1ページに収められ、読解や文法、語彙の力を確かめる問題が用意されています。本文を収録したCDがテキストに付いていますので、まず音声で内容を推測してみましょう。エピソードを楽しみながら基本的な文法や語彙の力を強化し、今後の英文読解につなげてほしいと思います。	
	中国語初級 1	中国語は、文法が簡単で大変学習しやすい言葉ですので、中国旅行など身近な目標を立て、楽しく学んで下さい。授業は中国語検定試験準4級の学力獲得を目標にします。大学の初級、前期15回分の学力が目安です。集中授業の難点を解決するために自学自習の方法を教えますので、ほぐしながら復習し、6, 11, 3月に行われる検定試験に挑戦してください。そしてさらに初級2で4級を、中級で3級を目指してください。	
	英語で学ぶ日米の文化的タマエ	英語を学ぶ楽しさの一つは、異文化との触れあいを体験することです。しかし、直接触れあう中で、お互いに礼儀正しくあろうとするが故に、不可解で不愉快な言動に出会うことがあります。これは文化的タマエの相違によるもので、本授業では、日米の文化的タマエの相違を英語で学びます。講義は基本的に易しい英語で行い、時に日本語を用いたりしながら、楽しく英語を学びます。	
	韓国語 - 初級会話 -	初めて韓国語を学ぶ初心者を対象にする。次の目標が達成できるよう授業を進めていきたい。1.韓国語の文字を覚え、韓国を旅行するとき、案内や地名が読める2.簡単なあいさつ、自己紹介が韓国語でできる3.言葉の仕組みやその背景を学習することから、韓国人の発想、思考パターンなど、韓国文化の理解を深める	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 共通科目	異文化間コミュニケーション	私達は社会の中で育つ過程で、どのような相手に対してはどのようにコミュニケーションをとるべきかを教わり、それを「然るべきやり方」として身につける。異なった文化背景を持つ者とのやりとりは自分が今まで無意識のうちに前提にしていた「然るべきやり方」を意識化する機会ともなる。日本の社会では伝統的にどのようなことが「然るべきやり方」とされていたのか、それらは今でも続いているのかを、主に日米比較を通じて考える。	
	初歩のフランス語	いろいろなフランス語の表現を読んでみましょう。短い広告、グラビアの解説、シャンソンの歌詞、観光案内、短いニュースなど、簡単な文章を読みながら、発音・文法のポイントを復習します。	
	韓国語入門	韓国語は日本語と文法が似ていて共通の漢語も多いので、日本人には習得しやすい言語と言われます。ハングル文字の発音と書き方、基本的な文法と語句を覚えて、少しずつ休まず楽しく続けられれば必ず習得できます。韓国語を通して韓国の文化や人情、変わりゆく社会の動きなどを知ることは意義深いものがあります。この授業が韓国語の入門と基礎固めに役立てば幸いです。	
	基礎英語	教材はイギリスの国営放送BBCの制作によるドキュメンタリーです。しかし、解説の英語は日本人が聞き取りやすいように、簡単な英語に直されています。映像と音声によって内容を把握することを中心に授業を進めます。一語一句聞き取れなくても気にせず、映像を楽しむ感覚で授業に参加してください。また、附属のCDも活用し、声を出して読むことによって英語のリズムやイントネーションも身に付けてください。	
	英語プレゼンテーション	挨拶から結論まで、英語のプレゼンテーションで使える表現を役割別に紹介します。各レッスンで、あるテーマに焦点を置き、それに当てはまる表現や文法を説明し、練習させます。もちろん、国際会議などで論文や研究を発表する際に役に立ちますが、これらの表現や技法は日常会話にも使えます。	
	基礎時事英語コミュニケーション	この授業は、日本国内外及び地域における時事を題材にし、基本的な英語の復習他に、時事英語の語彙や表現、文法などを学習しながらコミュニケーション練習を行い、その応用として授業中にグループ、または個人課題を計画し実践することを予定しています。最終的に、その課題の結果を英語で発表していただくことにより、さらなるコミュニケーション実践として展開的かつ総合的な活動で授業を完結したいと思います。	
	歌で学ぶ基礎韓国語	ずいぶん前だけ一度は韓国語を学んだことがあるという方、またはハングルならまだ少し覚えていてゆっくりなら読める、という方を対象にしたレビー講座です。一時限目では「初心者でも必ず読める」韓国語の文字を分かりやすく説明します。そして各時限別に、挨拶表現や基礎語彙をテーマとした『歌で学ぶ韓国語』を、動画を交えながら楽しく学んでいきます。	
	ことわざによる日英比較文化論	奥津文夫『ことわざ・英語と日本語』の第2部「ことわざの比較文化論」を基礎にして、ことわざというスモール・サイズの言語的文化遺産を鑑賞する。日英の文化的特性と普遍性の一端を確認することが本講義の目標である。	
	中国語会話	中国とのかかわりが多岐にわたるに伴い、その異文化への理解を深め、コミュニケーションが取れることが非常に重要です。そのためには発音・会話を繰り返し練習し、読む力・書く力・聞く力・話す力を身につけることを目指します。本講義では初級レベルの学生を対象とし、日常会話を徹底マスターしていきます。そして、語学力だけでなく、中国の文化や歌も楽しく学べます。	
	初級中国語 2	中国語の発音の基礎を習得した人を対象とし、自分の言いたいことを正確に伝えられる基礎力を固めることをめざします。授業の中では、Web教材を使った学習方法も紹介します。なお、この授業は「初級中国語 1」の内容を継続するものです。同授業を履修していない人には、同程度の中国語学習歴(合計11時間以上)があることを望みます。	
	中国語会話入門 1	中国語会話の基礎的な学習方法を学びます。授業では入門者を対象に初級会話を簡単なトレーニングを中心に行い、それを通じて中国語の発音になれ、基礎的な会話ができるようになることを目指します。またこの授業は講義時間が短いので、授業後にも各自が継続的に学習できるような教材を配布し、その使い方も説明します。	
	コミュニケーション能力の習得	今日、コミュニケーション能力の向上は母語、外国語にかかわらず国民的課題になっている。本授業では英語コミュニケーション能力(改行)の根本原理をまず理解する。ついで、具体的にどのような能力をいかに習得すべきかについて討議を交えながら授業を展開する。本授業を通してコミュニケーション能力の基礎・基本に習熟し、日常生活のなかで英語によるコミュニケーションを「エンジョイ」していただきたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 共通科目	漢詩と漢詩人	中国は詩の国と呼ばれている。中国最初の書籍は「詩経」であった。その後、四千年以上にわたり、各時代の精鋭たちは時々の社会情勢、個人感情、壮大な自然を様々な形の詩で表現し続けた。極めつけは漢字の特徴を遺憾なく発揮した形式美と韻律美を兼ね備えた完璧な詩体一律詩を作り上げたことだ。その上、詩を極めた無数の詩人たちの壮絶な人生も、また魅力たっぷりである。この授業はそんな漢詩の世界と詩人たちの百花繚乱な人生を中心に講義する。また、日本における漢詩の状況も取り上げるつもりである。	
	実用英語TOEIC入門	この授業は、年々国内の受験者数が増している実用英語検定TOEICに初めてチャレンジする人や、一回受験したけれどスコア400に達しなかった人を対象に、その問題形式に慣れ、各パートの学習法・対処法を知ることが目的とします。TOEIC頻出の語彙・文法・構文にはビジネス色の強いものもありますが、多くは中学～高校1,2年レベルです。基礎を学びなおして、TOEICにチャレンジしてみませんか。	
	英語でイングリッシュ・ガーデン	言語とは文化的、社会的背景を持つものです。その点を理解しないで十分な言語習得は出来ません。承知のように、英国は、ガーデニングの国ですが、英国の庭は単なる庭ではなく、英国のいろいろな世の中の変化と強い関係にあります。つまり、英国の庭は社会現象かつ、総合芸術でもあります。今回はこの点を考慮し、英語を理解する能力を向上させたいと思います。では、英国の庭をめぐる短い旅に出かけましょう。	
	映画で学ぶ英語	この授業では、映画DVDを用いて語彙や文法、日常会話で多用される決まり表現を生きた英語を通して学ぶ。リスニング、発音練習、ディスカッションなどの演習のあと、登場人物になったつもりで会話してみる。映画の英語が字幕なしでわかるようになることを目的とする。	
	ゲーテン・ターク ドイツ語	ドイツ語の入門講座です。発音のしかたから、あいさつ、ドイツ語の簡単な会話などを学びます。ドイツ語技能検定試験5級(もっとも基礎のクラス)程度の内容です。	
	英語を読むコツ	リーディングに必要な様々な手法を学ぶ。具体的には、トピック、意味の類推、要約、事実と意見の区別、文章の構造である。教材には様々なジャンルの記事や写真などを用いる。また必要に応じて文法的な事項にも触れる。	
	イギリス流 普段着の英語を学ぶ	アメリカ英語が中心的な日本の英語教育では、世界には実に様々な英語方言があることを見落しがちですが、本コースではそのなかでもイギリス英語を取り上げ、特に日常生活密着型の英語の世界を体験して頂くことを目標とします。英米の英語の特徴を比較したり、ロンドンの街を歩きながらサンドイッチを片手に交わす英語を練習したり、生活空間のなかで出会う表情豊かな英語のすがたを通して、「生(ナマ)の英語」を体感して下さい。	
	英国史で英語を学ぶ	英語でかかれたわずか50ページばかりの短い英国史を読みます。用意のできる方は分からない単語を調べておいて欲しいのですが、必ずしも予習は必須としません。本を一冊読むことで英語の力をつけ、英国の通史もわかるという一石二鳥をめざします。(但し担当教員は歴史の専門家ではありません。)	
	英語のメタファー	授業のテーマは英語のメタファー表現です。英語の比喩表現の分析をおこない、日本語との違いに気づき、メタファー表現に現れる英語の発想を理解します。ことわざやイディオムなど比喩表現は日常的にあることを実際の例で確認しながら、おもしろい表現を自分で発見したり使えるようになります。本授業は英語を楽しみながら理解し発信するための総合演習です。	
	はじめての中国語	これから中国語の勉強を始めようという方、あるいは現在「中国語入門1」を履修中の方に対応する授業です。中国語の入門的な内容をいくつかのトピックを取りあげながら学習していきますが、特に放送授業では不十分になりがちな発音練習に時間を割きます。日本語との違いを通して中国語がどのような言語であるのか、また逆に日本語とはどのような言語であるのかを考える契機としていただきたいと思います。	
	初級英会話	基本的な英語を使った会話に親しむことをねらいとします。内容は次のとおりですが、時間の制約があるので、全部は扱えないと思います。ほめる、あいさつ、質問、自己紹介、お願い、好みを言う、気持ちを表す、いつもしていること、昨日のこと、思い出、宝物。話す機会を増やすために、受講生どうしのペアやグループ活動をおこないます。間違いを気にせずに、気楽にたくさん話をしてください。	
英語初級4～英語で表現	「書く」という言語活動は、他の3つの言語活動(「聞く」「話す」「読む」)に比べると比較的小さいものと言えます。その活動を敢えて取り上げるのは、「書く」ことは、今まで学習した(はずの)文法や語彙を見直し、それらを総動員することによって初めて可能であるからです。頭の中(きっと奥深く)に眠っている知識を揺り動かして、活用していただきたいと思います。実際に英語を読んだり、書いたりして格闘する中で、文法の復習をし、語彙を思い出し、またそれに加えて新しい知識を増やせたら良いのではないかと考えています。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
（外国語目） 共通科目	フランス語入門	フランス語未履修者を対象とした授業です。発音、綴り字、数詞や、日常の挨拶を含む基本表現など、フランス語習得の基礎を実践的に教授します。併せてフランスやフランス語圏の歴史、文化、社会状況なども解説し（ビデオ視聴を含む）、受講者の視野を広げるべく努めます。（改行）成績判定は出席状況と授業への参加の度合いなどの平常点と、最終授業での簡単なオーラルテストによって行います。	
	「クリスマス・キャロル」を読む	公開朗読版「クリスマス・キャロル」を読みます。これは作者であるイギリスの文豪チャールズ・ディケンズが自らの公開朗読のためにオリジナル版を縮約したものです。声に出して読みたい英文を朗読のテープを聞きながら味わってみましょう。単語 英文 訳と順を追って説明しますので、英文学を読むのが初めての方でも大丈夫です。また、作品の背景などについても解説を加えますので、テキストを深く理解することができます。	
	基礎中国語	この授業は中国語を学んだことのない学生に対して行われるものである。ここで学ぶ中国語とは、中華人民共和国で使われている「普通話」と言われる標準語で、基本的には中国大陸はもとより、香港、台湾、でも通じるものである。授業では中国語の発音を実践的に学び、挨拶言葉や基礎的文法を習得したのち、簡単な自己紹介ができるようになることを目的とする。また、日頃中国について考えていることや疑問に思っている事があれば、それに対して簡単な説明を加える予定である。	
	初級英語 - 英語表現基礎知識 -	挨拶などでの英語特有の表現、内容理解に役立つ文化的背景知識、聞き取りのための音声基礎知識を、映画や楽曲などを題材に学びます。例えば、カントリー・ソング “Take Me Home, Country Roads” にはMisty taste of moonshineという一節がありますが、このmoonshineとはなんでしょう？答えは授業で。他に、映画「フォレスト・ガンプ」、楽曲「私を野球に連れてって」などを予定しています。	
	イタリア語コミュニケーション	イタリア語は実に楽しい。発音は日本人向き、ローマ字読みで十分。簡単な文法を学べば、後は情熱とジェスチャーでコミュニケーションも自由自在。このコースでは、基本語彙と文法を学び、様々なシチュエーションでの実践コミュニケーションにトライします。そこに文学・音楽・絵画・料理にワインといった文化の香り付けをしながら、豊かなコミュニケーションに挑戦します。	
	アカデミック・ライティング入門	アカデミック・ライティングとはレポートや論文を書くための基本です。この基本を理解すれば、アカデミックな場でなくとも、仕事や社会生活の色々な場面で、その知識を活用することができます。授業では、易しい解説を基に、語句や文の構成、パラグラフの論旨の作り方、表現形式等を学びます。易しい英文をお手本に、実際にパラグラフを書きながら実践します。簡単パラグラフでアカデミック・ライティングに挑戦です。	
	英語の4つの技術	英語の4つのコミュニケーション技能（聞き、話し、読み、書き）を発達させるために、すべてを英語で行います。英語だけを使用し、学生が活発に授業に取り組める環境の中で行います。・聞き、話し：授業内容は重要な日常話題に基づいています。学生は少人数のグループで作業し、英語に使われる様々な音声音を知り、聞き取り、そして区別ができるようになります。・読み、書き：色々な作業や議論によって英語の技術を向上させます。	
	おもしろい中国語	まず中国語で、漢数字一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、零、百、千、万が言えること、次に会話練習（本当に簡単な言葉）をして、楽しく覚えること。	
	英語：読み方の基本	英語の読み方の基本をとりあげます。比較的易しい英文から読み始めます。内容は、英米事情、ギリシャ神話を含めた短い物語やエッセー、英語の語彙の歴史等、どなたでも興味がありそうなものです。基本からできるだけいいに説明しますが、わからないところがあればどんどん質問して下さい。	
	初歩の中国語	中国語未習者、あるいは「中国語入門 1」の履修者に対応する授業。放送授業では不十分になりがちな発音練習に時間を割きつつ、中国語の入門的な内容について、簡単な会話文を読みながら学習していきます。日頃の疑問をぜひぶつけてください。	
	英語学習へのいざない	本講義での学習のねらいは、英語に親しみ、英語を知り、英語を好きになって戴くことです。「英語学習」を「英語が苦習」ではなく、せめて「英語楽習」と感じて戴けるための楽しさを一部お裾分けします。ゲーム、クロスワード、歌やクイズなどを遊戯感覚で体験し、結果的に受講者皆様の英語が少しでも上達して戴けたら幸いです。	
	中国語（入門）	本授業は、はじめて中国語を学習する学生が正確な発音や基本文型の使い方を習得することを目的とした入門の講義です。現代中国語の基本的な文法事項について解説を加えるほか、基礎的な会話能力養成を目指します。このため、日本人の中国語学習者がもっとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の習得を授業の中心に据えます。また、近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 共通科目	初めてのインドネシア語：文化編	会話編に続くインドネシア語入門のステップ2として、基本的な表現や文法を学んでいきます。この授業では、歴史・社会・文化の解説にも重点を置き、それと関連させながら語彙や表現を学ぶことで、インドネシア語についての理解を深めていくことを目指します。映像資料や音声資料もふんだんに使用して、政治や宗教から文学・芸能・音楽まで多彩な話題を通して、インドネシアとインドネシア語に親しんでいきます。授業では、カラーのオリジナル教材を配布します。	
	シャンソンで学ぶフランス語 3	往年のシャンソンの名曲から最近のヒット曲、ポップ・ミュージックなど、様々なタイプの歌を取り上げ、歌詞を解説します。歌を通して生きたフランス語を学ぶとともに、歌の背景にある文化・社会に触れることで、フランスと広域フランス語圏に対する理解を深めます。ネイティブ講師による発音練習とテキスト解説も行います。対象はフランス語文法を習得し、自力で簡単な文章を読める者。最終回に辞書持ち込み可の簡単なテストを行う。	複数教員共同担当
	英語講読Y	この授業は、放送授業「英語講読('08)」の内容に基づいた授業です。英語講読(08) からテキストを抜粋し、和訳しながら文法の要点を学習します。日本語と英語の構造上の特徴、形式と意味の関連などを比較しつつ和訳する上で重要と思われるいくつかの文法項目をマスターすることを目指します。成績評価は出席を重視して行います。授業時に教科書として英語講読(08) を使用します。	
	初めてのインドネシア語：会話編	初めてインドネシア語を学ぶ人のための初歩的な会話を学習する授業(ステップ1)です。簡単な文法を学びながら、オリジナルDVD教材を用いて発音と会話表現を身につけます。言葉の背景にあるインドネシア人の生活観や考え方にも配慮しながら、人々の暮らしの中でよく使われるコミュニケーションを勉強しましょう。音楽や映画などの文化的素材にも適宜ふれることで、インドネシア語のもつリズム感を肌で感じてほしいと思います。授業では、カラーのオリジナル教材を配布します。	
	初めてのポルトガル語(会話編)	ブラジルで使われている標準的なポルトガル語の文字と発音、基本的な会話表現を学びます。教材は独自に作成したものを使用し、適宜、映像や音楽を資料として利用します。	
	日本語と韓国語の音声・音韻探求	韓国語と日本語の音声・音韻についての授業です。韓国語は外国人にどう聞こえるか、逆に外国人の韓国語は韓国人にどう感じられるかなど韓国語の音に関することを理解していただきます。同じように日本語の音はどう感じるか、日本語の音についても一緒に考えます。また、韓国語と日本語、中国語に共通する漢字の音は、この三つの言語でどう異なるかもお話しします。受講においてはハングルが読めることが望ましい。	
	中国語講読 09 B	放送授業「中国語基礎」の関連科目。レベル5(1~5の5段階で表示)。「中国語入門1・2」程度の学習歴がある方(中国語の基礎的な文法事項を一通り学習し終えた方)を対象とします。近現代作家の作品を読みながら、現代中国語文の読み方を考えていきます(題材は未定。開講前にプリントを自宅宛に送付)。授業は輪読形式で行います。「中国語講読」(07-08年度)既修者・新規履修者ともに歓迎します。	
	「韓国語入門1」補習	放送授業「韓国語入門1」の関連科目。「初歩の韓国語」を履修した学生、あるいは同程度の韓国語の知識を有する者を対象とする。具体的には、ハングルを使った読み書きができること、簡単な表現ができること。「韓国語入門1('06)」の6課程までの知識があればよい。この授業では、さらに基本的な表現の習得をめざし、「韓国語入門1('06)」14課までの事項のうち、基本的な事項を中心に勉強する。	
	初めてのアラビア語：文字編	この講義の目標は、挨拶や簡単な日常表現を声に出して覚え、言えるようになること、アラビア文字で書けるようになることです。アラビア文字の綴り方と発音を習得することを主眼に、基礎文法の学習を進めます。また、CDやDVDを用いてアラビア語の背景にある文化を紹介します。	
	英語講読X	放送授業「英語講読('08)」の内容に基づいた授業である。「英語講読('08)」の印刷教材を使用しながら、ラフカディオハーンによる日本の民話を教材とし、一つ一つの文を正確に理解することによって、まとまった文章の読解ができるようになることを目標とする。更に音読練習を通して英語で物語を読むことに慣れ、内容を味わいつつ楽しめるようになることを目指す。ここでの読解に必要な単語・文法・語法の学習も同時に行う。作者や物語のキーポイントについてテキストに詳しい背景説明が記されているので、受講前に熟読すること。英語辞書(電子辞書でもよい)必携。	
	英語の基本H	本講座は、印刷教材「英語の基本」に収録されている会話に基づいて、英・米の文化、言語の使い方の相違に言及しながら、英語でコミュニケーションを図るとはどういうことかを一緒に考える、参加型の授業である。グループワークによる会話練習を通して、実践力を付けていただくことを目的としており、評価はその成果と出席状況によって行なう。	
医療・看護の英語(初級)	医療・看護の現場に関する英語のごく基本的な表現を独自の印刷教材、映像教材を用いて学習する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 共通科目	初めてのスペイン語(発音編)	放送授業「入門1」の関連科目(第2回まで)。文化・社会・歴史に開かれた導入編の授業です。ビデオやCDなどを用いてスペインの音声に親しむこと、ロールプレイをやりながら実践的な場面で運用できる表現を身につけることをめざします。スペイン語の文法の基本的な事項の学習とともに、あいさつや自己紹介の表現などを学びます。またスペイン語圏の文化、歴史、社会についての知識も身につけます。印刷教材の必要ページのコピー他、オリジナルの共通教材を配布し、最後に小テストを行います。	
	英語の基本I	この授業では、放送授業科目「英語の基本(08)」で扱った内容に基づいて、英語の文章を読んだり、英語の発話を聞き取ったりする力を養うと同時に、様々な種類の文章(エッセイ、手紙文、物語、場合によっては新聞記事など)に馴染んでいくことを目標にします。また、放送授業で学んだ基礎的な文法を使って、英文を書いたり話したりできるような機会を提供することを目的とします。授業中に行って頂く活動などもありますので、是非積極的に授業に参加して下さい。	
	初めてのドイツ語:発音編	放送授業「入門1」の関連科目(第2課まで)。文化・社会・歴史に開かれた導入編の授業です。印刷教材の必要ページのコピー他、オリジナルの共通教材を配布。日本語に取り入れられている単語や馴染みの人名や地名などをもとに、アルファベットの読み方と単語の発音の仕方を身につけ、簡単な挨拶や日常表現を学びます。発音と日常会話の練習ではなるべく個々人の発音をチェックし、双方ともに反復練習に重点を置きます。授業ではドイツの文化や歴史、社会の紹介も行います。最後に学んだことを確認するために小テストを行います。	
	英語コミュニケーション中級3	This intensive course is for students who successfully completed "English Communication Intermediate, Level 2" in 2008 and for students who have had some previous experience in English conversation. The course aims to build on a variety of language opportunities for students to use English to communicate at an intermediate level. Classroom group tasks will focus on listening, conversation and discussion tasks to build vocabulary and confidence. In particular, students will practice listening and speaking skills in English, to help prepare for oral presentations. Students will be expected to complete a short homework assignment.	
	英語初級4:読解と対話練習	基本的文法を理解している方を対象に様々な英文(新聞記事・英会話・小説・Eメール等)を読み理解します。そして英文の内容を使って口頭練習や対話練習をします。読み・聞き・話すという三技能の関連練習を通して英語力向上を目指します。	
	韓国語:基礎から聞き取りまで	本コースでは、韓国語を総合的に勉強します。1)ハングル文字の綴り、2)ハングル文字の発音、3)音変化、4)翻訳、5)ドラマを聞く(何を聞くかは未定)、といった順に沿って学習していきます。言葉を最も自然に駆使するためには、その言葉が使われている社会や文化を知る事は必然だと思えます。韓国語を勉強しながら社会や文化についても触れます。	
	英語で学ぶ日本の文化 - 侘びと寂	日本の美意識の一つである侘びと寂を英語で学びます。日本の文化と禅の思想を欧米に紹介した鈴木大拙の英文著書の一部を読み、侘びと寂が描出する素朴・質素であることの美しさ(aesthetics)を鑑賞します。さらに、西行の『山家集』から3つの和歌を選び、原文と英訳を通して、文学と宗教の狭間に繰り広げられた西行の世界を鑑賞します。当時の末法思想に影響を受けた出家者であり歌人の世界を垣間見ることが出来ればと思います。	
	ポルトガル語を学ぼう	ポルトガル語はスペイン語、フランス語、イタリア語などと姉妹関係にある言語です。またヨーロッパのポルトガル語の言語であるだけでなく、南米ブラジルの言語でもあります。近年、日本におけるブラジル人の増加でポルトガル語は身近な言語となりました。本授業ではブラジルのポルトガル語を中心に、ポルトガル語の基礎をしっかりと学ぶことを目標とします。	
	小泉八雲を英語で読む2	小泉八雲の日本名で知られるアイルランド生まれの作家 Lafcadio Hearn (1850-1904) の、日本を舞台にした3作品、"The Story of Mimi-Nashi-Hoichi"、"Mujina"、"Of a Promise Kept"を、不定詞、分詞、動名詞、態、関係代名詞・副詞、各種語法など文法事項を復習しながら講読する。テープも聴く予定。最後に、文法の練習問題を行う。	
初級中国語	この授業では、中国語の発音をチェックしながら、初級中国語として必要な語彙、文法も整理し、ある程度独学の力をつけておくことを目指しています。発音は、「通じる」ことを目標にし、声を出して練習します。もちろん、中国のローマ字である「ピンイン」もしっかり覚えなければなりません。語彙の学習は、漢字の発音・意味・用法を覚えることですが、ちゃんと発音できるようになることを目指したいです。文法は、基本となる語順(ある言葉の文中での位置)を理解したうえで、前置詞の意味・用法などをしっかり覚えていきたいです。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 共通科目	やさしい韓国語会話 2	ハングル文字を少し学んだことがあるが、もう一步韓国語の世界に踏み込みたい方のための授業内容となります。韓国語は日本語と類似性があり大変なじみやすい言語の一つです。韓国語の文の仕組みや簡単な文法を理解し、少して役立つ基本会話を学びたいと思います。できるだけ受講前にハングルの読み方を事前学習することを勧めます。韓国人の留学生とまじえて実践的に会話を練習します。	
	英語入門	この授業では、英語の学習を進めていく際に重要な基礎となる英語リスニング(ヒアリング)と英語の文法の初歩を学びます。英語の音声のさまざまな面に注目しつつ、リスニングの練習を積み、ワンポイント講義による英文法の学習でそれを補強します。	
	中国語初歩	この授業の目的は、基本的な構文を用いて、中国語学習の基礎作りを行いたいと思っています。それと同時に、発音もしっかり勉強していただきたいと考えています。学習の目的として、1 ピンイン(中国語のローマ字表記)を正しく発音する 2 中国語の略字を理解する 3 基礎的な文法を理解するの三点を考えています。	
	楽しく中国語を学ぼう その二	日本と中国の交流は昔からあったが、21世紀に入ってから、政治、経済だけでなく、文化や環境などの分野において、両国の関係はますます密接になってきました。この授業は、よく使われるあいさつの言葉から始まり、そして、簡単な日常会話を勉強します。受講者どうしで、ペアやグループを組んで練習します。目的は、中国語を通して、中国人の発想や風俗習慣に対する理解を深めることです。	
	英語購読	平易な英文をじっくり読みます。なるべく参加型の実践性も含む講義にしたいと思っています。	
	TOEICと英語の基本	ドラマの会話を通じて、発音とリスニングの基礎を徹底的に学び、TOEICテストに対応するばかりでなく、コミュニケーションの基礎を養う。(改行)また、テキストを通じて新TOEICテストの問題集を解くコツを演習する。	
	ドイツ語初級	ドイツ語を初めて習う人のための授業です。発音の仕方から始めて、主な文法事項の概要、そして日常会話での基本的な言い回し等を、印刷、音響、映像教材を用いて学んでいきます。簡単な挨拶の言葉、文章のきわめて基本的な作り方などに、ドイツに特徴的な、物の感じ方、世界の見方が表われています。この授業を通して、そうしたドイツ文化の一部にも触れていただけたなら、と考えています。	
	中国語会話入門 2	中国語会話の基礎的な学習方法を学びます。授業では入門者や初級者を対象に初級会話を簡単なトレーニングを中心にを行い、それを通じて中国語の発音になれ、日常的な会話ができるようになることを目指します。またこの授業は講義時間が短いので、授業後にも各自が継続的に学習できるような教材を配布し、その使い方も説明します。	
	英語中級 2	海外旅行で出くわす様々な場面を収めたビデオ教材を使って、基本的な英会話に必要な語句を覚え、リスニングにも慣れるようにします。また、それぞれの場面に関連した各種書類(パンフレット、広告、掲示など)を使ったクイズで、読解力の向上を目指します。さらに、別途プリントなども配布して、海外で有意義に過ごすための色々な術も紹介します。	
	ハングル入門	授業では、お隣の韓国・朝鮮語の文字と簡単な会話を習得することを目的とします。	
	エッセーから学ぶアメリカ社会	アメリカの人気・辛口コラムニストArt Buchwaldの書いたエッセーを読むことで、読解力や表現力を向上させるとともに、アメリカの政治や社会に対する関心を高め、知識を増やします。エッセーは、1980年代レーガン政権下の社会事情を扱っていますが、現代のアメリカとの共通点や相違点が多々見わかります。辛口ですが、ユーモアに富んでいて楽しみながら読めると思います。	
	中国語の基礎	本講義では、発音及び文法の基礎知識を復習しながら、放送授業では不十分になりがちな会話練習に時間を割きつつ、様々な応用場面に合わせて日常会話・実用的な中国語をマスターすることを目標としています。また、いくつかのトピックスを取り上げながら、中国の最新事情・中国文化を紹介します。分かりやすく楽しく講義を進めていきます。	
	英国文化にふれる	英国というと、ハリーポッターを思い浮かべる人が多いが、ビートルズ、ピーター・ラビット、嵐が丘、シャーロック・ホームズ、アガーサ・クリスティなども馴染みである。また日本とは島国という共通点もあり、紅茶、ガーデニングなど身近な生活にもブリティッシュ・スタイルの影響はみられる。英国文化を象徴するトピックを選び、視聴覚教材を用い、その文化を味わいながら英語の読解力を身につける。	
時事英語	この授業では、英字新聞の記事の構成や使われる英語などの基礎知識を知った上で、読みやすい記事を読んでいきます。前後関係から単語の意味を類推したり、記事について持っている自分の知識を使うなど、新聞記事の読み方に慣れ、なるべく辞書を使わずに読めるようになることを目指します。記事について英語で意見などを述べる機会も持ちたいと思います。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(外国語) 共通科目	英語で読むよこび	現代は TV とケイタイさえあれば必要な情報は得られそうに思われ、まだるっこい読書など敬遠される傾向にあります。真の情報はやはり読まなければ得られはしないのです。読書の習慣をつけると、そのすばらしさがわかり、日本語以外の文献、たとえば英語で書かれた情報も読みたくなります。この意欲と実践を継続さえすれば自然に英語力がつき、ますます読みたくなってきます。不思議なことに、英語を話したり書く力までついてきます。	
	医療・看護英語中級 2	本コースは放送大学が作成した医療・看護の英語テキストを使用した連続のコースです。毎年開講してきました本コースはいよいよテキストの前半へと入って内容が少しずつ難しくなりますので学習される皆さんは周到な準備が必要になります。ビデオ教材のために実際の病院での患者、医者との会話のやりとり専門用語など、一般の英語とは幾分異なった特殊目的の為の英語 (ESP) に触れることは新しい英語学習への魅力をかきたてるでしょう。	
(保健体育) 共通科目	体育実技	全科履修生のみが履修できる科目です。 原則として、学生が居住又は勤務する地域において、大学や教育委員会等が開設する各種の体育・スポーツ教室などに参加することにより履修するものです。	
(保健体育) 共通科目	身体活動と健康	ここ数年、健康への興味関心の高まりとともに「健康日本 21」「メタボ検診」「体力測定」「介護予防」など健康・体力に関する話題がメディアを賑わし、私たちの目に飛び込んできます。(改行) 健康の保持増進には身体活動量の増加が効果的であることは多くの研究成果が発表されていることから明白です。(改行) 本授業では、日常生活の中でどのくらい身体を動かしているのかを知り、自分の身体の状態を再認識し、健康に関する造詣を深めることを目的とします。	
	スポーツと健康	スポーツと健康をテーマに講義とニュースポーツの実技から授業を構成します。講義では、「スポーツと健康」「スポーツと社会」「スポーツ生理学」「スポーツ心理学」「運動学習」「バイオメカニクス」という観点から入門的な基本内容についてお話しします。ニュースポーツ実技では、室内で「シャッフルボード」と「ローンボウルズ」を経験していただき、その特性を理解していただきます。	
	運動と健康	運動は健康の維持増進のために有効な道具となる。この運動の健康増進効果は、子どもでも高齢者でも同様に認められる。その一方で運動中の突然死といった危険もはらんでいる。運動がどのようなメカニズムでさまざまな生活習慣病のリスクをさげるのか？運動中に気をつけることはどんなことか？上記の問題について、実習（ウォーキング）を含めながら、解説していく。	
	初めての山登り	文明の発達には「人間の自然」をおきざりにしている。日頃、私たちが忘れてしまっている「自然との一体感」の意味を山登りを通じて感じたい。本講座では、誰にでも手軽にできる山登りを、自立して、安全に楽しめるように読図、磁石の使い方、山の危険、等について学習し、筑波山頂への4ルートの中から、希望するルートを選択し、数名のグループ別に登山のプランを作成し、山頂で合流する。	
	保健体育	健康な体を維持するための体操の効用は、よく周知されていながらも、実行には継続が必要であり、容易なことではありません。体操を無理なく継続していくためには、体操の目的・効用をよく理解し、楽しさ・手軽さ・進歩を感じられるようにすることが大切です。この授業では、ダンス・ストレッチ・ウォーキング・呼吸法等有酸素運動を中心に、音楽に合わせて身体を動かし、簡単かつ短時間にどこでも気軽にできる体操を身につけることを目指します。それにより、適度の筋力・敏捷性・平衡感覚が鍛錬され、若さを維持するための体力、柔軟性、気力の充実等が確保されることを企図しています。	
	ウェルネス的健康科学	生活習慣改善に貢献する健康科学的知識を提供する。1時限を2コマに分割し、以下の内容を行う予定。1)健康概念の変化とウェルネス、2)国民健康づくり運動、3)肥満、4)メタボリックシンドローム、5)有酸素運動と健康、6)筋力トレーニングと健康、7)ファーストフードと健康 8)食品添加物と健康、9)いきがい、10)まとめ。	
	姿勢と健康	「悪い姿勢はどうしていけないのか」「理想的な姿勢とその取り方」「姿勢と背骨の関係・背骨と神経の関係」「姿勢が原因となる肩こり・腰痛について」などのテーマに沿って、「姿勢」と「健康」の結びつきを解説します。ただし理屈だけで姿勢が良くなるわけではないので、「猫背を伸ばす究極の体操」を授業中に繰り返したり、「楽に良い姿勢を保つコツ」「デスクワークやパソコンを使う際の姿勢のアドバイス」なども指導します。理論と実演を通して、実際に姿勢の良い人になることを目指していただきます。	
	健康と体重調節のための運動方法	肥満は、高血圧・糖尿病・心疾患などの発生率を高める。同様に、やせ過ぎも死亡率を高めたり、骨粗鬆症などの健康問題を発生させたりする。本講義では、体格と健康との関係、肥満の判定方法、そして体重調節方法としての運動の重要性とその実施方法を解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(保健体育科)	健康とスポーツの科学的基礎	メタボリックシンドロームに代表される健康の危機が指摘される一方で、都市型市民マラソン・東京マラソンの隆盛もみられている。本講義では、「健康」と「スポーツ」にかかわる最新のトピックスを題材として、人間は何故、健康を求め、スポーツに挑戦するのかを考える。	
	運動による健康増進	家庭に閉じこもりがちだった主婦がバレーボールやテニスに、若者はサッカーやジムに、高齢者はグランドゴルフや水中運動に興じ夢中に取り組んでいる光景はいまやまったく珍しくはなく、運動は生活の中の一部に定着しつつある。運動に関する知識、理解を楽しみながらできるセラビティックレクリエーションを中心に科学的に分かりやすく説明する。	
	健康科学	体の仕組みや働きを理解することによって、健康・体力の維持・増進に必要な知識を習得することを目的としている。神経、筋、骨、内臓、血液などの各項目について、最新の情報を紹介しながら解説する。酸素飽和度、筋硬度、血糖値、乳酸値、サーモグラフなどの測定実習や血液の観察も行う。また、生活習慣病や悪性新生物についても解説する。	
	スポーツ文化論	現代社会におけるスポーツは、童戯にも似たニュー・スポーツから、高度に洗練された技術を見せ物とする、スペクタクルとしてのスポーツまでも包含する幅広い内容をもつに至った。ここにおいて、近代スポーツのもつ過剰な競争原理が批判・反省され始め、真のスポーツ・フォア・オール(みんなのスポーツ)とは何かが問いなおされている。これらの動向は、遊びや気晴らしが原意とされる、スポーツ文化本来の楽しみ方や意義を再認識しようとする流れでもある。本講義では、欧米におけるスポーツの歴史と日本における芸道・武道の歴史を振り返りながら、日本人とスポーツのよりよい関わり方を検討する。	
	健康・スポーツ科学	わが国の子どもの体力は、1980年代後半から持続的な低下傾向にある。また中・高齢者においては、近年メタボリックシンドロームの増加が問題となっている。いずれも身体活動量の減少と摂取カロリーの増加が根底にある。これに対して、厚生労働省は「1に運動、2に栄養、しっかり禁煙、最後に薬」と身体活動量の増加を促している。本授業では、児童・青年・中・高齢者に対して、安全で効果的な運動の実施と効果について講義する。	
	ウェルネスライフと運動	健康・体力に対する運動の効果、および体力レベルや目的に応じた効果的な運動の内容や方法について解説します。ウェルネスとは、現状よりもハイレベルな状態を目指して生活の仕方を工夫し、変えて行くことをいいます。ウェイトコントロール、筋力強化など、目的に合わせた運動の方法をレクリエーションダンスなどのリズム運動、ゲーム、その他軽い運動や体操などの実践を通して学習します。	
	ウォーキングと健康	多くの現代人は慢性的な運動不足状態にあり、それが原因で生活習慣病(メタボリックシンドローム)の発症を早めています。この背景には、労働の機械化や交通機関の発達、車社会、情報技術の進歩など様々な生活環境要因が挙げられますが、改善のためには身体を動かすしか方法はありません。そんな中で、我々の日常生活に残された身体活動は“歩くこと”が一番身近な運動だと考えられます。歩くこと=ウォーキングは、誰でも、どこでも、いつでもできる運動であるばかりか、体内の余分な脂肪を燃焼させるために最適の運動強度と運動量を満たしてくれるのです。ウォーキングの科学を少し講義した後に、実際に鳥取市周辺のウォーキングに適したコースを歩いて、自分に合ったウォーキングの方法や消費カロリー量などを考えてみたいと思います。歩くコースは、一日目は久松山周辺を、二日目は智頭~板井原集落を予定しています。	
	健康とスポーツ	健康とスポーツ授業では、講義と実技を行います。講義では健康づくりの基本を学びます。少しの運動生理学と、健康生活と生活習慣病の予防および改善について説明します。その上で健康づくりに必要な運動プログラムと運動処方学びます。運動処方は、レジスタンス運動、ストレッチング運動、エアロビクス運動、コア運動を実践展開し、健康づくりができるように指導いたします。	
	「ナンバ歩き」の確かな習得法	最近各地で大きな地震が多発している。南海地震も近いのでは、と報道されている。海に近い地域では特に津波による被害が心配され、行政も困惑している。その対策の一つとしてウォーキングが注目される。しかし、筋力が多少衰えても身体に無理がかからない、疲れにくい「ナンバ歩き」の普及は遅れている。古武術の動きを実践した「ナンバ歩き」を、「日本ウォーキング協会主席指導員」有資格の山本が担当する。	
	健康スポーツ ヨーガ入門	ヨーガは体を調える「体位法」、息を調える「呼吸法」、心を調える「瞑想法」の三つを備えた総合的な健康法です。授業では、これらの解説と、やさしい実技を行います。	
スポーツと健康の科学	1. 現代における健康阻害要因と体力科学の視点から健康問題について、個人的課題と社会的観点から論述する。2. スポーツパフォーマンスについて運動生理学的知見をもとに実例を取上げて論考する。3. スポーツ動作についてバイオメカニクスの手法を用いて分析的に論述する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
(保健体育科)	センスアップエクササイズ2	体育は、運動という具体的な体験を通して理論と実践とを結びつける学びです。今回は、他者と出会い、他者と触れ合う、あるいはからだだけで表現するといった身体の感性を研ぎ豊かにする活動を体験する中で、社会の価値観の束縛から解放された自由な身体について考えてみたいと思います。	
	バレーボールの科学	現在、バレーボールは小学生から家庭婦人に至るまで、「行方スポーツ」としてはもちろん「観るスポーツ」としても人気の高いスポーツです。日本では世界選手権やワールドカップなど、国際試合を毎年のように観戦できる恵まれた環境にあります。そこで本講では、「バレーボールを楽しく観る方法」という観点から、バレーボールの歴史・技能・戦術、及び試合等から得られた科学的データ等について解説します。	
	楽しい体操	近年、人々の健康志向は益々高まってきている傾向だと感じられます。その要望に応えられる運動は体操ではないでしょうか。音楽を使用して、簡単に楽しく体操して心身をリフレッシュするプログラムです。8時間とも実技・講義を中心として展開します。毎回いろいろな実技プログラムと、体操の歴史から現在世界各地で実施されている現状を、教科書を基に進めていきます。最終目標としては、一人でも体操を計画的に実施できる事とします。服装は自由ですが、出来るだけ動きやすいスポーティーな服を着用してください。	
	生涯スポーツ入門	身体運動をすることの生理的な意味づけを、実践とともに、客観的に理解することを目的とする。自分に合った歩行速度は？そのときの心拍や血圧の応答はどのようにになっているか、測定して確かめよう。バドミントンや球技を行ったときの生体反応は、自分の満足感や疲労感とうまく合致しているのか否かも確かめてみたい。楽しく運動するとき、安全を確保するための留意点や運動の工夫も、試行錯誤しながら実践と理論の統合を図りたい。	
	健康科学実習	本授業は、運動と健康に関する講義と運動生理学的・体力科学的な計測や調査とを組み合わせた実習形式で実施します。実習形式とすることで、健康づくりや良質な生活習慣の形成に資する知識を実践的に学んでいただくことが狙いです。	
	健康維持のための運動習慣	健康を維持するためには、各自にあった適度な運動習慣を身につける必要がある。特にメタボリックシンドロームのリスクを減らすことが健康を維持する重要なポイントとなる。各自が自分にあった栄養の摂取量と運動でのカロリー消費のバランスを知ることが大切である。1日のカロリー摂取量とそれを消費するための運動量を算出する。軽スポーツを実践し実際にカロリー消費を体験する。これらの学習活動を通して、健康と運動習慣の関係について学ぶ。	
	働く人々の健康	働くことによって、健康を害することがあるとすれば、こんなにつらいことはありません。「しかたなく働く」「本当はいやだけど働く」のではなく、充実感・達成感をもって日々の労働にとりくみたいものです。職業に起因する病気にふれつつ、働く人々の健康管理・健康増進について、職場の環境やメンタルヘルス対策、健康診断等も含めて、総合的に考えてみたいと思います。	
	佳麗なる太極拳	中国伝統の養生法として太極拳が知られ、日本国内においても盛んに行われている。それは武術の流れをくむものの、柔軟体操のイメージが強く、精神性も強調されている。講義では「気」について中道的に解説し、実技においては太極拳を佳麗な演舞として見せ、基本的な簡化二十四式太極拳を実習する。また、八段錦をはじめ各種健康法も教える。健康維持増進に役立つ。	複数教員共同担当
	脳と行動の科学	1990年代以降、脳科学は大きな進歩を遂げた。その範囲は、生理学、生物科学にとどまらず、工学、哲学、心理学など幅広い領域にわたっている。これらの知見の特徴の一つとして、「身体」と「運動」の新しい考え方があげられる。本講義においては、脳の問題を、新しい「身体と運動」観に基づく人間行動の問題として取り上げながら、これらを日常生活の中に生かす実践的課題について概説する。	
	健康生活の実践	現代の健康問題はライフスタイルと大きくかかわっている。本講義では食生活・休養・運動などのライフスタイルと健康との関連性を明らかにし、望ましい健康生活の実践についての理解を深めることを目的とする。	
体温調節と健康	最近、体温を上げることによって、身体の免疫力・抵抗力が向上し、健康・体力の維持増進ならびに病気の予防・治療にも有効であるといわれています。本講義では、特に体温上昇の功罪の観点から、1)運動と発汗、2)熱中症予防、3)水中運動と体温調節、4)入浴と体温調節、5)食事と免疫力などについて解説します。		
(主) 共通科目	情報と社会(06)	デジタル技術と情報通信技術(ICT)が可能にする高度情報社会は、社会生活のさまざまな局面に大きな変化をもたらしつつある。この講義ではICTが及ぼす経済、産業、個人生活、公共政策、都市、ポップカルチャー、教育、子ども、福祉などへの社会的インパクトについて、多くの専門家が分野横断的に講義することによって、高度情報社会の光と影について理解を進め、新しい技術を人間の幸福に役立てるための方策について考えることを目的とする。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (生活と福祉)	生活知と科学知 (09)	科学知(科学的手法によって獲得される客観的な知識)と生活知(生活のなかに埋め込まれてきた経験的な知識)とはこれまで別々に扱われることが多かった。むしろ、これらを切り離して論じることは、教える側と教えられる側、専門家と一般市民、生産者と消費者といった立場の分離がより明確になることで発展した近代・現代社会になじむものであった。しかし今日顕在化する様々な問題の解決には、異なる立場間の価値観・意見そして知のコミュニケーションが求められるようになってきている。この授業では、生活知と科学知の観点から、生活および生活者の課題を論究するものである。	複数教員共同担当
	家族のストレスとサポート (08)	今日の家族の問題を、ストレスという観点から捉えなおし、家族の抱える困難や、直面する危機状況への対処の過程を検討するとともに、困難の克服あるいは危機の予防に働く各種のサポートのあり方を考える。	
	人口減少社会の生活像 (06)	ポスト工業化、経済のグローバル化、少子・高齢化などの社会変動は、人々の生涯、地域社会、仕事の世界を秩序づけてきた構造を大きく変えつつある。なかでも人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会から定常型社会への転換は、これまでとは異なるインパクトを与えるであろう。その実態を、とくに世代とジェンダーという切り口から明らかにし、これからの暮らしと社会の新しい地平を展望する。	
	衣生活の科学 (06)	衣服は、形態や色・柄のような顕在的品質と水分や熱の移動、伸縮性、縫製などの潜在的品質を有している。衣服購入の際には、前者が重視される傾向が強いけれども、後者も合理的な衣生活にとっては欠かせることができない。この科目では、衣服の材料、縫製、着心地、洗たく、染色加工、繊維製品のリサイクル等の各事項を科学的な視点から捉え、私たちのもっとも身近にある衣服に対する科学的理解を深めることをとおして資源や環境など生活にかかわる諸現象に対する科学的な思考、判断につなげたい。	
	食と健康 (06)	食品には栄養機能、嗜好性に関わる機能、生体調節機能がある。これらの機能を発現する成分を概説する。免疫系、消化系、循環系、神経系など生体調節の機構、有効成分について論じ、これらの成分を含む機能性食品を通じて健康の維持、がん、動脈硬化などの生活習慣病の予防への挑戦を述べ、理解を深める。	複数教員共同担当
	食品の安全性を考える (08)	2001年9月に起きたBSE問題を契機として、私たちの食の安全・安心が揺らいできた。食の安全とは何であり、食料輸入大国である日本に求められる安全システムはいかにあるべきか。この講義では、欧米先進国での状況を踏まえつつ、食品リスクの現状と課題、食品の安全基準や表示のあり方、リスク管理とリスクコミュニケーションのあり方を論じ、農業や環境問題との関係性についても考える。	
	暮らしの防犯と防災 (06)	我々の生活環境にはさまざまな犯罪や災害リスクが存在することを認識し、犯罪や災害の発生のメカニズムについての科学的な理解を通して、それらによる被害を防止あるいは減ずるための方法について考察し、それに基づく実践的な取り組みに向けて適切な行動ができるようにすることに本講義のねらいがある。	複数教員共同担当
	失敗予防の住まい学 (09)	住まいづくりから住まいに住み続ける過程で住まいにかかわるいろいろな問題が発生する。これらの問題を解決しようとする受講者(市民)が必要とする、ハードからソフトに及ぶ知識を学習し、学生自らが住まいの問題に自主的に取り組む能力の育成を行うことを目的とし、4つの内容から構成される講義を15回行う。はじめの講義は、市民のための住居学の構成を解説し、最後の講義は近年のマンションの構造偽装問題に触れて、具体的な問題への適用とこれからの優良な住まいづくりの条件について述べる。 1. 優れた住まいづくりの基本的な知識 2. 建物としての住まいの問題 3. 契約と住み続けるための知識 4. まちに優しい住まいづくりの知識	複数教員共同担当
	住まいの性能評価 (10)	本講義では実際の建物を現地に取材し、その建物を用いて出来るだけ具体的に分かり易くどのような性能が確保されているかを解説する。さらに必要に応じて、模型や3次元透視図などを組み合わせてさらに理解を深め、日常生活で必要とされる性能評価の知識の習得を目指す。	
	公衆衛生 (09)	公衆衛生制度は、産業革命が進む中で都市への人口集中を背景として生まれた、不衛生と疾病、貧困の悪循環という状況に対し、人間の健康を守るという観点から求められた、社会の関与の方式として生まれたものである。結果として、公衆衛生制度はカバーする領域は極めて広いものとなっている。各領域について、発展の過程、仕組み、現状、方法などを骨子として講義する。	複数教員共同担当
脳科学の進歩 (06)	私達が物を見る、考える、覚える、行動する、これらは全て脳の働きです。脳には100億個以上の神経細胞があり、10兆個以上の結合によって相互に情報をやり取りしています。この情報のやり取りの中から全ての精神作用が現れてきます。この講義では、神経細胞の動きに関するいろいろな分子の解説から始めて、人にしか現れない高次な認知機能の仕組みまで、平易に解説します。	複数教員共同担当	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	感染症と生体防御 （ 08 ）	本講義は、人間の健康について広範に論ずる「健康科学」の中の講義の一つとして実施される。 健康科学は人間生活に密接に関わる学問であることから、感染症関係では昨今の話題であるHIV、結核、プリオン病はもとよりSARS、新型インフルエンザ、ウエストナイル熱などの新興・再興感染症と医療現場での感染症問題に特に焦点を当てた。また、生態防御については、免疫システムの多様性と多型性、自然免疫と獲得免疫、自己免疫と免疫が関与する疾患などを中心に免疫学の最近の動向についてわかりやすく疾患との関係も踏まえながら講義を行う。	複数教員共同担当
	がんの健康科学 （ 06 ）	平成13年には、30万人の日本人の生命が、がんによって奪われた。がんは今日では、人類の最大の健康課題であり、各国の研究者や医療従事者が競って、がんの病態の解明、がんの発生と死亡の実態把握、予防の推進、新しい治療法の開発・普及、緩和ケアの充実に取り組んでいる。講義では、これらの取り組みの中で明らかになった知見について広く紹介し、がん克服に向けた展望を中心に話しをする。	複数教員共同担当
	リハビリテーション （ 07 ）	これまでリハビリテーションは理念的に語られることが多かったが、本来は優れて実践的かつ役に立つ学問、技術の体系である。少子高齢化の進行、疾病構造の変化、生活環境の変化が急速に進む中で、本講座では実学としてのリハビリテーションに焦点をあて、「障害を持った人々が、持てる能力を最大限に発揮し、人権が尊重され、生き甲斐を持った生活を送れるように、障害者やその家族を中心に共通の目標に向かってチームで援助する活動」としてのリハビリテーションについて実践的に考えてみたい。	複数教員共同担当
	看護学概説 （ 05 ）	学習者が、看護学の主たる概念や諸理論に関わる先進的知識を幅広く獲得し、実践の科学である看護に対する理解を深め、自らの看護観を確かなものにしていくことを意図している。	
	看護学概説 （ 10 ）	本授業科目は、学習者が、看護学の主たる概念や諸理論にかかわる先進的知識を幅広く獲得し、実践の科学である看護に対する理解を深め、自らの看護観を確かなものにしていくことを意図したものである。看護とは何か、看護学はどう発展していくべきなのか、健康と看護の関係、看護における倫理など、看護学や看護実践にかかわる幅広い内容を含める。	複数教員共同担当
	基礎看護学 （ 04 ）	看護実践に必要な主要な知識・技術について理解を深め、専門職者として活動するための基盤並びに考え方を拡大することを意図している。	複数教員共同担当
	基礎看護学 （ 10 ）	実践に必要な主要な知識・技術について理解を深め、専門職者として活動するための基盤並びに考え方を拡大する。	
	在宅看護論 （ 04 ）	疾病や障害および虚弱のために看護ニーズを持つ居宅生活者とその家族を理解し、QOLを向上させる目的にそって、問題を解決するための方策をたて、その実施に必要な知識と看護技術を学習する。	
	身体福祉論 （ 07 ）	福祉という言葉は、幸福な状態を意味する。近年、身体福祉論はからだに幸せをもたらす道筋を解き明かす領域として使われ始めた。本講義では、健康の保持・増進に重要な役割をはたす身体運動実践の理論と実際を解説する。特に実際面では、身体運動の中から、多くの人が興味を示す10種類の運動を取り上げ、それぞれの力学的、そして、生理学的特性を明らかにするとともに、実践の具体的方法を説明する。	複数教員共同担当
	少子化時代の児童福祉 （ 07 ）	2005年日本は人口減少を経験することになった。この大きな原因は述べるまでもなく出生数の減少である。少子化が進行する現代社会における児童及び家族の状況と、子ども・子育てに関する社会的支援について学ぶことが本講義の目的である。子ども・子育てに関する社会的支援は、教育、保健医療など多分野からなされる必要があるが、本講義では社会福祉分野における社会的支援に焦点を当てる。	
	高齢期を支える社会福祉システム （ 07 ）	人口減少社会における高齢期を支える社会福祉システムを高齢者、サービス、政策のそれぞれレベルから検討していく。特にわが国は国民の1/3が高齢者となる一方、人口そのものが激減することになる。そのような社会にあって高齢期を支える社会全体のシステムは従来の常識や施策の発想からは生まれない。すでに人口減少社会となり、かつそのようななかで高齢者がつつがなく生活する仕組みを先行して構築しているヨーロッパと対比しながら、広い視点に立つてわが国のこれからの福祉システムのあり方を学ぶ。	複数教員共同担当
	地域福祉論 （ 06 ）	地域福祉が住民主体を基本とする地域社会をベースにしたサービスとケアのシステムであることを理解する。この場合、地域住民は、サービスの受け手であるとともにサービスを創出する担い手でもあることを学ぶ。国から地方への中央集権的、上意下達的な縦割り型の法令や補助金に拘束された官僚的福祉行政ではなく、生活者である住民の目線から自治体を含む様々な専門職団体や住民団体とともに多様な生活支援サービスや市民活動を横につないでいく取り組みであることを理解する。	
地域福祉の展開 （ 10 ）	この講義では、少子高齢化、情報化、国際化が進展する中、個人の生活を尊重しつつも、地域のコミュニティーが個人を支え、また市民が地域社会の福祉を構築するようになってきているのだということを検討する。同時に、自治体などの公的機関が福祉政策を立案し運営する場合にも、市民との協働が必要になっているということも学習する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	市民生活における社会保険（08）	社会保険制度はあたかも生き物のごとく、様々な環境の変化に適応すべく変貌していく。そして、時代の変化が著しい昨今においては、その変貌の速度も加速している。本講義においては、市民が生活をしていくなかで、社会保険制度はいかなる機能を果たしているのか、またその本来の目的を達する上で何が障害となっているのかなど、変わり行く社会保険制度について、普遍的な部分と時代に適合していく部分の両方を意識しながら、その意義と将来像について検討していく。	複数教員共同担当
	アジアの社会福祉（06）	アジアは政治的にも経済的にも変動の中にある。そして、その政治経済の変動の中で、社会福祉も大きく変わろうとしている。かつては、慈善救済的な福祉が主流であったが、現在は社会開発が重要な位置を占めつつある。また、社会保障もいくつかの国では、発展の段階に入っている。本科目では、これらのアジアの社会福祉の新しいうねりを学習する。	
	アジアの社会福祉（10）	アジアの社会福祉の現状と課題を社会福祉の主要分野（貧困、不平等、環境、子ども、女性、障害、高齢者、社会的排除等）ごとにとり上げる。モンゴル・ベトナム・シンガポール等の個別の国の社会福祉をテーマとして社会福祉問題の特徴を示す。更に国をこえた社会福祉活動（国連、ODA、NGO等）についても検討する。	
	障がいと共に暮らす（09）	本講義では、障害者福祉論で通常取り扱われる対象・範囲を超えて、新しい「障がい法」のあり方にまで踏み込んで考えてみよう。障がい法という新たな概念では、障害者福祉の法制に限らず、障がいにかかわるすべての法領域が含まれるとともに、それらの法領域が全体として障がいのある人の自立・社会参加を保障する差別禁止と社会連帯の基本原理に立って統一的に考察されることになる。なお、現行法を引用して説明する際の煩瑣をさけるため、本文では「障害」の表記を用いている。	複数教員共同担当
	卒業研究（生活と福祉）	1. 卒業研究は、各専攻に所属している全科履修生が、教員から直接指導を受け履修する選択科目です。 2. 履修を希望する場合は、学習センターの窓口にて配布（毎年6月中旬）の「卒業研究履修の手引」を入手し、卒業研究申請書を提出してください。 3. 提出された卒業研究申請書をもとに教員が審査を行った結果、履修可の通知を受けた方は、所属する専攻の卒業研究の科目登録申請を行ってください。 審査の結果、履修が認められない場合は、履修申請条件を満たしていても科目登録申請・履修はできません。 4. 他専攻の卒業研究は履修できません。 5. 既に修得した専攻の卒業研究は履修できません。 6. 履修期間は、4月から1年間です。従って、履修途中（第1学期末）で卒業要件を満たしても第1学期末での卒業はできません。	複数教員共同担当
	高齢社会と家族	長寿は喜ばしいことですが、高齢社会は現役世代の負担の増大、労働人口の減少、貯蓄率の低下、医療費の高騰、消費構造の変化、介護需要の激増、投資意欲の衰退、社会保障給付費の増加、家族関係の変容、孤独死、その他、様々な課題を含み持っています。近年、本来の家族機能の低下が憂慮されますが、家族の再建、家族の大切さの再認識の視点から、問題解決に向けて、共に高齢社会を展望してみましよう。	
	足と履物の生理学	直立・二足歩行という特有の移動様式を呈するヒトのからだの特徴について、生理学的ならびに解剖学的に概説する。また立位の安定性や歩容の様相を測定する装置を用いて、それらの年齢差、性差、生活環境などによって受ける影響について考える。さらに足の計測を行い、靴のフィッティング、さらには履物の重要性についても触れる。なお、実習が伴うので、動きやすい服装で参加されることが望ましい。	
	高齢者の看護	概要：健康と生活の両側面から高齢者の特性を理解するとともに、高齢者の生き方を尊重した看護の特徴と役割について理解する。加えて、高齢者に関わる施策・制度の動向、さらに高齢者の権利や尊厳に関する課題など、高齢者をとりまくことごとについて、広く学ぶ。授業は一部に演習も加え、参加型で進める。（受講に際して、介護保険の概要（対象、サービス内容など一般に周知されている程度のこと）を確認しておくこと）	
	疾病や障害をもつ人の生活と健康	医療技術の発展や人口の高齢化に伴い、障害児・者の高齢化や障害の重度化・重複化が進み、病気や障害をもちながら暮らす人たちが増えている。本講義では、主に看護師の視点からみた慢性的な疾病や障害をもつ人の生活や健康問題の現状を解説し、健康とは何か、病気や障害とは何かを再考し、ケア提供者や社会のあり方について検討する。	
	大人の学びを支援する成人教育学	おとなはなぜ、どのように学ぶのでしょうか。成人教育学は、大人を教えるための学問ではなく、大人の学びを支援するための学問です。講義形式ではなく、参加者同士が経験資源として仲間と語りながら学習する参加型学習の方法で展開します。成人の学習者の特質といわれているものを体験しながら学習していきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (生活と福祉)	HIV陽性者の生活の質を考える	HIV(エイズウイルス)に感染していることが判明し、HIV陽性者として「生きる」ということは、どのようなことを意味するのかについては、あまり知られていない。しかし、HIV陽性という事実直面しつつ、それに対処し、人生の再構築をしていく様相は、他の疾患や障害、健康問題にも通じるものがある。本授業では、HIV陽性者支援関係者とのパネルディスカッションも含めることとし、HIV陽性者の生活に対する理解を深め、支援のあり方や社会、保険医療のあり方を考える場としたい。	
	食品の機能と化学	高齢社会を迎えたわが国では健康への関心が極めて高い。生命を維持し、健康を支える食品の機能、すなわち栄養面でのほたらき(栄養機能)、嗜好・感覚面でのほたらき(嗜好機能)および生理面でのほたらき(生体調節機能)について化学的視点から論ずる。「食」による生活習慣病の予防を目指した食品成分に関する研究も紹介する。	
	保健医療福祉システムと社会保障	政治・経済における社会保障と保健医療福祉の比重は高まりつつあり、今や国民生活の不可欠な部分として選挙や政局をも左右するほどの重要性を帯びてきた。同時にこれらの分野は、市場原理に依存する一般産業とは異なり、複雑な法律や行政によるコントロールに服している。これら公的サービスをその制度が意図する目的に有効に活用するためにも、利用者はその原理と仕組みを十分に理解することが求められる。本授業では、利用者の視点から各種社会保障制度と保健医療福祉サービスの法的経済的な仕組みをわかりやすく講義する。	
	現代の子どもと保育	わが国では、子どもを取り巻く環境が大きく変容している。例えば、少子化、核家族化といった人間関係の変化、そして、都市化や電子機器の普及による生活や遊びの変化である。このような変容を踏まえ、平成20年3月には保育の基準が改定され、平成21年度より施行されることとなった。(改行) 保育の現状を理解するとともに、未来を担う子ども達のために、大人はどうあるべきかを探ることを本講義の目的とする。	
	人口減少社会を展望する	人口減少社会とはどのような社会なのか。少子、高齢化から派生する社会の諸問題を解説し、少子化を克服した諸外国の例をあげて考察する。また、グループごとにテーマを抽出し、人口減少社会の問題を身近な例から整理し、ロールプレイングにより問題解決へと導く。	
	障害者と企業	障害のある方が企業で働く場をうるために必要な政策と課題を学習する。	
	衣服取扱いの科学実験	健康で安全、快適な衣生活を営むためには、衣服の機能を理解し、衣服の初期性能を保持するための適切な取扱いが大切になる。衣服管理や洗剤について、説明するとともに、洗濯、漂白、染み抜きなどに関する簡単な実験を行う。	
	子どもの安全と千葉のまちづくり	1.子どもの犯罪被害についての日本と世界(先進国)の現状 2.犯罪被害の要因分析(まちづくりの視点から) 3.千葉の県土の特徴 4.千葉県の子どもと犯罪被害 5.安全・安心なまちづくりの方向	
	高齢者へのケアと政策	本講義は、超高齢社会の社会的状況をふまえて介護高齢者等に対する様々な制度やサービス、さらにはその援助の方法について学ぶ。特に介護保険制度の中でサービスがどのように行われているのかを知り、今後どのようなケアを展開すべきかを学生と共に考えたい。	
	くすりの科学	薬とは何かを、総合的な概説を行う(1回山本)。抗生物質や抗がん剤を題材として新薬開発過程を分子・原子レベルの視点から解説する(前半3回牧野)。いろいろな剤形の薬について、薬が効果を発揮するしくみや薬物送達システムについて解説する(後半4回森部)。	複数教員共同担当
	歯は命、骨も命：歯科医師の役割	歯と骨は生命にとって重要な硬組織である。この歯と骨はどのようにつくられ、維持されているか、またどのような疾患があり、予防するにはどのような食事及び生活習慣が好ましいかを理解する。また、歯一本が教えてくれる現代社会との深い関わりについても考察する。	
	医療体育入門	体育領域と医療領域(リハビリテーション)の中で、人々はどのようにして、健康・体力作りに取り組んでいるかを、障害児・者、高齢障害者の運動の取り組みと運動の効果を見ることで、体育・スポーツ・レクレーションの必要性を感じ、少しでもQOL向上につながる展開にもって行きたい。その背景として、ノーマライゼーション、リハビリテーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、WHO国際生活機能分類モデル、安全管理などを学ぶ。	
	障がいのある子どもの理解と支援	障害のある子どもを取り巻く諸問題を取りあげ、理解と支援のあり方について考えていく	
	年金 初歩	公的年金制度のあらましと最近の動向をわかりやすく解説する	
	食物と健康	食品には栄養面での働き(一次機能:栄養機能)、嗜好・感覚面での働き(二次機能:感覚機能)及び生理面での働き(三次機能:生体調節機能)があります。本講義では、生活習慣病の増加を背景に最近注目されている生体調節機能を示す成分とその作用機構について、例をあげながら解説します。また、栄養機能、感覚機能についても触れ、食物の摂取を通して、健康を維持すること、さらに生活習慣病を予防することについて考えていきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	子どもの生活と支援	近年では、価値観の多様化、携帯電話などのメディアの発達、「自分らしさ」や「個性」に対する過剰な要請など、子どもたちを取り巻く社会状況はかつてに比べて大きく変容かつ複雑化しており、またそこでは、子どもたちとその支援者との関係性にも変化が生じている。本講義では、子どもたちが社会生活の中で直面する困難や危機の現代的特徴と、それに対するサポートの在りようを考えていく。	
	社会福祉とソーシャルワーク	社会福祉の捉え方、今日の社会福祉問題、支援方法としてのソーシャルワークについて、その潮流、アプローチ等について論じる。具体的には高齢者問題を素材に事例等を用いて考える。キーワードとして、「人権、介護、ジェンダー、高齢者、家族、地域、支援、ソーシャルワーク」を提示しながら進める。	
	比較モード文化論	日本と西洋の歴史に現れた服飾表象のなかから代表的な事例をあげて、服飾に託された感情を(改行)通して東西の文化を比較する。日本については、雛型本に見られる意匠、芸能に由来する色彩と文様、呉服店・百貨店の役割、改良・改善運動など近世から近代にかけての流行事象をとりあげる。	複数教員共同担当
	社会保険の現代的課題	社会保険の意義と機能、および社会保障制度全体のなかで社会保険の各制度がどのように位置づけられているかを学ぶ	
	食情報科学 - 安全な食環境とは？	食品機能性食品やトクホ、サプリメントの食情報氾濫、さらには食品偽装やGM食品、BSE問題、価格高騰など、日本の食糧事情が急激に変わろうとしています。安全な食と環境について科学的見解を基本に、食品表示や法的規制などの立場からも考えてみましょう。	
	障害のある人達への地域生活支援	障害のある人たちへの地域生活支援のあり方を考える	
	家族と新しいパートナーシップ	少子化・高齢化が進み、人口減少社会となった今日、私たちはこれまでとは異なる特徴をもった社会に生きている。本講義では、現代社会の特徴をとらえ、今日の家族の現状と課題を世代毎ごとに考察する。家族・世代・コミュニティ・社会のしくみや政策の間の新しいパートナーシップの可能性と、その実現のための具体的な方策を探る。	
	日本の住宅（その歴史と特質）	住宅を形作る要素は大きく分けて2つある。一つは風土的な条件、もう一つはそこで営まれる社会的な条件である。それらを背景にして、世界の各地で多様な住宅が生まれ、時代とともにそれぞれ発展をみた。その中でも日本の住宅は、他の国に比べていくつかの点でかなり独特な形式がみられる。本講義では、日本の住宅が生まれて変化する過程を歴史的におい、また近隣の国々との違いを見て、日本住宅の特質とそうなるに至った要因を考える。	
	家族研究入門	「家族」とはあまりにも身近で自己の経験と密接に関係しているため、個人の意識に影響を与えたり、時に束縛している構造を見えにくくする。本講では、結婚・離婚、老親扶養、虐待、子育てとジェンダーを柱に、現代社会の様相と背景にある構造について文献やデータを参照しながらその多様性を知る。また、自己の価値観から一歩離れて相対化する作業を通し、今後のライフスタイル選択の参考となれば幸いである。	
	現代家族とジェンダー	これからの高度情報化・グローバル化・少子高齢化の進展する社会における家族の形態・役割・問題点などについてジェンダーの視点から考察することを目的とする。現在の家族に影響を及ぼしている家族観について、近世・近代・現代へと政治・経済・文化などとの背景を考慮しながら変遷を概観し、現代の家族の特徴やライフコース・結婚・子育て・仕事・介護などの視点から討論をしてこれからの家族のあり方について追求する。	
	高齢者虐待の予防とケア	高齢化社会を迎えて、要介護者のケアが大きな社会問題となっている。そうした状況を背景に、平成17年「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（Elder Abuse Prevention and Caregiver Support Law）が成立し、平成18年4月に施行された。授業では、「高齢者虐待防止法」の成立・施行の経過とその成果、高齢者虐待の実態、ケースの発見とその対応、活動の現状、今後の課題について、講義・演習を行う。	複数教員共同担当
	居住者参加の集合住宅	集合住宅のデザインに住み手が参加するコープラティブ住宅や自由設計型集合住宅は、ライフスタイルを重視する都市生活者へと浸透しつつある。これらは人のつながりや環境など個人を越えた価値観ともつながっている。新築、建替え、既存建物のリノベーション、環境共生など様々な事例について映像を交えて紹介しつつ、未来に向けての重要な視点を考える。	
高齢期の暮らしと高齢者福祉	授業は、高齢期の暮らしの生活課題を生活時間というミクロな視点から捉えながら、高齢者の地域での暮らしを支える福祉サービスのあり方を考察し、マクロな視点から高齢者福祉政策の動向と課題を理解することを目的とする。具体的には、講義とディスカッションを通して、公的年金の問題、介護保険の改正、後期高齢者医療制度など社会保障制度の諸問題を検討し、あわせて家族介護の実態を理解しながら介護の社会化について考えていく。		
障害者福祉論	「障害者福祉論」うち特に「障害」の概念、障害福祉制度の歴史、障害福祉に関わる制度改革の課題と展望について論点を理解することを目的とする		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	現代社会と児童家庭福祉	児童家庭福祉とは、すべての子どもが健全に育つように、児童と家庭をさまざまな方法で支援する活動である。この講義では、子育て支援、児童虐待、軽度発達障害、ドメスティック・バイオレンス、生殖補助医療など、現代の児童と家庭を取り巻く問題に焦点をあてながら、児童家庭福祉の施策がどのような形態と方法で実施されているのかを検討する。	
	精神医学特論	精神疾患の診断・分類法、治療法などに関する基本的な考え方を解説したうえで、統合失調症・気分障害（躁うつ病）・不安障害（神経症）・パーソナリティ障害・物質関連障害などの主な疾患について、疫学・症候・治療・予後など概略を展望する。面接授業の特性を生かし、できるだけ質疑応答の時間を持てるようにしたい。参加者は、あらかじめ印刷教材を熟読のうえ出席することが望ましい。	
	現代家族の諸相とサポート	家族は多くの人にとって身近なもの、当たり前のものであるように感じられるかもしれないが、その形態や意味は、時代や社会によって実に多様である。現代の家族について、歴史的、社会的な特質を探り、現在、必要とされている支援と関係機関について学ぶことをねらいとする。	
	姿勢と健康	この講座は実際に姿勢の良い人になり、姿勢の悪さが原因となっている健康上の問題を改善することを目指します。各時間、「悪い姿勢はどうしていけないのか」、「理想的な姿勢とその取り方」、「姿勢と背骨・神経の関係」、「姿勢が原因となる肩こり・腰痛について」などのテーマに沿って授業を進めていきます。また、「猫背を伸ばす究極の体操」、「楽に良い姿勢を保つコツ」、「デスクワークやパソコンを使う際の姿勢のアドバイス」なども指導するので、日常生活において非常に役立つ内容です。	
	権利擁護論	社会福祉における権利擁護の課題について学習する	
	知っていきたい歯と口の健康	口は消化器系への入口であり、食物を最初に味わう場であると同時に、固形食物を粥状にする重要な場である。腕や足を動かす骨格筋は脊髄神経によって支配されるのに対し、食べることに係る筋や顔の表情をつくる筋は脳幹にその起始がある脳神経の指令で動いている。口で食べることが生きる意欲や喜びに結びつくのは、脳幹に由来する内臓知覚のせいなのかもしれない。本講座では、われわれの口が進化の過程でどのように変化してきたかをお話するとともに、口と全身の健康との関係そして合理的な口の健康づくりにまで触れる予定である。	
	病とどう向き合うか（心臓病）	ヒトにとって病は必ず罹るものであるが、病の特徴を把握した対処の仕方、より重篤になることを避けることもできるし、適切な医療によって軽度な段階に収めることもできる。日常生活でどのような健康維持の行動をすべきか、どのような医療を行うべきか、医師と患者でどのような情報交換と協力をすべきかなどを医師の立場から伝え、また市民の立場からの意見を伺い、より良い医療を確立する糧としたい。日本人の代表的な病気の1つである心臓病を例にとって講義を行う予定である。	
	人獣共通感染症	自然の状態では、人と脊椎動物の間で相互に移行しうる感染症を人獣共通感染症という。ウイルス、リケッチア、クラミジア、細菌、真菌、寄生虫（原虫を含む）などが病原となる。これらの病原体は、本来動物を含む自然環境下で循環して生存しており、人はたまたまそのサイクルに入り込んだときに創傷（咬傷・掻傷）、経口、接触、呼吸器等の経路で感染する。本講義では、代表的な人獣共通感染症の病原体、感染源、伝播様式、発生状況、臨床症状、診断方法、治療方法、予防方法などについて具体的な事例を紹介しながら解説する。	
	国連障害者権利条約と今後の日本	今後の日本の障害者福祉のあり方について	
	人と動物のかかわり	人が有史以来、動物とどのように深くかかわってきたかいくつかの典型的な例を紹介しながら話し、動物の生き方を通じて、人間のあり方を考え直したい。また、動物に対する接し方を通じて、命あるものの意味を考え直したい。人間が多種類の動物と共存して、地球の生態系を形成していること、さまざまな動物の生きる姿を通じて、人間の生命の営みに関する省察を行う。生態系にとって重要なさまざまな動物の置かれている状況を明らかにし、生態系のもっている現代的な課題を省みることができる。	
特別支援教育と発達障害	障害の新たな定義とノーマリゼーションの理念、我が国の障害者福祉施策を解説する。次に教育のノーマリゼーションである統合教育と、新たな障害児教育である特別支援教育とを比較し、特別な支援を要する子どもの幼児期から学校教育後までの対応を解説する。さらに、最近話題になっている発達障害について、実態と基本的な対応を解説し、関連する教育問題である不登校、いじめ、虐待、非行について触れる。		
生活習慣病の原因と予防	食生活、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が発病や病気の進行に関与する疾患群を生活習慣病という。代表的な生活習慣病である脳血管疾患、虚血性心疾患、悪性新生物、糖尿病、高血圧、高脂血症、アルコール性肝疾患などの病態について概説し、さらに発症要因としての食生活、運動習慣、飲酒、喫煙との関連性及び予防方法について解り易く論じる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	住居学	住居の基本的な機能は変わらないが、年代という時間軸や地域性、家族のライフスタイルなどといった軸から、具体的に住居に求められる機能を見ることも大切である。地域の気候風土と住まいや住生活との関係、省エネルギーと快適な住環境、高齢社会と住環境などについて論じ、住居・住生活についての基礎的知識を習得することを目標とする。	
	社会福祉における人権	社会福祉の現場においても、家庭や職場などにおいても、児童、高齢者、障害者への虐待・拘束・財産侵害・人格権の侵害などが、しばしば問題にされるようになっている。この講義では、グループディスカッションという方法を用い、現代社会における権利侵害の実状を把握するとともに、その背景となる事情を検討しながら、権利を守るシステムや実践について、ティーチング・アシスタント（TA）および受講生とともに考えていくこととする。	
	母子の健康とケア	現代社会において母子・親子関係の根幹が変容し、少子化問題との関連から家族のありかたが大きな社会問題となっている。そこで、多様化する家族ニーズにどのように対応してゆけばよいかを課題となっている。本授業では家族・子産み子育てとその機能、さらに不妊症などに焦点を置いて母子の健康とケアの実際とその課題をあきらかにしてゆきたい。	
	健康と放射線	われわれの暮らしのなかに、放射線は満ち溢れている。大地や、宇宙からの放射線、食べ物からの放射線、太陽紫外線もそのひとつである。広い意味では、電波や磁場、超音波や熱も含まれる。これらの“放射線”はあたりすぎれば害になるが、うまく使うと生活に特に医学の分野で大いに役立っている。今回は、1)身の回りの放射線、2)生体と放射線、3)活性酸素、4)新しい細胞死、アポトーシス、5)がんとその生物学、6)放射線によるがん治療、7)温熱によるがん治療、8)超音波によるがん治療についてお話する。	
	トルコ：人々の生活と文化	トルコは、ヨーロッパ大陸とアジア大陸にまたがり、古くから東西文化の十字路口に位置してきました。その歴史、文化、人々の生活は、島国である日本のものとはずいぶん違います。トルコを学ぶことは、ヨーロッパとは何か、アジアとは何かを考えることでもあります。トルコの人々の生活や文化について、教室で話し合いながら、世界を読み解く力をつけましょう。	
	いのちと生活を守る災害時の活動	災害に関する基礎的な知識である災害の歴史、定義、理論、法律、災害サイクル、災害の種類や特徴などを通して災害時に必要な知識の全体像を説明する。また、災害発生時の社会のしくみ、個人の備え、法や制度、情報伝達、トリアージなどについて具体的に解説する。	
	家族の中の暴力（DVを中心に）	ドメスティック・バイオレンス（DV）って何だろう、なぜ親密な関係にある配偶者やパートナーに暴力をふるうのだろうか。家族の中では、児童虐待・DV・高齢者虐待など、外からは見えにくい暴力・虐待が起こっています。暴力って何だろうという自分への問いかけから始まり、暴力に対する正しい知識を得て、暴力が心身にどんな影響を及ぼすのかについて、具体的な事例を織り交ぜながら、進めていきます。	
	癌 - 基礎から臨床	癌（悪性新生物）について5つテーマで講義を行う。1)概念：疫学、病理学的、分子生物学的定義について、2)診断：臨床、腫瘍マーカー、画像診断について、3)治療1：手術療法、放射線療法について、4)治療2：化学療法、免疫療法等について、5)癌と生きる：癌告知、在宅医療、ホスピス、癌難民など癌を取り巻く社会情勢についてdiscussion形式で講義を行う。	
	心臓病は薬で治るか？	メタボリックシンドロームで注目されている心臓病、そのうち薬物治療が行われる高血圧、心不全、心筋梗塞、狭心症、不整脈を取り上げ、非薬物療法との違いを理解し、薬物の限界、将来の希望を含め考え、身内の看護や、自分が患者になった場合の上手な医師、病院へのかかり方、治療法の注意点などを理解できるようにする。	
	人々の健康を支える科学の歩み	わが国は、今日、未曾有の人口の高齢化に直面する中で、医療、保健、福祉の各面において、制度の抜本的な改革が、年々、意欲的に遂行されている。これらの動向に対し、21世紀に、わが国の社会がどのような方向を展望すべきか、人々の健康を支える科学としての医学、医療、公衆衛生の歩み、また人類の社会保障の母国とされるイギリスの、国の創設者ウィリアム1世以来の社会体制の歩みについて学び、考察する。	
	食品と調理	(1)食品のおいしさに寄与する諸要因（講義）、(2)食品成分と調理（講義）、(3)食文化・食情報とおいしさ（講義）、(4)山梨の郷土料理ほうとうの調理（実習）、を通じて食についての理解を深めることを目的とする。	
	暮らしの中の看護	子育て・健康管理・介護など、家庭生活の中の健康課題や健康障害とその解決方法、家族にできるケアについて学ぶ。また、食事や運動、リラクゼーションなど、日常生活援助技術について演習する。さらに、家族に病人が出たときの療養者とその家族を家庭で支える社会のしくみについて概説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	ワークショップ入門	地域まちづくり、芸術文化活動、社会教育など様々な分野で用いられている集団討議型ワークショップの基礎的な技法について、グループ演習などを交えながら体験し、振り返って考察する。またワークショップの前提となるコミュニケーション・スキルについても学ぶ。コミュニケーション心理学やコミュニケーション・スキルは、家庭や職場でのコミュニケーションを円滑にするためにも役立つ内容である。	
	障害児の発達支援	障害のある子ども達の発達支援のために、どのような事柄を、どのような側面から眺めていくことが必要なのかを、障害児教育臨床の実践を踏まえて言及していく。具体的には、“障害”の意味するものについて再考し、また、教育の科学化を目指して、対象の実態把握のための教育診断法、問題行動のとらえ方、治療教育の方法論、障害否認から障害受容へ向けての家族支援等々、基本的事項について、事例紹介、視聴覚教材、体験学習のためのエクササイズ等を導入しながら概説していく。	
	健康寿命を伸ばす要因と説明方法	本講義の一般目標と行動目標は次の通りです。一般目標：健康寿命の延伸に影響を与える要因とそれを明らかにする研究方法を学習し、自らの豊かな人生の形成に資する。行動目標：(1)健康寿命と平均寿命の違いを説明できる(2)社会的ネットワークと健康寿命の関係を説明できる(3)生活習慣病予防と介護予防の関係を説明できる(4)社会経済的要因と健康寿命の関係を説明できる(5)健康寿命延伸の具体的な施策を企画できる(6)疫学研究の意義を説明できる(7)人を対象とした研究の倫理課題を概説できる	
	生活の中のデザイン	カラー・コーディネイトを考えないでデザインを語ることは難しくなっている。ファッション、インテリア、家電、車など広い分野で重要なファクターとして認識されている。本講義ではその基本となる色彩の構成を講義と簡単な作業をしながら解り易く説明してゆく。色の組み合わせには正解がひとつということはない。個々の感性の違いにより答えも様々である。デザインに興味を持ってもらえれば幸いである。	
	高齢社会と法	本講義では、高齢者をめぐる法律問題について様々な角度から検討する。具体的には、消費生活トラブル、財産管理、扶養義務と介護、社会福祉サービスと介護事故など広範な素材を用意しているが、それは「高齢者の暮らし」という視点から今日の社会を検証することを究極の目標としているからにほかならない。	
	介護保険制度研究	わが国社会保障制度改革の第一歩として、2000(平成12年)から施行された介護保険制度。介護の社会化、利用者本位、地域自立支援、という崇高な理念を掲げてスタートした本制度は施行以来数度にわたる改正が行われて今日に至っている。本講義では、2006(平成18)年度に実施された制度大改革の内容を含めてその仕組みを理解するとともに、受講生の討論を交えながら、制度運用上における問題点や課題を把握していくことを目的とする。この授業は全日程を長野市生涯学習センター(長野市大字鶴賀問御所町)において実施する。	
	衣生活の文化史	日本と西洋の衣生活の変遷と文化・社会との関わりを概観する。特に、日本では古代から近代に至る政治・文化により衣服の形態がどのような影響を受けたについても考察する。衣服令については、その背景と具体的な制約について詳細に検討する。また、西洋でも、同様に中世から近世にかけて社会の動向と衣服の形態には密接な関係が見られる。宗教や文化の影響を強く受けた衣服形態の特徴について、スライドやビデオ等の視聴覚教材を用いながら、具体的に紹介していきたい。	
	食品の化学	私たちは生命を維持するために、栄養成分を食品から毎日摂取する必要があります。食品化学は、食品に含まれる栄養成分を化学的な面から追求する学問です。食品の原料は大部分が生物であり、それを加工・貯蔵するときに食品中の栄養成分はかなり変化します。本講義では、食品に含まれる様々な栄養成分について種類と特徴を理解するとともに、加工・保蔵中におけるそれらの成分の化学的変化の知識を得ることを目的とします。	
	食生活と健康—その実践方法—	食行動・食物摂取方法を考えつつ、現代社会で「健康を維持するために必要な行動とは」「健康を保持するために食生活がいかに重要であるか」「予防医学・ダイエット(食事療法)の勧め」などを総論する。また、「日本人向けの食品群ピラミッドの紹介」「食事バランスガイドの問題点」「地産地消の落とし穴」を加えた講義内容を予定。一部を質問形式で進めるが、基本はH20年度と同じ予定である。	
	体のために何を食べたらよいか2	日本は世界一の長寿国です。しかし、健康でより良い生活の維持には何を食べたらよいか、情報が氾濫していてよく分からない。食品を化学的に理解し、製造法やその歴史について学び、何を食べたらよいかを考えてみる。(1)わさび、(2)ヨーグルト、(3)お酒、(4)漬物、(5)おせち、(6)魚・肉製品、(7)油、(8)キノコ、(9)大豆食品などについて講義します。	
キノコの化学・科学	キノコの食品としての機能性とそれを司る化合物について解説する。また、テレビ等で紹介されるキノコの機能性(食べて体に良い機能)は、どこまで正しいのか、実例を挙げて解説する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	HIVとともに「生きる」とは	日本におけるHIV陽性者数は1万人を超え、さらに増加すると予想されている。一方で、HIV陽性者らは、「HIV陽性」ということを周囲に伝えづらい状況にある。さらに、差別や偏見を恐れ、日常生活を自主規制しているという状況も生じている。こうしたことから、HIVとともに生きている人々への理解はさらに深まりづらく、結果として差別や偏見の解消がなされていないということもあるだろう。本授業では、HIVとともに生きるということはどういうことなのか、生活の質はどのような特徴があるのか、調査結果やHIV陽性者の語りなどから、ともに考える機会としたい。	
	温熱療法のHSPが貴方を守る	我々は、外的障害や様々な病気、ストレスに対し、自分で自分を守るうとする能力、生体防御能を持っている。細菌に感染した場合は免疫系が活性化され感染を防御し、ケガで出血した場合は血液凝固系が活性化され止血する。そして、ストレスを受けた場合は、ストレスタンパクが増加し、ストレスで傷害を受けた細胞を元気な細胞に修復してくれる。このストレスタンパクは、最初、熱ストレス（温める）によって増加する蛋白として発見されたので、熱ショックタンパク（Heat Shock Protein:HSP）と呼ばれた。HSPは我々をストレスから守ってくれる生体防御物質である。我々は体を加温してHSPを増加させ、ストレスの防御、癌を始め様々な病気の予防・治療に役立てるマイルド加温療法を実施している。HSPは細胞中の傷害された蛋白を修復して細胞を元気にすると共にNK活性を高めたり、免疫能を高める。マイルド加温により増加するHSPを、細胞や実験動物の基礎研究から、癌治療などの臨床研究まで紹介し、60兆個の細胞からなる自分の体のHSPに気づいてもらう。スポーツも1つのストレスでありHSPが増加し、明日への元気の基になる。体を温めたり、スポーツによって自分でHSPを上手に増やし、ストレスや病気に対処し健康な生活を送ろう。そして、みんなが持っているHSPを市民語に！	
	薬のはなし：最近の話題	科学の進歩にともない、より効果のある、より副作用の少ない新薬が開発され、次々と上市されています。本講座では、「薬のはなし：最近の話題」として、近年上市された薬を中心に講義を進めます。なお高血圧治療薬、糖尿病治療薬、脂質異常症治療薬などの生活習慣病に関わる治療薬は、本講座では取り扱わない予定です。	
	現代家族の社会学	本講義の目的は、社会学の視点を用いて、現代家族に関わる諸現象を理解する力を獲得することです。内容としては、家族の基本概念を押さえた上で、育児、児童虐待、仕事と家族、貧困と家族、里親といったテーマを取り上げていく予定です。社会学的な視点を用いることによって、現代家族の諸現象に関して、どのような視野が私たちの前に開かれていくのかをみなさんと議論しながら、共有していきたいと思えます。	
	体の緊急事態に対する考えかた	周りの人が倒れたら、どのように考え、行動するか。医療関係者でなくても、そばにいる貴方でできることがあります。具体的な方法と、それが有効であるという理由・考えかたを知っていれば、自信をもって行動できます。AEDの使い方、意識障害、窒息、重症の怪我、ショックなど、緊急事態に対処するための考えかたについて講義します。講義の内容をご家庭・職場にも伝えていただき、人助けの輪を広げることが目標とします。	
	健康科学	『健康がすべてではない。しかし、健康がなければ、すべてはない。』が私のモットーです。人生で、何をしても健康が第一であり、人間のすべての営みは、健康の上にあります。したがって健康は、すべてに優先する最も重要な要件です。そこで、健康増進・疾病予防に努力しないといけません。それには、まず予防、次に早期発見・早期治療をすることです。特に『がん対策』が重要です。死亡原因のダントツ一位で、厄介な病気だからです。予防には、『活性酸素の消去』と『ストレス解消』をしないとダメですが、それらの具体的なやり方について講義します。	
	生活習慣病のメカニズム - 1	医学の発展により、病気の原因には多かれ少なかれ遺伝子が関わっていることが判ってきました。その一方で、多くの病気の原因は、生活習慣に依存することも判っています。メタボリックシンドロームで知られるように、肥満の原因となる内臓脂肪の蓄積による肥満症に加えて、高血圧、高脂血症、糖尿病などを併発すると、心筋梗塞や脳梗塞、静脈血栓症などの各種の血栓塞栓症を発症する可能性が著しく高まること判ってきました。この授業では、2年間にわたって（次年度は生活習慣病のメカニズム - 2 と題して行います）、いくつかの生活習慣病の発症メカニズムについて解説し、皆様の健康維持に役立てていただきます。	
	滋賀の伝統食とその継承	滋賀は、琵琶湖の魚貝を中心に、個性ある食文化が形成されている。琵琶湖の周りに広がる田畑では、近江米を中心に、野菜、豆、芋がとれる。またふなずしや野菜の漬物など、発酵食が豊かである。（改行）滋賀の食は、モンsoonアジアの典型的な「米と魚」が柱にある。稲作が基本で、近畿の米蔵として、豊かな飯・餅・団子文化があり、その米文化が、琵琶湖の個性的な湖魚文化で彩られている。	
	都市計画と福祉	都市計画というと、開発のための計画と思われがちですが、本来は違います。生活環境を守るために、開発をコントロールすること、必要な緑地や公園、施設を作りこむことを計画することが都市計画です。福祉と都市計画は本来、一体のものであることを紹介し、これからの日本の都市計画のあるべき姿を考えます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (生活と福祉)	眼の構造、機能と病気	眼による視覚は外界から得られる情報の90%以上を占めているといわれているように日常生活を円滑に過ごす上でとてもたいせつです。最近、社会の高齢化にともない、白内障、緑内障、加齢黄斑変性など、高齢者に多い病気が増えてきています。今回は、眼の構造、機能を理解していただいた上で、いろいろな病気について説明し、現在どのような治療が行われているかについて解説します。	
	建築物のシロアリ被害診断と防除	シロアリは全体としては落葉、落枝、枯死木などの植物遺体を食べ、森林の維持や地球の物質循環に大きく貢献している。しかし、一部のシロアリは住宅を含めた木質構築物を食害して大きな経済的損失を与えており、人命が危険にさらされることもある。本授業では、シロアリの特異な生理・生態的性質、住宅への侵入とその診断技術、被害の予防と防除方法等について解説する。	
	衣服と健康への扉を開けよう！	近年公表された日本人の平均寿命は女性85.99歳、男性79.19歳である。平均寿命がである。驚異的といわざるを得ないが、経済的視点及び厚生の視点から考えたとき、心身共に、健康で、長生きすることが、我々の使命として課される。その使命を果たすために、我々はどうのように対応すればよいのか、健康維持への扉を開けてみよう。1. 暑さ寒さと健康について 2. 皮膚の清潔と健康保持と被服の役割 3. 圧迫と健康について、衣服圧発生メカニズムの視点から考える。 4. 睡眠と健康について	
	高齢期の総合的ヒューマンケア	高齢期には、医療・介護・ソーシャルワーク・カウンセリングなどのヒューマンケアが、総合的に供給されることが求められる。しかし、それぞれのケアには異なる歴史があり、価値観の相違も無視できない。実践者は、つとめて他を理解し、協働して総合化をはかる努力が必要である。その方法について、多分野の実践にたずさわった経験をもとに探索し、実践者に活用できる方法として講義したい。実践者の御批判をお願いしたい。	
	陸上生態系における菌類	菌類は、動物界や植物界と同じレベルの分類群(菌界)を構成する生物である。植物は動物より遅れて陸上に進出したが、種子動物をはじめとする主要な群を発展させた。菌類も大部分は陸生であり、陸上生態系において植物との関係が深い。本授業では、地表の大部分を占める森林や草原における菌類と植物との相互関係を、共生、寄生、腐生、生物多様性、物質循環等の種々の面から解説する。	
	変動する地球環境	地球の環境問題が、最近注目されるようになってきました。地球科学の立場から、環境問題のいくつかに焦点をあてて、解説したいと思います。(改行、段落頭1字空ける)エル・ニーニョ現象、ラ・ニーニャ現象が最近話題となっています。エル・ニーニョ現象が起ると、冷夏となり稲作が不作となる一方、暖冬になって雪が降らずスキー場は大打撃を受けます。ラ・ニーニャ現象が起ると、夏には台風が発生しやすく、冬には豪雪が降る恐れがあります。これらの現象は、もともとは、南米ペルー・エクアドル沖の太平洋東部の地方的な気象現象でした。それが世界の気象に多大の影響をおよぼしていることが明らかにされました。日本にも影響がおよんでいるのです。どうしてでしょうか。その他、今日的な自然環境の問題点を、地球科学の観点から解説します。	
	果物の作り方・育て方	果物作りには夢とロマンがあり、永年性作物としての特徴があります。ここではまず、品種改良や苗木の作り方について学習し、どんな果樹のどんな品種を選んでどんな場所に植えるのかを学びます。それに続いて、園地の管理のしかた、肥料や水のやり方、整枝剪定のしかたについて学習し美味しい果物作りの第一歩を記します。	
	栄養素と栄養価	生物がその形態と機能の維持のために物質を摂取し利用することを栄養と言い、動物の場合摂取する食物や餌の成分を栄養素と言う。動物は栄養素から体の素材とエネルギーを獲得するが、食物や餌の栄養素がこのことにどれだけ利用されるかを計ることを栄養価の評価と言う。この講義では、まず栄養素の構造、消化・吸収、代謝について概述しさらに栄養価の評価法について詳しく講述することにより栄養への理解をさらに進めさせる。	
	子どもの権利と教育福祉	子どもをめぐる問題は、こんにち社会問題となっています。そうした問題を考える基本は、子どもを「尊厳ある個人」すなわち権利主体としてとらえることです。そのようなとらえ方は、法的には国連・子どもの権利条約によって確定しており、日本でもこれが適用されています。この授業では、まず子どもの権利条約に集大成された子どもの権利に関する考え方を学習し、ついで子どもの権利保障のあり方が最も問われている要保護児童すなわち家庭で親とともにくらすことのできない状況におかれた子どもの生活と発達保障にかかわる諸問題について学びます。	
	看護と家族	人が生活する中で、「家族」を切り離すことはできません。そこで、「家族」の意味を個人、社会などの多方面から捉えなおし、個人が帰属している「家族」集団に固定的な有り様はなく、その多様性について理解を深める。さらに、看護学の基本的な考えを学び、現代の少子高齢化や疾病構造から、社会のニーズを考え、看護と密接に関する家族のあり方と看護の役割を理解する。授業は講義と演習を組み合わせ実施します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (生活と福祉)	看護職の歴史	人間生活の中で病気と死は避けたいものであり、人は病と闘いながらも、毎日の生活を送らなければならない。病気の診断治療は専門的知識を持った医師が担当するが、看護は病んでいる又死に向かっている人が少しでも苦痛少なく意義ある生活を送れるよう手助けする人間生活に欠かせない役割をもつ。これらの役割が社会の変化に合わせてどのように変化して現在に至ったかについて学ぶことにより、今後の少子高齢化社会に於ける看護の役割を改めて考えたい。	
	比較福祉論	国際比較の視点を取り入れながら、日本の高齢者介護の現状や介護保障制度のあり方を考え、議論します。スウェーデン、ドイツ、アメリカ等、諸外国の取り組み等を紹介し、(1)介護と家族、(2)男女共同参画社会、(3)障害者福祉とノーマライゼーション、(4)市民参加とボランティア、(5)権利擁護とオンブズマン、また介護保険制度や地域福祉に関わるタイムリーな話題も取り上げます。	
	健康の人間生態学	人間の健康を考える礎として、人間社会の仕組みや現状を把握、理解することは、非常に重要である。とともに、人間以外の生物の生態や自然界のシステムを理解することも、人間が健全に暮らしてゆく上で、不可避の情報となる。地球に混在する人工社会、自然社会の融合点も含め、現代社会の諸問題を充分理解しながら自身の暮らしを営む努力が、今ぜひ必要となっている。この授業では、視覚的資料を多く提示しながら、現代に生きる人間の健康を維持、増進するキーがどこに存在しているのか等を、幅広く学んでもらえることを目標とする。	
	生活習慣病	近年の科学の急激な発展に伴う生活習慣病の急激な変化は世界規模で健康に影響を及ぼしてきている。わが国では心臓や脳血管病変による疾患が悪性腫瘍による死因を凌駕するようになり、その治療・対策のために国民医療費の大半が用いられてきている。政府は2008年4月より「特定健康診査・特定保健指導」の制度を導入し、その対策に乗り出した。これらの歴史的経緯ならびに生活習慣病のうち代表的な糖尿病や高血圧などについて概説する。	
	明視の計画	生活に必要な情報の大半は視覚を通じて、光刺激として得られる。そこで身の回りの光、その受容器である光センサーとしての目、視覚の特徴と加齢の影響、光と色の見え、色の効果などの基礎的な知見を踏まえて、見えの保証について考える。	
	災害下の人と社会	自然災害という社会過程は、初期的には、パタン化された日常社会の諸過程が急激に作用しなくなる状況の1ケースとして捉えることができます。この授業では、まずは人間レベルに焦点をあてて、緊急事態に直面する人間がどのようなふるまいをするのかという点から順に、集合行動レベル、組織レベル、コミュニティ・レベルへと視点を変えながら概説していきます。	
	ストレスの健康科学	現代社会においてストレスは心身の健康を障害する主要なリスクファクターである。ストレスを医学・健康科学的に解明し、ストレスによる心身の健康障害の実態と対策について講義する。主なテーマにはストレスとは何か、現代社会とストレス、ストレスの基礎研究、ストレスの評価・測定、ストレスが健康に与える影響、ストレス関連疾患、ストレスマネジメントなどがある。	
	運動生理学～活気のでる仕組み～	この授業では、実際に体を動かしてもらい、その時の反応を主観的ならびに客観的にチェックします。そして、その結果をもとに出来るだけ分かり易く説明していきます。	
	現代の社会保険	社会保険の意義と機能、および社会保障制度全体のなかで社会保険の各制度がどのように位置づけられているのかを学ぶことを目的とします。特にこの講義では、近年の社会保険の改正動向を(1)介護保険制度、(2)医療保険制度、(3)労災保険制度、(4)年金保険制度をもとに、現代の社会保険における課題と展望について確認していきます。	
	現代社会福祉入門	日本の社会福祉は、第2次大戦直後の貧困問題から1970年代の高齢者と障害者の社会福祉施設入所の問題、1990年代からの在宅福祉サービスを軸にした地域福祉の展開へと変化してきた。さらに思想と哲学の変容、制度や政策の構造改革、臨床や実践現場の発展は大きく日本のありようを変えた。ここでは今後、どのような思想哲学、制度政策やサービスが必要なのかについて考える。	
	生涯の健康づくり	人間の身体は外部環境からの刺激に対して様々な反応し、日常生活を営んでいる。人の誕生から死に至るまでの各ライフステージにおける健康課題を理解し、生涯の健康づくりについて考察する。この授業で得た知識が再構築できるよう、日常生活の中で考えてほしい。	
	夏涼しく冬暖かい暮らしづくり	暑いとすぐにクーラー、寒いと暖房では、人にも環境にも優しいとは言えない。そうではない、自然の力をうまく利用した「夏涼しく、冬暖かい暮らし」について、講述する。また、もともと機械設備のなかった時代から培われてきた生活空間である伝統民家を取り上げ、その地域の気候風土に適應するために凝縮された生活の知恵や構築の技術を読み解く。	
	障害児の暮らしと社会的支援	障害(ハンディキャップ)は社会との接点において現象するものです。この講義では知的障害・発達障害・言語障害の子どものことを中心に、実際の暮らしの社会的関係の中でどのように障害が現象するのか、またそこにはどのような社会的支援が可能なのかを考えます。心理学、教育学などによるアプローチを超えた社会臨床的な視点をご一緒に探ってみたいと思います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	調理を科学する	短時間で調理の技術、コツを会得するためには、食品の調理性を知り、調理操作を科学的に解明し理解する必要がある。また、調理においては「おいしさ」の追求も重要である。食べ物のおいしさには色、味、香り、テクスチャー、盛りつけ、配膳などの外観、温度、音の他、食文化、食習慣なども関与している。食品の調理性、調理操作を科学的に解説するのみでなく、献立論、調味論、供食論にも言及し、食生活に役立つ理論を提供する。	
	発達障害の理解と支援	発達障害をもった子どもたちの特性を理解し、支援の方法を学ぶことを目的とする。1.制度的な面で発達障害支援法や特別支援教育等を紹介する。2.実際の障害体験等を含みながら発達障害の困り感や特性を学習する。3.発達障害の実態把握の方法を学習する。4.発達障害に対する具体的な支援方法を学習する。5.家族支援について学習する。講義形式のみでなく、体験的なことも取り入れながら授業を進めていく。	
	生活障害とその支援	障害者や高齢者の生活障害をどのように捉えどのように支援したら良いのかを、リハビリテーションにおける作業療法の枠組みで概説する。具体的には、脊髄小脳変性症や認知症などのいくつかの事例を通して、支援の在り方について考える演習を行う。認知症についてはヘルスプロモーションの観点からその予防方法を理解するための演習を行う。	
	高齢期の住まい	高齢社会となり、高齢期の住み方が多様化している。高齢者ができるだけ長く自立し、心豊かな住生活を営めるように、高齢期の身体や精神的特性を考慮した住まいや地域環境づくりについて住居学の視点から概説する。	
	高齢者の衣生活支援	人間生活の最も基本的条件である衣食住のうち、身体を保護装飾し、環境に適応し、家庭生活・社会生活を送るための必須条件である被服に関する役割、機能、素材、選択、管理等について解説し、高齢者の身体機能を考慮した快適で安全な被服について考察する。実物標本や研究成果等も紹介する。	
	フランスの子育て支援	フランスでは「子育てを社会全体が支援する」環境を整備した結果、出生率が上昇している。本講義では、子育て家庭が直面する様々な場面を考慮し展開してきたフランスの家庭・児童政策について解説する。社会保障による支援とともに、保育学校から始まる初等教育制度が子育て支援の両輪として機能している。現地の様子も紹介しながら、日本とフランスの相違点について考察する。	
	運動機能解剖学	本講義では健康維持・増進の基礎的知識となる人体の構造と機能に関して解説するとともに、運動による人体の適応について学習する。また演習では超音波を用いた骨量測定、皮下脂肪厚測定、筋厚測定等を行い、人体の測定評価法について体験する。	
	H I V / A I D S と行動変容	現在、日本では静かにそして確実にH I V感染症が増加しています。先進7カ国の中で唯一増加している国としても注目されています。なぜH I V感染症の増加に歯止めがかからないのか、H I V感染症の病態に触れながら、感染様式、H I V医療の現場、感染者の声、H I V感染防止と行動変容について教授したいと思います。	
	障害をもつ子どものケア・看護	子どもの障害には、広く身体障害、知的障害、精神障害が含まれる。本授業では、主に先天異常・染色体異常が原因で障害をもつ子どもへのケア・看護・介護について解説します。具体的には、障害を引き起こす原因・誘因、障害児を養育する両親の心理、親の会などの社会的資源、ケア提供者としての心構えなどについて概説し、具体的な事例の検討を通して広く障害をもつ子どもへのケアについて考えていく予定です。	
	高齢社会の住まい・まちづくり	高齢者が健康で生き生きと暮らすために、自然環境を上手に利用してきた先人の知恵を見直し、適切な住まいや住み方の改善を考えます。また、環境への負荷が少なく、高齢者に住みやすい地域環境のあり方についても話します。	
	これからの年金・医療と生活設計	21世紀に入りわが国経済社会は大きな転換期を迎えている。長期にわたる不況と高齢社会への突入により、雇用不安や老後生活への不安感が醸成されている。こうした現況を打破するための構造改革・財政再建のなかで、国民の生活を保障する社会保険は縮小または見直しの機運にある。またそのために、公から私へ生活保障の役割が移譲され、私的保障が公的保障を補っていく方向にある。このような現状を理解し将来展望を探るために、生活保障をめぐる話題・トピックスを取り上げながら、社会保険や民間保険についてわかり易く解説する。現行の社会保険・社会保険、民間保険の構造や役割を理解する。そのうえで、高齢化に向けた生活設計を具体事例で説明しながら、社会保険と民間保険の賢い活用法について学習する。	
	口腔がんを考える	口のできるがん（口腔がん）の基本的特徴、疫学、成因、病態、診断と治療法およびその予後、外科的切除後の口腔機能を考えた再建外科、早期発見に重要な「前がん病変」の種類と対策を学習します。さらには近年増加傾向にある「摂食・嚥下障害」とその対策および「口腔ケア」について理解を深めていただきます。	
	専門的口腔ケア	本授業では、3人の講師により、口腔ケアに関する基礎知識と各ライフステージに応じた専門的口腔ケアの効果について、臨床の現場での実践例をふまえて教授する。これにより、全身の健康保持・増進のための専門的口腔ケアの重要性について理解を深めることを目的とする。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	東アジアの比較住文化	日本の住文化は諸外国に例を見ない独自の発展を遂げ和風の住まいとして完成に至った。日本の住まいの現状を考える上でも伝統の住まいに受け継がれた空間の基本的な構成原理を正しく理解する必要があるだろう。本講義では中国、朝鮮半島の住まいとの異同を論じることで、わが国の住文化の特質を明らかにするものである。	
	現代社会におけるスポーツと健康	科学文明が極度に発達した現代社会において、生産手段はもちろんのこと、情報伝達や交通の手段に至るまで、人間の生活は便利で快適なものとなった。しかしその一方で、日常生活の中で確保される運動量は少なくなり、体力低下と肥満などを誘因としたメタボリックシンドロームをはじめとする生活習慣病の脅威にさらされるようになった。本講義では、生活習慣病対策としてのスポーツ活動の進め方を中心に、わかりやすい解説を試みる。	
	歯周病と全身疾患との関わり	歯周病がどのような病気であり全身の健康とどのように関係しているのかを医学的見地から理解するとともに、その予防法・治療法を把握し、歯周病の一次予防・二次予防・三次予防によって健やかな生活が維持できることを理解する。	複数教員共同担当
	私たちの血液について考える	血液が体内でどのように造られるかを理解することによって、血液の病気の成り立ちや治療法を統一的に理解できるようになります。その上で、貧血について考え、治療法の一つとしての輸血について学びます。また、血液の癌である白血病と、その治療法としての骨髄移植について学び、さらに、感染症としてのエイズを、その原因ウイルスの面から学ぶことにします。	複数教員共同担当
	あなたの肺を守ろう！	近い将来、爆発的な拡がりが見込まれる鳥インフルエンザは、わが国だけでも60万人を超える死者数が予想される。また平成15年に東南アジアを中心に流行し、多くの死者を出したSARS（重症急性呼吸症候群）は、同時期に多くの日本人がその地域に旅行・滞在し、さらに外国人感染者の小豆島の宿泊にもかかわらず、日本人への感染はなかった。一方、COPD（慢性閉塞性肺疾患）による死亡例の増加がみられる。	
	精神医学ソーシャルワーク研究	本講義の主題は、精神保健福祉分野のソーシャルワーク実践が、精神障害者の福祉に如何に寄与し得るかということを中心に明らかにすることである。1900年初頭、北米で誕生し体系化されたソーシャルワークの理論的変遷と、社会環境、経済事情に応じて開発された対人援助技法としてのソーシャルワーク発展過程について分かりやすく解説する。また講義を進めるにあたって、近接する他の援助技術、ここではグループワークやコミュニティワークについても若干触れ、その誕生経緯や理論、方法の相違点を明確にすることでソーシャルワークの独自性を確認しておく必要がある。最終的にはこれらを踏まえて、精神障害者に対する支援においてソーシャルワークが果たす機能・役割について考察してみたい。	
	高齢社会を生きる	「あんだってえ？わたしやー耳が遠いでよお！」と叫ぶお婆さんのコントも、杖を振り回すお爺さんが登場してくる新喜劇も、今や手放して笑える時ではありません。今や国民の5人に1人は65歳以上の日本、さらに4人に1人となることも予想されています。高齢社会では何が問題になっているのか、私たちの年金は、財産は、安心して暮らしていけるのか？ということを考えていきます。	
	尊厳死を取り巻く諸問題について	日本では、急速に高齢化が進み、医療や福祉の領域でさまざまな問題が発生しています。そして、当然のこととして、高齢者が増えることで死亡者数も増えてまいります。死とその周辺のことについて、日常では学ぶ機会が少ないため、現場でも混乱している状況です。死について学び、理解することで、人生そのものがより有意義になると思われます。尊厳死という観点を中心にして、人生全般についていっしょに学びませんか。	
	排尿と排便のケア	排泄は、人間の生理的な欲求を満たすとともに、人としての尊厳にも関わる重要な生活行動である。疾患や加齢によって、排尿や排便に障害が生じた時、適切な対処や援助が行えることを目的に、正常な排尿・排便の仕組みとそれを障害する疾患などの医学的知識、及びできる限り自立した快適な排泄が営めるための適切なケア方法について講義する。	複数教員共同担当
	現代の家族と法	「無戸籍児問題」や「代理母問題」など、家族法の領域において現在議論を賑わしているトピックスを4つほど取り上げて解説を行います。	
	高齢社会と社会保障のあり方	第二次大戦後の先進国は、政府財政の所得再分配機能を用いた国民の生活保障のための諸制度を発達させ、いわゆる福祉国家を作り上げてきた。しかし、1970年代以降の経済危機と財政危機のなかで、福祉国家の見直しが行われるようになった。特にわが国では高齢化が顕著に進み、問題は深刻である。（改行）講義においてはこうした変化を踏まえて、21世紀の福祉国家と社会保障のあり方、特に費用負担のあり方について考察する。	
	ファッションと健康	「美を諦めたとき、老化が加速する。心身ともにメークアップしよう。」これは、ファッションセラピーを提唱されている、ある大学の医学部教授の言葉です。おしゃれを楽しむことは、心の健康と体の健康をもたらす、人を元気にする効果があると言われていました。自分を健康にしてくれる服を選び、自分をきれいに見せてくれるデザインの服をコーディネートして、外に出て活動しませんか。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	特別支援教育の現状と課題	特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室や通常学級における「特別な配慮」など、現行の特別支援教育制度の全体像を学び、それぞれが果たしている役割を認識することを目的とする。	
	日本人の食生活と疾病構造の推移	1960年代の10年間ほどで、日本人の食生活は急速に欧米化した。従来の伝統的な和食は、良質動物性蛋白質や脂肪などが不足した「粗食」であったが、肉や乳類の摂取増加により改善された。他方、食の欧米化のいすぎも一部みられ、高脂肪、高動物性蛋白質の「飽食」傾向により、メタボリックシンドローム、動脈硬化性疾患、糖尿病が漸増している。	
	食教育に関するリテラシー	リテラシー（Literacy）は世の中を渡っていく上での最低限の知的能力である。その最低限の能力の一つに食教育リテラシーがある。日本人の食教育リテラシーは相当低下していると判定せざるを得ない状況にある。この食教育リテラシーを高めることが、健康増進及び肥満や生活習慣病の予防・改善のための基本ではないでしょうか。そのために食に関する最低限の知的能力を高められる授業を行う。	
	日常生活にみる医学	私達は、日常的にメディアから健康に関する多くの情報を得ていますが、一つの健康情報が全ての人にも役に立つわけではありません。多くの室病は、多様な病気の集合体ですので、同じ病気を持っていても、ある人には役に立ち、ある人には有害な情報となります。本講座では、日常生活によく見られる疾病などを題材に、疾病に対する基本的な考え方を皆様と考えたいと企画しています。	
	音楽療法と社会	音楽療法の音楽をポジティブに用いて、主に障害のある人々のQOLの向上を目指すものだが、最近では、社会全体をよくしていくために音楽療法を活用する動きが顕著である。音楽という人類共通の財産をもっと効率的に社会に役立てていく方法はないだろうか。音楽を療法という点から再考し、その本質や意味を美学的、歴史的、社会学的に考察していく。	
	持続可能な社会のための生活空間	持続可能な社会のための建築や町づくりについて学びます。建築としては（1）エコ住宅やエコ学校の取り組みを海外の事例も交えて、（2）町づくりとしては交流空間を中心としたコンパクトシティ、自転車交通、対極にある巨大高層としを取り上げます。これらの内容を通して、21世紀の新しい生活の在り方を考察します。	
	子どもの生活と社会福祉	今、多くの日本の子どもの生活は、物質面では量的に充足されているが、人間関係の希薄化や自然環境の減少により子どもらしい活動ができにくくなっている。人口構造や家族形態の変化に対応して、どのようにしたら、いきいきと生命力あふれる子どもたちの生活を確保できるか。児童福祉を中心とした子育て・子育て支援について海外の事例も紹介しながら検討する。	
	現代社会と感染症	地球温暖化や経済のグローバル化に伴いウイルス感染症は従来とは様変わりしております。過去の感染症、今日の身近なウイルス感染症、そして今後問題になると思われるウイルス感染症について解説します。そして予防に向けて行われている研究や行政対策を紹介し、個人レベル、集団レベルでどのような対策が可能であるかについて考えます。	
	食品学	食品の世界は産地偽装、賞味期限の偽装、牛肉のBSE、農薬混入などの気をつけなければならない食の安全問題、小学生などを中心に食育の動き、地域活性を前面に出して地産地消の流れなど大きく動いています。その動きを正しく認識するために、食品の基礎知識を持つことが大切です。主要成分などの基礎に現状の食品の動きを連動しながら共に考えていきたい。	
	いのちを育む - 不妊の問題	"いのち"はどのように母胎内で生まれ誕生していくのでしょうか。講義ではまず、そのすばらしい、巧妙な営みを解説します。そしてその営みに関わる問題として、今回は「不妊症」の問題を取り上げ、看護者の立場から講義していきます。この中では特に不妊症の原因となる様々な生活上の問題や進歩する生殖補助医療を紹介し、そこに生じる倫理的問題や当事者の思いなどに触れながら、この問題について一緒に考えていきたいと思えます。	
	社会福祉の歴史と諸制度	わが国の社会福祉は、戦後の国民経済の混乱と復興への息吹のなかで、生存権保障の理念の下で相次いで創設され、以後、その時々福祉ニーズに対応して各種の制度が整備されてきました。そこで、本講義ではわが国の社会福祉の歴史を学び、併せて各制度の現状と課題について学ぶことにします。	
	福祉の観点から見たすまい	国の住宅政策の基本は「国民生活の安定と社会福祉の増進」と言われている。関東大震災から戦中・戦後、我が国は「福祉」としてどのような住宅政策をとってきたか？また、少子高齢人口減少の厳しい社会・経済環境の中で、心身の機能が低下した高齢者に対して、国はどのような医療・福祉政策や住宅政策を進めているのか？など概観する。前半は主に政策を通してみた住宅理論編、後半は主にバリアフリーと住まいを考える実践編で構成。	
	膵臓の機能と病気	膵臓は、消化酵素を分泌することで消化機能の中心的役割を果たす外分泌機能と、インシュリンの分泌で血糖の調節を行う内分泌機能を有している。代表的疾患の糖尿病や膵炎は食生活に強く関係する。膵には多種類の腫瘍が発生し、嚢胞性腫瘍は悪性診断が難しく、膵癌は難治性悪性腫瘍として極めて予後不良である。講義では膵腫瘍の診断および先端的治療について概説する。また、膵移植と膵再生医療についても最近の話題を解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	消化管（食道・胃・腸）の病気	内視鏡技術などの開発・進歩に伴い消化管疾患の病態の解明や診断、治療の進歩は著しいものがある。しかし、医療技術が進歩しても、それをうまく活用しなければ意味がない。わが国の死因の第一位は「がん」によるものであり、その中で消化管の占める比率は非常に大きい。消化管の「がん」は早期発見、早期治療で完治が可能である。本講義では、主な消化管疾患の診断と治療について述べる予定である。	
	メタボリック症候群治療の食生活	平成20年4月よりわが国では健康施策の重要課題として、飽食と運動不足によって生じた過栄養に起因する内臓脂肪型肥満を基盤とした、インスリン抵抗性、脂質・糖質代謝異常や高血圧を伴う複合型危険因子症候群(メタボリック症候群)対策をスタートした。治療の要は「食事療法と運動療法」である。本講義ではメタボリック症候群改善のための食事療法を習得し、動脈硬化性疾患発症予防のための自己管理能力を高めることをねらいとする。	
	労働生活での疲労を考える	「疲労」はだれでも経験するありふれた事象であるが、労働生活における疲労は、その発生機序、影響の重大性、健康対策上の重要性など特異な性格も有している。一方、現代労働者のなかでは、心身の疲労蓄積がすみ、「過労死」の発生もあとをたない。労働と疲労の関係、労働生活における疲労対策の重要性、疲労調査法、「過労死のない職場づくり」への展望などについての学習をすすめる。	
	フランスの社会福祉	ファッションや芸術の国として有名なフランス人の日常生活を支える社会福祉についてはあまり知られていない。20世紀初頭より人口の少子高齢化が進行してきたフランスでは、個人の自律を尊重したきめ細かな社会福祉のシステムが整備されている。この講義では、フランスの児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉及び貧困・社会的排除への対応等について概観し、わが国との比較もおこないたい。	
	健康をめざしたスポーツと運動	青少年期や中高年期の各ライフステージにおいて、スポーツに親しみながら健康で活動的な日常生活を過ごすために、生涯スポーツの原理と方法について学ぶ。また、そのスポーツを習得する前提条件である日常生活における体づくり(フィットネス)やメンタルトレーニングの各種運動を紹介し、教室で楽しく体験する。	
	発達障がい理解と支援	発達障がいのある子どもの発達の理解と支援について、理論的及び実践的な視点から概説する。加えて、ノーマライゼーションやインクルーシブ教育について、その経緯や内容についても概観する。これらを通して、人権尊重、生命尊重、共生の重要性など、教育の原点を考究する。	
	知っておきたいアレルギーの知識	近年アレルギーの病気は増加の一途をたどっています。アレルギーの病気には、アレルギー性鼻炎(花粉症など)、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、蜂アレルギーなどがあります。これらの病気のルーツ、増加の原因、対策、治療についてわかりやすくお話しします。特にスギ花粉症は人口の6人に1人がかかり、国民病になっています。花粉症では、私どもの盛岡市におけるスギヤイネ科の花粉飛散の研究を紹介いたします。	複数教員共同担当
	こどものための健康と社会	子ども達は、実は生まれた時はそれが何万年前でも昨日でもその時は同じなはずで、でも子ども達を取り巻く環境は全く違います。その中で子ども達は育っていきます。現代の子供たちをめぐる環境は決して好ましいものではないかもしれませんが、でも子どもは大人の姿を見て育っていきます。その子ども達に今大人が何を出来るかを身体の健康と心の健康の両方から考えてみます。最終授業のあとに小論文を書いてもらいます。	
	生活の質を高める社会福祉とは	最近話題になることの多い社会保障に関する問題のうち、社会福祉は、当然のことながら、私たちの毎日の生活と切っても切れない関係にあります。格差社会といわれる中で老人をはじめとする国民の健康問題、ますます進む少子化時代の育児や教育、勝ち組み・負け組の市場原理と労働、限界集落といわれる地域社会の活性化など、について考えたいと思います。	
	日常生活における生理学的行動	私たちは毎日食事をし、昼は活動し、夜は睡眠をとります。また、暑ければ涼を求め、寒ければ暖をとります。日常生活の中でのこのような食生活、運動と休息そして環境適応はすべてより快適に生きるための最適な生理的条件を整えようとする行動の一部といえます。日常生活におけるこれら合目的活動の結果としてのエネルギー産生、代謝、活動と休息、環境適応等について、衣食住の環境も踏まえて生理学的意味を解析します。	
	心と体のリラグゼーション	1.心と体の緊張のメカニズム:生理学的要因,社会的要因,認知行動的要因(改行)2.ストレスマネジメント:コーピングスタイル,ストレス尺度から(改行)3.物事の受け止め方:認知療法(改行)4.弛緩法の各手法:マインドフルネス・プラクティス,漸増筋弛緩法,自律訓練法	
終末期をめぐる知識と態度	人は誰でも必ず人生の終末を迎えます。本授業では、ヒトの終末に関する知識について生物学的・医学的・哲学的側面から教授します。さらに「個人にとって幸せな終末を迎えるために、どのような態度が必要であるか」を、考察します。		
健康な脳と体のための運動	健康増進活動の1つに運動があります。運動は身体機能を高めるだけでなく、抗うつ抗不安作用、認知機能向上といった脳及び精神機能をも改善させることがわかってきました。本講義では運動が心身の両面に及ぼす影響を健康科学の視点から概説すると共に実践面も含め学んでもらいたいと思います。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	食品成分と健康	高齢社会を迎えたわが国では、メタボリックシンドロームやがん、動脈硬化などの生活習慣病が急増し、健康への関心は極めて高い。本講義は健康維持・増進を支える食品の機能成分について化学的視点から解説する。食品には、栄養面でのほたらき（栄養機能）、嗜好機能および生理面での生体調節機能がある。「食」による健康の維持・増進、生活習慣病の予防を目指した研究も紹介する。成績判定は出席状況、簡単な演習問題の解答で評価。	
	変化し続ける心のケア・システム	従来心のケア・システムは、病院が中心であったが、今日では当事者の希望により地域ケアシステムへ移行しつつある。精神障害の予防、治療、職場、社会復帰などを含めた心のケアシステムについては、諸外国では法的整備を中心に脱施設化を実現したが、一方で当事者の施設間移動の問題も語られ、わが国の独自性に期待する声も多い。太平洋沿岸（福島、北茨城）地区モデルの紹介とともに国際比較を行う。	
	家庭の福祉	近年、家庭の機能は縮小し、本来、家庭内でおこなわれてきた家事も外部化されるようになってきた。しかしながら家事が果たす機能は、個人の福祉実現の基礎となるもので、その重要性は今日でも変わらない。本講義では、家庭の福祉を実現するものとしての家事の観点から（１）経済的安定を実現するための「家計～赤字を出さない家計管理の仕方～」と（２）家族の健康を実現するための「栄養～四群点数法による栄養バランスのとり方～」を講義・演習形式で進めていく。	
	家族関係の精神保健	現代ほど生活がしづらい時代は、かつてなかったといわれています。通り魔的殺人事件、硫化水素中毒による自殺、ネット集団自殺事件、略取誘拐事件など毎日のように報道されています。どうしてわが国はこのような安全でない社会になってしまったのでしょうか。専門家が指摘するように社会基盤である家庭が崩壊したことが影響しているのでしょうか。そうだとするならば家庭をどのように建て直したらよいのでしょうか。沢山の事例に接する過程で参加者と共に知恵を出し合ひましょう。そのため、事例をわが身に引き寄せるためにロールプレイなどの体験学習を行います。新しい視点で社会問題を眺めてみると、意外と解決は身近に発見できるものです。	
	介護すること・介護されること	介護に関する入門編。高齢者の介護に関する制度や社会資源と介護の現状・課題を理解する。また、様々な事例や状況における介護方法について演習を通じて考える。それにより、介護する人・介護される人双方にとって「安全・安楽・安心」な介護、「無理しない・あきらめない」介護について、学習を深める。	
	食べ物と健康	健康を維持するには、食品を組み合わせ、栄養バランスのよい食生活を送ることが重要である。本講義では食品の機能を整理し、食品群別に栄養素の特徴について解説する。また、１日に必要な栄養素の量を世代別に理解し、栄養素の過不足が原因となる生活習慣病も取り上げる。	
	生活の中の衣服	ここ50～100年ほどの科学技術の急速な発展や著しい経済成長など生活環境の大きな変化により、私たちの生活は大きく変わり、衣生活も変わっています。現代社会における衣服の役割や機能について講述し、洗濯、染色などの技術や環境負荷をどのように軽減しているかなど今日の話題も取り上げます。衣生活を総合的に概観する総論として講義する予定です。	
	現代の人間関係と地域福祉	今日、家族や地域における人間関係の希薄化が言われ、若者の「引きこもり」や育児ストレスなどによる「虐待」、また高齢者のみならず中高年の「孤独死」なども大きな社会問題となっている。授業では、人間関係の変化をキーワードに、こうした問題の現状や背景を探る。また、こうした問題への対応が、とくにボランティアやNPOなどをはじめとする「地域」における「地域住民」の様々な活動によりなされていることに注目し、これからの「地域」における活動のあり方、さらには「地域福祉」とは何かについて考えていく。	
	人間都市工学入門	都市がどのように作られているのかについての理解をとおして、市民がより上手に（快適に・安全に）都市空間を使いこなすための、以下のような基礎知識を講じる。(1)五感で感じる都市(2)都市での人の動きと体験(3)わかりやすい都市(4)景観(5)ユニバーサル・デザイン（万人にやさしい都市）(6)ヒューマン・スケール(7)防犯・安全性(8)人間行動と都市防災	複数教員共同担当
	家族から読み解くジェンダー	家族は人間が初めて出会う社会であり、人はそこで多くの時間を過ごす。本講義では複数の文化圏における家族のあり方を、比較文化の手法を用いて論じる。イスラム世界や日本、国際移動等を事例として、家族形成や解体、そして日々の家族関係にジェンダーがどのように作用しているのか、その作用が文化毎にどのように異なっているのかを見ていく。家族という最も身近で所与のものをジェンダーの視座から見直し、それを地域性・歴史性のなかに位置づける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	メタボリックシンドローム対策	医療制度改革により平成20年度からメタボリックシンドローム の概念を導入した新しい特定健診・特定保健指導が始まります。高血圧、糖尿病、脂質異常症などは1人に重積して発症することが多く、その共通の病態は内臓脂肪蓄積とインスリン抵抗性と言われています。メタボリックシンドローム に対する適切な対策を行うとこれらの疾患の発症は予防できます。メタボリックシンドローム の概念と栄養と運動の役割、および、誰にでもできるやさしい行動変容の方法について講義します。さらに健康づくりのための運動指針と生活活動(歩行)の意義について学びます。ご自分の健診や人間ドックでの検査データを持参してください。	
	権利擁護論	社会福祉における権利擁護の課題について学習する	
	着ごちと洗濯の科学実験	各種繊維や布の性質・性能を新素材を含めて把握し、着ごちのよい素材と着用、適切な洗剤と洗濯を考えるため、いくつかの実験を行う。	
	障害者と企業	障害のある方が企業で働く場をうるために必要な政策と課題を学習する。	
	年金の初歩	公的年金制度のあらましと最近の動向をわかりやすく解説する	
	障がいの概念と制度の諸問題	「障害」の概念、障害福祉制度の歴史、障害福祉に関わる制度改革の課題と展望について論点を理解することを目標とする	
	社会的環境の中の衣服と人間	文化、社会的環境からの視点に立ち、着衣の起源と現代の衣服を着る意味、人の心と衣服、空間・街のなかでの衣服、装いの福祉社会のなかでの可能性、など多角的な視点から生活(改行)者と衣服との関係を捉える。	
	発達障害者と地域生活支援	広汎性発達障害者のライフサイクルに応じた支援のあり方、地域生活支援について考える	
	「食」 - 心と身体の栄養学	「食べる」という行為は、動物の本能にゆだねられた最も基本的行動である。私たちは飲食物を摂取し、消化・吸収を経て生体内にとり入れた物質と酸素によって生命の源となる物質を生成して、生活活動を営んでいる。「栄養」の基本的概念、およびその意義と役割、生体の構成成分と食物の関係、接触行動から栄養素等の代謝等について概説する。さらに、各自の健康づくりのため、食習慣を見直す演習も行う。	
	疾患の薬物治療とその治療薬	代表的な疾患について、その原因、病態、症状、予後ならびに薬物治療法について解説する。さらに、薬物治療で汎用される主な薬剤について、その副作用、服用上の注意点等も解説する。代表的薬剤は授業中に回覧する。本講義の成績評価は講義への出席を重視し、最終回に予定している本講義に対する感想文レポート提出も一部評価の参考とする。	
	人体のしくみと介護技術の基本	加齢とともに私たちの身体の機能は徐々に衰える。このような方々の健康を守るためには、どのような手助けをしたらよいのか。ここでは食事、排泄、清潔といった日常生活行動の援助方法について、人体の構造と機能のみならず、加齢における身体の変化に基づいて、介護技術の基本を述べる。また観察方法や感染症予防対策といった健康管理の基本についても、併せて論じる。	
	富山売薬とその根底にあるもの	富山売薬は江戸初期に始まり、中期以降は仲間組が結成され、販路は全国へ拡大した。また、昭和初期には一部の人々が海外へも飛躍した。その後、明治新政府による売薬印紙税の賦課や、第2次世界大戦の敗戦といった大きな苦難を乗り越え、売薬は現在も続いている。顧客と家族同様の付き合いを基本に据えた先用後利の商法は、人間関係が希薄な現代には貴重な存在といえよう。	
	糖尿病を知り尽くす	肥満の増加に伴い糖尿病は増加の一途をたどり、40歳以上では約8人に1人の割合となっています。糖尿病になっても自覚症状は乏しく、放っておくと、慢性合併症として網膜症で失明したり、腎症で腎透析となったり、神経障害で足壊疽を起こします。また、心筋梗塞や脳梗塞も多く、認知症も生じ易いことが知られています。こうした重篤な合併症を引き起こす糖尿病を知り尽くし、食事・運動・薬物療法を理解することで、健康の向上に役立てていただくことを目的とします。	
	在宅介護と家族の健康	要介護者が家庭で生活できるように、介護保険制度を中心として様々な在宅介護サービスの充実がすすめられている。しかし要介護高齢者の増加だけでなく、家族介護者も高齢者が増えて家族の在宅介護力が低下しており、介護負担の軽減が必要である。本授業では、要介護者と介護者の心身の健康管理について学ぶ。さらに、在宅介護において家族関係は重要であり、家族の様々な捉え方を理解して、在宅介護家族に対する支援について学ぶ。	
人生の中の年金を考える	国民4人のうち1人が年金を受け取っている時代となりました。県内にあっては、3.5人で1人の年金受給者を支えています。このように、誰しもが必ず迎える老後の生活設計をもっと若い時代から理解しておくことは、とても大切な事です。 少子高齢化社会となった今、給付と負担のあり方や年金に係る諸問題が山積みです。それらの問題や課題は何なのか、私たちはどう対処すべきなのか、皆さんの生活の中に結びつけて一つ一つ考えていきたいと思います。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	少子化社会における子育て支援	少子化対策は児童福祉行政の最重要課題になっている。この少子化対策は平成7年度からエンゼルプランを作成し、子どもが健やかに生み育てる社会づくりを進めている。特に平成17年度からは、次世代育成支援対策推進法が成立し、各市町村や大規模企業においては少子化対策のための行動計画（子育て支援）の策定が義務付けられた。一方、少子社会になっても大切な子どもにおいて人権侵害である児童虐待が年々増加している。この少子化問題と児童虐待に焦点を当てて現状分析をします。	
	人生における意味を考える	不治の病に罹患した時や、悲しく苦しい体験をした時、「このような状況では生きる意味がない」といった懐疑や絶望に陥ることがあります。そのような状況において、どのようにして生きる意味を見出すことができるのでしょうか。V.E.フランクルの『夜と霧』『それでも人生にイエスという』などの著書を手がかりに、病あるいは苦悩の中にどのような生きる意味があるのかについてみなさんと共に考えていきたいと思えます。	
	住空間と住生活を考える	日本人の住居には興味深い特徴がいくつかあり、床面の形状とそこでの起居生活、建具など開口部の形状と日本的な季節の生活、台所の形状と調理、食生活の特徴など、世界の生活との相違に驚かされる。本講義では住様式、住空間、住生活の歴史及びそれらの国政比較などを解説する。	
	スポーツ外傷・障害入門	この授業では、上肢の外傷・障害頸椎・腰椎（くび・こし）の外傷・障害下肢の外傷・障害捻挫・肉ばなれ障害者スポーツの実践について解説し、成長期において、あるいは高齢者、障害者がスポーツをする上で注意すべき点を考える。	
	体のために何を食べたらよいか1	日本是世界一の長寿国である。しかし、健康でより良い生活の維持には何を食べたらよいか、情報が氾濫していてよく分からない。食品を化学的に理解し、製造法やその歴史について学び、何を食べたらよいかを考えてみる。（1）こんにゃく、（2）お茶、（3）コーヒー・チョコレート、（4）大豆食品・チーズ、（5）お菓子、（6）機能性食品、（7）サプリメント、（8）フリーズドライなどの加工技術などについて講義します。	
	日本の食事文化	日本人の食生活が、いかなる歴史的変遷を経て今日のような形態にまで発展したのかを学習することにより、日本人の食生活や食文化に対する理解を深めます。授業では、原始から現代に至るまでの日本人の食事内容や形式、食材、食器や食具について学ぶことにより、日本人固有の食文化とはなにかについて考察する。	
	からだの衰えを科学する	歳を取ると体力の衰えを感じる。また、部活動などで試験のために一時的に運動を中止し、再開したときに体力の衰えに愕然とする。このからだの「衰え」がどのようにして起こるのが、衰えを弱めるにはどうしたらいいかについて、運動生理学的に学ぶことが本講義のねらいである。（改訂）授業の前半では運動生理学的な基礎的知識を身につけ、後半は「衰え」の原因である活動不足の影響やその対策について、宇宙科学の話を変えて解説する。	
	平安な死と看護	人は日頃はあまり死について考えませんが、誰もがいつかはその時に向かい合います。死と看護について、前半では癌末期を取りあげ、最期までその人がその人らしく生きられるように、その過程で生じる心身の苦痛を緩和して平安に死を迎えるための援助を考えます。後半では、生と死をめぐる現代的課題（尊厳死、代理出産など）を取りあげて講義し、グループ討論により、受講者が自らの課題として生や死について考える機会とします。	
	着心地を科学する	人間にとって最も身近な環境としての衣服環境について、温熱生理学の視点から講義する。衣服を着ると外環境とは異なる微環境が人間の周囲に作られる。この環境は、衣服の材料、デザイン、構成・着方などの影響を直接受ける。衣服環境を適切に保つことは、環境エネルギーの節約につながり、地球環境の保全にも役立つ。（改訂）本講義では、環境としての被服の役割を理解し、快適に生活するための被服の選び方、着方を考える能力を養う。	
	食生活と栄養	栄養とは、食物に含まれるいろいろな栄養素を摂取して、成長、生活活動、生殖などの生活現象を営むことであり、栄養学の目標は、人体への栄養素の摂取の取り込みを通じて、健康の保持・増進をはかることにある。本講義においては、炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの栄養、エネルギー・代謝と日本人の食事摂取基準についてわかりやすく述べる。	
	生命科学と人間	生命科学の発展は、食環境や医療環境に変貌をもたらしている。食環境では、組換え型作物、クローン家畜や機能性食品の開発があり、狂牛病など食の安全性に関する問題がある。医療面では、京都大学の開発した誘導幹細胞（iPS）作成法は、クローン胚の研究が提起した倫理問題を解決するかもしれない。本講義では、このような技術開発の基本となる生命科学を概説し、これらの開発が健康や医療などに及ぼす効用と問題点を解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (生活と福祉)	ストレスマネジメントと人間関係	日常生活においてストレスを完全に回避することは出来ない。生きている限りストレスは続く。ストレスとは、生物が外的あるいは内的な刺激に適応していく過程自体を概念化したものである。つまり、環境が変わればそれに適応し、心理的ショックにも適応しようとする。その時の反応やプロセスを「ストレス」という。そのストレスのマネジメントに関する理論と実践、さらに時間の有効活用について詳細に解説する。	
	酒造りと乳酸菌	酒類のアルコール造りには発酵微生物、酵母の存在が不可欠である。昔からの自然発酵ではそこに乳酸菌がかかわり、ワインやウイスキーでは歓迎され、ビールでは敬遠される。また清酒においては発酵前と発酵後では評価が逆転する。酒造り全般ならびに個々の酒における乳酸菌のかかわりについて解説します。	
	果物のならせ方・育て方	実生苗はもちろん接木苗でも果樹の花はなかなか咲きません。花が咲かなければ実がならないのは自明の理です。ここでは、どのようにして果樹の花を咲かせ実をならせるのかという果物作りの基本について学習し、隔年結果を防いで毎年美味しい果物を沢山収穫する方法について学びます。	
	伴侶動物の科学	ウシ・ブタ・ニワトリなどの農用動物に対してイヌ・ネコ・ウマなど人間の生活の伴侶として飼われる動物を伴侶動物と言います。動物との交わりが人に精神的な安らぎを与えることは広く知られており、現代ストレス社会における伴侶動物の重要性が益々高まっています。この講義では、これら伴侶動物の進化、起源、分類、生態などについて講述し伴侶動物に対する知識と理解をすすめていきます。	
	ファッションへの扉を開けよう	日本人の平均寿命は驚異的に伸びた。それは非常に幸せなことであるが、「自分は平均寿命まで生きられるであろうか」という考えが去来する。しかし、そのような消極的な考えを払拭し、我々はそれを全うする義務がある。そのためにはどのような生き方をすべきであろうか。ファッションの扉を開けて、考えてみよう。1. 頭のお洒落と健康 2. 手足のおしゃれと健康 3. 高齢者のおしゃれ 4. 男性のおしゃれ	
	衣服と健康科学への扉を開けよう	毎日、何気なく着用している衣服にもいろいろな種類がある。日常着、肌着、整容用下着類、寝衣類、スポーツウエア等の他、特殊服など様々である。本講義では、近年、宇宙への研究飛行が多くなった宇宙服や農業防護服、断熱服など、我々の生活とは無縁とはいえない特殊服についての扉を開けてみよう。1. スポーツウエアに要求される性能 2. 宇宙服の機能と構造 3. 農業防護服の必要性 4. 断熱服・消防服、冷凍庫作業服など	
	動物資源利用の過去・現在・未来	イヌ、ネコ以外の家畜を町中では見かけなくなりましたが、我が国にはまだ多くの家畜が飼われています。また少し周りを見渡すと私たちの生活・文化は家畜と深く関わってきたことが判ります。この講義では、人類は家畜をどのようにして手に入れたか、家畜をどのように利用してきたか、さらに今求められている生産性が高く環境にやさしい畜産や家畜の新しい役割の開発について講述することにより動物資源利用への理解を進めさせる。	
	中国食文化概論 - 理論と実際 -	広大な国土を持つ中国は地域によって気候、風土、産物、嗜好が異なり、また民族性の違いなどもあり、各地で様々な食文化が育まれてきた。この授業では、中国料理の変遷、地方料理の特徴、香港や中華街の中国料理など、中国の食文化について学び、また日本の中国料理との相違なども理解することを目標にする。体験的な理解を促すため、試食を伴った講義もある。	
	菌類による木質構築物の劣化	木材は、建築物材料として優れた特性を多く備えているが、温度・水分等の劣化環境が満たされると微生物やしるありの攻撃を受け、構造耐力が著しく低下する。それにもなう建築物ストックの経済的・文化的損失はきわめて大きく、人命が危険にさらされることもある。本授業では、木質構築物の劣化に関する基礎知識、劣化診断法、補修と予防等について解説する。	
	生活習慣病について	「生活習慣病」とは特定の疾患を指すのではなく、生活習慣がその発症、進行に関与する疾患の総称であり、高血圧症、肥満、糖尿病、高脂血症、循環器病（動脈硬化症、心筋梗塞、脳血管障害などを含む）などのほか、大腸がん、肺がん（扁平上皮がん）、アルコール性肝炎、歯周病などが含まれている。本授業では生活習慣病とは何かを学び、その予防の可能性について考える。さらに生活習慣病の増悪因子である喫煙や、最近注目されているメタボリック症候群についても学習する。	
高齢者の心理	高齢者を理解するために高齢者の心理・行動の特徴を学習する。社会心理学者のK.レヴィンが人間の行動は $B = f(P \times E)$ ($B = behavior$, $P = person$, $E = environment$) と表しているように、高齢者の行動は高齢者の生理的・精神的状態と高齢者を取り巻く社会環境との相互作用によって形成される。そこで、この授業では、高齢者の生理的特徴、精神的特徴、高齢者を取り巻く社会的特徴についてそれぞれ論じながら、相互のダイナミックスについても考える。また、ドキュメントビデオを使って現実への応用について考える。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (生活と福祉)	食と健康	生命はその生活環境の物質を情報として認識し、それに応答することで環境に適応して生きている。人も同様だが、人にとっての環境情報とは日々1kg食べる食品である。日々の食べ物がからだの機能を調節して健康寿命につながっている。本授業では日常の食品成分や機能性食品が人のからだの機能を調節している機構を科学的に論述する。これによってがん、糖尿病、循環器疾患などの生活習慣病の発症と予防を理解することを目的とする。	
	食料経済論	戦後における、我が国食生活・食料消費の変遷を、経済・栄養面から振り返ると同時に、我が国の食生活の特徴を社会経済的及び国際的な視点から明らかにする。ついで、食料需給に関連する経済諸現象を経済学的視点から考察し、生鮮食品及び加工食品等の価格決定メカニズム及び食品流通の現状を理解する。最後に、世界の食料情勢と我が国の食を巡る諸問題を考える。この科目は、旧専攻「生活と福祉」に該当する。	
	音楽・こころ・脳	良くも悪くも、今日ほど「こころ」という言葉が注目を浴びている時代はない。その「こころ」に「音楽」が「効く」ということは、随分昔から言われていたが、なぜ「効く」のかについては、ほとんどわかっていなかった。ところが、近年、脳科学の研究が進むにつれて、答えの一端が見えてきた。それだけではない。これまで科学としばしば対峙してきた音楽や芸術そのものが、最先端の科学の研究対象となりつつあるのだ。この科目は、旧専攻「生活と福祉」に該当する。	
	暮らしと生活空間	人がいるところには、かならず暮らしがある。暮らしは、主に家庭生活の営みのなかで展開されるが、人々の暮らしを家族関係や生活空間から講義する。さらに視点を広げ、地域生活や世界各地の暮らしから、人間生活における人と環境との相互作用について捉える。	
	地域看護学	地域看護学では、地域で生活する人々の健康の維持増進と健康障害をもつ人々への療養支援、生活支援を行うとともに、地域全体の健康レベルの向上を目指している。地域看護学は、公衆衛生看護、在宅看護、学校看護、産業看護から構成される幅広い領域であるが、本科目では公衆衛生看護、在宅看護の領域を中心に、看護の対象者の特徴や健康問題あるいは活動方法について概説し、地域看護活動の役割、機能について考察する。	
	社会福祉と人権	社福福祉の現場においても、家庭や職場などにおいても、児童、高齢者、障害者への虐待・拘束・財産侵害・人格の侵害などが、しばしば問題にされるようになってきている。この講義では、グループディスカッションという方法を用い、現代社会における権利侵害の実情を把握するとともに、その背景となる事情を検討しながら、権利を守るシステムや実践について受講生とともに考えていくこととする。	
	メンタルヘルス入門	メンタルヘルスの関わる諸問題を全般的に取り上げる。メンタルヘルスについての理解を深めることにより、参加者のメンタルケア能力が向上することを目標とする。授業形式は、講義・アンケート・グループディスカッションなどである。	
	食生活と健康	適切な食生活は健康の維持に重要であるが、若年層を中心に食生活の乱れが指摘されている。一方、生活習慣病の増加や高齢化社会の到来により、食と健康との関わりについてはこれまで以上に高い関心が寄せられている。本講義では、食習慣と健康との関わりについて、食品成分やビタミン・ミネラルなどの機能、更には健康科学の知見も加え解説する。	
	家族社会学	家族については、身近であるが故の思い込みや思い入れがある。まず、家族の多様性について学び、家族に対する、社会のあるいは受講生個人の思い込みを排して、客観的・科学的にアプローチする姿勢を身につける。我々の家族モデルとも言うべき近代家族について、成立の経緯と諸特徴を理解し、その意味について考える。さらに、少子高齢化問題など家族に関わる今日的諸問題のいくつかを取り上げて議論を試みる。	
	健康の科学	現代の私たちの生活は、多様性を増し、その状況の中で、自分なりの健康を維持・増進していく必要があり、個々の健康への関心も高い。本授業では、人にとっての健康を多角的にとらえることの重要性について、学問的根拠と基礎的知識をふまえながら解説する。また、私たちの健康を守るには、日常生活の中で何を実践すればよいのかを考えると同時に、自らの人生観や死生観を育む契機となるような題材を取り上げる。	
	児童文学作品研究	国内外の児童文学作品・絵本を概観し、創作の根底に流れる子ども観や世界観について考える。また、絵本や童話が強い影響を受けているメルヘンの重要なポイントについても理解していく。	
	社会福祉の現状と課題	本講義では、人々の生活上の困難に対応するための仕組みである社会福祉がどのような現状にあり、いかなる課題を抱えているかを概観していきます。受講者には、貧困、虐待、障害、介護といった近年のトピックを通して社会福祉を捉える力を深めていただきたいと思います。	
	高齢者と共に生きる	少子高齢社会に生きる心構えを受講者と共に考え、高齢者の心身の特徴および高齢者の生活に関連する制度や環境について解説する。 1. 高齢者と共に生きるためのケアリング、2 - 4. 高齢者の心身の特徴、5 - 6. 高齢者の生活に関連する保健医療福祉制度、7. 高齢者の学習、8. 高齢者の生活の質	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	ソーシャルワークの実践とは	社会福祉の実践による理解としての対人援助（ソーシャルワーク）について、その基本枠の実践的な理解を講義だけでなく、演習（グループワークやロールプレイ）を用いて学習します。共通的な基本枠（物差し）を継続的に学びながら、特にジェネラリストの視点での多面的な理解の大切さに焦点をあてていきます。	
	現代の社会保障	社会の様々な「格差」が広がる中、国民の社会保障、教育、労働の権利の実態とどうあるべきかを検討していく。特に、1990年からの社会保障裁判「第三の波」の流れを追いながら、現代の社会保障の状況と展望を概説する。	
	地域における子育て支援	現代社会、家庭の変容とともに、親や家族に対する社会的な子育て支援が不可欠となってきている。ここでは保育ニーズとしての子育て支援についての理解を深め、保育所、幼稚園、ひろば、児童館などの実践例から、そのあり方について学ぶ。また、ソーシャルワークの視点から、親、家族、地域社会をつなげていく連携について考える。	
	食育を考える：水産版食育の試み	本授業の目的は、現在、注目されている食育について多面的に理解を深めることです。食育活動が各分野で推進され、食育研究は自然科学の領域で先行しています。ここでは、各種の映像資料を多く用いて、それらの成果を平易に解説した上で、総合的な水産版食育「ぎょしょく教育」の考え方と実践、身近な魚のカツオを題材にした検討を紹介しながら、水産分野の食育における社会科学的な研究アプローチの有効性を明らかにします。	
	生活のなかでの栄養学	栄養素についての基礎的な知識や栄養学の新しい知見を学び、栄養と健康の保持増進との関わりを理解することを目的としています。授業では、代表的な栄養素について、その栄養学的特性、生活習慣病との関わり、食事摂取基準などを解説します。そしてそれらをもとに、健全に生活するための食生活のあり方を考えます。	
	高齢社会と福祉NPO	(1) これからの高齢社会や地域福祉の問題や介護保険における課題などを考える。(2) 地域福祉サービスの新しい提供主体としての福祉NPOを紹介する。(3) 福祉NPOとは何か、なぜ生まれ、どんな活動をしているのか。その役割や機能は何か、を紹介する(4) 世界最大のNPOであるアメリカのAARPを紹介する。高齢者による高齢者のためのシニアNPOは、どのようにして生まれ、どんな活動してきたか。日本の高齢社会への示唆を考える。	
	高齢者介護の実態と介護保険制度	「介護崩壊」が叫ばれています。その背景には、要介護高齢者の増大にともなうサービスや従事者の確保が追いついていないこと、また、制度やシステム、サービス内容などにおいて多くの課題を有すること、さらには、地域間に格差をもたらしていることがあげられます。この授業では、高齢者介護の実態や介護保険制度について実践現場での事例やさまざまなデータに基づき多角的な視野から検証し、これからのあり方を模索します。	
	親と子の発達サポート	人間関係の基盤を形成する親子関係の発達という課題について考えます。ライフサイクルにおける「親と子」の発達課題を明らかにするとともに、家族形成過程において特徴的に観察される主な場面を取り上げ、さまざまな理論を応用して分析します。この学習プロセスを通して、激しく変動している現在の社会における「親と子」の発達を理解し、促進するための具体的な支援のあり方を検討します。	
	子ども家庭福祉	子どもを取り巻く生活環境が大きく変化し、家庭や地域の機能が低下していくなかで、子どもの育ちにさまざまな問題が生じている。ここでは、それらのうちいくつかを取り上げ、問題の背景と課題を考察しながら、児童養育の私事性と社会性の2つの側面から児童養育のあり方を探っていく。	
	神経科学入門	脳は最後に残された研究分野で、21世紀は脳の時代などと云われている。脳の働きが分かるにつれ、人の行動などが脳科学に基づいて説明されてきている。この脳科学や行動科学等を学ぶ上で、脳の構造、ニューロンやシナプスの働きなどを理解しておくことが望ましい。この授業ではこのような神経科学を理解する上で必要な事柄について平易に解説するとともに、感覚・運動・高次脳機能についても概説する。	
	食品の機能と科学	人の健康に対する食品（食物）の役割を主題とする。人は食品を摂取することにより、自らの生命の維持・増進を行っているが、単に食品に栄養素の補給だけを求めるのではなく、食品が本来もっているおいしさや整理調節機能を利用することにより、豊かな食生活を営んでいる。本講義では、食品の機能（栄養性、嗜好性、機能性）に関わる成分の性質や働きなどについて学習する。	
サクセスフル・エイジング	サクセスフル・エイジングじゃ、心身ともに良好な状態で年齢を重ねていくという意味をもつ。本科目では、加齢によるからだところの変化を理解し、老年期を健康で豊かに生活するための具体的な方法を考える。また、この学習を通して、様々なライフステージにある学生が、それぞれの発達課題や生活状況において、高齢者とのかわり方を見直したり、自身の年齢の重ね方を振り返ったりする機会としたい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	生活と健康	人間の生活は自然の中で営まれるが、時には自分に都合のよい条件に自然を変化させた形で送られている。この生活に我々の健康は多くの影響を受けており、現在の自分の状態はこれまで送ってきた生活によるものである。そこで、まず、身体の成り立ちや仕組みについて理解し、健康について考えることで、日常生活を振り返り、どのような生活行動が健康に影響を与えているのかについて考えていく。	
	心の健康 - 看護の視点で -	ストレス社会の中、心の健康への関心が高まっている。そこで、目に見えないために理解しにくい心の働きについて学ぶ機会としたい。健康な心の働きとはどういうものか、心がどのように育まれていくのか、そして、どのように心の病に追い込まれ、また回復していくのかについて、人々の生活を整える看護の視点から考えていく。自分自身の心の健康や、家族をはじめ周囲の人々をどのように支えていくかについても考えていきたい。	
	出産をめぐる潮流	よいお産とはどのようなお産でしょうか。フランス料理を楽しむこと、ホテル仕様の環境に身を置くこと、エステを受けられることでしょうか。出産を歴史の変遷を踏まえ、リプロダクティブヘルス・ライツ、国際的異文化、ジェンダー、地域医療など様々な視座から捉えなおしをしたい。可能な限り、視覚教材を用い、討議を組み入れ、履修者の皆様と双方向の授業にしていく予定です。	
	カラオケ学～世界はひとつ	日本発、世界を凌駕した現代文化カラオケ。約40年の歴史、年4700万人と7200億円の市場規模（カラオケ白書 2008）、カラオケは心を癒し、活力を与える。その誕生と歴史、音楽学、歌詞表現、お酒、機器と評価機能、産業と経営、場・空間、心と健康などとの関わりを、講師8名が各専門分野を視点に講義する。課外の「カラオケ実習」も計画している（参加者負担）。	複数教員共同担当
	ガーデニングを科学する	果樹、野菜、花などを家庭で育てるガーデニングは、近年、生活の多様化に伴って変貌しつつある。とくに、ガーデニングが心身の障害を治癒するというホルトセラピーの分野が注目されている。ガーデニングを行うには、植物の来歴、栽培法、利用法など、植物の実態を知ることが不可欠であるために、本授業では、園芸植物の発生と分化、発芽、栄養生長と生殖生長、利用などについて、植物生理・生態学的な知識を学ぶ。	
	臨床栄養学	生活習慣病の中で肥満を引き金に起こる疾患から特に2型糖尿病について講義します。初日の午前中は糖尿病全般について講義します。午後は糖尿病食事療法のための食品交換表を使って食事療法の方法を献立作成ができるまで行います。2日目の午前中は糖尿病食の実際を調理実習をおこなって理解を深めます。午後は他のメタボリックシンドロームなど他の生活習慣病にも応用できるように食事の摂り方を具体的に説明します。	
	看護の考え方とその実践方法	一般的に医療においては看護という仕事は無くしてはならないものとして認識されていますが、実際には看護師がどのような仕事を行っているのかについては理解されていないことも多いように思います。そこで、看護師が看護をどのように考え実践しているのかについてお話しして、一般の方々への看護へのご理解を深めていただき、もしもの時に病院やご自宅などで身近に接することになる看護師を有効に活用していただけたらと考えています。	
	長寿者から学ぶ健康の智恵	沖縄の男性の平均寿命の1位転落があるものの、毎年発表される長寿者番付は沖縄が依然として第1位を占めている。この長寿者たちのライフスタイルに関する特徴を当研究室の調査結果を参考にしながら概説し、日々の健康生活を実践する上で最も基本的なことは何かを理解する。そして生活の質（QOL）の向上を目指した生き方について考察する。目指すは福寿！	
	生活と情報	この授業では、情報の本質、システムの不確実性と信頼、生活文化の形成と情報、情報とリテラシーといった視点から、生活と情報の相互変容の過程と実態について論究したい。	
	ヒトと微生物	人間と微生物の関わりをいくつかの事例を提示してその理解を深める。・天然痘はなぜ駆逐されたのか、・なぜ、インフルエンザの脅威は続くのか、・MRSAやVREといった薬剤耐性菌のもつ意味、・感染症に伴うハラスメントといったテーマについて概説し、これに続いて提供する話題(問題)を解決するための方策を議論する。	
	生活リスク論	人間生活の営みは、それ自体リスクを伴うものでもある。この授業では、生活経営の安全・安心を阻害する生活リスクについてその概念をおさえたうえで、リスクの発生局面と管理局面における生活の関わりを考えていく。	
	人口減少社会のライフスタイル	現代の社会変動は、人々の生涯、地域社会、仕事の世界を大きく変えつつあります。なかでも人口増加社会から人口減少社会への転換、および成長型社会から定常型社会への転換は、これまでとは異なるインパクトを与えます。その実態をいくつかの切り口からみていきます。これからの暮らしと社会のあり方を考える授業にしたいと思います。	
	公衆衛生の方法と歴史	公衆衛生は、人間集団の健康とQOL（Quality of Life：生活の質）を維持・増進するための科学である技術です。集団での健康に関する現象を解明するために疫学（epidemiology）という方法が開発されました。バクテリアが病気の原因となることが分かる前から、病気の流行を止めたという歴史に学んでみましょう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	命を育む女性の健康	少子化が進み、一方では命を巻き込む暗いニュースが報道されています。次世代の健全な命を産み、命の重さを意識し育むには、女性の健康と養育環境等が大きく関与します。本講義では、女性のライフサイクルにおける発達課題等の理解を深め、心理的・身体的および社会的側面から女性の健康に焦点を当て、あわせて、健全な命の育みを営むために、家族・地域の一員としての支援についても学びます。	
	化学でひも解く薬と栄養	我々は食事によって必要な栄養を獲得し、体調を維持・改善するため薬を服用します。これら薬や栄養のほとんどは有機化合物と呼ばれるグループに属します。この講義では有機化学の基礎を学びながら、薬がもつ効果の理由やそれは構造のどの部分が寄与しているのかについて考えます。肥満とそれに関連した有害な健康効果が死因のトップになるうとしています。栄養素の性質と構造を概観した後、肥満研究の現状について解説します。	
	腸、それは「第二の脳」である	腸の表面積はテニスコート1.5面分もあり、これは栄養分を吸収するには都合のいい構造です。しかし反面、さまざまな病原菌の絶好の体内への侵入口にもなっています。このような境遇に立たされた腸はどのように善悪を区別しているのでしょうか。腸は考えています。このあたりを皆さんと一緒に探ってみたいと思います。	
	放射線の利用と健康影響	放射線は様々なところで利用されていますが、人体に有害であるとされます。しかし、画像診断や規制値レベルの微量被曝が、人体に有害だという直接的な確証は得られていないばかりではなく、逆に有益だとする学説が存在することはあまり知られていません。この講義では、規制値より高い被曝が即危険だという単純な発想を捨て、自然科学的な視点から放射線障害を再検討し、健康に有害なこととは何かを皆さんと一緒に考えます。	
	障害者の社会参加と環境	障害者の権利条約が批准されたことに伴い、日本でも障害者の社会参加の促進が望まれる状況になった。本講義では、障害についての理解を深めるとともに、障害者の社会参加の現状と課題について整理し、障害者の社会参加を進めるための方策について考える。	
	健康な老いのために	高齢を迎えても健康的に日常生活を過ごすことが望まれています。健康を阻害する生活因子を考え、これを予防するにはどうしたらよいかを考えます。肥満に対する考えの方が国によってかなり異なっています。これまでの調査で得られた資料等もを用いて、具体的に生活習慣病の予防に向けた健康づくりについて検討します。	
	長寿への栄養学	長寿への栄養学は基本的な栄養学の知識を網羅しているものではありません。現在、健康で問題となっている栄養学的な諸問題を基本的なところで理解していこうとするものです。しかし、ある時には少し難しくなるかもしれません。日常の自分の身の回りで起きている問題ばかりですので、きっと興味がわくと思います。	
	前向きな心の効用-健康への鍵-	今日の少子高齢社会は、これまでとは異なった健康不安をもたらしている。その緩和の鍵はポジティブ感情（前向きな心）にある。まず、自然界で生じるストレスと人間に特有な心理的緊張との相違を考察する。人間的環境で生じる問題の解決には、人自身のうちに喚起される統制感の体験が必要であること、統制感が「前向きな心」を生み出す契機となり、これが生活の質の改善にまで役割を果たすことを指摘する。	
	人の死に学ぶ	この授業では、8回の講義で、次のようなテーマを扱います。1) 人の死の種類、2) 生態系と人の死、3) 人の死と人権、4) 防ぎ得る人の死、5) 人の死を探る(その1)『死体検案』、6) 人の死を探る(その2)『剖検』、7) 死体は語るか、8) 人の死に学ぶ(討論)。この類の講義に抱かれがちな猟奇的な印象の内容は避け、穏やかで冷静に「人の死」を俯瞰することによって、生の糧を学ぶ機会にしたいと思えます。	
	児童家庭福祉サービス	社会福祉の基礎分野としての位置づけから、子どもの福祉と家族への支援が何かを考え、子どもと家族の福祉の視点を学習することをねらいとする。現代社会における児童家庭福祉の社会的背景、児童家庭福祉ニーズの把握の方法、児童の権利と子ども虐待、児童福祉等の法律とサービス体系、児童家庭に対する相談援助方法等について学ぶ。	
	食物の特性とその役割	今わが国は飽食といわれ、豊かな食生活を享受している。しかしその一方で、過剰又は不適切な食物摂取による健康上の問題も起きている。そこで、この科目は、健康を維持し心身ともに豊かな生活を営むために必要な食生活に関する知識の習得を目的に開設する。成績評価は、出席状況を重視して行う。	複数教員共同担当
	ボランティア論	この講義では、社会における期待が高まってきたボランティアやNPOが、どのように人や社会の変革に関わっているかを、様々な視点から考えます。具体的には、ボランティアやNPOに関する歴史、存在意義や役割、参加動機、規模や種類、現状と課題等について学びます。また、福祉や環境、教育、国際協力、災害救援等様々な分野における受講生自らの関わり方についても議論します。成績評価は、出席及びレポートで評価します。	
	自殺行動の理解とその予防対策	日本では1998年以来、毎年3万人が自殺で亡くなっています。この自殺について現状を分析し、背景にある課題について考察していきます。また自殺予防対策の視点からの地域診断調査の方法と結果について紹介し、どうすれば少しでも自殺を予防できるのかについて討論します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（生活と福祉）	リハビリテーションと作業療法	リハビリテーションと作業療法の理念と内容について、講義および演習を通じて学習します。作業療法ではさまざまな障害を持った対象者の回復支援や社会参加、地域生活の支援を行うことにより、対象者の生活機能の拡大を目的としています。この授業を通じて、ひとが活動する意義や障害を持ちながらも生活していくこと、社会の中で他者との交流を維持することの意味について一緒に考えたいと思います。	
	食の科学	様々な食材をバランスよく摂取する伝統的な食事スタイルが崩れ、食生活が偏り、がんや高血圧、糖尿病などの生活習慣病が増加している。近年における人々の「健康食品」や「サプリメント」に期待するところは極めて多い。病気の予防、体質改善、若返り、ダイエット、老化防止、健康の保持増進にと様々な目的でこれを利用する人々が増えてきている。本授業では、食品を科学して病気予防の機能を見つけ出す。授業内容は、平成20年度と同様である。	
	日常生活活動	私たちの生活を「日常生活活動」、「生産的活動」、「余暇活動」の三側面から概説します。そして、日常生活活動に焦点を当てて、高齢者や障がい者の具体例を挙げながら生活機能について考えて行きます。さらに、ノーマライゼーションの考え方に触れながら生活と環境の関連について概説します。	
	医療・福祉における知識経営	医療・福祉の組織が、外部環境の変化に即応しながら適切なサービスを提供し、安定的な経営を継続するためには、メンバーによる「知」の結集と創意工夫が不可欠である。本講義では、病院や福祉施設を「知識を育み、共有・活用する活動主体」として捉え、「知識経営」の視点を導入して事例分析を試みる。受講生との意見交換により次世代の医療・福祉組織に求められる経営の要件を抽出したい。	
	認知症高齢者の理解と対応	高齢者（特に75歳以上の高齢者）人口の増加に伴い、認知症をもつ人々が増加し、家族成員数の縮小化と相俟って、認知症高齢者の介護問題が大きな社会問題として注目を集めています。保健福祉専門職のみならず、あらゆる人々が認知症に対する正しい理解と対応方法に関する知識をもつことは、認知症高齢者のQOLの向上に寄与するとともに、介護者の介護負担の軽減に大いに役立つものと考えます。	
	環境保全・安全な衣生活スタイル	有限な地球資源を利用し科学技術に支えられている現在の衣生活には、食生活と同様に衣料自給率や安全・安心の観点からみると多種多様な問題が存在する。現在の衣生活の実態を分析評価して問題点を抽出し、解決方法を考える。更に、便利な衣生活を今後も引き続き享受し続けるためには、総合科学に基づいた知識や技術を毎日の生活の中で実践する生活スタイルを構築することが必要であり、いくつかの事例研究を通じて理解を深める。	
	身近な食を考える	私達の身の辺りにある食材ととり上げ解説する。特に「きのこ」については、人間生活との係りから少し詳しく紹介する。また、福島県の地域食材の中で注目されているエゴマ、ヤーコンや炭の効用、油脂と健康などトピックス的な事柄もとり上げる。さらに食育との関連から食品の嗜好性についても触れる予定である。	
	精神保健	現代社会に生きる我々にとって、誰もストレスや不安から無縁ではいられない。過剰なストレスや不安は、時に、ノイローゼや心身症という心の病気を引き起こす元となる。この講義では、これらの病気について、発症のメカニズム、症状、治療法、予防法などについて、精神医学の立場から、やさしく講義を行う。	
	貧困と社会福祉	近年、格差拡大が社会的問題となっているが、その本質は貧困の拡大と深化にある。この貧困は、母子世帯、高齢者世帯のみならず、若年層の一般世帯等にも現われている。（改行）これに対し、自立支援策が大きな政策的主流となっている。ホームレス支援に始まった自立支援は、社会福祉にダブルスタンダードをつくり、またダブルトリップを作り出している。本講義では、貧困の実態をホームレス等の支援を事例として検討を加えていく。	
	ヒトのからだと健康づくり運動	わが国は長寿高齢化に入り、国民は健康の意義、運動の効果、影響について認識し、生活体力を高め、疾病予防をはかることが不可欠である。本講義では運動と骨格筋、呼吸循環機能、代謝機能をはじめトレーニング効果、肥満、糖尿病、動脈硬化の成因と予防について述べる。	
専門科目（心理と教育）	教育の社会史（08）	現代の教育の問題群に、歴史学の方法によるアプローチをこころみる。そのために、学校に収斂させるのではなく、社会に埋め込まれた人間形成のあり方に視点をすえて「教育の社会史」を描く。おもに17世紀以後の日本の教育史をたどるが、なかでも知を伝達するメディア、身体や時間の近代化、試験の歴史、教育におけるジェンダー、移民社会にみる異文化教育の特質など、高度情報化とグローバル化を見通した主題に留意する。	
	教育社会学（07）	本講義では、人々が生まれ、育ち、学び、働き、さらに自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスを縦糸とし、人々がそのプロセスの各段階で関わっていくさまざまな教育の在りようを横糸として、社会的な営みとしての教育の意味と本質を解き明かす。あわせて最近の教育状況とそれを巡る環境の変化および今後の課題や展望についても検討する。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (心理と教育)	大学と社会 (08)	本科目では、ヨーロッパ中世社会に誕生した大学が近代日本に導入される歴史的経緯をふまえ、現代日本における大学と社会との関係を、グローバル化や高度情報化、学習社会化など社会変化というマクロな観点から学ぶとともに、大学の活動と機能について理解を深める。大学の組織・運営や大学改革の動向と課題についても学習する。	複数教員共同担当
	道徳教育論 (09)	道徳教育とは、主として学齢期にある青少年に道徳性を身に付けさせることを目標とする種々の教育の総称である。道徳性の意味については、社会的、時代的背景によりさまざまに議論されてきたが、現在では、非常に幅広い概念としてとらえられており、特定の価値観や理念に基づくものとは考えられていない。そうした観点から、道徳教育の歴史や法的な規制、学校教育における道徳授業の方法だけにかぎらず、家庭や地域社会とのかかわりや、カウンセリングや人権教育とのかかわりなど、道徳に関連するさまざまな話題を取り上げ検討する。	
	地域教育の創造と展開 (08)	本科目では、学校教育、社会教育そして家庭教育が地域社会のなかでどのような形で実践されているかについて「地域教育」という新たな概念を用いて考察する。地域社会が急激に変動するなかで、さまざまな「教育問題」が多発化している。学校や家庭だけでは解決できない多様な深刻な問題の解決を探るために、今、「地域の教育力」が求められている。専門科目として、教育学、教育社会学の理論を学ぶとともに全国各地の実践事例を詳細に検討しつつ、その解決の糸口を探りたい。学校の教員、教育行政担当者、PTAをはじめ地域の教育関係者の「生の話」を通してさまざまな教育問題の解決に向けての課題を展望する。放送メディア(ラジオ)の特性を生かして、受講者が自らの経験的实践を踏まえて、その経験的实践と教材を対比しつつ考え、地域住民としての生活実態・教育ニーズに即した形での実践的学習を深めてくれることを期待している。	複数教員共同担当
	生涯学習と自己実現 (06)	生涯学習社会への移行が叫ばれる今日、生涯学習は、私たちがどこへ導いてくれるのだろうか。本講では、人間の自己実現というひとつの方向目標を手がかりとして、発達論と学習論を軸に、生涯学習をめぐる問題を考えていきたい。あわせて、生涯学習社会がかかえる今日の社会的な問題をもとに考えていきたい。	複数教員共同担当
	現代の教育改革と教育行政(10)	現在進行している日本の教育改革の問題と課題を実証的に検証しながら考えるために、諸外国における教育改革との比較の中で、日本の教育行政に関する基本的な理論やシステムを学ぶ。講義では、教育行政学の具体的対象である教育政策、教育法・制度、教育管理・経営の理論、仕組み、課題を今日の実態や問題の検討を通して学習していくことを目的とする。受講対象者としては、現職教職員、教育管理職、教育委員会・教育行政関係者・職員その他、教職・教育行政職志望の学生・院生や教育に関心をもつ保護者・市民等にとっても日本の教育を教育行政に関する専門的知見を得ながらひろく学んでいけるものとした。	
	転換期の教師 (07)	教育改革の進展に伴って、教師の資格や職場環境・役割、教師という職業も変容しつつある。本講義では、第一に、現代社会の中で、教師・教職がどのような状況に置かれているのか、教師が直面している諸問題について検討する(第1回～第5回<第一部 問われる教師>)。第二に、教育改革の中で教師という職業がどのような変容を遂げようとしているのか、教職の過去と、改革による課題や今後の方向を考える(第6回～第10回<第二部 教師・教職の過去と現在>)。さらに、改革が進行・定着する将来にむけて、教師を支援し、どのような新たな教職像を創り上げるべきかを考察する(第11回～第15回<第三部 教職の未来と教師への支援>)。	
	特別支援教育基礎論 (07)	特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象であった障害に加え、LD、ADHD、高機能自閉症等を対象とすることとなる。本科目においては、特別支援教育の意義、対象となる障害に対する理解、教育の現状について解説する。	複数教員共同担当
	発達障害の教育支援法 (06)	障害のある児童生徒の中でも、知的障害を中心とした発達障害の児童生徒の占める割合は高く、また多様な場において教育支援が行われている。本科目では、今後の特別支援教育への専門的対応も視野におき、種々の教育の場で、一人ひとりの多様な教育ニーズに応じて実践される発達障害のある児童生徒への教育支援法について、映像も用いた実際の解説を行う。	複数教員共同担当
	発達障害の教育支援法 (10)	障害のある児童生徒の中でも、知的障害を中心とした発達障害のある児童生徒の占める割合は高く、また多様な場において教育支援が行われる。本科目では、種々の教育の場で、一人ひとりの多様な教育ニーズに応じて実践される発達障害のある児童生徒への教育支援法について実際の解説を行う。	複数教員共同担当
	特別支援教育総論 (07)	特殊教育から特別支援教育への転換が準備の段階から本格的な展開に向けての移行の段階へと推移しつつある。特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象であった障害に加え、LD、ADHD、高機能自閉症等の障害を対象とすることとなる。本科目では、特別支援教育の意義、対象となるそれぞれの障害の教育内容・方法等について解説する。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	生徒指導 （ 06 ）	生徒指導は、学校教育において教科教育と同様、あるいは場合によってはそれ以上に重要視される不可欠の要素である。近年、学校内外で児童、生徒の問題行動が多発し、また内容的にも深刻化する中で、生徒指導の重要性はますます高まってきている。しかし、今日、わが国の学校で実際に行われている生徒指導が高い評価を得られているかといえ、それは疑問である。本講義では、生徒指導の特性と意義および機能を学校教育システム全体との関わりの中で明らかにし、問題行動の現状と生徒指導の実際とを理解した上で、生徒指導のあるべき姿を具体的に検討していく。	複数教員共同担当
	授業研究と談話分析 （ 06 ）	授業は児童期・青年期における教育と学習の場の中心である。授業をどのように研究し分析できるのかを近年の教育心理学や学習科学の視点を中心にして明らかにすることによって、共同の中で学ぶ過程、授業をデザインする過程について考えていく。	
	授業研究と学習過程 （ 10 ）	授業をどのように研究し分析できるのかを近年の教育心理学や学習科学の視点を中心にして明らかにすることによって、共同の中で学ぶ過程、授業をデザインする過程について考えていく。「授業研究と談話分析（ 06 ）」に新たな知見を含み入れ、より発展的な学習を目指す。	
	心理学研究法 （ 08 ）	人の心と行動を実証的に研究する論理はどうなっているのか、1世紀余にわたる心理学の研究の歴史のなかでその論理はどのような変遷をへて現在のようになってきたのか、そして、今、心理学は、研究方法論の百花繚乱期をむかえているが、実験法から質的研究法まで、どのような方法論と技法が何を明らかにするためにどのように使われているかを紹介してみたい。	複数教員共同担当
	心理学史 （ 05 ）	今あるような心理学はなぜそのようなものがあるのか。広く周知されている心理学であるがそもそも心理学とは何であり何でないのか。その起源をはじめどのような背景と経過の中で形成されてきたのか。またその立ち上げに直接間接にかかわる先達たちはどのような人物か。日本の心理学史に焦点を合わせ、その移入と定着、拡大展開の過程を世界の心理学の動向に重ね各役割を担った人物を通して紹介する。	複数教員共同担当
	心理学史 （ 10 ）	心理学の学びに欠かせない必須の基本科目は、心理学概論、心理学研究法、心理学実験・演習、そして心理学史である。この4本柱の一つであり心理学の体系的な学びに欠かせない心理学史を提案する。 当科目においては、西洋文明史が長年築いてきた哲学的思索と思弁を背景に、新たに興隆した自然科学、中でも生理学や物理学をお手本として新たに立ち上げられた新心理学（科学的・実験心理学）の系譜を踏まえ、一方、わが国におけるその受容と定着、展開に大きな足跡を残した人物を中心に置き現代心理学の大きな流れと、心の究明における基本パラダイムの特色とその展開や変遷を紹介する。また、更なる今後の心の科学の展開を展望する。	複数教員共同担当
	認知科学の展開 （ 08 ）	21世紀最大の課題の一つである、私たちの「心」をめぐる議論は、新たな局面を迎えている。その取り組みを包括して、認知科学（心の科学；cognitive science）とよぶ。当初、心の究明は、もっぱら哲学者の思索や思弁に委ねられていた。しかし、19世紀における生理学や物理学の興隆とともに、新たな現在の心理学（科学的・実験心理学）が立ち上げられたことに加え、以後、20世紀中頃からの情報理論、数理言語学、ならびにコンピュータの実現、さらには脳神経科学などの進展とともに、現在の認知科学がある。この分野の基本的なパラダイムの紹介とその広がりを代表的な心理現象をもとに紹介する。	複数教員共同担当
	計量心理学 （ 06 ）	心理学の抱えている根本的な難しさは、直接の対象である「心」が各自の自覚や確信に反して、直接見ることも触れることもできない（インビジブル）ことである（この点は、すべての科学に当てはまるといってよい）。そこで、目にみえる形あるもの（心の作用結果の行動など）から、もとにある心をつかむことが問われる。この逆分析（結果から原因や仕組みを明かすこと）を行う、逆推定問題を解くためには、一定の手続きによる行動観察とその結果である測定データに内在する論理構造の解析、ならびに心が持つはずの基本的な数理的論理構造を前提（理論やモデル）とした仮説演繹法的な取り組みが必須である。科学的心理学が立ち上げられた以降、実験心理学の中心を占める「計量心理学」を、確率論を前提基盤にすえ、いくつかの身近な心理現象をはじめ具体的な適応、応用事例を平易に紹介する。	複数教員共同担当
	基礎発達心理学 （ 06 ）	本講義は、発達心理学の基礎理論や研究を概説した上で、さまざまな研究領域における現状や新たな展開、実践への応用を展望することを目的とする。発達心理学の広い研究領域をできるだけ幅広くカバーし、生涯発達の展望に立って講義を行う。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	神経心理学 （ 06 ）	神経心理学、あるいは認知・行動神経科学の領域においてこれまでに得られている、健常者および脳損傷者を対象とした基礎的・臨床的事実にもとづき、ヒトの日常生活における種々の行為をその背後で支えている、言語、認知、記憶などの高次機能を支配する大脳皮質連合野の神経機構、およびそれらの機能にもとづく種々の行為を支配する随意運動制御の中核機構に関する最新の知識の獲得を目指す。そして次の段階では、こうした高次機能の形成・獲得・変容を支える可塑的神経機構に関する理解を深め、高次機能の形成・獲得・変容、脳損傷後におけるその再獲得、および発達過程におけるそのつまづきなどの支援について、学習者がその具体的な方策を自分自身の力で構築することができるようになるために不可欠となる、自己課題設定・自己問題解決能力の育成・獲得を目指す。	
	神経心理学 （ 10 ）	本講義では、神経心理学、あるいは認知・行動神経科学と呼ばれる領域において得られている、健常者および脳損傷者を対象とした基礎的・臨床的事実にもとづき、ヒトの日常生活における種々の行為をその背後で支えている、言語、認知、記憶などの高次機能を支配する大脳皮質連合野の神経機構と、それらの機能にもとづく種々の行為を支配する随意運動制御の中核機構についての理解を深めるとともに、こうした高次機能の形成・獲得・変容を支える可塑的神経機構解明の現状を理解した上で、高次機能の形成・獲得・変容、および失われた時におけるその再獲得、さらに発達過程におけるそのつまづきの支援について、最新の神経心理学および神経科学がどこまで貢献できるのかに関する議論の場を提供する。	
	感情の心理学 （ 07 ）	感情には喜怒哀楽から恥や罪、プライドなどまでさまざまな種類がある。感情は文化を超えて人間に共通なものあれば、感じ方やその表現において、文化に固有なものもある。感情は人間の適応にとって不可欠である。とっさの感情の判断が命を救うこともあり、学習を動機付けたり、人々を結び付けたりもする。この講義では、このような感情を心理学だけではなく、脳神経科学や生物学、医学などの近接領域の成果をも援用しながら、理解していく。	複数教員共同担当
	記憶の心理学 （ 08 ）	人間の記憶に関する心理学の知見を基に、講義内容を組み立てる。ここでいう記憶とは、経験や出来事、あるいは知識やイメージなど、常識の意味での記憶のみならず、私たちが生まれてからこのかた、経験により獲得してきたすべての知識や技能をさす。すなわち、話したり、歩いたり、服を着たりする日常的行動は、本人は意識してはいないけれども、学習したことを記憶しているからできるのである。このようなさまざまな記憶に関する研究において、今日まで解明されてきた多くの知見のうち、基本的事項をわかりやすく講義する。記憶のメカニズムやその理論、あるいは現代社会の諸問題に直結する応用的研究などについて、データを示しながら講義を進める。	
	子ども・青年の生活と発達 （ 06 ）	本講義では、HOW TOの提供ではなく、改めて現代に生きる子ども・青年の生活を丁寧にとらえなおし、生活とかわらせて発達を検討していくことを目指す。生活からとらえなおすということはいくことを個人の中だけで検討するのではなく、社会の中で生きている存在としてとらえることを意味する。本講義の第1の特徴は、心理学のみでなく、社会学特に教育社会学の視点も含みこみつつ、発達を考えることである。一方で、生活への注目は、人は生物学的存在でもあることに気付けてくれる。系統発達の視点、身体への注目なども含みこむのが第2の特徴である。講義を通して、周囲の子ども・青年の様子を丁寧に見、検討するきっかけとしてほしい。	複数教員共同担当
	乳幼児・児童の心理臨床 （ 07 ）	人生の基盤となる乳幼児期・児童期に関する心理臨床の理論と実際を紹介する。親・親代理者、保育・教育に関わる人、地域社会の関係者、心理臨床を目差す学生など、子どもに関心のある多くの方々と、人間の成長発達の基盤である乳幼児期・児童期について考え合いたい。	
	思春期・青年期の心理臨床 （ 09 ）	思春期・青年期について、発達の側面・医学（病理）的側面などから捉え、その対応について概説する。大きく分けて、家庭・学校・社会のなかでの若者の姿を多角度からアプローチしていく。	複数教員共同担当
	心の健康と病理 （ 08 ）	この講義では、心の健康と病理について、その基本的な概念と成り立ちに関する基礎知識と考え方について学習する。心の健康とは何かを知るためには、それが損なわれた状態、心の病いについて知ることが大切であり、翻って、健康な人間のもつ心の特性とその問題性が浮き彫りにできるものと考えられる。	
	心理カウンセリング序説 （ 09 ）	臨床心理学における「カウンセリング」について、もっとも基本的なことを検討する。現在の日本においては、カウンセリングという言葉は、「受容的に話を聞くこと」とか、ほとんど「ガイダンス」とか、「オリエンテーション」と言った意味で使われることも稀ではない。本講では、臨床心理学的な問題や症状を抱えた方々、すなわち、クライアントが自らの問題や課題と取りくむためにセラピスト（＝カウンセラー）の許を訪ねて開始される心理療法という意味での「心理カウンセリング」について系統的に学習する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	心理臨床とイメージ (10)	<p>心理臨床において、クライアントが自らを表現する際、言葉だけでなく、描画、造形、夢といったイメージを通して、表現されることが多い。</p> <p>意識領域の心に関しては、言語を用いた言語化がかなり可能であるのに対し、本人も意識していない無意識領域の心については言語化が困難であって、クライアントの無意識領域の心の理解に関しては、イメージが重要な手がかりとなる。イメージ表現は、クライアントの状態の査定に役立つだけでなく、心理療法中のクライアントへの深いコミットメントを可能とし、またクライアントのイメージの表現活動そのものが治療的であり、治癒力を持つことにもなる。</p> <p>以上述べたように、イメージは、心理臨床において極めて重要であるので、自己イメージと描画、無意識と元型などについて論じた後、バウム・テスト、風景構成法、夢、箱庭、遊戯療法、MSSM法、自由絵、写真などを取り上げ、イメージ表現と心理臨床について紹介を行う。</p>	複数教員共同担当
	スクールカウンセリング (05)	<p>学校において行われている、カウンセリングの実際を紹介する。公立の全中学校に配置されたスクールカウンセラーは、教師・親・地域と密接に連携しつつ、子どもたちの健やかな成長に取り組んでいる。スクールカウンセリングは決して密室のカウンセリングのみではなく、学校教育の中での児童・生徒に適する方法を模索しているのである。</p>	複数教員共同担当
	スクールカウンセリング (10)	<p>スクールカウンセリングについての理論と実際について紹介し、児童生徒教職員及び保護者とのかわりについて取りあげる。</p> <p>小・中学校教員、スクールカウンセラー、臨床心理士、保護者を対象とすることを予定している。</p>	
	保育カウンセリング (08)	<p>昨今、幼児の心身の問題に親も保育者も戸惑うことが多く、保育場面へのカウンセラーの配置が求められています。すでに大阪府私立幼稚園のキダーカウンセラー、日野市の保育カウンセラーなどが活動しています。本講座では、保育カウンセリングの基本的知識と活動の実際を紹介します。</p>	複数教員共同担当
	発達障害児の心と行動 (06)	<p>発達障害は人生の早い時期に社会的諸関係のなかで現れ、その原因は脳機能障害にあり、知的障害、言語と学習障害、自閉症、注意欠陥／多動性障害（ADHD）等がある。本講座では知的障害等の発達障害を持つ子どもの心と行動を理解するために、発達の観点と学際的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎となることをねらった。</p>	
	発達障害児の心と行動 (10)	<p>本講座では知的障害等の発達障害を持つ子どもの心と行動を理解するために、発達の観点と学際的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎を学習することを主眼とする。</p>	複数教員共同担当
	卒業研究（心理と教育）	<p>1．卒業研究は、各専攻に所属している全科履修生が、教員から直接指導を受け履修する選択科目です。</p> <p>2．履修を希望する場合は、学習センターの窓口にて配布（毎年6月中旬）の「卒業研究履修の手引」を入手し、卒業研究申請書を提出してください。</p> <p>3．提出された卒業研究申請書をもとに教員が審査を行った結果、履修可の通知を受けた方は、所属する専攻の卒業研究の科目登録申請を行ってください。</p> <p>審査の結果、履修が認められない場合は、履修申請条件を満たしていても科目登録申請・履修はできません。</p> <p>4．他専攻の卒業研究は履修できません。</p> <p>5．既に修得した専攻の卒業研究は履修できません。</p> <p>6．履修期間は、4月から1年間です。従って、履修途中（第1学期末）で卒業要件を満たしても第1学期末での卒業はできません。</p>	複数教員共同担当
	脳から見たムーミンの国の教育	<p>ムーミン物語に登場する学校は日本の学校にそっくり。そしてムーミンたちは学校が大嫌い！ではムーミンたちの生まれ故郷フィンランドの教育はどうなのでしょう？実は学力世界一を生む世界一の教育なのです。テストによって子どもたちを競争させず、授業時間数はゆとり教育の日本より少ないのに、なぜ？その秘密を、実際にフィンランドの教育を体験しながら考えていきます。そして明日の教育を脳の視点から考察します。</p>	
	臨床心理学実習A	<p>心理臨床の現場では、言語のやり取りの他に描画や造形といったイメージを用いることもある。イメージを用いることによって、来談者をより深く理解し、より深く共感し、より深く寄り添うことが可能になって、面接そのものが深まり、進展していくことがよくあるからである。今回の授業では、実際にいくつかの実習を体験していただき、その体験を通して自己理解と他者理解を深め、更に心理療法への理解も深めることを目標としている。</p>	
	記憶と体験の心理学	<p>目撃証言や自白あるいは被害体験が真の体験に基づいているか。近年心理学者は、このような実際の問題に取り組むようになってきた。体験の真偽は、心理学的にどのように判別できるのか。その課題を遂行する上での困難は何か。記憶の心理学的研究の成果をもとに、これらの問題について考えたい。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	心的コミュニケーションの発達	対人関係を成り立たせている基本的要因として、相手の内面を相互に読み取れることと、それに応じた行動を取り合えること、つまり、心と心のコミュニケーションの成立があげられる。このような心の働きはインターサブジェクティビティと呼ばれているが、この講義では、それが人間の発達上で、どのように発現し、どのように発達をしていくのかを、乳児と親との情動の共有に焦点を当てて、最近の研究の成果に基づいて解説をしていく。	
	心理学英文講読	H. Gardner たちが書いた大人と子どもの創造性についての論文を読んでみましょう。事前にコピーをお送りしますので、できる範囲で予習をしておいて下さい。ただ、完全に読めないからと、授業に出席することさえ諦めてしまう必要はありません。授業では、グループを作り、各グループで力を合わせて、内容を「解読」してみることにしましょう。この授業は、あくまで心理学を学ぶことを主眼とするもので、英語の授業ではありません。	
	発達と教育のあり方を考える	人間は一人では生きていくことが出来ない。大人や社会の支えや援助によって人間は人間として成長していくことは間違いのないことである。それでは教育はどこまで可能なのだろうか。あるいは子どもの成長を支え教育とはどのようなものであるべきなのだろうか。子どもは独自の世界を持っている。自己の意思を持った存在でもある。同時に社会の中で生きている存在でもある。子どもも今生きている社会や文化の枠組みと無縁であるはずがない。人間の成長と教育の良き関係とはどのようなものであるべきなのかを考えます。	
	子どもの発達と育児環境	本授業は、乳幼児期の子育てをキーワードとして、乳幼児期の子どもの発達や周囲の環境（家族、社会）について論じていきます。具体的には、子育ての当事者である親と社会の意識、実際の育児場面（叱る、テレビの視聴、早期教育など）における議論、子育て支援の実際と課題などを取り上げる予定です。育児に絡む複数の意見を紹介しながら、多面的に育児を考えていく授業を志向したいと考えています。	
	現代教育と教育をとりまく諸問題	学校現場では、いじめ・不登校・学級崩壊・校内暴力などの問題が依然として続き、さらに、学力の低下論争・インターネット関連事件・モンスターペアレントなどの問題が多発するなど、深刻な状況を呈しています。そのような中、平成18年12月に教育基本法が改正され、これからの時代に向けた教育の基本理念が明示されました。そこで、今改めて教育をとりまく諸問題について考えてみます。	
	発達臨床心理学入門	本授業「臨床心理学入門」は以下の内容からなっている。(改行) 1) 臨床心理学の歴史的背景と変遷 2) パーソナリティの理論と検査 3) 心理療法 4) 対人関係とストレス及びストレスコーピング 5) 親子関係の臨床 6) 発達障害の理解 7) 精神障害と臨床心理学 8) 総括	
	家庭教育の今昔	近年、子どもたちの成長や発達をめぐって、家庭や地域の教育力の低下が懸念されている。授業では主に家庭の教育力に焦点を置いて、家庭の教育力とは如何なるものとして想定されているのか、また家庭の教育力は本当に低下しているのか等について学修していくことにする。なお、家庭の教育力の変容過程を学校教育や地域の教育力との相関からも見ていくことにしたい。	
	社会心理学実習	受講生は5班に分かれ、(1)調査者の立場で、社会的態度測定のための調査票設計・作成を試みる。(2)班ごとに計画を立て、大学外でデータ収集を行う。(3)収集したデータの統計的分析と解釈を試みる。(4)また、他班が作成した社会的態度測定調査に回答者として参加する。これを通して、社会心理学的調査の仕組みと具体的手法を、実習をとおして理解する。この実習ではパソコンを利用するので、受講生はワード、エクセル、インターネットの使い方を習得しておく必要がある。	
	犯罪心理学	犯罪行為と犯罪者を理解するために提起されてきた社会科学の諸理論を概観し、実証的知見を参照しながらそれらの意味するところを考察する。各講義のテーマは次の通りである。1. 現代日本の犯罪状況と犯罪研究の始まり、2. 犯罪現象の理論的説明と犯罪社会学における3つの立場、3. 緊張理論、下位文化理論、統制理論、4. 犯罪者と犯罪行為、5. 犯罪の生物学的、人格的、発達の要因。	
	臨床心理学実習(M)	慌しい日常生活からちょっと距離をおいて、「他者の話を聴く、自分の話を聴いてもらう」という体験をしてみましょう。そこからどんな気づきが生まれてくるでしょうか。本授業では、自己と他者への理解を深めるとともに、カウンセリングの基本姿勢を学びます。グループワークですので、幾つかの約束事があります。それらを守り、自分から積極的に参加してください。	
臨床心理学実習(N)	慌しい日常生活からちょっと距離をおいて、「他者の話を聴く、自分の話を聴いてもらう」という体験をしてみましょう。そこからどんな気づきが生まれてくるでしょうか。本授業では、自己と他者への理解を深めるとともに、カウンセリングの基本姿勢を学びます。グループワークですので、幾つかの約束事があります。それらを守り、自分から積極的に参加してください。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	感情の心理	感情は人の行動や異常を理解するうえできわめて重要なテーマです。喜怒哀楽が日常生活の中でどんな役割を果たしているのか、言い換えれば何のためにあるのか、そのようなことを感情の発生過程や感情のコミュニケーションを中心に概説します。そして、激しい感情を抑えることのできる「こころ」は、どのようにして形成されるのかを考えてみましょう。	
	生涯学習と社会教育	生涯学習と社会教育についての基礎的、基本的事項を習得するとともに、国内外の生涯学習および社会教育の現状と実践事例を分析します。これらを通じて、今後のわが国の生涯学習および社会教育の課題と方向性を検討します。	
	教育方法の心理学	学習心理学や教育心理学について基礎的な理論や知識を修得する。またそうした知識をもとに、児童・生徒が心的にも知的にも成長できる教育について課題意識を持ちつつ、学校における授業がどのように構成されるべきかについて考える。	
	学校で学ぶこと・教えること	子供たちの学力、社会性、道徳性等の低下が叫ばれる中、学校の在り方が問われてきています。学校で学ぶべきことは何なのでしょう。また、学校で教えられることは何なのでしょう。現在の学校教育や社会を見ながら、そして学校が担うべき役割領域や教師の指導を考えながら、これからの学校や教師の在り方について考えていきたいと思えます。	
	学習と教育の心理学	学習と教育との関連について、心理学の立場から概説します。本授業では、(1)やる気を高める、(2)学習のメカニズム、(3)授業の心理学、(4)学習と学習環境、という4つのテーマについて学びます。また、心理学の理解とともに教育実践をみつめ直すことを大きなねらいとします。	
	余暇・娯楽・遊びの社会学	現在、「趣味の多様化」という名のもと、さまざまな情報が氾濫し、人々の余暇に対する主体的な欲求が妨げられています。この授業では余暇が人間生活に与える影響を、「余暇・遊び・娯楽の社会学的諸研究」と、「戦後余暇・レジャー産業の軌跡とその消費生活動向」という両側面から考え、主体的・創造的な余暇像を探り、理解することを目標とします。	
	臨床心理学演習	普段経験することが困難なカウンセリングを小集団のワークショップ形式の演習により体験する。参加者は、クライアント、カウンセラー、観察者などの役割を交互に体験し、カウンセリングの基本的理論と技能を習得する。また、心理検査の体験も取り入れたいと考えている。	
	キャリア発達の心理学	「キャリア」という言葉からイメージされる職業生活を中心に、人間の一生の変化とその適応という広い意味での生涯発達の視点から今日のキャリア発達の問題点と課題を探る。また、職場マネジメントやメンタルヘルスなどの問題との関連も取り上げる。	
	認知心理学実験	認知心理学は、実験を用いて、外面には現れにくいヒトの内的過程（認知過程といえます）を探る研究分野です。この講義では、認知心理学の代表的な実験例を実際に受講生のみなさんと実施しながら、人間の認知のしくみを調べるにはどのような実験を行ったらよいかについて一緒に考えていきます。主に「視覚」「注意」「記憶」「心的イメージ」といったトピックに関する実験を実施する予定です。	
	21世紀の子ども観と教育	21世紀の今、世界の子ども観は大きく変わろうとしている。「大人になるための準備中の存在」から「一人の市民」へ、「教えられ管理される存在」から「意欲的で有能な学び手」へと。その背景にある「発達」研究の転回について概説し、子ども観転換が今日の教育問題の解決にいかなる意義を持っているかをともに考える。	
	社会心理学入門	対人認知、コミュニケーション、個人と集団といった社会心理学の基礎的な内容について、できるだけ授業に実験等を取り入れながら解説する。	
	学校と学習の未来学	学校の役割が社会の変化に沿って変わろうとしている。知識伝達型の学校から、思考力や自己学習力重視の学校への転換といわれたりする。これまでの学校や学習の意義と問題点を振り返りながら、20世紀型学校の限界を乗り越える、新しい学習の理論、学校改革論を紹介する。その中から、未来志向の「学び」の方法や、それをふまえた学校のイメージを構築したい。	
	心理学概論：経験と行動の科学	心理学は心の働きを「科学的」に理解する学問です。具体的には、データを収集しながら理論を構築したり、仮説的に提案された見解を実証的なデータによって検証したりします。このような手法は、人間の現実を深く追求しようとするなかで発展してきました。この科目を学ぶことによって、これまでは自明であったことから、何か新しい発見が出来るように思います。	
発達障害と特別支援教育	この授業では、高機能自閉症やアスペルガー症候群を含む自閉症スペクトラム障害を中心に、注意欠陥多動性障害(ADHD)、学習障害(LD)などの発達障害について、生物-心理-社会(Bio-Psycho-Social)の統合モデルから把握し、それらの概念と問題点、教育的支援、心理学的支援などについて概説するとともに、発達障害児への特別支援教育の動向と課題について講義する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	臨床心理学の実践	この授業では心理臨床のさまざまな活動（アセスメント、援助・支援）の実際を学びます。第1日目は精神分析的な心理療法の治療機序と実際の面接がどのように進められ、クライアントがどのように成長するのかを講師の提示する事例より理解します。第2日目はクライアントを理解する技法としての心理検査をいくつかとり上げ、コラージュ技法の体験実習をおこないます。	
	教育と人間	特に幼児期から思春期までの人間の発達と、それに則する教育のあり方を中心に考察する。家庭、幼稚園、学校等における遊び、しつけ、授業、カウンセリング等に関わる様々な教育のあり方について、「人間形成・人格形成」という視点から考察する。いじめ、非行、不登校等の「心」の問題、また「学力形成」の問題を、「人間形成・人格形成」の視点から一貫して考察していく。	
	コミュニケーションの心理学	コミュニケーションをメインテーマに設定し、特に感情に焦点を当てて、心理学的研究の紹介と解説を行う。コミュニケーションの定義、言語と非言語、表情の役割、コミュニケーションの普遍性と文化差、集団におけるコミュニケーションの特徴などのサブテーマを取り上げて、感情が人間のコミュニケーションにおいてどのような役割を果たしているかについて考えるための材料を提供する。	
	臨床心理学入門	この授業では、心理面接の基本について学びます。心理面接で相手を共感的に理解するためには、相手に対しては、自分の中における感情や感覚に気がつく必要があります。授業では、講義のみでなくロールプレイやグループ討議等の実習を行い、自己理解/他者理解を深めたいと思います。そして、「人の話を聴く」「共感的理解」とは、どのようなことなのかを、体験的に理解してください。	
	教育課程及び方法	教育課程とは、「学校による子どもの人格形成設計ないしは子どもの人格と学力の統一的発達のプログラム」であり、教育研究にとって欠くことのできない、重要な問題の一つである。この授業では、日本の学校教育の性格、入学試験制度との関係、学力論、授業論等に留意し、教育課程のあり方を検討していくことを目的としている。また、必要な限りにおいて教育の方法に関する問題にも言及する。	
	重い障害がある人への教育的対応	今後の特別支援学校の在り方を考えていく上で、重い障害があるといわれる人との係わり合いに関する実践的見識の蓄積・向上は重要な課題であると考えます。本講座では、重度・重複障害、重症心身障害、超重症児といわれる人との教育的係わり合いの糸口とその展開について、映像資料を用いて、具体的・実践的に検討します。また、係わり合いの“あしば”となる考え方についても検討します。“障害カテゴリー”によることなく、障害状況にある人との係わり合いのあり方を考えてみたいと思います。	
	感情と思考の社会心理学	私たちの「こころ」には、決まった形で現れる「クセ」があります。この授業では、主に感情と思考の関わるクセについて学びます。私たちが楽しいとき/嬉しいとき、どのように行動する傾向があるのか、あいまいな場面では何を手がかりに考えやすいのか、など、いくつかのトピックをとりあげます。簡単な実習をまじえつつ、心理学の理解を深めていきたいと思っています。	
	実験・検査から学ぶ心理学	現代心理学は実験や検査をもとに客観的に人間を理解しようとする学問分野です。この科目では、心理学の歴史から始まって、研究方法、パーソナリティの心理学（心理テスト実施）、ゲシュタルト心理学（実験実施）、精神分析学、発達の基礎理論、異文化コミュニケーションと言語、社会心理学（パーソナルスペース、権威への服従）、世界のテレビコマーシャルから文化を考える（ビデオ教材使用）というテーマで、受講生の方々と一緒に考えていきます。	
	臨床心理学1 - 自己の探求	「臨床心理学実習」としてこれまで行ってきた内容を、「自己の探求」に焦点を絞り、ワークショップ形式で学習します。受講生は二人組みのロールプレイ、TEG、描画、箱庭、グループディスカッションなどを通じて自己理解を深めると同時に、臨床心理学の専門性についても学びます。	
	臨床心理実習 A	臨床心理学は実践の学であることから、心理アセスメントと心理療法の基本について、実習を通して学ぶこととする。	
	臨床心理実習B	臨床心理学は実践の学であることから、心理アセスメントと心理療法の基本について、実習を通して学ぶこととする。	
	実験社会心理学実習	この実習の目的は、社会心理学の実験及び実習を通じて、社会における人間の行動や認知の法則性を科学的に理解する力を養うことです。その際、必要に応じて講義を行うことにより、社会心理学がこれまで蓄積してきた知識を伝えながら行います。社会心理学についての理解を深める為に、受講生には実際に社会心理学の実験などに参加していただきます。	
	心理学実験	・実験で用いる変数と操作、及び実験という手法の長所・短所・データのまとめ方と考察、レポートの構成・実験者効果と観察反応、実験者の倫理・推測統計を用いた分析など、心理学実験の概要について説明しながら、実際に・被験者内変数を用いた実験実習（ミューラー・リエル錯視）・被験者間変数を用いた実験実習（学習の転移）の実習を通じて実施上の留意点・問題点を考察します。	
	臨床心理実習 C	臨床心理学は実践の学であることから、心理アセスメントと心理療法の基本について、実習を通して学ぶこととする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	教育心理学実習	【第1日目】1. 教育心理学研究法の概観 2. GATB（職業適性検査の実施） 3. 質問紙調査法の説明（宿題）質問紙調査の作成（改行）【第2日目】1. 行動観察法の説明と実施（2人1組で一致度を求める） 2. パウムテストの実施（宿題）パウムテストの事例の解釈練習 質問紙調査に答える【第3日目】1. パウムテストの解釈の検討 2. 質問紙調査のデータの処理についての説明	
	生涯学習と社会参加	配布物、および参考書『生涯学習と自己実現』をもとにしながら、生涯学習の理念、生涯学習の政策動向、生涯発達論、成人学習の援助論（アンドラゴジー）、学習する組織論などの基本概念を押さえた上で、生涯学習の成果を地域社会に活かすことについて、理論と実践の両面から考える。なお、授業では講義だけでなく参加者同士のグループワークを取り入れる。	
	生涯学習と自己実現	生涯学習（社会教育・生涯教育・成人教育）の基本概念について確認し、大人の学びをめぐる基礎理論（アンドラゴジー、ポスト・アンドラゴジー、学習する組織論、省察的実践論など）を明らかにすると同時に、学習の成果を地域で活用する社会参加の学びについて、学校支援地域本部構想など具体例をあげながら考える。	
	子どもの理解と心理療法	子どもは発達途上の未熟な存在ではなく、独自のリアリティーやファンタジーを生きる存在と言える。この授業では、心理療法の理論および実際に臨床場面で出会った子どもとの体験をとおして子どもの内的世界の理解と関わり方について考察する。	
	非行臨床から見た少年問題	インターネットの普及など青少年を取り巻く社会環境の変化や少年非行の推移に触れながら、近年の青少年に見られる特徴的問題として、万引きや乗り物等などの盗み、女子の援助交際や男子の痴漢・盗撮などの性非行、さらには家庭内暴力などを取り上げ、非行等の問題行動の心理的背景やメカニズムを理解するとともに、非行臨床の視点からその援助や対応のあり方について学習する。	
	教育現場における教育工学	本授業科目は、内容をどうプレゼンテーションしたらいいか、どのように内容を構成したらいいか、どう質問したらいいか、どう評価したらいいか、という全体を構成し全体をまとめるというデザインについて、解説します。その方法論は、インストラクショナルデザインと呼ばれますが、その方法について、実際のデモなども見せながら講義します。	
	食育と環境	日本の急速な近代化により生活が洋風化した。それに伴って様々な健康上の問題が起こってきた。食文化の発展、食環境の変化は寿命の延長ばかりでなく生活習慣病など健康に弊害を及ぼしている。食育は知育、徳育、体育の基礎である。健全な成長・発達と生涯にわたって健康を保持・増進するために食育の重要性を認識し、食育と食環境について広く学ぶ。	
	子どもの育ちと親の育ち	従来の発達心理学において、親は、子どもを育てる人・子どもを育てる人的環境と捉えられてきた。しかしながら、生涯発達心理学の観点に立つと、親となることも成人の発達課題と位置づけられる。親は子どもの誕生をどのように受け止めるのか、子どもの育ちを支えつつ、子どもの育ちに支えられて親となっていく親子の相互作用過程などについて考える。	
	途上国の高等教育	欧米の大学（高校）については、留学経験者などから多くの情報が得られるが、途上国の大学（高校）についての情報は少ない。日本の労働力不足、産業の海外進出などから、途上国で高学歴を得た人との関わりは今後、多方面で重要になる。途上国での教育体制、その内容、それをもたらす背景などについて高等教育協力に従事した経験を基に講ずる。具体例として、タイ、インドネシア、フィリピン、メキシコの実情を紹介し、その特徴を日本や欧米と比較して論ずる。	複数教員共同担当
	英文で読む心理学	H. Gardner たちが書いた大人と子どもの創造性についての論文を読んでみましょう。事前にコピーをお送りしますので、できる範囲で予習をしておいて下さい。ただ、完全に読めないからと、授業に出席することさえ諦めてしまう必要はありません。授業では、グループを作り、各グループで力を合わせて、内容を「解読」して見ることにしましょう。この授業は、あくまで心理学を学ぶことを主眼とするもので、英語の授業ではありません。	
	学校と地域社会の連携	学校と地域社会の連携が今日問われるのはなぜでしょうか。講義の前半では、日本が近代化する過程で学校教育の役割と地域社会との関係がどのように変化してきたかを概観し、現代の子どもの育ちをめぐる両者が連携する必要について考えます。後半では、学校と地域社会の具体的な関わりについて、「学社融合」の試みやPTAの役割、学校を核とした地域社会の再編など、事例を取り上げながら学校と地域社会が連携する可能性を探ります。	
	子供と若者の世界	子どもと若者の世界の深層で、いま何が起きているのか。大人はそれを理解しかねています。理解するにはどのような視点を設定したらいいのでしょうか。それを考えるために、興味深いトピックを選び、より大きな文脈のなかに位置づけながら、掘り下げて講義します。例えば、子どもの親子関係、遊び仲間、子どもと学級集団、子どもとメディア、子どもと自然、青年期と学校文化、若者文化などがテーマとなります。学習に必要な資料・参考文献および授業の進め方については開講時に指示します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	基礎心理学実験実習	手作業やパソコン実験ソフトによる基礎心理学実験 - 大脳半球機能左右差の実験、ストループテスト、心的回転の実験など - を行い、実験データの収集、統計的分析方法などを学びます。実験結果をグループごとに話し合ってから発表し、レポートにまとめます。パソコンの簡単な基礎操作ができることが望ましいです。	
	学習障害児の才能を活かす教育	アメリカでは、発達障害のある児童生徒の教育において、障害のみを捉えるのではなく、才能も見出して活用し、それにより障害を補償しながら学力や自己肯定感を高めようとする取り組みが行われている。日本においても、2007年度から発達障害をもつ子どもたちも特別支援教育の対象となり、現在、実施の第二段階として、質的充実が求められている。そこで、学習障害児をメインとして、発達障害児や学習につまずく生徒がもつ優れた才能に注目をし、個々人の能力を最大限に伸ばさせ、自己肯定感を促すような教育のあり方を考える。	
	現代の子供と若者	「人生（生き方）の選択とその多様化を考える」現代日本は、戦後の復興、高度経済成長期、及び、バブル期を経て、21世紀となった今、たいていの人は、衣食住に事欠かない、経済的、及び物質的には豊かな国の一つとなりました。しかし、20世紀末から21世紀への過渡期においては、たとえば、「労働」ひとつをとってみても、日本企業に固有の年功序列型・終身雇用制度は徐々に崩れ始め、若者の間では、「ニート」や「フリーター」といった、一種のあらたな階層が生じるなど、旧価値観と新価値観とがせめぎあっています。翻って、「教育」、とりわけ「子供と若者」という地平に降り立って、この「旧価値観と新価値観のせめぎあい」について思考を深めてみると、紙面をにぎわせている現代日本の子供と若者にまつわる諸問題の解決への手がかりを見出せないでしょうか？この授業では、こうしたささやかな期待を持ちつつ、その手がかりとして、エリクソン理論や神谷美恵子の「生きがい論」、鷲田清一の「仕事論」、公教育とオルタナティブ教育（フリー・スクール）、フランスの自由教育（フレネ教育）他、各種エッセイや論文を用いながら、適宜、現代日本の「子供と若者」に関わる諸問題に立ち返ると同時に、参加者ご自身の人生の振り返り作業も試みることで、もっと大きな枠組みでの「教育」、すなわち「人生（生き方）選択とその多様化を援助する行為としての教育」の可能性について、皆さんと考えてみたいと思います。	
	子どもの学力・大人の智恵	子どもの学力や格差の問題が深刻に議論されています。でもそれは子どもだけの問題ではありません。大人の智恵も同じように危機に瀕しています。成人の学習である生涯学習も、昨今それほど話題になりませんが、今なお重要なテーマであることは確かです。この講義では、子どもの学力と大人の智恵という二つの対象に焦点をあて、直面している問題を考えます。	
	心理臨床の実際	人が生きる途上、さまざまな困難に直面します。心理臨床とは、困難を抱えたクライアントとその重荷を共に担う職務です。心理臨床の実際を紹介し、受講生の皆さんと人生について思い巡らせたいと期待しています。	
	教育の社会的基礎	社会現象としての教育の本質的な機能について、教育社会学の諸理論を中心に概説する。とくに急激に変動しつつある現代日本社会の教育の特質について、具体的な事例を手掛かりに考察することをとおして、学習社会の教育を展望する。	
	日常生活の中の社会心理学	心理学の知識は、先人たちが積み重ねてきたユニークな実証研究によって成立している。特に社会心理学の場合、日常生活の中で誰もが遭遇する出来事を（改行）研究という俎上にのせるため、様々な工夫がなされてきた。本授業では、そのような研究をなるべく具体的に紹介しながら、何気ない出来事の背景にある人間行動の常識・非常識について考えていきたい。また、身近な問題を科学的に探求することの面白さも共有したいと考えている。	
	教育の生活記録と同時代史	参加者各人が、主に学校におけるご自身の生活経験を生活記録として書き上げて、順に発表し、講師が教育の同時代史（戦前、戦後、現代）の視点から事実確認やコメントをする。その後、参加者相互で意見交換をしよう。各人は、他の参加者の意見を受け、彼らの経験と関連付けながら、最終レポートをまとめる。参加者の年齢層が異なれば異なるほど、ほぼ戦前・戦後・現在を網羅することになる。主体的な参加と相互の議論が可能なる方に履修を限定したい。	
	心理学	この講義では、無意識の作用を重視する臨床心理学的な視点から考察を進めたい。無意識の現象、夢の意味と機能、防衛機制、適応規制、心の病理、さらに社会的引きこもりなどについても、取り上げていきたい。積極的な講義への参加を望みたい。心理学は、人間の心を研究する科学である。心理学者の理論アプローチはさまざまであるが、ここでは臨床心理学の立場から講義を行いたい。臨床心理学は、心の問題を持つ人にどのように治療的にかかわるのか、という実際的な要請から生まれてきた。生き生きとした心の諸相に迫ってみたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	子供発達を支える人間関係	子育てをするのは母親だけである、という考えは偏見です。ヒトの子供は、タテ（親子）やヨコ（仲間）やナナメ（教師など親以外の大人）の人間関係のなかで、周囲の人々に身体化された、言語や言語以外の振る舞いや感情、つまり文化を意識的、無意識的に模倣しながら、成長し、社会化されていきます。「育つ」ことも「育てる」ことも難しい現代社会では、その関係システムが、うまく機能しないのでしょうか。なぜか。そのことを考えるための基礎的な事実や理論を学ぶことを目標とします。参考文献および実際の授業の進め方等については開講時に指示します。	
	親と子供のものづくり講座	ものづくりは単なる手先ヲ器用にするのではない。出来上がりを想像し、そのための材料を集め、道具を用意し、実際に工作をし、出来上がったものの機能を確認し、場合によっては失敗の原因を突き止め、再チャレンジするプロセス全体を包括する事柄である。これらは自らの能力や条件を見つめ、未来を切り開くという一般的な態度にも通じるものである。小学校段階の児童にとっては、仲間、先生、そして家族とのコミュニケーションを前提にしているし、その関係を深める事柄でもある。これらに関し、現状を分析し、実践するためにも考えたい。幼児を持つ両親の参加を歓迎する。	
	理科教育の変遷と現状・課題	戦後これまで数回にわたって改訂された学習指導要領及びその解説書の内容に基づいて、我が国の理科教育に関して歴史的な比較を中心にその変遷について述べる。理科教育の現状に関しては、教育課程実施状況調査・全国学力学習状況調査などの実証的なデータに基づいて述べ、課題を明らかにする。また、OECD-PISA調査とIEA-TIMSS調査の結果に基づいて、諸外国との比較の観点から我が国の理科教育の課題を明らかにする。その他、生徒の成績と学習環境や学習態度などの学習諸条件との関連についても述べる。	
	新しい時代の学力と授業の方法	1995年の国際数学・理科調査で、日本の中2の学力は世界3位だったが、教科書の暗記中心で、受験期間だけ潜伏する「東アジア病気の学力」だと噂された。これを転機にOECDが2000年から始めた学力調査は、義務教育終了の15歳がどれだけ現実社会の問題を考えられるかという「社会参加の能力」を見る。その調査内容を吟味しつつ、読解力15位などの実態から「学力の転換」を図ろうとする日本の教育現状を展望する。	
	臨床心理学実習	心理臨床におけるアセスメントと治療について、コラージュを用いて学びます。アメリカで開発された「マガジン・フォト・コラージュ」と、講師自身が現場で取り組んでいる方法を実習しながら、臨床心理学の理解を深めていきます。全員参加型の授業展開をします。8コマ順を追って積み上げることで、ひとつのことが見えてくるため、1コマでも出席できない方はご遠慮願います。積極的な授業参加を望みます。	
	学び合いの生涯学習	現在、日本は生涯学習社会の構築を目指しています。しかし、人々の学びは多様でイメージしにくい、社会教育と生涯学習の違いがわかりにくいとの声も聞かれます。本授業では、互いの体験を共有しながら、理論編として生涯学習推進のきっかけや背景となる考え方をいくつか取り上げ、自分自身の学びの意味を考えたいと思います。参加者間で楽しく学び合うことを目指し、授業の一部はワークショップ形式で進める予定です。	
	心理実験 1	客観的な手続きで心のはたらきを調べるためには、心理学実験の方法について知ることが不可欠です。この授業はいくつかの心理学実験を実際に行う実習です。錯視量の測定、イメージの心的回転、記憶の系列位置効果、知覚-運動学習の転移、集中学習と分散学習といった実験を実験者と参加者の両方の立場から行い、レポートを作成します。データ整理の方法や書式の規則等についても解説します。	
	心理実験 2	この授業は「心理実験 1」等の基礎的な心理学実験の既習者を対象として、より進んだ内容の心理学実験の実習を行うものです。視覚探索、オペラント条件づけ、記憶の順向性干渉、個人空間の測定、対人印象の形成等の実験を行い、データをまとめ、文献を参照してレポートを作成します。より深い理解のためには心理学の基礎的な実験実習、心理学概論その他の講義、初歩的な統計学の講義を受講しておくことを推奨しますが、これらが未習でも受講は可能です。	
	脳と心 - 生理心理学の基礎と応用	人間のこころの営みは脳が紡ぎだしています。ところが、脳は医学・生理学分野で、こころは心理学で、それぞれ異なる学問領域で研究されてきました。この講義では、こうした2つの学問領域が重なる部分（生理心理学）、すなわち、脳のある部位の働きがどのようなこころの状態と関連するのかについて、近年の研究成果を通して理解することを目指します。前半は、生理心理学の基礎的内容を、後半はその応用について解説します。	
	心理学実験 1（基礎実験）	心理学の知見は、その多くが実験的な方法を用いて見出されてきました。本講義は、心理学実験を初めて経験する人を対象とした実習形式の授業です。心理学実験のなかで、錯視、知覚-運動学習、イメージの競合、記憶などの基礎的な実験を学習します。グループに分かれて実験を実施し、データを分析し、レポートにまとめるという一連の作業を通して、「実験計画法」について理解を深めることも目的としています。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (心理と教育)	心理学実験2B(認知心理学)	様々な心理現象について基礎的な心理学実験を行い、人間の内面や行動の法則性について学ぶ。具体的なテーマ例として、どうすれば憶えられるか(記憶術)、物の形をどこまで正確にとらえられるか(錯視)、個性の違いをどう見分けるか(性格)、他人の行動にどこまで影響されるか(集団心理)など。授業では、小グループに分かれ、これらのテーマについて、グループ単位で実験を計画して実施し、その結果を全体で発表し合う。	
	学校教育の認知発達心理学	この講義では発達・成長という現象について吟味した上で、学校教育との関連で、子どもたちが学校教育によってどのような発達を遂げていくのか、そのプロセスとメカニズムについて認知発達理論に基づいて考えていく。また、その過程で現在の子どもたちの発達上の問題点を明らかにし、それを解決するための方法について実例を挙げながら提案していく。	
	思春期臨床心理学実習	子どもの心理療法場面においては、箱庭療法、描画などイメージによる表現の場を提供し、このイメージを扱っていくことで心の発達のプロセスを促進することができる。本授業では、箱庭療法の学習、および風景構成法や相互的スクイグル物語作成法などの実習を通して思春期の心の発達を支援する基本姿勢を身につける。また、これらの技法を用いた事例により思春期をめぐる情緒的発達及び心理療法の基礎的理解を目指す。	
	医療現場における臨床心理学	総合病院等の医療現場における心理臨床活動に必要な知識と技術を習得することを目的とする。コミュニケーション・スキル、基本的な精神医学・心身医学の知識、うつと不安の問題をもつ患者への対応、緩和ケアにおける心理士の役割、医療スタッフのメンタルヘルス等について紹介する予定である。	
	カウンセリング入門	授業の前半はカウンセリング(心理療法)に必要と思われる臨床心理学の基本的な知識の講義、後半は「グロリアと3人のセラピスト」のビデオ鑑賞、グループディスカッション、ロールプレイによるカウンセリングの模擬体験を予定している。授業、グループワークを通して、カウンセリングや対人関係のあり方について、さらに自己の理解を深める一助にして頂きたい。	
	少年非行の社会学	現代の少年非行を社会学の視点から考察する。(1) 非行原因の社会学理論これまでの非行原因はどのように考えられてきたか。(2) 非行現象論現代の非行にはどのような特徴が見られるか。(3) 少年非行の社会的背景家族や学校など少年の主要な生活の場にはどのような問題があるのか。	
	心理学と人の心	「人の心の理解」は古代から多くの人々の関心を惹いてきた。「心理学」の分野は広く多岐に亘っているが、基礎的な心理学の分野の中から「心の所在」「心の発達」「社会と心」「心の病」の5つのテーマに焦点をあてて、「人の心」について理解を深めていきたい。それぞれのテーマ毎にグループディスカッション、レポートの実施を予定している。	
	心理学的援助技術概論	心理学的援助を行う現場の実際に基づいて、心理学的援助とはどういうものかを概説する。また、様々な様態を示す様々なクライアント(来訪者)を如何に受け止め・理解し・対応すべきかを考えながら、主に心理療法を紹介する。その中で、保健・医療・福祉・教育等各分野の連携を如何に図るべきを考え、あわせて広く人間学や脳科学にも触れたい。	
	強迫性障害概論	強迫性障害とは何かを概説する。主に心理学的アプローチと脳科学的なアプローチを試みる。また、強迫スペクトラム障害という捕らえ方を紹介し、臨床心理面接(カウンセリングも含めて)における強迫性障害の症状軽減への援助方法を考える。提供する資料を基に講義を進めて行く。	
	心理学実験1	Iでは知覚・認知的課題を2題、IIでは学習・記憶の課題を2題、IIIでは質問紙・尺度構成の話題を中心データ解析を行う予定です。	
	心理学史	心理学は「心」を科学的に研究する学問です。目に見えない「心」がどのように注目され、どのように科学の俎上に載るようになったかを、心理学以前から丹念に説き起こします。(改行) 目に見えない「他者の心」になぜ関心を持ったのか。素朴な関心対象がどのように体系的に考えられたのか。それがどのように科学的体系を必要としたのかについて、ダイナミックな流れの中で紹介したいと思います。	
	人格の統合過程、その2	人は、生まれた環境に適応するために、一体となって外界に当たれるように自らを整えていく必要があります。人の精神発達は、統一のとれた人格へと向かう過程であるといえます。精神的な発達に伴い、心の動きの様々な側面で「私」が意識されるようになりますが、それは様々な悩みの始まりでもあります。ここでは、統合への歩みを滞らせる悩みについて検討しようと思います。	
	教育と文化	教育とは何か。この問題について、近年注目されている「教育における文化主義」を手がかりにして考えてみたい。人の心を形成し制御するという文化の機能を重視する文化主義は、人々を単なる認知主体ではなく、文化的な行為主体として捉え直し、養育、発達、教育および自己形成に関して新たな見解と手法を提示している。特に物語的知性や構成主義への注目とそれらを生かした教育的手法は、学力問題の面からも無視できない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	学びのデザインと地域学	学校における教育—学習とは違った、新しい学びの形が現れてきている。教育方法やメディアが異なるだけでなく、多様な学習者が協働したり、地域の自然・文化・歴史を手がかりに町づくりをするなど、学びの基本的なデザインが違ってきているのである。面接授業では、新たな学びのデザインを生み出した要素や背景を探るとともに、例えば自分史づくりや地域ボランティアなど、受講者自身の新たな学びにもつながる活動を紹介していく。	
	近代日本教育史	この授業は、日本の近代化が始まった1860年代から、それがアジア太平洋戦争での敗戦という帰結にいたる1940年代までの時期における近代教育制度の歴史を（１）摸索期、（２）発足期、（３）確立期、（４）展開期、（５）戦時期、（６）戦後改革期の6つに区分して概観しようとするものである。	
	臨床心理面接初歩	臨床心理士の仕事は主に心理検査と心理療法である。このうちの心理療法について概説する。心理療法の基本的な考え方、種類、歴史、最近の動向などにふれた後、実際の症例を紹介し、それらについて解説する。またグループに分かれてロールプレイで、心理療法の基本である、受容、共感、傾聴などを踏まえて、実際の面接のやり方を全員で練習する。なお、時間があれば、心理検査についても解説を加えたい。	
	子どもの発達と家族関係	幼児期、児童期の子どもたちの心理的発達はどうに進んでいくのか。発達初期の愛着が、後の発達にどのように影響するのか。社会的参照、あるいは心の理論とは何か。情緒の発達や、キレる現象は発達心理学的にどのようにとらえるべきか。いわゆる9歳の壁とはどのようなものか。子どもの発達に、母親のあり方は、また、父親の存在はどのような影響を与えるのか。このような発達のな問題について、関係性の視点から考えてみたいと思います。	
	人の記憶過程とその基礎実験	人の記憶過程の概要について講じるとともに、記憶に関する基礎的な実験を数回実施します。講義においてはパワーポイントを使用し、視覚的にわかりやすく話す予定です。また、実験に際しては、グループに分かれて頂くとともに、パソコンを利用することも考えています。参考文献は指定しませんが、記憶心理学にかかわる文献が多数出版されていますので、いずれかを一読されることを勧めます。	
	カウンセリングの理論と実際	カウンセリングは個人のもつ悩みや問題を解決するため心理学の立場から協力し、助言をあたえることです。本講義では、カウンセリングのねらいや進め方、実際の展開について、精神分析的療法や分析心理学（ユング派）の理論と技法を中心に学んでいきます。また、生きたカウンセリング学習を行うため、グループワークなどを積極的に取り入れます。	
	心理学実験(PCを使って)2	パソコン上での、心理学実験を4種行います。それらは、速度見越し検査、大きさの錯視、概念学習および系位置効果です。あくまでパソコンを使って実験を行うというだけです。パソコンの操作があまり得意でなくても、差し支えありません。実験を行うたびに結果を整理し、それをレポート形式にまとめていただきます。最後の実験については、まとめたレポートを提出していただきます。全部の実験に参加することが前提です。	
	日常会話の声と身体	日常会話の中で、わたしたちの身体は、発声と並行してさまざまに動く。動きの形、タイミングは、ただ一人の考えで決まっているだけでなく、会話に参加しているものどうしの相互作用によって決まっている。この授業では、さまざまな場面の会話をビデオで見ながら、そこに埋め込まれている、身体動作の驚くべき調整作用を分析し、声と身体との関係を捉え直すことを試みる。	
	心理統計法	心理学・教育学・社会学研究に必要なとされる統計学の基礎的知識について理解し、実際場面において統計的手法を用いた結果の処理ができるようになることを目指します。特に、検定を中心とする統計学の考え方を修得して下さい。講義形式で行いますが、必要に応じて練習問題を解き、その解答例を検討することを含みます。	
	見えにくさとリハビリテーション	見えにくくなってくると日常生活の中でいろいろと不自由なことがおこります。この講義では「見えにくさ」をとりあげ、さまざまな角度からそれを考えてみます。老視や目の病気などから発生するさまざまな見えにくさ、見やすくするための器機やリハビリテーション、見えにくい生活を乗り越えるための特殊な生活技術、視覚障害者の理解、などを心理と教育をベースにお話しします。	
心理臨床と尊厳	私の心理臨床は表現療法ことに、私の開発したMSSM + C法の世界への浸透とあいまって、更に進展してきている。それに加えて、何と仏教の華嚴の国際学会に招かれるに及び、その内的理解が華嚴の宇宙観と和して、広がり、かつ深まった。また、日本の心理臨床のパラダイム変換をなした河合隼雄先生の追悼と、同じく日本の心理臨床に多大な影響を与えたグッゲンビュールクレイグ博士の追悼をかねて、私との関わりについて述べたい。		
臨床イメージとカウンセリング	カウンセリングは、人と人が直接に関わることを通じて、さまざまな心の課題をみつめ合い、より豊かな暮らしと人生の創造へと援助をめざす専門的な人間関係の方法である。この心を使った関わりに必須の内的な現象である臨床イメージに注目しながら、カウンセリングにおける心と人間理解のあり方と意味について考える。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	社会心理学実験	個人と個人との相互作用から対人関係を形成し、その集積としての集団、社会を築いている。この社会的な広がりの基本となるものが、対人コミュニケーションである。伝えたいメッセージを適切に表出し、受け取ることによって適応的な関係を結ぶことができ、それぞれが満足できる。対人コミュニケーションの規則性を理解し、適切に用いることができるための実際的な体験実習を行う。具体的には、対人コミュニケーションのチャンネルの多様性を理解し、表出・解読の実習、社会的スキルの測定、対人コミュニケーションが元来、他者との協調、理解のためになされるものであることを把握し、さらに、小集団場面での問題解決・自己主張などのプログラムを用意する。2人組、小集団での実習を行う。	
	環境心理学	本講義は環境心理学という分野の概要を理解することを目的とする。最初に環境心理学という学問領域の成立過程とその位置づけから解説し、その後は環境心理学が扱う代表的な研究分野の中から、環境認知、空間と人間、自然環境、都市環境、景観と評価、環境とストレスなどの諸問題を具体的なテーマとして取り上げ、解説していきたい。なお、受講生の皆さんにも能動的に授業参加頂けるよう、グループで話し合っ考えるような機会を設ける予定である。	
	基礎心理学実験・実習C	心理学における実験法の基礎的知識と手続きを学ぶことを目的とする。授業はグループによる実習形式を中心に進められる。知覚・思考等に関する心理学的実験課題について、実験計画の考え方、問題設定、独立変数と従属変数、結果の検討の方法等について体験的に学習する。授業時に配布する実習資料や手引きを参考に、概説、実習、データ収集、結果の検討、レポート作成の順序で行う。	
	ホリスティック教育論	自然環境も社会システムも人々の内面も、バラバラに断ち切られてバランスを失い、このままでは持続不可能。国連・ユネスコは、持続可能な未来のために、21世紀の教育ビジョンにはホリスティック(全人的総合的)・アプローチが必須であると述べる。まず、異なる文化や時代における教育のあり方を知り、近代の日本の教育を広い視野から捉え直したうえで、ホリスティックな観点から今後の教育に求められるもの探っていく。	
	基礎心理学実験・実習B	行動の背後にある心の働きを研究するためには、単純にその行動を記録するだけでは不十分です。行動の背後にある心理的過程とどのように関連しているのかを考えて、その関連性を解明するためには行動のどの部分に注目し、どのような方法で測定し、得られたデータをどのように処理すればいいかという方法論の知識がとても重要です。この講義では心理学の基本的実験を体験し、観察・測定される事象からどのような心の働きを調べることができるかを学習して頂きます。	
	高等教育の歴史と今日的課題	今日、我が国では同世代の二人に一人が大学に進学する高等教育の「ユニバーサル段階」を迎えている。高等教育が日本の青年期に「制度化」されていると言っても過言ではない。同時にほぼ全ての志望者が大学に入学できる「大学全入時代」に突入し、大学生の学力低下や大学の倒産の可能性が大きな社会問題となり始めてる。そこで、本講義では、高等教育の基礎的理解と今日的課題の解明をめざして、歴史的、制度的なアプローチを採用し、比較の視座を加えながら、中世から現代までの高等教育の変容の過程を概説する。	
	感情の発達・臨床心理学	感情が我々の生活の中でどのような役割をはたしているのかを再確認したうえで、感情が生起するメカニズム。感情が主観的に体験され、調節され、表出される過程について詳述する。また、乳児期から高齢期までの感情の発達を概観するとともに、それぞれの時期で生じる感情の障害・病理について臨床心理学的考察を行う。	
	社会心理学実験実習	社会心理学の実験について、実習形式で学習する。4～5のテーマについて、受講生が相互に実験者・被験者になって実験を行い、データを集計し、レポートを作成する。社会的認知、ヒューリスティック、心理測定尺度の比較、SD法によるイメージの測定などを取り上げる。	
	消費社会の心理	私たちの生活は、溢れる商品やサービスから取捨選択をし、購買そして消費することなくして、日々の暮らしは成り立たない時代になった。本講義では、受講生自身が大量消費社会で生きる消費者であることを自覚し、自らの消費行動の問題点を把握することを目指す。そのため、消費者の購買行動を心理学の立場から理解する。特に、店舗内の消費者行動やブランドの心理的機能、悪質商法の問題点、消費者の価格判断などのテーマについて講義を進めていく。	
	臨床心理学のおもしろさ	臨床心理学は理論と実践を相補的関係にあるものとして学ばなければなりません。理論的学習と実習とを組み合わせ授業を行います。「臨床心理学の歴史と領域 科学としての臨床心理学について」「深層心理学の見方、考え方 フロイト、ユングほかについて」「心理臨床的関与の方法 精神分析、分析心理学、来談者中心療法など」「出席者同士のミニカウンセリング実習によるカウンセリング技法についての体験的理解」と進めていきます。	
法と心理学	裁判員制度がはじまることになって、誰もが刑事裁判に関与する可能性が出てきました。そうしたなかで被疑者・被告人の自白、目撃者や被害者の供述について、その信用性を判断しなければならぬ場面も予想されます。本講義では自白・目撃等の供述に関する心理学を概説します。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	発達心理学	主として、乳児・幼児・児童の発達の問題に焦点を当てる。発達の概念や、認知、社会性、パーソナリティの発達について理解を深めながら、発達のコースや発達のメカニズムについて考える。また、親子関係等の人間関係と発達との関連について学び、モデリング理論や愛着理論について検討する。さらに軽度発達障害について理解を深めながら、発達と教育の問題を考える。	
	知覚・認知のふしぎ	心理学の歴史において、「知覚」は当初より大変重要な研究テーマであった。外界から感覚器官によって受容した刺激を人間が理解する「知覚」、さらに思考などの高次の働きで受けとめ、解釈する「認知」について、基本的な実験的研究と、身近な知覚・認知の不思議現象を通じて、理解を深める。	
	環境問題の社会学	最初に、環境問題とはどのような問題であるかを考え、また、実際にはどのようにして把握されるのかを論じ、次いで、これまでの代表的な環境問題を検討することで、「環境問題」に関する実質的な認識を得ることとする。その上で、環境問題にはどのような対応が必要となるのかということについて、新しい環境文化をめぐる問題として検討する。	
	人間関係論	人間関係は私たちの生活や心の中で重要な位置を占めています。授業では社会心理学等で得られた知見の説明とともに演習を通じて、身近な対人場面や集団内での行動や現象の学習をすすめます。対人認知や同調、集団内の意思決定について受講者が参加する実験を行い、得られた結果を分析・解釈します。また、コミュニケーションの特徴を見直す体験型エクササイズを通じて、受講者自身の人間関係について理解を深めます。	
	健康心理学入門	健康心理学とは、心身の健康の維持・増進および病気の予防・治療について、心理学的な観点から捉えるものです。講義ではストレスや性格、生活習慣、人間関係等の観点から、心と身体の相互作用について理解を深めます。また実際に質問紙や心理療法の技法に触れる事で、自分の健康増進のための心理学的手法を身につける事を目的とします。	
	現代の教育改革と教育行政	近年の教育改革の動向を教育政策と教育行政の側面から捉えて、その問題と課題を考えてみたい。	
	自尊感情の社会心理学	なぜ自尊感情に注目するのか。自尊感情とはどのように考えられるものなのか。自尊感情はどのようにして形成されるのか。自尊感情はどのような性質を持つのか。自尊感情はどのようにして測定されるのか。自尊感情はいろいろな社会的行動（例えば、セルフ・ハンディ・キャッピング、原因帰属、自己規制など）にどのように関係しているのか。以上のことを中心としてこれまでの研究を紹介するとともに得られたデータの分析結果を提示する。	
	メディアにみる日本の教育	戦後の映画、小説、テレビドラマ、そしてマンガなどには日本の学校や教師の姿が生き生きと描かれてきた。本講義では、このように多様なメディアに描かれてきた教育の姿を、教師像、部活動、受験など日本の教育を特徴付ける事象によって検討する。また、とくに近年のメディアにおける教師や子どもの描かれ方の変化を見ることにより、現代社会で期待される教師や教育のあり方を模索する。	
	先生のいまとむかしとこれから	「先生」と呼ばれる職業は学校教員に限らない。しかし、「先生をしています」と言えば、多くの場合、学校で教えていることを指す。職業としての教師が今日のように大量に養成され始めたのは、それほど古いことではない。当時、先生に何が期待されていたのか、いまはどうなのか、これからはどうなるのだろうか。これらの問いをともに考えながら、教育への理解を深めたい。	
	コミュニケーションの臨床心理学	日常生活におけるストレスの大半は、人間関係にかかわるものと言われる。つまり、日頃のコミュニケーションのとり方が、こころの健康に大きく影響するのである。本講義では、心理療法やカウンセリングといった臨床心理学の視点からコミュニケーションについての心理学的な理解を深め、実践形式の演習を通して、より良い人間関係へのヒントをつかむことを目的とする。	
	心と体の健康と心理学	ストレスや感情、パーソナリティなど心理状態によって心と体の健康は影響を受ける。心理的な要因がどのように心と体の健康に影響を及ぼすのか、基礎から応用的な領域について講義を行う。	
	文学作品から見た麻酔のイメージ	麻酔は、手術と違って「受ける」「する」とか表現せずに「かける」「かけられる」と言う。まるで"魔法"や"催眠術"のような表現である。この理由を文学作品から検討したい。また、全身麻酔と精神鎮静法についても解説し、医師と患者の関係から安全・安心・信頼の医療について検討する。小説の中の人間関係については臨床心理学的な見方を取り入れたい。	
	大学入試をめぐる教育問題	教育問題の中には、入学試験に関わる事柄が要因となっていたり背景に見え隠れすることが少なくありません。本授業では、大学入試をめぐる様々な問題点を取り上げ、受講者とともに考え議論し解決策を探ることによって、入試と教育のあり方についての考えを深めることを目的とします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	心理学実験への招待；実験法	心理学における基礎的かつ古典の実験を自らが体験することによって、実体のない「こころ」を心理学がいかにしてとらえようとしているかを理解する。授業では、最初に心理学実験における手続き、データ収集と整理の方法について概説する。その後、知覚、学習、人格、ならびに社会心理学の各領域における代表的な実験を、受講者自らが実験者・被験者となって実習する。	
	心理療法の理論と技法	心理療法には様々な理論と技法がある。治療論の基礎には人格理論、疾病論があるが、更にその基盤には「人とはどのようなものか」という人間観が存在する。本授業では、種々の治療理論や技法を、その底にある人間観を含めて紹介する。また、臨床心理士をはじめ対人援助職の基本姿勢や資質、倫理について学ぶことを目的とする。	
	ひきこもりの臨床心理学	本邦において社会問題となっているひきこもりについてコミュニティ心理学の観点から講義を行う。受療促進からはじまり、治療、さらに社会復帰に至るまでの一連のプロセスに沿ってひきこもり支援におけるコミュニティ心理学的視点の有効性について講義を行う。	
	非行をとらえる視点	本講義においては、少年非行の現状と背景について理解することを目的とする。特に、少年が非行を起こす時の心理や彼らが立ち直っていくためには何が必要なのか、彼らと関わっていく際の留意点などを、実践的な知見に基づき明らかにしていく。	
	心理学実験入門	心理学における様々な知見は、研究法と呼ばれる手続きに則って得られている。この授業では、研究法の中でも実験法と尺度構成を中心に基礎的な実験課題の実習を行い、実験法に関する基礎的知識の習得をねらいとする。また、この授業で得た知識を活用することで、他の心理学に関する諸授業をより深く理解できるようになることを期待する。	
	子どもの発達と地域での遊び	近年の青少年問題のメカニズムを「子どもの発達」と「地域での遊び」をキーワードに考えてみる。人間が社会的な動物である以上、将来社会を形成する主体として成長することが期待される。しかし、現実には家庭におけるしつけ機能の低下や子どもの集団遊びの減少、地域社会における関わりの希薄化等の要因が絡み合い、青少年問題が発生している。講師のフィールドである「プレーパーク」等を題材にしつつ、子どもの発達と遊びについて考えたい。	
	カウンセリング初歩 2	話を聴くことはカウンセリングの基本なのですが、聴くにあたっては、聴くための知識に加え、聴く自分を理解する事が必要になってきます。面接授業では、1) カウンセリングをすすめていくにあたって参考になるいくつかの考え方を紹介すること、2) 演習を通して自分について考えてみることに、ついて行います。	
	子ども理解と教育実践	教育実践を行う上で、「子ども理解」は大きな一つの要素である。それなくしては、教育実践そのものが成立しなくなると言っても過言ではない。「子ども理解」、「授業」に関わるこれまでの研究成果を踏まえつつ、また近年の教育改革の動向も押さえながら、これからの教育実践のあり方について考えていきます。	
	発達障害と特別支援教育	特別支援教育が展開されていく中で、発達障害についての専門的な知見と能力が教育・心理臨床に携わる者には求められています。本授業では、「特殊教育」から「特別支援教育」への流れに留意しつつ、(1) 発達障害についての基礎的な知識、(2) 特別支援教育の中での専門家の役割、(3) 療育、の3つを中心に進めていきます。	
	家庭教育論	家族は子どもが生まれてきて最初に所属する集団であり、そこでの教育や人間形成は子どもの発達の基礎となって、その後の発達を大きく方向づけます。この講義では、次の2つの問題を資料に基づいて具体的に考えていきます。(1) 家族のなかでの子どもの発達過程 (2) 家族の変貌と子どもの発達を巡る諸問題。	
	生涯学習とキャリアの経済学	教育は社会に影響を与えずにはおかないし、また、逆に社会のあり様は教育を大きく規定するものである。生涯学習（生涯教育）もその例外ではない。本講義では、教育と社会を媒介する様々な諸要因（特に経済社会的な要因）から、生涯学習社会の成立とその背景を検討し、生涯学習社会におけるキャリア形成のあり方を考える。	
	学びとコミュニケーション	学びは本来の性質において、常に他者とのコミュニケーションのなかで起こる。しかし、日常生活ではしばしばそのことが忘れられ、個人の中に閉じたプロセスが学びであると誤解されることも多い。このような誤解は人が本来持つ学びの才能を抑制してしまう。そこで、この授業では学びにおけるコミュニケーションの役割を理論的・実証的に明らかにしていくことを目指す。	
	対話を通じた学びと成長	近年、子どもの学びや発達を考える上で、他者との対話の役割が注目を集めています。そこで、本講義では、(1) 対話を通じてどのような学びが生じるのか？(2) 創造的な学びにつながる対話とはどのようなものか？(3) 創造的な対話を実現する方法とは？などの問いについて、心理学の知見をベースにしながらかと一緒を考えたいと思います。	
	子どもの学びの発達	子どもの学びはどのように発達していくのか、その学びの対象、学びの方法、それに伴う問題解決の仕方の特徴などについて、修学前の幼児期から児童期に至る変化の著しい段階に焦点を充てながら、講義をおこなう。受講生がいきいきと授業に参加できるように、対話を中心としながら授業を展開する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	認知・思考に関する実験実習	私たちの行動や思考の基底にある記憶や認知、情報処理等に関する基礎的な心理学実験の実習を行います。無意味綴りを使った記憶実験、ストループ効果実験、集団問題解決等を題材にして、教示、実施手順、結果の分析、解釈、考察の各段階について学習します。実験は複数で協力して行い、実験者と被験者の両方の役割を体験します。	
	心理学実験（PCを使って） ²	パソコン上での、心理学実験を4種行います。それらは、速度見越し検査、大きさの錯視、概念学習および系位置効果です。あくまでパソコンを使って実験を行うというだけですから、パソコンの操作があまり得意でなくても、差し支えありません。実験を行うたびに結果を整理し、それをレポート形式にまとめていただきます。	
	人間関係の心理臨床学	心理臨床学は、問題を抱えて生きる人に、直接の人間関係を通じて、実践的に心の援助をめざす営みに根ざした学問です。カウンセリングや心理療法と呼ばれる専門的な方法（臨床心理面接法）について実習などにより概説し、心を大切に作る人間関係の在り方を考えます。そこから人間の心について学習し、現代の人間関係と心の諸問題への理解を深めながら、心を使った人間関係の人生における意味をみつめます。	
	愛着の発達心理学	発達におけるアタッチメントの重要性について次のような観点から見ていく。・アタッチメントの理論の基本的枠組み・アタッチメントの個人差・乳幼児期・児童期におけるアタッチメント・青年期・成人期のアタッチメント・文化とアタッチメント・アタッチメントと病理、障害・アタッチメントと臨床領域	
	子どもの発達と発達検査	幼児期の発達を通して、そこで起こる発達の障害や適応上の問題について学習します。今回は広汎性発達障害、多動性障害、言語発達遅滞、チック障害などを取り上げ、障害の示す症状や発達検査の結果を通してその特徴を学んでいきます。また、遠城寺式と津守・稲毛式の発達検査の実施についても演習を通して学習します。	
	メンタルヘルスとサイコセラピー	現代の青少年がどのような悩みをかかえながら、生活を送っているのか、一方で、社会人のかかえる職場内の人間関係。こころの病気は、人間関係の病。そこには、「うつ」「怒り」「依存」「しぼり・しぼられ」などの心理現象がみられます。ここでは、メンタルヘルスの一般論を紹介し、さらに精神疾患に対する基本的なサイコセラピーを説明しますが、人間関係をうまく対処できるようなヒントを一緒に考えてみましょう。	
	心理実験・実習	心理学の研究方法として記述的アプローチ、相関的アプローチ、実験的アプローチ、実践的アプローチがありますが、研究対象についてどのようにしてデータを収集するかについても考えなければなりません。今回の授業ではデータの収集方法と、収集したデータの処理の仕方について学習します。観察法、質問紙法、検査法が中心になりますが、面接法やパーソナルドキュメント法についても考えていこうと思います。	
	こころある精神保健入門	昨今、精神（心）の病について注目されている。本講義では、心の健康とは何か、心の病とは何かについてふれ、具体的に出生から亡くなっていくまでの人生に生じやすい不適應や心の問題、また、学校、家庭、職場で生じやすい不適應や心の問題の特徴とその対応についてを述べ、精神医学的に神経症（ノイローゼ）、心身症、人格障害、精神病の特徴や治療法、さらにその予防についてもふれたい。積極的な御意見と御質問を期待している。	
	発達心理学入門	子どもの認知的・情動的発達を捉える理論的枠組みを整理しながら、子どもの発達のあり様を理解し、その発達を支援する方法について検討を行います。本講義では特に、他者との関係において自己の発達を捉える枠組みを明確にし、「心の理解」「情動のコントロール」「社会系と葛藤解決」「認知の社会的形成」「関係における教授・学習」など個別のテーマごとにこれまでの理論と実践研究を整理しながら理解を深めることを目的とします。	
	集団心理学入門	「集団心理学」の代表的な分野であるグループ・ダイナミックスの視点から「集団」について考えます。グループ・ダイナミックスは、「“集団”との関わりを通して人間を理解する実践社会科学」です。日常の課題から組織の問題まで、あくまで実践に役立つことを大事にしながら、様々な情報を提供します。	
	まちづくりと生涯学習	1960年代の高度経済成長期以降、我が国の地域社会は大きく変貌した。「大都市圏」と「地方圏」の地域間格差は拡大している。生涯教育・学習が地域社会の形成とどのようなかたちで結びついているか、「まちづくり」といった視点からあきらかにする。「地方圏」の中心地域の熊本県の社会的特性を踏まえ、また受講生の皆さんの体験と実践を手がかりにして、地域住民が「まちづくり」に主体的に参加するための条件について考察したい。	
青年臨床心理学	複雑多様化する現代社会を背景に、青年期における問題は深刻化しています。本講義では、学校現場を中心に起きる青年期のさまざまな問題を、不登校、いじめ、非行、ひきこもり、摂食障害、青年期境界例、虐待や犯罪心理などの具体的事実から捉え、その背景や要因を検討します。講義の方法として、事例研究やビデオ視聴をはじめ、クライアントが実際に書いた文章も取り上げ、問題をかかえる青年の内面理解を深めつつ、支援のあり方を解説していきます。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	国家と教育	本講義では、国家と教育の関係について、様々な事例や資料の分析を通して検討を行う。明治初期に我が国で近代学校制度が成立した時に、当時の国家はどのような目的意識で教育政策を立案し、学校教育制度を成立させ、教育課程を策定したのか。一方、現在における学習指導要領に基づく学校教育や教育課程のあり方は、国家とどのような関係があるのか、等の考察を実施する。	
	人間の成長発達と教育2	この講義では、人間の成長発達にとっての教育の本来的意義について、人間の原型とみなされる「子ども」という存在を中心に考えていく。また、子どもの成長発達の基盤と考えられる「家族」の在り方について、アメリカの家族との比較を通して、わが国の家族の特徴について理解する機会を持ちたい。	
	心理学基礎実験	授業では4種の心理学実験を行ないます。それらは、情報伝達実験、触2点閾実験、要求水準、および運動学習におけるフィードバック効果です。4種の実験それぞれで各人は実験者、被験者の両方を体験し、合わせてあらかじめ用意された形式でレポートの作成も行ないます。さらに、最終回の実験については、レポートを提出していただきます。全部の授業への出席と、最終回のレポート提出とを成績判定の根拠とします。	
	子ども・青年の危機と教育改革	学力低下やいじめ、暴力など、いま子ども・青年が深刻な発達上の危機に直面しています。それに対して、いま進められている教育改革は問題解決の方向を示し得ているとはいえません。一体、子ども・青年の危機はなぜ生じているのでしょうか？ かれらが人間らしく成長していけるようにするにはどのような教育のあり方を実現することが求められているのでしょうか？ 教育の本質にさかのぼって考えたいと思います。	
	心理的支援の考え方と実践	家庭、学校、社会で見られるうつ、自殺、ハラスメント、虐待、慢性的の病気などの状態にある人々の心理的支援について、その考え方や実践例を紹介し、理解を深める。次に、演習などによる体験により、支援について習得する。	
	民衆の教育と学校の教育	現在私たちは「学校に行かなければ教育を受けたことにならない」というくらいに教育＝学校を当然視しています。しかし、ほんの120～30年前まで、大半の人は学校に行かなくても立派に一人前の人間になれました。かつての「学校のない社会」と現在の「学校化社会」を比較し、教育の原点を探りたいと思います。	
	教育心理学基礎実験	心理学は、心そのものについて考える学問ではなく、心の表現として人間の行動を指標として心について考える学問である。その研究方法のひとつに実験法がある。ここでは、教育に関する人の反応と学習について、情意実験、学習実験、人格測定、態度測定などの実験や実習を通して明らかにします。	
	シャーマニズムの社会心理学	現代の世相を反映してか、「救い」や「癒し」がよく話題にされるが、歴史的には特別に目新しいことではない。どの民族もどの地域も自分たちの世界観や人間観に即した心身の救済システムを創り上げてきた。その重要な狙い手がシャーマンと一括される土着の宗教的職能者である。講義では、青森県津軽地方の「カミサマ」や沖縄の「ユタ」の生態と機能をスライド、ビデオを供覧して解説する。	
	心の科学と人間関係論	心理学という学問の分野を大きく分ける、心の科学と人間関係論に分けて捉えることができよう。心の科学では、人間の心の共通の機能と行動様式を、科学的な方法論に基づいて知ることが出来る。しかし、知ることによって得た知識では説明できない人間の個性がそこにある。人間関係論では、この個性について、人の発達過程と人間関係の視点から学ぶことが出来る。	
	心理学統計法	この講義では、心理学研究に必要な実験計画法と統計学の基礎を平易に解説する。具体的には、心理学の実験や調査の計画法、得られた結果を記述するための記述統計（平均や分散等）、仮説の妥当性を検定するための検定法の基礎（t検定、分散分析等）を、身につけることを目的としている。本講義の内容は入門的な基礎知識の解説であり、複雑な数学的知識は必要とされない。成績評価は授業への出席状況を重視して行う。	
	心理学入門	人の心の解明を目指す学問として心理学はあります。それでは心理学ではどのようにして心の謎を解いてきたのでしょうか？そして人の心はどのようなものとして説明してきたのでしょうか？心理学は本当に人の心を正しく捉えることをしてきたのでしょうか？そして人の心を解き明かすためにこれから何をすべきなのでしょうか？心理学という学問世界の面白さと難しさを皆さんと一緒に考えます。	
	認知心理学実験実習	この実習では、人間の高次認知機能の仕組みや性質を研究するための認知科学的な技法について学習する。具体的には、選択的注意、脳波と精神活動等の実験実習を予定している。それぞれの実験テーマを理解するためには、人間の様々な認知機能についての基礎知識が必要とされる。そこで、この実習では、それらの知識の解説も行う。成績は出席状況、レポートにより評価する。レベル：大学2年生程度の基礎的な実習 基礎知識：放送授業で認知心理学をあらかじめ履修していることが望ましい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (心理と教育)	脱工業・情報化とグローバル化	1970年代以降、脱工業化と情報化が進み、1990年代以降、経済社会のグローバル化が進んだ。脱工業化とは産業の中心が第二次産業から第三次・四次産業へと移行したことを、情報化とはコンピュータやインターネットなど情報産業の発展を意味している。こうした傾向は、同時に、経済の金融化や投機化を意味している。脱工業化と情報化が、バブルとその破裂を繰り返すグローバル経済のあり方にどう関連しているかを考えたい。	
	乳幼児の行動発達と養育者の役割	乳幼児期の発達を泣き・ぐずり、発声・喃語、注視・注意、指差しなどの具体的行動の変化を通して考え、これらの行動発達と養育者の役割や養育者との関係の発達の文脈で理解する。最後に若者の養育性形成不全の問題を取り上げる。	
	生涯学習をとりまく現代的課題	本講義では、急激に変容する現代社会の状況下において、日常的に地域課題・生活課題が多種多様に存在します。その課題を追求し自ら学習していくことで、自己のアイデンティを保持し、自己実現することが可能になります。生涯学習の基礎的な内容から学習成果の活用まで考えます。	
	カウンセリング実習	カウンセリングとは、コミュニケーションをとおして相手の悩みや問題の解決を促していく特殊な人間関係であり、教育や医療、福祉などの対人援助の場で活用されています。本講では、様々な実習をとおしてカウンセリングの基本的な援助観や必要な態度、会話の進め方を理解することを目標とします。	
	心理学基礎実験(M)	心理現象の理解のために必要な基礎的な心理実験、心理検査法について実習を行います。取り上げる予定の実習メニューは、錯視や記憶に関する実験、言語や思考に関する実験、要求や期待に関する実験などです。実験者と被験者の両方の役割を体験することにより実験手続きの教示の仕方、観察とデータ収集のやり方、データ分析と解釈の仕方などを学習していきます。	
	心理学基礎実験(N)	心理現象の理解のために必要な基礎的な心理実験、心理検査法について実習を行います。取り上げる予定の実習メニューは、錯視や記憶に関する実験、言語や思考に関する実験、要求や期待に関する実験などです。実験者と被験者の両方の役割を体験することにより、実験手続きの教示の仕方、観察とデータ収集のやり方、データ分析と解釈の仕方などを学習していきます。	
	心理検査法実習(M)	この授業では、心理検査とはどんなものか、その作成過程や実施、解釈の方法等を理解することを目的とします。「血液型性格判断」など、あやしい「心理検査」が流布していますが、この授業は、受講生が互いに検査者・被験者となって本物の心理検査を体験し、自分のプロフィールを描いてみるよい機会になると思います。パーソナリティーや動機づけ、価値観、主観的幸福感などについて、検討してみましょう。	
	心理検査法実習(N)	この授業では、心理検査とはどんなものか、その作成過程や実施、解釈の方法等を理解することを目的とします。「血液型性格判断」など、あやしい「心理検査」が流布していますが、この授業は、受講生が互いに検査者・被験者となって本物の心理検査を体験し、自分のプロフィールを描いてみるよい機会になると思います。パーソナリティーや動機づけ、価値観、主観的幸福感などについて、検討してみましょう。	
	臨床心理学の基礎	臨床心理学には、いくつかの人格理論・発達理論を基礎としています。その理論に基づく心理療法、心理アセスメントの基本的な考え方について学びます。これを基礎とするいくつかの具体的な技法とアセスメントについて学び、さまざまな心理的問題への適用の実際を学びます。	
	子供の発達と教育	教育心理学では、子供の内発的動機づけの重要性が強調されるものの、実際には“ほめて育てよう”といった外発的動機づけによる子育てと教育が一般的である。この講義では、それに替わるアプローチと関係性のあり方を、アドラー心理学ないしは親学習プログラムSTEPの視点から提示し、あらためて21世紀における子育てと教育の民主的な方向性を情報提供する。	
	学校カウンセリング	本授業は、学校や子どもたちの問題の解決のために、カウンセリング理論や技術をどのように生かしていくかを目的とする。前半は、いくつかの基本的なカウンセリング理論や技術について演習を交えながら学ぶ。後半は、不登校、学級崩壊、いじめ、子ども虐待、発達障害など子どもに係わる問題、さらに教師と児童・生徒の関係や教師と保護者の関係、教師のメンタルヘルスについてカウンセリングの知見をもとに検討する。	
特別支援教育	2007年度より特別支援教育が本格的に実施となりましたが、その背景には障害者の権利保障や障害観の変化など様々な要因が絡んでいます。そこで、特別支援教育に至るまでの背景、障害児教育の歴史について学びます。あわせて、障害児教育に携わった人々の思想や教育観について言及します。そして、今日の国際的な動向であるインクルージョン教育の理念について、ディベートも入れ自分たちで今後の教育の在り方を考えます。また、通常の学校における特別支援教育の進め方について具体的に検討します。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	心理療法入門	心理療法事例（出版物等で公開されたもの）をマテリアルとしながら、主に分析心理学に基づく心理療法の基礎的な考え方を解説し、さらに箱庭療法、遊戯療法、スクールカウンセリング等の実際問題やセラピスト（カウンセラー）-クライアント関係性等までお話しできればと、考えている。充実した受講時間となるよう、事前準備として教科書・参考書の読了を是非お願いしたい。	
	子どもとスポーツ教育	子どもの発育発達の特徴を学ぶことによって、スポーツ活動や運動が子どもの心身に与える様々な影響とけがや病気などを正しく理解する。その上で、発育期のスポーツ教育の在り方について考える。主な内容は、以下の項目である。1. 身体の発育発達の特徴 2. 心理的特徴 3. スポーツ障害（けがや病気） 4. 練習やトレーニングの考え方	
	近代教育思想史	今日の教育に関する諸概念を哲学的に吟味するための基礎として、過去の教育思想に関する基本的な知識を提供します。具体的には、我が国の近代教育思想にも大きな影響を与えた教育思想家たちを取り上げ、その思想の対象と課題を理解すべく、重要箇所の和訳原典を講読します。	
	臨床心理学2 - ストレス対処 -	臨床心理学の見聞を日常生活に応用する対象として、今回はストレスを取り上げます。ストレスの理解（認知行動療法）、査定（心理テスト）、対処（リラクゼーション法）についてワークショップ形式で学習します。また、産業分野での臨床心理学の活用についても考えてみたいと思います。	
	コミュニケーション心理学	人と人との意思疎通の問題としてのコミュニケーションに関して、主に社会心理学・グループダイナミックスの観点からオムニバス形式で学びます。対人コミュニケーションのいくつかの問題とともに、基礎論としての記号論的コミュニケーション論とその展開、および集団意思決定の問題を取り上げます。簡単な実習も行う予定です。	
	実験で学ぶ知覚心理学	心理学のさまざまトピックを、講義と実験で学びます。今年度は知覚心理学に焦点をあて、「見る」「聞く」「触れる」ことで作られる私たちの心理世界を概観します。同時に、心の実験を通じて、科学的なモノの見方、統計技法の初歩も学びます。	
	地域教育と学校	埼玉県における教育の歩みをふまえ、今日的な地域教育の現状と課題について探究する。あわせて他地域の具体的な事例や実践についても紹介したい。ただし、具体的な内容や展開の方法については、履修者の状況やニーズに即して工夫したい。	
	日本の心理学史 - 黎明期の先達	幕末から明治初頭にかけての西欧化にともない、さまざまな現代科学がわが国に受け入れられた。現在社会で最も関心の高い（ブーム現象さえ伺える）といえる「心理学」も、先達たちの手で海外留学にともない学び取られ、わが国へ移入され、定着し、さまざまな形をとって拡大した結果である。そのさいの先達とは誰で、その背景を始め、定着に欠かせない当時の教育制度、さらに学びに当たったの導き手と当時の世界の心理学事情を中心に紹介し、現代心理学のもつ基本性格を紹介する。また、そもそも「心理学」という学名の起源となる語源なども確定していない論点の一つである。加え、その発端の先達の中には、千葉県が生んだ郷土（佐倉藩主・藩士）などが深いかわりを持つ。この点も話題の一つとして言及する。	
	認知心理学実験2	この授業は、認知心理学実験を初めて学ぶ人を対象とした授業です。認知心理学実験の方法と、データをまとめる方法とを学ぶことをめざしています。学生は、被験者として実験に参加し、認知心理学の実験がどのようなものかを体験します。また、実験の結果得られたデータを授業の中で分析し、レポートにまとめていきます。授業では、実験に関連する研究の紹介や、実験の手法や結果の分析方法の解説に加え、レポートの書き方についても指導します。	
	心理学研究法	本授業では、研究法概論、文献検索法（実際コンピュータを操作し、学習する）、心理学研究の典型的な方法として、実験法、調査法を取り上げて学んでいく予定。また、関心のあるテーマについて、実際に研究のプロセスを体験していただく。ある程度統計学の知識をもっていることが望ましい。	
	社会集団と子どもの社会化	講義項目：1. 教育社会学、2. 社会化、3. 社会集団と子どもの社会化（1）家族集団と子どもの社会化、（2）仲間集団と子どもの社会化、（3）近隣集団と子どもの社会化初めに教育社会学と社会化について基礎的なことを説明します。その上で具体的な対象として上記3種の社会集団を取り上げ、その中での子どもの社会化の基礎的な姿、現状、問題点、課題について考えていきます。この講義を通して、現代の子どもの実態や課題を考える手がかりが得られたらと願っています。	
	教育行政学	現在すすめられている日本の教育改革について、教育行政・政策の視点から考察する。関連して、戦後の教育システムが形成された占領下の教育改革についても検討する。	
	カウンセリング	カウンセリングの基本的な技法を体験的に学ぶ。自己肯定感を関係性の中で育てていくカウンセリングの作業には、知的な理解に加えて、具体的な体験学習が必要不可欠である。ロールプレイ、描画法、絵本理解などの演習を取り入れながら人間像への関心を深めていきたい。成績判定は授業への出席状況と小レポート提出で行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (心理と教育)	心理学データ解析法 1	現代の心理学研究は、実験やテスト・観察を実際に行い、数値データを得るという手法が中心です。したがって、心理学的な調査・研究を行ったり、心理学の研究論文の内容を正しくとらえるためには、数値データの扱い方やその意味を理解することが必要です。この講義では、心理学研究に必要なデータ解析法を、初歩段階から解説します。同時に、実際に計算実習を行い、与えられたデータの分析を体得していただきます。初めて自分でデータを集めて研究・調査を行うという方や、「心理学実験」の授業を履修している方でデータ処理の考え方がよくわからないという方が、データ解析の基本を理解できるような授業にしたいと考えています。	
	人格と教育	教育は、教育基本法によると人格の完成を目指して行うものとされていますが、では、その人格とは一体何なのでしょう。本講義においては、まず人格についての定義から入って、人格の何たるかを論じていきたいと思います。その際、教育哲学的なアプローチだけでなく、心理学的側面からも説明する予定です。また、参加される学生さんたちの意見も交えて、授業を進めていきたいと思います。講義の概要は、以下のようになっています。 1. 人格とは何か 2. 人格と人格性 3. 人間理解について 4. 人間の尊厳 5. 欲求と自己実現	
	ワークショップで学ぶ心理療法	体験を通して学習する心理療法の入門コースである。内容は、人間主義的アプローチを基にしたカウンセリングの基礎技能のワークショップ、筋弛緩法、および、自律訓練法の体験を含むリラクゼーションのワークショップ、望ましいコミュニケーションを習得するためのアサーションのワークショップを含む。放送大学では、個々の学生が知り合う機会が少なく、情報交換が行われにくい。この講義では、心理学的なワークショップを通して、参加した学生相互の交流を図ることも意図している。	複数教員共同担当
	イメージと心理療法	心理療法の現場では、言語のやり取りの他に描画や造形といったイメージを用いることもある。イメージを用いることによって、来談者をより深く理解し、より深く共感し、より深く寄り添うことが可能になって、面接そのものが深まり、進展していくことがよくあるからである。今回の授業では、実際にいくつかの実習を体験していただき、その体験を通して自己理解と他者理解を深め、更に心理療法への理解も深めることを目標としている。	
	心理測定法実習	心理現象を実証的に解明する方法論のひとつとして、心理検査や調査票を用いる場合がある。この実習では、標準化された心理検査を実際に受検し、それらのデータを分析し、心理測定における信頼性や妥当性の概念の理解を深める。さらに、望ましい調査票の作成方法を知り、特定の心理学的概念を測定する調査票を作成し、受講生同士で実施する。得られたデータを分析し、作成した調査票そのものに対して、心理測定論上の観点からレポートを作成し提出する(レポート提出が評価の条件になる)。心理学研究法や統計法の単位を既に習得していることが望ましい。	
	心の個人差・男女差	心理学の中心的な課題は、人間がもつ心の働きの一般的な法則を明らかにしていくことである。けれども1人1人を見ていくと、基本法則に従いながらも大きな個人差をもっている。特に近年は、脳の男女差にもとづく心の働きの違いが明らかになりつつある。また、自閉症などの発達障害の発生比率についても男女差は大きく、脳の個人差・男女差が関係していると考えられる。感覚・行動制御・コミュニケーションについてそれを探る。	
	心理学実験 2A (学習心理学)	心理学の知見は、その多くが実験的な方法を用いて見出されてきました。本講義は、重要な心の働きである「学習」について、その仕組みを明らかにするための実験について学びます。具体的には知覚・運動学習、記憶、情動と学習などの実験を取り上げます。グループに分かれて実験を実施し、データを分析し、レポートにまとめるという一連の作業を通して、「実験計画法」について理解を深めることも目的としています。	複数教員共同担当
	学校の中の対話実践	この講義では、生徒指導=人格形成機能の立場から、生徒指導論を生徒支援論として捉え、子どもを支える教育的コミュニケーションの方法を取り上げたいと考えています。まず、「教え込み風土」の改革の視座から、課題意識を広げます。次に、管理主義的な指導の克服の観点から、生徒指導の意義や人格形成機能(頭・身体・心の調和的発達)について考え、児童生徒理解の視点と方法、コミュニケーション論に基づく対話的支援の技法について講じていきます。また、問題行動の実態やそれへの対応の仕方にも視野を広げいく予定です。	
	小児のこたばの障害とその支援	発達期に現れる言語の問題について、特性と支援の方法について解説する。特に、今日めざましく研究が進歩した脳のイメージング法を用いて理解が進歩した、吃音、読み書き障害、アスペルガー障害などを中心にして、脳機能も含めて理解することを目的とする。	
	発達の心理と子ども支援	人間の「こころ」の発達に関する基本的事項について、誕生から青年期までの時間的経過に沿って概説的に講述し、現代社会を生きる子どもたちの心理面、行動面の特徴を理解することをねらいとする。その上で、発達障害や被虐待、不登校、いじめなど、乳幼児・児童生徒の発達上の困難およびその背後にある心理メカニズムを検討し、周囲の支援的な関わりのあり方について考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	人格発達心理学	乳児期から高齢期までの精神分析的な発達理論について講義します。発達心理学は「転ばぬ先の杖」的な知識を与えてくれます。知識は使ってこそ「知恵」となり生活の中で役に立つものになります。特に人格心理学的な知識は...そのような講義を目指します。この科目は、旧専攻「発達と教育」に該当します。	
	人格の統合過程	生まれた環境に適応するためには、人は一体となって外界に当たれるように自らを整えていく必要があります。人の精神的発達、統一のとれた人格へと向かう過程であると言えます。精神的な発達に伴い、心の動きの様々な側面で「私」が意識されるようになり、その日々の経験が自己像へとまとめられて固有の人格となります。人の成長に伴って生じる統合過程にかかわる要因を取り上げます。	
	儒教教育と武士道	駿府で徳川家康に『論語』を進講した儒学者の林羅山は家康の死後、後に昌平坂学問所となる私塾を江戸に開設した。以後、各地に儒学の私塾が生まれ、藩校でも儒教教育は必須となる。幕末に人気を博した剣術の塾や砲術の塾でも儒学が教えられる。儒教道徳を土壌にして、卑劣を忌み、弱者を思いやる武士道の精神も醸成された。この儒教教育の拡大と武士道の成立を手掛かりに、いかにして私たちは人間教育を回復できるかを考える。	
	教育学入門 - 教育の行方を読む -	社会が大きく変わろうとするなか、教育や人間の生き方もさまざまな面で変わろうとしています。本授業では、新たな状況への挑戦という観点から人間形成と教育のあり方について考えてみたいと思います。具体的には、現代教育改革の諸側面、変貌する時代の自己形成、成人の発達課題と学習、ケアリングから見た現代教育の課題、変化する学習観、大学教育の挑戦と課題、価値多様化時代の道徳教育、グローバル社会における日本教育の課題、などのテーマをとりあげて講義を行います。授業では、現代教育の課題を共に考えることによって、教育や人間形成についての各自の考え方を整理し再考するための学習機会を提供したいと思います。	
	こころの病と精神医学	本講義は平成17年度に実施した面接授業「こころの病と精神医学」、そして、平成20年度の「メンタルケアのための精神医学」の内容をさらに現代版に改訂したものです。従来の精神医学の歴史を踏まえて、基礎知識を整理しながら、近年の「こころの病」を見つめ直してみたいと思っています。	
	自閉症の発達と教育	自閉症の障害については、生来的な脳の発達の障害であり、社会性の障害を特徴にしていることが認知されるようになってきている。しかしながら、脳の問題や社会性の問題に関して、その本質をどう考えるか、議論も多い。自閉症児は自閉症という障害をもちながら、発達・成長していく。その発達・成長を支えるのは、広い意味での、教育である。自閉症を理解するためには、障害・発達・教育を統一してとらえる必要がある。	
	心理学基礎実験3	知能検査について、その歴史的経緯、理論的背景、検査の仕組みについて講義を行い、実際の検査を体験したうえで、結果の処理、処遇に生かす実際までを説明する。また班ごとに新たな知能検査問題を作成し、既存の結果との関連を検討することで、検査の仕組みを実証的に理解することを目指す。	
	心理学実験（PCを使って）2	パソコン上での、心理学実験を4種行います。それらは、速度見越し検査、大きさの錯視、概念学習および系位置効果です。あくまでパソコンを使って実験を行うというだけですから、パソコンの操作があまり得意でなくても、差し支えありません。実験を行うたびに結果を整理し、それをレポート形式にまとめていただきます。最後の実験については、まとめたレポートを提出していただきます。全部の実験に参加することが前提です。	
	カウンセリングと現代の人間関係	カウンセリングという用語が広く使われています。心理臨床の立場から、その専門的な人間関係による方法について、体験学習を取り入れながら理解を深めます。そこから現代の人間関係を見つめ直し、家庭・地域・学校など社会生活における心を使った人間環境づくりと、人と共に暮らす人生の創造的な意味を考えます。	
	生涯教育と日本文化	生涯教育は1965年にユネスコで提唱されてから広まったが、その観念は古くからあった。江戸時代の儒学者佐藤一斎は『言志録』で「少して学べば壯にして為すあり。壯にして学べば老いて衰えず。老いて学べば死すとも朽ちず」と述べている。鎖国の時代が終わり近代化が進んだが、西田幾多郎は西洋思想と東洋思想を統合し、それを受けて三木清、宮原誠一は文化政策を提起した。これらを踏まえて、さらに現代の状況と課題を述べ講義をまとめる。	
	臨床心理学実験・実習A	臨床心理学における基礎的理論を概説し、臨床心理アセスメントや臨床心理面接の基礎を実習形式で学習する。授業は学習すべき基礎概念が解説された後、そのテーマに沿って集団討議をし発表することになる。さらにそれについての説明を行う。	
	基礎心理学実験・実習A	第一日目は、無意味綴りの記憶、鏡映描写。第二日目は錯視を課題とする。課題は基本的に学生同士の共同作業で行う。錯視の課題については、教示された通りの第一実験の後で、自分たちで計画を立てた第二実験を行い、その発表を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	定性的心理学研究法	心理学における研究方法の分類の一つとして、定量的研究と定性的研究があります。今回の面接授業では定性的研究法を取り上げ、その特徴や主な方法論について概説した後、最も広く用いられているインタビュー法を中心として、その基本的構成やさまざまな技術、実施上の注意点や工夫の仕方、テープ起こし、データ分析の方法などについて実習します。受講生同士のインタビューを体験することでインタビューの持つ楽しさと難しさ、可能性などについて理解を深めてもらいたいと考えます。	
	臨床心理学実験・実習 B	臨床心理学を体験学習やグループ学習を通して学ぶ。(1) これからの心理臨床について(2) ロールプレイ(3) 芸術的手法やボディワークを用いた実習(4) DVD視聴(5) グループワーク(6) 日頃疑問に感じていることへの質疑応答、グループ討論	
	心理学基礎実験・実習	実験心理学の諸分野で行われている実験を実習形式で学ぶ。知覚、運動、記憶、思考、コミュニケーションの分野を予定している。実験の多くは2人以上のチームを組んで行い、実験課題を行う立場と行わせる立場を体験する。また実験結果として得られたデータに対する簡単な処理も行う。	
	臨床心理学実習 B	臨床心理学を体験学習やグループ学習を通して学ぶ。	
	生涯学習	人間の発達を支える要件としての教育の役割について講ずる。とくに、現実の教育や学校のあり方を子どもの視点から見直す視点を重視する。また、成人期以降の人間の発達の可能性についても検討し、教育と人間についての総合的な見直しを試みる。	
	心とからだの運動学	ヒトは日常生活において、広い意味での運動(行動)を行っています。本授業では、まず、心身の発達について概説し、ヒトの運動の発現機構および動作の習熟機構について、主に人体生理学の立場から解説します。また、ヒトの動作は「あがり」などの内的な要因によって影響を受けます。運動(パフォーマンス)に影響する心理的要因についても解説します。	
	事例研究による臨床心理学演習	いじめ、不登校、非行及び虐待などの子どもに関わる事象についての概説を行う。その後、社会的に公表された事件や模擬事例を通して臨床心理学の視点からアセスメント(心理診断・社会診断・行動診断)の仕方や支援の方法を学んでもらう。授業形態はできるだけグループワークによる演習を多くしていきたい。	
	認知心理学実習	人間の心のメカニズムを探る認知心理学的アプローチの実験を実習します。認知・記憶・知能の測定について実施方法、分析方法、心理学レポートの書き方について学びます。具体的には、錯視実験、認知スタイル測定、記憶テスト、認知特性の測定等を通じて、心理学的なものの方を養うとともに、こうした基礎心理学の知見が、臨床現場でどのように役立つについても実感できることを目的としています。	
	臨床教育社会学	1) 臨床教育社会学とはどのような枠組み(パラダイム)をもつか。2) いじめ、不登校、学級崩壊という教育問題を臨床教育社会学ではどのように現象を把握し、その背景と対応策を提起できるのか、各課題について2回ずつの講義をおこなう。3) まとめ方の討論	
	文化政策の課題	日本人学校、補習授業校などで5万人を超える日本の子どもが海外で学んでいる。これらは日本と世界との結びつき、国際化の進展の一面を示すものである。一般には余り知られてはいない意外なところに日本人学校が設置されていたりする。日本人学校の存在という切り口から日本の国際化を検討する。このほか、課題として少子高齢化、観光と芸術、国公立文化施設、文化財の保存を取り上げる。	
	心理学発展実験	現代の心理学においては科学的アプローチが大切です。そのためには実験が必要不可欠になります。この授業では、心理学の基本と考えられる課題について実験を実際に行っていただきます。そして実験的手法を理解していただきます。実験終了後、結果を整理・考察し、レポートにまとめていただきます。	
	動機づけ理論と自己管理	心理学の専門科目の一環として、動機づけに関する古典的な理論を概観し、スキナーの強化理論と対比します。さらに、最近の新たな理論を取り入れながら、自己管理(セルフマネジメント)への応用可能性を探ります。これらを学び、「やる気」の起源は何か、どうすれば行動を長続きさせることができるのかについて、実践的知識を身につけることを目指します。	
	臨床心理学基礎実習	授業は、グループで学習する方法を進めます。この授業では、心理面接の方法と記録の付け方、面接時における傾聴法の実習、さまざまな事例を通じた応答練習、グループのメンバー間で役割を交換しながらの応答練習の実習及び事例報告のまとめ方などについて学ぶことを目標にしています。	
	市民社会と生涯学習	急速なグローバル化が進展する今日、一国家の枠組みを超えた市民社会の構築が重要な課題となっています。この講座では、市民協働・参画型の生涯学習社会の発展に向けて、生涯学習の理論、政策、実践について学んでいきます。教育すなわち学校教育という固定観念から脱却して、あらゆる場所、あらゆる機会を活用した、市民の学びのコミュニティづくりについて、内外の事例を紹介しながら、理解を深めていきたいと思えます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	心理学研究法入門	客観性を持つ「科学」としての心理学の研究方法について、その基本的な考え方や、問題設定から論文にまとめるまでの間の具体的な作業プロセスを概説します。そして具体的な研究例を示しながら、実験法、観察法、面接法などの主要な研究方法の特性について解説します。(改行)心理学的知識がどのように生み出され、蓄積されていくのかを理解し、心理学の研究を進めるために必要な知識の基礎的部分を習得することをめざします。	
	幼児教育実践史	2008年3月に新幼稚園要領・保育所保育指針が告示された。幼稚園・保育所で実践されてきた保育の内容・方法を歴史的観点から視ることによって、現在の幼児教育・保育に求められている保育内容・方法について考える。さらに、幼稚園や保育所及び家庭において、どのようにすれば、子どもたちが生き生きとして自分の人生をたくましく生き抜くことができるのかについて考える。	
	世界の教育と学校	さまざまな国の教育制度や学校文化を知ることを通して、それぞれの国の教育制度の特徴や国によって異なる学校文化の理由や背景を考えます。具体的な講義内容としては、「世界の学校の3つの類型とは」。教育改革の手本だといわれているサッチャー・ブレア政権による「イギリスの教育改革の光と影」。国際学習到達度調査(PISA)で世界1位の学力といわれている「フィンランドの教育の秘密」などについてグループ学習なども交えて講義を行ないます。	
	カウンセリング技法の体験	カウンセリングの基本技法である簡単受容、感情の反射・反映、言い換え、明確化、要約の説明の後、簡単受容と感情の反射・反映の演習を通して、信頼関係、共感と受容を体験できることを目指します。演習は言語または非言語を用いて、二人一組、小グループで行うものと、全員の前で行うものがあります。	
	病気や障害のある子の心理と教育	心身に障害のある子どもたちの心理と教育について、発達心理学・教育心理学・特別支援教育をベースとして概説する。	
	現代社会の生涯学習	本授業では、「生涯学習」について、グローバルな視点から見つめ直していきます。まず、「生涯学習」についての概況をお伝えするとともに、皆さん自身にとっての学習とのかかわりを振り返ってもらいます。その後、我が国における大人の学びの発展についての認識を深めます。さらに、担当者が研究対象としている欧州の「生涯学習」を中心として、世界各地の現状へと視野を広げていき、その普遍的な価値について考えていく予定です。	
	乳幼児期の発達と教育	本講義では、おおむね誕生から小学校低学年までの子どもたちの発達と教育について、個別のトピックをとりあげながら、発達に関する諸理論と、幼児期の教育との関係について学ぶ。ここで取り上げるトピックは、乳幼児期の子どもたちの心理特性、親の子育てと子どもの発達、心の理論の発生と社会性の発達、男女の性別理解と性別意識の発生、幼児教育における認知的成長とプロジェクト型の学びなどを予定している。	
	子育てと子育ての現在	今日、児童虐待をはじめとして子どもの育つ環境の問題が顕在化しており、また、育てる環境についても子育て支援策と当事者の思いとのギャップなどが指摘されている。ここでは、乳幼児期を中心としながら、子どもを取り巻く環境の現状を捉えるとともに、子ども観の歴史の変遷をふまえて、今後の子育てと子育ての環境創りについて、考えていく。	
	創造的対話能力を育む授業作り	21世紀の学校教育ではコミュニケーションを中心とした教育が求められている。しかし、これまでのわが国の学校教育の中では、知識伝達型の授業体系が主であり、「子どもを中心とした学び合う・話し合う」授業実践は非常に少ない。その対話を中心とした授業を実践する為には、「授業観」「教材観」「子供観」の意識改革を図りながら、有効な実践力の向上に向けての取り組みが必要である。ここではその問題について、具体的実践を踏まえながら、講義する。受講生がいきいきと参加できるよう、対話を中心としながら、授業を展開する。	
	知覚と運動制御に関する実験実習	外界を促える働きである知覚やからだの動きの制御に関する基礎的な実験を行って、情報処理システムとしての人間について理解を深めます。ミューラーリヤーの錯視、鏡像描写実験等を題材にして、教示、実施手順、結果の分析、解釈、考察の各段階について学習します。実験は複数で協力して行い、実験者と被験者の両方を体験します。	
	自己評価の心理学	人は、自分の能力や性格などを、どのように評価しているのか。このような自己評価は、個人の行動改善などに効果があるとされる。しかしながら、自分自身を評価することは難しい。この講義では、「自分を評価する」ことを課題としたワークを通して、自己理解を深め、キャリア形成や発達に役立つような情報提供を行いたい。	
意識と無意識の心理学	意識と無意識という言葉は今日では日常生活においてもよく使用されているが、臨床心理学とりわけ力動的療法においては重要な概念である。無意識発見のきっかけとなった催眠法、後にフロイトが開発した自由連想法が開発した言語連想法、夢分析、箱庭療法等、無意識を探求する心理療法について解説し理解を深めたい。また、意識領域を理解する質問紙法や行動に働きかける行動療法にも触れ意識と無意識の関係について論ずる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（心理と教育）	幼児教育総論	幼児教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培うという重要な役割を担っています。「幼稚園等施設、家庭や地域社会の三者による総合的な幼児教育の推進」「幼児の生活の連続性及び発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実」の視点から講義します。子どもたちの育ちの現状とその背景を視野に入れながら、幼児期の発達にふさわしい質の高い幼児教育について受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。成績判定は、出席状況とレポートの評点により行います。	
	社会心理学：対人関係と集団	人間の“心”を理解しようとするとき、人間が社会的存在であることを無視することはできません。社会心理学は、人が対人関係を営んだり、集団の中で生活していることを基礎にして、“心”の理解をめざす心理学の一分野です。この授業では、人間の心の働き（認知や感情、行動）が対人関係や集団とどのように結びついているかを、「社会的欲求」「対人認知」「対人関係」「对人的影響」などのテーマの下で検討していきます。	
	心の不思議	目に見えない心を科学的に理解する「心の科学」が心理学です。心について考えると、「心はどこにあるのか?」「気持ちはどこから生まれるのか?」など様々な疑問が生じると思います。このような心に関する疑問について、本講では様々な実験を紹介しながら、皆さんと一緒に考えていく予定です。	
	心理学実験実習	心の仕組みを科学的に明らかにしようとする心理学では、人間の行動を観察や実験という手法を用いて検討します。本授業では、学習の転移、対人認知とパーソナルスペース、ミュラー・リヤー錯視を題材とした心理実験を行います。1.心の仕組みに関する仮説を立てる。2.観察、実験によりデータを収集する。3.得られたデータについて統計的検定を行い、結果の整理および考察を行う、という実習を通して心の科学的な研究方法を学びます。	
	現代の教育問題	この授業では、現代の教育諸問題の中でも、特に「学力問題と教育課程・方法改革」について取り扱うことにする。国際学力調査等によって明らかになった我が国の子どもの学力低下の「事実」を踏まえた上で、その向上をめざして、どのような改革が構想されているのか、またそれが、学校と教師、そして子どもに対してどのような対応を迫るものであるのか。これらの事項について、受講生の皆さんとともに考えたい。	
	科学教育と子どもの自然認識	子どもの自然認識に関するこれまでの研究事例を通して、幼年期における科学的遊びの役割、小学校低学年生活科の意味、小学校中学年以降の理科教育の位置づけを考察する。そして、人間が社会を持続的に維持させる上での科学教育のはたらき、科学教育としての理科教育の今後のあり方を探究する。	
	カウンセリングの理論と演習	本講義では、カウンセリングの基礎理論とその実際を学習します。演習では、傾聴技法、質問技法などカウンセリングで必要とされる基本技法を習得します。またカウンセラーとしての資質の向上を図ることを目的に、自己への気づきやクライアント理解を促進させるための様々なエクササイズ体験します。	
	障害児（者）の心理学 1	障害児（者）の心理学1では、障害種別（視覚・聴覚・知的・情緒・学習・言語障害、肢体不自由、病・虚弱（内部障害）等）にその心理特性について解説する。また、個人差（先天性・後天性、障害の重度・重複化、障害受容・自己実現の方向性、家庭・地域の環境等）に応じてどのようにして対応するか。さらに当事者と周囲の人々との交流を通じてお互いに成長できる共存・共生のあり方についても考えていきたい。	
	心理学基礎実験 B	心理学の重要な研究方法である実験法について、実際に心理学実験を行いながら理解を深めます。心理学実験が広く用いられる認知、知覚、記憶、学習、人格等の領域から、代表的な実験を複数、実際に実験者や被験者を経験し、さらに結果の集計、統計的処理、分析、考察を行って、実験法という心理学の研究方法を理解していきます。したがって、各実験に対するレポート提出が求められます。	
	教育心理学概論	教育心理学とは、教育や学習に関する人の心の働きを解明し、教育実践に生かすことを目指す学問です。本講義では、従来、学習、記憶、動機づけといった基礎的な心の仕組みの話題に加えて、外国語の習得、科学教育などの応用的な領域の知見を紹介します。知識を身につけるだけでなく、日常的な現象を心理学的観点で理解できるようにすることを目標とします。	
	子供の学力・大人の智恵	子どもの学力や格差の問題が深刻に議論されています。でもそれは子どもだけの問題ではありません。大人の智恵も同じように危機に瀕しています。成人の学習である生涯学習も、昨今それほど話題になりませんが、今なお重要なテーマであることは確かです。この講義では、子どもの学力と大人の智恵という二つの対象に焦点をあて、直面している問題を考察します。現代の子どもの教育と大人の学びを本質から考えてみましょう。	
	生涯発達心理学	講義内容:人生の節々で、多くの人が直面する主な発達課題と発達の特長を理解し、社会の一員として自分の人生を作っていく糸口を探る。評価は、講義の途中で行われるコメントをもとになされる(出席状況と講義内容の理解について点検評価される。)講義への積極的参加が求められる(講義内容についての質問や意見の発表が求められる。)	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	現代経済学 （ 09 ）	私達の欲望に限りはないが、資源には限りがある。その限られた資源を様々な欲望を充足するために配分しなければならないが、私達は市場経済という経済体制を用いることで、それを無意識のうちに行っている。市場経済とは多くのお金を支払う人が多くを購入できるという経済システムであり、ミクロ経済学とマクロ経済学という2つの分析手法を用いて、市場経済の果たす資源配分について考えていく。	
	労働経済 （ 08 ）	この授業では、まず労働経済学の基礎理論を学ぶ。労働市場の動きを労働供給と労働需要に分け、それぞれがどのように決まるかを説明する。その後、現実には起きている問題、例えば、若年労働、仕事と家庭との両立、少子高齢化などを紹介するが、できるだけ具体的な例を取り上げて問題を認識し易くする。その上で、それらの問題が理論的にどのように分析できるかを議論するとともに、制度や政策が労働市場に与えている影響も検討する。	
	日本経済史 （ 08 ）	江戸時代から今日にいたる日本経済の展開過程を全15回にわたって講義します。まず基本的な経済諸量の動きから、長期の経済発展の過程を概観します。ついで各時代の重要な経済史的トピックスについて解説しますが、そのさい、マクロ経済の動きや産業組織、経済諸制度や経済政策の動向とともに、企業や企業組織、企業家の活動、家計と消費、技術と労働などの側面に言及します。講義はできるだけ具体的な資料や事例を紹介しながら進めます。	
	財政学 （ 05 ）	本科目では財政学を初めて学ぶ人を対象として、財政学の基礎的な概念を説明する。また、単なる財政学の講義にとどまらず、今後の財政構造改革、税制改革上の重要な諸問題について、少子化対策、官と民の役割分担、民営化や地方分権、社会保障制度改革のあり方など、幅広い視点からわが国の現状をふまえながら政策的な議論することで、日本財政の基本的な解説も試みる。	
	財政学 （ 10 ）	財政はすべての国民にとって身近な問題である。医療や年金に限らず、日常、享受している地方公共サービス（ゴミの収集、衛生管理、講演や道路の整備）あるいは国防や治安も、国や地方といった公共部門によって提供されている。こうした財政に対しては政治学、社会学などの観点からのアプローチもあるが、この講義では経済学の視点から、財政（公共部門）に関わる諸問題（税制改革、社会保障など）について考えていきたい。	
	ジェンダーの社会学 （ 08 ）	まず、生物学的な視点や歴史の展開、文化論などとの関連のなかで、ジェンダーという視点について整理します。続いて、性差別、性暴力、労働、家族、教育といった現代社会をめぐる諸問題を、ジェンダーという視点から考察していきます。最後に、国際社会の動きを見据えつつ、ジェンダーの視座からの21世紀前半の日本社会のゆくえについて考えていきたいと思います。 キーワード：ジェンダー、性差別、男女共同参画	
	社会階層と不平等 （ 08 ）	本講義は、社会階層と不平等を実証的に研究することを目的としています。まず社会階層と不平等をめぐる基礎概念、理論、方法論を概観した上で、 （1）日本社会の階層と不平等 （2）アジア社会の階層と不平等 （3）エスニシティやジェンダーと階層・不平等との関係 （4）公正な社会のあり方に関する考察 という大きく4つのトピックを議論します。	複数教員共同担当
	現代コミュニティ論 （ 06 ）	都市化、少子・高齢化、グローバル化、情報化などの大きな社会変動の中で、現代のコミュニティは日々変容を遂げている。その変容の内実を明らかにし、21世紀のあるべきコミュニティのイメージを明示化し、新しいコミュニティ論の構築を目指す。	複数教員共同担当
	現代コミュニティ論 （ 10 ）	本科目では、まず、コミュニティ概念を整理するとともに、コミュニティの諸相について概説する。次いで、コミュニティに変容をもたらす、社会・空間構造の変化について検討する。それらの理論的な検討を踏まえたうえで、各地のコミュニティに出かけ、現地の映像と住民の声に身を置きながら、コミュニティへの帰属の今日的意味について考察する。	複数教員共同担当
	自我の社会学 （ 05 ）	現代人の自我について社会的に考察する。人間の自我が孤立的ではなく、他者とのかかわりにおいて社会的に形成されることを「鏡に映った自我」、「役割取得」、「一般化された他者」などの概念を用いて明らかにし、「役割コンフリクト」、「役割距離」、「役割形成」などの現象を通じて現代人の自我の変容の様相について具体的に問題としていく。	
現代の犯罪と刑罰 （ 09 ）	本講義は、犯罪と刑罰の現実の姿を、【犯罪 捜査 起訴 裁判 判決 刑務所 出所】とう一連のプロセスの下で明らかにした上で、我が国の刑事司法が抱える問題点を指摘し、それらに検討を加えようとするものである。多くの人が平成21年5月までに導入される裁判員制度に大きな不安を抱いていると新聞報道されているが、本講義がその不安を払拭するための一助になれば幸いである。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	現代環境法の諸相 （ 09 ）	本講義では、廃棄物問題を始めとする日本国内の身近なトピックを複数取り上げて、汚染者、近隣住民、政府、裁判所といった各アクターの「果たすべき役割」という観点から、現代環境法の姿を複眼的に浮かび上がらせる。具体的には、廃棄物処理法等個別の環境実体法のほか、環境リスクの探知と管理（環境計画法制、PRT R法制、環境影響評価法制）、行政的な義務付けとエンフォース（行政手続法制、行政強制法制）、司法的な義務付けとエンフォース（民事訴訟・執行法制、行政訴訟法制）を中心に、ケースを挙げて解説を加え、環境税制や景観保護といった最新の環境政策課題も含めて、今後の議論の方向を展望する。	複数教員共同担当
	裁判の法と手続 （ 08 ）	法と裁判、とくに司法制度に関する現代的な課題を中心にとりあげ、現在何が問題とされ、どのような改革の課題が提出されているか、これに対して、現在進行形の制度改革の動きを取り入れながら、その将来を展望する。新しい問題を扱う場合が多いが、その前提として、法と裁判制度の現状や歴史的な背景をも説明する。	複数教員共同担当
	雇用・福祉・家族と法 （ 07 ）	『雇用・福祉・家族と法』は、人間の営みを支える生活関係である雇用関係、社会保障関係、家族関係をとりあげ、それらを主として法律学の側面から考察しようとするものである。ここでは、企業、国家、家族という現代の代表的な集団のあり方とそこに暮らす人々との係わり合いが法制度ないし法思想を通して明らかにされていく。	複数教員共同担当
	企業の組織・取引と法 （ 07 ）	本講義は、企業の組織を規律する会社法と、企業の取引を規制する商法を中心に講義を行う。この分野における法律は、近年の大改正により大きく変貌を遂げた。本講義では、企業組織法および企業取引法の分野で新たに生起している問題に焦点を当てつつ、これらの分野の体系的な理解を目的とする。	複数教員共同担当
	市民生活の財産法 （ 06 ）	民法全5編は、財産に関する総則、物権、債権の3編と家族に関する親族、相続の2編とに大別できる。本講義は、このうち、財産法について概観するものである。限られた時間で、民法の条文のすべてについて、詳細に説明することはできないので、重要な制度・仕組みを紹介するととどまらざるを得ないが、民法以外の特別法についても可能な限り言及する。	
	市民生活の財産法 （ 10 ）	本講義は、民法全5編のうち、財産に関する法について概観するものである。民法以外の特別法についても可能な限り言及しながら、重要な制度・仕組みを紹介する。	
	行政法と市民 （ 06 ）	行政法（総論）の入門講義を行う。行政法は、行政組織法・行政作用法・行政救済法から成るが、後二者に重点をおいて、全体を概観する。特に、行政（役所とその仕事）抜きでは生活できないが、受動的な行政「客体」ととどまるわけではない私たち「市民」の目を大事にしたい。	
	国際関係法 （ 06 ）	国境を越えた人々の活動を規律する法の総体である国際関係法を、国内法、国際法、国際機構法の三つの法体系に分けて論ずる。その中でも、もっとも国際社会において重要な地位を占める国際法について、詳しく検討する。	
	著作権法概論 （ 06 ）	この講義では、知的財産権制度の中にあって、小説や音楽、レコード、映画、アニメ、コンピュータ・プログラムなどの著作物等を保護する著作権法について、情報社会の進展やコンテンツ産業の振興という観点から重要性を増していることを踏まえつつ、制度を理解する上での基本的な事項及び実際の課題について総合的に解説する。	複数教員共同担当
	著作権法概論 （ 10 ）	知的財産権制度の中にあって、小説や音楽、レコード、映画、アニメ、コンピュータ・プログラムなどの著作物等を保護する著作権法について、情報社会の進展やコンテンツ産業の振興という観点から重要性を増していることを踏まえつつ、制度を理解する上での基本的な事項及び実際の課題について総合的に解説する。 「著作権法概論（ 06 ）」の講義を踏まえ、発展的な知識の修得を目指す。	複数教員共同担当
	西洋政治理論の伝統 （ 09 ）	「政治とは何か？」「より善き政治を構想し、実現するためにはどうすればよいか？」といった問いを、本講義の基本的な関心として設定する。西洋の政治理論という営みの歴史を、「一つの伝統」としてとらえつつ、主要な思想家たちの理論を、いくつかの典型的な議論の原型ないしは範例として、検討する。古代ギリシアから始めて現代アメリカに至る政治理論のなかから、歴史的な影響と現代的な意義の観点から重要だと思われる議論をとりあげ、それらの歴史的、哲学的理解に努める。	
	比較政治 - 中南米 （ 08 ）	この講義では、民主化が中南米の歴史にかつてないほど広がり、長く持続するようになったのはなぜなのかを、比較政治学の理論と中南米政治史の分析を組み合わせることで明らかにすると同時に、現代中南米の政治的特徴は何か、中南米の民主主義は今後も続くのかについて検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	現代の国際政治 (08)	アメリカ、イスラム、アジア、欧州連合の拡大、エネルギー、環境というキーワードを使って現代の国際政治を描く。まず、唯一の超大国アメリカの外交に焦点を当てる。分析の第二の視点はイスラムである。アメリカが2001年以降の同時多発テロ以来アフガニスタンとイラクで二つの戦争を戦っている。いずれもイスラム地域である。アメリカの中東・イスラム地域への政策はいかに展開してきたのだろうか。いかなるメカニズムで動いてきたのだろうか。逆にイスラム地域からアメリカはどう見えるのだろうか。単に両者を対立の構図でとらえるのではなく、アメリカで進行するイスラム教徒の増大という現象にも目を向けよう。第三にアジアで台頭するインドと中国に注目する。両国はどのような関係を相互に打ちたてようとしているのだろうか。また超大国アメリカと両国はどのような関係を切り結ぼうとしているのだろうか。アメリカ、インド、中国の関係がアジアの構図を規定する大きな要因となる。第四に冷戦後に拡大の勢いを強めるEU(欧州連合)の意味を考える。第五にエネルギーと環境という問題を国際政治という視点から分析する。つまり、複数の視点を交差させて国際政治の新しい風景を描き出す。	
	現代行政分析 (08)	日本の行政に仕組みを概観すると同時に、それがどのように作動しているかを経験的な分析に基づいて明らかにする。	
	現代日本の政治 (07)	現代日本の政治を理解するために、選挙制度や、政党、議会、官僚制など日本の政治制度と政治アクターについて説明を行った上で、それらの制度や政治アクターが、実際の政策過程においてどのような働きをし、どのような形で日本政治の特徴を形づくってきたのかを説明します。	複数教員共同担当
	日本政治外交史 (07)	近現代の日本政治外交史で大きな転換期をとりあげ、リーダーとそのパーソナリティ、集団とその性格を、指導者を取り巻く状況や行動を制約する制度などとの緊張関係の中で位置づけ、近代日本の政治指導の特質を考える。	複数教員共同担当
	ヨーロッパ政治史 (05)	近代から現在に至る西欧の政治発展を、国家の観点から考える。西欧諸国家がたどった多様な歴史的発展と、グローバル化と国家統合の中で変容するその姿をたどる。	複数教員共同担当
	ヨーロッパ政治史 (10)	近代から現在に至り西洋諸国家がたどった多様な歴史的発展と、グローバル化と国家統合の中で変容する政治発展の姿をたどる。「ヨーロッパ政治史(05)」の講義に新たな知見を加え、より発展的な科目となることを目指す。	複数教員共同担当
	現代東アジアの政治 (04)	第二次世界大戦終結後の東アジアの政治発展の軌跡、現状、およびその構造的特徴を講義する。ここでは東アジアを狭義に定義し、中国、台湾、香港、韓国、北朝鮮を中心とする。それは、いわば日本にとっても最も関係の深い近隣諸国・地域の政治の理解を目的とする。	複数教員共同担当
	現代東アジアの政治と社会 (10)	中国、韓国・北朝鮮を中心としつつその範囲を「東南アジア」まで拡大し、これらの地域の現代の政治と社会について講義する。	複数教員共同担当
	21世紀の女性と仕事 (06)	経済のサービス化や経済の国際化が進むに従って、働き方や生き方も大きく変化する。なかでももっとも大きな変化は、女性の社会進出の進展だろう。女性が結婚しても就業を続けるようになれば、社会のしくみもそれに合わせて変わらざるをえない。なぜ経済が発展すると、女性の社会進出が進むのか。それが家族形成にどのような影響を与えるのか。そのような変化に女性や企業はどう対応しているのか。職場での男女の平等な扱いに対してどのような法制度を用いてそれを支えているのか。 90年代に進展している経済のグローバル化は、従来とは違う多様な働き方を生み出している。このような仕事のなかには、家庭と仕事の両立がしやすい働き方も多い。21世紀には共働き世帯が主流になる。そのなかで、わたしたちは、男性と女性がともに働き、家事や育児を分かち合える新しい働き方をしていく必要がある。 本講義では、同じような変化を経験している他の先進国の例などを紹介しながら、21世紀の日本の女性の生き方と働き方について、15回の講義をつづけて考えていきたい。	複数教員共同担当
	マーケティング論 (08)	この講義では、マーケティングの基本的な概念から、実際のビジネス・ケースまでを体系的に解説し、マーケティングの全体像を明らかにしていく。また、必要に応じて実務家を招き、実際のビジネスにおけるマーケティングについて語ってもらう予定である。	
	国際経営 (09)	グローバル化は中国、インド、ロシア、ブラジルの新興工業国の台頭を迎え、ますます急速に地理的範囲を増大しつつある。この科目はこの状況に対応するために日本企業はグローバル戦略と管理方法をいかに策定、実践すべきか、を実務的視点から理解することを目的として設計された。講義の内容は会計財務、人的資源、組織・文化、グローバル戦略、民営化企業および行政と国際化、など広範囲にわたる。	複数教員共同担当
	管理会計 (06)	管理会計の目的は、企業で行われる様々な経営意思決定と業績管理に有効な会計情報を提供することにある。本講義では管理会計の役割を意思決定を支援する役割と業績を測定・評価して企業価値を高める行動を動機づけるコントロールの役割に分けて、それぞれの理論を解説する。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	管理会計 (10)	企業で行われる様々な経営意思決定を支援し、業績評価システムの設計と業績管理に有効な会計情報を提供するための理論及び技法について述べる。 中小企業従事者、公的機関および非営利組織従事者の積極的な履修を望む。	
	簿記入門 (06)	簿記はおよそ500年前から存在し、「ビジネスの言語」ともいわれ、今日の企業社会においても欠かせないものとなっている。本講義では、商業簿記に関する知識・技術の網羅的な習得を目標としている。	
	初級簿記 (10)	企業社会のリテラシーとして簿記は欠かせない。 本講義では、商業簿記に関する知識・技術を網羅的に習得し、貸借対照表と損益計算書の作成ができるようになることを目標としている。	
	ビジネス・ファイナンス (08)	ビジネス・ファイナンスに関する情報を収集・分析して、その意思決定・活動を合理的に行う過程を理論的に論じる。さらにわが国におけるさまざまなファイナンス環境の実状・変化にも配慮しつつ、各受講者が実践的にも応用が図れるように努める。ときおり、公共財政（パブリック・ファイナンス）や、家計ないし個人レベルでのお金の管理（パーソナル・ファイナンス）の場合の問題解決との関連にも触れながら、ビジネス・ファイナンス固有の問題に焦点を絞る。	複数教員共同担当
	アーツ・マネジメント (06)	アーツマネジメントを「芸術と社会をむすぶ仕事」と位置づけ、特に公立文化施設、美術館、博物館とのかかわりを中心に、その意味や具体的な活動について考察する。文化施設と地域・住民との関係や具体的な展覧会制作活動、施設のハードウェアの側面にも光をあてる。	複数教員共同担当
	企業統治と企業倫理 (07)	この講義は企業人あるいは企業に関心を有する受講生を対象とし、従業員が誇りとする企業、高い企業成果により他の利害関係者や株主が満足する企業を実現するために、企業統治と企業倫理が果たす役割を究明する。米欧との比較により、日米英独仏の研究者とのインタビューにより、各国における企業統治と企業倫理の現状と問題点を理解し、その有効性を向上させるための諸改革の成果を分析、評価する。これにより日本企業が改善すべき問題は何かを明確にし、改善対策を考える手段を提供する。	
	企業戦略と企業文化 (08)	この講義では経営環境の分析から、これに対応する事業領域の策定、企業活動の境界を決定する統合戦略、多角化、戦略提携、合併・買収、市場取引、グローバル戦略、そして企業文化と企業理念との関連を理解する。理解を容易にするため多くの日本および外国の事例、成功・失敗例を中心に説明する。この科目は開講中の「企業統治と企業倫理」（TV 07）と関連性をもって設計されており、これにより経営者に要請されるすべての経営者機能の履修を完結する。	
	官民の人的資源論 (09)	日本の経済は、民間部門と公的部門に大きく分類される。それぞれの部門で働く人々の雇用管理がどのようになされているかは大きな関心事であると考えられる。しかしながら、一般的な人的資源管理論は民間部門を対象に解説されてきた。そこで、この授業では公的部門の人的資源管理が付け加えられている。さらに、日本の人材育成に関する行政の役割にも言及する。	複数教員共同担当
	NPOマネジメント (07)	今日、今までにない速度で社会が変化し、明治近代国家誕生後に形成された既存のシステムでは対処できない様々な問題が生まれている。なかでも政府・自治体がこの変化に対応できず、公的サービスの提供に限界が見え、担い手の多様化が強く求められている。こうした中で地域社会における福祉施設の経営等のサービス供給、まちづくりや環境保全、国際協力等を進める民間非営利組織(NPO: Non-Profit Organization)の活動が活発に展開されてきている。こうした背景と組織経営の実態及び課題を理解する。	複数教員共同担当
	アグリビジネスと農業・農村 (06)	一方で経済のグローバル化、他方で食料消費の多様化・高度化、新しいライフスタイルへの期待を背景として、様々な観点からアグリビジネスの重要性が増大している。そのアグリビジネスは、農業、資材産業、食品加工業、流通業、外食産業などの各種の生産及びサービス産業を包摂し、それらは相互の連関を密接にしている。 また、豊かな食生活や心の豊かさを育むグリーンライフにも貢献するアグリビジネスは、農業を核とした展開が求められている。しかし、そのために解決すべき課題も少なくない。 本講義は、以上の諸点を体系的に述べることを内容とするが、アグリビジネスを構成する個々の産業の実体、なかでも農村の実体にも立ち入り、生活実感にも結びつくよう配慮するとともに、国際的な視点も交えて論じることを狙いとしている。	複数教員共同担当
アグリビジネスの新たな展開 (10)	本講義では、農業をビジネスとして捉える観点に加え、農業への新規参入を志向する若者や団塊世代の関心に応える内容を新たに盛り込むことでターゲット層を広げる。グローバル化が進む中で、安全な食料確保、農業の新しい担い手、景観、文化、生物多様性、森林資源を保全する農村の役割にも言及する。わが国の農業がどのような変化の中にあり、どのような展望を描きつつあるのかについて考えるための基礎的かつ総合的視野を提供する。 食料、森林、環境等にも言及し、都市の消費者の関心にも応えることで受講生層の拡大を目指す。	複数教員共同担当	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	組織運営と内部監査 （ 09 ）	本講義では、組織の外にはなかなか実感する機会がない内部監査について、その目的や手続きの実際について多面的に検討することによって、内部監査の重要性を理解することを目的とする。また、すでに組織運営に携わっている人には、内部監査についての再整理と新たな知見を与えるものと期待される。	複数教員共同担当
	社会技術概論 （ 07 ）	科学技術は、真理の探究や新技術の開発など、社会とはあまり関係のない活動のように思われがちである。だが、今日の高度に発展した科学技術は社会に多大な影響を及ぼしている。今後は、科学技術と人間生活が調和しつつ、ともに発展していく必要がある。本講義では、真理探究のための科学技術や産業のための科学技術とは異なる「社会の中の科学技術、社会のための科学技術」という観点から、科学技術と社会の相互関係について考える。	複数教員共同担当
	エネルギー工学と社会 （ 06 ）	産業活動と人々の生活を支えているエネルギー。私たちは、普段、エネルギーを空気や水のように無意識に使っている。世界のエネルギー消費は20世紀に入って急増し、過去100年間で15倍以上にまで増大している。そのエネルギーの大半は化石燃料で供給されており、燃料価格の高騰や将来の資源枯渇、それに燃焼による大気汚染や地球温暖化が懸念されている。増加の勢いが止まらない経済発展と世界人口、21世紀の世界が持続可能な発展を遂げていくには、原子力や再生可能エネルギーといった代替エネルギーの開発、それにエネルギーの供給と消費において無駄のない工夫が求められている。本講義は、エネルギーに関心のある人々を対象にエネルギー工学の立場から社会のエネルギー問題について理解を深めてもらうことを目的としている。	
	物質・材料工学と社会 （ 05 ）	本科目では、材料がどのようなところでどのように使用され、役立っているかを知ること、材料の重要性と面白さを認識することを目指す。 全15回講義のうち、前半では、材料を金属、セラミックス、高分子、半導体、複合材料の5つに大別し、材料の基礎的事項を学ぶ。後半では、材料を情報通信、環境、資源・エネルギー、安心・安全などの用途に分け、材料の機能と利用方法について学ぶ。特に、次世代の究極の材料技術として注目されているナノテクノロジーなど、最先端の材料研究開発の現状も知る。講義全体を通じ、社会の中での材料の役割について考える。	複数教員共同担当
	バイオテクノロジーと社会 （ 09 ）	基礎生物学の急速な進展に伴い、生命現象の理解が進んだ。その研究成果を人類社会のために活用する試み、特に、長寿社会に向けた医療・健康産業、環境に配慮した産業構造への変革等に対する期待はきわめて大きいものがある。その一方で、先端科学技術に対する不安が一般社会に広まっている。一般消費者としても、科学的根拠に基づく、自己責任による判断が必要とされる時代になっていると言える。本科目では、遺伝子組換え作物と遺伝子診断という具体的事例に基づき、自己責任で判断するための情報提供を行う。	
	日本の技術革新 （ 08 ）	明治期から現在に至るまでの日本の技術革新（経験）について全15回にわたり講義する。日本の技術革新は世界的にみても稀有に属するテンポと広がりを持っており、この過程を総論（1、2回）、技術革新を促進した諸要因（3-8回）、技術革新の生活社会への影響（9-12回）といった各側面から紹介するとともに、技術革新研究の方法論（13、14回）についても学習する。	複数教員共同担当
	デザイン工学 （ 08 ）	多様化、知の時代となり、工学設計も大きく変化してきている。その最大の変化は、モノから人への焦点の移動である。これまでは、いかに必要なモノを提供するかが主眼であったが、これからは、いかに満足を提供できるかが重要となってくる。そのため、人の欲求、個性、感情、感覚、相性、コミュニケーション、など、これまで、あまり工学設計では考慮されてこなかった人間の特性に関する考慮が重要となってきた。 本講義では、大きく変貌しつつある工学設計の動向を紹介し、それを実現する技術について述べる。	
	都市と防災 （ 08 ）	本講義は、都市を災害から守るための取り組み方とその変遷について全15回にわたって講義する。包括的に都市防災の体系を修得するための総論（第1回から第5回）、災害発生メカニズムとその対策について学ぶ「都市災害の事例」（第6回から第10回）、都市防災上の取り組みと事例について学ぶ「各論」（第11回から第15回）の3部から構成される。	複数教員共同担当
	環境デザイン論 （ 09 ）	環境デザインの視点から建築、造園、都市設計にまたがる新たな分析手法、デザイン手法を解説し、その応用例を示しながら、展開例について論述する。 第1編 環境デザインとは 第2編 歴史から学ぶ環境デザイン 第3編 行動から学ぶ環境デザイン 第4編 地域から学ぶ環境デザイン 第1章～第2章 環境デザインの座標について 第3章～第5章 日本の歴史から環境デザインの伝統について 第6章～第10章 人間行動の環境デザイン論について 第11章～第15章 地域からの文脈をとらえた現代的な課題であるサステイナブルな環境デザインについて	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	卒業研究 (社会と産業)	1. 卒業研究は、各専攻に所属している全科履修生が、教員から直接指導を受け履修する選択科目です。 2. 履修を希望する場合は、学習センターの窓口にて配布(毎年6月中旬)の「卒業研究履修の手引」を入手し、卒業研究申請書を提出してください。 3. 提出された卒業研究申請書をもとに教員が審査を行った結果、履修可の通知を受けた方は、所属する専攻の卒業研究の科目登録申請を行ってください。 審査の結果、履修が認められない場合は、履修申請条件を満たしていても科目登録申請・履修はできません。 4. 他専攻の卒業研究は履修できません。 5. 既に修得した専攻の卒業研究は履修できません。 6. 履修期間は、4月から1年間です。従って、履修途中(第1学期末)で卒業要件を満たしても第1学期末での卒業はできません。	複数教員共同担当
	現代社会と法律学	「社会あるところに法あり」というローマの法格言があります。これは社会構造が高度に複雑化している現代国家においてもあてはまるものです。この授業ではわが国の法体系を概観しながら、具体的な事案の検討を行うことにより法的な思考方法を身につけることを目的としています。	
	経営管理：組織のマネジメント	本講義では、複数の人々が組織の中で協働して目標を達成するプロセスにおいて、経営者(管理者、マネジャー)はどのような点に注意すべきかについて、理論的・実践的な理解を深めることを目的とします。具体的には、経営管理(マネジメント)に関連する概念の具体的内容と、その概念の背景・問題点について学びます。さらに、この概念と現代のマネジメントとの関連性についての検討も行います。	
	現代日本のマクロ経済分析	本授業の目的は、現実の日本経済の姿とマクロ経済学問題を正しく理解することにある。そのために、授業の前半ではマクロ経済学の基本的な考え方について学習し、その後、日本の現実のデータに着目して、現在の日本経済が抱えている諸問題、とりわけ80年代後半の「バブル経済」、90年代前半の「バブル崩壊」、90年代後半の「金融不安とデフレ」、そして00年代前半の「実感なき景気回復」について概説する。	
	行政の活動と市民	行政の活動は、市民生活に必要なものでありながら、行政に対する市民の不満がつもっている。本講義では、行政とはそもそもどのようなものであるのか、なぜ行政活動が必要なのか、について触れたあと、主として「行政責任」と言われている行政を統制する手段、行政責任のディレンマ、行政活動を市民のコントロールの下に行うために考慮しなければならないこと、などについて講義する。	
	談合とコンビニと独占禁止法	独占禁止法は事業者の自由な競争を制限する行為や、不正な取引方法を規制する法律です。例えば、近年よく報道される入札談合は、この法律によって規制されています。その他にも、人気ゲームソフトと人気のないゲームソフトをセットでのみ販売する行為や、下請業者等に負担を押し付ける優越的地位の濫用行為なども規制対象です。我々にとって意外と身近な独禁法を、入札談合やコンビニの問題等を通じて勉強してみましょう。	
	会社の中でどう生きるか	会社の中で自分はどのように仕事をしてゆか、迷ったことはありませんか?この講座では、会社の中でどう生きるかについて、特に3つの内容を示し、会社の中で生きるためのヒントを考えたいと思います。1つめは、会社の中でどのように仕事にやる気を持つかです。2つめは、会社の中でどうやって他者と仕事をするか、特に、上司と部下の関係を考えることです。3つめは、会社の中で自分の将来をどのように設計するかです。	
	地震に強い家弱い家	1995年の阪神淡路大震災では、六千数百人の人々が亡くなりましたが、このうちの大部分が倒壊した家の下敷きになって亡くなっています。ここでは、地震に対して強い家と弱い家の見分け方、弱い場合の対処方法について学びます。また、建物が成り立っている原理、地震に抵抗する原理を、工作用紙を使った工作を通じて学びます。	
	津軽の風土と選挙・地域と教育	かつて津軽では奇想天外な選挙違反事件が頻発しました。その中から代表的な事例を取り上げて考察します。また、こうした事件の背景についても分析することにします。そして、こうした事件を頻発させた背景の一つとされる風土を変えて行くには、教育の力が大きいといわれます。そこで、地域社会と教育についても学ぶことにします。	
	現代社会の政治学	社会の変容に伴い、現実の、またあるべき政治の姿も変容していきます。当然政治学も刷新を迫られます。この授業では、現代の政治理論の一端を紹介しながら、現代社会にふさわしい政治のあり方を考えていきます。民主主義(理論)の変容、政治的対立軸の変容(新しい政治的価値・争点・アクターの登場)などをテーマとします。	
	木炭の科学と工学	最近、燃料としてではなく、木炭の効用が見直されている。それは水や空気をきれいにする働きであったり、肥料や防虫剤としての役割などである。また、炭焼きの途中で回収される木酢液はアトピーや水虫に効くといわれている。受講者は「たかが木炭」と思っているかもしれない。だが、本講義を通して、木炭の効用は植物の成長機構と深い関係にあること、炭焼き技術は持続可能な社会構築の鍵となっていること、を学ぶことになるでしょう。成績評価は、出席状況と小テストにより行います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	市民社会と法	日常の家庭生活に最もかかわりのある事柄を学習します。男と女、夫婦、親子、親族関係など感情のもつれから紛争が発生します。知っているようであっても、以外と細かな所までは知らないことがあり、まさに実際に役立つ実務型の学習といえます。日常生活、市民生活のトラブル解決に役立てたいと思います。	
	快適に使うインターネット	インターネットはコピキタスIT社会における必須のインフラであるが、インターネット上ではフラッド攻撃などを含めた異常トラヒックも流れていて、快適なウェブ閲覧やメールのやり取りを阻害することもある。快適さを保つためには適切なネットワークの診断と、それに基づく対策が必要となる。この授業では情報通信の話から始めて、確立を利用したトラヒック変化の検知法と、これによるネットワーク診断の方法を紹介する。	
	資源開発と都市鉱山活用法	資源開発という視点で資源問題の現状に触れ、鉱物から有用な金属を回収するまでの基本的な流れを説明する。それと対比して、都市で発生する有用な金属を含む廃棄物「都市鉱山」の考え方やリサイクル手法、金属回収法などを研究例を交えて解説する。	
	民俗芸能の踊りの伝承技術	民俗芸能の踊りは後世に伝えなくてはならない貴重な無形文化財であり、近年、情報技術（IT）を活用して伝承を支援する手法の開発が進められている。モーションキャプチャを使って踊りの動きを3次元デジタル情報（舞踊符）として記録し、CG技術を活用して様々な視点から踊りを鑑賞できるデジタルコンテンツを制作する技術である。本授業では、実習を交えながらこの記録技術を紹介し、ITによる伝承技術の可能性を考える。	
	産業の成長と都市の生成・発展	都市は産業によって支えられている。本講では、都市と産業の関係を踏まえ、様々な都市の生成・発展・衰退の過程を辿り、そのメカニズムを明らかにする。日本の明治以降の近代化の歴史は、工業化、都市化の歴史であると言われているが、その萌芽は江戸時代にある。このことを考慮すれば、地域活性化の道筋を明らかにすることができる。あわせて、東北地方における中小都市の地域活性化施策について紹介し、その改善策について述べる。	
	ニュージーランドの政治の行政	諸外国の実状を学ぶことは、日本のあり方を考える際の「鏡」となる。本講義では、ニュージーランドの政治・行政を学ぶことを通じて、日本の政治・行政のあり方を考えていく。「政治」については主権者である国民を中心に据えた民主政治の状況、そして「行政」については民間原理の導入を基軸とする「New Public Management」のあり方について学ぶ。	
	戦後日本の地方政治	自民党単独政権の時代が終わり、また社会党や「社会主義」・「革新」が死後となって、すでに20年近くなります。戦後体制の確立期（1955～1993年）に、日本政治は保守と革新の対立を基本構図として展開されてきました。この保守対立は、地方政治の場ではどのような形で現れ、住民にとってどのような役割を果たしたでしょうか。東北地方の事例を参考に、地方政治の基礎基本を勉強しましょう。	
	地球環境とリモートセンシング	地球環境をモニタリングするために、紫外域～赤外域までの光とマイクロ波を使用して、人工衛星から観測している。このように離れた場所から対象物を観測する技術がリモートセンシングである。（改行）本講義では、リモートセンシングの原理、観測センサの原理等の他、使用される画像処理や画像解析手法、地球環境変動現象とリモートセンシングの関係について理解を深めることを目的とする。	
	日本経済論	岩田規久男氏の『日本経済を学ぶ』を検討する。本書では、戦後復興から高度成長期、石油ショック、円高不況、バブル経済の発生と崩壊という、戦後日本経済の歴史的流れのみならず、産業政策や日本的経営、経済政策、構造改革の評価が、独自の切り口で解説されている。本講義では、氏の「日本経済論」の展開を確認した上で、その主張を多面的に検討してみたい。	
	パレスチナ難民問題	世界の難民のうち4人に1人はパレスチナ人です。この難民問題をパレスチナ問題という国際政治の枠組みに位置づけます。ヨルダン、レバノン、パレスチナなどの現地調査を踏まえ、映像を多用した講義を展開します。	
	バイオテクノロジーと社会	本講義では、バイオテクノロジーと社会との様々な接点について多面的に考察するとともに、産業と社会との相互関係を捉える視点を養う。バイオテクノロジーの産業的利用（遺伝子組換え作物など）が進む中で、どのような経済・社会的な影響が生まれつつあるのか、市民や消費者の反応はどうかなど、多面的に考察する。またそれぞれの観点について、国内だけでなく、国際的な動向についても触れる。	
	景観の分析と評価手法	本授業は、景観の調査、解析、評価の基礎手法についてより具体的かつ新しい内容を含めて解説し、受講生の皆さんが身の回りの景観をより客観的に捉え、その良否を考察できる力を身につけることをねらいとしています。主な内容は、人間の視知覚特性と景観解析指標、色彩の調査・分析、心理学的評価手法です。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	ツーリズム産業と都市	ツーリズムは現代の社会にとって産業的にも地域的にも重要な課題となっている。先進諸国にとっては豊かさや余暇時間の増加により観光客の送出国となり、開発途上国にとっては観光客の受け入れによる外貨収入が課題である。先進諸国においても観光が重要性を持つ国も多いし、日本も観光立国を目指し始めた。観光客の国際的な移動、空間関係、観光資源の種類と立地、観光地域の形成と地域の発展といった課題を都市ツーリズムを中心に考える。ツーリズム産業はサービス経済化の流れの中で重要性を増し、数少ない成長部門であるし、地域の視点からは地域活性化・街づくり運動に結びつく。世界遺産登録もツーリズムの点からも再検討する必要がある。具体的な事例としてはヨーロッパの事例といくつかの日本の事例を検討する予定である。	
	フィリピンの社会と政治	グローバル化が進展し、国境を越えた物、金、サービス、人、及び情報の移動が益々拡大する21世紀に入り、日本と東南アジアの関係もこれまで以上に深化していくことが予想されます。しかしながら、一般的日本人の同地域に関する知識は、欧米や東アジアと比べると、まだ断片的なのが現状ではないでしょうか。本講義は、東南アジアの一国であるフィリピンを取り上げ、その自然、民族、歴史と国民国家形成、社会、経済、及び政治を概観し、フィリピンの全体像を描きます。最後に、日本とフィリピンの関係の歴史と現状を考えてみます。	
	東南アジアの社会と経済	東南アジアは日本の歴史教育の中では空白の地域である。この授業の目的は、東南アジア諸国の歴史を紹介し、それを基礎にして戦後の世界の中での東南アジアの歩みと、今後の東アジア共同体構想について議論することである。具体的には、前半は東南アジア主要国の歴史を紹介し、後半は「東アジアの奇跡」と東アジアの通貨危機の原因を簡単に説明し、最後に、アセアン+日中韓によって東アジア共同体を形成すべきという意見について、私見を明らかにしたい。	
	アメリカ経済論	国際経済は2007年のサブプライム問題以降、大きな変化に直面している。この変化の大きな源は、アメリカである。つまり現代国際経済の動向を理解するためには、アメリカの社会および経済を理解することが不可欠である。この講義ではアメリカ経済を軸に、それ大きな影響を与えている諸要因について考えていきたい。	
	開発と地域社会の変動	本講義は、21世紀の日本の地域社会が大きな転換点を迎えている。それを乗り越えるために、分権化、自治体合併、まちづくり等様々な施策が市民参加の名目の下で推進されている。このような事態がなぜ生じているのか、その効果は、という問題を講義で明らかにしたい。	
	生物多様性保全と国有林管理	利根川の源流域は、大水上山から三国山頂へ延びる分水嶺に遮られ、多量の降雪に見舞われる。入り組んだ支流と山脈とが複雑な地形を生み出すとともに、太平洋気候と日本海気候とが重なり合い、多様な植生と豊かで独特な動物相が観察される。また、この地域は首都圏の重要な水源地となっている。豊かな水源と生物多様性を保全していくために、わが国森林管理の歴史に新しい構想を提案する「赤谷プロジェクト」が地域、関東森林局、日本自然保護協会の連携で始まった。本授業では、1日目はこの森林管理の新しい試みを学習し、2日目に赤谷源流の豊かな自然を観察して、わが国の水源と生物多様性の保全を考える。	
	民族問題とは何か	20世紀は「戦争の世紀」であったと言われる。戦争の背景に、またその原因として「民族」の存在がしばしば言及されてきた。しかも20世紀に顕著化した様々な民族問題は、そのまま21世紀に持ち越されている。そこで、本講義では、民族問題や民族紛争に関し、いくつかの具体的な事例を取り上げ、さまざまな視点から考えてみたい。そして、「民族」とは何かという根源的な問題、「民族」の作られ方、全体社会における少数集団のあり方、「民族」対立の構図など、理論的な側面も同時に検討したい。	
	ソーシャル・イノベーション	NPOや企業による社会問題解決型事業に注目し、新たな価値を社会にもたらすソーシャル・イノベーションを取り上げる。授業内容は授業のテーマに沿って行う。	
	人的資源管理	人的資源管理は、企業の中で人が効率的に働く仕組みを研究する学問である。人的資源管理の古典(科学的管理法、人間関係論、行動科学など)から、近年の人的資源管理の考え方で広く学習する。具体的なトピックは授業テーマに示した通りである。授業内でディスカッション、レポート(時間内に書いて提出)を取り入れる予定である。	
	中国とインドの経済圏	アジア経済、特に中国とインドの発展は、グローバル化の典型たるオフショア金融センターからの投資に支えられるという現代的な様相を呈しているが、他面、その背後に中国系・インド系旧移民とエスニシティの存在をも認めることができる。本授業が通常のアジア経済論と異なり、アジア経済の現代と過去を行きつ戻りつ、人の移動という視点から歴史的にとらえようとするのは、この逆説的状況を理解したいからである。	
戦後アメリカの歴史	第二次世界大戦後から今日に至るアメリカの内政と外交を概観する。政治史に重点が置かれるが、関連する社会的・文化的諸相にも触れ、できる限り包括的な理解に資するよう心がけたい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	管理会計	管理会計は、経営者や管理者のための会計であり、経営者や管理者が組織の経営意思決定を行うために必要な計算情報を提供することを目的とする会計である。本講義では、経営意思決定問題の本質を理解し、考える能力を養うことを目的とする。なお、履修にあたっては計算を必要とする場合があるので、電卓を各自、持参すること。	
	国際政治・イスラム政治思想	現代中東政治のダイナミズムの把握を講義の第一の目的とします。そのため、現在の中東政治（イラクの内戦状態やパレスチナ分裂など）の駆動力になっているイスラム原理主義運動（別の言い方ではイスラム主義、政治的イスラム、サラフィヤ・ジハード主義運動など）の理解に重点を置きます。また、講義では、中東になじみのない学生たちのためにビデオ映像を使用します。	
	食料・農業・環境論	日本の食料自給率は39%となり、主要先進国の中で最低である。さらに担い手の高齢化、耕作放棄地の拡大等、先行きは極めて不安定である。消費者は食料自給率低下・食料輸入の拡大の中、安全安心で持続性のある食料供給を望んでいる。現在、国は新しい農政改革に取り組んでいるが、農業の産業としての自立、食料自給率の向上は可能なのか、食料・農業・農村環境の視点から究明・検討する。	
	戦後日中関係史	第二次世界大戦の終結から日中平和友好条約の締結（1978年）に至る時期を中心に、戦後日本の対中国外交の歴史を検討します。指導者たちの残した文書を直接読みながら、彼らの対中国外交の構想に迫るとともに、その外交がいかなる国際的・国内的条件に左右されて展開したのか、といった点を考えていきます。	
	熱帯の農業と農村	「熱帯」と一口に言っても、そこで作られる作物や農法など農業の姿は多様である。また、農作業等における男女の役割と女性の社会的地位、農村社会の組織、社会の階層性など、社会構造にもきわめて大きな違いが見られる。本講義では、まず、ベトナム、インド、バングラデシュそしてパキスタンを主な事例として、熱帯における農業の姿を紹介する。次に、これらの国の農村社会について、農村社会における伝統的な組織、宗教、ジェンダー、土地所有構造、職業の多様性、貧富の差、環境などをキーワードとして見ていく。そして最後に、これらの国において、農業や農村社会・経済の発展がどのように模索されているかを日本との関係なども視野にいれながら紹介し、その可能性と課題などを考えていく。	
	知的財産とビジネス	最近、知的財産（知財）という言葉をよく聞くようになりました。先進諸国、特にアメリカを中心に、1980年代から知財が注目を集め、発明にせよ、ロゴマークにせよ、人間の知恵によって生まれたものを「知的財産」として重視し、それを活かして企業競争力を強化したり、文化の進展を図ったりすることが進められてきたのです。今、日本でも「知財立国」が熱心に勧められています。そこで、本科目では、知的財産やその権利について関する基礎知識を修得するとともに、ビジネスにおいて知財がどのような役割を果たしているかを学びます。（ただし、本科目は、特許権、意匠権、商標権等の「産業財産権」を中心とし、著作権等については触れません）。	
	20世紀政治のなかの憲法第9条	憲法第9条の考え方は、第1次世界大戦の悲惨な戦争体験のなかからアメリカで生まれ、第2次大戦の敗戦国日本へと引き継がれました。授業では憲法第9条が生まれた背景と経緯のほか、日本国民がどのような形で受け入れたのかについてお話しします。主な内容は（1）第1次大戦後の平和体制、（2）日本の対外戦争とアメリカ、（3）憲法第9条の誕生、（4）日本の再軍備、（5）安保条約の成立、などです。	
	社会の中の会計	人間の社会生活の営みのなかで、どうして会計が誕生したのでしょうか。本講座では、まず会計誕生の歴史的必然性を探るところから始め、社会における会計機能を理解しようと試みます。つぎに、会計に求められる機能を実現するために、人間はどのような方法を工夫してきたかを探り、会計技術としての簿記や原価計算の必然性を理解します。各回の授業では、前半の講義で内容を理解し、後半の演習で知識の定着をはかります。また、現代の会計実務を鑑み、コンピュータによる会計演習を行います。	
	経営戦略と危機管理	戦略とは戦いの策略であり、戦いを支配する原理原則をわきまえねば、破滅をもたらす危険な戦略となる。また、予想できない様々な変化と脅威に対応して、戦略を臨機応変に改廃し、また、脅威を回避ないし打破するための危機管理に劣れば、やはり破滅する。本講義では、以上のような考えにより、経営戦略の立案・遂行をなす上でわきまえるべき理論と方法を論じる。成績評価は授業への出席状況を重視して行う。	
	コミュニティ論	コミュニティの構造、住民、社会関係について検討し、都市の空間構造を解明し、都市の比較分析を行います。	
	企業風土の改革	激しい経営環境の変化の中で、企業や組織は変革に取り組んでいます。組織文化の機能、問題、環境適合と組織風土・体質変革のプロセスおよび変革型リーダーシップについて外観します。	
	社会調査実習A1	質的調査の基本的手法として、フィールドワークの方法、インタビューの技法、文書の分析法を身につけるようにします。	
	企業価値創造型リスク管理	企業に関わる現代的なリスクマネジメントについて、単に損失の軽減・除去の視点からだけでなく、企業価値を向上させる視点から、授業を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	経済社会へのアプローチ	経済社会の生成・発展について重要と思われるいくつかのアプローチを紹介し、また、通説の何が批判されたのかをも見ます。（１）遡及：１１世紀ヨーロッパ経済の上昇開始とアジアとの格差（マディソン）（２）逆説：禁欲主義と１６世紀資本主義の成立（ウェーバー）（３）逆説：「企業者」の権勢・競争・創造への動機と経済発展（シュンペーター）（４）視角：大家族制度の価値観と２０世紀「社会主義」（トッド）（５）視角：人の移動と経済社会（補足）。	
	安全・安心な建築の構造	日本は地震や台風などの自然災害が多い国である。この講義では、現在の建築設計で考慮している外力のレベル、さまざまな構造種別の特徴と沿い害への対処方法について概観し、安全安心な暮らしに結びつけることをめざす。	複数教員共同担当
	現代社会論	本講義では現代社会の諸相を社会的に考察し、個人と地球規模での世界との関係性が透徹できるようにする。具体的には個人化と家族、ジェンダー、少子化・高齢化、格差社会、労働世界の変容とIT化、エスニシティといった問題を扱い、更にグローバル化を国民国家、市場、世界システムに照準を定め考察し、世界リスク社会論を紹介しながら、環境問題、テロ、戦争といったアクチュアルな問題にも分析を加える。	
	日常生活における民法の役割	物を買う、銀行に預金する、不動産を買うあるいは借りる、会社等に入社する際、雇用契約を締結する等、個人の日常生活、あるいは人生の節目において、民法やその特別法である商法、労働関係法等の民法は重要な役割を果たしています。しかし、このような民法の役割は、まだ日本人の市民生活においては、それほど意識されていないと思います。そこで、このよう市民の日常生活における民法の役割について、簡単に解説したいと考えております。また、民事紛争が生じた際の解決手段についても、時間の許す限りで触れたいと思います。	
	やさしいメカトロニクス	近年の目ざましいエレクトロニクスの発展によって、産業界、家庭における電気製品、情報機器にメカトロニクスの応用が随所に見られる。メカトロニクスには、センサーや制御などの技術が非常に重要な要素となっており、これら要素や構成についてわかりやすく解説する。	
	ロボットと社会過去・現在・未来	ロボットの進歩を時系列で過去、現在、未来と辿り、現在何が大きな研究課題となっているかを解説し、未来社会はどのように予測されるかを展望する。	複数教員共同担当
	中国の自然環境保護	最近、春先に大陸の向こうからよく黄砂が飛んで来る。中国の自然環境は、なにか異変が起こっているのか、国民の関心が高まっている。本講義は、いくつかの事例をもって中国の自然環境の変遷歴史及び自然環境保護の取り組みについて紹介する。これを通じて発展途上国における自然環境保護の意義を理解し、当面、自然環境保護に普遍的に存在している問題点を明らかにし、２１世紀における自然環境保護のあり方を探る。	
	社会技術概論	「社会のための科学技術」の重要性が認識されつつある背景を概説し、社会問題と科学技術の関わりについて事例を紹介しながら、社会的・公共的価値の創出を目指した科学技術活動の現状や課題について考える。	
	ヨーロッパ国際政治史	ヨーロッパの国際関係の発展過程の歴史を概観することを目的とします。近代国家体系の成立、ナポレオン戦争、ウィーン体制を経て形成された「ヨーロッパ」が、行き詰まりの果てに経験した第一次世界大戦、第二次世界大戦前夜までを取り扱う予定です。その際、外交や戦争の側面を重視しながら、欧州国際政治の歴史を大きな視点からとらえることを目的とします。内容に関する項目や、関連文献の一覧は授業当日に配付いたします。	
	会計学	本講座は会計学の入門として、５回にわたり財務会計の機能と役割について講義を行う。第１回 会計学総論第２回 簿記論第３回 財務諸表論 総論第４回 財務諸表論 各論第５回 財務諸表分析特に、財務会計の歴史のなかで、投資家保護が債権者保護に続いてなぜ主張されたかを考えながら、株式会社の財務報告について説明する。	
	紛争・植民地支配下の熱帯農業	熱帯の自然環境は豊かであるにもかかわらず、住民の生活は豊かさから程遠い。北の先進国による植民地支配、戦争の輸出が原因としてある。熱帯農業の現実を見つめることで、現在世界の抱えている問題を洗い出し、支配の構図、環境危機の原因、状況を変えるうえに私どもができることを考える。	
	経営学	経営学の基本的な原理を理解し、現代企業の経営行動を考える。とくに、日本的な経営の考え方や手法に関連づけて進めたい。具体的には、経営学の生成と発展、経営の原理、企業の実在意義と形態、経営者の役割（経営機能とリーダーシップ）、イノベーションの経営、企業グループの経営、日本的経営と経営文化、経営の社会的責任（環境経営、経営倫理など）を採り上げて、一緒に考えてみたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	まちづくりの基礎	20世紀の都市計画は、住民参加ということばはありましたが、実質的には行政が担ってきたといつてよいでしょう。21世紀は、人口減少や都心回帰などさまざまな社会変動の下で、自分たちのまちをどうすべきか、どのような将来の姿を想定しそれに近づけていくべきかという課題に、市民がとりくまねばならない状況にあります。行政だけではできないこの作業「まちづくり」について演習をまじえながら基礎を学びます。なお、授業中に現地調査を行います。	
	社会調査実習 A 2	社会調査実習 A 1 で身につけたことを踏まえて、調査結果の分析と報告について具体的に検討します。	
	食品と経済入門	食品を経済学の観点から分析する際の基礎的な7項目について学びます。1. 食と農の距離の拡大と農家飲食費自給率の変化。2. 日本型食生活とPFC熱量比率。3. エンゲル法則とその例外。4. 弾力性値による食品の分類。5. フードシステムとフードチェーン。6. 最終消費から見た飲食費の流れ。7. 食品企業行動と消費者主体性。8. まとめと試験(最終回)。以上の入門講義のほかに、歴史分析や政策分析を学んで、現状批判分析へ前進してください。	
	戦後イギリス政治史	本講義では、「二大政党制」の国として知られるイギリスの戦後政治史をとりあげ、政党政治が福祉国家の発展と変容にもたらした作用について概観し、政治と福祉国家の関係を考える。戦後福祉国家の基礎を築いたアトリー政権、ネオ・リベラリズムに基づく改革を实践したサッチャー政権、「第三の道」を掲げたブレア政権という三つの政権を中心に取り上げ、歴史的考察から浮かび上がる今後の政党政治と福祉国家への展望をさぐる。	
	センサの基礎と応用	センサとは、温度、圧力、変位などの物理量をシステムに取り込む、生物の触覚に対応するきわめて重要な要素である。工業的な生産システムに限らず、我々の身の回りにもセンサが多用されている。本講義ではまず、計測制御システムの基本的な考えを解説し、システムにおけるセンサの働きを説明する。続いて様々なセンサの動作原理とその特徴について、実演を交えながら解説する。さらに身近な最新センサ活用事例をいくつか紹介する。	複数教員共同担当
	東アジアの安全保障	本授業においては、東アジア安全保障システムの概要を理解すると共に、地域安全保障に関する時事問題の解釈力を向上することを主眼とする。具体的には 国際問題の分析枠組み(国際関係理論) 東アジア安全保障システムの歴史(米国同盟ネットワーク、多国間枠組みの役割) 中国(「中国台頭」とその影響) 北朝鮮(第一次・第二次核危機の分析) ASEAN(「ASEAN方式」と「東アジア共同体」構想など)、をトピックとし講義を行う。	
	省エネルギー技術の基礎と応用	エネルギーを使わなければ産業や生活は成り立たない。しかし、エネルギーは高い質の状態から少しずつ低い状態へ何度も使うことができる。この原理を有効に機能させることが、省エネルギーの技術である。電力、鉄鋼、化学などの産業での代表的な省エネルギー技術を解説すると共に、エアコン、冷蔵庫など家庭でのエネルギー変換機器についての省エネ技術も解説する。省エネルギー技術の基礎をできるだけ易しく解説すると共に、具体的な応用事例を紹介する。	複数教員共同担当
	パレスチナ難民問題	世界の難民のうち4人に1人はパレスチナ人です。この難民問題をパレスチナ問題という国際政治の枠組みに位置づけます。ヨルダン、レバノン、パレスチナなどの現地調査を踏まえ、映像を多用した講義を展開します。研究者とNGOの実務者がチームを組んで理論と実践、国際政治の論理と現地での肌感覚を融合させた熱い講義を展開します。他人の苦しみに対する想像力が受講の唯一の条件です。	
	知的財産と中小企業支援	独自の技術と経験を持つ中小企業が活発であることが日本経済を支えてきたが、ここでの知財管理や経営戦略は十分でなく、それを支援する人材が求められている。これに応えるべく、前半では知的財産に関する全体像をできる限り初心者に対して分かりやすく解説し、かつ最近の知財情勢や問題についても講じ、後半では中小企業のおかれた環境の変化を示し、支援の政策や実例を紹介しながら経営戦略に資することを目的とする。	複数教員共同担当
	広報と危機管理	新聞紙面、特に社会面、経済面における企業不祥事が後を断たない。隆々と栄えてきた企業の経営トップが頭を下げてお詫びする姿をどのように思われるか。「どうして・・・」「まさか・・・」「またか・・・」「まだあったの・・・」企業は社会と共に存在し、社会からの信頼を得て、はじめてその事業の存在価値が生まれてくる。社会とのコミュニケーションに焦点を当て、主に企業の広報活動における危機管理を事例を示しながら講義する。	
技術と経営のイノベーション	電子技術、機械技術、材料技術などの各種技術がどのようなイノベーション(革新)により開発され、どのような経営により商品やサービスに結びつき、事業や産業を形成していくのか、そのプロセスを効果的に管理していく学問が技術経営学(Management of Technology)である。本講義では技術経営に関して具体的な事例に基づき、経営戦略、技術マーケティング、品質マネジメント、知的財産マネジメントなどを初心者でも理解できるようにそれらの考え方、方法論を解説する。	複数教員共同担当	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	暮らしを支える材料	現代の生活を支えている材料は、現代科学技術の基盤でもある。持続可能性の重要性が高まる中で材料の対応も必然である。その潮流を知るとともに、これからもその重要性が高まる高分子材料について、高分子製品の製造と環境調和の現状と高分子材料が支える未来の社会を展望する。一方で、高分子材料がなぜ環境問題で問題となっているのか、その現状を把握しながら高分子材料のあるべき姿について考える。	複数教員共同担当
	政治思想：近代社会契約論の探究	本講義は、ホブズ、ロック、ルソーといった社会契約論者を中心に近代の（17世紀以降の）政治思想を解説します。近代国家がいかに法的、イデオロギー的に正当化されたのかを学びながら、彼らの政治思想の現代的意義やその適用可能性を共に考えます。	
	戦後日本の「保守」と「革新」	本講義は、戦後日本において世論形成の一翼を担った知識人等の議論を参照しながら、六〇年安保期以前の政治状況を立体的に理解することを目的とする。戦後論壇における進歩・革新的思潮のみならず、それへの対抗言説としての側面を持つ、保守思想と名指された言説にも光をあてることで、六〇年安保後に定着していく保守対立構図の生成過程を概観したい。なお、成績評価は授業への出席状況を重視して行う。	
	家族社会学	家族の形態と機能、家族意識、夫婦関係、ケアなどを中心に、家族の変化・変容について問題とします。	
	CSRと危機管理	近年CSR（企業の社会的責任）が新しい経営の基軸として認識されつつある。社会的責任が果たせない企業は、その不誠実さゆえに社会から糾弾され、最悪の場合には市場からの撤退を余儀なくされる。本講座では、グローバル時代におけるCSRの基礎的事柄や世界の動向、さらには企業を取り巻く多様なステークホルダー（株主、顧客、従業員、コミュニティ、NPO・NGOなど）との関係を、危機管理の視点を交えながら、なぜ今CSRなのかを俯瞰する。	
	暮らしの中の証券市場	貯蓄から投資の流れの中で、証券市場を取り巻く環境は大きく変わり、その意義は重要となり、また、金融機関の提供する金融商品やサービスが多様化するなど、今後、私たちは効率よく商品等を探し出して選ぶ「眼」が必要になってきています。本授業では、証券市場が私たちの生活にどのように関わっているのか、証券市場の役割から自己責任時代の金融商品選択について、債券・投資信託・株式を中心に学びます。	複数教員共同担当
	コンプライアンスと危機管理	わが国の社会構造の変化や国際化に伴い、企業の社会的役割・責任についての認識が変容し、それに応じて、企業の組織・行動は、従来の危機管理を超えた範囲で、社会全体を見据えた規範としてのコンプライアンスが要請されるようになった。講義では、ビジネスコンプライアンスを中心に、企業活動とコンプライアンス、企業経営でのコンプライアンス確立の実際、企業買収・M&Aや消費者問題とコンプライアンスの関係等を取り上げる。	
	メーカ（製造業）への就職と仕事	工業（主に製造業）を一つのシステムとして捉え、生産管理や損益管理などの管理システムの概要や組織、製品開発等の考え方を紹介する。制御、計測のフィードバックシステムの応用例も紹介する。エンジニアとしての基礎的な知識・実技の習得、心構え、リーダーシップ、会社は誰のためにあるか等についても考えてみる。	
	発展途上国の開発戦略	人口爆発、工業化、都市化による自然環境の破壊、貧困、食糧、エネルギー、資源など様々な問題を抱える発展途上国では、21世紀にその問題をどのように対処していくのかは大きな課題である。本講義では、主に最大の発展途上国である中国の事例を中心に、発展途上国における開発と自然環境破壊の歴史的構造を明らかにすると同時に、将来、共生と循環型社会づくりを向けて、開発と自然保護の両立の可能性とその条件を検討する。	
	現代の国際労働移動	現代の移民の動きを知るための授業。20世紀前半までの約100年にもわたる地球大規模の過去の移民が現代の国際政治はもちろんアジア経済の発展にも作用し続けているように、再び活発になっている今日の人の移動も、過去のあり方と異なるとはいえ、受け入れ・送り出し両地域の将来に大きく影響することになる。欧米、石油産出国、アジアをめぐる移民の世界的な動向を紹介しながら、日本の外国人労働者問題にも言及、その投げかける問いを実態に即して考えてゆきたい。	
	表計算によるビジネス統計入門	ビジネスを効率的に運営するには、統計的分析が不可欠です。統計処理は大量の計算を必要としますが、表計算ソフトを使えば面倒な計算から開放され、結果の分析に集中することができます。この講義は、初歩的な統計分析を表計算で行なう手法を実習し、統計分析になじみをもってもらうことを目的とします。受講上の注意：パソコンの基本操作と表計算ソフトExcelが使えること、および高等学校程度の確率、微積分の数学知識が必要です。	
	20世紀の経済観	経済学における諸学説の背景には、それぞれの学説を自らの立場として現実の経済を観察しようとする論者の見方・考え方がある。この面接授業では20世紀の巨匠、ケインズを中心にハロッド、フリードマン、モジリアニらの経済観を考察し、マクロ経済理論の基礎を学び、現代経済学の考え方を明らかにする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	政治思想：現在政治の再検討	政治思想とは、「自由」「平等」「民主主義」といった、今日の政治に対するわれわれの規範意識に大きく関わっている政治的概念や理念、価値について、分析的に問いつめていくことを主題としている。本講義では、そうした諸々の政治的概念にこだわりながら、政治思想が現実の政治を再考する上で有用な分析枠組みを提供するものであることを、日本や世界の政治的事例を交えながらわかりやすく解説する。	
	地方自治と道州制	放送大学の大学院に専門の講義（「地方自治政策」）があるので、その入門編として、基礎的なテーマをとりあげてみたい。たとえば、1「都」、「道」、「府」、「県」は同じなのか、2道州制の道と州に違いはあるのか、3憲法は「日本国民」が主語なのに、地方自治法は「地方公共団体」が主語なのか等。地方自治の「常識」を疑うことから始めたい。	
	表のサイエンス入門	関係モデルは、集合間の写像にいくつかの制限を加えたものであり、これを表とみなすことで関係データベースに結びつきます。この講義は、表を数学的に抽象したものが関係モデルであり、関係データベースの背後にあるフォーマル（形式的）な理論の重要性を理解してもらうことを目的とします。受講上の注意：関係データベースソフト（Access等）の使用経験と、高等学校程度の数学（技術面よりも論理的思考能力）の理解力が必要です。パソコン実習は行いません（座学のみ）。	
	規制の経済学	本講義は政府規制というものを経済学という視点を通じて学ぶことを目的とした講座です。規制緩和が叫ばれる現在、そもそも規制とはどのような意味があり、いかなる効果（プラス・マイナス両面から）を生み出すのか、といった内容を市場経済メカニズムの側面から見ていきます。カバーする範囲としては、規制や政府介入の度合いが強く、かつ私たちの暮らしに欠かせない公益産業（電力・ガス・水道・交通・電気通信等）の産業構造や市場特性について、経済学の視点から紹介したいと思います。 進め方としては、最初の2コマを基本的なミクロ経済学の基礎（入門レベル）の紹介とした上で、3コマ目から応用へと進め、政策分析を深めてゆくスタイルを取っています。受講対象者：これまで経済学を学んだことのない初心者の方でも歓迎致します。また放送大学における講義「経済学入門」を履修していない方でも一から理解できるように配慮した構成となっておりますのでご安心ください。経済政策や産業政策に関心のある方は一緒に学びましょう。	
	現代に生きる政治思想	本授業では、「最大多数の最大幸福」を道徳と立法の基礎に据えたジェレミー・ベンサムらの「功利主義」と、イマヌエル・カントの思想的影響のもとに功利主義の克服を提唱しつつ、「正義の二原理」を基礎とする公正な政治社会の確立を目指したジョン・ロールズの「正義論」および「政治的リベラリズム」を取り上げながら、現代の政治体制の基本的枠組みとも言うべきリベラル・デモクラシー（自由民主主義）がもつ今日的な意義と課題に関して、批判的な考察を行う。	
	国際政治の中のクルド	イラクの現大統領は、クルド民族闘争を率いてきた人だ。銃をもって戦い続けたクルドの戦士たちが、いまや国の中枢を担う。北部のクルディスタン地域は比較的治安も安定し、復興が進み、外国企業の投資も始まった。周辺国のクルド人も同胞として熱い視線を送るが、国境を跨いだ民族の連帯感には危険も孕む。イラク、トルコのクルドに焦点をあて、少数民族と大国のかかわりを探る。	
	まちの再生とまちづくり	少子高齢化、小売業態の急激な変化、さらに街の建物自身の老朽化、マンションなど集合住宅の普及等は街のそれまでの姿だけでなく、活力をも大きく変えつつある。この講義ではまず街の変貌とその原因を整理し、活力のある街、なくなった街の比較研究を行う。次に住む人にとって住みやすい街とはどのような要素を持っている街なのかを検討し、住む人だけでなく、外来者にとっても魅力ある街を造り、維持していく方法、制度の検討を行う。授業の2時限程度は足立区の商店街の見学、実地踏査を予定している。	
	新大統領とアメリカ政治のゆくえ	アメリカ合衆国は、政治、経済、外交、文化など多くの分野で日本や世界各国に影響力を与える存在である。2008年の選挙では新大統領が選出されて、世界は今後のアメリカ政治の動向を注視している。本講義では次のテーマから、新大統領とアメリカ政治のゆくえを考察したい。（1）08年大統領選挙を振り返って（2）新大統領の政権と政策（3）新政権と歴代政権の公約比較（4）新大統領と三権の権力構造（5）新しい国際関係：対日本、世界各国。	
	国際政治・中東問題の根源と現状	現代の国際政治における重要なイシューの一つであるアラブ・イスラエル紛争について取り上げる。最初に、同紛争を国際政治学、特に地域紛争の視点から捉えると共に、発生の舞台である中東に関する基礎知識を説明する。その上で、同紛争の歴史的背景と現状に至るプロセスについて学習し、最後には解決に向けたシナリオを受講生全員で討論していくことにする。従って、受講前に予め参考文献に眼を通しておくことが望ましい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	20世紀政治のなかの憲法第9条	憲法第9条の考え方は、第1次世界大戦の悲惨な戦争体験のなかからアメリカで生まれ、第2次大戦の敗戦国日本へと引き継がれました。授業では憲法第9条が生まれた背景と経緯のほか、日本国民がどのような形で受け入れたのかについてお話しします。主な内容は（1）第1次大戦後の平和体制、（2）日本の対外戦争とアメリカ、（3）憲法第9条の誕生、（4）日本の再軍備、（5）安保条約の成立、などです。	
	身の回りの光・電子デジタル技術	現代生活を支えているコンピュータ技術やネットワーク技術はデジタル技術をベースにしている。この授業では、まず「アナログ」および「デジタル」とは何かを学び、次に身の回りにおけるパソコン、携帯電話、TV、光ディスク、デジカメ、インターネットなどに使われている光電子デジタル技術の実験を見ながら（実験装置が揃わない場合はVTRで）、それらの技術に親しみ、IT社会を支えている興味深い重要な技術についての基礎的理解を深めていただく。	
	情報ネットワークと危機管理	情報ネットワークの利用に関わるリスクと、その対策、管理の方法に焦点を当てます。各論の一つとして、情報セキュリティのあり方を検討します。個人情報や技術情報の漏洩、映画・音楽などデジタルコンテンツの不正利用などの事象に対する危機管理方法を検討します。各論のもう一つとして、各種の業務情報の管理のあり方を検討します。投資判断ミス、ソフトウェアの品質問題などのリスクを取り上げます。	
	地域情報化	情報化とは、情報技術がもたらすコミュニケーション変革である。個人、小集団、企業など全ての主体が影響を受け、活動の可能性を広げると同時に、不確性を抱えこむ。本講義では、情報化の動向を整理した上で「地域情報化」に注目する。活動の場としての地域は役割を縮小させる一方、現場では再生に向けて熱狂が起こっている。これらの現代的な意味を考察する。また、受講者が抱える身近な問題を、情報技術等を用いて解決を試みる実演習も行う。	
	会計情報ディスクロージャー	近年、企業が開示する会計情報やその開示方法は、多様化しています。例えば、「ある企業が優良企業か知りたい」と思ったとき、どのように調査しますか？本講義では、企業がどのような会計情報を開示しているのか、また、それらの会計情報をどのように入手して、判断するのかについて、学びます。成績評価は授業への出席状況を重視して行います。本講義の受講には、インターネットなどパソコンの基本的操作ができることが必要です。	
	海外事業と危機管理	グローバル化の進展に伴い、リスクの多様化、巨大化が進み、発生頻度も増大している。海外における企業活動のみならず、文化交流等をより効果的かつ有意義に行うためには、避けられる危機を回避し、発生した危機からは被害を極力抑えなければならない。企業活動の継続、国際交流の促進のため、異文化理解の上で、危機管理を理解し、積極的な準備をしたい。	
	裁判の話 - 比較の中の過去と現在	2009年5月から裁判制度改革の一環として一般市民が刑事裁判に参加する「裁判員」制度がいよいよ始まることとなります。この面接授業は、一橋大学大学院法学研究科と東京地方裁判所の協力のもとに、裁判の社会的意義や機能について広い視野からとらえ直す新しい試みとして昨年度に開設したものです。受講希望者も多いことから、担当講師に無理にお願いして今年度も開講することになりました。再受講は遠慮して下さい。	
	経営と会計	企業経営には、人・物・金・情報という4つの要素が必要であると言われています。本講義では、これらの要素のうち「金」、より厳密には「資金」に着目し、これをいかに調達し運用するかという側面に焦点を当てます。一方、会計の目的は、利害関係者の様々な意思決定および企業の業績評価に有効な会計情報を提供することにあります。この意思決定を支援する役割と、業績を測定・評価して企業価値を高める行動を動機づけるコントロールの役割に焦点を当て、それぞれの理論を解説します。	
	予防重視のリスクマネジメント	乳製品食中毒事件、自動車リコール隠し、列車脱線事故と、リスクマネジメントに失敗し、企業ブランドを傷つけるケースが続いている。共通するのは、「事故を起こさない予防」と「事後対応をうまく行う危機管理」両者の失敗であるが、中でも、予防失敗の代償が大きかったことである。予防のリスクマネジメントと、そのための組織と手順の仕組みづくりを提示し、企業の社会的責任マネジメントCSRまで議論を展開する。	
	国際開発協力の進展とアメリカ	今日なお国際社会から貧困がなくなるのはなぜか。これまでの国際開発協力のあり方に問題はないのか。本講義は、国際開発協力のあり方を決定付けるのに大きな役割を果たしてきたアメリカに着目し、アメリカの内政と外交がどのように国際開発協力のあり方を決定付けてきたのかを学び、国際開発協力の課題や可能性について考えることを目的とする。	
	実践の英語	この講義では、身近なトピックを取り上げながら、英語の4技能を高める講義を目指したい。Writing, Reading, Speech & Devate, Thinkingなどの英語能力の向上が期待できるような授業内容を考えている。積極的な講義への参加を望みたい。一般的なテキストのほかに、新聞やインターネットで実際に使われている英語を通して、日々のニュースの内容がどのように表現されているのか、参考にしたいと考えています。テーマを立てて、話し合いながら、表現力を高めていきましょう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	経営管理総論	経営学で明らかにしようとしている基本的な課題について解説する。経営の概念、経営学の基礎となるキーワード（企業、経営、管理、組織、経営効率、事業）などから経営学的視点を理解できるようにする。具体的には、株式会社制度、生産システム、人事労務管理、社会における企業の新しい役割などを学ぶ。	
	自治体学入門	市民や実務者が行政学や行政法学を学ぶとき、学説と実務との隔たりとともに自治体と国との大きな差異に気付くであろう。その間隙を埋めるのが自治体学である。1小史～なぜ自治体学か 2地域学と自治体学 3計画と条例 4自治体議会と財政 5地方自治を機能させるために の異なった観点から解説・考察する。政治学、経済学等の研究成果は適宜紹介するが、予備知識は必要としない。受講資格は「良き市民であろう」とする意欲である。	
	農業はオアシスで始まった	世界の農業起源はドゥ・カンドル、ヴァヴィロフの独立発生説、チャイルドの一元発生説以来、さまざまな説がある。現在は各地での発掘の進歩、方法の多様化を反映して、独立発生説が優勢であるが、学問としては美しさを失っている。本講はユーラシア、新世界の農業を比較観察してきたフィールド派が、穀物栽培に関してユーラシア乾燥地帯のオアシス農業一元発生説を提示し、農業起源の問題に新しい視角を開いたものである。	
	プログラミング入門	「手順を憶え込ませてコンピュータを意のままに動かす」これがプログラミングの世界です。本講座はプログラミングの世界を垣間見る体験講座です。0言語を用いて、コンピュータを動かしてみましょう。内容は、1プログラムとは 2プログラムの書き方 3分岐と繰返し 4虫食い算 5グラフを描くには 6関数のグラフ 7図形の平面運動 8再帰図形 プログラミングに関し全くの初心者を対象としますが、パソコンの基本操作（ウィンドウの操作、文章の編集、ファイル操作、ホームページの閲覧）ができる者に限ります。	
	公的年金問題	高齢社会安定の鍵を握っているのは公的年金です。しかし、現実には、公的年金が社会不安の一因と化しています。1980年代以来、制度改正のたびに、一方で給付水準が切下げられ、他方で負担率が切り上げられ続けているからです。その際、受益と負担をめぐり、世代間対立が論じられていることに注目せねばなりません。本講義は世界の潮流に留意しつつ、日本の現状を分析します。	
	日本とアジアの経済論	90年代以降、東アジアが一つの工場として有機的に統合してきている。その統合化のプロセスの中で、日本は資本提供者として、中国は最終組立基地としてアジアにおけるその地位を獲得しつつある。本講義では、このプロセスを、ヒト・モノ・カネの3つの側面から把握することで、激動する今日の日本とアジアの経済に迫りたい。	
	現代中国経済論	中国では、改革開放政策(1978年末)以降、高度成長が続いており、いまや「世界の工場」であるとともに「世界の市場」になっている。なぜ中国では改革開放政策が成功し、高度成長を続けることができたのか、その要因を考えるとともに、高度成長の歪みについて考え、今後の中国経済がどのように推移していくのかを考える。	
	大気汚染物質の移動と酸性雨	北陸の降雨の90%以上が酸性雨である。大気汚染物質が長距離を移動することにより酸性雨が生じるメカニズムについて解説する。また、酸性雨の現状と影響について、屋久島における河川の酸性化や、群馬県利根川流域の硝酸イオンの流出などを例に挙げながら説明する。大気汚染物質としての重金属の拡散についても触れる。	
	日本の税金を考える	新聞やテレビを見ていると、毎日のように税金に関する記事やニュースが出ています。この授業では、税金に関する新聞記事やニュースを正しく理解し、それらに対して自分の意見を述べられるようになることを目標とします。財政学、税法、会計などの専門知識は必要ありません。授業では、財務省、国税庁などが発行するパンフレットやプリントを利用して、現在の日本の財政状況や将来の見通しを学ぶほか、税金に関する最近の新聞記事をみんなで読み、そこで使われている難解な専門用語をマスターし、記事の背景にある社会情勢などを理解します。また、後半の授業では、実際に所得税の確定申告書（見本）を作成してみることも考えています。そして、最後の授業では、みなさんに授業で取り扱った事項に関して、自分の意見を簡単に発表していただき、全員でディスカッションをしてみたいと思っています。	
	ジェンダーの発達心理学	性差に関する科学的な取り組みは、まずその差異を測定することから開始され、その後性差形成のメカニズムや背景を明らかにする方向へと研究を進めてきました。講義では、性差研究の変遷とその時代背景について学ぶとともに、性差の形成と深く関連する家庭・学校・社会や文化について、心理学の立場から広くジェンダーについて理解を深めます。	複数教員共同担当
	民法入門	民法は、法律の中でも、私達の日常生活（例えば、家族関係）を規律する、比較的なじみのある法律です。しかし、それにとどまらず、民法には、経済的取引の基本ルールを定めているという側面があります。この講義では、法学入門の内容を加えつつ、民法の概略や民法上の主要な制度のいくつかを見ていきたいと思います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	会社法計算規定と会計の役割変化	商法から会社法へ、経済・資本市場のグローバル化、と私達の社会が大きく変わる中、会計もその役割を大きく変えようとしています。1) 会計の利益計算の仕組み、会計の基本的機能など基本的な事柄からはじめ、2) 金融商品会計、税効果会計、不良債権の会計処理、減損会計、連結会計、純資産の部表示など新会計基準の狙いと計算構造、3) 会計の国際的収斂の構図など、会計の役割変化を多面的に解説していきたいと思います。	
	ワインと微生物	ワインに関する基礎を学ぶ。特にワインのアルコール発酵に関与するワイン酵母とワインの減酸作用を行う、ワイン乳酸菌について講義を行う。さらに、いろいろなワイン醸造法についても講義する。また、講義の後半には、実際にワイン科学研究センターの見学を行い、実際のワイン醸造の現場での学習も行う。さらに、ワインを美味しく味わうために、実際にワインを試飲しながら実習する。	
	宝石の世界とその科学	結晶は、テレビ・通信機器等、私たちの生活の、多岐に渡って使われている、身近な材料である。講義では、一般的な結晶についての概念を説明した後、宝石とは？から始まり、多くの結晶の中でも特に、特性、硬度、輝き、希少性で優れているダイヤモンドを中心に、水晶（人工を含む）、真珠等について、物理的性質・化学的性質とそれらの評価（鑑別）を、映像を交えながら、解説する。また、産業への利用について解説する。	
	ものづくりから学ぶ技術の世界1	さまざまな工業製品の恩恵を受けて私達は快適な生活を送っている。要求特性を満足する製品を低価格で製造するためには、設計や生産の各工程において種々のものづくり技術が不可欠である。本授業では、風鈴などの製作実習を通じて、ものづくりに関連する基礎的ならびに最新技術を体験することにより、ものづくり技術の世界に触れる。自作した作品は持ち帰ることができる。	複数教員共同担当
	ものづくりから学ぶ技術の世界2	さまざまな工業製品の恩恵を受けて私達は快適な生活を送っている。要求特性を満足する製品を低価格で製造するためには、設計や生産の各工程において種々のものづくり技術が不可欠である。本授業では、一人ひとりの受講者が手作業や先進加工機を操作して身近な製品（オリジナルネームプレートなど）を自主製作する。一連の製作過程を通じて、「手作業の難しさ」や「先進技術の凄さ」ならびに「ものづくりの楽しさ」を体験学習する。	複数教員共同担当
	ゲーム理論入門	ゲーム理論についての入門的講義です。ゲーム理論とは複数の人間関係の中で各人の利害が自分の行動だけでなく他人の行動によっても左右される状況で各人はどう行動するのがよいかを数学的に考察するものです。本来は応用数学の1分野ですが、本講義では中学終了程度の数学の知識があれば理解できるように解説します。各時間に解説の後、問題を解いてもらいます。	
	グローバリゼーション論入門	今日の世界の特徴であるグローバリゼーションについて、国際関係の歴史や理論、地球環境問題、人権問題、国際安全保障などの具体的な事例を挙げながら、分かりやすく解説して行きます。教材にはプリント資料の他に、ビデオなどを利用します。	
	ワイン学入門	ワインが日本人の生活に定着しつつある。ワインと楽しく付き合うための、ワインに関する基礎を学ぶ。ワインの品質と特徴を決定付けるブドウ品種とブドウに関する一般事項。赤・白・ロゼなど多様なワイン製造法。話題のワインが健康に寄与する仕組み。日本のブドウ生産とワイン消費の現状。加えて、ワインを美味しく味わうための「ワイン鑑評法」について、実際にワインを飲みながら実習する。	
	地球環境と林業経営	地球の温暖化現象は人為的由来によるものであることが明らかになりつつあるが、特にその大きな原因の一つとして森林の破壊が挙げられている。この授業では世界の森林開発の実態と資源利用の状況について検討するとともに、わが国の戦後の林業史と今日の森林資源造成の問題点を明らかにし、これからの林業経営の課題と展望を示す。	
	工業化学	1. 石油採掘と利用 人類が石油(原油)を今のペースで使用し続けるとあと40年で枯渇するといわれている。化石資源の有効利用の観点からも、石油の埋蔵状態、採掘方法、原油の利用等について解説する。2. 石けんの製造と利用 石けん(界面活性剤)とはどのようなものか?洗剤等に利用するだけでなく、いろいろな方面で利用されている。その中で、次の3点について解説する。a) 石けんの種類 b) 石けんの抗菌性 c) 石けんの帯電防止3. 液晶ディスプレイのしくみ4. 先端繊維の話 現在の繊維系学問では、繊維とは「糸、織物」に限らず、「細くて長いものすべて繊維である」。しかし、糸、織物も依然重要な地位を保っている。これらの考え方にたって、先端繊維材料の話をする。	
グローバリゼーションと国民国家	こんにちの世界経済は、グローバル化のなかで、激変とといっていい大きな構造変化の過程にあり、これに対応して、各国民国家の政策や戦略も大きく変化している。それを一言でいえば、従来の福祉国家的なあり方から競争国家的なあり方へのシフトである。この講義では、グローバリゼーション下における国民国家のあり方の変化について、考察する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	中山間地域は再生するか	授業では、まず、中山間地域の現状と課題を総括し、つぎに、岐阜県の旧和良村（現在の郡上市和良町）をフィールドとする総合調査の成果を、1)集落と家族、2)産業と労働、3)健康と暮らしという3つの側面から紹介します。その上で、「平成の大合併」によって中山間地域がどう変わろうとしているのかを考察し、最後に、中山間地域の再生へ向けてどのような展望を切り開くことができるかについて、出席者の皆さんとともに考えます。	
	協同組合とわれわれの未来	国民経済における主要な経済主体は、家計、企業、行政の3つであり、企業の一つとして、経済的な弱者が歴史的に組織してきた協同組合がある。本講義では、協同組合の歴史、法制度などの特質をはじめ、各種の協同組合の現状と今後の役割について明らかにし、「格差社会」を乗り越え、「協同」のある地域社会をつくることについて学生の皆さんとともに考えたい。言い換えれば、「協同組合」の視点から近代・現代の捉えなおしをしたい。	
	セラミックスの製造工程	セラミックスには、高価な抹茶茶碗、花瓶、身近な皿や茶碗、さらにエンジン部品、携帯電話の中の小さな部品のような日常目に見えないもので、多くの製品があり、私達の生活を豊かにしています。これらの製品を作るためには多くの作業手順が必要です。作業手順を大雑把に分類すると、原料作り、混ぜる、形を作る、焼く、製品、であり、製品の再現性と信頼性を高めるためには、一つ一つの作業手順を管理、制御する必要があります。	
	環境エネルギー機能材料工学	エネルギー・資源・食料に乏しい我が国が持続的に発展し続けるには、技術立国として常に新しいものを生み出していかなくてはなりません。本講義では、エネルギーや環境問題の対策としてこれまで開発された機能材料のいくつかを取り上げ、関連する科学と工学について基礎から概説します。専門的知識がなくとも理解できるように努めますが、理解を深めるために簡単な計算問題にトライしていただきます。	
	岐阜地域産業の現状と将来	岐阜地域経済産業の現状を把握し、今後の地域発展のための経済産業のあり方について学ぶ。最近の岐阜地域産業を取り巻く状況変化を考察し、岐阜地域における主要な産業・企業、及び伝統的・地場産業等の発展過程と現状について解説し、今後の地域産業発展のための方向性について探求する。	
	これからの地域交通を考える	現代における自動車、特にマイカーの普及は、その利便性の高さのゆえに環境・福祉・都市計画などの面で様々な問題を生じさせています。この講義では、今日、地域が抱える交通問題を取り上げるとともに、その解決のためにはどのような手法が考えられるか、欧米、日本などの事例を参考に明らかにします。	
	世界の茶	茶の歴史は人類の歴史とも言われるように、古今東西、国々の政治、経済、文化と深い関わりを持ってきた。ここでは、世界の国々で飲まれている茶の種類、喫茶風俗、茶の歴史、生産概要、最近話題の茶の効能などについて述べ、併せて中国を主体とした世界の各種茶の美味しい入れ方、飲み方について、試飲を交えて紹介する。	
	日本文化からみたことだま	良き国際人は良き日本人です。自国の文化・伝統を理解するとともに同じように他国の文化・伝統のよさを尊敬するところから、国際交流があると思います。その日本文化の特色は、『ことだま』にあります。言葉に魂があるとするものです。それを意識したのが万葉であり、古今集・序文です。『和歌の前の平等』が日本の根底にあり、これをやさしい事例をあげて紹介します。明るく・楽しい講義にする予定です。	
	現代中国の社会と政治	中華人民共和国は本年60年をむかえるが、21世紀中国の社会と政治はどのような方向に歩みつつあるのだろうか。ここでは、少し長い歴史的視点から現代中国を再定義し、今後の歴史的展開の諸条件を解明する。とくに、毛沢東時代の30年と登小平時代の30年を主として政治体制論の視角からとりあげ、中国社会の構造変容がどのように政治制度の変動をもたらしてきたのか、国際的条件を含め分析する。	
	情報の処理と活用	情報そのものに対する感性を養うことが情報社会で一番大切なことであり、そのきっかけを与えるのが本講義のねらいである。第1部では、情報とは何かをいろいろな角度から論ずる。第2部では、情報をいかに集め、活用するかを紹介する。	
	資源・エネルギーと海との関わり	現代生活は多くの資源とエネルギーを消費していますが、資源に恵まれない我が国はそのほとんどを海外からの海上輸送による輸入に頼っており、原油、石炭、鉄鉱石など、輸送する資源の種類により様々な船が開発されています。また、現在では陸上だけでなく海洋石油や天然ガスなど海からの資源も多く利用されています。さらに、海水温度差、波力、海流及び潮位差などを利用した発電も実用化に向け研究されています。そこで、本講義では、資源とエネルギーの現状と課題を概観するとともに、資源の海上輸送、海の資源とエネルギーなど、海との関わりについても解説します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目 （ 社 会 と 産 業 ）	日本の犯罪と刑罰を考える	刑事法の基礎概念と、今日の犯罪と刑罰について講義します。犯罪を構成する要件や、刑罰の種類、死刑制度、警察制度、検察制度、裁判制度について「犯罪白書」からデータを見ながら考察し、理解を深めたいと思います。また、成人とは異なる対応を取る「少年犯罪」や「女子犯罪」についても言及したいと思います。扱うテーマは、馴染みのあるものですが、さらに踏み込んで「刑法」「刑事政策学」の理論を解かり易く説明します。修了後には、テレビ、新聞等の報道を見る目や理解度が変われば幸いです。	
	映画の歴史	19世紀末以来の映画の歴史をたどり、多様な映像作品の美学的な可能性と社会的な意味を探ります。具体的には、初期映画、古典的ハリウッド映画、表現主義、印象主義、ソヴィエト映画、ネオリアリズム、ヌーベルバーグ、日本映画、アジア映画などを分析します。参考書の購入は必須ではありませんが、講義では扱えないことを補うためにも入手されることをおすすめします。	
	日本企業の戦略と組織	1980年代、世界経済の中で日本企業の活躍が顕著であった。しかし、バブル崩壊後の平成不況を経て、日本企業は根本的な経営戦略の転換と事業構造の再構築を余儀なくされている。21世紀における企業経営はどうあるべきなのか。本講義では、経営学の基礎的理論の理解を深めるとともに、実際の事例を通して、日本企業の戦略、組織、イノベーション・マネジメントなどについて考察し、今後の指針を見いだすことを目的とする。	
	物質・構造物の壊れるメカニズム	物質・材料・構造物の変形メカニズム・破壊メカニズムについて解説します。身の周りには多種・多様な材料・構造物があります。よく壊れて困ります。逆にビルの解体のように壊したい場合もあります。社会生活の経済性・安全性と密着しています。戦争の武器は矛盾です。物質と産業・社会生活の関係を見直してみましょう。	
	日本の政治経済	高度成長期以降直近までの日本経済の推移をマクロ経済の視点から回顧し、家計貯蓄率、金融システム、情報通信産業、生産性の推移、グローバル化、財政問題、エネルギー・環境問題等について主として国際比較の視点から考えてみる。	
	国際社会と法	現代の国際社会には、安定と繁栄を享受している国がある一方で、武力紛争や感染症、民族対立で苦しんでいる多くの国があります。国際法は国家間の紛争を解決するためのさまざまなルールと制度を構築するだけでなく、国際社会全体の問題を解決するための協力の枠組みを生み出しています。この授業では、現代国際社会において法はどのような機能を持ち、いかなる役割を果たしているのかを具体的な問題を取り上げながら考察します。	
	分権化と地方税財政改革	地方分権一括法、三位一体改革に次いで、現在、地方分権改革推進委員会において第2期の分権改革の議論が行われているが、そこでは事務・権限の地方移譲や国による事務の義務づけ・枠付けの緩和や条例の上書き権などとならんで、地方税・財政制度の改革が主な検討課題となっている。本講義では、地方税、国庫補助金・地方交付税・地方債・財政再建制度などの地方税・財政制度について、近年の改革の成果や今後の改革の方向性について学んでいく。特に、「受益と負担の一致」や「国による財源保障」など地方分権のビジョンをめぐって鋭い意見の対立があるなかで、あるべき地方分権の姿を探ってみたい。	
	人と環境（2009）	我々を取り巻く多種多様な環境問題は全て人間活動が拡大してきたことがその原因となっている。本講義においては、地球温暖化、水環境の問題を取り上げ、その問題がどのように現れてきているのか、基本的な原因はなにか、どのように対応していくことが必要なのかを考える機会としたい。8回の講義は1.飲み水の問題と浄水処理、2.世界の水問題と水循環、3.地球温暖化（1）現象、4.地球温暖化（2）対策、5.持続可能な社会を目指す「環境立国戦略」を骨格として話を進めたい。本講義においては、地球温暖化、水環境の問題を取り上げ、その問題がどのように現れてきているのか、基本的な原因はなにか、どのように対応していくことが必要なのかを考える機会としたい。	
	日本と東アジアの経済関係の展開	日本と東アジアの経済関係は、近年急速に深化しています。第二次世界大戦後、我が国の国際経済関係は、長くアメリカを軸として展開されてきましたが、今日それと並びたつ、あるいはそれをしのぐ軸として対アジア関係の比重が大きくなっています。この授業では、日本と東アジアの経済関係の歴史的展開をふまえて、今日の経済関係の現状と課題を検討します。	
	裁判員裁判について	2009年5月21日から刑事裁判について裁判員裁判が実施されます。裁判員裁判とはどういうものか、これまでの刑事裁判とどこが違うのか、なぜこの制度が導入されたのか、この制度の意義と問題点はどこにあるのかなどの点について、刑事裁判の全体像を踏まえながら、議論を進めます。	
	清酒とビール	清酒とビールは発祥地の気候や土壌に大きく影響を受けた醸造酒である。西洋と東洋の比較文化を論じる上でも興味ある対象といえる。近年、日本に於いてはこの両醸造を、清酒発祥の地で自家生産する会社も現れている。異文化から、なお学び相乗効果を発揮してきた内容について勉強したい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	日本企業の国際マーケティング	現代の国際経営は国際競争を抜きに考えることはできない。国際市場は国内市場と異なり、国によって生活慣習や文化の違いが大きく、そのマーケティングは国内マーケティングとは異なった特異な形態をとる。本講義では国際マーケティングの基本原則を踏まえ、日本企業の国際マーケティングの実態を家電産業や自動車産業、食品産業、化粧品産業などを事例として紹介する。	
	入門・国際金融	簡単な経済学の考え方をを用いて、「国際収支、為替レート、国際金融市場、ドルとユーロ」などの内容を、分かりやすく解説します。新聞やテレビの国際金融に関する情報がある程度理解できるようになることが最低目標、その情報に対して何らかの発言ができるようになることが最終目標です。	
	わが国の牛肉生産と農業	わが国では良質かつ効率的な牛肉生産が追求されるなかで、飼料自給率が低下するとともに、地域によっては環境に対する負荷が大きくなっている。一方、BSEの発生、北米産牛肉の輸入再開、偽装表示など牛肉の安全・安心に対する関心が高まっている。そこで肉用牛飼養の現地を訪ね、わが国の牛肉生産と農業について考えてみたい。	
	日本の経済の現状と課題	本講義を貫く基本テーマに「貧困からの脱出」を置いている。このテーマは、「セレブ」とは縁のない、人間としての生き残り「食ってゆける」ということである。貧困（格差社会、就職氷河、非正規労働、勝組・負組等々が現在日本の貧困問題）からの脱出 日本経済の発展・成長を論じたい。講義を始めるにあたって、考察する時代を江戸・明治時代から現代を考えている。受講生各位が小学校から高等学校までに学んだ社会科や日本史を思い出しながら聴講していただければありがたい。	
	暮らしの中の光の技術	光の技術の発展にともない私たちの暮らしは便利になり、夢物語が実現してきました。たとえば、音楽レコードがCDになり、いつでもどこでも音楽が楽しめ、画が出るレコードとしてDVDが現れました。また、光ファイバ通信によって世界中の人たちと顔を見ながら話せ、映画までネットワークを介して鑑賞できます。受講生の方たちに、どのように光の技術が暮らしの中で用いられているかを、光の物理から説き起こし、基礎から応用に至るまで、さらに実物を通じて説明していきます。	
	現代中国の社会	現代中国社会の60年にわたる軌跡を、毛沢東時代の30年と、その後のとうしょうへいおよびポストとうしょうへい時代の30年からとらえなおし、今日の中国社会を再認識するための新たな支店を提起し、検討を加える。	
	判例民法入門	民法の諸制度が実際にどのように使われるか、現実に裁判所で争われた記録である判例集を読みながら考えてみる。具体的な事件の中で両当事者がどのような言い分を主張しているかを確かめることで、一見難解な法律用語がどのような意味を持っているかを理解することを目的とする。	
	ものづくり日本	「ものづくり」は、我が国の産業基盤を支える大きな分野であり、ものづくりナショナルブランドは、我が国の国是でもある。世界に冠たるものづくりを生み出した技術・技能は、脈々と受け継がれたものであると共に、時々人々が創造（イノベーション）を積み重ねられたものである。本講では、まず、これまでに先人がなしてきた我が国ものづくり技術のすばらしさを具体的な事例をもって示し、次いで、材料の構造化を代表例として、造船、橋梁、建築、自動車、電気機器などの構造物のものづくりを支える設計・材料・施工がどのように結びついて造られていくのかを平易に説明し、更には、今後のものづくりのあり方について考えてゆく。本講での一番の目的は、ものづくりに「感動する」ことの重要性を示してゆくことである。	
	刑法入門 - 裁判員制度時代の刑法	平成21年度より裁判員制度が導入されることにより、犯罪と刑罰の法である「刑法」の基本を理解することが今まで以上に一般市民に求められるようになった。本講義では、現実に生起している具体的な事件を素材に、どのような場合に犯罪が成立するのかについてわかりやすく説明する。その際、刑法の基本原則・原則に重点をおき、事件の解決をめぐる判例や学説が対立する原因を解明することにより、刑法的なもの見方・考え方を解説することにしたい。	
	低炭素社会の交通政策	過度なクルマ（とくにマイカー）依存は、地球温暖化を促進するだけでなく、人と人とのコミュニケーションを阻害し、中心市街地空洞化等各種の社会経済問題を招いています。これに対して、実は道路建設計画でしかなかったこれまでの交通計画を見直し、総合的な交通政策を確立しながら都市・地域再生を行う動きが全世界で先導的に展開しています。本講では持続可能なまちと交通を推進する総合的な交通政策について検討します。	
経済学入門	経済学は私たちの暮らしに関わる身近な学問です。講義では、国民所得の決定、インフレーション、財政政策や金融政策、経済成長や国際経済などマクロ経済学を中心に基本的な考え方を説明して、私たちの暮らしとどのように関わるのかを考えます。その上で新自由主義や規制緩和が何をもたらすのか、さらに「失われた15年」や「非正規雇用の問題」など日本経済が抱える重要な課題にどう対応していけばいいかを考えていきます。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	日本の自動車産業発展史	戦後の日本企業の発展は、欧米先進工業国からの技術導入による国産化に始まり、輸出市場の開拓、国際的な合併事業の展開というプロセスを経てきました。日本を代表する自動車産業の成功・発展を日本自動車産業の特徴、生産システム構築、商品開発、海外進出の4視点を中心に講義を行います。今も生産技術や商品開発の苦闘、もの考え方の違いによる異文化摩擦があります。この機会に日本自動車産業の長所をお考えいただくと幸いです。	
	ビール産業の歴史・文化・経済	先ずビールの歴史が織り成すエピソードを紹介し、今われわれが飲んでいるビール理解の一助とします。しかる後に21世紀のビールのトレンドに言及します。近世のビール発展史には、世界の経済大国の序列とビール大国の順位が連動するという顕著な現象が見られます。21世紀の世界経済の舵取りはG7の手に負えず、BRICsの協力なしには為し得ないと同様に、21世紀のビール市場はビール先進国が衰退に苦しむ中、BRICs諸国が主役に躍り出てきました。21世紀に入り世界ビール市場は激動の時代を迎えています。この興味あるテーマに挑戦しましょう。そして、最後にビールの百貨店と称されるベルギーの各種伝統的ビールを試飲し、国産ピルスナーで乾杯しましょう。	
	自我社会学の展開	現代人の自我のあり方について社会的に問題とします。とくに、人間の自我が他者とのかわりにおいて社会的に形成され、展開することを、「鏡に映った自我」、「役割取得」、「一般化された他者」などの概念を用いて明らかにします。また、役割コンフリクト、印象操作、役割形成などの具体的現象について分析し、現代人の自我のゆくえについて考察いたします。	
	情報社会の生き方	昨今、ケータイでテレビを見たり買い物したりすることは、もはや珍しくなくなっていますが、これらは全て情報通信技術の発展によるものです。技術の発展は常に私たちの生活に恩恵をもたらすと同時に、新たな社会問題を引き起こします。そこで本講義では、電子マネー/インターネット利用料金/デジタル著作権などの話題を提供し、皆さんと議論したいと考えています。	
	観光産業論	旅行業を中心として観光産業を講じる。観光すること、観光をする際に提供を受ける必要のあるサービス自体は、旅行業に言及しなくとも議論は可能である。しかし、旅行業は、観光に関するあらゆる要素に絡んでいくことができる業種であるので、旅行業の意義を考察してみる。教科書『旅行取引論』を中心に講義を行い、レジュメにより基礎的な内容を補足する。	
	ものづくり（機械系）の面白さ	「機械は苦手だ」と毛嫌いな人も多いと思います。しかし、普通の生活において機械の簡単な知識を持っていることで、製品の故障にも冷静に対応できるし、機械製品を見る目が変わり、楽しいことや周りの人から尊敬のまなざしを受けることもあるかもしれません。本講義ではものづくりから見た機械系の多面にわたる雑学を中心に、生活に役立つ知識・考え方を学びます。簡単な実験も取り入れ、面白い授業にする予定です。	
	高速道路の開通と地域企業戦略	・本授業は、座学ではありません。授業は、(1)実際の事例をベースとしたケーススタディ(事例研究)、(2)少人数のグループ討議形式の形式で行います。分析力、決断力、表現力、コミュニケーション能力の向上を目指します。・テーマは、「姫鳥線の開通を、企業戦略にどう活かすか」です。高速道路が開通することは誰でも知っている、大切なのはそれをどう具体的にプラス効果として活かすかです。	
	危機に瀕するコメを活かす道	コメは東アジアの主要な穀物ですが、現在の食糧危機に際して存在感に陰りが出ています。コメは他の穀物に比較して、なぜ苦戦しているのでしょうか。日本の食糧自給率が問題視されている昨今、コメは重要な唯一自給可能な作物であり、自給率を上げる方策は世界に向けたメッセージとしても大切になっています。コメのおかれた現状を認識し、日本の農業と食の現状を考えます。	
	構造改革と地域経済の再生	経済のグローバル化とそれに対応するための「構造改革」政策によって、地方の経済社会は危機に瀕しています。本講義では、構造改革路線によって厳しい局面におかれた地方経済の現状を整理した上で、地域再生に取り組んでいる各地の事例などを参考に、これからの地方経済のあり方を考えたいと思います。成績評価は出席状況のほか、レポート等の評点により行います。	
	自然ハザードとその予測	自然災害をもたらす自然現象を自然ハザードとよびます。ここでは自然ハザードのうち、わが国で特に社会に与える影響の大きい地震発生、斜面運動、火山活動をとりあげ、それらの実態を地球科学との関連で理解すること、また、それらの予測を通じて災害軽減のための各種の研究、取り組みの概要を理解することを目標とします。	
地方政府論	日本の自治体は国際的にみても沢山の仕事をしているが、権限と財源を中央政府に握られ、自由度が低く、自治体と呼ばれるにとどまり、地方政府とはいわれない。第1期分権改革と第2期分権改革の行方を分析しつつ、世界に遅れる分権の現状と消えた年金に象徴される日本社会の劣化をととも考える。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	国税と地方税	租税は、国や地方団体が公共サービスを提供するために必要な資金であるが、国や地方団体の公共サービスには質的に違いがあり、公共サービスの資金たる租税の質的にも違いがある。国税は主として納税義務者の人的側面に着目して課されるが、地方税は主として課税物件の物的側面に着目して課される傾向にある。また、国税はすべて使途が特定されず一般経費に充てられる(普通税)が、地方税は使途が特定される目的税の方が多い。	
	日本国憲法	歴史的な、あるいは現実に生起している憲法問題を取り上げ、それがいかなる意味で憲法問題であるのか、どのような解決が試みられているのか、それを以下の視点から考察する。 1 憲法の原理、法の原理・機能を理解する 2 日本という国の仕組み、そして現在を理解する 3 社会の中で発生する紛争を主体的合理的に解決する能力を身につける 4 法制度の改善策について考察し、実現に向け行動できる能力を身につける 5 グローバルな視野をもつ	
	地域社会と「第一次産業」	本授業では、村落社会学および地域社会学の基本的概念の理解に基づいて、具体的事例を想定しながら、とりわけ過疎化がすすむ地域社会の今後のあり方を展望する。くにグループ・ワークを通じて多様な価値観の総合化を行なうとともに、地域がかかえる諸問題を相対的・複眼的にとらえるための視点の獲得、抽象的概念と具体的事例との往復的思考を身につけることをめざす。途中、簡単なレポート提出を課し、成績評価に反映させる。	
	情報セキュリティ	誰もが安心してコンピュータやインターネットを利用でき、利便性を享受できるようにするために、情報セキュリティの確保が重要である。本講義では、情報セキュリティの基本要素である守秘性、一貫性および可用性を念頭に置き、情報セキュリティに係る基本的な項目を習得させること目的とする。暗号技術、認証技術、セキュリティポリシー、セキュア通信などを主な内容とする。	
	瀬戸内海の地域社会と産業振興	この授業においては、戦後のわが国の経済成長に大きく貢献してきた瀬戸内海地域に焦点をあて、沿岸地域や島嶼地域における社会と産業の変容や課題、今後のビジョンについて受講生の方々と共に考えたいと思っています。講義の進め方としては、具体的な地域事例に即して、産業開発、人口減少と高齢化、社会や環境の再生、本土と島嶼地域の連携、持続的な観光開発などのテーマについての話題を提供し、受講生との意見交換を大事にしたいと思っています。	
	流通・マーケティングの国際化	経済の国際化が急速に進展している。本授業では、国際化にともなう企業の経営活動の変容を、マクロとミクロの関係にある流通とマーケティングの視点、すなわち、マクロの流通構造とミクロの企業行動の相互関係について検討する。具体的に取り上げるのは、小売企業の国際マーケティングであり、「出る国際化」と「入る国際化」という両側面から検討する。	
	刑事裁判と刑事司法の動向	急速に変化を遂げる現代社会において、刑事法も大きな転換期を迎えている。本講義では、最近の刑事法の動向を踏まえ、いくつかのトピックを取り上げて解説するとともに、裁判員時代を迎えて、刑事裁判とはそもそもどうあるべきかを受講者とともに考えるための素材を提供したい。	
	未来の畜産食品とその安全性	バイオテクノロジー技術の開発と応用により生産される未来の畜産食品の機能と安全性について紹介する。	複数教員共同担当
	経済学の歴史	経済のグローバル化が急速に進展する今日、資本主義経済がどのような方向に向かって進んでいるかを多様な観点から考察することが求められている。この授業では、古代ギリシアの時代から現代まで、経済学がどのように発展してきたかを講義することを通じ、多様な学派の課題と方法の特徴を学び、それぞれの長所と短所を考える。	
	起業入門	最近、起業が盛んです。特に女性で企業を起こす人が増えています。では具体的にどんな企業形態があり、どのような起業の仕方があるのかについて一緒に考えたいと思います。実は坂本龍馬の起業した海援隊は日本最初のベンチャービジネスとされています。こんなビジネスマン龍馬の紹介もします。具体的にはフランチャイズ(F/C)、ベンチャービジネス、SOHO、女性と起業、社会的起業等です。	
	セメントとコンクリート	セメントは古代ローマ時代から使われております。その頃のセメントと用いられた構造物について話します。また、最近話題になっておりますコンクリートの劣化、さらに構造物の偽装も話します。今後のコンクリートの発展に関しても話を進めます。	
	財務分析論	企業では自社の経営成績や財政状態を開示するために財務諸表と呼ばれる書類(改行)を作成している。財務諸表には様々な内容が貨幣評価によって記載されておりこれを財務数値という。この財務数値のもつ意味を理解しながら、数値の加工を行い企業の業績や状態の評価方法を修得する。電卓を使って計算を行うが、基本的には四則演算のみで進めるので高度な数学的能力は必要ない。	
情報社会と生涯学習	高度情報化社会と呼ばれる今日、コンピュータや情報通信ネットワークは社会生活の必需品となってきました。こうした情報社会の諸現象ならびにそこの各種ICTの活用事例について、知識と理解を深め、その本質は何か、人や暮らしへの影響、社会の変化、問題点は何かについて考えます。また情報社会のなかで「学ぶこと」の意味、おもしろさ、方法について考え、ICT(情報通信技術)と生涯学習の接点に迫ります。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	生活リスクと法	わたくしたちの生活にはさまざまなリスクが満ちあふれています。そのリスクに対処する方法の一つとして、民間の保険会社との間で保険契約を締結するということがあります。本講義においては、保険契約に関するルールを学びます。講義では概ね、保険の仕組み、保険の種類、保険契約の法的性質・特徴、保険契約の締結、保険契約関係者、損害保険関係、生命保険関係および傷害保険関係などについて解説します。なお、平成20年には、保険法が改正されましたので、可能な限り、触れたいと思います。	
	世界の中の日本経済	世界経済は、ダイナミックに動いています。そのような世界経済の中で日本経済も大きく変わりつつあります。日本経済を理解するためにも国際経済を理解することが必要です。この講義では、世界の中の日本経済を、いくつかの側面からとらえていこうと思います。	
	財産管理と相続に関する法律制度	少子高齢社会においては、家族のあり方も大きく変わりつつある。本授業では、家族が変容するなかで、財産管理のあり方が重要な役割を有していることを解説していく。最近、法改正がなされた、信託法など、高齢者をとりまく法律制度ならびに判例を紹介・検討しながら、これからの法律制度について展望する。	
	液晶の動作原理と製作実習	液晶表示素子は電卓、パソコン、液晶テレビなど広い分野に進出していますが、これに使われる厚さ6μmの液晶材料は低電圧駆動、高いコントラスト、フルカラー表示、耐久性など優れた特性を持つ有機電子材料の1つです。ここでは液晶材料の動作原理から始めて、実用的な電気光学効果、液晶セル構造、特性の改善などを学習し、最後に簡単な液晶セルの作製実験を行います。	
	経営学基礎	本講義では、「経営学とはなにか」について基本的な理論や概念を使って説明し、また歴史的な視点からもその性格を明らかにして経営学に関する知識を深めてもらいます。とくに経営学の主たる対象である「企業」の特徴と役割について解説するとともに、管理の問題についても説明を行います。	
	建築計画学入門	人々により良く使われる住まい・建築を設計するには、気候風土、人間の行動特性や寸法、安全性、耐久性、機能性、居住性、周辺環境との調和、時間経過など様々なことを考慮する必要があります。本講義では、住まい・建築を設計する際に必要な多様な要件を体系的に学習し、建築計画学の基礎知識を習得することを目標とします。	
	インターネットは社会を変える	インターネットは身近な技術になり、多くの人たちが気軽にグーグル等でウェブサイトを検索している。一方、個人情報盗まれる事件やインターネット詐欺が横行する。格差社会では、やり場のない怒りはけ口をブログやゲームに向けた若者も多い。これからの新時代に、インターネットは、ますます重要性を増すであろう。本講義では、今までの技術を整理し、正しいインターネットの使い方を模索する方法を考える。	
	植物工場システム	従来の農業生産に対する第二の食料生産システムとしての植物工場について講義する。植物工場には人工光利用型と太陽光利用型があるが、本講義では、果菜類の生産が可能な太陽光利用型植物工場について、その基本的知見・技術、現状から、植物生体計測、植物生育診断、先端研究まで講義する。	
	外国人の法的地位	わが国に在留する外国人の数は年々増加し、2006年末の時点で200万人を突破した。外国人の待遇に関する問題はこれからますます重要になってくるであろう。本講義では、外国人の法的地位(主として基本的人権の保障)について、日本国憲法の体制下でこれまで築き上げられてきた諸原則を鳥瞰するとともに、近年の新たな動向(少子高齢化対策としての労働市場開放や移民受け入れ問題など)を紹介してゆきたいと考えている。	
	日本の政治	日本の政治を考えてゆく際の基本となることを概説します。政治や外交の見方、国と地方の制度の骨格、関連する課題などについて考えます。日本の政治の時事解説はできませんが、少し幅広く長い視野で考えてみます。	
	街道の日本史-土佐の近代史	土佐が近代日本史の中で果たした役割は土佐の地理的・歴史的風土と関わっている。土佐は独自の地理的・歴史的風土を持っており、幕末・維新の日本近代史において多くの人材を輩出してきた。この講義では日本の近代化と土佐の役割がテーマである。	
	鉱山史 江戸時代の鉱山社会	日本近世(江戸時代)は鉱業が盛んであった。しかし、鉱山の社会については、必ずしも明らかでない。近世の鉱山社会について生産・労働・社会等の諸側面から講義する。	
	「政治」を捉えなおす	日本国の政治体制は「自由民主主義体制」に分類されます。)この自由民主主義体制における「政治」は「和をもって尊としようとする」こと(改行)望ましいのでしょうか?対立や競争に積極的な意義はないのでしょうか?また「自由民主主義体制」において「政治」は政府や国会や議員など、すなわち政府を対象にのみ、語られるべきものでしょうか?この講義では、受講者のみなさんが「政治」についてもっているであろういくつかの「予断」を揺さぶり、「政治」を捉えなおす新たな視点を提起することを目的としています。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	情報と技術の産業論	情報社会における基盤産業としての情報産業の諸部門の成立から展開、そして現下の情報通信技術(I & CT)革命の動向、情報と職業の関わりについて論ずることを基本とする。情報通信技術の発展とともに急成長した情報通信産業が、情報の蓄積・検索・提供・通信などと多岐にわたって発展を遂げながら、産業構造を大きく変化させてきている現状を、多面的(生産・労働・家計)に理解する。	
	『人間の安全保障』社会学	表記授業科目名の下、以下5項目の柱立てに関して1990年代初頭から国際社会で頻用されている概念と実体、適用と将来課題につきセミナー形式で行います。(1)H.S.の考え方、(2)日本の行財政とH.S.、(3)政府開発援助が担うH.S.、(4)H.S.を推進する強力なパワー、(5)H.S.国際人材の育成。	
	開発援助論	現代の世界経済には、経済的に豊かな先進国と貧しい途上国の二つのグループが存在している。両者の格差は容易に縮小せず、これが国際社会を不安定化させる一因となっている。本講義では、このような問題を解決するための開発援助の現状と理論、課題について、日本の開発援助の現状、世界的な開発援助政策の比較、経済開発理論の批判的検討などを行い、今後の途上国と先進国間の望ましい関係を議論していく。	
	生体医工学	本講義では、種々の感覚情報が受容器から脳に至るまでにどのように処理されるのかを生理学的実験結果に基づいて初心者でもわかる講義を行います。また、工学的見地から生体情報をどのように応用したらよいか事例を挙げて解説します。1.ニューロンの生理学(1)、(2)2.シナプスの生理学(改行)3.脳の生理学(1)、(2)4.視覚の生理学5.工学的応用例(1)、(2)	
	統計と経済	新聞、雑誌、テレビなどで様々な統計に接する機会が多い。この授業では、パソコンの表計算ソフト(エクセル)を利用して基本的な統計処理の計算を学習した後、とくに物価や国民所得統計など私たちの生活に身近な経済関連の統計を中心に、その作り方や見方について解説します。成績判定については、出席状況とレポートにより総合評価します。	
	現代地方行政論	少子高齢社会、「地域間・大競争時代」に直通し、「福祉自治体(福祉国家)」の出現、「行政自治体(行政国家)」化現象への対応を求められている地方公共団体の「存立」「在り方」住民との関係など、現代の地方行政をめぐる状況、課題、これからの基本方向について論じます。	
	NPOとの協働	これまで社会の主体は、行政と企業であったが、最近、新たにNPOが主体となって活動するようになった。NPOは、新たな公共を担う団体として位置づけられている。このNPOについて学ぶとともに、NPOとの協働のあり方を学習する。	
	情報システム概論	講義として、ユビキタスネットワーク社会において最新の情報システム学に関する基本的な内容を中心に、コンピュータウイルス、コンピュータおよび周辺装置、データ通信、情報化社会と法の関係などについて、今後の情報システムが抱える問題の対応策を見出すものである。また、実習として表計算ソフト(エクセル)を用いた簡単なデータベース手法を学びます(補助員支援有り)。	
	中小企業の法と会計	平成18年の会社法の施行により会社を取り巻く法的環境も変わってきました。どのように変わったのでしょうか。法と会計の両面から見えていくことにしましょう。可能な限りゆっくりと平易に授業を進め、先を急ぐことなく理解可能なようにしていきたいと考えています。なお、成績については出席状況を重視し授業状況を加味して評定いたします。	
	現代企業入門	会社の決算書は財務情報の宝庫である。貸借対照表からは企業の財政状態を、また損益計算書からは企業の経営成績を読み取ることができる。財務情報を活用して企業の経営状態を読み取るとともに、流動性や収益性といった企業の基本的な経営原理についても解説する。財務分析を通して、現代企業の経営課題や社会的意義についても考えていきたい。	
	ユビキタス情報社会の実相	情報通信技術(ICT)とデジタル技術が可能にするユビキタス情報社会とは、どのような社会なのだろうか。経済、政治、教育、文化、生活などはどう変化し、社会はどのような潜在的な課題に直面するのだろうか。講義では高度情報社会の光と影について理解を進め、新しい技術を人間の幸福に役立てるための方策について考えることを目的とする。	
	親子の法律問題	親子とはなにか、実親子関係(嫡出親子関係、非嫡出親子関係)と養親子関係の発生要件とその効果、人工生殖子(人工授精、体外受精、代理母等)をめぐる法律問題、家族における子の監護養育をめぐる法律問題(親権、監護権、面接交渉権、児童虐待)等について学ぶ。	
	サンゴ礁域での養殖	沖縄の養殖産物で数種(オキナワモズク・海ブドウ・黒真珠・クルマエビ等)が全国一の生産をあげている。これらはどのように養殖されているのでしょうか。本講義では、これらの有用種の生活史や養殖方法及び人為的に水産物を増やす必要性などについて述べる。また、サンゴ礁からの恵みについて、水産物だけでなくとどまらず、サンゴ礁の海水・海洋深層水・浸透地下水・石灰岩・海砂などの利活用についても言及したい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	沖縄農業の現状と課題	沖縄県の食料自給率はカロリーベースで27%、生産額ベースで56%と極めて低く、危機的状況です。人口は沖縄本島に集中し、離島は過疎化し、農業は衰退しています。農業にはすばらしい教育力があり、また、亜熱帯農業には発展の可能性が秘められています。百姓(ハルサー)の姿、農家の姿、熱帯果樹などの現状を通してこれからの農業の可能性を共に考えます。なお、接木の実習もあります。	
	都市地理学入門	地理学は、空間に投影された社会(人間活動)を研究対象とする科学である。多くの人間が集まる都市は、古くから地理学の対象とされ、その分野は都市地理学と呼ばれている。この都市地理学における多くの研究蓄積を用いて、社会や産業の動態を解説し、それらに生じている問題や解決への取り組みについて講義を行う。	
	比較政治学	通時比較と共時比較の双方を駆使して、国家形成、政治体制、民主政治、福祉社会の諸形態を比較する。そして最後に、国際政治、地球政治と比較政治学の関係について考える。政治学の理解を深めるための、いわば応用篇である。	
	経済発展と現代企業	現代社会における企業について、経済発展との関連で企業活動の展開の主要な側面を検討します。おもな内容として、工業社会の形成のされ方、発明と技術革新、技術の移転のされ方、巨大企業の形成の論理、生産方式の意義、企業経営の多角化や多国籍企業の形成のされ方などについて、イギリス、アメリカ、日本の事例を通してその概要を検討します。	
	機能性結晶素材の生成	結晶は、最近、光特性や薬理効果などの機能について注目されている。しかし、それを左右する構造、形態および純度は、結晶生成のための過飽和度から強磁場に至る様々な環境や攪拌や混合などの生成方法により著しく影響を受ける。したがって、その生成方法の確立が望まれている。本講義では、結晶の発生と成長の理論と種々の結晶生成の環境および方法による機能性結晶生成への取組について概説する。	
	少子・高齢化社会の経済分析	この授業では、日本の少子・高齢化が社会や経済に及ぼす影響、逆に現在の社会・経済システムが出生率に及ぼす影響を経済学と統計を使って、実証的に分析・検討します。具体的には、少子化の理由と対策、年金改革の問題点と効果、世代間の公平性、男女協同参画社会の効果等を数字で分析します。	
	エンジニアの誕生	技術や工学が西洋の大学・高等教育機関においてどのように教育されていたのかを制度史的に跡付けることにより、従来の職人とは違った新しいタイプのエンジニアの誕生過程を探りたいと思います。また産業と科学教育との関連で、19世紀後半の化学工業進展とともに企業内実験室が新設される経緯についても言及します。	
	ワットと蒸気機関	ワット(James Watt, 1736-1819)と彼の蒸気機関が動力革命を引き起こしたのは余りにも有名です。そこで、この発明への経緯を中心に彼の生涯をたどり、またその後の企業家としての彼の活動についても触れたいと思います。	
	資本主義の発展と国家	冷戦時代に存在していた国家による計画経済VS市場経済という対立は、市場経済が勝利したと言われていました。ケインズ経済学がすでに凋落していたことも相俟って「小さな政府」が叫ばれ、規制緩和および自由化が一気に進みました。程度の差はあれ、全ての先進国でこのような傾向があります。しかし、市場と国家が対立するという考え方は非常に狭い視野からの考察です。本講義ではより広い視野から市場と国家との関係を考察し、資本主義の発展とともに国家の機能および役割が大きくなるざるを得ないことを論じます。	
	(実験)鉄を造る	人類が鉄を造る技術を手に入れたのが今からおよそ4千年前。これが旧石器、新石器、青銅器に続く鉄器文明の始まりです。私達は鉄器文明の中で生きています。現代の日本では高炉法によって大量の鉄が造られています。江戸時代の後半までは「たたら製鉄法」(映画ものけ姫)が主流でした。本授業では実験室で鉄鉱石から鉄造りに挑戦し、1)鉄造りの原理、2)実験手法、3)実験データの整理・評価法などを学ぶことにします。	
	材料表面の工学	工業製品を構成する材料は、その表面の性質が重要な役割を果たしている場合が数多く見受けられる。本授業では、工学的に重要な材料表面の性質について説明するとともに、材料表面を分析する方法、さらには材料表面に新しい性質を付加する表面改質について述べる。	
	PCを使った自動計測	現在、何からの物理量の測定を行う際には、PCを中心としたシステムを構成するのが一般的である。本授業では、測定システムの要素となるADコンバータ、インターフェース、PCの基本について概説する。また、講義の他に実機とAgilentのVEEプログラムを用いたデモと実習を行う。デモと実習では、デジタルマルチメータで測定したデータをノートPCに取り込んで解析する例を扱う。	
	需要と供給を考える	この授業では、ミクロ経済学の分析において特に重要な役割を果たす需要と供給の考え方を中心に解説を行う。あわせて、需要と供給の考え方をを用いて現実の経済現象について経済学的に理解することを授業で示していく。具体的な内容 1.需要と供給とは何か 2.市場メカニズム 3.需要曲線と供給曲線はどのようにして導出されるのか 4.消費者余剰と生産者余剰 5.現実の経済現象を経済学のように考えるか	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	フランス社会経済事情	フランス社会経済事情について、さまざまな観点からアプローチしていきます。最初は、フランスと中国の関係について、古くは啓蒙思想家に与えた中国思想の影響、最近ではパリ13区のチャイナタウン形成など、移民問題も考慮に入れて検討する。次に日仏交流史からフランス人の日本イメージの形成について、最後に、EU（欧州連合）の問題を考えながら、レギュレーション学派といわれている人たちの現代社会認識について分析していきます。	
	国際環境協力	環境問題をめぐる国際協力は、国際条約の締結、緩やかな政策対話、民間協力、資金/技術援助など、実に多様な形態があり、これらが複雑に混ざり合っている。環境国際協力を担う行為主体（アクター）も、政府機関や国際機関、地域機構だけでなく、民間企業、科学者、NGOs、市民に至るまで、実に多様化してきている。授業では、多様化する環境をめぐる国際協力の現状を多面的に捕らえ、全体像を把握することを目的とする。	
	地方自治と市民社会	地方自治体を取り巻くここ10数年の環境変容（行財政改革や市町村合併、道州制論などの動向）を把握した上で、これらの諸改革が私たちの生活にどのように影響を及ぼすのかを考える。また、住民参加や行政の説明責任などをテーマに各グループに分かれ、意見交換や報告発表を行うことで、これからの市民社会のあり方に関する受講生間の共通認識を醸成する。	
	公共部門を考える	「政策と住民ニーズが乖離している」、「公共部門が非効率である」という指摘があります。しかし、公共部門でなければ供給できないサービスも存在するのも事実です。これらのことを考えるために、まず、公共部門を制度面や財政面から概観し、公共サービスと民間サービスとの相違点は何か、さらには、公共サービスと住民ニーズの乖離がなぜ起こるのかを官僚行動を考慮しつつその原因を考えます。	
	群馬の自然：保護と利用	東京から2時間圏に入る群馬は谷川、尾瀬、利根川源流などで代表される豊かな自然に恵まれている。一方、尾瀬を典型例とする自然環境保全と利用の問題を抱えている。環境と開発の問題を尾瀬を事例として、現地でのフィールド調査をふまえたレポートと教室講義双方から考える。	
	人物科学史の世界	本講義では科学者と彼らの人生に焦点を当てて解説と考査を行う。授業の進行は歴史に名を残す科学者がどのような環境で育ち、どのような契機で科学にかかわるようになったのかを考察する。次に科学者となってどのような研究生活を送り、社会との関わりをどう持ったのかについて解説し、その人間性にも言及したい。科学者の功績と人生、史実の虚と実を知るきっかけになれば幸いである。	
	日本政治の戦前と戦後	戦争に伴って起こる変化は近代日本の社会に大きな影響を与えてきました。この講義では明治期以降の日本政治における「戦前」と「戦後」について扱います。国内政治の構造を中心にして政治的・経済的な変化を見ていきます。例えば昭和の戦前戦後の変化は吉田茂や岸信介に着目するとどのように理解できるでしょうか。対象としては昭和の戦時期を中心に、日清戦争・日露戦争・第一次大戦などの近代日本の戦時期についても扱います。	
	プロジェクトマネジメント	本授業は、新規事業の規格・開発などの社会や企業改革において、目標を迅速に達成する組織運営や業務遂行に係るプロジェクトマネジメントの方法論を講義し、プロジェクト体制による価値創出活動の理解を深める。	
	産業技術から市民技術へ	産業技術の事例として、光ディスク、携帯電話などを取り上げ、それらの基盤技術としての微小電気機械技術、センサ技術、ワイヤレス技術を学ぶ。次に、これらの産業技術をベースにして開発されつつあるウェアラブル（身につける）などの市民技術を学び検討する。	
	社会調査実習B2	社会調査実習B1で学んだことを踏まえて、分析の方法と報告の仕方について具体的に学びます。	
	社会調査実習B1	量的調査の基本的な手法として、概念の操作化、仮説のたて方、質問文の作成、サンプリングについて学びます。	
	現代アメリカの政治	<授業のねらい>アメリカ大統領選挙を通して、現代アメリカ政治について様々な角度から概観します。<内容>2008年の大統領選挙は、リベラル対保守、人種やジェンダーの問題、イラク戦争への対応、経済格差の拡大への対処等、予備選挙の段階から、きわめて興味深い問題が提示されています。そこで、授業では、大統領選挙の仕組みとアメリカ社会における意義、2008年選挙の特徴等について扱う予定です。	
	佐原に学ぶ自治体の政策システム	歴史的町並みを資源として現代的に再解釈してまちを再生し、海外からも観光客が訪れるようになった千葉県香取市佐原。統一的な政策のもと、さまざまなアクターがまちづくりに協働していく流れを概説しながら、政策目的達成のためにどのような施策が創出され、それが再び政策へと循環する様子を現場で解説する。地方の疲弊が言われる中、どうすればまちが元気になるのか、仕掛けとしての政策は自治体から始まるのが理解できよう。	
	デザインを科学する	今日の私たちの暮らしは、さまざまな生活用具によって囲まれています。それらの生活用具は、そのようにしてデザインされているのでしょうか。この授業では、デザインの背後にある科学的見地をさまざまな角度から考えます。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	都市の廃棄物と資源	都市から排出される廃棄物の処理・処分の現状およびその中間処理過程における環境問題についてダイオキシンを例として取り上げ説明する。また、現在の処理技術の特徴と問題点とから、資源循環型社会構築への貢献の可能性について考察する。さらに、廃棄物に関わる法律・社会制度の特徴とそれらに起因する諸問題について説明する。	
	マクロ経済学の基礎	マクロ経済とは一国全体の経済を意味する言葉ですが、「日本経済」という言葉に置き換えて頂いても構いません。本講義では国家の経済がどのような構造を持ち、政府による政策がどのような効果をもたらすのかという点に注目して紹介していきたいと思えます。具体的には短期のケインズ経済学を用いてIS-LMと呼ばれる分析手法を紹介し、政策分析の基礎を学ぶこととします。成績評価は出席を重視します。経済学の入門講義を履修していない方でも学べる内容にしておりますので、初心者の方のご参加もお待ちしております。経済のしくみについて、一緒に学びましょう。	
	現代韓国の政治	現代韓国政治の特徴を理解することをねらいに、現代韓国政治の歴史的展開、韓国の政治制度と政治過程、韓国歴代大統領のリーダーシップと主要政策、韓国の民主化と市民運動、韓国の外交と南北関係等の内容を、現代日本政治の特徴と比較しながら講義します。現代韓国政治の特徴を理解することをねらいに、現代韓国政治の歴史的展開、韓国の政治制度と政治過程、韓国歴代大統領のリーダーシップと主要政策、韓国の民主化と市民運動、韓国の外交と南北関係等の内容を、現代日本政治の特徴と比較しながら講義します。	
	アジア経済	日本と距離的に身近であるアジア地域の中で、ASEAN地域を中心にアジアの経済発展を取上げます。先進国にキャッチアップするために、各国政府は開発戦略、産業政策を実施してきました。講義では、初めに開発と近代化に関する理論を提示します。初歩の経済学的な知識はあるとよいでしょう。アジアの発展に政策は有効であったのか、ありうるのか、受講者に考えてもらおう講義とします。	
	商いと保険の法律	新しい会社法の下では資金力がなくても、一人でも会社を設立できます。起業家になるための法律と、人生で遭遇するであろうリスクに備えるための保険に関する法律について解説します。	
	知的財産の潮流 - その背景と現状	特許、知的財産（IP）とは何かを概説し、これまでの歴史的経緯から現在のプロパテント、知財立国に至った過程を説明する。さらに、特許権の権利行使、ソフトウェア特許、ビジネス特許の現状を実例豊富に解説する。最後に、創造されるアイデアをどのように発明して特定し、特許を得るのかについての考え方を説明してから、演習として各自に発明の把握の具体例を発表して貰い、皆で議論していく。	
	国際協力論	国際協力は、ODA（政府開発援助）を中心として、NGOなどのボランティア活動や、民間企業による開発支援、幅広く見れば、自衛隊のイラク支援活動なども含む、多種類の活動である。本講義では、このように多彩な国際協力活動について、基礎的な知識を得る。	複数教員共同担当
	複雑システムの信頼性と安全問題	いまの社会は複雑システムがあらゆる分野で構築され、そのシステムの信頼性と安全問題は社会を支える重要な基盤技術といえる。本講座では信頼性の基礎である直列、並列システムとその応用である多重化システムなどの理論を学ぶ。次に、システムの安全性を考える上で「重大事故は小さなミスや欠陥が連鎖状になって起こる」ことや「人間は間違える」ことを前提とした安全対策についても学ぶ。また、受講者の利便を考え演習問題を多く導入して進めていくこととする。	
	国際連盟・ワシントン体制と日本	第1次世界大戦後、国際連盟が創設され、アジア太平洋地域ではワシントン会議が開かれた。この多国間主義を基調とする新たな外交様式に日本がいかに対応したのかを概観するとともに、のちに先鋭化する日本外交の様々な矛盾の萌芽を垣間見るのが本講義の趣旨である。	
	ASEANの政治と国際関係	ASEAN（東南アジア諸国連合）の発展過程をたどりながら、東南アジア、アジア太平洋の政治と国際関係を説明する。予定している主題は、東南アジア地域の特徴、ASEANの地域協力、インドシナとASEAN、ASEANの拡大と深化、日本外交におけるASEAN、などである。	
	アジア経済論	アジア経済、特に中国とインドの発展は、グローバリズムの典型たるオフショア金融センターからの投資に支えられるという現代的な様相を呈しているが、他面、その背後に中国系・インド系旧移民とエスニシティの存在をも認めることができる。本授業が通常のアジア経済論と異なり、アジア経済の現代と過去を行きつ戻りつ、人の移動という視点から歴史的にとらえようとするのは、この逆説的状況を理解したいからである。	
	国際政治・パワーとルール	第一の目的は、国際政治学の基本的な枠組み（パラダイム）を理解することにあります。その上で、「パワー」と「ルール」という概念を用いて国際政治を分析することを学習します。とりわけ、最近の武力行使の事例を素材に、国際政治の様々な現象の根底に存在する問題について考えます。さらに、それを現代世界における「平和」とは何かという問題に引きつけて、現代の国際政治を見る眼を養います。	
	参加のまちづくり	経済的・環境的・社会的な持続可能性に向けた市民参加のまちづくりは国際的な枠組みからますます重要となっている。ここでは行政と市民が積極的に協力しながら行う「まちづくり」の活動に関して、事例を紹介しながら、市民参加の手法と専門家の役割について講義によって認識を深めて、またワークショップ形式を交えながら参加の基本的な技術面についても理解と習得をはかる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	現代の政治理論	20世紀における西洋政治理論の展開を概観し、現代社会に課せられた、総合的解決を必要とする問題群の解明を目指す。政治理論とはいかなる営みなのか、という基本的な問いから始め、何人かの理論家（アーレント、シュトラウス、オークショット、フェーゲリン、ロールズ等）の議論を紹介しつつ、特に自由や正義といった問題を考える。受講に際して特に要件はないが、すでに政治学や歴史学、哲学等を学んでいると、より深い理解が得られるであろう。	
	人と環境	環境問題には局所的な公害問題から、地域に広がりをもつ地域環境問題、さらには地球規模の問題など、多様なものがある。しかしながら、基本は人間活動から派生する負荷が自然環境を劣化し、その結果が巡り巡って人間の健康や、生活環境をはじめとし自然生態系にも悪影響を及ぼすことになっているという問題である。人間活動と環境をいかに折り合いをつけるのかを水環境、地球環境を例として考えてみよう	
	自治体の環境法政策	地方自治の法と仕組みをつづいた身近な環境の保護について講じる。崖線沿いの豊かな自然を守ることは、将来世代に対する責任である半面、周辺住民に贅沢な環境という特権を与えることにもなる。墓地の立地、マンションと景観、鉄道・航空機騒音、廃棄物処理といった都市型環境問題を題材として、権利制限と環境保護の悩ましい関係を深く掘り下げて考察したい。環境法の基礎理論は、最初の時間にレクチャーする。法学の知識は不要であるが、講義を聞き流すだけでなく、条文や判決の解説に意欲的についてくる姿勢を求める。	
	情報社会における地域と郷土	地域情報化とは、地域住民や小集団が進める情報化である。地域情報化は現在、局所的な熱狂に留まらず、多方面に影響を与えている。例えば、没主体化を促すWeb2.0世界で、「地域づくりの道具」が主体性を再生する一般的な道具になり、新しい郷土性の創造が、個人のアイデンティティ再生を促すなどである。本講義では、実体が希薄化する地域と、情報化の最新動向を理解した上で、地域情報化の現代的な意味について考える。	
	国際連盟と日本	満州事変以降、1930年代の日本は「現状打破」を唱えるにいたるが、日本が実際にどのような国際秩序の転覆をくだしたのかを理解するには、1920年代にまで遡って検討する必要がある。本講義では、主に国際連盟とワシントン体制に焦点を置きながら、1920年代の日本外交を振り返る。のちに重大な争点へと発展する諸問題が、すでに萌芽的にかがえよう。	
	紛争植民地支配下の熱帯農業	熱帯の農業と農村は潜在的な豊かさにもかかわらず、多くが貧困と環境破壊の厳しい状況下にある。植民地支配は終わってはあらず、従来と異なる形で続き、また大国の利益優先が引き起こす軍事紛争や民族紛争の圧迫を受けている。インドネシア、ラオス、ベトナムなど熱帯アジアを中心に、具体例をあげて検討する。また日本と日本人が何をできるか、受講者ととも考える。	
	感覚感性とものづくり	ヒット商品や売れる製品は、見た目が良く高い機能を持ちながら使い易い点が共通しており、ヒトの感覚感性に訴えるモノでもある。他方、モノを創る現場でも、感覚感性が名人技を産み出す基となり、素晴らしい製品を世の中に送り出している。この様なヒトの感覚感性とはどのようなものか、もの創りにどのような関わりを持っているのか、名人や達人はどのような感覚感性を持っているのか等を映像や画像を用いて分かり易く講義致します。	
	インテリジェント農業	農業は、人類の最も重要な生産活動のひとつです。しかし、自然環境化の生物を対象とする複雑多様なシステムであるため、工業や商業にくらべて自動化、無人化等が困難な産業でもあります。一方、日本農業の労働力は高齢化、後継者不足など重大な局面にきています。この様な状況下で、農業を無人化、知能化、軽労化する技術を紹介し、日本農業のインテリジェント化について検討します。	
	地方自治の法律問題	まちづくりを身近な問題として考えようとしても、国土交通省や環境省の敷居は高い。学校教育、子育ての問題、産廃、医療、福祉、いろいろ関心はあるけれど、いざ公共的な仕事の世界に飛び込もうというときに、個人的な関わり方しかできないのだろうか。公共の問題に公的に関与できる場面は、選挙だけではない。知っているようで知らない地方自治の仕組みと現実を法的観点から解説する。自治の現場で悩む公務員諸氏の受講も歓迎する。	
	裁判で見る世相と労働の戦後史	裁判をとおして戦後史、世相の移り変わりを考えます。教材は判決文（判例）です。判例集、判例雑誌に掲載されている判例を裁判の記録として利用します。人の一生、生活のかなりの部分が労働に関わっていることから、「世相と労働」に焦点をあてています。もちろん、判例のオーソドックスな読み方についてもこの機会に学びたいと思います。	
持続的発展：南アジアの事例から	持続的発展は、地球的規模、国家、地域レベルにおいて発展のあり方を捉える概念として近年注目されている。南アジア3国（インド、バングラデシュ、ブータン）の第二次世界大戦後の経済発展を、「持続的発展」の観点で捉える。そこからわが国の目指す「持続的発展」のありかたを考えてみたい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (社会と産業)	ナノめっき技術入門	我々の生活に古くから関わりの深い「めっき技術」について、その基礎となる理論や背景技術を説明した上で、その先端テクノロジーに果たす役割について解説します。特に、普段は深く考えることの少ないめっき反応の基礎的なところについて、電解めっきおよび無電解めっきを題材にして化学的な解説を行います。	
	地域開発論	現代のまちづくりは、財政制約の下で、行政と住民の協働による地域振興が求められている。地域特性や地域資源を活用した多様なまちづくりの取り組みを紹介し、自らの地域の課題を再発見する機会を提供したい。	
	現代ジャーナリズム入門	ジャーナリズムとは、なによりも「理念」を必要とする活動で、ただ単に現実社会のできごとを報道するというのではなく、社会の主権者である市民が平和でよりよい生活ができるよう、社会のさまざまな問題点を掘り起こすとともに、その意味や背景をわかりやすく示すことが求められます。本講義では、ジャーナリズムに関する基本理念やさまざまな理論と現状を、具体例を用いて、みなさんと一緒に検討していきたいと考えています。	
	ものづくりで活躍！レオロジー	レオロジーという学問を聞いたことがありますか？変形と流れの学問と言われているレオロジーが、様々なものづくりで活躍していることを講師の研究分野であるセラミックス成形技術を中心に織り交ぜながら紹介します。また、レオロジーの簡単な体験も行います1) レオロジーとは？2) フックの法則と流体の変形3) レオロジーを体験してみよう！4) ものづくりで活躍！5) セラミックスの成形とレオロジー	
	木とものづくりと環境	木材は、古くから人間の身近で利用され、木の文化を創り上げてきた、古くて新しい人や環境にやさしい材料です。木材を加工する道具の変遷、森林が人類の文明に果たしてきた役割、日本や海外の森林の状況、富士山のトイレ事情とオガクスの関係、木炭や割り箸の現状など、木材とものづくりの楽しさ、森林資源と環境など木が果たしている身近で現代的な役割について考えます。	
	現代経済のグローバル化	現代経済のグローバル化が世界各国の経済や企業、労働や国民の暮らしにどのような影響をもたらしているか、さらにこの大きな動きに、私たちはどう向き合っていけばよいのかを考えることが、この授業の目標です。先進工業国や新興工業国(中国やインドなど)、さらに開発途上諸国も含めた国々の経済や労働、暮らしの視点から、その光と影の部分も直視しつつ、掘り下げます。	
	持続的社會を支える森林資源	木材や石油などの化石資源や鉄に代わってエネルギーや建築・土木資材、プラスチック製品、化学原料など暮らしや産業に必要な多くのものを供給することができ、しかも伐って植えれば持続的に利用できる再生可能な資源です。木材、きのこ、水などの森林資源とそれらを提供する森林について学び、環境と調和した資源利用により、化石資源への依存を低減する工夫についても考えます。	
	現代日本の政治と責任内閣制	現代日本の政治について講義します。主に1970年代以降の政治を扱います。1970年代のオイルショックと経済成長の終焉、財政危機と1980年代の自由主義改革、1990年代からの自民党一党優位体制のゆらぎと連立政治、橋本行革から2000年代の小泉改革へ、さらに安倍政権の挫折と政権交代のゆくえなどを考察します。競争的政党制と議会主義と責任内閣制のあり方について考えます。	
	科学・技術の歴史	科学と技術の歴史の中から、ある時代あるいは分野に絞った具体例について講義する。社会との関係に焦点をあて、現代社会との対比から考える。学者・職人から科学者・技術者へ、科学革命と科学の制度化、ニュートンの錬金術研究、リスク社会と技術者倫理、東海地方と産業考古学遺跡、などの話題を取り上げる。本年2009年は、ダーウィン生誕200年にあたるので、ダーウィンと進化論についても積極的にとりあげる。受講者からの発言を歓迎し、途中アンケート形式の感想・疑問などの提出を求め、それを以降の講義に反映させる形で進める。	
	消費の社会学入門	本授業では、まず前近代から現代にいたる消費を文化人類学や社会学の視点から概観する。これによって、一般的で常識とは異なる、消費の社会的意味を明らかにする。このことによって社会の消費スタイルがいかにそれぞれの社会のしくみや構造と深くかかわっているかを示すとともに、前近代と近代の消費の仕方の違いの意味を、いくつかの社会学説をもとに説明する。現代社会の諸問題を消費という観点から考察するための基礎を講義する。	
	産業と文明	資源や食糧の不足や、環境破壊、人口の増加と世界が抱える危機のレベルは年々上がっている。こうした現代文明の危機を、過去の文明との対比から理解しようというのが、この授業の目的となる。	
	「近江商人」の商いと理念	「近江商人」は、近世期を代表する商人の一類型である。近年は、その高い倫理観に基づいた経営について再評価が進んでいる。しかし、巷間で語られる近江商人の誉れについては、かなり危うい通説が流布している。この講義では史料に基づきながら、最新の近江商人研究が明らかにしている事実を紹介する。	
	信楽焼の歴史	滋賀県の物産の中で広く知られているものの一つ、信楽焼。どのように始まり、どのように展開し、今日にいたるようになったのか。近年研究が深化した考古学的研究を中心にすえ、歴史的、美術的な側面も踏まえて新しい信楽焼像を考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	市場経済と法	市場における企業間の活発な競争は、価格の低下、品質・サービスの向上、顧客のニーズにあった新商品開発などを促進し、消費者に利益をもたらす。この競争を維持するための法律が独禁法である。本授業では、この独禁法の役割と構造を学ぶ。カルテル・談合、不当顧客誘引、不当販売（安売り）、合併など、最近の事例をとりあげ、日本経済の近時の動向を踏まえながら、どのように独禁法が運用されるべきであるかを考える。	
	お米のちから	コメは脱穀しやすい植物で食糧としては粒の状態です。煮て食べる文化が発達した。酒の製造に際してもこの粒（固体）発酵が並行複発酵という複雑な技術にまで昇華した。ここで得られるアルコールや酒の粕が米酢となり、さらに、このコメを原料とする健康食品にも注目が集まっている。コメの持つ力を総括したい。	
	地域経済論	近年、経済のグローバル化が本格化し、ヒト、モノ、カネが国境を越えて自由に移動するようになりました。他方で格差と貧困の拡大が指摘されています。本講義では、グローバル化が地域に与えている影響を京都の事例もとりあげて明らかにしながら、今後の日本や地域の生きる道を由布院などの具体的事例に学びながら探してみたいと思います。	
	バブルの教訓とサブプライム問題	世界経済に大きな影響を与えている米国のサブプライムローン問題をみると、日本のバブルと共通した面も少なからずみられます。その意味では、日本の苦い教訓を十分活かせなかったとも言えるでしょう。この講義では、まずサブプライムローン問題を概観したあと、日本のバブル生成・崩壊からの教訓をお話します。次いで、日本のバブル前後とサブプライム問題との共通点を整理します。最後に、日本の経験との相違点についても検討していきます。	
	現代の刑事立法と刑法の基本原則	罪刑法定主義、最終手段原則、「疑わしきは被告人の利益に」の原則、比例性原則等といった、刑事法上普遍的に認められてきた刑罰権の発動を抑制する古典的諸原則は、交通犯罪、児童保護、生殖医学技術の規制、環境犯罪、経済犯罪、IT犯罪などといった現代的諸問題に対処するために活発に行われるようになった最近の刑事立法とも調和しうるのか、矛盾するのか、矛盾するとすれば、それはどのように解消される「べき」なのかを学びます。	
	情報、リスクと株式投資	ここ20数年間、情報化は急速に進んでいる。それとともに、ノイズ情報や虚偽の情報の影響も大きくなっているし、われわれの直面するリスクも高まっている。本講義では、まず、情報化社会をどう生き抜くか、リスクとどう付き合うかについて皆さんと一緒に考える。続いて、情報やリスクと密接に関連するお金に関する意思決定とくに株式投資についてわれわれの限界や心得るべきことを取り上げる。	
	覇権国家の経済史	近代初頭から二十世紀にいたる世界経済の興亡史をお話します。担当者の研究領域は近代欧米経済史ですので、イギリスやヨーロッパ大陸諸国、アメリカ合衆国を対象とした内容が中心になります。それぞれの時期に経済的主導権を握った国々の事情を軸としながら、世界的システムとしての横のネットワークも重視してお話します。	
	日本植民地支配と近代化	今日依然として、国内的・国際的に議論され続けている日本植民地支配とその性格について、ウェスタン・インパクトから支配の終焉までを辿ることにより明らかにする。合わせて、近代社会におけるナショナリズムについて解説する。	
	住環境と木材	私たちが生活するためには、衣・食・住の3つの条件が必要です。木材は昔から住「住まう」と深い関係があり、ここでは木造住宅・木造建築の住みごちを中心に解説します。具体的には、木材の基本的性質、先人の智慧である木材の適材適所、欠点を改良する新木材技術、さらに地震と木造住宅、等々です。また、歴史的に有名な寺社・仏像に使われる木材や、無計画な樹木伐採による環境破壊問題等についても若干解説を加えます。	
	食の社会学	グローバル化の進展する現代社会において、「食の安全性」はいかに確保できるのかを社会学の観点から考えてみたいと思います。食べ物の大半が商品として生産・流通している現代では、「食の安全性」は単に消費者の責任ではなくて、食べ物を生産・流通させている食品業者や業界、さらにそれらの行動を監視・規制する政府・行政の役割も重要です。安全な食生活が可能な「社会システム」の在り方を、受講生と一緒に幅広く検討します。	
入門比較政治学	中南米諸国の政治的経験は、地域を越えて、さまざまな地域の政治を理解するのに役立つ。大統領制と議院内閣制のどちらが政治的安定をもたらすか、民主主義が崩壊する、あるいは非民主主義体制から民主主義体制に移行するプロセスはどのようなものか。ポピュリズムとは、等等。本講義では、中南米の政治を例にとって政治の基本的なからくりを理解することをめざす。		
グリーン・ツーリズムと地域再生	少子高齢化のもと、わが国では「大都市」と「農山村」との格差が拡大する一方で、食料自給率や“地産地消・スローフード”への関心が高まり、農の営みや農山村での暮らしを見直す動きも広がっています。今後の農山村地域の再生は、グリーン・ツーリズムを通じた地域資源の発掘・見直し、農工商連携（6次産業化）による商品化、就業機会の創出による経済の自立性向上が重要です。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	農業の今とこれから	農業は人間の食べ物、嗜好品、生活資材などを生産する自然依存型の産業である。農業は毎年の太陽エネルギーを利用しているという点から、当然化石燃料を使うよりもエネルギー生産量が低く、産業としての地位は低下した。しかし、現在発展途上国人口の増加と生活水準向上、気候変動による災害の頻発は食料供給を不足させ、いつでも豊富に手に入る農産物という見方が終息しつつある。食糧生産における農業の今とこれからのを述べる。	
	契約に関する法の仕組み	私たちは、契約を通じて他人と関わることによって、社会生活を送っています。この「契約」という法制度の仕組みがどうなっているのかについて学びます。	
	産業技術史	技術発展の結果、現代社会は大量生産・消費の時代となりましたが、様々な問題が引き起こされています。その原因を考察するために、大量生産の契機となった産業革命期から第一次世界大戦までの主要技術、アメリカンシステム（大量生産方式）の成立過程をとりあげます。最後に、現代技術の諸問題について検討します。	
	情報の法律問題	情報化は、社会・経済に大きな構造変化をもたらしつつあり、情報化の進展に対応した政策の展開・法制度の見直しが進められている。それらのうち、私たちの生活や仕事と関係の深い個人情報保護、インターネット上の違法・有害情報、ネットショッピング等の電子商取引などに関する法制度について、それらの基礎となる考え方を把握するとともに、問題点や課題について考える。	
	企業システムの進化と労働問題	企業システムは、なぜ、どのように進化するのだろうか？この授業は、自動車産業における企業システムの進化を例に、まず、フォード・システムからトヨタ生産システムへという企業システムの歴史的進化を概観する。次いで、1970年以降の世界の主要自動車メーカーにおける企業システムの進化、その原因および進化の方向を説明し、経営危機、とくに労働の危機が企業システムの革新において重要な役割を果たしてきた事実を示す。	
	インターネットの利用と応用	インターネットの普及により、社会の様々な仕組みが変革しつつあります。高度情報通信社会においてビジネスをし、また快適な生活をするためにはインターネットに対する知識が必要です。授業では、（１）インターネットの通信プロトコル等の仕組み、（２）インターネットのビジネスや教育への応用、（３）携帯電話によるユビキタスコンピューティングについて概説します。またHTMLを用いて、ホームページ作成の実習もします。	
	不動産法	不動産取引に関する主要な問題を中心に、具体的な事例に従って解説する。不動産取引に関する法領域としては、民法の中でも、物権、担保物権、売買、請負、賃貸借などのほか、特別法として、不動産登記法、建物区分所有法、借地借家法などを対象とする。	
	農地・入会・漁業・水利の法制度	本講義は、自然にかかわる産業である、農業、漁業にかかわる権利関係を中心に考察する。1-3回；農地問題と法について、戦後の農地法制定の意義を明らかにし、農業の産業的衰退に伴う、農地法制の変遷過程を、検証した上で、現在の問題を検討する。4回；山林にかかわる入会権の現代的意義を検討する。5回；漁業権の現代的問題について検討する。6-7回、河川と地下水にかかる権利を検討する8回、まとめ	
	材料科学の世界	1. 材料の成り立ち - 電子, 原子, これらの配列 2. 材料中の原子の運動 3. 材料中の原子配列の乱れ 4. 形を覚える材料 5. 材料の強さ 6. 材料の割れにくさを向上させる 7. 材料の錆び 8. 材料表面の処理 9. 極限環境下での材料 10. 材料の実際	
	日本政治外交史	近代日本の外交思潮にアジア主義があります。日本が朝鮮、中国をはじめとするアジアと提携して、欧米のアジア侵略に対抗し、アジア富強化を企図する思想と行動です。このアジア主義の近代における歴史的展開を概観し、初期アジア主義（明治十年代から日清戦争まで）の思想と行動を明らかにしたいと思います。そこには昭和前半期に展開するアジア侵略とは異なる、アジアと対等提携による富強化をめざす活動もありました。	
	労災補償と法	労働災害は事業場内の事故、職業病から長時間労働や仕事上のストレスに起因する過労死・過労自殺などから通勤災害まで多岐にわたります。講義は被災労働者・家族の生活保障を目的とする労働者災害補償保険法の仕組みを中心としますが、労災の民事責任まで言及します。	
	生活経済学概論	現代の生活経済について、景気の動向や経済成長、失業問題、物価上昇、円レートの変動、金融自由化とグローバル化、家計貯蓄とパーソナル・ファイナンス、生活設計などの多くの関連する視点から考察しながら、生活経済学の基礎的知識を修得し、産業経済や公共経済との相互関連についても学ぶことにする。また、地域社会における家計をとりまく諸環境要因とその変化についても、取り上げる予定である。	
地球温暖化抑制への挑戦	2050年までにCO2を半減するという目標は、2008年G8洞爺湖サミットにおいても確認されたところです。この目標を達成するための具体的な技術的対策にはどのようなものがあるのでしょうか？本講では、地球温暖化の真の原因、火力・原子力等の従来型発電からコンバインドサイクル発電及び風力・太陽光等の自然エネルギー利用発電への展開、高効率・無公害エンジン自動車及びバイオマス燃料の利用について技術的展望を講述します。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（社会と産業）	教養としてのコンピュータ	現代はコンピュータがあらゆるところで使用されている。コンピュータについて学び、正しい知識を得ることは非常に大切である。本講義ではコンピュータの仕組みや利用形態など、一般教養として知っておきたい最低限の知識を修得することを目的とする。・コンピュータの5大機能および5大装置 ・補助記憶装置の種類および動作原理 ・オペレーティングシステムおよびソフトウェア ・コンピュータの利用形態	
	地方自治論	今日的課題あるいは人類史的課題とも言うべき地方自治について、楽しく学びます。その過去、現在、未来の諸問題を、優れたジャーナリストによって生み出された出色のドキュメンタリー映像と、講師が用意したレジメ・資料を使って、これからの主権者としてどう生きていくかを、ともに学ぶことができればと思います。	
	映画で学ぶ韓国社会学	韓国映画の古典・新作を見ながら、韓国の社会と歴史を学びます。取り上げる映画は「家なき天使」「志願兵」（1941）「自由夫人」「英子の全盛時代」（1975）「ディーブ・ブルー・ナイト」（1984）「風の丘を越えて」（1993）「猟奇的な彼女」（2001）「ブラザーフッド」（2004）「韓半島」（2006）「宿命」（2008）などを予定しています。「韓流入門」を兼ねています。	
	日本の政治	日本の政治を考えてゆく際の基本になることを概説します。政治や外交の見方、国と地方の制度の骨格、関連する課題などについて考えます。日本の政治の時事解説はできませんが、少し幅広く長い視野で考えてみます。	
	中国経済論	授業の前半では、1949年以降の中国の歴史を概観する。特に社会主義改造時期の状況と改革開放時期以降の状況を比較しながら、それらの特徴を紹介する。また中国の人口問題と貧困問題について考える。その際、マルサスの人口論についても触れる。後半では、人民元の切り上げによって、中国の貿易や日中経済にどのような影響がもたらされているのかを紹介する。またWTOやFTAの枠組みが中国の貿易や経済発展にどのような効果をもたらしているのかを検討する予定である。	
	焼酎と世界の酒・比較文化論	焼酎の製法には風土を逆手にとった見事な知恵があり、そこから個性溢れる焼酎文化が生まれました。焼酎500年の歴史を辿りその発展過程を学び、酒と社会の関わりを考えます。飲酒方法や酒と健康、酒と肴を通じて、また世界の酒文化との比較を通じ焼酎のオリジナリティの背景を探ります。また焼酎蔵で製造実習と利き酒の方法を学び、世界の蒸留酒との利き比べをします。	
	観光と地域開発	アジア太平洋地域では観光ビッグバンが起こり、観光の質も大きく変化している。わが国でも高齢化、価値観の変化に伴い国民のニーズが多様化している。こうした変化に応えるべく政府は観光立国行動計画を策定している。とくに沖縄はニューツーリズムのモデルと目されている。こうした動向を概観し、21世紀型沖縄観光を支える観光産業、政策、観光人材について議論する。	
	新時代の産業組織と公共政策	現在の市場経済における資源配分の基礎的な経済システムは、競争的市場メカニズムと公的規制（経済的規制と社会的規制）であり、これなくして効率性を高め、その他の側面の市場（経済）成果もより良好なものにすることはできないといつてよい。本講座では、産業組織の理論と実際と政策について学習する。	
情報リテラシー	現代の情報化社会において、学生・社会人として必ず必要となる情報リテラシー（読み書きの能力）を身につける。コンピューターなどの情報機器の仕組みや情報技術（IT）などについて基礎的な理論や概念を理解するとともに、パソコンやネットワークなどを活用し、情報の収集、加工、伝達、蓄積といった研究・学習などの知的活動に広く通用する汎用的な考え方と技術を習得することを旨とする。		
専門科目（人間と文化）	日本の思想（08）	日本の思想は、大陸あるいは朝鮮半島を経由して、受容されたその時々先進文明や文化を、自らのものとするという宿命をもって、作り上げられてきた。そこにはおのずから、異文化をとりこみ独自の形で、展開させるといった事態をともなした。古来の習俗は、仏教・儒教の受容、あるいはまたキリスト教や蘭学という西洋の文化とも対峙しながら、近代化へとつづく。本授業は、この日本を場として展開してきた諸思想を、哲学・倫理思想史的な観点から総覧し、日本の思想とはなにか、その展開、特質を考えてみる。日本の思想はまた、時代のなかでの論争、あるいは時代をこえた過去の参照によっておりなされてもいる。その点もとくに学びの対象としたい。	
	実存と現象学の哲学（09）	この講義では、人と人との対応の仕方に重点を置き、他の人といかに喜びや悲しみを共にしながら生きていくのか、その現実と理想を、多角的に考察してみたいと思います。現代哲学の中でも、「実存主義」や「現象学」という哲学は、この問題について考える上で、もっとも豊かな内容をわたしたちに与えてくれます。「他者の痛みに触れることができるのか」、「人と人との真の出会いが可能か」といった問題をめぐり、二つの哲学から多くを学びたいと思います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	功利主義と分析哲学 （ 10 ）	西洋哲学の伝統において、英米系の哲学には、ドイツ、フランスを中心に大陸系の哲学とは異なった性格があるが、その特徴としてあげられるのが、功利主義という性格と、経験論という性格である。20世紀においては、後者は、分析哲学という新たな領域を伴っている。分析哲学は、フレーゲやウィットゲンシュタイン等のドイツ語圏の哲学者によっても担われていたことが知られているが、多くの英米系の哲学者によっても担われてきた。特に現代のアメリカの哲学を代表する哲学として、哲学的知性の新たな領野を切り開くものとなっている。今日、哲学を学ぶとする学生のなかには、この功利主義や分析哲学に関心を示す学生が必ず含まれている。哲学という学問の現代的意義を示すためにも、必要不可欠な科目である。	
	芸術の理論と歴史 （ 06 ）	芸術は、人類の文明の深い意味での美的な結晶の一つですが、それは、一見すると天才的な芸術家が一人で生み出したように見えるものであっても、実は長大な文化的伝統と重層的な社会的諸関係のただなかで受胎し産み落とされたものにほかなりません。この講義では、芸術のこのような文化的・社会的な生成の構造に焦点を当てて、各時代の美学芸術理論を振り返り、各時代の芸術作品がいかにその時代の文化と社会に深く根ざしていたかを美学的・芸術学的に考察するものです。	
	芸術・文化・社会 （ 06 ）	芸術を文化・社会的脈絡において考察する。また、芸術の範囲を拡大し、現代の社会に焦点を合わせて論じる。個別的な芸術を扱う場合も、身体性、伝承、異文化との接触、グローバル化といった大きな枠組みの中で考察する。	複数教員共同担当
	日本美術史 （ 08 ）	人間の作る物の形、イメージのありさまは、時代とともに変わり、地域によっても違う。どう変わり、なぜ違うのか、と美術史学は問いかける。日本の美術史についてその問題を考えてみよう。原始から現代まで、縄文土器から戦争画まで、日本列島で作られたさまざまな造形と関連する歴史事象とをたどる。主要な作例について映像を活用しながらその特徴を明らかにし、どのような力の働く場で造形が生きていたのかを考察する。	
	西洋音楽の諸問題 （ 05 ）	西洋音楽史を彩る様々な作品を取り上げながら、現在の西洋音楽研究では何が起きているのか、どのようなことが問題になっているのかを、視覚メディアを駆使しつつ、紹介し、西洋音楽研究の最先端の状況を紹介する。	
	現代日本社会における音楽 （ 08 ）	今日の日本で実践されている多彩な音楽の姿を、全15回にわたって講義する。伝承と創造、声と楽器、地域や教育や産業、音楽を提供する側と実践する側といった複眼的な視座のもとに、新しく創作された作品を含むさまざまな伝統音楽、オーケストラや吹奏楽、各種のポピュラー音楽、世界の多様な音楽などの日本での在りかたを、史的経緯もふまえて解説する。講義は曲例を紹介しながら進め、音楽を考える手がかりとなる理論的な問題にも随所で触れる。	複数教員共同担当
	演劇入門 （ 06 ）	日本の四つの古典劇・・・能、狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎を新しい視点から見るとはどうしたらいいか。そのためには第一にこの四つの古典劇の一つのものとして見る。第二に他の現代演劇と比較しながら見る。この二つの視点・・・つまり、デジタルとアナログの視点からみることが大切である。そうすれば容易に伝統演劇を理解できるだろう。そのために今回の番組はできるだけ、作品中心、俳優中心、一番組読みきりを原則とした。	
	考古学 （ 09 ）	考古学とは、過去の人類が残した行動の痕跡を調査・研究し、過去の出来事や社会、文化、歴史を明らかにしようとする学問である。フィールドにおいては考古資料を注意深く取得することが必要である。考古学は、取得した資料の実測や分析を行い、関連する様々な学問の支援を得て、遺跡や遺物に残された「行動の痕跡」を解釈する。本講義では、それらの研究方法について具体的事例を示して講義する。	複数教員共同担当
	日本の古代 （ 05 ）	日本列島の古代史像は、様々な新資料の発見によって変わりつつある。活発に越境した国際関係、掘り起こされた各地域の歴史や古代都市の実像が明らかになり、多元的に古代史が見直されている。こうした研究動向をふまえ、東アジアの国際関係のもと史料と史跡に焦点をあてながら、あたらしい日本列島の古代史をたどりたい。	
	日本の中世 （ 07 ）	日本の中世は古代や現代とは違って権力が中央に集中していなかった。その歴史を、成り立ちや展開の姿、特に列島の各地の動きや対外関係に注目しながら考えることにする。そのためには中世史の研究を行うための主な材料や研究方法などを吟味するとともに、列島の各地からのレポートを載せて、多様な地域、多彩な人物のあり方を浮き彫りにすることにしたい。	複数教員共同担当
	日本の近世 （ 07 ）	日本の近世（16～19世紀）とはどのような時代なのか、その特質について講義することを基本的な課題とする。5つの分野（政権論および国家論、朝廷論および朝幕関係論、村落論、商業・流通論、都市論）を取り上げ、各分野毎に、 研究状況の概観 高校教科書の記述に代表される一般的な理解と現在の研究状況の違い 各分野の最先端の研究成果などについて講義する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	北東アジアの歴史と朝鮮半島（09）	日本にとってもっとも密接な関係をもってきた北東アジア地域の歴史を、朝鮮半島を中心にして、古代から現代までを15回にわたって通史的に講義していく。とりわけ政治の動きに注目して、諸国家・諸民族の興亡や相互の関係などを中心としてこの地域の歴史を読み解いていく。また、あわせて経済・社会・文化など人間活動の諸側面に注意を払いながら、総合的な学習を行っていく。	
	中国社会の歴史的展開（07）	中国史の概説であるが、中国社会の特質、及び東アジア的視点に留意する点を本講義の特色としたい。「中国」の意味を考える第一回を除き、時期を追って論じてゆくが、長期にわたり存続していく中国の社会や文化の特質（例えば「家」や「儒教」「士大夫」「民衆反乱」など）は時期を追った記述のみではつかみにくいと思うので、そうした点はコラムのなかで適宜論じる。また、毎回の講義において関連する史料を挙げ、具体的なイメージをつかむことをめざす。	
	前近代の東南アジア（06）	かつて東南アジアは石油やゴムなどの第一次産品の輸出地域として知られ、近年ではその政治的な不安定にもかかわらず、急速な経済発展をした地域、また日本から一番近い熱帯観光地と、あるいは“エスニック”料理の故郷として知られる。そこには、一貫して東南アジアに住んでいる人々の姿がない。あったとしても、それは“癒し”とか“醇朴”とか、実態とはかけはなれた思いこみのイメージでしか語られない。本講義は、東南アジアの近代以前の歴史を解説することを通じて、東南アジアの人々が経てきた二千年の経験と、その結果としての現代を考える。それは東南アジアをモノとしてはなく、人の世界として、認識する。あたりまえであって、忘れられていた方法である。	
	中央アジアの歴史・社会・文化（04）	日本ではシルクロードなどの名で知られる中央アジアの歴史について、中央アジアの歴史 中央アジアの社会 中央アジアの文化という3つの大きな枠組みにそって概観し、中央アジア史の総合的な理解を深めたい。また最後に、中央アジア史研究の課題について述べ、今後の研究の進むべき方向を探りたい。	複数教員共同担当
	ヨーロッパの歴史と文化（09）	ヨーロッパの歴史を中世から現代まで概観する。各講義はそれぞれテーマをたてて（「城」、「都市」、「キリスト教」、「帝国」など）今日のヨーロッパを築いてきた道のりが理解できるように工夫されている。	複数教員共同担当
	アメリカの歴史と文化（08）	アメリカの歴史と文化を理解するにあたって最低限必要な基本的知識を15回にわたって講義する。抽象的な政治理念や争いの説明に終始することなく、人々の生活規範や民族集団の变成を具体的事例にそくして説明する。また、毎回の講義においては、歴史図像や時代の証人たちの声を数多く紹介し、アメリカ人の自己理解が多様で陰影に富むことをより深く理解させる。	
	文化人類学（08）	専門科目としての文化人類学の基本的知識を全15回にわたって講義する。1章ごとにテーマに沿って学史から現代の課題まで含める。とりわけ人類が直面する現代的課題に対して、文化人類学的に考察することがどのような意味をもつのかを解き明かすことに重点を置く。	複数教員共同担当
	資源人類学（07）	この科目では、人類学の視点から資源と人間社会、文化との関わりについてアプローチする。資源そのものよりも、「人間にとって」という観点に重点が置かれる。天然資源とならんで、通常では資源とは考えられていない知識や身体なども、これに含まれる。包括的な理論とともに、資源と人間の関わりを全地球的な多様性を、具体的な生活舞台にそくしながら探究することにしたい。	複数教員共同担当
	博物館資料論（08）	博物館には、博物館法によって資料を保管し、後世に伝えることが決められている。いってみれば博物館の基本は収蔵している資料にあるといっている。そしてそれは博物館が扱って立つ所以ともなる重要な存在である。資料はまた「モノ」ともいい、「文化財」でもある。「モノ」を見失った博物館は博物館ではなく、単なる人寄せの場ではない。こうした観点にたつて、博物館について考えていく。ここでは「博物館学」という講義の場ではない。「モノ」から離れたアームチェア・ムゼオロジーではなく、実態に即した資料のあり方について考える。	複数教員共同担当
	博物館経営・情報論（08）	この科目は、3つの内容から成り立っている。 経営論：博物館の使命達成に向けて、資源をどのように活用していくかについて 情報論：博物館が収集した1次・2次資料に関する情報、経営戦略を策定するために必要な情報などについて 教育論：博物館展示とともに活動の重要な柱の1つとなる博物館教育の歴史、理論、動向などについて	複数教員共同担当
日本語学～母語のすがたと歴史～（09）	普段日用していながら改めて意識することのない母語としての日本語を分析しその構造を明らかにしていく方途を、音韻、文字、文法、語彙、文章など様々な観点から概説し、日本語の特色とその歴史的な変遷を示す。言葉の学としてだけでなく、日本文学、歴史、日本文化など幅広い分野にわたって、母語としての日本語という観点から考えていくための一端緒を提供することにも配慮する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	日本語基礎A （06） - 文法指導法と学習 -	対象は、原則として日本語教育に関心を持つ日本人および上級の日本語能力を持つ外国人学習者である。放送教材は、すべて、日本語力が初級後半程度のレベルの学習者を対象とするが、この教材の構成、提示法を通して日本語教育の教授法の実際に触れる。印刷教材は、2部に分かれ、前半部は外国人学習者用の解説と課題、後半部は、日本人教師用の解説となっている。試験問題は、「外国語科目」の枠で履修する外国人学習者とはまったく別の内容・程度のものとなる。「専門科目」の枠で履修する者に対しては、印刷教材後半部を中心とする出題となる。内容は、日本の社会と文化の紹介、日本人の生活や働く姿の紹介、日本語能力試験3、4級レベルの文法事項、語彙、漢字の基礎的運用能力養成である。マルチメディアの特色を生かしつつ、コミュニケーション能力を養成する楽しい講座を目指す。授業風景、実際の練習場面、スキットやドキュメンタリーの視聴覚教材などを通して日本語指導法を示す。媒介語を使用しない直接法による授業、教材作成、学生の誤用の分析など、日本語教育学に関し、豊富な研究資料を提供する。	複数教員共同担当
	日本語基礎B （07） - コミュニケーションと異文化理解 -	対象は、原則として日本語教育に関心を持つ日本人および上級の日本語能力を持つ外国人学習者である。放送教材は、すべて、日本語力が初級後半程度のレベルの学習者を対象とするが、この教材の構成、提示法を通して日本語教育の教授法の実際に触れる。印刷教材は、2部に分かれ、前半部は外国人学習者用の解説と課題、後半部は、日本人教師用の解説となっている。試験問題は、「外国語科目」の枠で履修する外国人学習者とはまったく別の内容・程度のものとなる。「専門科目」の枠で履修する者に対しては、印刷教材後半部を中心とする出題となる。放送教材は、機能別モデル会話、外国人の異文化体験インタビューと解説、日本の代表的な都市と紹介、日本の詩歌の朗読と解説から構成されている。	複数教員共同担当
	日本の古典 - 古代編 （09）	言葉によって世界を把握する過程で、人々が文学の言葉の力を発見したその始原から、漢文学の受容をも重要な契機・触媒として、和歌・物語・日記・説話などの文芸が形成され、それらが相互に交流しながら展開した様相を明らかにする。また、古典の言葉がもつ力、その豊かさともまやかさが忘れられかけているこんにち、古典を読むよるこびを再発見できるような講義にしたい。	複数教員共同担当
	日本の古典 - 散文編 （06）	日本の中世文学の散文作品の展開を、より広く前後の時代を含めて遠望したり、文学を産み出す土台や背景にまで遡って観察したり、新しい枠組みや系譜の中で検討するなどして、ユニークな中世文学史の試みを提示する。幅広く多くの作品を取り上げ、代表的な作品についてはその内容も紹介していきたい。	複数教員共同担当
	日本の古典 - 江戸文学編 （06）	従来の枠組みにとらわれず、長い射程距離を持った上で、新たに近世（江戸）文学を概観することを目標とする。そのため、各章はトピック的な表題とし、これまで以上に近世文学の面白さを自由に伝えられるようにする反面、テキストとしての性格も考慮して、最低限の重要な文学史の流れは盛り込むように配慮したい。	複数教員共同担当
	日本文学の読み方 （09）	この講義は、次の2点に重点を置いて構成している。すなわち、ほぼ年代順に作品を配列することによって、コンパクトな日本文学史としての側面を持つこと。と同時に、原文や歌句の選択に意を用いて、名文選・名歌選・名句選としてのアンソロジー的な側面を持つことの2点である。さらに、以上の2点に加え、個々の作品をいかに読み解き、研究するか、その方法論や研究史にも触れて、日本文学を総合的に、かつ深く読み込むことを目指す内容になっている。	
	和歌の心と情景 （10）	日本の文学において和歌は、古代から現代にいたるまで、一貫して読み継がれ、作りつづけられてきた文学形態である。そのような和歌を中心として、日本の文学、ひいては日本文化の根幹を学ぶことも目指す、幅広い科目である。 各時代に作られて日本文化の基盤となった勅撰集。小野小町や紀貫之、西行や定家、さらには近代の著名な歌人たち。彼らが残し、日本文化の最良のエッセンスと讃えられる名歌。それらを豊富に取り上げたい。その際には、その文学的な背景を各地の文学風土（歌枕）を紹介しながら、解説する。 また和歌は、美術・工芸・書道などと密接に結び付いているので、それらも幅広く取り上げる。これによって、日本の文化全般に関する最適の入門となる。	複数教員共同担当
	20世紀の中国文学 （05）	中国文学は中国における近代的国民国家建設と歩を同じくして誕生した。上海・北京の南北二都を手がかりに近代中国および20世紀中国文学を読み解いてみよう。その際、キーワードはメディア=知の媒体と都市の社会学である。中国本土だけではなく、広く中国語圏を視野に入れて、香港・台湾でのアイデンティティ形成と文学との関わりや、明治・大正・昭和の日本や現代東アジアにとっての中国文学についても考えてみたい。	
	中国の詩歌 （10）	中国文学は日本文学に多大なる影響を及ぼしてきたが、その中心をなすものが古典詩、いわゆる漢詩である。本科目は「詩経」・「楚辞」から近代に至るまで、各時代の代表的な作品を取りあげつつ、中国古典詩の歴史的展開を通覧する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	コンピュータのしくみ （ 08 ）	ここではコンピュータの構造、動作原理といったしくみについて全15回にわたって講義する。もっとも簡単な回路である論理回路、さらに過去の履歴に依存してその動作を変えていくシークエンス回路を基礎として、これらを組み合わせた電卓の構造と動作原理を示し、さらに何でも処理できるコンピュータについて学習を進めていく。	
	情報ネットワークとセキュリティ （ 10 ）	IT技術を支える情報通信技術に関する基本的な事柄について説明する。まず、インターネットの歴史について述べ、分散システムの問題について紹介する。次にネットワークの応用技術として電子メールやWWWといった活用技術について説明する。 次に、そうした技術のもとになるTCP/IPについて説明し、LAN、ワイヤレス通信について説明する。 最後にこうした技術を、安心して利用できるようにするために必要なセキュリティ技術について説明し、あわせて情報化社会を生きていくために必要なリテラシーについて述べる。	複数教員共同担当
	文献学 （ 08 ）	現存する様々な文献資料類を、実際例を掲げて紹介しながら、その特質を概説し、それをふまえた読み取り方の実際を概説する。書写者の意図が、資料上の様々な点に表されていることを、その多様な工夫の跡たどることによって指摘し、意図を的確に読み取っていくことの重要性を考える。さらに、資料の保存・伝承の実際を紹介し、資料を利用する者としての基本的な考え方を概説する。	
	卒業研究 （人間と文化）	1．卒業研究は、各専攻に所属している全科履修生が、教員から直接指導を受け履修する選択科目です。 2．履修を希望する場合は、学習センターの窓口にて配布（毎年6月中旬）の「卒業研究履修の手引」を入手し、卒業研究申請書を提出してください。 3．提出された卒業研究申請書をもとに教員が審査を行った結果、履修可の通知を受けた方は、所属する専攻の卒業研究の科目登録申請を行ってください。 審査の結果、履修が認められない場合は、履修申請条件を満たしていても科目登録申請・履修はできません。 4．他専攻の卒業研究は履修できません。 5．既に修得した専攻の卒業研究は履修できません。 6．履修期間は、4月から1年間です。従って、履修途中（第1学期末）で卒業要件を満たしても第1学期末での卒業はできません。	複数教員共同担当
	旅する大英帝国	大英帝国と言えば19世紀ヴィクトリア朝というイメージが強いが、実際にイギリスが世界の制海権を握り、帝國的な基盤を築いたのは18世紀である。そこには海を渡って旅した無数の旅があり、ドラマがあり、物語りがある。クック船長のような著名人から、無名の商人、女性たちの旅行記を題材にして、文化摩擦、歴史の転換、科学の発達の過程を考察し、さらに大英帝国の意味を根源から見つめ直す。	
	人間と芸術：北大の風景を描く	本授業では、人間と芸術全般のかかわりについて学習すると共に、「風景」・「静物」を描くことの意味や歴史的考察を考え、実際に絵画表現を行ってみます。具体的には、北大校内の風景と静物の花を描きます。その中で北大キャンパス内の随所に点在する魅力あるモチーフを発見し、美に対する感性を深め、創作のすばらしさを味わっていただきたい。	複数教員共同担当
	フランスのロマネスク美術	11世紀から12世紀前半にかけて発展した修道院活動と聖地巡礼熱を背景にして、フランスの各地に地方色豊かなキリスト教文化が開花した。本講義は、今日ロマネスク美術と呼ばれるこの文化の特質を黎明期から形成期、そして成熟期にいたるまでの作例（建築・彫刻・壁画など）を詳しく観察しながら検証する。また、指定教科書の予習が望ましい。	
	日本の思想と宗教	日本の思想・文化を理解する上で仏教の果たした役割は無視できない。仏教伝来後、日本が仏教化したような印象もあるが、むしろ仏教の日本化という側面が強い。本講義では、日本文化の特質や仏教の基本的事項を確認した後、古代・中世における仏教の展開を概観しながら、仏教の日本化の様子を検討してみたい。	
	白樺派の文学	1910年、雑誌『白樺』が創刊される。代表的作家として武者小路実篤、志賀直哉、有島武郎の名があげられる。当時、『白樺』に限らず、『新思潮』、『スバル』、『三田文学』と多くの雑誌が発刊される。本講義では、（1）当時の文壇における白樺の果たした役割（2）白樺派の作家達（改行）（3）北海道と白樺派のかかわりについて考察します。	
	英文学 短編小説の読みと解釈	この講義では、ニュージーランドに生まれイギリスで活動したKatherine Mansfieldの短編小説The Voyage（船の旅）を取り上げます。平易にして気の利いた文体で、何気ない情景を切り取り、そこに深い人間性を込めた見事な作品です。精読形式で、英語の解説はもとより、ナレーションの視点、文体の面白さ、登場人物の心理などについて解説し、文学作品の深い読みを学習します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	韓国近世の社会と文化	この講義は、韓国近世（17～19世紀）の社会と文化がもっていた特色について、同時代の東アジア（日本・中国）との比較を念頭におきながら考察していく。歴史学的方法を中心にすえ、人類学や社会科学の研究成果・方法論を取り入れて多角的な観点から韓国近世の歴史社会の特質を検討する。韓国近世社会は、儒教社会と評価されることが多いが、儒教文化を身につけていた人々は人口の1割にも満たない少数派である。しかしそれらの人々が士族・両班という支配エリートとなることで、社会的価値の中心的な位置を占めたところに歴史的特色がある。この点に着目し、文献資料と近年継続して行っている現地調査の成果を紹介しながら講義を行い、韓国近世の社会・文化の歴史的特質を把握していく。身分・両班・士族・氏族・系譜・村落などを手がかりとして、韓国近世に生きた人々の社会関係と意識を検証したい。	
	芭蕉と綾足	この授業は、北海道・東北ブロック連携面接授業《『奥の細道』を辿る》の一科目です。	
	地域と世界の美術品の比較鑑賞	地域から世界に目を向けて作品鑑賞をします。まず、青森県に特徴的な縄文文化に焦点をあて、その時代の作品について鑑賞します。次に、世界に目を転じ、同時代の美術作品を、韓国、中国、イラン、エジプト、ギリシャの作品群と対比させながら、鑑賞します。次のトピックに着目します。1) 狩猟図、2) 土器の装飾文様、3) 動物の形象化、4) 女性像（ヴィーナス）、5) 文明・文化の比較、などです。	
	ギリシアの医学思想と人間	ヨーロッパの文化的源流にあたとされる西洋古典古代。それを特長づけるもののひとつに、紀元前5世紀のギリシアにおける医学の誕生という出来事があります。この授業では、初学者の方にもできるだけ理解しやすいように、医学的な人間観の成立とその意義について、同時代の哲学思想・文学などとの関係も視野に入れながら、わかりやすく解説します。	
	縄文文化の扉を開く	三内丸山遺跡を中心とする全国各地での発掘成果をもとに、縄文時代の衣・食・住、生業、技術、精神世界について最新の研究成果をお知らせします。また、実際に現地で遺跡や展示室を見学し、土器や石器などの実物資料に触れることにより、縄文文化への理解を深めることとします。さらに、日本における文化財保護の仕組み、世界文化遺産登録へ向けた課題などを紹介するとともに、国内外の遺跡の活用事例を紹介し、地域に貢献する文化財の利活用について考えます。	
	アウシュヴィッツから読む人間論	アウシュヴィッツ強制収容所は、周知のようにユダヤ人が大量殺戮された人類史上最大の悲劇の場です。講義では、ユダヤ教の成立史を導入し西洋キリスト教社会との関わりを概観し、ユダヤ人迫害の要因を宗教史、西洋哲学史を通して考えます。またアウシュヴィッツにおける加害者や被害者の証言を手掛かりに、そこから垣間見える諸々の人間理解を学びます。さらに現代におけるキリスト教とユダヤ教の対話や論争についても紹介します。	
	義経伝説と芭蕉	この授業は、北海道・東北ブロック連携面接授業『奥の細道』を辿るの一科目です。平泉に到着した芭蕉が最初に訪れたのは、義経最期の地とされる高館の辺りであった。その丘辺から北上の大河を見渡し、衣川や「康（泰）衡が旧跡」などの風情を、しばらく見やった後に、涙ながらに詠出された句が、「夏草や兵どもが夢の跡」であった。今回は、その辺りの事情について、歴史的に考察してみたい。	
	藤原清衡の人生の軌跡をたどる	平泉仏教文化の礎を築いたことで著名な奥州藤原氏初代の清衡が歩んだ人生の軌跡を、史実にできるかぎり厳密に跡付けていき、そのうえでいわゆる平泉政権や仏教文化の歴史的意義について考察を深めます。なお、平成18年度後期でも清衡を扱った講義をおこないましたが、この間のいささかの研究の進展により内容はかなり異なったものとなる予定です。	
	芭蕉と宮城の歌枕	この授業は、東北ブロック連携面接授業（《奥の細道》をたどる）の一科目です。陰暦五月初め、伊達領に入った芭蕉は、仙台・松島・石巻を辿り、北上川を溯り平泉へと思いを馳せます。芭蕉は古人の憧れた必ずしも実態のない「歌枕」を我が眼で確かめたいという思いに駆られています。虚構と真実の関係は『奥の細道』の理解にも大きな問題となります。宮城県の歌枕を考えながら、本文を丁寧に味わいます。	
	同時代人によるデカルト批判	哲学史では、重要とされる哲学者、例えば、デカルトであれば、その思想が述べられ、さらにその思想がどのように継承されたかが述べられるのが普通である。本講義では、デカルトと同時代の思想家たちによるデカルトの『省察』批判およびそれに対する答弁という「相互批判」に注目して、当時の思想状況を考察する。	
	中世ヨーロッパにおける王と貴族	「中世ヨーロッパ」という言葉を耳にしたことがあると思います。約千年前のヨーロッパを生きた人々は、私たちとはまったく異なる価値観のもとで生きる一方、そこで育まれた文化や制度のいくつかは現代にも受け継がれています。授業では、そんな「中世ヨーロッパ」をリードした王侯貴族の世界を取り上げます。諸国の誕生やその独特な法にふれることで、私たちが取り囲む政治の世界を考えるひとつの材料をえたいと思います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	ヨーロッパ美術史入門	古代ギリシアからルネサンスまでのヨーロッパ美術史を概観します。絵画、彫刻、建築、工芸の形がどのように変遷したか、何故変わったか、それぞれの美術が生活の中でどのように機能したかを考えながら、スライドで実際の作品を観察しましょう。パルテノン神殿、パンテオン、ロマネスクやゴシックの大聖堂、山中の小さな修道院から、レオナルド・ダ・ヴィンチ等まで。世界遺産もたくさん含まれていますよ。	
	ドイツ語と、ドイツ語を話す人々	ドイツ語だけでなく、文化的・社会的な事柄にも目を向けます。ドイツ語の学習では、簡単な会話表現を用い、ドイツ語とはどのような言語なのかを理解します。また、ドイツ語の歴史的背景にも触れます。文化的・社会的な事柄に関しては、「ドイツ的」とは何か、ドイツはこれまでどのような問題に直面してきたのかなどについて、グリム童話や映画、小説等を参照しながら考えていきます。	
	シャーマニズムの世界	現代の世相を反映してか、「救い」や「癒し」がよく話題にされるが、歴史的には特段目新しいことではない。どの民族もどの地域も自分たちの世界観や人間観に即した心身の救済システムを文化的に創り上げてきた。その重要な担い手がシャーマンと一括される土着の宗教的職能者である。講義では、青森県津軽地方の「カミサマ」や沖縄の「ユタ」の生態をスライド、ビデオを併覧して解説する。成績判定は出席状況とレポートによる。	
	旅と芭蕉	元禄2年3月、46歳の松尾芭蕉は門人履良を伴って江戸を出発し、奥州から北陸をまわる。前後7ヶ月、600里に及ぶ大旅行を行いました。その旅の記「おくのほそ道」は、芭蕉の漂泊の思いと未知の自然へのあこがれ、旅に生きた古人足跡をたどり、死を賭して自らの詩境を開拓しようとした強い思いが横溢しています。この講義では白河の関の実地見学を基に、旅に寄せた芭蕉の思いを読み味わいます。	
	猪苗代湖畔の考古学	考古学とはものを資料として人間の過去の行動を復元する学問である。郡山女子大学短期大学部考古学研究室では、2001年から会津若松市笹山原遺跡No16の調査を継続して行っている。そこで後期旧石器時代、縄文時代前期、平安時代の3時期の資料を得てきた。(改行)実際の調査、資料分析を通して、何をどのようにして明らかにできたのか、これから何を明らかにすることができるのかについて述べてゆきたい。	
	日本音楽	日本では様々な音楽が享受されているが、その大半は西洋音楽系の音楽であり、日本音楽に対しては、特に子どもや若者は興味を示さず、馴染みの薄い音楽と感じている。しかし、現代音楽の世界では、日本音楽は非常に魅力に満ちたものとして注目されている。この授業では、日本音楽はどのような特徴を有しているのか、そして、現代音楽においては、日本音楽のどのような特徴が注目されているのか等を考えていきたい。	
	情報入門	情報入門は、講義と触れたり、見たりの体験を通して「情報」について理解を深めていく。本講義では、(1)情報とは何か(2)情報に触れる(文章・表計算・インターネット・メール)(3)情報加工を見る(文章 ホームページ・表計算 データベース・静止画 動画)(4)情報倫理(インターネット社会・著作権)の順で学習と体験から「情報」を多面的角度から学び、理解を深める。	
	ドイツ文学史4	文学を楽しんできたのはもちろん大人ばかりではありません。子どもも大いに楽しんできたのです。この講義ではドイツ語圏の子どもの本を中心にその原初から20世紀に至る 子どもを意識せずに書かれ、結果として子どもも楽しんだ頃から子どもが読者の中心となる 流れを学びます。	
	親鸞と歎異抄	本授業は、鎌倉時代の念仏僧親鸞と、その思想がよく示されているという歎異抄について講義をします。親鸞の伝記については、最新の研究成果を提示し、残されている課題についても触れます。また歎異抄については、鎌倉時代の社会を理解しつつ、同時に現代社会の視点に立って読む見方を提示していきます。	
	人物史の方法	中世社会の様々な分野で活躍した人物をとりあげて、その人物史を探る方法を考える。取り上げる人物は、平清盛や源頼朝などの政治家や、重源や親鸞・一遍などの宗教家、また藤原定家などの文化人である。どのように人物像を掘り上げるか、史料をどう使えばよいかなどを検討し、いかに人間像を豊かに描くかを考える。	
	中国考古学	「TVは正しい?」「歴史は暗記?」「文献史学と考古学」という3つのテーマについて、主として殷にまつわることがらを素材にお話します。受講される方には、「歴史上の個々の知識」ではなく、「歴史に接するに当たっての考え方」を追って頂きたいと思えます。	
	湾岸産油国の石油と政治文化	石油価格は世界的に高騰を続けており、我々の日常生活に大きな影響を与えている。日本は石油の多くを中東の湾岸諸国に依存しているが、日本人は湾岸諸国についてほとんど理解していない。本授業では、特に湾岸アラブ諸国の政治文化に焦点をあて、石油と政治・社会の関係などを考察する。具体的には、海上貿易や真珠漁を営んでいた穏やかな時代から、イギリスによる保護国化を経て、石油時代へと至る歴史的経緯を踏まえつつ、石油収入が民主化を阻害するという「レンティア国家論」や、伝統的な部族主義と近代化が結びついた「王朝君主制」といった理論を学び、湾岸諸国の政治文化への理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	米国大衆文化	アメリカ合衆国の大衆文化を主として音楽や映画を通して考察する。（時間の余裕があれば文学にも触れる。）大衆文化の考察を通じて、合衆国の歴史についても学ぶ。音楽は19世紀前半～20世紀半ばのいわゆるポピュラー音楽までを概観し、映画はいくつかのジャンルに絞って観ていく。	
	歴史情報論	歴史を情報という視点で捉え直す。うわさや情報がメディアを通じてどう伝達したか、人々はどのように情報を収集・記録・蓄積・発信したか、茂左衛門、国定忠治、高橋お伝などの歴史伝説がどのように創られたかを上州の歴史を中心に考える。主に、19世紀以降の江戸文化と上州の地域文化の隆盛、飛脚問屋の発達、旅文化、情報ネットワーク、幕末・維新期の民衆の動きなど具体的に取り上げながら考える。	
	昭和時代の文学	昭和時代の文学を考えるにあたって、特徴ある文学活動を行った作家の作品を具体的に見ていく。作家たちは所属する文学グループの如何にかかわらず、文学的手法や文学的課題を共有している場合がある。そのことを確認することで昭和時代の文学が依拠していた文学的基盤を浮かび上がらせていきたい。	
	奄美・沖縄の歴史と文化	この授業では、奄美出身の講師が「ネイティブ」の視点から捉えた奄美・沖縄の歴史と文化について講義します。琉球弧の島々には、「南の楽園」という正のイメージと米軍基地問題に代表される負のイメージが同居しています。それらは日本本土や米国、中国など外部勢力との関係性の歴史の中で構築された「光と影」なのです。琉球弧の文化的多様性、人々のアイデンティティ、現代の諸問題を介して奄美沖縄に対する理解を深めることを目的とします。	
	セクシャリティの歴史と現状	20世紀におけるヨーロッパを中心としながらも、「性」に関する思想や考え方の歴史的変遷と主に政治を軸とした現代社会における位置づけについて俯瞰する。	
	近代社会の現実と哲学	近代国家について哲学的に深く論じた事例として、近代ドイツの哲学者ヘーゲルの『法の哲学』を取りあげる。この『法の哲学』を中心にして、近代、現代の諸問題を哲学の観点から考察してみる。	
	古事記を紐解く	日本で最初に書かれた歴史書「古事記」は、神々の物語と古代の天皇たちの事績とが集められている。それらは文学であり哲学であり教えであり、現代に生きる私たちにさまざまなメッセージを伝えてくれる。授業では、「古事記」の神話や伝承の中から興味深い話を選び、どのように読めばいいかということをお話していきたい。	
	文化人類学概論	本講義は、文化人類学をはじめて学ぶ方を対象とします。授業では、人類学の基本的な歴史や理論、研究方法を分かりやすく説明するとともに、日本や中国における「民族」や「伝統」の事例を取り上げます。映像資料や最新情報を使いながら人類学的な視点から検討し、受講者の理解を深めます。講師の「異文化」の体験を含めて、文化人類学を学ぶことで、私たちの人生がどう変わるのか、また、世界の見方がどう変わるのかについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。	
	日本の民俗を訪ねる	柳田國男が創始した日本の民俗学の特徴、東西南北に長い日本列島における民俗の地域的な多様性、1960、1970年代の高度経済成長などによる民俗の時代的な変容や変遷、民俗学の概念であるハレとケ、カミとケガレなどについて、博物館の展示資料や映像資料を使って解説します。	複数教員共同担当
	日仏美術展交流：日本文化の受容	1964年にミロのヴィーナス、74年にモナリザが日本へやってきたのを契機として、日本美術のフランスへの紹介が活性化され、77年の唐招提寺展と鑑真和上像、99年の縄文展などがフランス人の感性に深い感動を与えた。この間、86年から87年にかけてボンビドーセンターで開催された「前衛芸術の日本1910-70」展、88年にグランパレで開催された「ジャポニスム展」は、美術交流そのものをテーマとしている点で特筆される。21世紀に入り、マンガやゲームやロボットや食文化など、現代日本文化が世界中に広がっている中で、戦後日仏美術交流の歴史をたどり、日本がどのように受容されてきたのかを考えることは、日本が今後どのように文化を発信すべきかという間に深い示唆を与えてくれる。	
	ブラジルの文化と社会	ブラジルは南アメリカの約半分の面積を占め、人口も1億8000万人を越える国で、1500年に最初にポルトガル人が到来して以来、各地に植民地社会が形成されていった。ブラジルは南北アメリカで最初の本格的な奴隷制プランテーション社会が成立し、16世紀以降の大西洋を交通路としてヨーロッパ、アフリカ、アメリカ3大陸にまたがる世界の中核的地域となった。それゆえさまざまな民族と文化が交錯するとともに、大きな地域的差異が生まれた。この授業では、こうした歴史をふまえつつ、現代ブラジルの社会と文化を概観する。	
	北米先住民文化の現在	本講座は、文化人類学の基本的な視点を養いながら、一般的に北西海岸先住民と言われるカナダ西岸に住む人々の現在の生活を紹介する。まず1.「北西海岸先住民の歴史と地理的な分布」について学ぶ。そして、2.彼らの「社会制度」について学び、3.「儀礼、慣習、美術、生業形態といった『伝統』」を紹介する。以上を基盤に、それらの「生活様式」のが、4.西洋人との接触によって「どのように奪われ、どのように復興されているか」、先住民達の教育活動を通じて現在を生きる先住民の様子を紹介し、文化人類学の視点とは何か考えていきたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	インドネシアの文化と社会	外国語科目と関連する異文化理解のシリーズです。この授業では、インドネシアを中心としてマレーシア、シンガポール、ブルネイといった国々で構成されているマレー・インドネシア世界の文化と社会について学びます。この地域は、古来より海を媒介として様々な民族、宗教、文化が交錯し、共存してきました。多文化共生をテーマに、映像や音楽を楽しみながら、その多彩な魅力に触れ、人々の暮らしや社会の問題に迫ります。	複数教員共同担当
	仏教哲学	「色即是空...」（般若心経）、「修証一等」（正法眼蔵）、「善人なをもて...」（歎異抄）、仏教には様々な教えがあるが、それらは一体どういう関係にあるのだろうか？ 講義ではインドのナーガールジュナ（龍樹）の教えを軸に、仏教を体系的に捉えることを試みる。仏教の概観・ナーガールジュナと阿含経（改行）典・菩提心と菩提行・道元・親鸞について論じる予定。現代における仏教の意義についても考える。	
	人形浄瑠璃研究 15	文楽に代表される人形浄瑠璃は、人形劇としても、叙事詩的語り物の演劇化としても、世界に類を見ない重要な舞台芸術です。この授業では、一本の作品を掘り下げて読解・分析したり、「語り」の構造を立体的に解明したりと毎回題材を変えながら、その演劇・芸能、文学、音楽などの各層に立体的なアプローチを試みます。義太夫浄瑠璃の詞章は、江戸期はもちろん、さかのぼる過去の時代の文化や社会、思想などを一篇に凝縮させたテキストであり、日本人と日本文化を深く理解するためにも役立ちます。	
	名作を読む（イギリス文学）	イギリス文学の名作を翻訳で丁寧に読解する講義である。	
	日本の伝統音楽：鑑賞と演奏	日本の伝統音楽のなかでも、箏・三味線・尺八の音楽を取り上げます。それぞれの楽器の特性を理解し、近世から近代にかけてどのように発展したのかを、視聴覚教材を用いながら考察します。楽器に触れる機会を設け、口三味線の簡単な実習を通して、伝統音楽の一端を体験します。耳、目、手を通して、積極的に音楽を体感しようとする姿勢をもって、授業に臨んでください。	
	インドネシア文化論	東南アジアの大国インドネシアの社会と文化について概説します。とくに多様な自然環境と社会文化を持つインドネシアが、急速に進むグローバル化の中でどのように社会と文化が変わっているのか紹介し、今後のインドネシアの方向性を考えます。	
	中南米の文化と社会	この講座ではラテンアメリカ、カリブ海地域の社会を対象として、現地の文化について考えます。この地域はインカ、マヤにさかのぼられる先住民文化はもとより、西欧、アフリカ、アジアの文化が様々な混淆を示すことで知られます。人種構成や宗教実践にも特徴があり、日常生活でもスペイン語、フランス語、英語、ポルトガル語ほかを使用されます。かような複雑性を解く手がかりとして、従来の人類学的な先行研究を紹介しつつ、特に私が専門とする芸能（音楽、ダンス）を扱います。日本を含めた欧米型の社会を見直す契機になれば幸いです。	
	ヨーロッパの中世と美術	とくにイギリス、フランスを中心とした中世の世界と美術についての基本的な事柄についてスライドや写真などを豊富に用いて概説する。	
	フランス哲学の古典	フランス哲学史において17世紀は格別な時期だとされます。デカルトが現れ、すぐにその批判者としてのパスカルが現れます。そしてこの二人の対立は現代に生きて死ぬ私たちが直面している様々な矛盾対立を、シンプルに、鋭い形で、先取りして示しているように見えます。この講義では、デカルト哲学がどのような意味で画期的であったのかを考えながら、同時に、それに対するパスカルの批判の意味を探っていきます。「自然と反自然」がおもな主題となります。	
	北方先住民族の現状	北方先住民族の現状について講義を行います。	
	日本中世史料講読	日本史を学び理解するためには、史料を読解する能力を身につけることが必要不可欠である。日本史の史料は、古代から近代までの各時代ごとに特徴があるが、限られた時間内で全ての時代の史料を学習することは困難である。そこでこの科目では、中世（鎌倉・室町時代）の史料を対象を絞り、それを読解するための基礎的な学習を行う。本講義では、単に史料の読み方の技術を教えるのではなく、史料の読解を通して、その背景にある中世の国家と社会についての理解を深めることを目標とする。	
	現代中国の国家統合と社会変化	現代中国における国家統合がどのように進められ、それがいかなる社会変化をもたらしたのかについて、歴史的背景をふまえつつ検討していきます。授業では、1. 国家統合の文脈、2. 都市と農村、3. 民族と国家、などのテーマが中心となります。	
	神奈川の近現代（4）	横浜の近現代史150年を概観したのち、テキストを用いて横浜をめぐる7つの具体的な歴史の事実を通して、地域と世界の様々な結びつきを学び、国際交流の現代的な意義を考える。横浜市は、2009年で開港150周年を迎える。1853年、米国東インド艦隊司令長官・ペリーが率いる黒船が浦賀沖に現れた。その後、日米和親条約、日米修好通商条約が締結された。1859（安政6）年、横浜に港が開かれた。これを記念して、今回のシリーズが企画されている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (人間と文化)	日本の古代文学 2	日本古典文学作品を通じて、日本古代の人々のまなざしや観念を考えていきたい。具体的には現存最古の歌集『万葉集』を取り上げ、土地や景物の詠み方を作品を精読することで確かめていく。『万葉集』は奈良時代とそれ以前の歌々を収める。貴族たちの生活空間であった都近辺の景が多く詠まれている。この授業では平城京を軸に考えてみたい。また、同じ場所やことばが平安時代以降どのように詠出されているかなどの様相も確認してみたい。	
	総合芸術としての能	能は謡の詞章が優れた文学作品である場合が多く、テキストとして読んでも十分興味深いものだが、舞台にかけて上演することによって初めてその全貌が見える総合芸術である。本講義では、舞台上で演じられる能をその表現技法の面から追究する。一日目は舞台・面・装束などを通してわかりやすく能の世界を紹介したい。二日目は、謡・音楽・舞・型などを通して、そこに描かれている普遍的な人間ドラマとしての能の内容を分析したい。映像などを多用して、できるだけ具体的なイメージが結べるよう心がける。	
	日米関係史 - 遣米使節	2009年は横浜が開港されて150年である。ここから、本格的に日本が世界に開かれたと考えられているが、それよりも以前から、徳川幕府あるいは複数の藩から派遣された使節により、米国の関係は日本からの準備がなされていた。また、この使節団に加わった団員の多くが、日本の近代化の中心になった。これらの人々の証言や残された文献等から、その後の近代日本がどのように建設されていったのか、どのような軋轢を克服していったのかについて検証したい。	
	邦楽入門～粋な長唄・優雅な箏～	私たちは音楽といえば、西洋音楽を思い浮かべる。なぜならば、現在ほとんどの人が、学校教育を通じて、パッパ、ベートーヴェンなどに代表される西洋音階に基づいた音楽に触れて成長してきているからである。しかし日本には日本人独特の感覚でしかとらえられない音楽の世界と歴史がある。それらを掘り起こし、西洋音楽と比較しながら、鑑賞や実践を通して日本音楽の魅力を探っていく。	
	芸術の理論と歴史	本講義は、放送講義の『芸術の理論と歴史(06)』の内からいくつかのトピックを選んで、それらを詳しくかつ分かりやすく講義するものです。講義にあたっては、放送では著作権の関係でお見せできなかった映像等をふんだんにお見せすることにしたいと思います。講義の基本的対象領域は、古典的芸術作品ですが、現代芸術にも話は及びます。	
	わくわくクラシック	この講座では、これからクラシック音楽に親しんでみたいと思う方々への基礎的な知識をわかりやすく説明し、さまざまな編成による演奏についてDVDなどを通して学びます。ひと口に「オーケストラ」と言っても、タイプによって異なるそれぞれの面白さを体験し、また、日常生活ではなかなか触れる機会のないオペラも、ぜひ鑑賞してみましょう。	
	日本の古典芸能・落語	三百年の歴史ある古典芸能の落語を多方面から分析し、その魅力に迫る。東西落語の違い、東西落語界の現状、さらに歴史などに触れ、あわせて他芸能との比較を行う。また落語専用小屋である定席の仕組みなどの内部事情も解説する。近代の文豪夏目漱石が受けた落語からの影響も考察したい。できるだけCDやDVDなど落語の生素材を使用して、分かりやすい授業を心がけたい。	
	飛鳥の宮殿と寺院	奈良県「飛鳥」の地には、数多くの宮殿や寺院の跡が残されています。それらの発掘調査をとおして明らかにされた7世紀の「首都」の様子を紹介するとともに、その特徴や変遷などから当時の人々がめざした「律令国家・日本」建設への道のりを、激動する東アジア情勢との関連の中で考えてみたいと思います。	
	文字列や数のパソコン処理	ExcelやWordの使い方を習得し、これらプログラムの動作の原理を示し、コンピュータにおけるデータ処理はどのようなことをしているのかを示す。さらに、比較的、やさしいと言われているコンピュータ言語を使って文字列や数の処理を実習する。また、Webの書き方を習得し、それとプログラムを組み合わせたcgiという概念を理解し、実践する。	
	歴史の中の「人種」と民族	構想：「近代」とともに誕生した野生/自然という二項対立的な歴史観における「人種」と民族、そしてそれらの概念がどのように操作されてきたかを検討することによって、「野生/未開」と「文明」、「近代」などを考察することを通じて、古典的な「人種」論を中心に「野生」という概念が、歴史学、哲学などの分野におよぼした影響についても考える。	
	情報処理演習 1	ワープロ・表計算・プレゼンテーション、これら3種のソフトウェアの活用が、社会人として必要なスキルになりつつあります。本演習においては、これらを実際の仕事や趣味に応用できるようになることを目標とします(履修条件として文字入力、ファイル操作などパソコンの基本的操作ができること)。	
	日本中世の文化交流	中世の文化交流の様相を北陸地方を中心に考える。日本中世には広く地域の文化が相互交流のなかで成長していったが、その成長の様相を北陸地方に例をとりながら考えることにしたい。北陸地方は京都との結びつきが強く、早くから文化が広がったので、その政治的・経済的要因についても探ってみよう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	情報処理演習 2	データベースソフトが果たしている役割は大きく、私たちがこれを身近に活用することができれば、記憶力の衰えを補えるばかりか仕事の効率を倍増させることが可能です。今回はパソコン用データベースソフトのMicrosoft Access2003を習得し、仕事や勉強、趣味に活用できるようにしましょう（履修者の条件として、基本的なパソコン操作ができること。また、表計算ソフトMicrosoft Excelの基礎を理解していることが必要）。	
	環境文学を読む	近年、環境との関係のとらえ直しが切実に求められています。環境破壊、地球温暖化をはじめとする問題に直面するなかで、現代の環境感の限界が明らかになり、環境とのあらたな関係の構築が必要とされています。この授業では、言葉という斬り口から人と環境との関係を探ります。文学作品に描かれた、現代社会を異化する もう一つの世界に目を向けながら、持続可能な社会への針路を多角的に考えましょう。	
	地域の文化とミュージアム 09	最近では経済状況があまり良くなく、地方財政の危機のなか博物館等の文化施設もがけっぱちになっています。博物館も大きな転換期をむかえているようです。そのようななか地域社会における博物館の役割を、地域の歴史や伝統文化のなかから、文化政策の理念を考えながら地域社会と博物館のはたす役割について、直接現場を訪れ、考察したいと思っています。	
	漢字の歴史とその表現	漢字の歴史とその表現方法を、書体の変遷と書の古典の臨書とから考える。漢字の成り立ち（六書）を殷代の甲骨文字・金文にもとめ、それ以降に展開する篆書・隸書・草書・行書・楷書の書体変遷のメカニズムを用筆・運筆や字体・字形を分析することによって解明する。その際、毛筆の実技を通して確認していく。	
	上手なインターネットの使い方	近年のコンピュータとインターネットの著しい普及は、我々の社会や生活に大きな変化をもたらしている。本講義では、コンピュータとインターネットの概要、変遷について学ぶ。同時にインターネットを利用した情報収集・情報発信に関する基礎的な技術の習得も目標とする。インターネット使用時に注意すべき事柄、上手な使い方を学び、各自のWebページ（ホームページ）作成の実習を行う。	
	ロマン主義の音楽	音楽のロマン主義の時代（1820～1910）は、ショパン、シューベルトなど多彩な作曲家を輩出した。ロマン主義の特徴の一つに、過去、未来、遙かなる国など、時空を超えた永遠への憧れがある。オリエンタリズムもその表れである。講義では、オペラ「蝶々夫人」など様々な作品を鑑賞し、その意味や特徴を捉え、ロマン主義の音楽の魅力に迫る。また、当時のオリエンタリズムの捉え方を見直すことで、現代の異文化理解へと視座を広げていく。	
	夏目漱石の表現世界	今なお多くの日本人に親しまれている漱石の文学世界をじっくりと読み進めてみる。その表現世界の豊かさや思考の深さは、現代の私たちにも、生きる上での豊かな力を与え、その 苦悩する力 とも呼ぶべきものは、現代という時代に向けても豊かな示唆と予見を提示している。具体的には、中期の『門』を起点に、『こゝろ』『道草』という晩年に向けて、その表現世界を読み解いていく。	
	サマセット・モームの小説	『人間の絆』、『月と六ペンス』といった長編のみならず、「雨」などの短編においてもよく知られた、20世紀のイギリスを代表する作家サマセット・モーム(1874～1965)の豊かな作品世界の魅力を探る。とりわけ、独壇場ともいえる彼の皮肉な人間観にもとづいたストーリー・テリングの卓越さについて考察したい。授業中、随時映像資料を参照する。	
	哲学初歩 - 文学から哲学する-	文学作品(小説、詩、短歌)を通して哲学の基本テーマを考えます。哲学的知識は必要ありません。テーマと作家は、「世界という謎」(中島敦)「人間存在」(坂口安吾)「私という謎」(中島、正岡子規、宮沢賢治)「感性」(宮沢、与謝野晶子、万葉集)「魂」(和泉式部、室生犀星)「偶然と必然」(ポール・オースター)「ニヒリズムと世界肯定」(坂口、アルベール・カミュ)	
	インド文化の諸相(5)	本講義はまだまだ馴染みの少ないインドの文化や芸術の諸相を学ぶことを目的とする。インドの魅力は、多様な異文化や宗教や世界観の融合した文化にあり、芸術の隅々に独特なインドの世界観が反映していることである。そうした諸相を、インド文化の核となったアーリア文化とドラーヴィダ文化の特質や、音楽や舞踊や絵画などの芸術におけるその理論や実践、その世界観を考察する。今年度は「インド舞踊」をテーマとして取り上げて、その歴史や特質を通してそれを確認する予定である。映像資料を大いに活用してインド舞踊の楽しみ方も紹介したい。	
	シェイクスピアの喜劇(3)	本講義ではシェイクスピアのロマンティック・コメディから『夏の夜の夢』を取り上げる。できるだけ詳細にテキストを鑑賞しながら、巧みなプロット構成・言葉を手がかりに虚実渾然とした夢の世界を分析してみたい。CDにより原文の詩的魅力にも触れ、DVDなどの映像も鑑賞する。	
	西洋思想史	西洋思想史上の主要な思想家の思想を通して、西洋思想の営み(フィロソフィア)の内容と特質についての基本的認識を深めることを目指します。講義項目は以下のとおりです。1. 思想的営みはなんの役に立つのか? 哲学(フィロソフィア)の発見 2. プラトンとアリストテレス3. 哲学とキリスト教信仰 4. デカルトとパスカル5. カントとヘーゲル	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (人間と文化)	『テンペスト』の謎	本講義ではシェイクスピアの『テンペスト(あらし)』を取り上げ、その魅力と絶筆といわれる作品の謎に迫る。テキストの close reading を通して、台詞に隠された詩人の芸術家として、人間としてのメッセージを読み取りたい。RSC の CD によって原文の詩的魅力に触れ、映像も鑑賞する。	
	戦争と平和を考える	2001年9月11日の米国での同時多発テロ以後、世界は、「新しい戦争」の時代に入ったと言われる。では、それ以前の「古い戦争」とは何だったのだろうか。二十世紀は、「戦争の世紀」とも呼ばれ、また近代国民国家体系が世界大に拡大した時期でもある。その画期である二度の世界戦争を中心に、事実経過よりも戦争の特質の分析に重点を置いて検討する。戦争の世界史的考察を通じて、「近代」という理念の歴史的理解をともに深めたい。	
	現代倫理学の諸問題	現代社会が抱える倫理的問題について考える。科学技術文明の発達により、従来問題にならなかったような倫理的問題が生じている。その問題を具体的に知ったうえで、問題に対していかなる倫理的態度がとられるべきかを考える。	
	熱帯アジア風土論 - 焼畑の環境学	環境を考える上での問題点は、表面的に物事を見てしまい、先入観や偏見が先行することにある。一般に焼畑は野蛮な農業で、環境破壊の主因の一つと考えられているが、実は自然に優しい森の文化である。講義では、中国雲南省西双版纳(シップソンパンナ)の焼畑を例に、山地斜面に生きる人々が編み出した自然に優しい文化を紹介する。その他、何故熱帯アジアは人口稠密か、何故日本の山は緑かなどについて考察する。	
	杜甫の詩	杜甫は李白と対比して語られることが多く、とかく暗いイメージのみが強調されてきた。しかし杜甫は書がうまかったし絵を見ることも好きであった。音楽を鑑賞するいい耳も持っていたし、優れた舞を鑑賞するいい目も持っていた。本講義では、従来あまり強調されてこなかったそういった側面を取り上げて、杜甫の魅力について話してみたいと思う。	
	映画で読むイギリス小説	映画化・ドラマ化された19~21世紀イギリス小説の名作を鑑賞します。情熱的な恋愛や波瀾万丈の人生、過ぎ去った年月への感慨など、興味深いテーマを扱った選りすぐりの物語をじっくり味わってみたいと思います。取り上げる映像作品は『いつか晴れた日に』『デビッド・コパーフィールド』『ハワーズ・エンド』『ダロウェイ夫人』『つぐない』の5本で、『ダロウェイ夫人』の回では関連作品『めぐりあう時間たち』も扱います。	
	ノーベル文学賞ゆかりの日本文学	海外で著名な日本人作家のうち、実際にノーベル文学賞を受賞した川端康成(1968年)と大江健三郎(1994年)、その受賞の可能性について取り沙汰された三島由紀夫、世界40カ国で翻訳され人気の高い村上春樹、以上4人の作家の人生行路と文学活動を紹介します。1901年以降の世界のノーベル文学賞受賞作家を確認するとともに、ゆかりの日本人作家作品を講読し、国際的舞台上で評価されている日本文学の粋を論じることをめざしています。	
	「英詩」への招待ー日本と英国	「英詩」というと一般の日本人には遠い国の縁遠い「詩」という印象が強い。しかし、「英詩」は歴史的に我々日本人の生活や文化の中に深く溶け込んでいる。我々は昔からそれと知らず、「英詩」なるものに接してきたと言ってよいかもしれない。本授業では、「英詩」と我々日本人とのこうした関わりに着目し、「英詩」のなかでもとくに日本との関わりの深いものをとりあげ、原詩を味わいつつその日本移入の歴史と社会・文化的意義を振り返ってみたい。	
	日本語再入門	"日本語を見つめるための目をやしなうことを目的とし、基本の確認と、いくつかの応用事例を学んでいきます。1)国語辞書から日本語をのぞく2)アクセント(東京方言・諸方言3)現代日本語をふりかえる(発音・文法現象など)4)方言分布から日本語の歴史を再構成する5)言語の変化と「言葉の乱れ」6)江戸時代の庶民辞書「節用集」の世界7)言語・日本語への態度・見つけ方"	
	子どもの造形表現の発達と心理	幼児期の成長発達にともなう表現の始まりから青年期に至るまでの造形表現の変容を講義する。特に、乳幼児期の身体性表現から次第に形を意識した表象性へ、さらに5歳前後からの空間性へと発展的に変化する様子など、可能な限り実物及び映像化した作品資料を提示しながら、解説を行う。	
	静岡県の歴史	1970年代以降に、日本史学の有力な研究分野・研究方法のひとつとして、いわゆる地域史研究の発展がありました。本講義では、具体的には静岡県の前近代(古代・中世・近世)の歴史について、地域史という観点から検討し、中央の歴史とも深くかかわっていたことを明らかにします。今年度は磐田会場ということで、三国のうちでは遠江の事例を比較的多く取り上げます。	
日本文化の型と形	風土に恵まれた地的日本人は、目に見えない考え型と具体的な形との相補性の中に独特の文化を生んできた。日本文化に表われた精神と形態の関連を具体的に述べる。くずし美、したがいのかたち、つなぎのかたち、きまりのかたち、あそびのかたちなど、さらに木文化、作法も考え、日本の型と形の相関分析から新たな生活創造の手法の提案を考える。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	近代日本短篇小説論	明治、大正、昭和前期、昭和後期の各時代から、それぞれ一篇の短篇小説を選び、その解釈と鑑賞を試みる。これら4篇の作品に関する従来の諸説、即ち研究史上の争点を紹介した上で、独自の作品分析と読解を試みる。いわば私なりの「謎解き小説論」の試みである。	
	徒然草と方丈記	この授業は、徒然草と方丈記を取り上げて、それぞれの作品の概要を学ぶとともに、特に原文購読にも力点を置きたいと思います。徒然草と方丈記は、どちらも現代にいたるまで、多くの人々に読み継がれて来たことに注目して、それぞれの作品の魅力を考えてみましょう。その際に描かれた徒然草と方丈記について、外国語に翻訳された徒然草と方丈記、近代文学との関連なども視野に入れて考察します。	
	20世紀の美術	20世紀の美術は、革命や戦争、時代思潮、社会構造の変化などを濃厚に映し出し、また、表現に内在する可能性を信じて、先鋭的かつ広範な流れを形成してきました。ここでは、「ゴッホ、セザンヌの衝撃」、「モダンアートの受容」、「モダニズムと日本との出会い」、「アジアの現代美術」などについて講義を進めます。	
	幸田 露伴 - 人と文学	幸田露伴は日本近代文学史上のビッグ・ネームであるが、今日あまり読まれていない。戦後の国語教育が露伴の文体・語彙・用字を理解する能力を養成しなかったからである。一見古臭い露伴文学であるが、その考え方には近代的で、今日の諸問題を考える上で参考になることが多い。また、いわゆるライト・ノベル対置して、重い、本格的な小説を再評価することは、日本文学の将来にも好影響をもたらすであろう。	
	歓喜と人質 ドイツ文学の片鱗	明治末・大正・昭和初期の日本文学に投影しているドイツ文学の片鱗を紹介します。具体的にはレッシング、シラー、ゲーテ、クライスト、ホフマンなどと、漱石・鴎外、芥川、太宰などの対比ですが、特にベートーヴェンの第九交響曲で知られるシラーの『歓喜に寄せる』(An die Freude)や、太宰治『走れメロス』と関係するシラーの『人質』(Die Buerg-schaft) は作品そのものを、ドイツ語の予備知識は特に必要としない形で、少し詳しく分析する予定です。	
	日本中世の寺院社会	日本中世の歴史を眺めるとき、見落とせないのは文化・思想における仏教の圧倒的影響であり、その存在基盤となった寺院の現実的勢力です。東大寺・興福寺・延暦寺など南都北嶺の大寺院から、地方に今日まで続く小さな寺院、たとえば尾張の真福寺が、どのような存在でありどのような社会を形成していたのかを知ることによって、中世社会の他の時代にはない特徴がみえてくると思います。	
	人間形成の捉え方とその変遷	人間とは何か、人間形成とは何かという問いは、人類の歴史とともに古い。人は人間をどのように理解し、それをいかに文化や慣習、社会制度に反映させてきたのか。人間の歴史は、進歩や発展ばかりではなく、過酷な出来事にも満ちている。人はそれらをどのように克服し、次の世代の人間形成（教育）にたくそうとしてきたのか。こうした問題の立て方を人類の遺産（思想）にもとめながら、21世紀のあるべき人間と人間形成のあり方について考えていく。	
	宇宙論入門	この宇宙全体がどのように始まり、現在どのような姿をしているのか、将来どうなるのか、という疑問を誰もが一度は考えたことがあるのではないのでしょうか。最近の宇宙論の驚くべき発見として、この宇宙には星などの見える物質以外に、大量の見えない物質や、見えないエネルギーが存在していることがわかってきました。このことから宇宙のはじまりや将来を推測することができます。この授業では、宇宙論の基礎的な考え方から、最新の宇宙論の展開までを系統的に紹介します。	
	日本語文化入門	みなさんは、「日本語を覚えたいんだけど、文字をいくつか覚えればいいの?」「宿屋と旅館とホテル、どちらがうの?」などと質問をされたら、どのように答えますか? 漢字・ひらがな・カタカナ・ROMAJIと、四種類もの文字を使用する日本語、そして、和語も漢語も外来語も使用する日本語、そんな日本語の特徴や歴史について、簡単に説明していきます。	
	北畠親房	北畠親房という人物は、「大日本は神国なり」ではじまる『神皇正統記』という著作などから、えてしてファナティックな思想家と考えられてきました。しかし親房は、まず何より鎌倉・南北朝という激動の時代を生きた公家・貴族の一人でした。そんな親房の生涯について、京都での前半生から、陸奥・伊勢・常陸を経て吉野で没するまで、詳しくお話しします。	
	言葉の意味と用法	分かっていると思われる日本語にも多くの謎が隠されている。本講義では、日常使われる日本語の中から、よく分かっていない言葉の不思議を取り上げ、共に考えていきたい。「は」と「が」の使い分けや、「不作法」か「無作法」か、「午前中」と言えて「午後中」といえないのはなぜか、など日本語の意味・用法について考えてみたい。	
	今求められる生死の知恵	古来東西の宗教や哲学において、生死をめぐる深い考察は様々な形で語られている。科学・医学の高度に発達した今日の社会の中で、人の生き方・死に方はもちろん昔とは違った形をとるようになっているが、「生死」そのものは永遠の課題である。古来の知恵に学びつつ新しい状況の中で問い直される必要がある。今日重要視されるターミナルケア（終末期医療）の視点から問題に取り組んだ思想書を題材に、現代人の生死を考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	明治文学の世界	尾崎紅葉や幸田露伴、樋口一葉、北村透谷、島崎藤村などの明治文学の代表作を読み、時代背景を考えながら作家の個性が開花した作品のテーマを明らかにします。日本において近代社会が成立した時期に書かれた明治文学には、当時は新しい文体であった言文一致体への模索がなされていただけでなく、個人と社会とを結ぶ近代的な価値観が投影されています。作家たちはどのような試みをしていたのか、個々の作品を読みながら検証します。	
	検証「秀吉神話」	主君織田信長に認められようと、草履取り時代から健気に尽くし、合戦に臨んでは大胆な作戦を実行に移した豊臣秀吉は、戦国時代を代表するヒーローだった。しかし最近の研究によると、その正体はライバル達を次々に追い落とす陰謀家であり、本能寺の変に関与していた可能性すら指摘されている。講義では、秀吉神話に潜む彼の実像を、様々な史料を駆使して明らかにする。	
	萬葉文芸（４）	伝説歌人と称される『萬葉集』に見られる高橋虫麻呂の長歌作品を全８回の講義で見に行きます。伝説に取材した作品であると一般に称されていますが、その作品の中に見られる「伝説」の実態はどうであるのかということと、作者によって作り上げられる「作品」（作品構成）という問題について、考究することになります。高橋虫麻呂のほぼ全ての長歌作品について見ることで、天平期の文芸実態の一側面に迫ることにもなります。	
	日本史における怪異	日本の前近代社会においては、内裏や神社等で発生した不思議な現象＝怪異は、王権の危機の予兆としてとらえられ、怪異が朝廷に報告されると神祇官や陰陽寮によって卜占が行われ、祈祷などの対応がなされてきました。この授業では、具体的にどこでどのような怪異が発生し、いかなる対応がなされたのか明らかにし、それは日本の歴史のなかでどのように位置づけることができるのか、中国での怪異と対比しながら考えていきます。	
	歴史考古学 長岡京 特論	日本の古代宮都の一つ長岡京は784年、桓武天皇によって建設された都である。大和王権以来、長く続いた政治の中心を大和・河内から山背へ遷すことによって、政治・経済・文化・外交等あらゆる社会的側面が変化することになる。にもかかわらず10年で都は廃され、新都・平安京に遷される。その謎に迫ると共に、長岡京を境にして変化した様々な社会現象を考古学の資料を使って分析し、奈良時代から平安時代へと変化した時代背景を考える。	
	北近江の戦国時代史	北近江（滋賀県北部）の戦国時代の歴史は、日本の戦国時代の縮図と言えます。この地を50年にわたり統治した浅井3代と戦った織田信長と羽柴秀吉。その戦いは、姉川合戦・小谷城攻めとして知られています。その浅井氏を滅ぼして、長浜の地に新たな城と城下町を築いた羽柴（後の豊臣）秀吉。さらに秀吉の家臣から登用されて、天下分け目の関ヶ原で徳川家康と戦う、北近江出身の石田三成。彼らの政治・経済政策や戦略を、文献を忠実に読み解き、史跡を巡りながら考えます。	
	前方後円墳の出現と国家の形成	社会の膨大なエネルギーが巨大な墳墓づくりに投入された古墳時代。弥生時代の水稻農耕の開始からどのような過程をたどって、また何が原因となって前方後円墳に示されるような倭人社会の政治統合が生まれてくるのか。また、その過程における大きな歴史転換期はどこにあるのか。こうした問題を、集落、墓制、青銅鏡などの考古資料を用いて検討し、あわせて、わが国の国家形成過程におけるこの時代の歴史的位置を検討する。	
	イギリスの自然・歴史遺産と保護	イギリスでは産業革命によって環境が著しく変化し、荒廃したのに対し、自然環境や歴史的遺産を保護するために19世紀末に民間の環境保護団体であるナショナル・トラストがつくられた。このナショナル・トラストによる今日までの具体的な活動をたどるとともに、戦後の海岸線保存運動の実態を具体的に紹介する。また日本でも行われているナショナル・トラスト運動の特徴とその違いも併せて考えてみる。	
	インドヒマラヤのチベット世界	インドヒマラヤに居住するチベット系の人々の暮らしを、現地調査に基づいて詳しく報告してゆく。取り上げる主なトピックは、高地に順応した農耕、牧畜のあり方、一妻多夫婚をはじめとする特異な結婚のスタイル、社会構造、ジェンダー観、土着的な宗教やチベット仏教への信仰などである。	
	日本の神話を読む	1. 神話とは何か 2. 氏祖伝承 3. 古事記について 4. 古事記神話（上巻）を読む 5. イザナキ・イザナミの物語 6. アマテラス・スサノヲの物語 7. オホク＝ヌシの物語 8. 天孫降臨の物語 9. 神話のその後	
	日本近世史料講読	日本史を学び理解するためには、史料を読解する能力を身につけることが必要不可欠です。本講義では、このうち近世史料（江戸時代の古文書）を読解するための基礎的な学習を行います。具体的には、近世史料の写真のコピー（当日配付します）をテキストとし、読解の方法を学習しながら、その背景にある近世社会の特質を理解することをめざします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	聖徳太子と四天王寺	聖徳太子は、天皇中心国家の建設、仏教の受容、さらに中国の大国隋との外交成功など、飛鳥時代に日本の政治、文化の基礎を築いた人物である。その聖徳太子が創建した寺院に四天王寺がある。四天王寺は、聖徳太子にゆかりの宝物をはじめ、聖霊会など伝統ある行事を今に伝えている。本講義では、太子の業績やその思想を学ぶとともに四天王寺の文化財や独自の行事を通じて、今に生きる太子の精神を理解する。なお、授業内で四天王寺の見学を行う予定。	
	限界に挑む芸・文楽	人形浄瑠璃・文楽は約400年の歴史を有する。近世の都市庶民芸能として京都で創始された。17世紀後期、竹本義太夫と近松門左衛門が提携することで、高度な芸術性を獲得し、主として大阪で発展し、各地に伝播した。豊かな文学性と義太夫節の高度な芸術性、独特の三人遣いの人形が一体となって世界にも類を見ない演劇となった。歴史や戯曲・音楽の構造、人形の技法等を視聴覚資料も用い多角的にアプローチする。	
	ブルックナーの音楽作品	オーストリアの作曲家でブラームスと同じ時代に活躍したアントン・ブルックナー（1824～1896）の音楽作品を、伝記的、社会的背景や他の音楽家たちとの関係にも触れながら、幅広く解説する。	
	フランス文学入門	中世の武勲詩『ローランの歌』からサルトル、カミュ、プレヴェールにいたる現代文学まで、1000年を刻むフランス文学の面白さを、各世紀の代表的な作家、作品を紹介、分析することで、堪能してもらおう。フランス語の知識は必要ないが、時に原文を示して、翻訳との違いを味わいながら、詩、演劇、小説の各ジャンルにわたる代表作に触れることにしよう。	
	映画英語と映像文化	英米の映画を本当の意味で理解するには言語的な知識だけではなく、その文化的背景を知る必要があります。この授業では、文化的背景を念頭に置きながら、映画英語を勉強し、英米の映画を味わいたいと思います。具体的には、ヒッチコックやチャップリンといった20世紀を代表する映画界の巨匠たちの作品を取り上げます。彼らの作品は今もなお、我々に強い感銘を与えてくれます。これは、彼らが映画の中で用いる英語表現とともに彼ら独特の映像がその魅力の大きな部分となっているからです。この授業では、映画で用いられている英語表現を勉強しながら、英米の映像文化に迫りたいと思います。	
	文化人類学	本講義では、文化人類学の課題と方法、文化人類学の理論史を概説し、文化人類学の応用面について、開発人類学、観光人類学など最新の研究成果を具体的に説明します。	
	ギリシア悲劇と『源氏物語』	ヘラクレスの妻ディアネイラは妻でありながら、妻とは名ばかりで、夫は仕事のためにほとんど家には寄りつかない。しかも何年ぶりかで帰郷する夫は若い女性を連れて帰るといふ。これを聞いたディアネイラは夫の気持ちをつなぎ止めようと知恵をしぼるのであったが、思わぬことで悲劇が起きる。ソポクレスの「トラキスの女たち」（トラキニアイ）をよみながら、『源氏』の紫上の心境を考えてみる。	
	デザイン史	私たちの日常生活は、服や家具、建物といった物質によって成り立っています。そうした物質世界は近代産業社会にあってどのようにつくられてきたのでしょうか。産業革命期から現代に至る主にイギリスに焦点をあてながらデザインの歴史、あるいは物質・視覚文化の歴史について講義します。また適宜画像とビデオを使用します。	
	プログラミング実習	本実習では、兵庫学習センターの実習用パソコンを用いて、入門レベルのプログラミング実習を行います。プログラム開発環境は、兵庫学習センターの実習用パソコンにインストールされているMicrosoft Visual Studio .NET 2003を使用します。本実習では、Microsoft Visual Studio .NET 2003の使い方やプログラム言語の文法に重点をおくのではなく、アルゴリズムをプログラムとして実装することに重点をおきます。	
	ジャンヌ・ダルクとそのイメージ	15世紀フランス救国の乙女ジャンヌ・ダルクの短い生涯の伝説は、その死後どのような形で人々の間に広がり、受け入れられ、解釈されたのでしょうか。ジャンヌのイメージの変容と、そのヴァリエーションでもある「女性メシア論」について、19世紀フランス・ロマン主義時代の歴史書や文学作品などを中心に考えます。また、ジャンヌを題材にしたオペラや映画などにも触れる予定です。	
	19世紀イギリスの文化と社会	七つの海を支配した大英帝国絶頂期、その時代背景の文化・社会を、教育・スポーツ、進歩思想、ダーウィニズム、世紀末などをキーワードに検証します。階級、弱肉強食、貧富の差、弱者虐待など、未熟な資本主義がもたらした社会の歪みがある一方で、エリザベス朝のシェイクスピアとならぶ、巨匠ディケンズ等の小説の黄金期を迎えましたが、そこには時代が大きくかわっていることが分かります。一般大衆の手になる時代の豊饒な文化を、小説作品を手掛かりに振り返ってみましょう。	
	イスラーム世界と私たち	イスラーム世界は私たちとはかけ離れた世界と思いがちです。ムスリムの人口が増えつつある現在、イスラーム世界に無関心であることはもはやできません。本講義では、イスラームとは何かについてお話し、イスラーム世界とどのように向き合っていけばよいかを考える機会を提供します。明治以来西洋風の考え方に慣れ親しんできた私たち自身の生き方を、それとは異質なイスラーム世界を見ることでもう一度考えてみましょう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (人間と文化)	奈良の寺社建築を探る	西暦710年以降の都市・奈良には、奈良時代以来の古建築が数多く残されています。本講義では、奈良の寺社建築を素材として、建築の歴史の流れをつかみ、古建築のみどころを探っていきます。1日目は、図や写真などから、古建築の構造や意匠について机上で学ぶ基礎編とします。2日目は、春日大社～東大寺～興福寺を歩きながら、古建築を見学し、おもしろさを会得する実践編とします。	
	弥生絵画を読む	日本列島で初めて本格的な水稲農耕を開始した弥生時代に、弥生人は絵画を数多く描いた。その画題は、様々な身なりで様々な身振りのヒト、それに鳥類、魚類、昆虫、両生類、八虫類、甲殻類、建物と豊富だ。これらの絵画自体の検討から出発して、最近の発掘調査で出土した遺構・遺物、また現生生物などを組み合わせて、絵画世界を立体的に復原する。この検討をとおして、弥生人の着眼点やその周辺世界とのかかわり方、さらには弥生社会について考える。	
	東南アジアの文化遺産	アジアの時代と言われてきているが、日本人にはまだまだ知らないことが多い。東南アジアのいくつかの国には、世界遺産に登録されている文化遺産がある。また、世界遺産には登録されていないが、注目すべき文化遺産もある。その多くに訪問し、歴史や文化を考えてきた。これらの文化遺産を紹介し、東南アジアの文化遺産の様相を知る。	
	平安時代の社会と政治	平安時代は日本における古代から中世への移行期、転換期に当たります。しかし、その前後の奈良時代や鎌倉時代に比べると、女流文学に代表される文化面をのぞくと、印象の薄い時代かも知れません。この講義では、平安時代の社会と政治のあり方について考えていきます。年代史的な形はとらず、社会の仕組み、政治の仕組みに焦点を当て、必要に応じて奈良時代と比較しながら、平安時代の特徴が理解できるように講じていきます。	
	世界遺産、熊野の魅力を絵解く	2004年7月、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界文化遺産に登録された熊野の宗教文化の魅力をビジュアルに解説したい。4回までは、概説、熊野三山の霊場信仰、熊野古道(川の参詣道)の歴史と文化的景観などを学び、その価値を考える。5回以降は、そうした熊野の魅力を発信する手だてとして創作された落語と絵解きの世界を実演的に紹介し、「大衆教化」の意義を問う。	
	ヨーロッパの歴史と文化	近代ヨーロッパの成立をさまざまな観点から考えていきます。近代とはなにか、一体何がヨーロッパをヨーロッパたらしめ、世界を支配する力とならしめたのか。	
	王権・神話と古代出雲の歴史学	古事記・日本書紀には出雲にかかわった神話が王権神話として記述されています。それとともに出雲国造による神賀詞奏上などの儀礼もとりおこなわれていきます。これら出雲にかかわる神話と儀礼の特質、またそれらがどのように変容していくかを、日本律令国家と王権の構造や特質のなかでみていきます。	
	恥と良心 - 倫理学の基礎 -	文化人類学者ルース・ベネディクトは、文化を恥の文化と罪の文化に分けている。この分類によれば日本の文化は恥の文化といえるが、それはどのようなことか。こうした問題意識から、先ず夏目漱石の『こころ』を通して日本人における恥と良心現象の関係について言及する。次に恥の意識の三形態(公恥、自恥、羞恥)について考察する。その後で、良心現象の三形態(社会的良心、倫理的良心、宗教的良心)について検討してみたい。	
	近代コリアの音楽と社会	コリア(韓国・朝鮮)の近代化と音楽、そして日本の音楽との関係について考察する。近代化の過程で、西洋音楽の影響を受けて、コリアでは唱歌、童謡、歌曲、大衆歌謡などの音楽様式を作り出した。これらの音楽は日本との繋がりも大きい。また、戦後は、いずれもアメリカ大衆音楽の影響を受けている。ここでは、コリアの近代音楽の展開を通じて、コリア社会の変化を明らかにするとともに、日本との関係についても比較検討する。	
	美術鑑賞への招待	豊富な視覚資料を用いて「考えながら見る」態度を養い、主体的な美術鑑賞へと導く。	
	近世の和歌を読む	古代や中古の和歌に関して膨大な研究の蓄積があるのに比べ、近世の和歌は資料整備が始まったばかりといってよく、ほとんど読まれないまま放置されてきたのが実情である。しかし、近世には上は天皇から下は農民・町人に至るまで非常に多くの和歌愛好者が存在した。彼らの和歌をいろいろな角度から読み、近世人ならではの表現意識や和歌に寄せる情熱の程を窺ってみたい。	
	哲学と思想文化の間	誰も特定の時代・地域で生まれ育ち、特定の文化的伝統の中で思考している。しかし思考の論理を反省する次元において、個々の地域・時代・文化の相違は考慮の外に置かれる。それぞれの時代と地域に特有の思考の結果として、思想が成立し、それを文章にして表現する文化も当然ながら存在する。しかし知ることを知るという自己回帰によって確保される、知るものと知られるものの一致を通して哲学的思索の次元が開かれることは、多文化社会を標榜する時代においても変わりがない。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (人間と文化)	ヨーロッパの大学「知」と社会	近年、21世紀を展望して知識基盤社会の時代と称される。すなわち、新しい知識、技術等が重要性を増す社会において、教育とりわけ高等教育の果たすべき役割は大きいといわれる。本講義では、今日の大学の起源となったヨーロッパ中世大学の「知」が当時の都市という社会にどのように受容・拒絶されたのか。また、近世・近代の社会において、その知が保守的であれ、革新的であれ、いかなる役割を果たしたのか、といった視点から大学知と社会との関わり、人々の知への関心とは何であったのか、知の獲得=学びの制度化等の問題について論じてみたい。	
	中原中也の世界	詩人中原中也は、明治40年に現在の山口市湯田温泉に生まれ、短歌制作から出発し、ダダイズムやフランス象徴詩の影響を経て自らの詩の世界を築き上げました。その詩は、日本の近代詩の中で独自の輝きを放ち、現在も多くの読者を獲得しています。本講義では、日本の近代詩の歴史をふまえながら、中原中也の詩の特質を明らかにします。	
	宗教学	宗教は、人間が文化と社会の中で生活するための、必要不可欠な営みである。宗教は、信仰・教義・教団というかたちで現れる場合もあるが、多くの場合は、信仰でも教義でも教団でもないかたちで、人々の生活の中に浸透している。このことについて、主にバリ、ジャワ、アポリジニ、日本の生活と社会を事例に、イメージしながら一緒に考察する。	
	アフリカの森の人々の生活と文化	アフリカの森には「ピグミー」と呼ばれる人たちが住んでいます。その中には、季節的に野生動植物の狩猟と採集で生活を成り立たせている人たちがいます。本講義では、1990年代前半に行った現地調査に基づいてそのような人たちの生活と文化を映像を交えながら紹介します。	
	風景の美学	人間は風景をどのように体験し、表現しようとしてきたのであろうか。風景は近代において発見されたと言われるが、それはどういうことであらうか。また風景に美を感じるとはどういうことであらうか。この授業では美学という学問の立場から、美や崇高について学び、西洋や東洋の風景画を鑑賞し、その思想的背景を考える。最後に、西洋と東洋の風景の体験の仕方の違いや共通性、影響などについても考える。	
	雷と天狗・讃岐の足跡	「雷も天狗もまじる百人首」。鎌倉時代の藤原定家撰による小倉百人一首の作者の中に雷や天狗がいると揶揄した古川柳ですが、平安時代の怨霊伝説の両巨頭・菅原道真(雷)崇徳上皇(天狗)をとともに語ることでできる讃岐ならではの企画。雷や天狗をやさしく迎えた讃岐での足跡を紙上(1,3)や町なか(2)にたどり、最終回は雷や天狗をテーマにした茶席にお招きいたします。	
	西欧における建築と芸術の文化史	ヨーロッパにおける建築と芸術との関わりを文化的に考察します。具体的には、古代地中海世界における神殿建築からキリスト教教会建築への変化の文化的意味、教会建築のロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロックへの展開と各芸術作品との関わり、中世の城からバロックの宮殿への変化などについて、考察します。	
	カール・ポパーの哲学	カール・ポパーは二十世紀のほぼ初めから終わりまで生きた科学哲学者である。彼は、世紀初めの物理学の革命に際して、科学が進展させる原動力は帰納ではなく、むしろ反証だと主張し、それに基づき批判を封じる全体主義的社会思想をも批判した。本授業では、いまや古典となっているポパーの思想の概要を紹介したいと思う。	
	讃岐松山の崇徳院と西行	保元の乱に敗れた崇徳院は、讃岐松山に流されて九年、配所に薨じた。同行した崇徳院兵衛佐との歌の贈答による西行との交情など、配所におけるその生活を、物語の鑑賞と一連の和歌作品購読によって解説する。そして、没後その遺跡を訪ねて白峰への墓参を果たし、弘法大師の聖地善通寺近傍の草庵に一冬を過ごした、西行讃岐旅行の目的と足跡を辿る。	
	フランスの「文化」	「文化」と「文明」はどう違うのだろうか。「文明」を標榜してきたフランスとは如何なる国か。多様性と伝統に彩られた、そのフランスの優れた「文化」の特性や、我が国への影響などの実相を明らかにする。こうして、いわゆる「文化国家フランス」神話の解体をとおして、正しいフランス理解をめざす。	
	世界に誇れるふるさと香川の宝物	世界の宝石と言われる瀬戸内海、日本を代表する大名庭園お庭の国宝栗林公園、恐るべきさぬきうどんなど、香川県には、世界に誇れる宝物が盛りだくさん。おそらく多くの方の目からうろこが落ちるはずですが、知れば知るほど県民でなくとも不思議と自信がで、元気が出てきます。また、多くの人の出会いから学んだ日本文化や伝統を通じて感じるボランティア活動、おもてなしとお遍路文化、クレームは宝、行動こそ意識改革、プラス志向の考えなど、今後の人生に必ずお役に立つヒントも・・・	
	考古学からみた瀬戸内の歴史	愛媛県を含む瀬戸内海沿岸の地域から出土している縄文時代～古墳時代の遺跡・遺物から、地域の歴史と文化を学びます。実際の遺物に触れながら学んでいきます。	
	音楽の感情と意味	様々な事象を通して、音楽における感情表現や音楽が意味する点について考察する。音楽構造と感情との関係、科学的に捉えた音楽、音楽が人に与える影響等、具体的な事例を示しながら考え、簡単なチャイム(ベルを含む)の演奏を通じ、アンサンブルも体験するクラシック音楽入門講座である。出席状況とレポートで評価する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	子どもの絵の意味	子どもの絵に見られる図式表現の獲得過程をベースに、子どもの絵の表現における知的活動の意味を探る。原始絵画や現代美術の一面面が、子どもの絵と近似性を持つことを例証しながら、表現活動の底になるものとは何かを考察する。また、情報化時代で記述や映像の氾濫する現在、子どもの絵による象徴的表現が人間関係の形成にどのような意味をもつのかも合わせて考える。	
	古典インクと羽ペンによる素描	この「古典インクと羽ペンによる素描」の授業では、古典インク（西洋没食子インク）の製法や特徴を学び、ルネサンス時代の巨匠たちの素描模写も行います。レオナルド・ダ・ビンチ、ミケランジェロ、ラファエロなどがインクと羽ペンで描いた素描を模写することで、その技法や心を習得いたします。鉛筆や木炭では表現できない様な、豊かでゆらぎのある素描を体感していただきます。	
	書法入門	この授業は、日本の伝統文化である「書之美」を学びます。書の歴史は書体の歴史であり、書美の表現の歴史でもあります。書美はどのように変化したのか、どのように表現されてきたのかを、臨書を通して考えます。また、表現の歴史、作品、作者について考え、拓本、文房四宝、字典等の理解を得ることが必要になります。	
	中国古典文学と日本	奈良・平安時代から昭和（戦後）に至る私たち日本人の読んできた中国古典文学について、幾つかのエピソードを紹介しつつ、その作品を読んでゆきます。実際に幾つかの漢文を受講生の皆さんにも読んでもらいます。	
	日本近代小説の読み方	一コマにつき一つの小説作品を採り上げ、その読解を試みる。読解の中心になるのは、小説が同時代の言説をどのように反映しているかという問題であり、その検討を通して、時代相や作家の個性について考える。具体的には、明治から昭和戦後期にかけての五つの作品、国木独歩「春の鳥」、芥川龍之介「六の宮の姫君」、志賀直哉「小僧の神様」、太宰治「魚服記」、竹山道雄「ビルマの竖琴」を予定している。「ビルマの竖琴」を各自であらかじめ読んでおくこと。	
	邪馬台国の科学	邪馬台国の問題は、すぐれて「魏志倭人伝」といった文献の解釈・理解の問題であると同時に、日本古代国家の成立をどのように見通すかの日本国家史上の極めて重要な課題となるものである。特に、日本考古学上の邪馬台国論は、研究者それぞれの関心分野での対象（遺跡・遺物などの物）からの立論がほとんどである。ここでは、邪馬台国の、歴史理論上の課題、つまり歴史科学の立場から総論的に立証する。	
	獅子物の芸能をめぐって	日本の伝統的な劇場芸能には、雅楽や能や歌舞伎あるいは近世邦楽を地とする日本舞踊など多様な種目があり、成立時代や享受階層の価値観を反映してそれぞれ独自の作品を擁している。しかし中には同じ題材をもとに展開している作品も多く、そうした同題材の異種目作品は、伝統芸能全般の成立史や各種目の独自性の理解において興味深い。今年は「獅子」という題材の上に展開した諸作品の鑑賞を通じて、日本の伝統芸能の歴史と諸種目の理解を深める。	
	江戸時代の医学と医療	江戸時代の医学の発達と庶民がどのような医療を受けたのかを学びます。江戸時代前期の農村には医師がほとんど存在せず、領主層のみがすぐれた医療を享受できていました。しかし、江戸時代の後期になると、どこの村にも医師がおり、庶民は医師による医療を受けることができるようになっていました。なぜ、そのような変化が生まれたのか、その理由と実態を明らかにします。また、時間外に有志で、医学資料館などの見学も行います。	
	『長崎夜話草』を読む	「ジャガタラ文」で知られるお春の哀話を中心に西川如見の『長崎夜話草』を読みます。西洋人の父と日本人の母とのあいだに生まれたお春は14歳の時にジャガタラに流され、孤独な少女時代を送ります。成長したお春は現地でめぐりあった実業家の青年と結婚し、晩年は子供に恵まれ幸福な生涯を送ります。このほか金銀島をさがすオランダ船、国姓爺の明朝復興の活動にもふれます。ベストセラー作家如見の文学を味読したいと思います。	
	熊本県の歴史の再構成	戦国期から明治初年にいたる熊本県の歴史という身近な歴史を点検しながら、日本の歴史の基本的な仕組みを明らかにする醍醐味を共有したい。たとえば、天草四郎は実在したのか、実在しないとすれば、天草・島原の乱一揆とは何だったのか。江戸中期の宝暦の改革において近代に向けた仕組みが出来あがっていく過程など、熊本県の歴史にひそむ、知られざる事実から日本の歴史を再構成していく。	
	中世ヨーロッパの生活史	中世ヨーロッパ社会を支えたのは、封建制、荘園制、キリスト教だと言われてきました。本講義では、これら国制史、経済史、思想史を総合する文化史の観点から、社会階層や男女差、大人と子供などの違いに留意しつつ、人々の衣食住、人生のスタートからゴールまでを取り上げて、中世の特徴と魅力を解明します。	
	絵画の楽しみ	絵画は芸術表現の中でももっとも親しみ深いものの一つです。一枚の紙と鉛筆、色鉛筆や絵の具など、簡単な絵の具と材料があれば誰にでも表現する楽しさを味わうことができます。かたちや色彩など絵画表現の基本的なしくみについて学び、制作をとおして自由に表現することの楽しさを体験します。成績判定は授業への出席状況を重視して行ないます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	児童文学2～物語を書く～	児童文学を読むだけでなく、物語(短い作品・民話など)の構造をまなび、それにそって物語を書いてみる。と言ってもいきなり書くわけではなく、O E C Dの学力調査で高い教育力が注目されたフィンランドの国語教科書に学びながら行う。フィンランドの国語教科書では作文教育に物語教材が数多く取り入れられており、「読む」と「書く」が一体化した指導が行われている。その指導法に学びながら、「読む構造の把握 書く」活動を行う。想像力・創造力を培う。	
	幕末維新政治史 - 激動期の女性 -	幕末混沌の世をしたたかに生きた女性たちがいた。天璋院篤姫だけではない。井伊直弼の愛人・村山たか。安政の大獄で処罰された近衛家老女・村岡局。高杉晋作らの危機を救った野村望東尼。西郷隆盛の正妻イトと島妻愛加那。坂本竜馬とお竜。薩摩藩家老小松帯刀の正妻お近と京都妻お琴。大奥に奉仕した姉小路局や滝山、そして幾島。薩摩藩士に嫁した京女・税所敦子や山田歌子などの生き方とその役割を幕末政治史の中に位置づけます。	
	世界史の中の音楽	各学問領域に独自の歴史が存在するが、単独で語り継がれるのでは意味が無い。社会・政治・文化の流れの中で誕生・発展或は衰退する過程に目を向ける事こそ重要である。音楽も芸術至上主義で築かれたのではなく、社会変革に翻弄されながらその道を歩み、数々の名曲を生んできた。本講義ではルターの宗教改革とドイツ音楽誕生、17、18世紀イギリスの社会変革（清教徒革命、王政復古）を背景に浮き沈みした演劇・音楽等を講義する。	
	東南アジア島世界の生活	ボルネオ島を中心に、東南アジアの島々で暮らす人々の生活を、文化人類学の民族誌の手法で描き解説します。食事や眠ることといった日常生活から始めて、食料生産、宗教などに入っていきます。できれば映像も見せたいと思います。東南アジアの島々は沖縄と共通する要素もありますので、その辺にも触れることができれば良いと考えています。	
	対話を基礎とした西洋教育の源流	現代はコミュニケーションの時代で、その基盤が対話である。教育とは、教える人が主人公で学ぶ人は脇役である、との見方があるが、対話を教育の場におくと、学ぶ者が教育の主役に踊り出る。この講義では、西洋教育の源流となった対話のあり方を、古代アテネ人の説得術、古代ローマ人の雄弁術、中世騎士の育成法、中世徒弟の育成法、ルネサンスの宮廷文化などを通じて探り、学ぶ者の心意気をエピソードを交えて紹介する。	
	琉球の歴史と世界遺産	九州本土を離れて南に花づなのように連なる島々が琉球列島だ。この地域はかつて琉球王国という独自の国だった。ここに人類が住み着いたのは今から遥か数万年も昔のこと。やがて歴史は巡り自然物採集の時代を経て農耕が開始され、歴史の歯車はグスク時代といわれる争乱の時代に。そして琉球王国が誕生する。今回は先史時代から琉球王国誕生までの琉球の歴史について解説し、加えて世界遺産についても学ぶ。	
	沖縄音楽の諸相	沖縄音楽は祭祀儀礼の場で行われる古い神歌にはじまり、生活の中で歌われた民俗歌謡、ウスデークや巻踊り、クイチャー、エイサーなどの踊り歌、豊年祭で演じられる舞踊と芸能、御座楽、三絃楽、組踊などの宮廷楽に至るまで多種多様です。琉球王国が滅んだあと新しい歌謡、劇音楽が生まれて今日まで伝承されてきました。それら音楽の諸相を学習します。	
	グーテンベルク聖書の活字と書字	中世まで本は全て写本、つまり手書きだった。美しい挿絵がちりばめられた写本をまずは眺めてみたい。その完成された華麗な姿を、グーテンベルクは印刷術によって再現しようとした。特に聖書は装丁や文字の形が写本そっくりで、写本と勘違いする人がいるほどである。写本用の特殊なペンで当時の字を書いてみて、グーテンベルクの活字は本当に写本の字と同じ形なのかを確かめる作業を行う。違いがある場合は、原因も考えたい。	
	日本語文法研究入門	現代日本語の文法の仕組みと研究方法を具体例に基づきながら講義します。私たちは、ふだん文法を特に意識せずに日本語を使っています。しかし、間違った表現や新しい表現を聞いた時などに、文法すなわち言葉のルールを意識します。いくつかのトピックを取り上げながら現代日本語の文法の実態と一緒に考えていきます。なお、中学校の国語で学習する程度の口語文法の知識を前提として講義を行います。	
	藤村詩集を読む	1. 講義携帯は講義。2. 島崎藤村の『藤村詩集』をテキストとする。3. 日本の文語詩に対する理解力・読解力を高めるとともに、近代詩の成立過程について考察する。4. 詩作品の喚起をすすりズム、イメージ、テーマ等を的確に把握できる感性と能力を養う。5. 島崎藤村の「人と文学」に対する知見を深めるとともに、詩作品を読む楽しさを体験する。	
ジャポニズムの芸術家たち	日本の美術工芸品は、開国を期に、ロンドン、パリ、ウィーンなどで開催された万国博覧会に多数、紹介されるようになった。すると、より自由な表現方法を模索していた欧米の画家・工芸家・デザイナー・建築家たちの間にジャポニズムと呼ばれる日本ブームが起きた。本授業は、日本の芸術に出会ったヨーロッパの芸術家たちが、どのように反応し、個々の創造の糧にして独自のスタイルを確立していったかを具体的に検証する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	アニメ映画の技法と世界観	この授業では、特にその世界観に特色のあるいくつかのアニメ映画を取り上げ、アニメの表現技法と世界観とがいかに連動しているかを学んでいきます。初回の授業で、芸術アニメ、ディズニーアニメ、日本アニメの表現技法の特色を概観した後、フランスの切り絵アニメを第2回の授業で、残りの3回で世界観として個性的な日本アニメを扱います。授業では映像を数多く具体的に提示し分析していきます。	
	聖人崇敬とキリスト教文化	聖ニコラウス（サンタクロース）、聖ヴァレロウ、フランシスコ・ザビエルなどの名前は私たち日本人にもよく知られています。キリスト教（カトリック）世界では、彼らは聖人として知られている存在です。聖人崇敬は、特に中世ヨーロッパにおいてはキリスト教信仰の一つの形態で、巡礼運動や教会建設などキリスト教文化とも深く関わっています。この講義では、聖人崇敬という観点からキリスト教文化の特質を探ります。	
	芸術と我々の「生活の質」	テーマ：高齢少子化社会における芸術の役割 高齢少子化社会を迎え、ヘルスケアにおける「生活の質」（QOL）が問われている。課題は心の問題である。心に向き合い、直視し、心を表現するのは芸術（＝アート）である。（医療と福祉）ヘルスケアにおいて重要な役割を果たす芸術と心の問題を、さまざまな角度から探る	
	印象主義の美術	ヨーロッパ19世紀美術の流れを通覧しつつ、とくに印象主義のマネ、モネ、ドガ、ルノワール、シスレー、ピサロらの絵画作品への理解を深めることをねらいとします。時代背景や画家の生い立ちなどを紹介しながら、スライドやプリントを用いて各画家の代表的作品を解説いたします。作者や作品についての知識を得ると共に、それぞれの方の美術鑑賞の一助となることを望みます。	
	漢詩のこぼれ	中国の古典詩をよむと、様々なことばに出会いますが、意味が一定していないものに出くわすことがあります。例えば、李白「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」に「煙花」とあります。これは、注釈書によって「春の風景」と書かれたり、「霞がかかった花」というように、解釈が異なります。なぜ、このように解釈が異なるのでしょうか。また、それぞれの解釈でどのように詩のよみ方が変わるのでしょうか。このような問題を中心に、講義をする予定です。	
	イギリス文学のたのしみ	ひとくちにイギリス文学とはいいますが、近代英語による文学作品が現れてからすでに500年を経て、そのジャンルも、作家も、さらには地域さえも多岐にわたる。この授業ではイギリス文学に関心を持ちながらも、どこから手をつけて、どのように読み解いて行くべきか迷っている読者を対象として、できるかぎり原文テキストにより、イギリス文学に近づいて行くための案内を試みたい。	
	中国古代の文化史～春秋戦国時代	中国古代の文化と人の営為を殷・周時代の出土資料や、秦・漢の文献資料を讀解しながら考察する。最初に出土資料について、主としてその背景に存在する宗教体系の構造に注意しながら読み解き、さらにその知識を援用して中国最古の古典である『書経』『詩経』及び春秋戦国の諸子百家・漢代の『史記』をはじめとする諸文献に触れながら解説する。なお、講義内容は平成16年度第1学期「中国古代の文化史～周時代～」と一部重複する。	
	日本語の語りと歌	日本語の発音の基礎を確認して文章を読み、歌を歌い、鑑賞することにより、美しく味わい深い日本語の表現を探究する。	
	齋藤茂吉『赤光』を読む	大正初めの齋藤茂吉の『赤光』の出現は当時の歌壇の内外に大きな衝撃をもたらしました。「写生」の流れに立ちながらの情動的な内面の表出は、新しい短歌の可能性を示唆したからです。伊藤左千夫および長塚節らとの交流にも触れながら、『赤光』刊行までの茂吉の足跡を辿ります。	
	人間の宗教的可能性について	人間は古来、この世の現実生活のなかでなんらかの救済や解脱を希求してきました。最も極められたその典型的な境地として、空や無の悟覚、帰入や合一の神秘体験、絶対帰依の信仰などがあります。こうした人間のきわだった可能性としての宗教性について、人間的生のどのような基底層から発源しうるのか、そこからどのように諸類型へ分化しうるのか、といった点を考えてみます。	
	アフリカの社会と文化	なんでもありのアフリカです。飢餓に内戦、エイズに天然資源・・・、だれもないものがひとつ。それは「孤独」！そこに、あの飛びきりの笑顔のわけがあるのかもしれない。この授業ではさまざまなアフリカの素顔をみなさんに感じ取っていただきたいと思っています。	
	決定論と自由意志の哲学	西洋哲学史において、さまざまな形をとりながらも途切れることなく論じられてきた問題の一つに、決定論と自由意志の問題がある。授業では、この問題をめぐる古今の哲学者による議論のうち主要なものを日本語訳の抜粋で読みながら、講師による解説を交えつつ受講者も加わってその解釈を試みていく。その作業を通して、西洋哲学史の流れを把握するとともに、哲学的思考法に親しむことを目指す。	
	芭蕉と象潟の伝承	この授業は、北海道・東北ブロック連携面接授業『奥の細道』を辿るの1科目です。元禄2年（1689）6月16日（陰暦8月1日）、『奥の細道』の旅の途中象潟を訪れた芭蕉は、翌17日、船にて能因の幽居跡、西行ゆかりの桜、神功皇后の御陵などを巡りながら、蛸満寺を訪ねます。本講義では、こうした『奥の細道』の勸賞を通して芭蕉の足跡をたどり、同時に、象潟の地に残されたさまざまな伝承と史実との関係、伝承形成の背景などについても考察を加えます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	出羽路の芭蕉	この授業は、北海道・東北ブロック連携面接授業《『奥の細道』を辿る》の科目です。『おくのほそ道』の旅で芭蕉が40日間滞在した出羽路（現在の山形県内部分に限定します）の芭蕉の足跡を原文と随行した曾良の日記によって跡づけます。また、北陸路から結びの地大垣までの行程、さらに『おくのほそ道』の旅以後終焉に至る芭蕉の生涯にも言及します。なお、山寺立石寺における現地踏査も行います。（拝観料は各自負担。踏査については各自の体力には十分配慮します）。	
	人間文化	日本の総合文化といわれる茶道を通じて、日本人の行き方、考え方を考えていきたい。400年続いた茶道の中から、現代の日本人に失われてものを考え、現代の生活の再び呼び戻すには、どうすればよいかについて考えてみましょう。	
	近代日本の芸術論	近代日本の芸術論について次の二人の著作を読みながら考察する。1 岡倉天心「茶の本」2 柳宗悦「雑器の美」ビデオで二人についてひろく理解したうえでそれぞれの著作を読むことを中心に授業をすすめます。	
	ヨーロッパ思想構造論	この講義は、18世紀ヨーロッパ近代の思想的基盤である「啓蒙主義」の理解を中心テーマとしつつヨーロッパを問うものです。ヨーロッパ近代の発展を思想や歴史、アジア・日本、現代社会とのかかわりを通して批判的に理解することが目的です。（キーワード：理性と合理主義、ヨーロッパ近代と日本近代、啓蒙主義、自然と科学と宗教、歴史と進歩、儒教対合理主義、文明と野蛮、普遍性と特殊性）	
	シェイクスピア講義	シェイクスピアの戯曲は、悲劇、喜劇、歴史劇あわせて37以上にのぼり、四大悲劇『マクベス』、『リア王』、『ハムレット』、『オセロウ』や、恋愛悲劇『ロミオとジュリエット』を中心に、現在でも世界中の各国の劇場で上演が行われている。またその映画化、テレビドラマ化、パレエ、オペラ化も盛んになされ、その歴史も長い。本講義では、原作がたどったその歴史的展開とヴァリエーションのありようを実作品に即して紹介し、かつ今日これらの名作が持つ意味と意義を考える。	
	ギリシア・ローマ神話と西洋美術	古代ギリシア・ローマ神話は、欧米人の素養のひとつであるとともに、「愛のキューピット」や「勝利の女神ニケ」などのように日本人にとってもなじみがあります。西洋美術にはギリシア・ローマ神話を主題にしたものが多く見られるため、神話に関する基礎知識を身につけておくことは、西洋美術史に対する理解を深めることにもなります。ここではオウィディウスによる「変身物語」など、神話に関する古代の記述に触れたりしながら、美術を見て生きたいと思えます。	
	日本文学の読み方	この授業では、日本文学の中から、代表的な名作を選び、その作者や作品について、詳しく学ぶことを目指している。原文の講読も取り入れながら、文学作品のすばらしさに直接触れるとともに、他の作品との関連も視野に収めたい。また、古典から近代まで、様々な作品を読むことによって、日本の文学史の全体像を把握し、日本文学の特徴を新たな眼で捉え直したい。	
	カント哲学入門	18世紀ドイツの哲学者カントが大成した「批判哲学」のアウトラインを概観する。講義を聴いて受動的に理解するだけでなく、カントとともに自発的に思考することが重要だと考えるので、できるだけ指定教科書に収められた邦訳テキストの講読と解釈に時間を割くよう心がけたい。1. 「批判哲学」の形成史、2. 理論哲学、3. 実践哲学、4. 美学ないし目的論、5. 平和論ないし政治理論、を主たるトピックとする予定である。	
	病気と癒しの人類学	文化人類学の中でも特に「病むこと」と文化の関係に注目する医療人類学について講義を行う。生物医学のように人間の生物学的側面を中心とした身体観や生命観の一方で、世界には生物医学とは異なる多様な身体観・生命観が存在する。私たちが「あたりまえ」とする身体や病気、生命や死についての観念を再考する機会としたい。テキストは指定せず、随時必要な資料を配付する。	
	イスラームの人類学	人びとがイスラームという宗教を基盤として自らの日常生活や社会関係をどのようにして織りなしているのかを、人類学的観点から明らかにしてゆきます。講義に際しては、まずイスラームについての基本的知識、イスラームを信仰とする社会の生態学的特徴などを明らかにした上で、各論に進み、歴史、社会、民族関係、都市・農村生活、宗教生活、音楽などといったトピックを通じて、可能な限り具体的かつ多角的に上記の課題に取り組んでゆきます。	
	持続的発展：南アジアの事例から	持続的発展は、地球の規模、国家、地域のレベルにおいて発展のあり方を捉える概念として注目されてきている。主に南アジア3国（インド、バングラデシュ、ブータン等）の第二次世界大戦後の経済発展を、「持続的発展」の観点から整理する。そこからわが国の「持続的発展」のあり方を考えてみたい。	
	ラオスの健康観と病気観	本講義では、ラオスの健康観と病気観について、人類学の立場から考察する。東南アジア大陸部に位置するラオスは、19世紀末からのフランス植民地期を一つの契機として生物医療が制度的医療として導入されて以来、生物医療的な健康観と病気観が普及している。だが日常生活においては、伝統的に培われてきた民俗的な健康観と病気観が重要な位置を占める。こうしたなかでラオスの人々はいかに病気に対処し、健康の維持・増進を試みているのだろうか。この点について、ラオスにおいて実施した調査知見を取り上げながら検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	日本庭園の特徴と庭の楽しみ	それぞれに特徴的な構成をもっている欧米、中国、韓国などの庭園と比較しながら日本庭園の特徴をビジュアルに理解する。また、日本庭園の展開を辿りながら、庭園に関わった人々の考えや技術について理解する。このような理解を進めながら庭づくりや庭の手入れの楽しさをより深く実感してもらいたい。	
	服飾人類学	本講義では、「民族服」や「伝統服」のあり方を文化人類学的な視点から考えます。とくに、民族服・流行服・伝統服とも言えるチャイナドレスを「伝統」と「近代」の構図の中で、歴史資料や映像資料で解説します。また、民族博物館の展示や観光活動に見られる少数民族衣装の見せ方や見られ方を取り上げ、「近代」との出会いや、「他者」から/への視線、民族衣装の表象性などの側面から、調査事例や一次資料を通して説明し、「文化」としての「衣」を考えます。	
	コミュニケーション論	放送授業「コミュニケーション論序説（07）」で扱った内容に基づき、復習・発展的な内容を扱う。コミュニケーションのノウハウを扱うのではなく、「コミュニケーション学」の立場からコミュニケーションを見ることによって、普段何気なく行っていることに対する分析的な視点を提供することを目的とする。	
	イギリス経験論	ポップズ、ロックを経てとりわけ18世紀に注目すべき思想的成果を結実させ、後世に大きな影響を及ぼした「イギリス経験論の哲学」を、特にデイヴィッド・ヒュームとアダム・スミスの認識論、道徳論、美学論、宗教論、政治経済論を中心として検討する。「感情」と「想像力（構想力）」が私たち人間の自然の認識や行動にどのような影響を及ぼし、文明をどのように生成させるかということを観察し、予見した彼らのテキストを検討することを通して、人間と、人間が形成する文化の形態を考察する。	
	日本古代史料講読	日本史を学び理解するためには、史料を読解する能力を身につけることが必要不可欠である。日本史の史料は、古代から近代までの各時代ごとに特徴があるが、限られた時間内で全ての時代の史料を学習することは困難である。そこでこの科目では、古代（奈良・平安時代）の史料を対象を絞り、それを読解するための基礎的な学習を行う。本講義では、単に史料の読み方の技術を教えるのではなく、史料の読解を通して、その背景にある古代の国家と社会についての理解を深めることを目標とする。	
	コンピュータ情報の"守り神"入門	コンピュータなどの情報システムにおいて、経年変化による素子故障、あるいは外部からの雑音、粒子、等による一時的な故障からどのように情報を守りシステムの信頼性を向上させているか、その考え方、手法について述べる。また、ネットワークと接続したコンピュータシステムでは、不正侵入、人為的な妨害、犯罪行為から情報を守るファイアウォール、暗号、等のセキュリティ向上対策の考え方、原理について述べる。	
	多文化主義社会の少数民族	異文化との共存、あるいは他者との共生ということがよく言われている。これらは、言ってみれば多文化状況の是認を示していると考えられる。しかし、多文化主義とは一体何だろう。本授業では、多文化主義と少数派という視点に焦点を当てていく。授業では、まず多文化主義がどのような要因で生まれてきたのかを概観する。そして、この考え方を社会政策に取り込んでいるオーストラリアを事例の軸足にして、カナダ、ニュージーランドなどの国ぐにとの比較しながら、多文化主義の光と陰を諸相を検討してみたい。	
	暮らしを彩る美術の文化	絵画、彫刻を身近に置くことのみならず、生活手段、道具、身につけるものなど、暮らしと共にあるものを、粋で、個性的な見地で選んだり、作ったりすることも美術の領域である。この講義ではこのような美術対象を歴史的に捉え、現代の東京にあるものに触れて学び、批評することを通して、受講者の美的創造性を高めることを試みる。初回と最終回を含め、数回はセンター講義室を使うが、途中、美術館、美術サロン、その他施設へ出かけて対象の観察、解説などを行う。都内に限るが、交通費、入館料が別途必要になる。各人がテーマをいくつか選び、授業中鑑賞と調査を行い、レポートに提出する。	複数教員共同担当
	伝統演劇と現代4	能・狂言、歌舞伎をはじめとする、日本の伝統演劇に関心をもつ学生の皆さんは少なくありませんが、単なる娯楽的鑑賞の域をこえて、現代におこなわれる舞台芸術としての意味やあるべき姿を考えようとするのがこの授業のテーマです。それぞれの成立期における社会・文化的な背景や、長い年月によって培われてきた伝統のかたちをしっかりと理解するとともに、近代におけるその変容や今日抱えている困難の所在を明らかにしてゆきます。	
	近世東アジア交流史	近世の東アジア諸国は「鎖国」や「海禁」という形で、或いは入境管理体制の整備や諸禁令の発布によって、「国をまたぐ」通交を監視・統制するようになった。こうした状況下で、東アジアの国々の「国境」を合法的に越えることができたのは、ごく限られた人々であった。この講義では、近世の東アジアにおける「国境」を越えた人々・漂流民、外交使節、商人など - に焦点をあて、東アジア（中国・朝鮮・日本・琉球）における国際交流の実態と歴史的性格について検討する。	
名作を読む（アメリカ文学）	アメリカ文学の名作を翻訳で丁寧に読解する講義である。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (人間と文化)	歴史資料を通してみる木造建築	歴史的建造物、主に江戸時代の木造建築(社寺・民家等)を対象とし、保存のための修理行為とそこで重要な役割を果たす史料すなわち古文書や構成部材墨書、建立・修理の際に作られた棟札等を通じて、理解を深めます。木造建築の基礎、近代の文化財指定や修理自体の歴史もとりあげます。予習は必要ありませんが、民家・社寺・町並みなど歴史的環境に関心のある方、歴史資料特に古文書解読に興味のある方の参加を求めます。	
	アイヌ民族とメディア	テキストや映像などを媒介としたアイヌをめぐる自己/他者表象を、できるだけ時系列に沿って取り上げていきます。それらをバラバラなものとしてではなく、近現代における政策の展開などの社会的動向や、マジョリティとマイノリティの相互関係を通じたアイデンティティの形成過程と関連づけて包括的にアプローチしながら、「文化」「社会」「民族」など人類学における基礎的な諸概念についても併せて考えていきます。	
	江戸と千住	品川、板橋、内藤新宿、千住。江戸時代は、東海道・中山道・日光奥州道中・甲州道中の宿場でした。この「四宿」は、物資や人、文化が行きかう、巨大都市江戸の出入口だったのです。また、江戸の人びとの行楽の場でもありました。この講義では、千住宿について、一日目は講義、二日目は巡見(1・2限)と荒川ふるさと文化館見学(3限)を行い、残された痕跡や、絵画や文書から、こうした場のありようをよみとっていただきます。	複数教員共同担当
	琉球弧の人類学	この授業では、琉球弧の文化を世界の文化と比較しながら学んでいきます。人類学の基本的な視点、例えば婚姻・親族関係、信仰、ジェンダー、エスニシティなどを切り口に、奄美・沖永良部島出身である講師の周縁からの視点で琉球弧の文化的多様性、さらには世界の文化的多様性を理解し、文化に対する相対的視野を身につけます。	
	源氏物語「宇治十帖」	光源氏や紫の上が他界した次の世代、薫、匂宮、中君、浮舟の物語は、色彩豊かな京中心の世界から香が漂い水のさざめく、世を憂しともみる世界に移り、雰囲気の違い、文体の違いなど、同じ作者の筆になるのか、疑う向きもあるようです。まずは物語をしこしこ辿りつつ、文体や歌の統計分析なども含めて、しばし古代世界に沈潜したいと思います。今年ではもはや「千年紀」に浮かれる必要もないでしょうから。	
	表計算によるビジネス統計入門	ビジネスを効率的に運営するには、統計的分析が不可欠です。統計処理は大量の計算を必要としますが、表計算ソフトを使えば面倒な計算から開放され、結果の分析に集中することができます。この講義は、初歩的な統計分析を表計算で行なう手法を実習し、統計分析になじみをもってもらうことを目的とします。受講上の注意：パソコンの基本操作と表計算ソフトExcelが使えること、および高等学校程度の確率、微分積分の数学知識が必要です。	
	江戸時代の版本入門	江戸時代は日本の社会において出版が始まった時代である。印刷された本が商品として社会に広まるようになるのであるが、その本は今日という木版画の技法で作られており、版本と称される。本講はこの江戸時代に商品として日本の社会に流布した版本の歴史を解説し、実際に実物の版本を用いてその正しい理解に努める。その上で版本の製造方法の特質上、出版当時生じているさまざまな現象を紹介する。書物を物理的に考察することで、内容も含めてのその書物(作品)を理解するというアプローチを体験してもらう講義である。普段展覧会でガラス越しにみるような江戸時代に出版された本を実際に手に取って感じ、考えることができる機会でもあります。	
	パソコンで学ぶデータベース実習	PC用データベースソフトAccessの実習により、データベースの設計と操作を実務的に学びます。必要に応じてグループ演習を行うことがあります。特別な知識は必要としませんが、パソコン操作は慣れている方を対象とします。部分欠席不可、最終日に確認テストがあります。	
	開港150年のなかの横浜B	日本の歴史は地理学と不可分に発展した。したがって歴史事象の復元は文献研究とともにフィールドワークは重要な研究方法である。本科目で横浜市域の時代の異なる史跡を歩き、史跡踏査の方法を学ぶ。調査の対象域は鶴見川流域の古墳群と東海道の旧神奈川宿である。踏査前に対象地域に関する講義形式の授業を行う。	
	公文書学入門(仮題)	神奈川県立公文書館では、県が作成した公文書等のうち歴史資料として重要な公文書、および県内に伝存する古文書等の記録類を、収集・保存・公開しています。また、利用のために必要な各種参考資料・統計資料・図書類を備えています。この公文書館に所蔵されている歴史的な文書を見ながら、神奈川県に由来について考察する。横浜市は、2009年で開港150周年を迎える。1853年、米国東インド艦隊司令長官・ペリーが率いる黒船が浦賀沖に現れた。その後、日米和親条約、日米修好通商条約が締結された。1859(安政6)年、横浜に港が開かれた。これを記念して、今回のシリーズが企画されている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	開港150年のなかの横浜A	「横浜の近代 - 市地域拡張と河川交通」：横浜市は1889年の成立以来、わずか半世紀の間に6度にわたる市地域拡張を経て、日本最大の港湾都市、京浜工業地帯の中核、東京のベットタウンなど、複合的・重層的な都市構造築き上げてきた。講義では、こうした横浜市の膨張過程を辿り、近代都市の変遷過程に迫ることにしたい。あわせて、明治・大正・昭和期の各時代における都市計画を取り上げ、とくに近代都市の中で河川交通がどのように扱われていったのかにも着目していきたい。	
	神奈川の近現代（4）	横浜の近現代史150年を概観したのち、テキストを用いて横浜をめぐる7つの具体的な歴史の事実を通して、地域と世界の様々な結びつきを学び、国際交流の現代的な意義を考える。横浜市は、2009年で開港150周年を迎える。1853年、米国東インド艦隊司令長官・ペリーが率いる黒船が浦賀沖に現れた。その後、日米和親条約、日米修好通商条約が締結された。1859(安政6)年、横浜に港が開かれた。これを記念して、今回のシリーズが企画されている。	
	開港150年のなかの横浜C	1859年の横浜開港以降、横浜が近代日本美術の誕生にどのような役割をはたしたかを、二つの側面から具体的にたどってみる。一つは、幕末から明治にかけて西欧からもたらされた油絵、石版画、写真などであり、もう一つは岡倉天心と原三溪という二人の人物を中心とする日本絵画である。	
	パソコンで学ぶデータマイニング	現在、データ収集の技術が向上し、さらにそれを記憶するための記憶装置が低価格化したことにより、情報収集は以前と比べ、たやすく行われるようになった。と同時に、氾濫する情報の中から、目的にあった価値ある知識をいかに抽出できるかが非常に大事になってきている。そこで、多数のデータの中から情報を抽出する（マイニング）理論や技法について、わかりやすく講義する。さらに、講義で解説した内容について、パソコンを用いた演習を行い、理解を深めることを目指す。	
	日米関係史 - 日系人の歴史	日本の鎖国が解け、米国との通商や文化的な交流が始まってから150年が経過した。この間、多くの日本人が働き場所を求め、あるいは新たな文化との交流を求め、米国に渡り、また定住した。そのような人々の空間的な移動あるいは交流を基礎として、日系人と総称される集団が形成され、日本とアメリカの融合した文化も築き上げてきた。一方で、2つの国家の政治的な軋轢の狭間で多くの人々が翻弄されてきたことも事実である。日系人の行動を通じたアメリカの歴史の検証も行いたい。	
	開港150年のなかの横浜D	横浜開港150周年をより深く理解するため、「交通」「交流」をキーワードに横浜都市発展記念館と横浜ユーラシア文化館の専門職員が講義と展示室での解説を行う。	
	比較文化論としてのグリム童話	誰もが知っているグリム童話。易しい語り口からときに深い森のような奥深さがのぞく。テキストに見つかるさまざまな疑問、不可解な謎を考え、謎解きにチャレンジしてみよう。まず講義で読み方の実例を提示したあと、グループ学習の形で協同で作品読解を行い、結果は図解やイラストで表しプレゼンテーションしよう。	
	三島由紀夫の現代的意義	1960年代に活躍していた小説家のうち、三島由紀夫は当時から真っ先に時代遅れの作家として消えてゆくだろうと批評家たちに予言されていた。しかし、幸か不幸か、三島文学が呈示する世界は、そこに登場する主人公たちが呈示する性格は、むしろ21世紀の現代社会や、そこで迷走する現代日本人の姿とぴったり一致する。今回は、『金閣寺』を取り上げ、主人公の内界と外界とのズレに苦しむ生き様について考察する。	
	16・17世紀の日本と欧州	本講義では、16～17世紀における日本とヨーロッパの交流の歴史について論じる。16～17世紀は、日本の歴史が中世から近世へと大きく転換する時代であると同時に、初めてヨーロッパ世界と出会う時代でもある。本講義では、この時期に日本で制作された初期洋風画と呼ばれる絵画作品に着目し、それらを手掛かりとして、日本とヨーロッパとの交流の歴史の一端について考えることにしたい。成績評価は出席状況のほか、試験の評点により行う。	
	日本歴史の諸問題3	今年度は古代中世期の熱田社（熱田神宮、名古屋市）を題材にする。古来、熱田社は三種の神器のひとつ「草薙剣」を祀る皇室と由縁の深い大社として信仰を集めてきたという、いわば常識的な観点に加えて、我が国の近代国家形成にともなう国家的崇敬を基盤として再出発した関係から、「聖的な側面」を前提とする研究が主流であったことは事実である。しかし戦後、熱田社をより「俗的な側面」に主体をおいた一つの社会組織として、政治史的・経済史的な分析もおこなわれてきた。そのいずれも熱田社の全体像を把握するためには有益な研究指針ではあるが、本授業の課題は前者と比較してより客観的な史料が残されている政治史的・経済史的な観点に立った方法論で、中世における熱田社の成立・展開・構造を明らかにすることにある。また以下のテーマに沿った世代別のグループ討議とプレゼンテーションを実施する。インターネットや書籍を参考にしてグループの意見をまとめるとともに、世代間の価値観の違いや他者の意見に耳を傾け、建設的な議論の展開を目指す。 1. 神社とは何か、信仰とは何か 2. 天皇とは、将来の天皇とは 3. その他、本授業に関係するテーマ	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	絵画における色彩表現論と実技	文字を書ける方なら、必ず絵を描くことができます。色彩の持つ感情を知ることで人生が楽しくなります。授業ではまず、色彩が人に与える感情や対比によって色彩の持つ能力を知ってもらうための講義を行います。その後、モチーフ（自然や果物）が持つ色彩を各自が感じとって描くことにより、理論を実技によって体験し表現してもらいます。また、作品を鑑賞しながら色彩表現の魅力を知ってもらいます。	
	フォークナーの主要小説を読む	二十世紀アメリカ文学を代表するノーベル賞作家ウィリアム・フォークナーの主要小説について解説し、作品の一部を原文或いは訳文で読むことにします。フォークナーの作品は、アメリカの深南部ミシシッピ州の架空の町、ヨクナパトーフア郡ジェファソンの旧家の腐敗・墮落・没落を通してアメリカ南部社会或いは広く現代社会が抱えている根本問題を鋭く抉り出したところにその特色があります。文学史的には、ヘミングウェイやフィッツジェラルド等と共にいわゆる「失われた世代」に属する作家で、物語自体は基本的に悲劇の世界です。時間の解体や内的独白等といった実験的手法を駆使して独自の世界を創り上げ、世界の現代作家に多大な影響を与えました。イントロダクションとして、「アメリカ文学における小説の歴史」や「アメリカ社会の差別の意識や思想」についても、概説風に言及することになると思います。	
	カント哲学における美と生命	近代哲学を代表するカント哲学の体系を構成する三つの批判書のうち、最後の『判断力批判』においては、他の二つの批判書では主題とならなかった、美の問題と有機体の問題が扱われている。私の授業では、カントの哲学全体を概観した上で、この『判断力批判』の内容を、なるべく現代的問題と関連させる形でお話する。そこで、イマジネーションの問題とか、エコロジーの問題といった現代的問題にも触れられることになる。	
	山川登美子の短歌	福井県・小浜出身の山川登美子の短歌を鑑賞する。生前は与謝野晶子・増田雅子との合著『恋衣』（明38）の刊行があるのみで、晶子の華々しい活躍に比して、歌人としての評価は低かった。遺稿集の刊行を契機に高まってきた登美子の短歌を、『恋衣』の収録歌ばかりではなく、「明星」に掲載された歌の中から、夫や父親に対する挽歌、そして自分自身を歌った哀悼歌などを中心に、現代語訳をしながら解釈・鑑賞する。	
	大都市市街地の昔と今	よく知っている町、たびたび訪れる町であっても、昔のようすがわかると、現在の特徴への理解が一層深まり、訪れるときの楽しさや味わいが増加する。また、現在の都市問題への認識やまちづくりへの関心にもつながる。日本のいくつかの大都市を例にとりあげ、単なる過去の姿としてではなく、現在の姿との対比を意識しつつ、市街地の変遷を考察してみたい。地図的に表現できる目に見える実態が対象となる。	
	李白の詩	李白という詩人は、詩名が高い割りに謎の部分が多い。出身からして、本人は唐の王室と親戚だといっているけれども、果たしてそうだろうか。また結婚した相手は、いずれも大臣の家の娘であって、どうしてそういう縁組ができたのか、よく分からないところがある。そうした謎めいた部分について話してみたいと思う。	
	モンゴル人の歴史と現在	北・中央アジアに住むモンゴル人は歴史的に遊牧生活を営んできた。彼らは13世紀にユーラシアの東西を跨ぐ大帝国を作った。中国人の明王朝が滅んだ後、モンゴル人はまた満州人と共に清帝国を築いた。20世紀に入ると、モンゴル人の一部は独立し、別の一部は中国に編入され、文化大革命中は大虐殺の対象とされた。こうした歴史には日本の関わりも見られた。	
	徳川権力の形成過程	日本における中世社会から近世社会への転換は、信長・秀吉の織豊政権を経て、最終的には家康による幕藩体制として成し遂げられました。そこで、本講義では家康一代に焦点を当て、その権力の形成過程を追ってみることにします。それによって、激動の時代の歴史を知るとともに、歴史のダイナミズムを感じてもらえればとおもいます。なお、現在予定している8回の講義の内容は、授業テーマのとおりです。	
	音楽文化学入門	音が「音楽」として私たちの耳に届くまでには、さまざまな人間の営みが関わっている。たとえば、音という素材を選び作品へと構成すること（＝創造）、五線譜などに示された音の配列を読み取ることで音楽的に表現すること（＝演奏）はもちろん、それを記録保存や再生することなどのしくみも考えてもよい。本講義では、これら全てを含む音楽文化学という考え方を紹介する。	
	イギリス小説を楽しむ	ジェイン・オースティン（1775－1817）の作品を中心に、イギリスの小説を楽しむ手がかりを探る。若い娘の夫探し物語に過ぎないと思われることのある小説が、熱狂的なファンを（かなり多数）昔も今もつくりだしている理由（特に、語り手の技巧、風刺、おかしみ、幸福感...）について考える。また、実際に、かに所の端正な英語を読んでもみる。	
古代中国の社会と思想	史記に描かれたような「自由な古代市民たち」の社会のただ中から、始皇帝のような帝国の独裁者が出現するまでの春秋・戦国時代は、中国文明の骨格が形成された時代であった。今回はとくに諸氏百家の最後尾に出現した法家の韓非の思想に着目して、儒家や墨家のような人間主体の論理や思想を、韓非がどのように批判して統一国家を構成したのかを考えてみたい。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	ヨーロッパ社会と近代化	18世紀の後半から19世紀へ、ヨーロッパ社会は「旧体制」から「近代」へと大きな変化の時代を経験しました。そのプロセスをドイツ史を軸に概観し、近代ヨーロッパ文化の特質とその現代的な意味を考えます。	
	ヨーロッパの歴史を考える	歴史とは何か。この基本的な問いを念頭に置き、ヨーロッパの中世から現代までの歴史を考えてみたいと思います。高校世界史の教科書に登場するような有名な事件や人物（十字軍、フランス革命、ジャンヌ・ダルク、ナポレオンなど）を引き合いに出しつつ、一般に見過ごされがちなそれぞれの時代の社会状況にも光を当てていきます。そして、受講者一人一人に様々な観点から歴史を考えていただく、これが本講義の目指すところです。	
	プラトンが拓いた哲学の道	ホワイトヘッドは『過程と實在』のうちに、「西洋哲学の伝統を最も安全な仕方でも一般化して特徴づけるなら、それはプラトンへの一連の脚注から出来ているとすることができる」と言っています。私自身、プラトンについて研究すればするほど、この言葉の真実であることをますます強く感じています。授業を通して、皆さんにもこの気持ちを共有してもらえたら、というのが私の願いです。	
	源氏物語の歌の芸域	源氏物語の歌は当時の人々の日常を反映していると思われるが、理解に諸説のある歌も珍しくない。我々の思い及ばぬ世界があるのであり、それらを明らかにして、作品を自らの手にする。平安朝の歌、源氏物語の歌の諸相を概説した後、いくつかの新見を示し、作品の深淵をのぞく。とりわけ、若菜上巻の光源氏四十賀における玉鬘との贈答歌を考究し、子の誕生を予祝する未知の芸域の歌であることを説く。	
	西洋絵画の読み方（入門篇）	この授業では絵を見たり、楽しむための基本的な知識や技能を身につけることをめざします。対象とするのは、15世紀から18世紀までのヨーロッパ絵画で、これは西洋美術の基本としてモダン・アートの理解にも重要です。絵の内容や意味が分かることが、楽しむための第一歩だと思います。ギリシア神話、キリスト教の主題を描いた絵から寓意画や肖像画、風景画や静物画などについても、理解するための基本について講義します。	
	生活の中の宗教	宗教になじみのない人にとっては、宗教は特別の人びとが信じる特異なことと感ずるかも知れません。しかし、宗教がない時代や地域を発見することは出来ないのは紛れもない事実です。ところで、宗教が人間の歴史に広く見られるということは、宗教が人間あるいは社会に共通する基盤をもっているのではないかという予想もたちます。では、どのような基盤が？本講義では、生活をいくつかのレベルに分けて、そこにみられる宗教的な事象を確認しながら、宗教の意義について考えてみます。	
	発掘された飛鳥の王宮	7世紀の古代国家の都は、推古天皇によって飛鳥川の周辺におかれ、以後は難波と大津に遷都することがあったが、主として飛鳥に王宮と都が営まれた。『日本書紀』には飛鳥の諸宮に関連する多くの記事が収録されており、1960年代以降の発掘調査によって、その実態が具体的に明らかになってきている。ここでは、飛鳥の王宮の発掘調査成果をもとに、飛鳥時代の時代像を再検討してみることにする。	
	モンゴルの文化と社会	顔は似ていても、文化的には、日本と全く異なるモンゴル遊牧社会。本講義では、モンゴル遊牧社会が生み出した魅力をさまざまな側面から描き出していきたい。扱うテーマとしては、遊牧社会の社会組織や土地とのかかわりにはじまり、宗教、音楽、民族問題などにもふれていく。	
	徒然草を読む	1. 徒然草とは 2. 占部兼好について 3. 徒然草の面白さ 4. 伝統的な徒然草への評価 5. 反世俗の思想 6. 仏道への思い 7. 奇行の人々 8. 印象に残る人と言葉 9. 「道」の人と言葉	
	情報ネットワークとコンピュータ	企業・家庭からのネットワーク接続とその利用が日常的になってきており、我々の生活の中に溶け込んでいる。こうしたネットワークの構成と機能を含めた情報ネットワーク環境の基礎知識を習得する。さらにLAN接続されたコンピュータからの情報検索・情報収集と、アプリケーションソフト上での情報活用を実習を含めて体得する。また、アプリケーションソフトでの指示が、コンピュータ内部ではどのように働き、動作するのかも講述する。	
	19世紀イギリス小説研究	19世紀イギリスを代表する小説家チャールズ・ディケンズの短編小説を読みながら、ヴィクトリア朝英国の文化や社会についての知識を深めるとともに、ディケンズの作品の特徴と魅力について考えてみたい。作品を丁寧に読むことで、英語で書かれた小説を、翻訳ではない原文で味わうことの意義と楽しみを学びたい。	
	日本近世文学の世界	江戸時代の人々には所与の「世界」に対する全幅の信頼があり、それゆえにこそ、人々は安心して生活することができた。これは文学においてもしかりである。江戸時代の表現者には、雅の文学に対する絶対的な信頼があり、その信頼の上に立って、俗の文学が生成される。雅の文学とは、規範的なものであり、神仏の加護や聖人の教えに繋がるものであり、伝統的なものであり、安定したものである。それらのゆるぎない存在感があっただけで、西鶴『好色一代男』・近松『曾根崎心中』・秋成『雨月物語』のような新しい作品が生まれた。人々が全幅の信頼を置いていた江戸時代の文学の「世界」を、探究してみよう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	日本の性別制度の系譜	これからの日本社会のなかに性別をどう位置付けていったらよいか、現在さかんに議論されています。この問いについて考えるためには、これまでの歴史を振り返り、他の社会と比べた日本の特徴を考察しておくことが不可欠でしょう。このような観点から、本講義ではおもに近・現代日本社会における制度としての性別のあり方を考察します。重要なふたつの社会の基本領域である家族と職場のあり方に、とくに焦点を当てます。	
	ゲーテの初期の作品	ゲーテの作品の中でもっとも有名な『ファウスト』、その第一部の「グレートヒェン悲劇」をとりあげます。身も心も恋人ファウストに捧げ、嬰兒殺しに走り、刑場に引かれてゆくグレートヒェンの悲劇です。それと、ゲーテの出世作で、当時のベストセラーになった『若きヴェルターらの悩み』もとりあげます。人妻へのかなわぬ恋に身を焦がし、ピストル自殺を遂げた若者の話です。当時の社会状況に言及しながら、お話しします。	
	ギリシアの喜劇と政治	青年喜劇詩人アリストパネスが戦争への厭悪、平和への希求の思いを込めた『アカルナイの人々』を読みながら、そこに描かれている過去のアテナイやスパルタの政治のあり方を考えてみたい。そのさいにヘロドトスの『歴史』以後のギリシアの歴史を扱ったトゥキュディデス『歴史』第一巻を参考にしつつ、ペルシア戦争とペロポネソス戦争のあいだの歴史と政治を見たい。	
	奈良の万葉歌	奈良県の万葉歌は755首を数える。2番目の大阪府（182首）、3番目の兵庫県（124首）などをはるかに引き離れた数といえるが、これは、古代の宮が、難波宮や近江大津宮などの一時期を除いて、ほとんど奈良県において営まれたことによる。奈良は2010年に平城宮遷都1300年を迎えるが、この講義では奈良県内で営まれたそれぞれの宮の時代の万葉歌をとりあげ、味読することとする。	
	漢字と書道と篆刻	表意文字としての漢字は、その文字を成り立たせている部首等のパーツの意味を探ることで、なぜその文字がその意味を表すようになったかを知ることができる。この講座では、まず、漢字の成り立ちを学び、篆書の筆法を学ぶ。次に、書作品の完成と誰が制作したのかを示すために押される重要な役割を果たしている篆刻の技法を学ぶ。	
	奈良の文化財探訪（飛鳥の工芸）	日本の歴史や文化を語るとき、飛鳥文化は重要な位置にあります。とくに、六世紀以降の朝鮮半島から到来した技術者や先進的文化的受容は、奈良・飛鳥地方に豊潤な工芸美術の華を咲かせるもとになり、最近の遺跡発掘の成果から十分にうかがい知ることが出来ます。1日目は、飛鳥時代前後の工芸の造形美と技法を講義で解説し、2日目は、飛鳥の万葉文化館を中心にして古代造形に関わる遺跡を実地見学いたします。	
	神仏習合の美術	日本古来の神々に対する信仰が、6世紀に大陸より伝来した仏教と融合することで、神仏習合と呼ばれる新たな宗教形態が生み出された。この長らく日本人の宗教観念の基層を形づくってきた神仏習合の世界を、絵画・彫刻・工芸・考古等の造形遺品を示しながら紹介し、その豊かな信仰と美の実態に迫りたい。特に奈良の地で生み出された神仏習合美術について掘り下げて考察していく。	
	和歌山県の歴史と文化財	和歌山県の歴史に関する概論と各時代・文化財の特論、および文化財の保存について、日常的に文化財に接して研究している和歌山県立博物館の学芸員がそれぞれの専門の立場から分担して講義する。プリントを配布し、映像なども使用しながら解説する。	複数教員共同担当
	万葉びとのまなざし	今からほぼ1300年前に生きた万葉びとは、目の前に広がる風景をどんなまなざしで見ていたのでしょうか。万葉の歌をていねいに読みながら観察してみましょう。現代も私たちの目の前には「風景」が広がっています。その風景を私たちはどんなまなざしで見ていたのでしょうか。万葉びとのまなざしを観察するなかで、私たちの「風景」の問題も考えてみましょう。	
	鳥取県中世史の諸特質	鳥取県の中世史を考えると見逃せないのは、南北朝期から戦国期の守護が山名氏であったことである。また、因幡では東部に氷ノ山・扇ノ山などがそびえていることや、湖山池の存在などの自然条件も歴史を大きく規定しており、伯耆では大山山麓が広がっていることが、無視できない条件となっている。こうした歴史的・地理的条件が鳥取県の中世史にどのような特徴を付与したのか、トピック的に講義する予定である。	
	日本の児童文学	日本の児童文学をテキストにして、子どもの視点からみた人間の喜びや悲しみ、人間の美しさや優しさなどについて深く考えていきます。児童文学は子どもだけの文学ではありません。大人が読んで感動できる文学です。この講座では、詩の世界や物語・民話の世界をじっくりと読み味わいます。	
	中国山地の街道	中国山地を舞台として山陰と山陽を結ぶ街道の自然と文化について学びます。はじめに、中国山地における街道を地理的に概観した後、過疎集落について検討します。続いて、地形・地質的な観点から中国山地を概観した後、たたら製鉄の実態と街道との関係を明らかにします。最後に、中国山地の暮らしと街道の関わりについて、民俗学的な観点から検証します。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	音楽への招待	「音楽とは何か？」その問いについて、人間と音楽経験の関わりから考えていきます。身近な音や音楽との関わりが人間の表現の可能性をどのように広げていくのかなど、教育的な視点からもこの問題を扱います。授業中の議論や、視聴覚教材での視聴、実際の音の体験を通して、音楽についての様々な考え方を考察していきます。	
	日本語音声の諸相	私たちは毎日日本語を使って生活していますが、一つ一つの音がどのように発音されているのかについて意識することは少ないのではないのでしょうか。この授業では、日本語の発音について実践的に学ぶとともに、各地方言の音声を聞き比べたり、日本語音声の歴史的变化や若者世代の音声的特徴についても触れ、日本語音声の特徴とそのさまざまな側面についてお話します。	
	情報科学の基礎	身近な情報機器であるパーソナルコンピュータの動きやその働きを手がかりとして、情報処理機能の実体であるプログラムとその働きの概要を実例に則して解説する。さらに、プログラムがその基礎としている数学的な性質について調べ、プログラムにできることとできないことが存在することを示す。	
	安全で生産性の高い情報環境	パソコンをネットワークに繋がれば膨大な情報が手に入ります。ブログを開けば情報を発信することも簡単です。しかし、1) 本当に価値のある情報を手に入れているのか、2) 自分は意味のある情報を分かりやすく人に伝えているか、3) ネットワークの上の危険に気がつないで利用していないかを考えていないと、無意味に時間を使っただけになりがちです。情報とは何なのだろうかということから初めて上の3つの問題を考えていきます。	
	フランス中世の文学(2)	フランス中世の文学(1)の続きとして、フランス中世(11~15世紀)の文学を、いくつかの具体的な作品を紹介しながら、その特徴をみていきます。また、どのような人々が、いつ、どこで、どのようにして、作品に接し、享受していたかなど、社会のなかの文学という視点からもみていきます。	
	合理的意思決定の問題	合理的意思決定の理論について学ぶ。特に、「囚人のジレンマ」と「ニューカムの問題」に焦点を当て、優越性の原理と期待値効用最大化の原理の対立、さらに、ベイズ主義理論と因果理論の対立を見ることを通じて、合理的判断の本性を考察する。この科目は、旧専攻「人間の探求」に該当します。	
	中世、山口を彩った大内文化	戦国時代、西国一の守護大名大内氏が三代にかけて山口に華やかにあふれさせた文化の香りは、司馬遼太郎の「街道をゆく 長州路」で触れられている国宝瑠璃光寺五重塔、雪舟による庭園、絵画、そして大内館跡にみられる。講義は、約200年にわたる大内氏の歴史や文化についての総括的な講義(國守)で始まり、大内義隆を弔うために建立された龍福寺を中心とした構造物の解体修理現場見学を含めた講義(高橋)、考古学的見地からの関係遺跡や常栄寺の雪舟庭園などの講義(古賀)、大内時代の仏像のファイバースコープ調査映像、国宝「山水長巻」をはじめとする雪舟の絵画作品の解説の講義(岩井)を行う。この科目は、旧専攻「人間の探求」に該当します。	複数教員共同担当
	中国鬼神文化論	古代から中世に至る中国の鬼神や妖怪が登場する小説を読みながら、中国文化を考えていきます。たとえば妖怪に恐怖するのではなく、恐怖する心が妖怪を生むという視点に立って、こういった小説が持つ文化的背景を考えていきます。	
	環境と資源の文化人類学	現在世界的な規模で、かつ人類史的な意味合いにおいて問題となっている環境、および資源に関して、文化人類学的な理解を試みる。題材は世界大の広がりの中で採るが、とくに東南アジア、オセアニア、アフリカの例が中心となろう。できるだけ身近な問題にも惹きつけて解説してゆくつもりである。	
	四国遍路の歴史	四国遍路の歴史の概要を、近世を中心にして講義する。その多くは通説を批判しつつ、新しくここ数年の間に開拓・整理した内容である。四国遍路は民間信仰であり、その歴史も多くの伝承を元に構成されている傾向がある。この講義では可能な限り根拠とする史料(資料)を提示することに努める。	
	文化経済学	現代の情報化社会において、人々は物や情報の氾濫の中で暮らしています。経済的レベルが向上するにつれて、生活の質の向上、心の豊かさが強く求められています。この講義では、現代社会における心と質の経済学を、人々の生活、地域の活動、企業と文化、および教育・福祉・行政面など広範にわたり考察し、さらに、芸術・文化の創造、発展のための社会政策、資源配分の問題に言及します。	
	造形する書	書の美、書の古典の探究を、より具体的に学ぶため、書を平面から立体、三次元で学ぶ授業です。書を、触覚を伴う立体造形として自立させる。これはリズム、バランス、時間性、空間性を解明し、書の造形として、だれもが面白くみることができ、読むことができ、触れて、鑑賞することができる書の美が目的です。	
	近代ヨーロッパの歴史と文化	ヨーロッパ近代の成立について、中世の終わりからルネサンス時代を経て19世紀あたりまで講義します。新しい科目「ヨーロッパの歴史と文化」の私の担当の部分をより詳しく話す予定です。	
羽ペンで動植物を描く	この「羽ペンで動植物を描く」の授業は、各自が選んだ動物の剥製や植物を羽ペンとインクで自由に素描いたします。各人の個性と感性、心を大切にされた素描を描いていただきます。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	豊臣政権期の諸問題	本講義では、日本の列島社会が中世から近世へ大きく変容する豊臣政権期の諸問題を取りあげます。列島社会全体の動向を踏まえつつ、具体的には九州地域を中心とした問題を取り上げ、大陸侵攻（朝鮮出兵）あたりまでを対象とします。また、その時代に作成された豊臣秀吉や他の武将たちの手紙や文書（いわゆる古文書）などを多用して講義をすすめることを考えています。	
	科学史科学論	「科学とは何だろうか」。この問をめぐって講義をします。まず常識的な科学観を整理し、どのようなことが問題となりうるかを取り出します。そして論理実証主義、反証主義、リサーチ・プログラム論、パラダイム論など、現代科学論のエッセンスについて概説します。余りにも抽象的にならないように注意し、科学史の事例にも触れながら、具体的に議論を展開していくつもりです。	
	日本農耕文化の起源と展開	日本の農耕文化は弥生時代に始まる。弥生時代の成立は、朝鮮半島南部の渡来人がもたらした灌漑農耕文化と在来の縄文人文化との融合によって生まれている。このような狩猟採集社会の縄文から農耕社会の弥生への変革の時代を、東アジア的な視点により、東北アジア全体の農耕化の結果として生まれたことを講義する。	
	近代日本創成と佐賀人	明治維新という大きな変革において、佐賀は、薩長土肥の語で示されるように主要な役割を果たしました。なぜ、佐賀が明治維新で活躍できたのか、近代日本創成にどのような貢献をしたのか等を、4名の講師が、1) 西洋文明・科学技術の導入と佐賀、2) 近代日本の創成と佐賀の教育、3) 明治維新の動向と佐賀人、4) 近代日本の創成と佐賀の産業人などのテーマで、明らかにします。	複数教員共同担当
	博物館のウラをみる	生涯学習の重要な拠点である博物館や美術館を有効に活用するための授業です。収蔵庫など場所の裏側、展示会の企画や展示作業など仕事の裏側、博物館のいろいろなウラをみていただきます。佐賀県立博物館と佐賀県立美術館を講義室にして、仏像や刀剣、絵画や陶磁器などの実物資料の取り扱いも行います。	
	向井去来 西の俳諧奉行	長崎を故郷とする去来（1651～1704）の生涯と俳諧史にのこした功績をたどります。去来は京都へ出たことで35歳のころ芭蕉と出逢います。浪人という身のおきどころの不安定な時代に、芭蕉のめざす俳諧の世界にみちびかれ、俳諧の古今集と評される『猿蓑』を凡兆と編集し、やがて「西の俳諧奉行」といわれる蕉門への重鎮へとそだていきます。晩年には、芭蕉が「おくの細道」の旅のなかでえた「不易・流行」論などを『去来抄』のなかに伝えていきます。	
	中国文化論	中国文化の特色の一つは、その歴史的な流れにおいて、伝統の断絶が殆どなかったことにある。いまひとつは、東アジア漢字文化圏の人々が、それを共有して、近代に至ったと言うところにある。授業では、文学・歴史・思想など中国文化の様式や特性の形成を風土・言語など環境位相を通して、その現象と本質を考察し、「中国的」文化の要素を究明する。	
	初歩からのPC活用（09）	今や、コンピュータは単なる計算機というだけでなく、知的作業を行うための便利な道具となっている。そこで、パソコンの基本的な使い方に慣れ、さらには、積極的にパソコンを活用できるようになることを目的とする。あわせて、放送大学におけるICT活用状況を紹介します。放送大学において、より効率的な学習を行えるようになることを目指す。	
	ヨーロッパ都市と建築	パリのノートルダム教会やベルサイユ宮殿、ローマのコロッセウムなどに代表されるヨーロッパ建築は、明治以降の日本の近代化の過程において、日本人の憧れの的であり、日本はこれらを手本としてきました。この授業では、スライドを見ながら、古代から現代までのヨーロッパ建築と都市について勉強します。途中で、熊大の中にある赤レンガ造の五高記念館や、工学部資料館も見学します。	
	熊本城と武家屋敷	近世初期に築城された熊本城の縄張りや天守・櫓・御殿について講義します。特に築城400年で復元された本丸御殿の特徴について、三の丸の細川刑部屋敷と比較しながら説明します。	
	映画館における地域への文化発信	現在、人が映画を見る手段は多様化しています。本講義では、その原点である「映画館」について取り上げます。まず、その歴史をたどり、現在の映画館の置かれた状況を概説します。そして、「映画館」が地域において担っている「文化の発信」という役割について考察します。さらに、将来、映画文化を守り続けるための課題と展望を、皆さんと共に考えてみたいと思います。	
	前野良沢から福沢諭吉まで	中津藩は前野良沢から福沢諭吉に至るまで多くの蘭学者を輩出した。良沢は1770年に長崎に留学、「ターヘル・アナトミア」を入手し、1771年杉田玄白らと骨が原にて解剖を行ったのを機に、辞書もない時代に翻訳を始めた。事業は困窮を極めたが1774年終に「解体新書」の出版にこぎつけた。その後中津藩は中津辞書2冊を出版することで奥平昌高の主導で蘭学に励み、その仕上げを福沢諭吉が行った。蘭学者たちのバイオニア精神について講義する。	
こころの表現～短歌と人生～	私達の「こころ」は常に表現を求めています。「こころ」にとって特に言葉による表現は大切です。話し言葉と書き言葉の両方があるのですが、今回は書き言葉の中でも短歌による自己表現を中心に考察したいと思います。短歌は日本人が1300年にわたって自己表現してきた詩型だからです。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（人間と文化）	小村寿太郎を育んだ飴肥	日露戦争の戦時外交と不平等条約の改正に活躍した小村寿太郎。その業績は小村外交と称されるほど高く評価されている。なぜ、南国の小藩飴肥に小村寿太郎のような人物が誕生したのか、中央に旅立つまでの寿太郎を中心に、寿太郎に影響をあたえた周辺の人物や環境を通して考察する。	複数教員共同担当
	アート・リテラシー	私たちの身の回りの事象は様々なイメージを伴って知覚されます。私たちは、様々なイメージとともに世界を認識し、逆にそのイメージによってそれ以上のものが見えなくなります。本授業では、アート・リテラシーを「自らの五感を駆使し」、「既存の見方を変える」力と捉え、安定した日常生活に満足する消費者から世界との関係を再考する創造者・実践者への視点を提案したいと思います。	
	平安貴族の生活	『源氏物語』などを通して、日本の平安時代の貴族の生活について、二つの側面から考えてみます。一つは、現在と一千年も離れた時代であるという観点から、「相違点」を軸にしてみたいと思います。これは、現代の日本社会を相対化する（あらためて見つめなおす）ことにつながります。もう一つは、一千年も離れた時代との「共通点」を探ってみます。これによって、歴史や文化の重みを再確認するでしょう。	
	島津斉彬と日本の近代化	この講義では、日本の近代化について、薩摩藩がすすめた集成館事業を中心に概観します。その際、世界の動きや国内の動静と薩摩藩の歴史を比較検討しながら理解するようにつとめ、集成館事業を推進した島津斉彬の思想にもふれながら、説明します。講義の特徴として、単なる史実の確認だけにとどめず、関連する史跡や歴史資料を実際に見ながら（巡見）学習する予定です。	
	パソコンとインターネット	インターネットの仕組みや一般家庭でのネットワークの安全な利用法を解説しながら、各種ソフトの使い方を実習していきます。実習では（１）情報やデータの検索と活用法、（２）ホームページの作り方の２点を中心に、複数のソフトを連携して使います。	
	琉球王国の造形文化	琉球王国の造形文化を考えるにあたっては、その置かれている地理的条件と時代背景とを念頭に置かなければならない。小さな王国が樹立する過程では、近隣諸国との交易を通しての文化・政治・経済的な面等への影響があったと考えられる。取り入れられた技術や素材、地域独特の形や色、空間的特長から、独自の造形文化が生まれてくる。琉球王国の独自の造形文化を、形や色からひも解いていく。	
	自分で出来る体の癒し・心の癒し	自分で出来る、心の癒し、体の癒し、今、不安の時代ですね。自殺者が3万人を超えます。不安の一番の源は病です。でも大丈夫です。フランクリンという人は「病気は神が治し、医者が治療費を取る」といっています。人間の体の中には、自分で病気から体を守り、治そうという力が仕込まれています。気功、森田療法、内観療法、カウンセリングなどをもとに、自ら出きる体の癒し、心の癒しを学びあいたいと思います。	
	程順則と蔡温の人間模様	現代世相は、親殺し、子殺し、無差別殺傷など善悪の判断の欠如、家庭と社会の教育力の欠如等殺伐とした症状を呈している。程順則の「六諭の教え(六諭えん義)」を全国津々浦々に浸透させることを痛感。治山治水では、蔡温の風水を活用した土木工事や自然に逆らわない河川改修など今日の公共工事の参考になる。本講義では、程順則と蔡温を比較しながら、両偉人の出生・思想・人生観・業績等について、自然科学者の視点から論じてみたい。	
	心と社会の科学	記号学や構造主義の考え方に基づいて沖縄の社会と文化を見つめ直す。構造主義の考え方は全ての人文社会科学の基礎となるだけでなく、日々を生きる上で直面する様々な問題の核心にたどり着くための重要な道具である。この授業を通じて、学ぶ喜びを感じてもらいたい。	
専門科目（自然と環境）	分子生物学 （ 09 ）	分子生物学のおもな目的は、さまざまな生物たちが共通に示す現象を、核酸とタンパク質という分子の挙動を通じて理解することである。本講義では、分子生物学のエキスパートがそれぞれの分野の基礎をわかりやすく説明する。	複数教員共同担当
	生物界の変遷 （ 06 ）	そもそも生命はどのようにして誕生したのであろうか。そして、いかにして進化し変遷していったのであろうか。また、生物体の姿はゲノムの中の遺伝情報が、発生過程を経て表現型として現れたものであるが、その仕組みは進化とどのように関係しているであろうか。さらに、分子レベルの進化はどのようなものであろうか。本講義では、多様な生物界の変遷を、総合的にみることにする。	複数教員共同担当
	植物の科学 （ 09 ）	生物界の基礎生産を行ない、酸素の供給源ともなっている植物に関して、その多様性、生理、発生、生化学、生殖、成長、他の生物との相互作用について説明する。さらに、合わせて医薬、食料や環境修復、園芸など暮らしとの関わりに関する応用植物科学の側面も講義する。『動物の科学』とペアになる講義である。	複数教員共同担当
	動物の科学 （ 09 ）	動物とは、他の生物が作った有機物を摂食して生きている多細胞生物の総称である。生物界を構成している6界の生物の中で、もっとも後に進化したものたちで、極めて多様な生活様式が見られる。本講義では、私たち人間を含めての動物たちの基本的な生活様式を見るときともに、生殖、発生、運動、行動、内分泌、生体防御、感覚などのメカニズムを紹介する。そして、動物の姿を科学することは、人間自身の理解の上で極めて有用であることを知っていただく。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	細胞生物学 (07)	生命の基本単位である細胞は、それ自体ひとつのマイクロコスモスである。おどろくべき巧妙な仕組みで、生命維持に必要なすべての装置を備えている。細胞の内部のさまざまな装置と、それらがいかに連絡しながら細胞の働きを支え、細胞社会を形成し、一個の個体を作っているか。また、細胞は分裂し、移動し、分化し、さらにがん化したり、細胞死さえプログラムされている。そのようなダイナミックで美しい細胞の世界をかたちや分子のレベルで覗いてみよう。	複数教員共同担当
	現代物理 (08)	力学、電磁気学、熱統計力学などの古典物理学を、現代物理の理解につながるように復習する。そして、現代物理の柱の一つである相対性理論に進み、時・空、エネルギー・運動量と電磁場の変換性を理解する。つづいて、もうひとつの柱である量子力学が、古典物理と矛盾する現象をどう克服して導かれたかを見ながら、量子の論理に焦点を当てて基礎的理解を深める。この理解のもとに、多様な物質の構造や振る舞いを解きほぐし、新しい物質の開発やナノメートルの世界を切り拓く論理を獲得するとともに、マクロな世界の相転移現象を支配した対称性の自発的破れが、素粒子の世界をも支配する論理であることを示して、現代の自然観の基礎を提示する。最後に、大きな世界へ目を転じて、宇宙を支配する重力と一般相対性理論について学ぶ。これらの世界にはまだまだ未解決の問題がたくさんある。それらの解決を目指して、研究が日々続けられているが、この講義を取る皆さんの中から、新しい道を見いだす人が出ること期待したい。	複数教員共同担当
	力と運動の物理 (09)	力学は最も古い自然科学の体系であるが、今でも生きている。暦や日食など天体の運動は力学できわめて精度よく予測され、日常的に利用されるし、ロケットや人工衛星の軌道計算も力学のおかげで可能となる。古典物理の柱をなすこの力学を中心に、力とは何か、という問いかけから始め、ベクトルとしての力の性質を体得した後に、力が運動の何を定めるかを、実験を通して発見させながら、運動の基本法則を導く。落下、放物運動、バネなどの基本的運動を解きながら、エネルギーと運動量の概念と保存則を示し、ケプラーの観測結果により万有引力の法則を導き、角運動量とその保存則を理解する。質点系や広がった系（剛体）、束縛運動についても基本的な例を中心に運動方程式を解いて見せ、振動波動の基本を示して場の概念を導入し、解析力学（ラグランジュ、ハミルトンの定式化）への一般化を行う。現代物理学、特に量子力学への橋渡しをする。	複数教員共同担当
	光と電磁場 (05)	現代文明は、光、電波、電流、磁気などによって支えられている。光は実は電気と磁気の波、すなわち電磁波の一種である。本講義では、光や電磁気現象を電場と磁場という2種類の場と、その基本法則によって理解することを目指す。身近な例から出発して電磁場のイメージを作り、さまざまな現象や応用例を体系的に説明する。	複数教員共同担当
	熱と温度 (08)	私たちの暮らしの中で、熱を仕事に変える機械としてのエンジンを利用し、温度をコントロールするためにエアコンや冷蔵庫を利用している。また、環境問題や地球温暖化の問題で、熱と温度はキーワードである。この講義は、このような熱と温度の本性をミクロとマクロの立場から理解することを目的としている。	複数教員共同担当
	量子物理 (09)	古典的な世界で成り立った物理法則が、ミクロの世界で、成り立たないことを見て行きながら、なぜを解く鍵を探る。鍵は、エネルギーが飛び飛びになることにあった。さらに、波と考えられた光に粒子性が現れ、粒子とみなされた電子に波動性が発見された。これらのなぜを解く鍵は、ミクロの世界の論理である量子力学によって解かれることを見てゆく。そして、実験と量子力学を用いて、さらにミクロの世界を探ると、基本粒子としてのクォークとレプトンおよび力の媒介粒子からこの世界が成り立つという、自然観に行き着く。この自然観は、宇宙の初期の世界とも密接に結びつくことを示そう。さらに、量子力学は、半導体などの日常生活に欠かせない量子素子の開発にこれからも活躍するに違いない。	複数教員共同担当
	物質の科学・有機化学 (06)	私達の身の回りには多くの有機化合物があり、我々生き物の構成成分も水以外はほとんどが有機化合物である。私達は太陽のエネルギーがなければ生きていくことはできないが、そのエネルギーは二酸化炭素の還元に使われ、有機化合物が蓄積される。本講義では、これら有機化合物の基礎的性質を理解するとともに、どのような物質がどんな働きをしているか理解することを目的とする。	
	分子の科学 (10)	物質のほとんどは分子からできているといっても過言でない。物質の科学は分子を科学するといっても良いであろう。分子を科学するにはその大きさを性質を理解する必要がある。小さい分子から高分子、巨大分子さらに超分子までの性質と挙動について化学結合と分子中の電子状態から理解する。	複数教員共同担当
	量子化学 (09)	自然現象は物質の示す性質と変化の現われである。したがって、物質のミクロの単位である分子の性質と運動を理解することは自然現象の基本法則を理解することにも通じる。さまざまな原子からどのように作られるのか。その結果、どのような性質を発現することになるのかについて、量子論に基づいて解説する。また、そのような分子の運動や性質をどのようにして観測するのかについて解説する。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	分析によって知る世界 （ 07 ）	分析科学は、新しい分析・解析法を創造する学問分野である。その成果は、他の実験科学のブレイクスルーに不可欠の強力なツールを提供すると共に、豊かで円滑な人間社会を維持する要素として随所に活用されている。本講義では、分析科学で培われた知識と技術が、実社会でどのように活かされているかを紹介する。	
	地球環境の科学 （ 10 ）	地球環境問題を考える基礎知識を与える。また、地震、火山噴火、異常気象などの自然災害を理解するための地球科学的知見を扱う。	複数教員共同担当
	太陽系の科学 （ 10 ）	近年、太陽系の理解は急速に進んでいる。探査機等の新たな観測手段により、惑星や衛星の詳しい様子が知られただけでなく、冥王星の仲間の太陽系外縁天体が多数発見され、惑星の外側に広がる太陽系の外縁が分かってきた。さらに、太陽系以外でも、多数の惑星が発見されている。 それらの情報をもとに、46億年にわたる太陽系の歴史もより具体的に追っていきけるようになった。さらに、惑星を地球との比較でとらえる「比較惑星学」も発展してきた。これを扱う本科目を履修することにより、われわれの地球を広い視点で観ることができよう。	
	進化する宇宙 （ 05 ）	宇宙とその進化について、最新の知見に重点をおきながら論じる専門科目。 この科目では宇宙の進化過程に現われるいろいろな天文現象についてその本性を解明すること、そこで起こっている物理過程を考慮しながら進化のドラマを構成することに重点をおく。そのため、全体の構成を星、銀河、宇宙の3つの階層に分け、それぞれの最先端における研究者が分担して講義する。	複数教員共同担当
	宇宙からの情報 （ 05 ）	宇宙に関する科学は実証科学であるから、現実世界としての宇宙を対象とする。そのためには、宇宙と天体から微弱なシグナルとしてもたらされる情報を、観測をとおして読み取らなければならない。それには広く物理系分野にわたる高度な技術と科学が用いられる。情報を担ってくる電磁波や粒子は、最近ではあらゆる波長帯や特性にわたって観測され、それぞれに固有な側面に対応して、広くかつ深く情報が取得される。この講義ではそれらに関する最新の手段と方法、それによって得られた知見について、それぞれの最先端における研究者に論じてもらう。	複数教員共同担当
	代数の考え方 （ 10 ）	置換からはじめ、文様などの対称性が群によって統一的な見方ができること。方程式の可解性が群の言葉で説明できること。また物理学や化学に群論が役立つことを易しく解説する。	
	空間とベクトル （ 09 ）	幾何であつかう長さや角度はベクトルの内積を用いて記述することができる。内積を変えない変換として合同変換が捉えられる。このように、ベクトルの内積は幾何学において重要な役割を演じている。この講義では、内積を基本的なキーワードとして、合同変換の分類、曲線論、曲面論を展開する。さらに、ベクトル場の微分積分、いわゆる「ベクトル解析」でも、やはり内積が不可欠であることを見る。最後に、通常の内積と異なる「擬内積」を伴ったミンコフスキー空間を考えることにより、非ユークリッド幾何と相対性理論の入口まで誘う。	複数教員共同担当
	数学基礎論 （ 08 ）	論理学の基礎を数学的立場から解説する。授業では予備知識は特に要求しない。数学を初めて学ぶ人たちのための予備知識の解説から始める。数学には独特の言葉使いがある。これを一から学んでいく。例えるなら、外国語である英語を a、b、c から学ぶ姿勢である。その後は意味をなす英文を作るための英文法を学ぶように、数学的文章（論理式という）を作るための規則を学んでいき、「正しい文章」とは何かを学ぶ。また数学的推論あるいは証明がどのように行われるかを掘り下げて考える。その後自然数とはどういうものか、について体系的に学び、最終的にゲーテルの不完全性定理を理解する。またこの分野は情報科学の基礎理論との関わりも深い。従って情報科学への応用として論理回路（デジタル回路）やリレーショナルデータベースについて学ぶ。	
	自然と社会を貫く数学 （ 07 ）	数学がどのように発展し、現在のような形を作ってきたのかを概観した上で、自然と社会を貫く数学について具体的な事例に沿って紹介する。題材としては簡単な数学史、微分方程式、暗号と符号の理論を扱う。対談形式なども導入して数学の新しい形の授業を組み立てていくが、予備知識として、共通科目から、数学の歴史、微分積分学、線型代数などを履修していることが望ましい。	
数学とコンピュータ （ 06 ）	PC（パーソナル・コンピュータ）の能力は、つい一昔前の大型計算機の能力を超えるほど発展し、他方、価格の低下は限度を知らぬ勢いで進行し、それによって人々の間に爆発的に普及してきている。しかしこのようなPCの電子文房具化や情報家電化の進行とは逆に、“電子計算機の高速計算能力”が、十分に利用されなくなるといふ逆説も生まれている。 本講義は、身近になったPCの高速計算性能を活用することで広がる数学の世界を入門的かつ包括的に講義するものである。	複数教員共同担当	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (自然と環境)	統計学(09)	現在社会においては、情報通信技術や測定技術の進展によって、大量のデータが収集され、蓄積されています。この蓄積されたデータの中にはさまざまなパラツキが含まれており、パラツキを持ったデータの中から本質的な特徴を把握する能力が、現在を生きる私たちには必要とされています。本講義では、確率的なモデルの基本的な特徴を解説し、それを利用した基本的な統計手法を紹介します。また、複雑な現象を把握するために必要となる、回帰分析を中心とした統計手法についても説明していきます。	
	卒業研究 (自然と環境)	1. 卒業研究は、各専攻に所属している全科履修生が、教員から直接指導を受け履修する選択科目です。 2. 履修を希望する場合は、学習センターの窓口にて配布(毎年6月中旬)の「卒業研究履修の手引」を入手し、卒業研究申請書を提出してください。 3. 提出された卒業研究申請書をもとに教員が審査を行った結果、履修可の通知を受けた方は、所属する専攻の卒業研究の科目登録申請を行ってください。 審査の結果、履修が認められない場合は、履修申請条件を満たしていても科目登録申請・履修はできません。 4. 他専攻の卒業研究は履修できません。 5. 既に修得した専攻の卒業研究は履修できません。 6. 履修期間は、4月から1年間です。従って、履修途中(第1学期末)で卒業要件を満たしても第1学期末での卒業はできません。	複数教員共同担当
	科学と技術	「科学技術」と一語で表現されることの多い「科学」と「技術」について、工業のみならず農業、医療、スポーツ、文芸など各種の技術とそれに関する科学(学問)を比較し、それぞれの特徴と役割を理解し相違を明らかにする。技術は生存のための利便性と快適性の追求を目的とし、科学は世界理解のための知識向上を目的とするが、歴史的に両者は相互に依存しあいながら発展してきたことがわかる。	
	基礎物理学実験	日常、何となく感じている諸現象を、物理の目を通して理解しよう。エネルギーは質量とも光(波動)とも関係している。光(束)が太陽電池にあたれば、発電し電子の流れを生じる。変換効率が上がればエネルギー革命も夢ではない。力もエネルギーの一つであり、簡単な実験から、熱、エネルギー、力に関するこれらの関係について学ぼう。	
	身のまわりの環境化学実験	地球温暖化が大きな問題となっている。この実験では、身のまわりの環境に関する四つのテーマについて化学実験を行い、様々な物質や器具、機器などに手を触れて実験の面白さを体験する。水の電気分解および水素と酸素から電気をつくる燃料電池の実験、光触媒実験、バイオディーゼル燃料の合成実験、液晶物質の観察と液晶温度計の製作実験などを行います。	複数教員共同担当
	問題発見と解決の技法[1] 発見	私たちが仕事上や日常生活を送る上で出会う様々な問題に対し、適切に判断し、結果をだすために、系統だった考え方を学ぶ。問題とは何か、どのように見つけるのか、目標の設定から解決に向かうのに有用な考え方や、問題発見のための図解法などを学ぶ。	
	生きている地球：自然災害	21世紀は自然災害の世紀ともいわれている。大きな災害をもたらす火山活動や地震・津波は、地球が活動的であることを示している。地球内部の熱が地球外(宇宙)に発散していく過程で、そのエネルギーがプレート運動を引き起こし、火山噴火・地震・津波・地滑りなどをもたらしている。この授業では、これらの自然災害の原因を理解し、その被害をできるだけ少なくする(減災)という視点から、地球の構造や運動および火山活動や地震のメカニズムなどの基礎を学ぶ。	
	作物と人	現代においても、なお、人間の生活の根源を支える農業を、変動する地球環境の中で考えるには、これまでの「作物と人」の関係を理解することが必要となる。人は何故農耕を始めたのか? 農業は環境に優しいのか? 作物とは何か? 人は作物を創造したか? 何故、多様性は大切か? 北海道開拓史の稲作も取り上げ、経済発展の中で語られてこなかった視点を通して人の「豊かさ」を考える。	
	人類遺伝学と私達の暮らし	ヒトゲノムプロジェクトが完成し、遺伝子の数や染色体上の位置が明らかになりました。しかし、遺伝子の働きと病気と関係を完全に理解することは、まだまだ先の問題です。本科目では、まず、ヒトの遺伝(人類遺伝)について初歩的なところから学び、遺伝現象や遺伝病について理解を深めます。また、生命倫理的な問題にも触れ、私達が現代社会をどう生きるべきかを考察します。	
	フィールドで見る白神の人と自然	実際に白神山地を歩き、地形や植生の成り立ちを考えます。さらに、高度経済成長期以前まで続いた、自然資源利用の持続的利用の伝統が、この自然の中でどう展開していたかを学び、この山地の将来の利用について考えます。合宿形式で、集合した夜と第1日目の夜に座学により講義を行ないます。	
	光で探る物質の機能	光は我々の日常身近なものですが、「光とは何か?」と聞かれると答えにくいものです。科学的にも古くから研究され、「光は波か粒子か」というのも古くからのテーマです。この授業では光の物理的性質ばかりでなく、物質との関わりを通じて化学的な側面も見えていきます。光を用いて物質の性質を調べたり、物質の機能を引き出すいろいろな応用例を紹介します。授業ではCDを利用した簡易分光器を作り、スペクトルの観察も行います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	人間の発生生物学	私達を造る元になった始原生殖細胞はどこで形成され、成熟し、どのようなメカニズムにより受精されるのか、1個の受精卵からどのようにして発生が進み、特有の組織器官が形成されるのか、何故人間は年老いて死に至るのか、組織器官は再生可能なのか、等について学び、いかに微細なところまで生命が精巧に造られているのか、生命の神秘・不思議さについて共に考えてみましょう。	
	飲み水の化学	ごくありふれたものと考えられている水は、言うまでもなく私たちの生活にとって不可欠な物質です。この講義では、化合物としての水がもつ特徴や、種々の物質を溶解する溶媒としての水の性質を理解するとともに、良質な飲料水を確保する目的で設定されている水質基準や、河川水、海水、湖水など環境水の水質を保全するために設定されている環境基準の達成状況を評価する上で化学が果たしている役割について学習します。	
	数値で学ぶ物質とエネルギー	人のプロフィールに年齢や身長が含まれるように、自然の理解においても、対象の質量や大きさなどを数値で理解することは大切です。本講義では、原子分子、地球環境さらに宇宙における物質とエネルギーに関する重要な項目を取り上げ、計算による数量的な議論を行います。電卓のできる簡単な計算問題を解きながら、自然と環境への理解を深めることを目標とします。	
	宇宙の中の惑星と地球	進展著しい天文学の中でも、宇宙論と並んでめざましく進んでいるのが、太陽系及び太陽系外の惑星の観測・研究である。本講義では、日本のすばる望遠鏡の活躍などで進む太陽系外惑星系の研究成果を講じ、ついで無人探査や観測的・理論的研究から導かれるわが太陽系の構造と生成・歴史に関する新たな知見を述べる。最後に、人間が住むこの地球の宇宙における位置づけと、地球上の生物、そして人間という存在についても考えよう。	
	環境地理学	地域によって風土とくらしはいかに異なっているか、身近の自然環境とわれわれはいかにつきあうべきか、環境地理学の目的と手法を学ぶ。1. 世界の風土とくらしについて、1a. 半乾燥・寒冷地のくらし（モンゴル・チベット）、1b. 乾燥地のくらし（ペルーの海岸）、1c. 雨季と乾季のあるくらし（カンボジア）。2. 山形地形と防災地図（活断層、火山、地すべり、軟弱地盤、洪水）。3. 地形図読図。	
	光と分子	光とは、我々の身の回りにおいては、あまりにも当たり前存在である。しかし、少し考えてみると、不思議なことが多く、子供に質問されても大人として明解に説明できないことが多々ある。例えば「光はなぜ屈折するの?」とか「海はどうして青いの?」とか。本講義では、そのような身近な存在である「光（電磁波）」から分子科学や分子工学の研究の最先端で使われている特殊なレーザーまで、可能な限り簡単な表現で説明する。	
	気候変動	地球温暖化、地球の気候はどのようにして決められるのであろうか。地球気候システムの構成とそのシステム間のエネルギー交換の実態から地球温暖化、気候変化を考える新たな地球科学を紹介する。また、気候変動で問題になる極端現象（異常気象）の実態や発生原因について気候変動と関連して紹介する。	
	哺乳類の生態学	日本の野生生物を取り巻く森林や草原、河川海洋などの生息・生育環境は、変化や汚染などにより急速にその豊かさを失いつつあります。また、乱獲などが加わり絶滅の危機に瀕している野生生物が増加しています。福島県に生息するふつつ見慣れないネズミ類・モグラ類・コウモリ類などを紹介しながら、日本に生息する哺乳類相や絶滅の危機にある哺乳類などについて講義するとともに、最近施行された外来生物法について紹介します。	
	身の周りの食品と生物、微生物	私たちが日々食し、生きる力の源としている食品のほぼ全ては、生物に由来するものである。また、その製造工程や生産の過程では直接、間接に微生物が関わっているものが多い。そこで、食品を軸に、ヒトがどのように生物や微生物を活用しているのかを実例を挙げつつ解説する。さらに代表的な甘味料に関しては、実際に試食体験を行ってもらう。（希望者全員が試食できるよう準備いたします。）	
	自然と環境	水と環境は広範な分野を含んでいる。この科目は其中で、水環境を中心に据えて講義を進める。これまで、水は空気とともにただであると考えられてきた。しかし、両者ともに21世紀に入ってその重要性が認識されるようになってきた。人類が使用可能な淡水は海水を含めた水全体のわずか0.6%のみであると言われている。この水を巡る問題について、量の確保と質の確保という二つの視点から議論を進めていく。	
分子のエネルギー	分子のもつ性質を知ると私たちの身の回りの現象をより深く理解できるようになります。分子と光の相互作用のしくみ、分子間に働く力、熱やエントロピーについて学習し、電子レンジで食品が温まる理由、蛍光灯が光る理由、どのような分子が温室効果ガスになるのか、太陽光発電の原理、台風の発生メカニズム、エコキュートの原理など、様々な現象を分子のレベルで考えてみましょう。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (自然と環境)	ネットワーク社会とメディア概論	メディアやネットワークについての基本的知識とその応用を学習する。メディアの発達やそれらの歴史的意義を概説し、インターネットなどネットワークの基本原則、機能、作用について学習する。さらにネットビジネスなどの応用について事例についても扱い、情報通信と各種メディアの利用方法についての知識を深める。また、パソコンを利用した音声処理、画像処理、映像処理、Webデザインなどを学び、それらの応用や可能性について知識を深める。	
	花と緑の科学	現代生活において、花と緑は私たちの生活の質(QOL)の向上に欠かせないものとなっています。本講義では「花きの原産地と生態」、「花の開花と老化の生理」、「国内外における花き産業」、「人と花との関わり」の歴史と文化、「東洋と西洋の庭園様式と植物」、「花と園芸の福祉・療法的利用」など、花にまつわる生理・生態から花と緑の文化・歴史的側面、さらには福祉的な役割まで幅広く解説します。	
	種(しゅ)から遺伝子までの旅	「種(しゅ)から遺伝子までの旅」では、身近な農作物(イネ、ムギ、ハクサイ、ダイコンなど)を例に挙げ、種分化の遺伝学的機構および生殖様式と遺伝子行動からメンデル遺伝学を中心とした古典遺伝学の基礎理論を学習するとともに、遺伝物質と遺伝子発現の分子の基礎理論の学習をとおし、自然と生命を理解するための基礎を身につける。	
	脳の構造と機能	最初に神経細胞における活動電位の発生(興奮)について説明します。次いでその集合体である末梢神経系(体性神経系と自律神経系)と中枢神経系(脳および脊髄)について、それぞれの機能を説明します。最後に健康で生き生きとした人生を送るためにはどうすればよいのかを、脳科学の立場からお話します。	
	宇宙からの放射線	ふつう光や電波で宇宙を観測することはよく知られている。しかし、宇宙からやってくるのは光や電波だけではない。エネルギーの高いガンマ線のほかに電荷を持った陽子やヘリウムなどの原子核も高いエネルギーでやってくる。ニュートリノもやってくる。これらの粒子はどこでどうしてエネルギーを得たのかまだ分からない。宇宙飛行士を被曝させるこれらの粒子の性質についてこれまでなにが分かったのか、について論ずる。	
	振動と波動の物理	電子機器の水晶共振器や、光、電波、地震など、振動と波動に関係する現象は身の回りに多数見られる。授業では、力学系の振動として単振子と連成振子の振動を扱う。また電気系の振動として電気回路における電荷の振動を取り上げ、オシロスコープによる測定を行う。これらの測定を通して、振動の周期と振動数、共鳴、振動子間のエネルギー交換など、振動と波動の基本的な性質を、理論と実験の両面から学習する。受講者は微分・積分の初歩的知識をもっていることが望ましい。	
	発酵化学	微生物は有機物を分解し生命を維持するためのエネルギーを得るとともにさまざまな物質を作り出す。このような現象のうち、特に人類にとって有用な場合を「発酵」という。酵母によるアルコール発酵、乳酸菌による乳酸発酵などはその例である。われわれは古来より、この発酵を利用してさまざまな物を造りだしてきた。本講義では、発酵の本体である微生物、酵素、さらには遺伝子から代謝までの生化学を基礎領域として解説し、さらに伝統的な発酵食品や近代の発酵工業を応用領域として解説する。	
	マクロとミクロの物理学2	「ミクロとマクロの物理学1」ではマクロな物理現象の直感的な理解とその物理法則の適用限界について学習した。この授業では、逆に、原子・分子やクォークなどのミクロな世界の物理法則から出発し、マクロなスケールの物理現象を再考察してみる。数式を極力使わずに講義を進めていくので、特別な(数学的、物理的)予備知識は必要としない。	
	植物環境から地球環境を考える	地球温暖化と大気中のCO2ガス濃度の上昇がなぜ関連するのかなどについてより正確に理解するために、赤外(長波)放射、各種ガスの赤外放射吸収特性、植物群落光合成と炭素循環などに関する基礎知識を積み上げて、そこから、地球環境の成立を考えます。	
	計画数学入門	生産・経営・管理などにおいて数学の応用はいちじるしく、オペレーション・リサーチや経営科学の最適化手法の数学的基礎を研究する応用数学の一分野として計画数学がある。ここでは特に(1)ある期間を通して与えられた目標に向かって最適化する問題を効率よく解く一つの数学的方法である動的計画法と(2)競争の状態にある2個以上の行動主体の行動決定に関する数学的理論であるゲームの理論を取り上げ、例題と演習を豊富に用いながら入門としてやさしく解説する。	
昆虫の世界をのぞく	人類以外の生物の生き方を知ることは、地球という強制系を理解する上で重要である。本授業では、地球上の動物群の中で最も繁栄しているグループの一つである昆虫類の持つ特徴(形態や行動など)を理解し、過去と現在の繁栄を支える秘密を知る。	複数教員共同担当	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	解析学，その考え方	微積分の基礎事項を復習しながら解説する。基本的な事柄は微分によって増減を調べる、グラフの様子を把握することで、極大、極小などの応用があります。これを2変数にすると、急に考えにくくなりますが、うるさい議論は省略して感じをつかむ。また、テイラーの定理など厄介な命題と思われがちですが、近似的に関数の値を得るといふ、数値計算的な視点でみると、とても有用な命題ですし、歴史的にも、細かな議論が必要にはなるけれど、かなり大胆に議論が展開されてきています。少々粗っぽくなるかも知れませんが計算を楽しむことによって興味をもっていただきたいと考えています。	
	地球科学実習	偏光顕微鏡による岩石薄片の観察を行う。偏光顕微鏡を用いた記載的岩石学は19世紀末にほぼ完成した分野ではあるが、現代においても地球惑星科学の基礎である。授業ではまず偏光顕微鏡のしくみを学び、造岩鉱物とその光学的性質について学んだ後に、各種の岩石について、厚み20ミクロン程度にすり減らした薄片での観察を行う。顕微鏡下の鉱物から自然の不思議や巨大な地球の動きをぜひ感じ取って欲しい。	
	マクロとミクロの物理学1	マクロな世界の物理法則はミクロな世界でも成り立つのであるか？身近な力学現象から始めて、潮汐現象や天体の運行などマクロな世界の物理について、重力を軸に議論する。また、分子や原子さらにはクォーク等の素粒子が活躍するミクロな世界についてマクロな世界との関係を明らかにしていく。授業では数式の使用を極力おさえ、図やイメージをもとに説明していく。受講者の自由な議論を交えながら進めるので、積極的な参加を望む。	
	熱と温度の物理化学	温度と熱の基本概念および熱力学の基礎から始め、物理化学的立場から物質の構造と物性を学ぶ。物質の存在形態と安定性、化学反応性の理解を目標とし、物質の凝集機構と機能性発現機構にかかわる相転移現象についても考察する。さらに身の回りの物質から地球環境にも視野を広げる。熱力学温度目盛と国際温度目盛、温度計と温度計測および化学熱力学にもふれる。	
	都市の大気環境	大気は地球誕生時の原始大気から大きな変化を受けてきた。現在の大気は自然起源の成分に化石燃料などを利用する人為起源の化学成分が新たに加わったものであり、いろいろな環境問題を提起している。ここでは自然の大気の成り立ちと大気汚染物質の発生原因や影響を具体的に学ぶ。地球大気の成り立ち（2回）、従来型の大気汚染物質の排出と環境影響（3回）、光化学スモッグ、有害大気汚染物質など（3回）。学習の過程で理解度を把握するため、簡単なテストなどを行う。	
	分子の成り立ちと反応	物質の関わる自然現象、物質の変化にはミクロの粒子である分子が深く関わっている。分子の成り立ちの仕組みと化学反応を、量子化学の立場で考えてみる。まず、道具となる量子力学、とりわけ分子軌道法のごく初歩を概観し、分子軌道法による化学結合の理解へと話を進める。共有結合、イオン結合、水素結合などによって分子が組み上がっていくことを見た上で、分子の反応をどう理解し、予測するかについて述べる。数式が出てくるが、「絵で考える量子化学」という線で講義を展開していく。	
	身近な問いから現代物理	自然は破ることのできない様々な掟のもとで変化している。物理はその基本を追求しているが、それらは日常の素朴な疑問から端を発している。それらを整理して考えやすい道筋を追って、マクロな世界から出発してミクロな世界を学び、再びミクロな世界から私たちの世界へもどり見直してみよう。そこからはこれまでとは違った見方で今日の科学技術の世界が見えてくる。そこから新たな視界が開けるであろう。	
	我が国における天文学の発達	戦後約半世紀、日本の天文学、宇宙科学は目覚ましい発展を遂げた。本講義では、その発展の歴史を学ぶことにより、現代天文学の意義をよりよく理解することをめざす。中国天文学の影響下にあった古代から17世紀までの時代、西洋天文学が流入した江戸時代後半、欧米への留学生がもたらした近代天文学、戦後の天体物理学の勃興をエピソードを中心に分かりやすく説明する。	
	光のスペクトルとホログラム	専門科目の光学の実験授業である。直視分光器を用いている光源から放出される光のスペクトルを観察する。特に、水素原子の線スペクトルの規則性(バルマー系列)について詳しく調べる。(改行)光の干渉と回折の性質を巧みに利用したホログラフィーの原理を学ぶ。実験では、レーザーを組み込んだ専用の光学系を用いて、物体の立体的な像を写真フィルムに撮影して現像し、記録された物体の立体像を再生する。	
	推測統計学	現在、データに基づく判断が、様々な場面で求められている。統計学は、そのような現場で必要とされる考え方や方法を提供している。この講義では、実験や標本調査から得られたデータに基づく推測についての基礎的な考え方、統計的推定や検定の理論と手法を、受講生が理解することを目的とする。また、実際のデータを使った演習も交え、理解の助けとする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	超伝導の物理	本講義では、超伝導について物理的側面から話を進めて行きます。超伝導を本格的に勉強することになると、電磁気学をはじめ、高度な統計力学や量子力学の知識も総動員しなくてはなりません。しかし、本講義では、数学的に難解な理論を重視するよりも、超伝導の入門的講座として位置付けます。講義では酸化物超伝導体の電気抵抗測定を行い、また資料作成にも時間を割く予定です。単位取得の最低条件は5コマの講義全てへの出席です。	
	宇宙の不思議を探る 1	物理学の目的は宇宙を支配する自然法則の探求である。自然を観察して、あるいは実験室で実験して多くの自然法則を学んできた。これらの法則も、まだ知られていない法則も、われわれの環境である宇宙に起因するはずである。もし、われわれが自然法則について十分な知識があれば、さまざまな手段によって観測されている宇宙の諸現象も、これらの自然法則によって理解できるはずである。この観点で宇宙の現象について論ずる。第1学期は基本的物理法則について学び、第2学期においてはそれを宇宙へと展開して最先端の知見を学ぶ。	
	核融合エネルギーとイーター	核融合エネルギーの開発に向け、国際協力によるITER計画が昨年より開始されている。これは、実験炉の建設・運転を通じて、核融合燃焼の科学的・技術的可能性の実証を行う計画であり、日本は主導的な役割を果たしている。日本の大型トカマク装置（プラズマを磁場を用いて閉じ込める装置）JT-60などで得られてきた炉心プラズマに関する知見、核融合炉工学に関する進展、ITER計画について講義する。	複数教員共同担当
	素粒子を探る	自然界を構成する最小基本単位は素粒子である。素粒子に関する物理法則は、現在のみならず宇宙の誕生にさかのぼるまでの自然界を規定する。この授業では、素粒子の基本的性質を、理論と実験の両側面から概説する。また、ニュートリノの質量等、研究が続けられている最新の問題も議論し、より進んだ素粒子理論への展望を考察する。	
	粒子系の物理と数値解析	日常経験する物理現象の多くには、多数の原子、分子が絡んでおり、熱の流れや対流、相転移などさまざまな形で、マクロな物体の運動に影響を及ぼす。近年、コンピューターの発達に伴い、さまざまな物理現象を数値実験で調べることが可能になった。本講義では、まずマクロな物体の運動に、どのように多数の分子、原子が関わっているかを理解し、その後コンピューターを使った多粒子系の解析について学ぶ。学習目標としては、多数の微粒子が関わる物理現象を理解し、コンピューターを通して多対粒子系の物理が我々の日常生活にどのように関わっているかを理解することを目指します。	
	目と耳で探る音の世界	自分の声や楽器音の波形を見たことがありますか。マイクロホンで音を電気信号に変えると、これが可能になります。この授業では、はじめに「音が波である」ことを体験してから、普段耳にしている音声や楽器音などの波形、音律、和音、さらに、うなりやドップラー効果など、音の示す典型的な現象を目と耳を使って調べます。この結果を十分に検討する過程を通して、「音とは何か」を理解することを目指します。	
	天気地異の予測	我が国にはさまざまな自然災害が発生する。例えば、地震、津波、火山の噴火、集中豪雨、竜巻などである。最近、近未来の気候変化も大きな社会問題になっている。被害を最小にするためには、これらの自然現象の予測が強く望まれる。しかし、現在、予測が成功しているとはいえない。その原因は何か。予測の可能性はあるのか。自然科学の立場から、この問題を考察する。	
	物理学に巣くう二人の悪魔	物理学の世界には、二人の悪魔が巣くっている。一人はLaplaceの悪魔であり、未来はすでに決まっているという世界観の持ち主である。もう一人は、Maxwellの悪魔で時間を逆行させようとしている。この講義の目的は、我々人間にとって根源的とも言えるこの二つの考え方、決定論的世界観と時間の不可逆性に関して物理学はどのように考えてきたのか、力学、熱力学、統計力学の歴史をたどりながら、解明していくことにある。	
	環境物理学	この講義では、物理学の概念であるエントロピーを軸に、環境問題を読み解く。具体的には、以下のような内容を取り扱う。*エネルギーとエントロピー *物質とエネルギーの保存 *熱機関の効率とエントロピー *環境と体系との基本構造 *地球のエネルギー収支 *温室効果 *大気循環と水循環 *生態系でのエネルギー、物質循環 *廃棄物とリサイクルなど。中、高程度の理科の素養があれば、理解できる。物理の考え方で、「核と環境の物理」を履修された方は一部内容が重複します。	
	量子論の誕生	量子論は、19世紀末の古典物理学に現れた様々な矛盾を克服する形で生まれた。この授業の目的は、量子論がなぜ誕生せざるを得なかったかを歴史的にたどっていくことにある。量子論の誕生までの話であるから、具体的な応用にはふれない。話の展開上、力学、熱力学、微積分、ベクトル、行列等、ある程度の、物理と数学の基礎知識を持って受講するのが望ましい。	
発生生物学への誘い	個体の発生、すなわち受精から老化にいたるまでの複雑かつ精緻な過程を概観するとともに、この過程がどのような仕組みで営まれているのか、この過程に環境はどう影響するのかなどにつき、癌や幹細胞などの問題も含めて初歩的な理解を目指す。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	地球誕生以来の歴史と地球環境	私たちの生活を支える資源は、すべて46億年にわたる地球の営みの中で形成されてきたものである。この事を具体的に解説する。太陽系の誕生と地球の誕生・海の意味、固体地球の変遷、地球の大気、とくに遊離の酸素の変遷、石油など化石燃料資源の起源、現代人類の課題、などについて解説する。	
	身近な病因物質の科学	私たちにとって最も大切なものの一つに健康があります。その健康を脅かすのが病因物質です。身の回りには種々の病因物質はどのように理解され、調べられてきたのかをタイムリーな題材を基に解説する。病因物質としての蛋白質・酵素・トキシンや病原体そのものについて、研究の最前線の話に触れながら、生体に関わる病因物質に関する理解を深める機会とする。化学および生物学の基礎に関連するいくつかの放送科目を既習あるいは履修中であることが望ましい。	
	熱現象の解明	「熱」とはなんだろうか。「熱が関わる現象」をどのような法則に基づいて理解するのだろうか。これらを系統的に知るために、熱力学の基礎概念（温度、内部エネルギー、エントロピーなど）と基礎法則（熱力学第1法則、熱力学第2法則）について学ぶ。熱力学の基礎法則は巨視的な物理量の間の関係を記述しているが、同時に自然現象が進行していく向きについても規定している。熱現象を記述する諸概念を微視的な観点から分子論に基づく理解を進めると鮮明になるので、統計的な考えも含ませる。	
	地学実習	三浦半島南部には、完新世における旧汀線が残されている。最高位の旧汀線は海拔約10mに位置するもので、約6000年前の海進最盛期とされる。中位は約7mで約4000年前、下位は約5m前後で約3000年前、最下位は現海食台背後に位置する1.5m前後のもので、1923年の大正関東地震によって隆起したことで知られる。現地ではこれらの旧汀線の地形調査を行い、三浦半島南部に於ける地震性地殻変動によって残された海面の位置を考察する。	
	生命の起源を探る	生命の起源は人類に遭された最大のなぞの一つである。20世紀後半より、生命の起源を物質の進化という観点から実験によって再現しようとする試みがなされるようになった。探査機などによりもたらされた新しい惑星や衛星に関する情報や、分子生物学などによる生命に関する新たな知見が得られるようになった今日、生命の起源に関する研究は新たな局面を迎えている。本講義では生命の起源や地球外生命の探査に関する最新の知見を紹介する。	
	みどりによる地球環境	私たちの活動が命の源である「みどり」を破壊して地球環境を狂わせ、今も続く熱帯雨林の伐採と焼き払い温暖化に拍車をかけている。環境破壊のしっぺ返しは大規模な自然災害の形で私たちを襲っている。「みどり」の機能を再認識し、地球の未来に向けた環境創造を考える。	
	大気環境の科学	近年、地球規模の大気の変動が注目されている。これらの変動を理解するために、地球大気の大気構造や物理・化学的性質について、基礎的事項から解説する。また、さまざまな大気変動を取り上げ、その要因や将来の予測などについて、現在の観測と理論研究の成果をもとに解説する。本講義により、大気環境についてのより深い理解の習得を目的とするものである。	
	宇宙の大きさと恒星の進化	人間は超新星爆発によって出来た元素から形作られ、太陽があるから人間が地球上に存在出来るのです。初めに、天文学の基礎である宇宙の大きさや天体の階層などを概観したあと、恒星はどのようにして輝き、そして終末を迎えるのかをなるべく詳しく解説します。星の光、恒星の光度と表面温度、スペクトル型とHR図。恒星の構造、恒星の中心における核融合反応、赤色巨星への進化、超新星爆発、そして元素の起源など。プリントを配布します。	
	インフルエンザ感染の経路と防止	インフルエンザは人から人へ感染し、人間社会の間で広がっていきます。この授業では、東京近辺での2003～2007年のインフルエンザ感染を取り上げ、インフルエンザが伝播した経路と速度を知る方法を紹介します。異なった地点にある薬局で抗インフルエンザ薬の販売量を比較するという新しい方法です。インフルエンザ大流行の早期発見の方法も紹介します。高校で学習する順列・組み合わせと確立を基礎として、授業を進めていきます。	
	完新世に於ける環境変遷と地球	<完新世に於ける環境変遷と地形変化～南関東を中心に～> 1. 貝類群集からみた縄文海進に伴う海岸環境の変遷。2. 約1.8万年前以降の海岸線の移動と地形変化。3. 完新世海成堆積物からみた相模湾沿岸の地形変動。成績評価は出席状況のほか、レポートの評点により行います。	
	卵子と初期胚の機能形態学	哺乳動物における生殖細胞（卵子と精子）の形成、受精および受精後の初期胚の発生の過程、ならびにそれらの過程で起こる各種の形態変化を、動物間での比較を交えつつ機能と結びつけて説明する。また、卵子や初期胚を用いた動物性タンパク質の効率的な生産技術やヒトにおける不妊治療技術についても現状を紹介する。未知なる可能性を秘めた卵子と初期胚の美しさと魅力を伝えたい。	
	観測天文学入門	小望遠鏡2台および国立磐梯青少年交流の家に設置されている望遠鏡を使用して、その操作方法や望遠鏡光学の基本を学習します。さらに晴天の場合、太陽黒点の観測やその整約および夜間の天体観測を行います。雨天の場合は、ダミーデータを与えて整約をしたり、スライド等により天体画像を見せたり、簡単な演習問題を行います。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	ヒトの分子遺伝学	ヒトに関わる遺伝子の基礎について、メンデルの法則からヒトゲノムプロジェクトにいたるまでの講義を行う。ヒトゲノムプロジェクトの成果として、どのように数多くの難病の原因遺伝子が明らかにされたのかについて説明する。また遺伝子で何が決まり、何が決まらないのかを解説する。さらにゲノム情報が簡単に解析できるようになった結果生じてきた、生命倫理的側面についても考える。	
	温泉の科学	温泉の医学的効能から、見つけ方、掘り方、泉質の多様性、維持管理と色々な切り口で、温泉を科学する。また、温泉を利用したグッズ、有用微生物やレジオネラ菌、温泉の放射能について学習し、座学のみではなく、水質測定の様子、放射能の測り方、温泉水による染色、温泉トウフの作り方も実習する。	
	イネの遺伝子を研究する	近年、主要作物としてのイネの研究は、目覚しく進展しています。双子葉植物のモデルとしてシロイヌナズナ、単子葉植物のモデルとしてイネの全ゲノム(DNA)の塩基配列が決定されました。これにより、遺伝子が保持する機能を研究するための基盤が完成しました。長い歴史を経て選抜された重要な遺伝子、加えて、分子生物学の研究から見出された重要な遺伝子の働きや利用の仕方を講義します。	
	身近な半導体を科学する	日常生活にはさまざまな半導体デバイスが使われています。たとえばリモコンには、信号を光で送るための発光デバイスが、また電気製品本体にはその光信号を受ける受光デバイスがついています。IC(集積回路)もほとんどの電気製品に入っています。この講義では、発光、受光デバイスの原理や性質について実験をとおして学びます。また、キッチンタイマーを自作して、発光ダイオードやICの電子回路への応用について学びます。	
	生活に関連する水質工学	水質の改善は、目に見えない様々なところで私たちの生活と関連しています。この科目では上水道や下水道をはじめとして、生活と密接に結びつき、さらには、環境の改善にも重要な役割を果たしている水質改善技術について説明します。そして、そこで用いられている基本的な原理について理解を深めます。そのことを通して、水の利用や河川などでの水質保全について考えます。	
	数学の言葉	数学で使われる言葉には、日常使われる言葉とは違い、独特の言い回しがある。従って数学を「言語」という観点からとらえ直してみる。外国語を初めて学ぶときのように、a,b,c,から始め、数学の文章を作るための文法を学ぶ。これらは他の言語と違いきわめて単純な構造をもっている。また証明とは何か、正しいとはどういうことか、といった基本的なことを再考する。予備知識は仮定しない。また自然の理解以外の学生向けの授業でもある。	
	生命の基本 - 代謝と微生物	生命活動の基本は酵素を中心にした代謝にある。例えば、O2は何故必要か。どうしたら脂肪を作る方向に代謝が進んでしまうのか。絶食をしたらどんな代謝が起こるのか。冬眠中のクマは飲まず食わずなのに何故生きていられるか、などなど代謝は不思議かつ面白い。最小生命体である微生物は、我々動物の細胞と基本的には同じ代謝を行っている。我々よりも三十数億年も前から地球上に生存している大先輩の微生物の世界を垣間見る。	
	数学的な見方・考え方と問い	小中学校の算数・数学の問題を解決することを通して、数学的な見方、考え方の様相を明らかにする。また、問題を解決する思考過程についても分析する。特に、誤った思い込みや誤答に焦点を当て、その背景を考察する。さらに、学校数学における数学的な問い(例えば、分数のたし算はなぜ通分するのか。分数のわり算はなぜ逆数をかけるのか。負の数同士のかけ算の答えはなぜ正の数になるのか)について、その根拠を解明する。講義は、具体物の操作や数学的活動を通して、分かりやすく進める。	
	細胞生物学特論一細胞を見る一	顕微鏡にはいろいろな種類があり、それぞれに光学的特徴がある。本講義では顕微鏡の正しい扱い方、顕微鏡写真の撮り方などを実習するとともに、顕微鏡の基本原則と各種光学顕微鏡の特徴について学ぶ。いろいろな顕微鏡を操作し、生きた細胞の動きや構造に加え、固定標本で生体の仕組みや細胞分裂などを観察する。	複数教員共同担当
	環境科学実習	湖の生物を採取・観察し、人間活動と湖沼生態学系の関わり合いを、体験的に学んでもらうのがこの授業の目的である。長野県諏訪湖を対象とした実習。初日：湖に船で出て、簡単な水質項目の測定、採水、生物(プランクトン・水草・低生動物)の採取を行う。2日目：実験室での生物観察。最後に実習結果をもとにレポートを作成する。信州大学山地水環境教育研究センター(諏訪市)に宿泊して実習を行うため、宿泊費、食費が必要となる。追って、受講生には詳細事項を通知する。	複数教員共同担当
	高山植物の生態学	日本列島の中部地方には北アルプス・南アルプス・ハケ岳などの大きな山脈が存在する。そのうち南・北アルプスは標高2600mを超える高山帯を広く持ち、ハケ岳や中央アルプスは狭い高山帯を持っている。2つのタイプに属する高山帯の特徴と、各々に生育する高山植物の環境適応について北極、ヒマラヤ、アンデスの高山植物を比較しながら解説する。また、高山植物の分布と氷河地形との関係についても日本列島の身近な例をあげ解説を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	光と宇宙	私たちのまわりに満ち溢れる光と宇宙の関係を軸に、宇宙の発展とその初期の姿に焦点を当てて講義を行う。また光に関する実験も取り入れる。それは光速を測定する実験と放射線(ガンマ線)の実験などである。宇宙を観測する方法は主に光を使って行われてきた。遠い宇宙を見るとことと、宇宙の過去を見ることは、光の速さが一定であることから同値となる。そもそも光速は相対性理論なくして語ることができず、光速の不変性から話を始める。さらに進化した宇宙の探り方を講義し、宇宙の初まりであるビッグバンの様子を伝える。	
	水質調査入門	身近な水質汚濁の理解をめざし、それに関する講義と分析実験を行います。講義では、水質汚濁問題だけでなく、水質調査の方法についても解説を行います。また、身近な長野県・諏訪湖を一例として、その汚染の変遷と現状についても解説します。一方、分析実験では、実際の湖沼水と河川水を調査対象とし、富栄養化に関する簡単な水質分析を行います。	
	長野県の地震	長野県内の3大活断層群、(1)糸魚川-静岡構造線活断層系、(2)伊那谷活断層系、(3)長野盆地西縁活断層系について学習します。特に、地震の発生が懸念されている糸魚川-静岡構造線については、地震の発生がなぜ想定されているか、どのような根拠があるのか、についても学習します。	
	雪と氷の科学	現在の地球では、水が気体、液体、固体の3相で存在できる。そのために、蒸発が起こったり、雪や雨が降ることができるのである。さらに、相変化によって低緯度から高緯度への大気中での熱の輸送が効率よく行われるのである。地上では、雨(液体)でも、雲の中でほとんどの場合、雪(固体)で成長するし、地球大気に塵や埃がないと、雲の中で雪が出来るのも難しいのである。これらのメカニズムについて説明するとともに、雪や氷にまつわる地球環境問題についても解説する。	
	遺伝学からみたヒト	過去半世紀における生物学の驚異的な進展によりヒトゲノムの全貌が明らかになった今日、生物学の基礎的知識は現代人の教養として欠かせません。この講義では、ヒトの生物学、中でも遺伝学的な側面を中心に平易に概説します。主な項目は、遺伝学と分子生物学の基礎、人類集団の遺伝的変異、突然変異と遺伝病、がんの遺伝学、遺伝的荷重、近親結婚、遺伝と環境などです。	
	顕微鏡下の岩石鉱物	本講義では、光と結晶に関する基本的事柄を解説したあと、偏光顕微鏡を用いて鉱物や岩石を観察する。結晶の光学的性質から鉱物を同定できるということ、岩石の組織からその岩石の形成条件や形成過程を読み取ることができる、ということを知ってもらうことが本講義の目的である。	
	PCRによる組換え遺伝子の検出	PCR(ポリメラーゼ連鎖反応)法は微量のDNAを鋳型として目的のDNA断片を短時間に数百万倍に増幅できる画期的な技術である。現在では遺伝子解析などの基礎研究は勿論のこと応用研究に幅広く使われている。ウイルスや病原菌などの迅速診断、個人識別、作物や食品などに含まれる異種遺伝子の検出などに利用されている。授業第1日目は、大豆と豆腐からDNAを抽出し、そのDNAを鋳型にして特定のDNA断片をPCRを使って増幅する。第2日目は、増幅させたDNA断片をアガロース電気泳動で解析し、組換え体DNAを検出する。すべての実験を各自が行う。また、実験で使用する豆腐(1/4程度)を各自持参すること。	
	昆虫と人のくらし	昆虫は100万種以上が存在し全動物群の種類の4/5を占め、地球上で最も繁栄する動物類である。昆虫は環境に適応した体のしくみや生活方法を獲得しており、それらの特徴を理解することは生物進化学的に重要である。講義では身近に見られる昆虫を中心に、特徴、被害、防除法、昆虫バイオテクなどを解説し、昆虫と人との関わりについて理解を深めていく。	
	生体物質の化学	生体は、タンパク質、核酸、脂質などの多様な物質で構成され、これらの相互作用によって維持されている。本面接授業では、こうした生体を構築する部品ともいえる生体分子の構造や変化を解説し、「生きていること」の物質的基盤について考えていきたい。	
	天然医薬品の基礎知識	植物の葉・茎・根など天然から得られる素材に簡単な加工を施して調整した天然医薬品を生薬(しょうやく)と言う。それぞれの生薬は単独で使われるのみならず、種々の生薬が配合されて漢方薬が処方される。近年、合成医薬品への不信感から天然物を素材とした、長い歴史をもつ生薬への関心が高まっている。今回は漢方薬の処方に用いられる生薬など、代表的なものについてその用途、作用および有効成分などについて解説する。	
	地震の科学	地震について、全般にわたり講義を行う。まず、地震が発生する地球を概観し、そこで起こっているダイナミックな変動について学ぶ。次いで地震についての基礎的な事柄から、地震波や地震発生メカニズムといった地震の物理までを学び、さらに地震に伴う諸現象を概観し、地震の予知、予測の方法について考える。また今までの地震災害を知り、地震に備えるには「何が有効で重要かを学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	超越数論	古代ギリシャの作図問題の中に『円と同じ面積をもつ正方形を描け』という問題があります。この問題は、19世紀（1882年）にリンデマンが『円周率は超越数である』を証明することによって、否定的に解決しました。普段、私たちは超越数の存在を全く意識していませんが、超越数こそが数の大分部をしめていて、数の世界を形成しているのです。この講義では初等的な解析のみ利用して、『エルミート-リンデマンの超越性定理』を紹介し証明を与えたいと思います。	
	微生物から見た生命科学	地球上に初めて出現した生命は細菌です。それなら人の祖先は細菌ってこと？人類で最初に微生物を見た人は誰か知ってる？微生物が病気を起こすってわかったのはいつのこと？遺伝子組換え技術は微生物無しには誕生しなかった？遺伝子治療や遺伝子組換え作物にも微生物は関係しているの？哺乳動物は腸内細菌とともに進化した？生物学だけでなく、医学、農学、薬学などの領域にわたる生命現象を微生物の視点から解説する。	
	映像や画像で学ぶ地球環境	地球環境を研究の対象とする分野は、地球や地形、気候、植生、土壌、水文など多岐にわたる。授業では、このうち地球と地形を中心に話を進め、また最近各地で頻繁に発生している自然災害、とりわけ地震や津波などについてもふれたい。なお、授業は配布したプリントに従って進める。その際に、ビデオなどの映像やインターネットのホームページ、OHC、パソコンソフトなどの画像を通して、地球の自然環境について理解を深める。	
	四日市公害から学ぶ「四日市学」	40年前に三重県で発生した四日市公害を題材とし、環境問題の発生要因、人間を含む生態系への悪影響、有効な環境政策を探る。四日市公害から学ぶ「四日市学」をツールとして、人間の尊厳を問う「人間学」、持続可能な循環型社会を目指す「未来学」、実践的環境教育を提案する「環境教育学」、21世紀の環境問題の最大懸念地域である日中韓を中心とするアジア諸国とのWin-Winの国際環境協力を図る「アジア学」について学ぶ。	
	流れの科学	流れの科学は、古くから生活や農耕に必要な水路を作るための水の流れの技術として進歩してきました。一方、航空機の開発とともに発展してきたのは空気の流れの科学です。また、近年では環境とエネルギーに関連して、温暖化や異常気象をひきおこす気象や海象などの地球規模の流れの問題が生じています。この授業では流れの科学の基礎を解説するとともに、具体的な流れの現象を紹介することにより、流れに関する知見を深めます。	
	滋賀県周辺の地震危険度	阪神・淡路大震災以降、日本各地で大きな地震が頻発している。また、近畿地方の沿岸では、東海・東南海・南海地震が近い将来発生することが予測されている。本講義では、建築専門の立場から地震防災について講義し、地震のメカニズムと特性、建物の振動現象、木造住宅の耐震診断など、滋賀県の地震危険度について学習する。	
	生きているということ	多種多様な生物の生きようをみることによって、生きているとはどういうことであるのかを考えるとともに、われわれヒトという種がどのような特徴を持った生物であるのか論じてみたい。	
	太陽コロナの神秘に迫る	地球温暖化の問題が深刻となっていますが、天の岩戸の伝説にもあるように、もし太陽が消えて無くなるとそれどころの騒ぎではないでしょう。2009年7月22日には月が太陽を完全に隠す皆既日食が日本国土の上で46年ぶりに起こります。この時、太陽の周囲には神々しい光を放つ神秘的なコロナが見られははずです。京都大学花山天文台で、太陽黒点や紅炎を観察しながら、皆既日食観測の方法と太陽コロナ成因の謎について考えましょう。	
	果樹園芸入門	果樹は永年性の作物で簡単に植え替えはできません。したがって、どんな果樹のどんな品種を選んでどんな場所に植えるかは極めて重要です。さらに、土壌管理、肥培管理、水管理など、木の育て方に関する基礎事項について学習し、整枝剪定のノウハウをマスターして美味しい果物作りの第一歩とします。	
	地球環境の時代的変遷	地球の環境問題が、最近注目されるようになってきました。地球科学の立場から、環境問題のいくつかの焦点をあてて、解説したいと思います。エル・ニーニョ現象、ラ・ニーニャ現象が昨年は話題となりました。これらの現象は、もともとは、南米ペルー・エクアドル沖の太平洋東部の地方的な気象現象でした。それが世界の気象に多大の影響をおよぼしていることが明らかにされました。日本にも影響がおよんでいます。どうしてでしょうか。地球の歴史のなかで、現在の環境が成立しました。過去にさかのぼると、今とはちがった環境がみられます。地球の歴史の中の環境の変遷をたどってみたいと思います。	
	海洋生物の多様性	海洋生物の多様性は、陸上をはるかにしのぐ。たとえば、動物界には40の門（最上位の分類階級）が知られている。陸上でみることのできるものは、その内のごく一部にすぎないが、海洋にはほとんどすべての動物門が息している。本講では、これらの多様な動物たちの特徴を学習し、さらに実際に海に出て生態を観測したり、生きた標本を採集して顕微鏡で観察したりして、フィールド学習を通して多様性を理解できるようにする。	
遊具から都市の環境デザイン	子どもたちのあそびとあそび空間について考察しながら、子どもたちが元気にあそぶには、あそびやすい空間の構造があることを示す。その空間構造原理は町づくりや、地域づくりにも応用できる。満足度が高い、集客性の高い施設や、町や、地域を形成するためには、どのような環境づくりが必要であるかを実例を通して論考する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (自然と環境)	水環境の科学と環境問題	水は生命を産み育む源であり、人の豊かな生活を支える重要な資源でもあるが、21世紀においては、水を巡る環境問題が深刻化し、その利用も大きな制約を受けるようになるといわれる。本講義では、今後、人が水とどのように関わっていくべきかのヒントとするために、地球上における水の挙動や水環境で生じている様々な現象、および重要な水環境問題について解説する。また、水環境問題を解決し、持続的な水の利用を行っていくための方策についても論じたい。	
	分子から眺めた日常生活の高分子	私たちの身の回りは無数の合成高分子と生体高分子で溢れてはいるが、この高分子により日常生活は日増しに豊かになってきている。しかし、一方ではこれにより健康を害することや、環境の破壊などの負の側面もある。地球上の全物質サイクルを深く理解した上で、この負の側面を取り込んだ高分子の合成開発を考える時代が到来している。授業では今後の日常生活の高分子のあるべき姿を考えてもらう。	
	科学的な見方・考え方	日常生活において“科学的”という言葉使いが絶対的な信頼性を保証するかのように使われることが多い。そもそも科学的な行為とはどのようなものであるかを基本的なところから考え直してみたい。科学が保証する範囲は何なのか、科学とは人間のさまざまな活動の中でどのような位置を占めているのかなど、科学的な考え方や見方の特徴をさまざまな事例とともに考えてみたい。科学に対する根拠のない過信あるいは反発を考え直す機会としたい。受講者との討論を含めた参加型の講義にしたいと考えている。	
	情報と通信の数理	携帯電話を利用しながら、「速く情報を送りたい」、「ノイズのない高音質の通話をしたい」、「盗聴・盗み見が心配」などと考えたことはないでしょうか。小さな携帯端末の中では、データ圧縮・誤り(エラー)訂正・暗号といった技術が用いられており、それらは快適な通信を実現する上で大きな役割を果たしています。通信の効率や信頼性、安全性を数学的に解析し、さらに具体的にそれらを達成するための手法を考える情報理論という分野について講義します。	
	銀河系の天文学	わが太陽系を含む天体の大集団である銀河系に焦点を当てて講義します。まず、銀河系の存在がどのように認識されてきたかの歴史を述べます。ついで、銀河系を構成する個々の天体、すなわち恒星や星団や星間物質等について概観し、これらが銀河系内でどのように分布し、運動しているかを説明した後、銀河系がどのように進化して現在の姿をとるに至ったかについての知見を述べてまとめとします。	
	アルゴリズムの考え方	コンピュータに問題を解かせるときには、人間に指示するときよりもさらに明確にその手順をコンピュータに指示しなければなりません。その手順をアルゴリズムと呼びます。この授業では、データの並び替えなどのアルゴリズムや数値解析のアルゴリズムを題材にして、問題を解決するための手順を考えることとその手順を記述することの二つを述べます。	
	時空と物質と人間	科学は、人間が自分の周りの自然を観察し、いろいろなものの性質を決める規則性を見つけ出し、生活を豊かにする人間の活動のひとつです。こうして見つけられた自然の法則は、宇宙でも月でも、宇宙のどこでも成り立つ、「宇宙語」といえます。一方、人間自身も自然を支配する法則に従う対象なので、お互いは切り離すことが出来ない関係にあり、自然環境をわが身と同様に大切に考えることが出来ます。今回の授業では、私たちを取りまく時空、その中の物質およびそれらからなる私たちの存在を、見て行きたいと思えます。	
	水を考える	"近所の川がきれいにならない"、"家の水道水がおいしくない"、"夏が来るたびに濁水になる"、"大雨のたびに前の道路は水浸し"などの身近な話題を取り上げながら水問題の本質を理解し、"豊かな水環境の創造"のために必要な水の基礎について学びます。	
	磯の生き物について学ぶ	海岸で潮がひいたときに、水面に出てきて干上がる部分を「潮間帯・ちょうかんたい」と呼びます。そこでは、波や潮の高さ、温度、塩分濃度の変動の幅が著しく、多種多様な生き物が生活しています。この科目ではそれらの生き物の採集、観察、同定、生態調査などを行い、潮間帯生物の外的環境への適応や種の多様性などについて学びます。	
	細胞の中の時間と空間	私達の体は、約60兆個の細胞から出来ている。それらは、1個の受精卵細胞が完全複製と言われる分裂を繰り返して出来たものであり、すべて同じ細胞のはずである。それにも拘わらず、それぞれが様々な形や機能を持ち、複雑な体を作りあげている。細胞が、時間と空間を認識しているからである。空間認識機構は解明されノーベル賞となった。本講座講師は、時間認識に与る可能性のある時計を発見した。細胞が時間と空間を認識する仕組みについて、細胞分裂の基本から、易しく、熱く語りたい。	
	宇宙から見る海洋と陸水の動態	この授業では、海洋や陸水(川や湖)の水温や水質等を調査する道具として、近年めざましい発達をとげている人工衛星の画像をとりあげます。特に一般にはあまり知られていない種類の衛星画像を紹介するとともに、その原理をわかりやすく解説します。なお、本授業の評価は出席と授業中に行う簡単な理解度試験によって採点します。	
	自然と社会に数学を見る	精密科は数学モデルを用いて記述される。非常に簡単な数学モデルが多く、自然現象や社会現象を記述することを説明し、数学が我々の生活と深くかかっていることを解説する。使われる関数は指数関数、対数関数と三角関数であり、数学は微積分の入門程度。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	動物行動学入門	霊長類とヒトの分岐は500万年前、現生人類の歴史はわずか20万年。人間を知るには、まず動物を知るのがよい。動物の行動は、仕組み、発達、意味、進化という4つの視点からながめることができる。仕組みでは感覚系や運動系の機能、発達では本能と学習の相互作用、意味では個体存続のための適応度、そして進化では行動の系統発生を扱う。講義ではビデオとCDを使って解説する。レポートを課す。	
	薬 - 不思議なるもの	かつて術は魔法であった。産業革命以降自然の理解によって、サイエンスとしての位置を確保してきたように見える。しかし、生物としての死から逃れることは出来ないので人間の欲望は依然として術を魔術の中に閉じこめている。化学がその中でなにが出来るのかを考える。	
	地球・宇宙化学	地球惑星物質科学の最先端を走る岡山大学地球物質科学研究センターの教員が、基礎から最先端のトピックスまで、オムニバス形式で紹介する。授業内容は、宇宙における元素合成、隕石と初期太陽系惑星形成過程、地球の地殻・マントル・核の進化過程、マグマの成因や変成岩の形成過程など地球の起源・進化・ダイナミクスの理解を促すものとする。また、基本的な研究手法である、元素分析や同位体分析並びに年代測定法など最先端の分析装置による分析技術と近い将来計画されている小惑星（特に、小惑星探査機はやぶさによる小惑星イトカワの試料）や月・火星からのサンプルリターン計画への応用等についても紹介する。	
	動物の生態進化の謎を探る	現在の地球上には、実に多くの生物が多様な姿で生息しています。なぜ、動物はかくも多様な姿で生きているのでしょうか？本講義では、動物の起源と進化のルートを紹介し、特に大きく適応放散した哺乳類や鳥類等の脊椎動物、および昆虫類の生態を説明し、このような進化をするに至った理由について考えをめぐらせたいと思います。	
	地球環境問題を考える	地球環境問題、特に温暖化、について、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第4次評価報告書などにもとづいて考えてみたいと思います。オゾン層の破壊については、フロンなどのオゾン層破壊物質の生産停止が国際的に合意されたことにより、今世紀半ばまでには、1980年レベルに戻ると予測されています。この教訓などにもふまえながら、持続可能な社会を実現する道についても考えてみたいと思います。	
	宇宙創生の謎に挑む素粒子物理学	1.素粒子物理学入門：身の回りの放射線を含む、（時間があれば実習も可能）、2.実験で探る宇宙と素粒子のなぞ：加速器を使った実験、ニュートリノの話など、3.素粒子実験技術の基礎と応用：先端加速器や測定器の医療、工業応用など	
	バイオサイエンスと豊かな暮らし	バイオサイエンスを基盤としているバイオテクノロジーはバイオサイエンスの発展とともに進歩し、暮らしを豊かにしている。バイオサイエンスは遺伝子を抜きに成り立ちませんので、遺伝子の複製・転写・翻訳といった基礎的な事を最初に解説する。次に、遺伝子組換え技術の確立に必須となった分子生物学的な知見を平易に説明し、PCRをはじめ各種バイオ技術の暮らしへの応用について紹介する。	
	環境安全学入門	この授業では、環境問題を生命や健康に対する安全の視点で考えます。私たちは常にさまざまな危険にさらされています。私たちを取り巻く環境のどこに、どのような危険があり、危険を回避するためにどのような努力がなされているかを知ること、それによって、予想される危険にどう対応すればよいかを合理的に考えられるようになることが、この授業の目的です。受講にあたって特別な科学的な知識は必要としません。	
	光触媒を用いた環境浄化	「光触媒機能付き」と明記された製品が市場にあふれています。授業では、光触媒や光触媒反応について基礎から説明します。そして、有機塩素化合物による環境汚染を取り上げ、その浄化技術としての光触媒反応の実用例や、今後の研究展開等についても解説します。	
	放射線の科学と応用	放射線は、現代物理学のさきがけとして現象であり、また現代物理学の発展につれて詳しく分かってきた現象でもあります。放射線を放出するラジオアイソトープはどんな性質を持っているか、またその起源はどこにあるか、宇宙や物質の根源との関わりはどうなっているか、考えます。その後、応用的な観点から、身の回りの放射線、環境放射線のこと、放射線の医療や工業における利用、原子力エネルギーなどについて講義します。最後に、放射線を目で見る実験をします。	
	地球温暖化に対応するブドウ育種	果皮が着色するブドウは気温が高すぎるときれいな色が出ず、商品価値を落とす。一方、近年の地球温暖化により、着色不良となる地域が全国的に拡大・北上している。日本には15種類の野生ブドウが自生しているが、利用、栽培されているものは極めて限られている。その中には亜熱帯の沖縄に自生しているものもある。そこで、これらの野生ブドウの特徴を解説するとともに、南方系野生種の可能性について述べる。	
	我々の生命・生活と酵素	複雑な生命現象も、その全てが「酵素」の関係する巧妙な分子メカニズムの上になりたっている。また、酵素は生命現象に関与するだけでなく、食品や洗剤など我々の日常生活において身近なところでも利用されている。本科目では、我々の体の中の酵素や身の回りの酵素を例に取り上げ、その働く仕組みを学ぶことにより「酵素」に関する理解を深めることを目的としている。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (自然と環境)	植物のかたち	普段なにげなく見ている植物も、よく見ると様々な形をしています。動物と違って移動することが困難であるにも関わらず、現在まで種を維持し、生存している植物では、その様々な形にそれぞれ理由があるはず。本講義では、高等植物のかたちを外または内側から眺め、植物のかたちとその機能との関係、および植物の生命活動におけるそのかたちの意義を考えます。	
	現代の宇宙像：最新の観測から	最新の観測結果を紹介しながら、現代の宇宙像について解説する。	
	船舶海洋工学概説	陸地を離れた海上における人間活動には船舶、海洋構造物が不可欠である。これらは海上の過酷な自然環境下で目的とするミッションを達成するために建造される。この講義では、船舶海洋構造物の紹介から始め、歴史的変遷、現在どのように設計建造されるかを概説する。併せて海上活動に伴う海洋環境影響に関する法律、条約などの規制についても紹介する。講義では実例を多く交え具体的なイメージの提供に心がける。	
	自然の理解	- 地球大気と極低温 - 地球大気である窒素、酸素、二酸化炭素、ヘリウムガスを使って地球大気圧を実感する身近な実験、極低温の液体窒素を使った様々な実験や超伝導の実験等をしながら環境やエネルギー問題を考える。又、NPO法人科学の公園の理事長である講師の体験を基に科学の啓蒙・普及活動の実践・取り組みを報告する。これらの事を踏まえ受講生に実際にいくつかのおもしろ科学実験を自ら体験してもらおう。	
	地球環境と森林保全	地球温暖化防止には様々な取り組みが必要である。森林は大気の二酸化炭素を吸収固定し、木材資源を供給し、さらに災害防止、国土保全、水源涵養など多様な環境保全機能を有する。適切に森林を管理し木材を利用すれば、化石燃料とは異なり大気の二酸化炭素を増やさない。これらの森林の機能について理解を深め、熱帯途上国や我が国の森林・林業の実態を紹介し、都市緑化まで幅広く森林・緑地環境造成について解説する。この科目は、旧専攻「自然の理解」に該当します。	
	日常生活における光技術概論	私たちは日常生活において数多くの光技術（照明、携帯電話、テレビ）を利用している。本講義では、光に関する基礎知識を学んだ後、発光ダイオード、光ディスク、太陽電池等の仕組み、応用例について、解説しながら展開する。できるだけ具体的、体験的に理解できるようにビデオ視聴、参加型学習の形態を取り入れていく。	
	土の化学	土壌は、養分と水を供給することによって植物の生育を助け、生物遺体有機物の分解など化学反応の場となることによって各種元素の循環を進めています。土壌が持つこれらのはたらきを化学の視点から理解することが授業のねらいです。土壌が生成する過程で生じる化学的な変化、養分および水の保持と供給の原理、土壌中で進行する生化学反応とその結果生成する温室効果ガスなどについて講義する予定です。	
	統計入門	様々な実験データをもとに必要な情報を分析する統計的手法の基礎的事項について紹介します。主な内容は、取り扱う統計的解析に必要な確立、特に確率変数、ガウス分布などについての基礎的事項を学習した後、様々な推定、検定の方法及び分布分析などの統計の基本的な手法について紹介致します。	
	宇宙とブラックホール	星の進化の最終段階において形成されるブラックホールや活動銀河の中心に存在する太陽質量の約1億杯にも及び超大質量ブラックホールの姿を概観するとともに、ブラックホールまわりに形成される降着円盤を介すると、重力エネルギーが有効に開放され、銀河の活動が維持されるということに及ぼす。	
	地球と水2	2007年12月に第1回アジア・太平洋水サミットが大分県別府市で開催されました。サミットで明らかになった課題解決を学生の皆さんと考えるために次の項目順に講義を組み立てます。〔1〕アジア太平洋及び世界の水問題〔2〕水圏における水の分布〔3〕水の循環と気候〔4〕天然水の水質〔5〕日本の川、世界の川〔6〕水と災害	
	星と星座の物語	季節ごとに見える夜空を写真やシミュレータ画像で示しながら、そこに見える星座とそれらにまつわる神話や民話のいくつかを紹介する。また、それらの星座に含まれる代表的な星の実際の姿について、最新の観測結果をもとに紹介する。本講義は、夜空を眺める機会を増やすことを第1の目的とする。更に、子供たちと一緒に空を眺め、星座や星について簡単なお話ができるようになることを目指す。	
	環境問題と自然エネルギー活用	温暖化現象は、地球上のすべての生物の撲滅を示唆する危機的状況を生み出している。温暖化の主な原因は、産業革命以降発生した温室効果ガスが原因であるといわれている。従って、化石燃料の代替エネルギーとして、自然エネルギーの活用技術は、緊急に開発・活用される段階に達している。本講義では、温暖化から発生する様々な環境問題を解説し、自然エネルギー活用技術について概説する。	
	生物地理学(世界・日本・琉球)	世界は生物相の特徴から六つの生物区に分けられています。それぞれの生物区の違いと共通性を学び、次に日本列島の生物相の特徴を、生物群ごとに北海道から琉球列島に移動しながら学びます。さらに、東洋のガラパゴスと呼ばれる琉球列島の生物相の特徴を知り、どのような理由で今日ある自然が成り立ったのかを理解しようというのが授業内容です。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	生活の中の科学実験	私たちの生活の中で身近に目にする現象をモデルとして、ものを作ったり、計測して、自然現象の基礎原理を理解します。具体的には、「さびの実験」「熱伝導実験」「氷の融解実験」および「センサの実験」の4テーマの実験を行い、私たちの活動と自然環境を考えます。	
	地球環境と触媒作用	食物の消化における酵素のはたらきからオゾン層破壊における塩素の作用まで、触媒作用は多くの自然現象にかかわっている。人工的に合成した触媒は、化学工業になくてはならないものである。本講では、大気圏における三大環境課題（オゾン層破壊、酸性雨、地球温暖化）について、その発生要因から解決に至るまで「触媒作用」という切り口で解説する。	
	地球温暖化とクリーンエネルギー	地球温暖化は重要な問題です。その現状を具体的なデータを用いて説明し、温暖化を抑制するためのクリーンエネルギーの開発などについて説明します。具体的には、二酸化炭素の貯留と固定化、バイオ燃料、燃料電池、太陽光発電、宇宙太陽光発電、風力発電、海洋温度差発電等について概説します。ローエネルギーハウスの見学も予定しています。	
	生活密着型教材の化学実験2	日常、健康で、快適な生活を送る上で考えなければならない事はたくさんある。嗜好品である、「たばこ」やお酒（エチルアルコール）、食品添加物など身近な題材を用いて、どんな化学反応（変化）が見られるか、簡単な実験を通じて、健康を考えてみては如何でしょうか。怖い、でも止められないのが嗜好品なのでしょう。この実験が一考する機会になれば、と願いたい。	
	環境と食料	現代の食料問題は、治水問題、エネルギー問題と表裏一体の最重要課題であり、発展途上国だけでなく、先進諸国においても、地球温暖化に伴う異常気象と急速な人口増によって想像を絶するものとなっている。現代の食料問題は、資源、環境と密接に係わっており、食の安全性、生活習慣病、添加物や抗生物質の多様化・多用化、干ばつや洪水による災害など種々の事項を内蔵する。これらをもとに環境と食料の関係について概説する。	
	幾何学の歴史	我々の住んでいるこの宇宙はどんな形をしているのでしょうか。とりあえず我々が住んでいる地球はほぼ球面ですが、我々はまっ平らな平面のことを想像することができます。それでは宇宙全体はまっ平らな空間なのでしょうか、それとも球面のように丸い形なのでしょうか。ユークリッド以来幾何学は宇宙の形をはっきりさせようとしてきたとも言えるのです。そのような観点から幾何学の歴史をながめます。	
	日本の野生動物を考える	日本の野生動物たちは、いつ頃どうやってこの島国にやってきたのだろうか？また隣接した島でも動物相が違うのはなぜだろうか？といった生物地理学に関する疑問の解明を目指す。ついでわが国の主な野生動物の特長と保護管理上の問題点を順次概観する。さらに、これらの野生動物の生態、生息数などを知るための手法を学び、最後に人間と野生動物が共存していくために、我々は何をなすべきなのかを考えて行きたい。	
	古生物学の基礎	古生物とは、過去の地質時代に生息していた生物を指します。古生物は、その生存した証拠として化石を地層の中に残しています。化石とはどんなものか、それを研究することによってどんなことが解明されてきたか、研究の具体例をあげて古生物学の基礎を解説します	
	生活の中の物理	現在、地球温暖化問題やエネルギー問題が地球的規模で問題になっています。私たち一人一人が省エネルギーに努め、自然にやさしい暮らしなど生活スタイルを変える必要に迫られています。この講義では、「エネルギーとはなにか」、「エネルギーの発生と変換」など生活で経験することがらや自然現象などを例にとり話します。またいくつかの教卓実験を通じて講義を進めていきたいと考えています。	
	雪国の森林と文化	日本は世界有数の豪雪国であり、かつ森林国であることから、雪国と呼ばれる日本海側の地域の森林は、雪の環境と深い関わりを持ちながら生育している。また、雪国には古くから雪に関連した地域や文化・風土が存在し、それらは現在に引き継がれている。雪と森林のサイエンス、雪国の文化等に関する講義および体験学習を通じて雪と人間の共生について考えていただきたい。	
	土壌と自然環境と人々の営み	日本人はその自然環境に対応して、水稲作を発展させてきた。今では、畑作物栽培が盛んに行われるようになったが、それは、産業革命以降の化学肥料の開発によって実現したものであり、それ以前は、畑作物栽培が困難を極めた。その理由は、日本に自然環境下で生成した土壌の特性によると考えられている。本講座では、日本の水稲作の合理性を土壌の特性から説き起こして、土壌と自然環境と人々の営みのかかわりを考える。	
	地球と生命の歴史	本授業では、長い地質時代における顕著な生物の大量絶滅や爆発的進化などのイベントに焦点を当てて、地球環境と生命の歴史を学習する。1)先カンブリア時代における地球環境変化と初期生命2)エディアカラ紀の生物相と地球環境3)カンブリア紀の爆発的進化4)古生代末の生物大量絶滅事件と地球環境変化5)温室地球環境を示す白亜紀の地球環境6)白亜紀末の生物の大量絶滅事件7)温室地球から氷室地球環境への変化	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	森林に降った雨のゆくえ	人間と水との関係は古くから文明を支配してきた。現代においても、水資源、洪水や土砂災害などの自然災害、生態系の形成など、環境問題の基礎となるものである。陸域の河川を中心とした水循環に関する科学が水文学である。日本の水源地域は森林で覆われ、砂漠地域の流域とは水文学的な様相が異なる。この授業では、森林の水文学的な影響についての理解を深めることを目標として、山地での水循環に関係する様々な現象を扱う。	
	遺伝子から生命の謎にせまる	遺伝子やDNAという言葉が、テレビや日常会話にまで使われる社会で暮らすためには、それらが私たちの体の中で何をしているかを理解しておくことが大切だ。本授業では、遺伝子やDNAの働き、それらの働きによって細胞や個体がどのように維持されているかをわかりやすく解説し、医や食といった私たちの生活の中でどのように利用されているかを紹介する。	
	環境を守る微生物たち	微生物とは何か、微生物の基礎的な代謝と多様性、物質循環と環境問題、微生物による環境浄化（生活排水や産業廃棄物の処理、脱窒素、脱リンなど）、微生物によるエネルギー生産（メタン発酵、水素生産など）- 地球環境を守るために - などを行う。	
	科学技術が開く分子ナノワールド	20世紀は物質科学の世紀といわれ、21世紀は生命科学の世紀ともいわれている。その両者に共通しているナノサイエンスの基本を学ぶ。20世紀後半になって、分子の集合体で一体何が生じているか、集合体になるとその性質が何によって支配されるのかを詳細に調べようようになってきた。本講義では、有機デバイスとして知られる様になった「分子集団・有機半導体」を例にして、その性質と「電子」の役割、調べ方、その機能の利用について基礎を勉強し、一つの分子をデバイスに利用する挑戦など、近未来の可能性を展望する。	複数教員共同担当
	生物情報学実習	本実習では、DNA、タンパク質、遺伝子発現等をパソコン上で解析することを通じて、生命情報を整理・解析し、その生物学的意味を明らかにする方法と考え方について学ぶ。具体的には、DNAシーケンサーからの出力データ解析、遺伝子の相同性検索分子系統樹の推定、タンパク質の立体構造の表示、あるいは遺伝子発現量の比較解析を行う。	
	水の汚れを測る	河川水、湖水、海水などのBOD、カドミウムなど金属類、環境ホルモン、ダイオキシン類などの測定法と、日本や海外の濃度、これらの測定法に関するJIS、ISOなどの公定法、及び環境測定分析士などの資格試験について講義するとともに、河川水、海水についてphなどを測定する。	
	現代物理の話題（2）	1学期の「現代物理の話題（1）」の続きである。各トピックは独立した内容になっているので、この「現代物理の話題（2）」だけを単独に受講することもできる。2学期の（2）では主に、「物質の究極像と宇宙」と「生命現象における数理（複雑系の科学）」を取り上げる。	
	宇宙の不思議を探る2	物理学の目的は統一的な自然法則の探求である。自然を観察して、あるいは実験室で実験して多くの自然法則を学んできた。これらの法則も、まだ知られていない法則も、われわれの環境である宇宙に起因するはずである。もし、われわれが自然法則について十分な知識があれば、さまざまな手段によって観測されている宇宙の諸現象も、これらの自然法則によって理解できるはずである。この授業においては特に宇宙スケールでの物理法則について重点を置く。なお、この授業は第1学期の「宇宙の不思議を探る1」の続きであり、それを履修していることが望ましい。	
	多粒子系の物理と数値解析	日常経験する物理現象の多くには、多数の原子、分子が絡んでおり、熱の流れや対流、相転移などさまざまな形で、マクロな物体の運動に影響を及ぼす。近年、コンピューターの発達に伴い、さまざまな物理現象を数値実験で調べることが可能になった。本講義では、まずマクロな物体の運動に、どのように多数の分子、原子が関わっているかを理解し、その後コンピューターを使った多粒子系の解析について学ぶ。学習目標としては、多数の微粒子が関わる物理現象を理解し、コンピューターを通して多対粒子系の物理が我々の日常生活にどのように関わっているかを理解することを目指します。	
	生体内元素と金属錯体の化学	すべての物質は元素の周期表中の安定元素80余种からできており、我々の身体も周期表のほぼ第4周期までの約30種類の元素から構成されている。これらの元素が我々のからだの中で果している様々な役割を学ぶと共に、元素のグループごとの性質の概略とその由来・化学の基礎と元素の化学を学ぶことにより、各元素が生体内で果たす役割の必然性を理解する。また、酵素への活性賦与など、遷移金属元素が生体内で果たしている様々な役割を理解する上で基礎となる金属錯体の化学についても学ぶ。錯体化学と現代のハイテク社会との関連も紹介する。	
海面変動の要因	この授業では「海面を上昇・下降させる要因」を扱う。項目として列挙すれば、潮汐、海の波、海水の密度変化、海流と海洋大循環、大気圧と風、エル・ニーニョとダイポールモード等になるが、これらの現象に共通する原理に主眼を置いた講義をする予定である。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	物理学と実在	「力」「エネルギー」「熱」「音」「光」そして「波動関数」。物理学に登場するこれらの言葉は、何を表しているのだろうか。実在する「もの」なのか、「もの」の状態なのか、それとも物理学においてそのような区別は意味を持たないののだろうか。この講義では、力学、熱力学、電磁気学、量子力学等の中で、『実在』の概念がどのようにとらえられて来たのかたどってみる。高校レベルの物理学の知識を持って受講することが望ましい。	
	海水の動き	この授業では「海水はどう動くか、なぜ動くか」を講義する。項目として列挙すれば、潮汐、海の波、海水の密度変化、海流と海洋大循環、大気圧と風、エル・ニーニョとダイポールモード等になるが、これらの現象に共通する原理に主眼を置いて説明する予定である。	
	地球史	現在の酸素の多い大気・海洋、土壌や生態系など、地球の表層環境が地球の歴史の中でどのようにしてつくられ、維持され、また変動してきたかを学ぶ。地球型惑星のなかで地球だけが水惑星として存在し、生命が海で誕生し、進化し、大気に酸素を蓄積し、陸上へ進出し、多様な生態系をつくるのに至ったのかを、化石や地層の証拠から解き明かし、人類への進化の道のりを概観する。また、現代文明を支える石油をはじめとする化石燃料の形成、大陸移動、恐竜時代、氷床の消長など、地球史の個別の話題について扱っていく。	
	森林保全のための動物生態学	森林は、様々な生態系サービスを我々に提供してくれます。しかし、近年この森林及び森林を構成する樹木がマツ枯れ、ナラ枯れなど昆虫が関与した被害、シカによる獣害などにより、大きな被害を受けて衰退してきています。一方、森林に生息する動物は森林の更新に非常に重要な役割を果たしており、森林生態系の重要な構成要素です。そこで、森林におけるこれら動物との共生・共存について考えます。	
	楽しい天文雑学講座（２）	前年度は楽しい天文学シリーズ第1弾として、市販の参考書に紹介されたトピックのうち、主に太陽系周辺の話を紹介した。今年度はその第2弾として、太陽系の外、つまり恒星、銀河の世界までテーマを広げ、同書に提供されたさまざまな話題を分かりやすく解説する。現代天文学によって解明された数々の成果を通じて、科学的な楽しさ、面白さを味わっていただきたい。	
	地震、北陸地方はどうか？	内陸地震の発生が認められ、活動期との指摘がなされています。北陸でも一昨年、能登半島沖地震（M6.9）が発生しました。授業では、北陸地方の地震発生メカニズム、発生予測の考察等を行います。特に福井県については、強震動の発生、震度異常についても言及するつもりです。なるべく難しい表現はさけ、興味を持って頂けるよう研究の現状等を例に挙げ、お話できればと考えています。多くの方々に受講して頂ければ、幸いです。	
	放射能・放射線の基礎とその利用	放射性物質や放射線は大変身近な存在です。また、それらは広い分野で利用されています。しかし、普段私たちはその存在を気にすることは余りありません。この授業では、放射能や放射線の基礎と、身近な放射性物質や放射線に関して学びます。また、放射性物質や放射線の利用に関して解説します。特に医学分野での利用（粒子線癌治療など）に関する解説は丁寧に行います。	
	食用植物の特性と効能	食は生命の根源であり、食の質と寿命は関連します。世界最長寿国である日本人を支える和食は、栄養バランスの優れた理想食といわれています。現在、日本各地で和食を食育とした生活習慣病対策が実施されています。そこで我々の身近にある野菜、果物、雑穀類、山菜、海草などについて、歴史、特性、効能などを一覧することにより、食生活と健康との関わりについて考察します。	
	ゲノムと進化	近年、遺伝情報についての研究は大きく進展し、ヒトゲノムを筆頭に多様な生物のゲノム解析が進行しつつある。本面接授業では、最初に我々の設計図ともいえるヒトゲノムの概要を解説し、さらに遺伝子の変異に基づく進化の様相について明らかにしていく。また、遺伝子配列の比較によって、生物進化の経路を再現する方法についても取り上げる。	
	こころの化学と情報	こころは、脳とからだによって生み出されると考えられています。ここでは、様々な生体分子などの化学物質が働いており、また様々な神経系の細胞のつながりによって、記憶や情動といったはたらきが生まれています。化学物質という（モノ）と、細胞のつながり、すなわち情報のネットワークという（コト）とが、様々な絡み合いながら脳と身体が働いている、という視点で、こころというものを見つめなおしてみます。	
	乾燥地の農牧業から考える	恐れていた世界的な食料の奪い合いが、とうとう始まった。今後ますます事態は悪化すると懸念は大きく、わが国としては極端に低い食料自給率の増大に加え、食料の持続的な輸入が保障されるよう、世界的な食料生産の安定化に向けた貢献が求められている。特に、広大な面積を占める乾燥地での農牧業の影響は国際的に多大であることから、これまでは無関心であった乾燥地農牧業の実態を学び、日本農業の将来を考えたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (自然と環境)	地球環境を考える	今や地球環境は病んでいます。地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨など環境問題がたくさんあります。環境にやさしく、持続可能な社会をいかに築くかは重要なテーマです。人間が出した廃棄物や排出物による汚染が、身近な生活環境に悪影響を及ぼしています。環境問題を科学的に考える力をつけたいものです。グリーンケミストリーという新しい視点から、21世紀におけるよりよい化学と環境、エネルギー、物質の関係を考えましょう。	
	高山植物と自然環境	静岡県には富士山や南アルプスなど標高3000mを超える高山がいくつか存在する。これらの高山に分布する高山植物は厳しい環境に適応して、長い間生育してきた。これらの山の高山植物が極限環境にどのように対応しているかを解説し、生物の「生き方」について理解を深める。これに加え、地球上の高山植物(アンデス、ヒマラヤ、キリマンジャロ)および極地の植物(北極、南極)についても比較参考資料として説明を行う。	
	環境の変化と昆虫相の関係	時間経過による環境変化のほかに人為的な環境変化により昆虫相は変化する。わが国は世界でも稀にみる、多くの種類の昆虫が生息し大きな生物資源である。昆虫によるトラブルもあるが、身近な昆虫を観察することにより我々を取りまく環境がどのようななっているかを理解することができる。環境の変化に伴う昆虫相の変化を理解するとともに、人間生活の好適な環境とは何かを模索する。	
	医薬品のやさしい化学	人類は天然から薬になるもの(主に薬草)を見つけ出し、利用してきた。次いでそれらの有効成分を抽出して化学構造を解明すると共に、化学合成で有効成分を人工的に生産したり、さらに効き目の良い薬を作り出すことを考えた。したがって薬の効能と化学は切っても切れない関係にある。医薬品の効能と化学について、主に化学的な観点から学習する。	
	科学的リテラシーとは何か	これからの知識基盤社会において、日本の科学技術を改善・改革していく必要が認識されている。本授業では、科学技術教育の改善・改革の基盤となる考え方である、「科学的リテラシー」を取り上げ、これが意味する内容を、一つ一つ吟味し、日常生活との関係を捉えながら、「新しい科学的知識や新しい技術が生まれる」ための戦略や、論理的で総合的な判断力を身に付ける基礎について学習する。	
	細胞の情報処理のしくみ	生物体を形成する細胞はそれぞれの組織で驚くほど正確に目的に情報処理を行っている。感覚器官をもたないたった1個の細胞でどうしてこのようなことが可能なかをわかりやすい身近な例をもとに説明する。また1個の細胞から多種類の細胞へと分化する仕組みについても説明する。	
	地球の進化	キーワードは、「ゆっくりと」そして「突然に」です。地球は、46億年という長い時間の中で変化を続けてきました。地球温暖化が問題となっている現在よりも遥かに温暖な「温室地球」とも言うべき時代がありました。また、逆に世界の海が完全に氷結した時代もあったようです(全球凍結仮説)。これらをはじめとする様々なイベントが、ゆっくりとした地球の進化にどんな影響をおよぼしたのでしょうか。そんなことを中心にお話します。	
	物質をはかる - 現代の機器分析 -	「機器分析」はさまざまな過去に何度もその手法開発がノーベル化学賞を受賞している。日進月歩の分野であり、かつ、環境衛生、医療、食生活から犯罪にいたるまで、ありとあらゆる分野で利用・応用され、実生活にも密接にかかわっている。本講義では、現在用いられている機器分析の手法について、その原理といかなる分野で利用されているのか、何の測定にもちいられているのかについて解説し、その理解を深めることを目的とする。	
	物理学実験	いろいろな物理現象の主役である電子と光の性質を明らかにする実験を行う。電子の電気素量の測定、プランク定数の測定、電子の電荷対質量比の測定、レーザー光波の干渉性の確認、強磁性体の履歴現象の観測を予定している。各学生は期間内に2つのテーマを選び実験する。具体的な実験は複数の相棒とチームを組んで行う。学生はあらかじめ大学が高校の教科書を参考にして実験の意味を理解しておくことが望ましい。この授業は、岐阜及び静岡、三重学習センターと合同で愛知学習センター理科実験室において実施します。	
	環境汚染と浄化の科学	現代社会は、非常に多くの化学物質の利用によって成り立っていますが、良かれと思って使い始めた化学物質が、後になって環境汚染物質となる場合が多くあります。例えば、食糧生産に必須の窒素・リン酸肥料が水系に流出した結果起こる富栄養化や清潔な暮らしを確保する中性洗剤の起こすホルモン作用などです。これまで、人の健康や生態系影響が発覚する度に、様々な浄化対策がとられてきました。この講義では、このような環境汚染とその浄化をめぐる科学について解説します。	
物理へようこそ	物理の基礎を、日常生活で使っているもの、目や手に触れる現象、安全措置などを通して会得します。真に会得するには、実際に自分で体験することが一番です。現在開講中の「初歩からの物理学」にそって、実験と演習をやりながら、物理の核に触れましょう。どんな実験をするかは、事前に(登録者数確定後)連絡します。身の回りの材料を使ってやりますので、自分で用意してください。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	やさしい機構学	我々の生活の中には、自動車など様々な機械があり、知らず知らずのうちにそれらの機械を使っている。機械は多数の部品の集合体で、その組み合わせや形状によって必要な動きを生み出す。機構学は機械に必要なその動きを実現するための仕組みに関する学問であり、リンクやチェーン、歯車など機械を構成する基本要素の理解を深めることができる。	
	身のまわりの熱と流体	私たちは水や空気といった流体に囲まれて生活しています。これらの流体がどのような性質を持っているのかを講義する。また、同じように熱がどう伝わるのかについても、身のまわりにある実例を挙げながら、その特性を講義する。これらによって、熱や流体の効率的な使い方についても理解する。	
	里山と私たちの生活	里山は人と自然が多用な形で関わっていた場所であり、人と自然との共生の場であったと言うこともできるでしょう。里山の歴史をふりかえり、現代社会における里山の意義について考えてみたい。講義のみでなく、身近な里山（龍谷の森）に入り、観察を行うとともに、里山保全の活動を体験する。	
	果樹の生殖生理	「モモクリ3年カキ8年ユズの大馬鹿19年」といわれているように、果樹は種子から育ててもなかなか花は咲かず実がとれません。又、とれたとしてもその実が親と全く違うこともしばしばです。この講義では、果樹の花芽分化から果樹の成熟に至るまでの生殖生理に関する問題について幅広く学習しましょう。	
	太陽黒点活動と地球気候変動	今年は、ガリレオが望遠鏡を木星や太陽などの天体に初めて向けてから、ちょうど400年目に当たる記念すべき年で、世界天文年と名づけられています。この時から続いている太陽黒点のスケッチは、自然現象の科学的記録としては最も古いものです。京都大学飛騨天文台の望遠鏡で、太陽黒点や紅炎など、太陽の素顔を観察して、太陽磁場の働きについて考えます。また、太陽黒点数の増減と地球気候変動の因果関係についての最近の研究を紹介します。	
	海洋と地球環境	地表の2/3を覆う海洋は、地球環境の重要な部分である。その海洋環境に人間活動は様々な影響を与え、海洋生態系は大きく変わりつつある。しかし海洋生態系を保全する必要性は、座学だけではなかなか理解できない。この実習では、多様な海洋生物を観察し、その豊かさを実感して、地球環境問題を見直すきっかけを提供したい。	
	大学博物館と教育・研究	一般の博物館や美術館では、ある程度評価の定まった(文化財的な)資料を収集・保存・展示することが主目的になりますが、大学博物館が対象とする資料は、大学の研究者が教育・研究のために収集した「もの」で、その価値は専門家にしかわからないものが大半になります。阪大にはそのような学術標本が166万点もあるとされています。その学術標本を展示公開するとともに、教育研究の成果を社会に発信することが大学博物館の重要な任務となります。具体例を通して大学博物館を紹介します。	
	よくわかる基礎物理学	現在、宇宙や地球環境、エネルギー資源等の問題は専門家のみならず一般市民への課題でもある。多種多様な自然、環境情報を総合的にまとめ、考察して適切に対処することが求められている。本授業ではこれらの課題を前にして、物理学独自のものの見方、考え方について、基礎に重点を置いた解説をする。	
	マルチメディア情報処理入門	DVDレコーダー、プラズマTVに代表される情報家電分野を始め、携帯電話、インターネットに代表される情報通信の分野、さらには音楽、映像制作等の芸術の分野においても、マルチメディア処理が不可欠な技術となっている。本講義は簡単な情報理論から始まり、言語・音楽・画像情報の考え方、さらにそれらのデジタル記録方法、加工方法、身近な応用例までを講述する。	
	エネルギーの目で見ると地球環境	太陽系における地球上でのエネルギーや物質の移動や循環、エントロピーの生成や排出の理解に欠かせない既知の物理法則を解説し、それに依拠しながら現在地球で起きていることを、自然科学の立場から捉えて行きたい。エネルギーの物理量としてのきちんとした定義を提示し、その理解に基づいて、地球上の諸現象を考える枠組みを提供する。成績判定は授業への出席状況を重視して行う。	
	里山の生態学	近年、里山が利用されなくなり、管理放棄されるようになった。そのため里山林が遷移し、常緑化が進み生物多様性も低下してきている。本講義では、生態学の基本的な事項について述べ、身近な里山をテーマに、里山の歴史、植物群落の変遷、森林の果たす役割、植物群落と環境、生物多様性について講述し、里山の保全について考えてもらう。時間が許せば野外での植物観察も行う。	
	身近な量子の世界	現代の物理学では、一般に、ミクロ（極微）の世界-原子やその構造-を考察します。そして、その現代物理学の発展は最先端技術の革命的な進歩を促し、半導体、磁性体、レーザー、超伝導などの大きな成果をもたらしてきました。本授業では、その極微の世界を支配する「量子」の概念を平易に解説するとともに、それを用いたさまざまな応用、例えば電子レンジやレーザーなどの原理、エックス線発生機構、超伝導の原理とその応用など、を紹介していきます。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	環境と生物 - 生態学入門	多様な生物たちは、さまざまな環境条件に巧みに適応しながら生活している。それぞれの種がもつ生活様式を知ることから環境との関わりを理解を深め、次いで複数の種が競争や共生関係の中で、どのように共存するのかを明らかにしてゆく。その知識に基づき、生物の集まりである群集と生態系がどのように成り立っているのかを考える。以上の内容を踏まえ、近年の生物多様性の危機と保全生態学の課題を紹介する。	
	身の回りの分子の成り立ちと働き	身の回りには物質はすべて化学物質から成り立っています。その性質や反応性はその構造を理解することにより明らかになります。本講義では、物質の構成単位である原子や分子がどのように生まれたのか、それらを見ることはできるのか、また、どのようにしてその形や性質がわかるのか、さらに、身近にある分子はどのように働いているのか、などに焦点を当てて解説します。	
	個体群と群集の生態学	個体群生態学、群集生態学が扱う以下の項目について、その基本的な考え方と最近の研究成果を講義する。個体群動態、生命表、密度効果、生活史戦略、種間関係、群集の構造、多様性と安定性。	
	自然を保護する環境学	本講義は、地球規模で起こっている自然破壊の実態を紹介し、次世代によりよき自然環境を残すためには、どうすればよいか受講者自らが考える講義である。実際にフィールドに出て、どういったものが、どういった状態であることが、自然破壊となってしまうのかについて自身の目で確かめ、自らが自然保護の方法について立案できるようになることを目標とする。	
	高野山の植物観察とスケッチ	高野山は信仰の聖地であるとともに、野生植物の宝庫としても知られており、昔から多くの植物学者が高野山を訪れ、植物調査を行ってきました。発見された新種は「高野」の名がつけられ、今もなお、人々の研究心を惹きつけています。この科目では、実際に高野山を歩きながら森林内の植物観察を行うとともに、植物分類学研究の手法として用いられる精密描写の習得を目的とします。	
	人体と宇宙	この授業を通じて受講者の皆さんは、人体の不思議に出会います。まず初日、「地球の環境の中でヒトはどのように進化し、どのような機能を獲得したか」、そして「運動をしたり病気になったりすると、身体にどのような変化が生じるのか」といったことを学びます。二日目は、「地球環境と宇宙環境はどう違うか？」さらには「ヒトは宇宙で快適に暮せるか？」といった問題を一緒に考えてみましょう。	
	地球温暖化と地球環境の変遷	現在の地球温暖化は、人為的二酸化炭素濃度増加による効果と自然のバックグラウンドレベルの変動が重なって進行しています。もし人為的效果がなかった場合には、現在の気候はどのようなトレンドで変化しているのでしょうか。この講義では、気候変動長期予測の基礎となるミランコビッチサイクル等の理論と、併せて過去の地球環境変遷の実例を紹介し、地球をシステムとして理解する方法を修得します。	
	生きものの不思議な世界	この講義では、私たち「生物」とは一体何なのか、生物は何からできているのか、生物はいつどのように誕生したのか、またどのように進化してきたのか、今後どこに向かっているのかなど、私たち「生物」に関わる基本的な疑問について、現在までに得られた知識やトピックスをまじえて紹介します。	
	進化とは何か	19Cの中頃、ダーウィンはガラパゴス諸島での観察に基づいて生物の進化の概念を提出した。それは、自然淘汰・適者生存等の現象に基づくものである。この講義では先ずガラパゴス諸島における生物の実態を述べダーウィンの考えを紹介する。そしてDNAなど遺伝・進化に関する生物学上での画期的な発見等を軸に進化論の変遷を追って「進化とは何か」を広い視野で深く考えてゆく。	
	物理の考え方	人々が自然を眺めるとき、何を感じるかは一通りではありません。夜空の星をみて単純に美しいと感じることもあるでしょう。一方、星の動きに興味を持った時、物理学の世界に近づくことができます。物理学は自然の理解の一つの手段ですが、同時に人間の感性の上に成り立つと考えることも大切です。このような観点から物理学と私たちの係り合いについて考えてみます。この科目は、旧専攻「自然の理解」に該当します。	
	細胞と遺伝子	われわれの体は、細胞という小さなユニットで構成されています。おのおのの細胞の中には遺伝子が存在し、その細胞の性質を決定しています。では遺伝子はどのようにしてはたらくしているのでしょうか？本講義では、まず細胞の構造や分裂のしくみを解説します。次に遺伝のしくみと遺伝子について学びます。この講義を通じて、細胞や遺伝子・DNAという単語を、自分の言葉で説明できるようになることを目的としています。	
	環境汚染と浄化	世界的に広がっている環境汚染、特に有害重金属による土壌・地下水・河川などの汚染の実態、そして、現在行われている浄化技術、特に植物による環境浄化技術（ファイトレメディエーション）について現状と課題を解説する。	
	日本の自然環境	日本の風景には、「（地殻）変動帯」「温帯湿潤気候」「島嶼」という自然条件が反映されている。そうした自然条件を背景に営まれる人間活動もまた、風景の重要な構成要素でもある。本授業では、日本の風景を構成している自然条件と伝統的な人間活動の関わりに留意しながら、自然地理学的な視点と基礎知識を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	確率入門	高校の確率から復習します。確率の計算のみならず、確率変数・期待値（平均値）・分散を修得します。また、統計で重要な正規分布の性質などを理解します。次の内容を講義します。1. 順列と組合せ 2. 確率とその計算 3. 条件付確率 4. 事象の独立 5. 確率変数と平均値・分散 6. 2項分布とポアソン分布 7. 連続型確率変数 8. 正規分布 9. 複数の確率変数と独立同一分布。	
	地球温暖化と土佐湾生物の変化	土佐湾は、1960年代より現在に至るまでの間に、年間の平均水温は、約1 上昇した。そのために、海藻や魚類などの多くの重要な水産資源が減少した。一方、南方系の海藻が多く繁茂し、サンゴ類が多く生育するようになり、各地で広いテーブルサンゴ域がみられるようになった。魚類では、海藻類を食べる藻食魚、特にアイゴの仲間が多く蛸集して海藻群落に壊滅的な影響を与えている。そこで、藻場や水産資源の回復事業が、国策として積極的に行われ始めた。これらについて解説する。	
	身近なマメ科植物の特徴と利用	この授業では我々の生活に欠かせない身近なマメ科作物（大豆、小豆、落花生等）の生理・生態的な特徴と、食料となる豆の栄養成分についての基礎知識について講義を行うとともに、地球環境やエネルギー、遺伝子組換え作物といった近年話題になっている諸問題とマメ科の作物との関連についての解説を行う。また、講義内容の理解を深めるため、マメ科作物を用いた簡単な観察や実験を行う。	複数教員共同担当
	環境浄化・資源化と微生物	環境浄化や排水処理、有機廃棄物の資源化（生ごみの堆肥化、生ごみからのバイオガス発電）に関する微生物について、具体例を多数示しながら解説する。特に佐賀県は、この分野で先進的な取り組みが、企業、NPO、大学などで進められている先進県である。石油分解菌による海洋・土壌の石油汚染浄化、油脂分解菌による厨房排水の浄化、乳酸菌飲料の容器を利用した水浄化などの実例も紹介する。	
	地球大気の特徴と地球温暖化	まず地球大気および地表面の基本的な特徴や性質（気温、風系、降水量、水蒸気、植生タイプ等の分布）を概観した後、人為および自然起源物質による大気汚染の状況や二酸化炭素等による温室効果の原理について説明し、最後に地球気温の過去（様々な代替物による復元結果）と未来（コンピューターによるシミュレーション）について議論する。また、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の内容についても触れる。	
	発生生物学	多細胞生物における、発生、分化のメカニズムの解明はショウジョウバエにおける発生遺伝学にリードされて、近年著しく発展している。発生の基本メカニズムはショウジョウバエから哺乳類まで基本的に同じであるという認識に至っている。ショウジョウバエと脊椎動物の発生のしくみについて学び、ボディープランや器官形成の原理についてその分子メカニズムを学習する。	
	人々の暮らしと緑の世界	地球規模の食料不足や温暖化は、生態系の荒廃や森林機能の衰退によるものです。また、都市域での生活水の涸渇化、大気汚染、ヒートアイランド化、火災や水害等の災害、精神的ストレスの蓄積等々の緩和・解消に生活域の緑化が不可欠です。そこで、本講義では、日常生活を安寧に過ごすための森や草原のあり方を講義や観察実習を通して探求します。	
	生命とは何か	生命現象を理解する上でもっとも重要なのは、物質とエネルギーの交代について理解することである。生物であるならば、何らかの形で物質やエネルギーを取り入れ利用している。この機能を可能にしているのが、様々な有機物である。生物はこれらの有機物で正確な設計図を描き、それに基づいて様々な部品や精緻な機械を作成している。講義の中でこれら生命現象に関わる有機物の構造と働きについて詳しく説明する。	
	きのこが地球環境を守る	地球の生物圏には多くの生物がいるが、これらの生物はその栄養のとり方によって、植物、動物、菌の3つに分けることができる。植物は光合成によって自ら栄養（有機物）を作り出す。動物は植物の作った有機物を食べて栄養をとる。菌はあらゆる生き物や有機物に寄生して、有機物を分解吸収し、栄養をとる。この3つの生物群の活動によって、生物圏は常に物質が移動し、廃棄物のない環境を作り出している。そして特に、菌の役割に焦点をあてる。	
	遺伝子導入作物とは？現状と未来	食料生産の救世主として、登場した遺伝子導入作物は日本では多くの消費者の非買運動のため排除する傾向が強かった。世界的に見るとそれらの生産は年々増加している。現在は、異常気象やバイオ燃料の原料として、改めて強い関心が持たれている。本講義では、遺伝子導入作物の誕生の歴史的背景、作り方、現状と問題点、未来の可能性について分かり易く説明します。	
アジアから見た沖縄の海	沖縄の海の生態系を構成する様々な生き物の多くは東南アジアと共通した種類です。また、島嶼である沖縄の海の特徴を理解するには大陸との対比が有効です。この科目では、大陸を含めた東南アジアの海辺に生息する生き物、それを利用して生きる人間の生活に関する具体的な事例を多く取り上げ、沖縄の海の特徴を理解する視点を培うことを目指します。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（自然と環境）	雑草の使命と役割	雑草は、長年の環境ストレスに耐え、生き抜いてきた耐性を備えており、それを遺伝資源として生物産業に活用しようとする位置付けは、極めて重要である。今、地球規模の温暖化の軽減、地球環境の保全、持続型農業の推進等々、雑草を取り巻く諸問題は山積し、雑草科学の役割と使命は大きな期待を担っている。今回の講義は、まず雑草の利用化の概念を述べ、次に国内外における利用化の実態を紹介し、将来の展望へと話を進めたい。	
	ハブと海洋生物による被害	沖縄県には出血毒をもつハブが生息していて、毎年、100人前後の咬症患者が発生している。今回、ハブの生態、毒性、血清病、咬まれた時の応急処置、ハブ対策などについて述べたい。沖縄を訪れる観光客は年間500万人を突破し、それに伴い海洋生物による被害も増加しているが、その実態は不明である。沖縄の海を満喫するために被害を及ぼしている海洋生物の生態、毒性、刺傷した時の症状、応急処置、治療法について紹介したい。	
総合科目	変動する社会と暮らし（07）	科学技術の高度化、情報化、急激な少子高齢化、経済社会のグローバル化など、社会の大きな変革のもとで私たちはどのような生活設計が可能なのか。科学技術、情報技術の進展によって利便性、快適性もたらされている反面、暮らしのさまざまな領域におけるリスクが大きくなっている。こうした状況下において、「消費者保護基本法」が改正されて、「消費者基本法」が施行され、消費者を保護する立場から自立を支援する方向に重点が移されているなど、自己責任の比重がますます大きくなっている。この実態を、食品、生活用品、住居、契約・取引、貯蓄と投資、働き方、健康および保健・福祉などの暮らしの各分野から解説する。	複数教員共同担当
	国際共生に向けた健康への挑戦（08）	アジア各国を対象として、「共生」しているという観点から、人々がどのようなヘルスケア・システムの中で生活しているのか。どのように課題に挑戦しているのか。また、経済、政治の各面でわが国との関係がとくに深いアメリカにおける健康づくりはどのような現状にあるのか。国際保健推進の世界の拠点機関であるWHOでは、どのような挑戦がすすめられているのか。 講義は、そのような観点をもとに、現地取材をふくめ、現状の報告を中心にすすめたい。	複数教員共同担当
	社会福祉における権利擁護（08）	本教材は、社会福祉の世界において当事者の権利を守るという視点だけでなく、社会福祉の権利を創り出すという視点から、人権概念・権利概念を再検討するとともに、現代的な権利侵害に対する解決方法を考え、権利侵害の予防に役立つ実践的な課題にも応えようとする。介護保険法について2005年に大きな改革があり、同年、障害者自立支援法が成立している。このような制度改革と事業者、国家・自治体の政策責任、市民の権利との関係について議論する。この教材は、社会福祉利用者・従事者ばかりでなく、看護職、法律職などの関連職種、一般市民にも役に立つものとなるだろう。	
	欧米の社会福祉（07）	少子高齢化の進行による福祉ニーズの拡大と経済停滞下の財政難に直面して、欧米の社会福祉は大きな転換をせまられている。福祉国家体制を超えた社会福祉システムの構築を目指す欧米各国の現状と課題を明らかにする。更にヨーロッパ連合等でとりくまれている国をこえた福祉政策の動向についてもとり上げる。	
	進化と人間行動（07）	人間は明らかに生物界の一員であり、霊長類の中の一つである。しかし、社会通念としては、人間は他の動物とは異質な、あるいは超越した存在であるともみなされる場合がほとんどである。しかし、実際のところ、人間と他の動物との間の断絶はどれほど深いのか？ われわれが進化的な存在であるとするれば、現代人は進化的過去をどのように背負っているのか？ この講義では、一介のサルにすぎない「ヒト」と、テクノロジーを携え無数の文化を花開かせて、地球の征服者にのし上がった「人間」の間に横たわる諸問題を、進化と適応という観点から考えていきたい。	複数教員共同担当
	Political Economy of Japan（10）	この科目は、英語を使いこなせる視聴者、英語を使う必要のある視聴者、および英語を学習中の視聴者を対象として、現代日本の政治経済について英語で講義する。 取り上げるトピックは、日本経済の国際比較、高度成長期から低成長期までの日本経済のマクロ成果、日本の家計貯蓄行動の変遷、日本の金融市場、技術進歩と生産性、情報・バイオ・エネルギーなど先端技術の動向、日本社会の安全安心、中国と東南アジア、持続的成長の可能性など。	
	消費者と証券投資（07）	日本の金融システムは1990年代以降、グローバル化と度重なる制度変更によって大きな変化を遂げてきました。他方、日本の家計部門は安定的な経済成長の中で高貯蓄率を維持しながら、金融資産の蓄積を進めてきました。いま少子高齢社会の到来を迎え、社会保障制度も改革が迫られている中、消費者はどのような金融市場を活用した資産運用を心がければよいのでしょうか。この科目では、社会人にとって不可欠な証券投資の問題を、消費者の生活設計の視点から考えてみることにします。	複数教員共同担当
	途上国の開発（07）	この講義の目的は、開発途上国と呼ばれる生活水準の低い国が未だに世界に100カ国以上存在し、いろいろな問題に直面していることを理解し、途上国に興味を持ってもらうことです。講義は、途上国の現実の紹介とどうすれば生活水準がベターになるかの解説を平行して進めます。どちらが欠けても望ましい理解は期待できないからです。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	幸福の社会理論 (08)	現代社会に生きる人間の「幸福」および「不幸」のあり方について、今日、さまざまな論議がなされています。本講義では、「幸福」と「不幸」の客観的状況と主観的状況、ならびにそれら相互の間関係について具体的に明らかにし、その問題点を明らかにするとともに、将来のあり方について考察しながら、「幸福の社会理論」の構築を目指します。	
	地球的課題と法 (10)	現代においては、主権国家の並存関係を基礎にした伝統的な国際法では捉えられない様々な地球的課題が山積してきている。気候変動(温暖化)、経済のグローバル化、貿易と環境・労働など国際レジーム間の軋轢、国際テロ活動の抑圧、国際刑事裁判、平和構築・大規模破壊兵器の拡散防止、人権問題の普遍化など、具体的な問題を取り上げて、新たな国際法がどのような方向に進みつつあるかを展望する。本科目は、国際社会で活躍しようとする専門職業人に対し、貿易・武力紛争・人権・文化財・保健衛生・環境といった幅広い問題領域を関連付ける総合的な視野を提供するものである。	
	世界の中の日本 (09)	この科目では、グローバル時代に生きる私たちの基礎知識として、経済、法文化、民主主義、外交、化学、教育、科学技術、スポーツ、メディアなどの視点から「世界の中の日本」の位置を見定め、次いで、人口、日本国内のイスラム教徒、外国人労働者などの視点から「日本の中の世界」を考える。最後に海外で暮らすオーバークラス・ジャパニーズの実態とその背景を考察し、科目全体としてグローバル時代の日本の位置・役割と将来の方向性について考えてみたい。	複数教員共同担当
	環境と社会 (09)	環境問題の歴史的な流れを概観し、その変遷の中でどのような解決の努力が払われてきたのかを解説する。環境問題を解決するというのはどういうことか、環境というものの価値をどのように評価するのか、そこにおいて経済学はどのような役割を果たすのか、そして法はどのような使命を有しているのかを考える。わが国は、そして世界は、どのような努力をしているのかを概観し、持続可能な社会の実現に向けた現在の取り組みについて解説を行う。	複数教員共同担当
	日本のマスメディア (07)	『日本のマスメディア』では19世紀以降に発展をとげた日本の新聞、雑誌、ラジオ、テレビといったマス・コミュニケーション手段の特質と、それが日本の社会にもたらした変革に焦点をあてて論じる。各メディアが発達した現在、マスメディアが社会にとって重要なことがらを決定する力、いわゆる「アジェンダ決定能力」の大きな部分を担っているといわれる。私たちの社会のあり方を考察する上で、マスメディアの本質を理解することは決定的に重要である。授業では歴史的視点を重視しつつ、マスメディアの過去と現在を分析する。	複数教員共同担当
	社会の中の科学 (08)	今日、科学・技術が私たちの生活の圧倒的な影響力をふるっていることは改めて語るまでもない。本講義は、哲学領域の中で、この科学の問題に対応する科目である。ここでは、科学を成立させる社会的基盤の検討を行うとともに、科学のもたらす社会的影響についても検討を行う。	
	社会の中の芸術 (10)	芸術を、単に芸術家個人の表現として捉えるのではなく、社会的なダイナミズムのなかで生み出されるものとして捉え、その芸術を生み出す社会的なダイナミズムを、政治的な観点等をも踏まえながら、芸術学的かつ経済学的に考察する。考察は、歴史的にもなされ、例えば、美術館という制度の誕生を、世界初の市民的大美術館であるルーヴル美術館の歴史に即して、詳しく実証的に論じてゆき、18世紀アンシャンレジーム体制下において、芸術家のみならず政治家や大商人や一般大衆が、どのような役割を、芸術的・社会的・経済的・政治的に果たし、その結果として、革命期にルーヴル美術館の原型が誕生したのか、ということを手際よく論じてゆきたい。 この講義は、社会学の一分野である芸術社会学に属するものではなく、より広く、芸術学・経済学・政治学・歴史学の交差する地平において立論されるものである。 ターゲット層としては、単に芸術に深い関心をもっている人々だけではなく、より広く、社会・経済・政治・歴史に関心をもっている人々をも想定している。	複数教員共同担当
	数理ファイナンス (08)	数理ファイナンスの分野から、2つの話題をとりあげる。1つは「効率的な株式投資の手法」である。これは多くの証券へ分散投資をする事により、投資に伴う「リスク」を小さくする方法である。他の1つは「証券市場の構造」である。証券価格が多くの投資家による均衡価格で決定されるならば、株式投資で「ただ儲け(自己資金なしである収益を得る事)」の機会が存在しない。この事を基礎にして、各種の金融派生商品(デリバティブ)の価格評価を考える。	
	技術革新を支える物質の科学 (08)	科学技術の飛躍的な進歩による技術革新は新たな物質と材料の出現によってもたらされる。この技術革新をもたらす先端材料はそのもととなる物質の科学から生まれる。この科目では、そのような視点のもとに物質の科学がどのように技術革新を支えているのか、多分野の科学技術の課題を新しい時代を形成する知識社会、環境調和社会、生活文化社会という3つの社会的側面から理解できるよう講義を進める。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	バイオサイエンスで豊かな暮らし (08)	有史以前より人類はいわゆる”バイオサイエンス”を利用して生活を豊かにしてきた。20世紀後半にその本質がわかり、意図的に利用されだした21世紀はバイオサイエンスの時代と言われるようになった。バイオサイエンスの主役を演じてきた微生物とその優れた潜在能力の開発・利用について暮らしの観点から講義する。また、バイオサイエンスを基礎・応用の両面から講義し、バイオサイエンスの大いなる可能性を述べ、21世紀のバイオサイエンスを展望する。	複数教員共同担当
	水循環と水マネジメント	水は、一部の化石水を除いて絶えず循環している。人間を含む地球上のあらゆる生物が、その循環している水と関わっている。特に20世紀後半からの始まった急激な人口増加と人間活動の拡大は、ローカルからリージョナル、グローバルに至る様々なスケールで水循環系に影響を及ぼし、解決が必要な多様な水問題を発生させている。この講義では、多様な水問題とその解決手段について、水循環系とそれへの人間の働きかけという統一的視点から解説する。	
	生活と環境	環境の保全是、国民が健康で、安全かつ快適な生活を営む上で、必要とする良好な環境を確保し、これを将来世代へ継承していかなければならない。人間は生活物質の使い捨てにより自らが環境汚染の加害者になっている。将来も豊かな生活を維持していくために、環境を破壊することなく未利用資源を利用する高度な新技術が求められている。それ故、環境状況を見つめ直し、環境保全へのあらゆる努力を考察する。	
	社会の中の人工物	人工物には、自動車やコンピュータなどの有形の人工物に加え、サービスや情報など無形のものがある。これらは、人々の利便性や福祉、文化の向上の礎となっている一方、環境負荷増大や資源枯渇、大事故発生などの課題をももたらしている。本講義では、社会の中における、社会のための人工物という捉え方に基づき、人工物工学と共創工学の基礎理論をはじめ、人工物が生み出す価値に関する基本的事項や最新の研究事例について学ぶ。	複数教員共同担当
	地域歴史博物館の楽しみ方	地域歴史博物館は、地域の歴史に関わる資料を収集・保存し、人々の地域への理解を深めるだけでなく、地域の歴史を媒介に市民交流を進め、市民の社会的・文化的活動に役立つことを目的に運営されています。新潟の近代農業のダイナミックな変動を展示した企画展を観覧しながら地域歴史博物館について学びます。また博物館がどのような施設でどのように運営されているのか見学します。	
	天文学と文化・芸術	天文学は、人類最初の学問と言われる。しかし、学問以前に最も身近な存在であった。言い換えると、人間環境を含む雰囲気とでもいえるだろう。この天文、即ち「星」を媒体にして哲学や、神話が生まれ、やがて天文学という学問が発生した。遠い存在と思われる天体「星」をキーワードに、身近な文化や芸術にまで話題を広げ、人類と星との長い付き合いを語り、改めて知ってもらいたい。	
	国際協力入門：途上国の経済成長	アジア地域の開発途上国・地域の2008年の経済成長率は依然高い見通しを示しています。しかし、今後の主要先進国の経済成長の鈍化、地球環境問題、食糧・原油価格の高騰などのマイナス要因が考えられます。本講義では、開発途上国の工業化と環境、金融及び資源とエネルギーについて、その現状と持続可能な経済成長のための我が国の国際協力について解説します。また、アジアを中心とする開発途上国において、現在広島大学が取り組んでいる事例なども適宜紹介します。	複数教員共同担当
	まち・すまいと環境	わたくしたちが日常的に生活しているまちとすまいは、長い歴史の間に、その形態や構築技術は変化・発展してきました。その発展史を概観するとともに、今日の先端の構築技術やプロジェクトが進められる過程、まち・すまいづくりを支える関連社会システムについて理解を深めます。また、このような計画は、循環型社会環境システムの中で捉える必要があります。低炭素社会に向けた省エネルギー計画のあり方などについて考えます。	
	言語力を問う 英語との関連で	「言語力」と一口で言っても、この中には様々な要素が含まれている。大きく3つに分けられる。(1)文法能力(語、語と語の組み合わせ)、(2)対人関係能力(話し相手との社会距離を調節する力、話し相手を動かす力)、(3)談話構成力(文と文、段と段を統合する力)。実際の発話においてこれらは不可分に重ね合わされている。英語と日本語を対比させながら、それぞれの力のメカニズムを探求する。	
	自己形成物語について考える	昔話、児童文学、小説等、ドイツ文学の特徴的テーマの一つが「自己形成」ということです。このことは“Bildungsroman”という文学ジャンル名に端的に示されています。この講義では、グリムの昔話、児童文学、Bildungsromanに一貫している自己形成というテーマとその限界について、作品を読みながら、また、日本のそれと比較しながら考えます。この考察を通じて人間観や価値観の違いについても考えます。	
	地域情報	情報化(ICT)が進化した社会において、私たちは如何にすれば「地域資源」を活用し、新たな地域づくりを行うことができるのか、「地域」と「情報」という切り口から、これからの地域社会のあり方を一緒に考えてみます。現在取り組んでいます、総務省の情報化戦略や、内閣官房の地方(地域)再生の取り組み、地域産業おこしに関する全国の取り組み事例、徳島県上勝町の「いもどり事業」(葉っぱビジネス)などもご紹介いたします。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
司書教諭資格取得に資する科目	学校経営と学校図書館 (09)	学校図書館にかかわる基本的な事柄について理解をはかる。司書教諭の資格取得に資する科目、5科目のうちで最初に履修すべき、入門的で幅広い内容をめざす。すなわち、学校図書館のもつ理念を明らかにし、その沿革の流れの中で学校図書館法の制定と改正の意義を取り上げ、さらに教育行政と学校図書館、学校図書館の管理と運営、学校図書館活動、学校図書館メディアとその選択・提供、学校図書館の施設・設備と備品、そして学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と役割、司書教諭の養成と研修などについて概観し、全般的な理解を深める。また、倫理綱領や知的自由、学校司書、公共図書館との連携協力やネットワーク、学校図書館とコンピュータ、評価と改善などにも言及する。同時に今日的な課題にも触れ、将来への展望から発展へと導きたい。	複数教員共同担当
	学校図書館メディアの構成 (05)	学校図書館の「読書センター」機能、「学習情報センター」機能を十分に発揮するためには、図書を初めとする印刷メディア、CD、ビデオなどの視聴覚メディア、電子メディアなどが十分に備えられ、検索可能な状況であることが不可欠である。このために、世の中に存在するメディアの中から学校図書館活動にとって必要なものを選択、収集し、これらを有効・適切に利用者（児童生徒、教職員）に利用してもらうための資料・メディア組織の活動を行う。本科目では、この活動をなるべく具体的に述べる。	複数教員共同担当
	学習指導と学校図書館 (05)	教育課程の展開に寄与し、児童生徒が学ぶ力を育むことが学校図書館の重要な目的であることを認識し、そのために学校図書館が実施しなければならないことを具体的に把握する。 本科目では、まず、教育課程と学校図書館のかかわりを縦覧し、図書館活用教育のあるべき姿を検証する。次に、図書館と図書館メディア活用能力育成の意義を知り、指導内容、指導方法を学習する。 さらに、総合的な学習、および、特別支援教育における学校図書館メディアの活用や、教授・学習活動を支援する情報サービスについて、多くの事例を通して理解を深める。	複数教員共同担当
	学習指導と学校図書館 (10)	児童生徒が学ぶ力を育むことが学校図書館の重要な目的であることを認識し、そのために学校図書館が実施しなければならないことを具体的に把握する。 まず、教育課程と学校図書館のかかわりを縦覧し、図書館活用教育のあるべき姿を検証する。 次に、図書館と図書館メディア活用能力育成の意義を知り、指導内容、指導方法を学習する。 さらに、総合的な学習、および、特別支援教育における学校図書館メディアの活用や、教授・学習活動を支援する情報サービスについて理解を深める。	
	読書と豊かな人間性 (09)	子どもの読書活動の推進は、現在では最も重要な文教政策のひとつとなっており、都道府県、市町村、それぞれのレベルで、多くの読書推進計画が立案されている。が、肝心の学校図書館が貧弱なままではそれらも画餅に帰すであろう。ここでは有効な読書推進活動を行うための学校図書館のあり方を考え、司書教諭の果たす役割を理解すると共に、実際の読書指導の内容と方法について具体的に学習していく。	複数教員共同担当
	情報メディアの活用 (05)	学校図書館は、主体的に学習する児童生徒に対して、伝統的な紙媒体資料からデジタル・コンテンツにいたるまで、多種多様な情報メディアに関して、その歴史を踏まえたうえで、それぞれのメディアの特性を認識し、一定の自律的ルールに則り、効果的に利用する技法を身につけさせなければならない。本講義のねらいは、まさにそのような知識と技術の基礎を与えようとするところにある。	複数教員共同担当
	情報メディアの活用 (10)	学校図書館司書教諭に必要な知識と技能の一部には、伝統的な紙媒体資料からインターネット情報資源に至るまで、多種多様なメディアの特性を理解し、一定の規範に違背することなく、自由に操れることが含まれている。 また、司書教諭は学校内における情報化推進の立役者のひとりではない。 本講義を通して、知識と技術、そして情報化推進の一端を担う意欲を学んでいただけることを期待する。	複数教員共同担当

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護師資格取得に資する科目	成人看護学 (05)	青年期以降およそ50年間に渡る成人期にある人々の、特徴的な健康障害や突発的な危機をもたらす状況についての理解を深め、成人の健康回復・維持の具体的方法ならびに人生途上の死に直面して人生の終末段階を生きる人々への看護について学ぶ。	
	成人看護学 (10)	成人期というライフステージは、小児期から移行して次の老年期に至るまでの約50年という長きにわたる。このライフステージの中で特徴的な健康障害突発的な危機をもたらす状況についての理解を深め、成人の健康回復・維持の具体的方法ならびに人生途上の死に直面して人生の終末段階を生きる人々への看護について学ぶ。	複数教員共同担当
	老年看護学 (09)	本科目は、生物学的な老化や高齢者政策としての社会的な変化の中で高齢者を捉え、老いて生きる人々を看護する立場から組み立てる。構成としては、まず老年看護学の目標を確認したうえで、加齢に伴う変化の特徴を理解し、身体的機能・精神的機能・社会的機能の変化について、その一般的变化と多様性の観点から学ぶ。そして、老年看護の目標に照らして、健康生活の維持とセルフケア、健康維持のためのマネジメント、老年期に多い疾病・治療とリハビリテーション、認知症高齢者のケア、要介護高齢者と家族への支援、ならびに高齢者の終末期看護について学ぶ。最後に老年看護学の今後の課題について考察する。	
	小児看護学 (05)	近年の子どもと家族を取り巻く社会環境の変化は子どもの心身の健康状態に影響を及ぼし、また医療技術の進歩は多くの子どもの命を救うこととなったが、一方で入院している子ども達の病気は重症化している。 こうした状況の中で、21世紀をになう子ども達が最善の利益を守られ、健やかに成長発達することができるようにそれぞれの健康レベルに応じた援助について学び、さらに、子どもと家族に対する今後の課題や私達の役割について考える。	
	小児看護学 (10)	社会環境や医療環境の変化により、子どもと家庭の置かれている状況は大きく変化をしている。 こうした状況の中で、21世紀をになう子ども達が最善の利益を守られ、健やかに成長発達することができるようにそれぞれの健康レベルに応じた援助について学ぶ。 本科目では、子どもを取り巻く家族や環境について言及し、家庭、保育、学校、医療などの場で活用できるように具体的に解説する。	
	母性看護学 (05)	女性の健康について思春期から老年期までの身体的、心理・社会的変化プロセスからとり上げ、それらの変化にスムーズに適応するための支援について理解を深める。さらに焦点を子どもを生み、育てる時期にある女性と男性・家族に置き、かれらが安全で満足する生活をおくるための健康支援について学ぶ。	
	母性看護学 (10)	母性看護学は、妊産婦と新生児およびその家族への看護を主軸にして、女性の一生における性と生殖に関する健康支援を目的とした実践科学である。 進行する少子化の中で、女性や家族が安心して子どもを生み育てられる環境づくりが社会的課題となっている。このような社会的背景から、母性看護学に求められる役割は拡大し、その重要性も増してきている。 これらのことを踏まえて、本講義は、周産期にある母子と家族に対する個別的看護実践を考えるために必要な知識を習得することに主眼をおき、さらに、各ライフステージにある女性への身体的、心理・社会的、文化的背景を考慮した健康支援についても学習することを目標とする	複数教員共同担当
精神看護学 (09)	精神看護学とは、対人関係技術を用いて精神を病む人への看護を提供し、また、人々の精神健康の保持増進にかかわる実践分野の学問である。 人々の生活が複雑になるにつれ、精神の病み方も多様な現われをするが、各疾患に共通した看護のあり方を主に理解する。また、精神科医療・保健・福祉の分野は、歴史的な変遷と社会のありように大きく左右される分野であり、最近の動向を踏まえて看護のあり方を探求し、実践能力の向上をはかる。		